仙台市文化財調査報告書第365集

上　野　遺　跡

第６・７次発掘調査

―都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書―

第３分冊

２０１０年３月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第365集

上　野　遺　跡

第６・７次発掘調査

―都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書―

第３分冊

２０１０年３月

仙台市教育委員会

第Ⅵ章　自然科学分析

第１節　上野遺跡における遺構および遺物の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．はじめに

上野遺跡は、仙台平野北部を流れる名取川の中流域左岸に広がる河成段丘上に位置している。この段丘は、小岩(1994) により中町面群に区分されており、2 ～ 1 万年前に広域的に発達した侵食段丘に相当するとされている（小池ほか編　2005)。これまでの発掘調査により、縄文時代中期を中心とする遺構、遺物が確認されているが、中でも多量の土器や炭化物などが埋積している溝状の落ち込みを境として西側には住居跡が分布し、東側には多数のフラスコ状土坑が検出されるなど、当時の生活を示唆するような成果が得られている。

本報告では、溝状の落ち込み、フラスコ状土坑およびフラスコ状以外の土坑の 3 種類の遺構について、その堆積土に包含される植物遺体や骨などの自然遺物の年代や産状および土壌理化学性を調べることにより、その年代、堆積過程、用途・機能、さらには当時の周辺環境に関わる資料を作成する。特にフラスコ状土坑については、発掘調査により100基以上も検出されていることから、分析対象の中心とした。一般にフラスコ状土坑は縄文中期から後期にかけての時期に検出される土坑とされ、その特異な形状から、用途や役割に諸説があり、例えば貯蔵穴、墓などの説があげられている。当社が実施した類例の分析事例としては埼玉県和光市の丸山台遺跡がある（和光市遺跡調査会・和光市教育委員会　1992)。この遺跡では集落の端に溝状の落ち込みがあり、この外側にフラスコ状土坑群が配置されていることから、墓域説が考えられていた。自然科学分析の結果からは、フラスコ状土坑の底面付近の堆積土より、一般の土壌に比べて著しく高いリン酸含量が得られており、人を含めた動物遺体の埋納が示唆された。本報告でも同様の分析と結果の検討を行う。なお、本報告では、遺構の堆積土と同様に遺構内から出土した土器の中に充填されていた土壌についても分析を行い、その内容物について検討する。

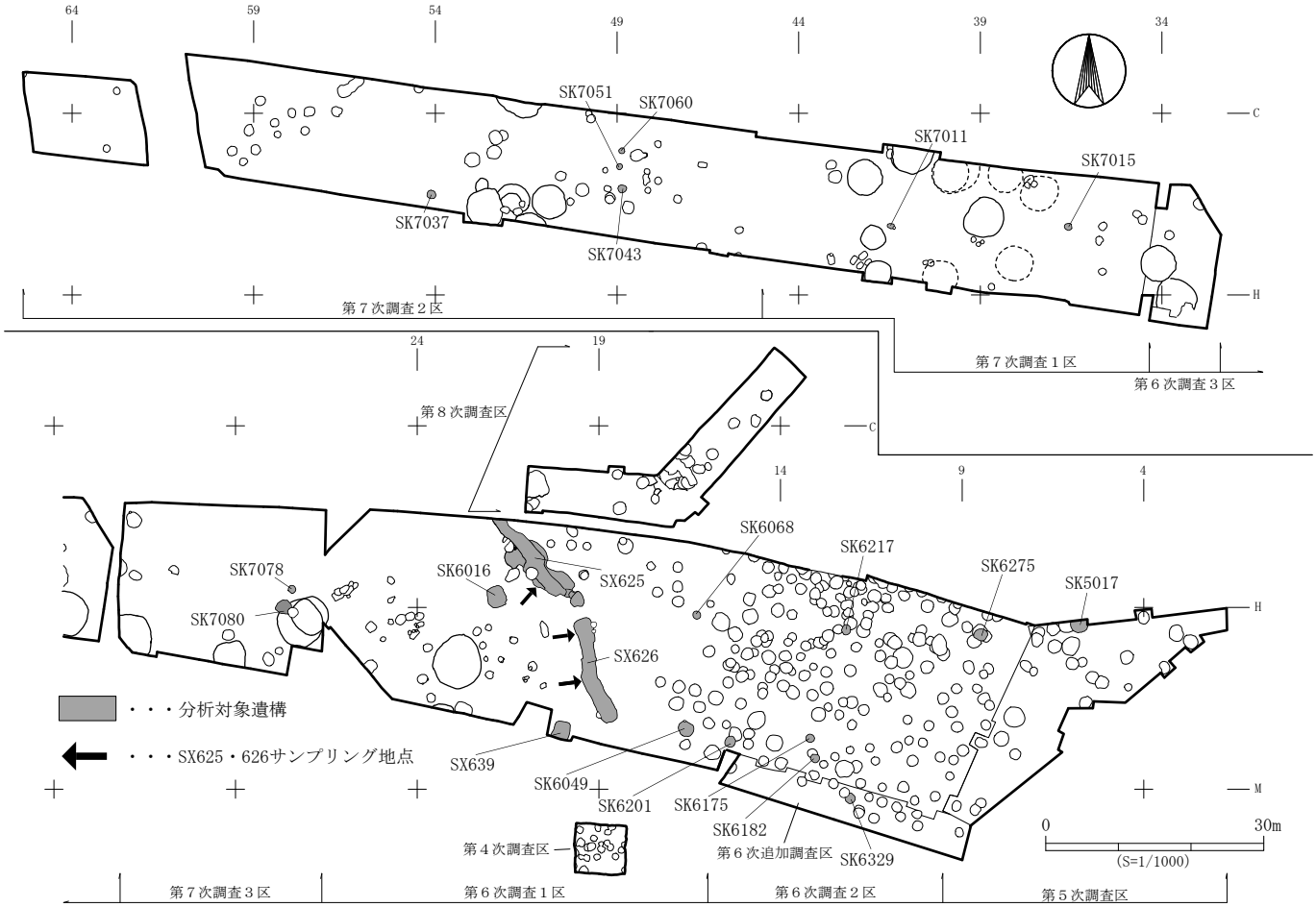
一方、遺物については、出土した縄文土器の各時期における土器胎土の特性を捉えることにより、時期による胎土の違いなど、その製作に関わる資料を作成する。また、胎土から得られる地質情報と、既存の地質情報との比較から、その土器の地域性（製作された場所の範囲）について考察する。さらに、土坑より出土した粘土塊の特性とも比較を行い、その関連性を検討する。

２．遺構の分析

（１）　試　料（第717・718図、第 9 表）

対象とした遺構は以下の通りである。第 6 次調査からは、溝状の落ち込みのＳＸ625、ＳＸ626、ＳＸ639、フラスコ状土坑のＳＫ6016、ＳＫ6049、ＳＫ6068、ＳＫ6175、ＳＫ6182、ＳＫ6201、ＳＫ6217、ＳＫ6329、フラスコ状ではない土坑（以下単に土坑とする）のＳＫ6275の各遺構を選択した。試料は、基本的にはこれら遺構断面より採取された堆積土であるが、ＳＫ6049の試料およびＳＫ6275とＳＫ6329の試料の一部は遺構内から出土した土器内の土壌である。 第 7 次調査からは、フラスコ状土坑のＳＫ7037、ＳＫ7043、ＳＫ7051、ＳＫ7060、土坑のＳＫ7015、ＳＫ7078、ＳＫ7080の各遺構を選択、第 5 次調査からはフラスコ状土坑のＳＫ5017を選択した。これらのうち、ＳＫ7037とＳＫ7060の試料は遺構内出土の土器内土壌であり、ＳＫ7043とＳＫ7051の試料は遺構内から出土した粘土塊であり、それ以外の遺構の試料は堆積土である。

第 9 表に、各遺構の試料名・試料番号および採取層位、さらにその分析目的と分析項目を一覧にして示し、第717・718図に試料採取地点を示した。試料の詳細はそれを参照されたい。



第717図　試料採取遺構配置図

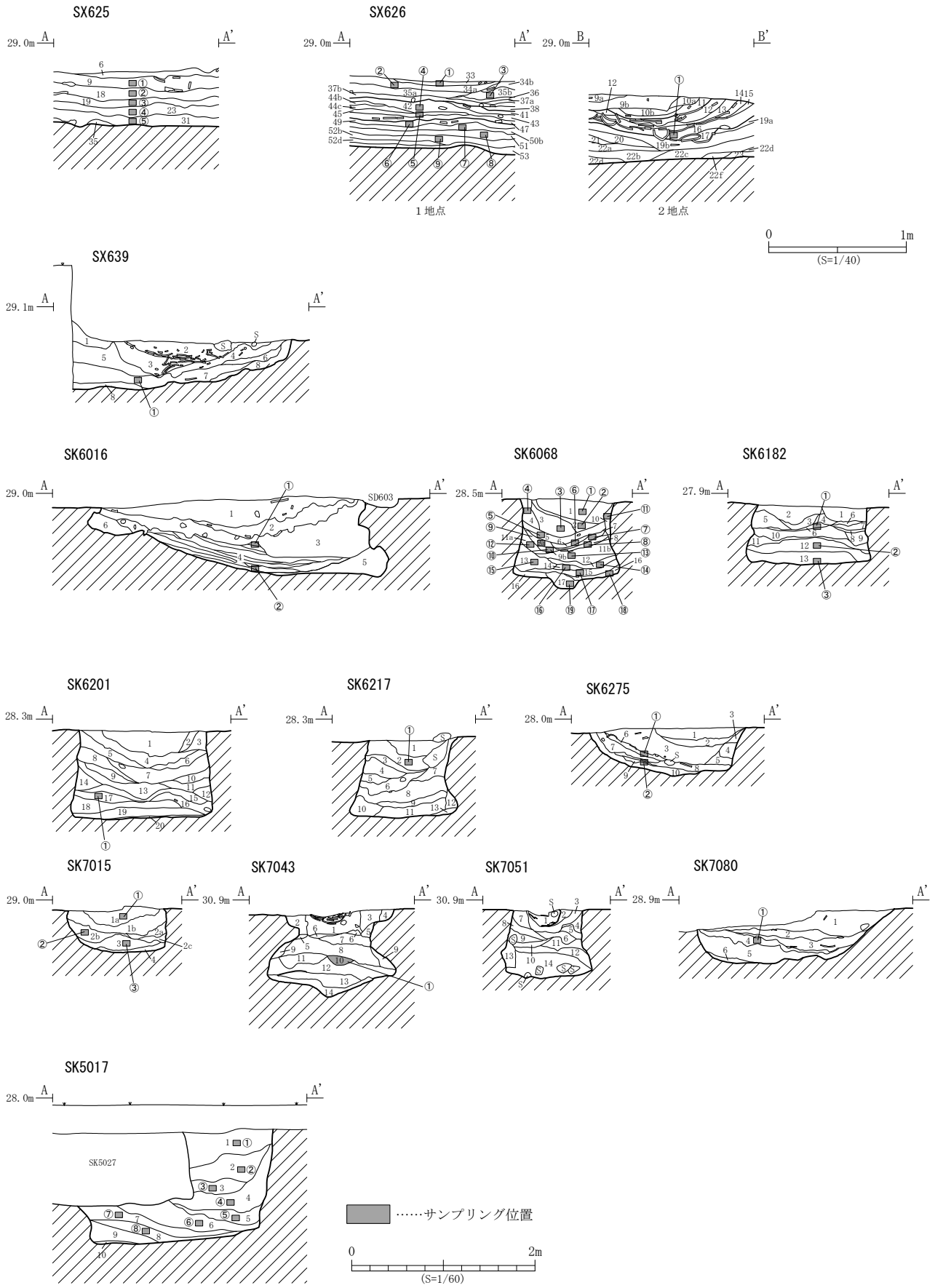
（２）　分析方法

遺構の年代の検討には、堆積土中より抽出した炭化物（炭化材または炭化種子）を試料とした放射性炭素年代測定を行う。また、遺構の用途・機能の検討には、珪藻と植物珪酸体の各微化石分析と主に植物遺体や骨片などの自然遺物を対象とした微細物分析および炭化材の樹種同定さらには土壌中のリン酸含量と腐植含量とを分析する。これらのうち、リン酸含量と腐植含量以外の分析結果からは、遺構の埋積過程と周辺環境の推定も行う。なお、遺構から出土した粘土塊試料については、含有される細砂径の鉱物粒の重鉱物組成と軽鉱物組成を求め、その由来と後述する土器胎土との関係を検討する。以下に各分析方法について述べる。

１．放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HC 1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC 1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（２時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS 専用装置（NEC　Pelletron　9SDH-2）を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測



第718図　試料採取位置図

第９表　遺構試料および分析項目一覧

調査次	遺構名	遺構の性格	試料の質・点数	分析目的	試料番号	層位・所見	分析項目 放射性炭素年代測定	珪藻分析	植物珪酸体分析	微細物分析	炭化材樹種同定	土壌理化学分析	鉱物分析
第６次	SX625	溝状の落ち込み	堆積土５点	溝状遺構堆積土中に含まれる炭化植物、骨類等の組成変遷を明らかにすることにより、その廃棄過程を探り、また同時に年代資料も得ることにより、当該期の環境変遷も検討する。	①	９層			○	○			
					②	18層				○			
					③	19層			○	○			
					④	23層				○			
					⑤	31層	○	○	○	○		○	
	SX626 １地点	溝状の落ち込み	堆積土各層９点		①	33層			○	○			
					②	34a層							
					③	35b層				○			
					④	42層			○	○			
					⑤	45層	○			○			
					⑥	49層		○					
					⑦	50b 層				○			
					⑧	51層			○	○		○	
					⑨	52b 層							
			炭化材３点		④	42層					○		
					⑤	45層					○		
					⑥	49層					○		
	SX626 ２地点	溝状の落ち込み	炭化材１点		①	16層					○		
	SX639	溝状の落ち込み	堆積土１点		①	７層				○			
	SK6016	フラスコ状土坑	堆積土２点	堆積土の層相から炭化物の多い層を採取した。包含される微細物の組成から内容物の検討を行う。	①	3b－ 4e層				○			
					②	4b－ 4i層				○			
	SK6049	フラスコ状土坑	土器内土壌１点	１つのフラスコ状土坑が上下に区別され、上位の浅い堆積土中に検出された深鉢内の土壌に包含される微細物および化学組成から、埋納物を検討する。	①	深鉢(Ａ－60357)内土壌				○		○	
	SK6068	フラスコ状土坑	堆積土各層19点	フラスコ状土坑は100基以上検出されているが、堆積土を層位的に採取した。堆積土中の微細物、植物珪酸体および化学組成から内容物を推定し、さらに年代資料を得た上で、内容物の組成の層位的な変遷を検討し、用途・機能を検討する。	①	１層				○			
					②	２層							
					③	３層							
					④	４層							
					⑤	５層	○			○			
					⑥	６層			○	○		○	
					⑦	７層				○			
					⑧	８層				○			
					⑨	9a層				○			
					⑩	9b層							
					⑪	10層							
					⑫	11a層							
					⑬	11b層				○		○	
					⑭	12層				○			
					⑮	13層							
					⑯	14層				○		○	
					⑰	15層				○		○	
					⑱	16層				○			
					⑲	17層	○		○	○		○	
	SK6175	フラスコ状土坑	堆積土１点	石棒直下の土壌の微細物および化学組成を明らかにし、埋納や埋葬など祭祀に関連する資料を得る。	①	石棒直下層、床直上堆積土				○		○	
	SK6182	フラスコ状土坑	堆積土３点	炭化物の多い層を採取。微細物の組成と材の樹種および化学組成から、用途・機能を検討する。	①	６層				○	△	○	
					②	12層	○			○		○	
					③	15層は13層の間違い						○	
	SK6201	フラスコ状土坑	堆積土１点	炭化物の多い層(17層)から微細物の組成を知る。	①	17層				○	○		
	SK6217	フラスコ状土坑	堆積土１点	実測図から、典型的なフラスコ形なので分析対象とした。	①	２層				○			
	SK6275	土坑	堆積土２点および土器内土壌１点	縄文晩期土坑の炭化物層の組成と年代を知る。6018土器内土壌も分析の対象とし、骨などの埋納物の有無を検討する。	①	６層				○	△	○	
					②	８－10層	○			○	△	○	
					③	(Ａ－60642)土器内土壌				○		○	
	SK6329	フラスコ状土坑	土器内土壌１点	SK6275の№.252と同様に土器内土壌を対象とする。礫で塞がれる等の状態は墓の可能性もある。	①	床面直上の土器(Ａ－60690)内土壌				○		○	
第７次	SK7015	土坑	堆積土３点	形状は土坑だが、遺物量多く焼土、骨片、炭化物などが層別に顕著に含まれる。これらの組成から用途を検討し、また、炭化物からは、樹種と年代を明らかにし、当該期の環境に関する資料も得る。	①	1a層				○	△		
					②	2b層				○			
					③	３層	○			○	△		
	SK7037	フラスコ状土坑	土器内土壌１点	注口土器内の土壌の化学組成から、埋納物等の検討をする。	①	注口土器(Ａ－70409)内土壌						○	
	SK7043	フラスコ状土坑	粘土塊２点	土坑から粘土塊が検出された。微化石分析と鉱物分析から粘土の由来を推定し、土器の原材料検討のための資料を作成する。	②,③	10層		○	○				○
	SK7051	フラスコ状土坑	粘土１点		①	層位不明		○					○
	SK7060	フラスコ状土坑	土器内土壌１点	土器内の土壌の化学組成から、埋納物等の検討をする。	①	深鉢(Ａ－70447)内土壌						○	
	SK7078	土坑	配石直下埋土１点	配石があることから墓坑の可能性があると考えられている。埋土の化学組成からその可能性を検討する。	①							○	
	SK7080	土坑	堆積土１点	炭化物の多い層を採取。微細物の組成と材の樹種から、用途・機能を検討する。	①	４層				○	○		
第５次	SK5017	フラスコ状土坑	堆積土3.5cm連続35点	覆土の１-８層から連続に採取した試料から層位的に選択し、植物珪酸体、微細物および化学組成を明らかにし、その用途や埋積過程を検討する。	①～⑧	№.1 － 9(１層)、№.10－17(２層)、№.18－21(３層)、№.22－27(４層)、№.28－31(５層)、№.32－34(６層)、№.35(８層)			№.21,25,33,35	№.5,20,25,30,33,34,35		№.5,25,30,33,34,35	
						点数	7	4	13	47	42	25	2

定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68％）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 5.02のマニュアルにしたがい、１年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68％の確率で存在する範囲、2σは真の値が95％の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、１年単位で表された値を記す。

２．珪藻分析

試料を湿重で７g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法（４時間放置）の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、原口ほか（1998）、Krammer（1992）、Krammer & Lange-Bertalot（1986，1988，1991a，1991b）、渡辺ほか（2005）、小林ほか（2006）などを参照し、分類基準は、Round ,Crawford & Mann（1990）に従う。なお、壊れた珪藻殻の計数基準は、柳沢（2000）に従う。

同定結果は、中心類（Centric diatoms；広義のコアミケイソウ綱Coscinodiscophyceae）と羽状類（Pennate diatoms）に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類（Araphid pennate diatoms：広義のオビケイソウ綱Fragilariophyceae）と有縦溝羽状珪藻類（Raphid pennate diatoms;広義のクサリケイソウ綱Bacillariophyceae）に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各種類の生態性については、Vos & de Wolf（1993）を参考とするほか、塩分濃度に対する区分はLowe（1974）に従い、真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）、貧塩性種（淡水生種）に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0％以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、淡水生種（貧塩性種）については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については渡辺ほか（2005）の環境指標種を参考とする。

３．植物珪酸体分析

湿重５g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生など

について検討するために、植物珪酸体群集を図化した。その際、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

４．微細物分析

炭化物の回収を目的とした洗い出しを実施する。試料を容器に広げ、70℃ 48時間乾燥させる。乾燥後の試料を肉眼やルーペで観察し、目に付いた炭化物を拾い出す。乾燥抽出後の試料を水を満たした容器に投入し、浮いた炭化物をすくい取って回収する。容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mm の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20－30回程度）。残土を粒径0.5mm の篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて種実や炭化材などの炭化物や、動物遺存体、土器、角礫（チップ）などの遺物を抽出する。

抽出された種実を双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との比較から種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。オニグルミ、クリの破片は、70℃ 48時間乾燥後の重量（g）と最大径（g）も併せて表示する。その他の抽出物は、炭化材は乾燥重量と最大径を、炭化物、不明植物片は乾燥重量、動物遺存体と土器は個数と乾燥重量と最大径、角礫（チップ）は個数と乾燥重量を表示する。分析後は、抽出物（年代測定対象以外）と分析残渣を容器に入れて保管する。

５．炭化材樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995，1996，1997，1998，1999）を参考にする。

６．土壌理化学分析

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、腐植含量はチューリン法（土壌標準分析・測定法委員会　1986）でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

１）分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して２mm の篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm 篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

２）リン酸含量

粉砕土試料1.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO_3）約５ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）約10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100ml に定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5 mg/g）を求める。

３）腐植含量

粉砕土試料0.100 ～ 0.500ｇを100ml 三角フラスコに正確に秤りとり、0.4N クロム酸･硫酸混液 10ml を正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.25％フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2Ｎ硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土％）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（％）を算出する。

７．鉱物分析

試料約40g に水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm 以下の

粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm －1/8mm の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96）により重液分離、重鉱物と軽鉱物をそれぞれ250粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。重鉱物の同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とした。「その他」は軽鉱物中においても同様である。また、火山ガラスは、便宜上軽鉱物組成に入れ、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡持つ塊状、軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。

（３）　結　果

１．放射性炭素年代測定（第10・11表）

同位体効果による補正を行った測定結果を第10表に示す。溝状の落ち込みのＳＸ625の堆積土層最下部の試料番号５から抽出した炭化物の示す年代は5,240±40BP であり、ＳＸ626の試料番号５から抽出した炭化種子の年代は、それよりも800年近く新しい4,390±30BP であった。フラスコ状土坑のＳＫ6068では、底面直上の試料番号19と堆積土中部の試料番号５の各層から抽出した炭化種子は、それぞれ4,480±40BP と4,440±40BP というほぼ同様の年代を示した。またフラスコ状土坑のＳＫ6182の堆積土下部12層から抽出された試料番号２の炭化材は、ＳＫ6068の炭化種子よりもやや古い4,630±40BP であった。一方、フラスコ状以外の土坑とされたＳＫ6275の底面直上の堆積土試料番号２から抽出された炭化種子の年代は、上記のフラスコ状土坑出土試料よりも1500年以上新しい2,950±30BP を示した。同様にフラスコ状以外の土坑とされたＳＫ7015の底面直上の堆積土試料番号３から抽出された炭化種子は、ＳＫ6275の炭化種子よりは古いが、上記のフラスコ状土坑出土試料よりは若干新しい4,080±30BP を示した。

各試料の較正暦年代を第11表に示す。測定誤差 σ の年代でみると、溝状の落ち込みＳＸ625の試料は、およそ6,200－6,000calBP、ＳＸ626の試料は、およそ5,000－4,900calBP、フラスコ状土坑のＳＫ6068の試料は、いずれもおよそ5,300－5,000calBP、フラスコ状土坑のＳＫ6182の試料は、およそ5,400－5,300calBP となる。フラスコ状以外の土坑試料では、ＳＫ6275の試料が、およそ3,200－3,000calBP、ＳＫ7015の試料が、およそ4,800－4,500calBP となる。

２．珪藻分析（第719図、第12表）

結果を第719図、第12表に示す。各試料の珪藻化石の産出頻度は全般的に少ないが、ＳＸ626の試料番号６は、堆積環境を検討する上で有意な量の珪藻化石が産出する。化石が産出した試料の完形殻の出現率は、約50％である。産出分類群数は、合計で21属31分類群である。以下に珪藻化石群集の特徴を述べる。

溝状の落ち込み SX626

試料番号６は、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻が全体の約80％を占め優占する。主要種は、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻Ａ群の Luticola mutica が約25％と優占し、同じく陸生珪藻Ａ群の Hantzschia amphioxys が約20％、Amphora montana が約13％と多産する。これに付随して、同じく陸生珪藻Ａ群の Orthoseira roeseana、Diadesmis biceps、Diadesmis contenta、Neidium alpinum、Pinnularia borealis 等が産出する。これらの珪藻は、別名土壌珪藻とも呼ばれており、土壌表面やコケなどに付着して生育するものである（Patrick 1977）。

なお、化石の少なかったＳＸ625の試料番号５、ＳＫ7043の試料番号１は、陸生珪藻が多い傾向があるが、ＳＫ7051の試料番号１では陸生珪藻は産出せず、海水生種の破片が少量産出したに過ぎない。

第10表　放射性炭素年代測定結果

遺構名	遺構の性格	試料番号	層位	種類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.
SX625	溝状の落ち込み	⑤	31層	炭化物	5,240± 40	-26.03±0.58	5,260± 40	IAAA－90187
SX626	溝状の落ち込み	⑤	45層	炭化種実 (オニグルミの核)	4,390± 30	-26.44±0.50	4,410± 30	IAAA－91626
SK6068	フラスコ状土坑	⑤	5 層	炭化種実 (オニグルミの核)	4,440± 40	-27.05±0.60	4,470± 30	IAAA－90188
SK6068	フラスコ状土坑	⑲	17層	炭化種実 (オニグルミの核)	4,480± 40	-25.14±0.66	4,490± 30	IAAA－90189
SK6182	フラスコ状土坑	②	12層	炭化材 (ヤマグワ)	4,630± 40	-16.59±0.53	4,490± 40	IAAA－90190
SK6275	土坑	②	8 －10層	炭化種実 (オニグルミの核)	2,950± 30	-25.09±0.61	2,960± 30	IAAA－90191
SK7015	土坑	①	3 層	炭化種実 (オニグルミの核)	4,080± 30	-30.33±0.52	4,170± 30	IAAA－90192

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第11表　暦年較正結果

遺構名	試料番号・(層位)	補正年代 (BP)		較正暦年代（cal）	相対比	Code No.
SX625	⑤・(31層)	5,239± 36	σ	cal BC 4,218 － cal BC 4,214	0.031	IAAA－90187
				cal BC 4,149 － cal BC 4,135	0.094	
				cal BC 4,054 － cal BC 3,979	0.875	
			2σ	cal BC 4,228 － cal BC 4,200	0.084	
				cal BC 4,170 － cal BC 4,127	0.145	
				cal BC 4,120 － cal BC 4,039	0.049	
				cal BC 4,081 － cal BC 3,968	0.723	
SX626	⑤・(41層)	4,387± 27	σ	cal BC 3,078 － cal BC 3,072	0.048	IAAA－91626
				cal BC 3,024 － cal BC 3,000	0.248	
				cal BC 2,994 － cal BC 2,928	0.704	
			2σ	cal BC 3,090 － cal BC 3,044	0.189	
				cal BC 3,035 － cal BC 2,918	0.811	
SK6068	⑤・(5 層)	4,437± 35	σ	cal BC 3,317 － cal BC 3,273	0.159	IAAA－90188
				cal BC 3,266 － cal BC 3,237	0.166	
				cal BC 3,169 － cal BC 3,164	0.020	
				cal BC 3,111 － cal BC 3,015	0.654	
			2σ	cal BC 3,330 － cal BC 3,215	0.315	
				cal BC 3,185 － cal BC 3,156	0.051	
				cal BC 3,126 － cal BC 2,927	0.634	
SK6068	⑲・(17層)	4,484± 35	σ	cal BC 3,331 － cal BC 3,261	0.425	IAAA－90189
				cal BC 3,255 － cal BC 3,214	0.238	
				cal BC 3,186 － cal BC 3,156	0.165	
				cal BC 3,127 － cal BC 3,098	0.172	
			2σ	cal BC 3,345 － cal BC 3,087	0.949	
				cal BC 3,059 － cal BC 3,030	0.051	
SK6182	②・(12層)	4,629± 35	σ	cal BC 3,497 － cal BC 3,449	0.724	IAAA－90190
				cal BC 3,444 － cal BC 3,439	0.050	
				cal BC 3,377 － cal BC 3,362	0.225	
			2σ	cal BC 3,517 － cal BC 3,396	0.766	
				cal BC 3,385 － cal BC 3,350	0.234	
SK6275	②・(8 ～ 10 層)	2,954± 32	σ	cal BC 1,257 － cal BC 1,234	0.178	IAAA－90191
				cal BC 1,216 － cal BC 1,125	0.822	
			2σ	cal BC 1,291 － cal BC 1,278	0.016	
				cal BC 1,271 － cal BC 1,051	0.984	
SK7015	③・(3 層)	4,078± 32	σ	cal BC 2,835 － cal BC 2,817	0.145	IAAA－90192
				cal BC 2,665 － cal BC 2,644	0.134	
				cal BC 2,639 － cal BC 2,571	0.665	
				cal BC 2,513 － cal BC 2,503	0.056	
			2σ	cal BC 2,858 － cal BC 2,810	0.162	
				cal BC 2,750 － cal BC 2,723	0.044	
				cal BC 2,700 － cal BC 2,562	0.686	
				cal BC 2,535 － cal BC 2,493	0.108	

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986－2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3) 1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
4) 統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95% である
5) 相対比は、σ、2σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

３．植物珪酸体分析（第720図、第13表）

結果を第720図、第13表に示す。各遺構の試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、遺構毎の産状を述べる。

溝状の落ち込み SX625

下位の試料番号５や３では、検出個数が少ない。この中ではネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などがわずかに認められる。また、栽培植物であるイネ属の短細胞珪酸体およびこれを含む珪化組織片が検出される。試料番号１では検出個数が多くなり、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、イチゴツナギ亜科などが認められる。また、イネ属の機動細胞列もわずかに検出される。

溝状の落ち込み SX626

いずれの層位の試料も、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ点で同様である。また、ヨシ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科なども認められる。なお、試料番号１ではイネ属の植物珪酸体や珪化組織片も見られる。

フラスコ状土坑 SK6068

試料番号６と試料番号19では、試料番号19の検出個数が少ないものの、同様な産状が見られ、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。試料番号６では、ヨシ属の産出もやや多い。

フラスコ状土坑 SK7043

試料番号１の粘土塊では検出個数が少なく、ネザサ節を含むタケ亜科、ヨシ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。

フラスコ状土坑 SK5017

各試料では検出個数が極めて少なく、タケ亜科などがわずかに認められるに過ぎない。

４．微細物分析（第14・15表）

結果を第14表に示す。炭化物（炭化材、オニグルミの核、クリの果実、サンショウの種子、ミズキの核、イネの穎と胚乳、ヒエ近似種の胚乳、キビ近似種の胚乳、タデ属の果実、不明炭化物）、炭化していない植物（イネ科の果実、アカザ科の種子、エノキグサの種子、キク科の果実、木材、不明植物片）、昆虫、動物遺存体、土器、角礫（チップ）が検出された。イネ、ヒエ（近似種）、キビ（近似種）は栽培種である。なお、動物遺存体は、いずれも焼骨で微細な破片であるが、ウニ類棘？、 メジロザメ科歯、サケ科椎骨、タイ科歯、魚類の歯骨・椎骨・鰭棘片、鳥類四肢骨、小型獣類肋骨？、獣類指骨・四肢骨・不明破片などが確認された（第15表）。

全試料を通じて、炭化物の種類構成をみると、最も多く検出された炭化材は、当時の周辺域の森林に生育していたものに由来すると考えられる。一部について樹種同定を実施した結果、イネ科と広葉樹のオニグルミ・クリ・ヤマグワ・カエデ属が確認された。炭化種実は、ほとんどがオニグルミの核の破片であった。この他にクリの果実の破片、サンショウの種子の破片、ミズキの核、栽培種のイネの穎と胚乳、ヒエ近似種の胚乳、キビ近似種の胚乳、草本のタデ属の果実が確認された。オニグルミ、ミズキは河畔林・渓谷林要素で、クリ、サンショウは二次林や森林の林縁部等に生育する樹種であることから、本遺跡周辺の河畔・渓谷林や林縁部等に生育していたものに由来すると推定される。また、オニグルミは核内部の子葉が、クリは果実内部の子葉が食用可能な有用植物で、長期保存可能で収量も多いことから、古くから植物質食糧として利用され、遺跡出土例も多い（渡辺　1975）。以上のことから、オニグルミやクリは、当時の本遺跡周辺域の森林から植物質食糧として採取され、食利用後の残渣が火を受け残存した可能性がある。炭化した材片や動物遺存体なども産出することを合わせ考えると、食料や燃料材として利用された生活残滓であることが示唆される。

栽培種およびその可能性がある種実は、ＳＸ626－１地点の試料番号１から、イネ、ヒエ近似種が、ＳＫ6068の

第12表　珪藻分析結果

種類	生態性			環境	第６次		第７次	
					SX625	SX626	SK7043	SK7051
試料番号	塩分	pH	流水	指標種	⑤	⑥	①	①
Bacillariophyta（珪藻植物門）								
Centric Diatoms（中心型珪藻類）								
Aulacoseira ambigua (Grun.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N,U	−	1	−	−
Aulacoseira granulata (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	1	2	−	−
Coscinodiscus spp.	Euh				−	−	−	2
Orthoseira roeseana (Rabh.)O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	−	3	−	−
Araphid Pennate Diatoms(無縦溝羽状珪藻類)								
Fragilaria capucina Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	−	1	−	−
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	−	1	−	−
Ulnaria ulna (Nitzsch)Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	−	1	−	−
Raphid Pennate Diatoms(有縦溝羽状珪藻類)								
Monoraphid Pennate Diatoms(単縦溝羽状珪藻類)								
Achnanthidium convergens (H.Kobayasi)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	−	1	−	−
Cocconeis scutellum Ehrenberg	Euh-Meh			C1	−	1	−	−
Biraphid Pennate Diatoms(双縦溝羽状珪藻類)								
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	−	13	−	−
Encyonema silesiacum (Bleisch)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	−	1	−	−
Placoneis elginensis var. *neglecta* (Krasske)H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	−	−	−
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	−	1	−	−
Gomphonema martimii Fricke	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−	−
Gomphonema parvulum (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	−	1	−	−
Reimeria sinuata (W.Greg.)Kociolek et Stoermer	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	−	1	−	−
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	−	1	−	−
Diadesmis biceps Arnott ex Grunow in Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	−	3	−	−
Diadesmis contenta (Grun.ex Van Heurck)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	−	4	−	−
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	−	25	2	−
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-ind	ac-il	ind	RA	1	3	−	−
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	ac-bi	ind	RA,S	−	2	−	−
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	1	3	−	−
Pinnularia brauniana (Grun.)Mills	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	P,U	−	1	−	−
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	−	1	−	−
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	−	1	−	−
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	−	1	−	−
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RB	−	3	−	−
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	2	1	−	−
Pinnularia subcapitata var. *paucistriata* (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	U	−	1	−	−
Pinnularia sp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−	−
管縦溝類								
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	3	18	−	−
Nitzschia sp.	Ogh-unk	unk	unk		−	1	−	−
短縦溝類								
Eunotia minor (Kuetz.)Grunow	Ogh-hob	ind	ind	O,T	−	1	−	−
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	2	−	1
海水生種					0	0	0	2
海水～汽水生種					0	1	0	0
汽水生種					0	0	0	0
淡水～汽水生種					0	0	0	0
淡水生種					9	101	2	1
珪藻化石総数					9	102	2	3

凡例

H.R.：塩分濃度に対する適応性
- Euh　：海水生種
- Euh-Meh　：海水生種－汽水生種
- Ogh-Meh　：淡水－汽水生種
- Ogh-hil　：貧塩好塩性種
- Ogh-ind　：貧塩不定性種
- Ogh-hob　：貧塩嫌塩性種
- Ogh-unk　：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性
- al-bi　：真アルカリ性種
- al-il　：好アルカリ性種
- ind　：pH 不定性種
- ac-il　：好酸性種
- ac-bi　：真酸性種
- unk　：pH 不明種

C.R.：流水に対する適応性
- l-bi　：真止水性種
- l-ph　：好止水性種
- ind　：流水不定性種
- r-ph　：好流水性種
- r-bi　：真流水性種
- unk　：流水不明種

環境指標種群

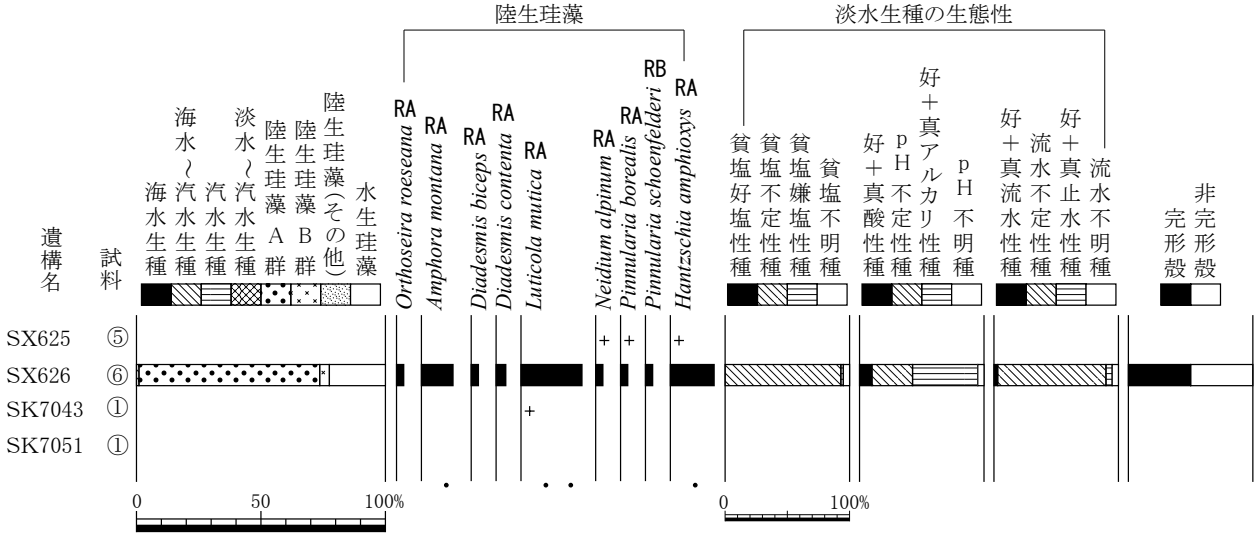
C1: 海水藻場指標種（小杉，1988）

K: 中～下流性河川指標種，M: 湖沼浮遊性種，N: 湖沼沼沢湿地指標種，

O: 沼沢湿地付着生種，P: 高層湿原指標種（安藤，1990）

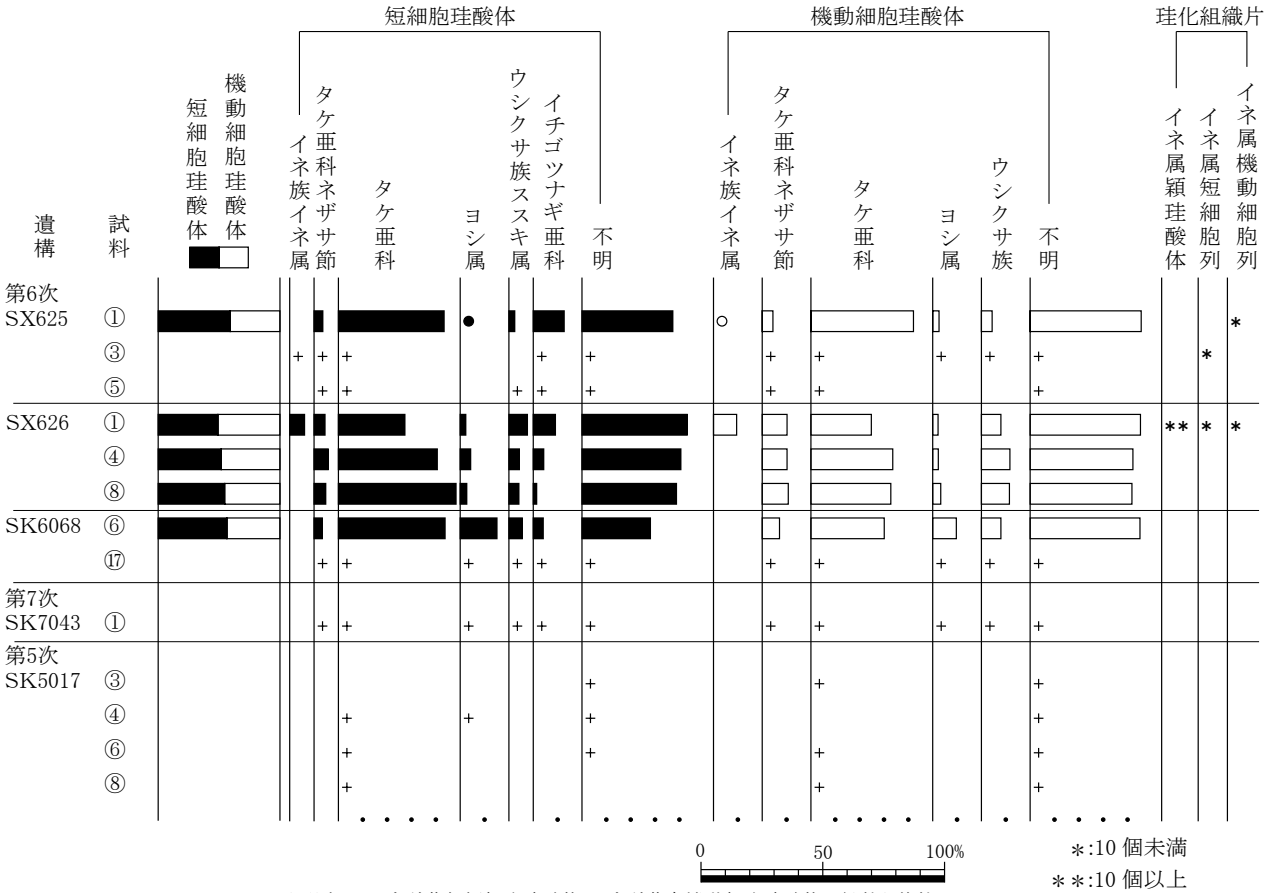
S: 好汚濁性種，U: 広域適応性種，T: 好清水性種（以上は *Asai and Watanabe*，1995）

R: 陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI: 未区分、伊藤・堀内，1991）



海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。
（環境指標種，RA:陸生珪藻A群，RB:陸生珪藻B群）

第719図　主要珪藻化石群集



出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1％未満、＋は100個未満の試料で検出された分類群を示す。また、珪化組織片の産状を＊で示す。

第720図　植物珪酸体群集

第13表　植物珪酸体分析結果

種　　類	第６次								第７次	第５次			
	SX625			SX626－1地点			SK6068		SK7043	SK5017			
試料番号	①	③	⑤	①	④	⑧	⑥	⑲	①	③	④	⑥	⑧
イネ科葉部短細胞珪酸体													
イネ族イネ属	－	1	－	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－
タケ亜科ネザサ節	6	4	3	6	8	7	5	2	1	－	－	－	－
タケ亜科	72	19	11	36	56	71	64	31	11	－	1	2	2
ヨシ属	1	－	－	3	6	4	22	4	3	－	1	－	－
ウシクサ族ススキ属	4	－	1	10	6	6	8	5	8	－	－	－	－
イチゴツナギ亜科	21	6	1	12	6	2	6	7	5	－	－	－	－
不明キビ型	32	15	8	35	24	41	25	17	16	－	1	－	－
不明ヒゲシバ型	11	3	1	8	16	2	6	2	10	－	－	－	－
不明ダンチク型	19	3	2	14	16	14	10	2	10	1	1	1	－
イネ科葉身機動細胞珪酸体													
イネ族イネ属	1	－	－	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－
タケ亜科ネザサ節	5	4	10	14	13	13	8	10	2	－	－	－	－
タケ亜科	48	17	19	34	43	40	34	18	9	1	－	1	1
ヨシ属	3	1	－	3	3	4	11	9	3	－	－	－	－
ウシクサ族	5	1	－	11	15	14	9	5	6	－	－	－	－
不明	52	21	31	62	54	51	51	23	39	1	1	1	1
合　　計													
イネ科葉部短細胞珪酸体	166	51	27	132	138	147	146	70	64	1	4	3	2
イネ科葉身機動細胞珪酸体	114	44	60	137	128	122	113	65	59	2	1	2	2
総　計	280	95	87	269	266	269	259	135	123	3	5	5	4
珪化組織片													
イネ属穎珪酸体	－	－	－	**	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イネ属短細胞列	－	*	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
イネ属機動細胞列	*	－	－	*	－	－	－	－	－	－	－	－	－

珪化組織片の＊は10個未満の検出，＊＊は10個以上の検出．

試料番号18からキビ近似種の胚乳が確認された。炭化していない種実は、主にＳＸ626－１地点の試料番号１からアカザ科、エノキグサ、キク科が確認されている。これらの分類群のうち、栽培種以外の草本類は、生態性を踏まえると、調査区周辺に普通に生育していたと考えられる種類であり、燃料材や人体に付着するなど何らかの過程を経て遺構内に持ち込まれたものと推定される。一方、動物遺存体は、ＳＸ626－１地点、ＳＸ639、ＳＫ6016、ＳＫ6049、ＳＫ6068、ＳＫ6275、ＳＫ7015、ＳＫ7080で検出されている。以下に遺構別検出状況を記す。

１）溝状の落ち込み

SX625（試料番号１－５）

試料各１kg から、炭化材、不明炭化物、オニグルミ（試料番号１－３）、木材（試料番号４）、不明植物片（試料番号１－３）、土器（試料番号１－３）、角礫（チップ）（試料番号１－３）が検出された。炭化材は、試料番号１で比較的多く、試料番号４は少ない（0.01g 未満）。試料番号５は、試料１kg から炭化材が殆ど検出されなかったため、試料をさらに１kg 追加し、計２kg 分析したが、炭化材が微量（0.01g 未満）検出されるのみであった。角礫（チップ）は、試料番号１で多く、試料番号２が次ぐ。

SX626－１地点（試料番号１，３－５，７，８）

試料各１kg（１層は600g）から、炭化材、不明炭化物、オニグルミ（試料番号７除く）、クリ（試料番号４）、サンショウ（試料番号３）、ミズキ（試料番号５）、イネ（試料番号１）、ヒエ近似種（試料番号１）、アカザ科（試料番号１）、エノキグサ（試料番号１）、キク科（試料番号１）、木材（試料番号１，８）、不明植物片（試料番号４，５，７，８）、動物遺存体、土器（試料番号１，３－５）、角礫（チップ）（試料番号７以外）が検出された。

炭化材は、試料番号５と３で多く(0.2g以上)、試料番号４と５では径１cm 以上が確認されたのに対し、試料番号７、８では少ない（0.01g）。オニグルミは、試料番号５と試料番号３で多く（100個以上、約１g）、径１cm 以上の破片も確認された（試料番号３－５）。栽培種の炭化したイネの穎43個・胚乳１個、炭化したヒエ近似種の胚乳１個が試料番号１から確認され、炭化していないアカザ科、エノキグサ、キク科などの草本種実を伴う。動物遺存体は、試料番号５（100個以上、約１g）から試料番号３（100個以上、約0.2g）で多く、径１cm 以上の破片も確認された。角礫（チップ）は、試料番号３、４で多く、100個以上が確認された。

SX639（試料番号１）

試料300g から、炭化材、不明炭化物、オニグルミ、不明植物片、動物遺存体、土器、角礫（チップ）が検出された。

第14表　微細物洗い出し・分類結果

調査次	遺構名	遺構の性格	試料番号	出土層位	分析量	炭化物															炭化していない植物						昆虫	動物遺存体			土器			角礫(チップ)		分析残渣	年代測定対象
						炭化材		不明炭化物	オニグルミ 核(破片)			クリ 果実(破片)			サンショウ	ミズキ	イネ		ヒエ近似種	キビ近似種	タデ属	イネ科	アカザ科	エノキグサ	キク科	不明植物片	木材											
						重量	最大径		個数	重量	最大径	個数	重量	最大径	種子	核	穎(破片)	胚乳	胚乳	胚乳	果実	果実	種子	種子	果実				個数	重量	最大径	個数	重量	最大径	個数	重量		
第6次	SX625	溝状の落ち込み	①	9層	1004.55g	0.07g	5.2mm	0.01g	7個	0.02g	6.6mm															0.01g						1個	0.62g	12.6mm	17個	0.09g	39.79g	
			②	18層	1003.47g	0.03g	4.5mm	0.02g	7個	0.06g	6.3mm															<0.01g						3個	6.01g	31.2mm	11個	0.10g	12.55g	
			③	19層	1004.08g	0.03g	7.0mm	0.05g	5個	0.06g	6.1mm															<0.01g						2個	0.06g	5.6mm	6個	0.01g	9.07g	
			④	28層	1002.63g	<0.01g	3.0mm	<0.01g																			12個										8.15g	
			⑤	31層	2002.39g	<0.01g	2.0mm	0.01g																													42.17g	炭化材
	SX626 1地点	溝状の落ち込み	①	33層	601.37g	0.10g	7.5mm	0.13g	23個	0.09g	6.7mm						43個(基部36個)	1個(破片)	1個				2個	1個(破片)	1個	0.01g	2個		8個	0.01g	2.6mm	4個	5.26g	21.5mm	35個	0.11g	20.66g	
			③	35層	1002.65g	0.23g	7.0mm	0.38g	>100個	0.92g	13.6mm				1(破片)														34個	0.24g	11.7mm	7個	32.63g	41.2mm	140個	0.64g	29.65g	
			④	42層	1002.24g	0.13g	10.0mm	0.05g	63個	0.45g	10.5mm	2個	0.01g	5.0mm												0.03g			64個	0.15g	4.5mm	10個	5.71g	24.6mm	113個	0.79g	68.10g	
			⑤	45層	1001.90g	0.27g	13.0mm	0.11g	>100個	1.01g	10.9mm					2個(破片1)										0.10g			>100個	1.12g	10.8mm	8個	40.81g	43.7mm	68個	1.16g	28.72g	
			⑦	50層	1001.00g	<0.01g	4.0mm	0.01g																		0.10g			8個	0.01g	3.3mm						8.68g	
			⑧	51層	1000.73g	<0.01g	2.0mm	<0.01g	1個	0.01g	6.1mm															0.03g	5個		2個	<0.01g	2.0mm				7個	0.03g	4.20g	
	SX639	溝状の落ち込み	①	7層	302.90g	0.06g	7.0mm	0.11g	44個	0.14g	4.0mm															0.04g			23個	0.02g	2.7mm	7個	1.08g	13.8mm	3個	0.03g	7.19g	
	SK6016	フラスコ状土坑	①	3b－4e層	201.94g	<0.01g	3.0mm	0.02g	3個	0.03g	5.0mm																		2個	<0.01g	1.5mm	1個	0.29g	10.1mm	33個	0.16g	3.99g	
			②	4b－4i層	302.54g	<0.01g	2.0mm	0.02g	2個	0.02g	4.9mm																		2個	<0.01g	1.7mm				9個	0.08g	1.77g	
	SK6049	フラスコ状土坑	①	A-60357内土壌	304.12g	0.07g	5.5mm	0.01g																		<0.01g			1個	<0.01g	4.0mm						2.36g	
	SK6068	フラスコ状土坑	①	1層	801.76g	0.31g	9.5mm	0.12g	33個	0.32g	8.9mm															0.02g									7個	0.05g	7.79g	
			⑤	5層	803.00g	2.01g	10.0mm	0.11g	40個	0.48g	7.5mm	2個	<0.01g	3.0mm														1個				3個	4.38g	22.9mm	10個	0.14g	17.97g	オニグルミ0.14g
			⑥	6層	301.61g	0.53g	9.0mm	0.05g	18個	0.16g	10.4mm																								14個	0.09g	4.01g	
			⑦	7層	402.15g	0.09g	7.5mm	0.08g	24個	0.36g	11.0mm																		1個	<0.01g	3.2mm	2個	0.46g	14.2mm	4個	0.01g	3.16g	
			⑧	8層	303.03g	0.11g	7.0mm	0.04g	24個	0.13g	6.1mm																								7個	0.04g	15.49g	
			⑨	9層	502.74g	0.07g	5.8mm	0.01g	14個	0.04g	3.4mm															0.01g									10個	0.07g	2.57g	
			⑬	11b層	601.34g	0.06g	4.0mm	0.03g	20個	0.06g	5.0mm																		2個	<0.01g	1.8mm	3個	5.10g	26.0mm	3個	0.01g	8.30g	
			⑭	12層	503.53g	0.81g	11.5mm	0.07g	62個	0.38g	9.4mm																		6個	0.01g	3.1mm	1個	0.82g	19.8mm	11個	0.03g	12.38g	
			⑯	14層	502.47g	0.41g	10.0mm	0.04g	8個	0.02g	5.5mm																					2個	8.90g	31.0mm	13個	0.03g	4.08g	
			⑰	15層	801.64g	0.49g	8.5mm	0.30g	>100個	1.01g	10.7mm																		1個	<0.01g	3.5mm	4個	0.68g	16.6mm	22個	0.19g	12.24g	
			⑱	16層	703.68g	0.64g	8.0mm	0.25g	98個	0.42g	10.5mm									1個									1個	<0.01g	2.0mm	2個	0.73g	17.2mm	36個	0.54g	42.40g	
			⑲	17層	1002.10g	1.24g	6.0mm	0.22g	30個	0.63g	8.3mm	1個	<0.01g	2.5mm							1個								1個	0.01g	5.2mm				26個	0.97g	24.24g	オニグルミ0.16g
	SK6175	フラスコ状土坑	①	石棒直下層、床面直上堆積土	203.03g																	1個?(破片)				0.04g											0.74g	
	SK6182	フラスコ状土坑	①	6層	301.28g	0.02g	3.5mm																												5個	0.01g	7.61g	
			②	12層	202.00g	<0.01g	3.0mm					2個	<0.01g	4.0mm																					15個	0.14g	4.28g	炭化材
	SK6201	フラスコ状土坑	①	17層	403.17g	0.25g	10.0mm																														18.44g	
	SK6275	土坑	①	6層	201.34g	0.26g	7.0mm	0.06g	9個	0.09g	8.0mm																		1個	<0.01g	2.8mm	2個	1.33g	17.0mm	51個	0.66g	4.44g	
			②	8-10層	200.80g	0.31g	7.0mm	0.12g	9個	0.10g	9.0mm																								57個	0.63g	4.77g	オニグルミ0.07g
			③	A-60642土器内土壌	50.13g	0.01g	4.0mm	0.02g	6個	0.03g	4.8mm															<0.01g									9個	0.18g	1.82g	
	SK6217	フラスコ状土坑	①	2層	402.73g	<0.01g	2.7mm																														2.99g	
	SK6329	フラスコ状土坑	①	A-60690内土壌	203.37g	0.06g	4.2mm		1個	0.01g	5.0mm																								1個	<0.01g	9.74g	
第7次	SK7015	土坑	①	1a層	201.47g	0.04g	4.2mm	0.40g	>100個	2.06g	17.0mm	11個	0.03g	5.5mm															30個	0.06g	6.0mm	2個	7.53g	30.0mm			13.40g	
			②	2b層	102.60g	0.22g	6.0mm	0.01g	1個	0.06g	8.2mm											1個							>100個	1.83g	13.2mm				7個	0.02g	2.21g	
			③	3層	200.20g	0.05g	4.2mm	0.22g	52個	1.04g	11.0mm	13個	0.03g	4.5mm															25個	0.12g	7.0mm	1個	1.52g	21.0mm	2個	0.02g	10.27g	オニグルミ0.17g
	SK7080	土坑	①	4層	300.99g	0.15g	5.0mm	0.03g	22個	0.13g	8.5mm																		7個	0.01g	2.0mm	4個	6.08g	37.5mm	3個	0.04g	11.38g	
第5次	SK5017	フラスコ状土坑	①	1層	102.23g	<0.01g	2.0mm																	1個(破片)													2.26g	
			③	3層	201.61g																					0.22g											8.98g	
			④	4層	101.69g																					0.04g											8.24g	
			⑤	5層	103.26g	<0.01g	2.0mm																			0.01g											2.40g	
			⑥	6層	102.60g																					0.11g											0.49g	
			⑥	6層	102.47g																					0.05g											0.47g	
			⑧	8層	102.86g																					0.08g											2.50g	

第15表　骨同定結果

調査次	遺構名	遺構の性格	試料番号	層位	分析量	動物遺存体														
						合計		ウニ類？	メジロザメ科	サケ科	タイ科	魚類			鳥類	小型獣？	獣類			不明
						個数	重量	棘片？	歯片	椎骨片	歯片	歯骨片	椎骨片	鰭棘片	四肢骨片	肋骨片？	指骨片	四肢骨片	不明	不明
第６次	SX625	溝状の落ち込み	①	９層	1004.55g															
			②	18層	1003.47g															
			③	19層	1004.08g															
			④	20層	1002.63g															
			⑤	31層	2002.39g															
	SX626 １地点	溝状の落ち込み	①	33層	601.37g	８個	0.01g					１個								7個
			③	35層	1002.65g	34個	0.24g							５個					１個	28個
			④	42層	1002.24g	64個	0.15g				２個		１個	４個	３個				１個	53個
			⑤	45層	1001.90g	>100個	1.12g	１個		４個		１個	１個	７個	１個			１個	５個	多(0.57g)
			⑦	50層	1001.00g	８個	0.01g							１個						７個
			⑧	51層	1000.73g	２個	<0.01g													２個
	SX639	溝状の落ち込み	①	７層	302.90g	23個	0.02g							１個	１個	１個				２０個
	SK6016	フラスコ状土坑	①	3b-4e層	201.94g	２個	<0.01g													２個
			②	4b-4i層	302.54g	２個	<0.01g													２個
	SK6049	フラスコ状土坑	①	A-60357内土壌	304.12g	１個	<0.01g		１個											
	SK6068	フラスコ状土坑	①	１層	801.76g															
			⑤	５層	803.00g															
			⑥	６層	301.61g															
			⑦	７層	402.15g	１個	<0.01g													１個
			⑧	８層	303.03g															
			⑨	9a層	502.74g															
			⑬	11b層	601.34g	２個	<0.01g													１個
			⑭	12層	503.53g	６個	0.01g													１個
			⑯	14層	502.47g															
			⑰	15層	801.64g	１個	<0.01g													１個
			⑱	16層	703.68g	１個	<0.01g													１個
			⑲	17層	1002.10g	１個	0.01g													１個
	SK6175	フラスコ状土坑	①	石棒直下層、床直上堆積土	203.03g															
	SK6182	フラスコ状土坑	①	６層	301.28g															
			②	12層	202.00g															
	SK6201	フラスコ状土坑	①	17層	403.17g															
	SK6275	土坑	①	６層	201.34g	１個	<0.01g													１個
			②	８-10層	200.80g															
			③	A-60642内土壌	50.13g															
	SK6217	フラスコ状土坑	①	２層	402.73g															
	SK6329	フラスコ状土坑	①	A-60690内土壌	203.37g															
第７次	SK7015	土坑	①	1a層	201.47g	30個	0.06g							１個						29個
			②	2b層	102.60g	>100個	1.83g										１個	１個	15個	多(0.62g)
			③	３層	200.20g	25個	0.12g													25個
	SK7080	土坑	①	４層	300.99g	７個	0.01g													７個
第５次	SK5017	フラスコ状土坑	①～⑧	№.５	102.23g															
				№.20	201.61g															
				№.25	101.69g															
				№.30	103.26g															
				№.33	102.60g															
				№.34	102.47g															
				№.35	102.86g															

２）フラスコ状土坑

SK6016（試料番号１，２）

試料番号１（試料200g）、試料番号２（試料300g）から、炭化材（0.01g未満）、不明炭化物、オニグルミの核、動物遺存体（0.01g未満）、土器、角礫（チップ）が検出された。

SK6049（試料番号１）

試料300gから、炭化材、不明炭化物、不明植物片（0.01g未満）、動物遺存体（0.01g未満）が検出された。

SK6068（試料番号１，５－８，９，12，14，16－19）

各層（試料300－1000g）から、炭化材、不明炭化物、オニグルミの核、クリの果実（試料番号５，19）、キビ近似種の胚乳（試料番号18）、タデ属の果実（試料番号19）、不明植物片（試料番号１，９）、昆虫（試料番号５）、動物遺存体（試料番号７，12，14，17－19層）、土器（試料番号５，７，12，1416－18）、角礫（チップ）が検出された。オニグルミなどの炭化物がいずれの層からも比較的多く検出され、径の大きな破片も確認された。動物遺存体は少なく、0.01gか0.01g未満程度である。

SK6175（試料番号１）

試料200gから、炭化物は検出されず、イネ科の果実１個、不明植物片が検出されるのみであった。

SK6182（試料番号１，２）

試料番号１（試料300g）、試料番号２（試料200g）から、炭化材、クリ（試料番号２、0.01g未満）、角礫（チップ）が検出された。

SK6201（試料番号１）

試料400gから、最大径1cm程度の炭化材（0.25g）が検出された。

SK6217（試料番号１）

試料400gから、最大径2.7mm程度の炭化材（0.01g未満）が検出された。

SK6329（試料番号１）

試料200gから、炭化材、オニグルミ、角礫（チップ）が検出された。

SK5017（試料番号１，３～５，６，８）

試料各100g（№20は200g）から、炭化材（試料番号１，５、0.01g未満）、草本のエノキグサ１個（試料番号１）、不明植物片（試料番号３～６，８）が検出された。

３）フラスコ状以外の土坑

SK6275（試料番号１～３）

試料各200g（試料番号３は50g）から、炭化材、不明炭化物、オニグルミ、不明植物片（試料番号３）、動物遺存体（試料番号１）、土器（試料番号１）、角礫（チップ）が検出された。角礫（チップ）は、試料番号１、２で多く、

50個以上確認された。

SK7015（試料番号１～３）

試料200g（№61は100g）から、炭化材、オニグルミ、クリ（試料番号１，２）、イネ科の、動物遺存体、土器、角礫（チップ）が検出された。炭化材は試料番号２で多い。オニグルミは試料番号１で多く、２で少ない。

SK7080（試料番号１）

試料300gから、炭化材、オニグルミ、動物遺存体、土器、角礫（チップ）が検出された。

４）種実の記載

本分析で検出された種実は、炭化したオニグルミの核の破片を主体とする。一方、イネ科などは、状態が極めて良好で明らかに炭化していないことから、後代からの混入の可能性が高いと判断される。サンショウ、タデ属は、元々

黒くて硬い種皮や果皮をもつため、炭化の有無の厳密な区別は困難であるが、明らかに炭化していない分類群とは区別されるため、炭化種実に含めている。以下に、各分類群の形態的特徴等を、炭化種実と炭化していない種実等に分けて記す。

炭化種実

オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis（Miyabe et Kudo）Kitamura）　クルミ科クルミ属

核の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば長さ３－４cm、径2.5－３cm 程度の頂部が尖る広卵体で、１本の明瞭な縦の縫合線がある。破片の大きさは、最大で1.7cm 程度（ＳＫ7015－試料番号１）。核は木質、硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る２つの大きな窪みと隔壁がある。

クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

果実の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば長さ２－３cm、幅２－４cm、厚さ1.5－２cm 程度の三角状広卵体で一側面は偏平、反対面は丸みがある。破片の大きさは、最大で5.5mm 程度（ＳＫ7015－試料番号１）。果皮外面は平滑で、浅く微細な縦筋がある。果皮内面は灰褐色の内果皮（渋皮）がある。基部の全面を占める着点は、別組織で粗く不規則な粒状紋様がある。

サンショウ（Zanthoxylum piperitum（L.）DC..）　ミカン科サンショウ属

種子の破片が検出された。黒色、完形ならば長さ４mm、幅３mm、厚さ２mm 程度のやや偏平な倒卵体。破片の大きさは3mm 程度。腹面正中線上基部にある斜切形の臍を欠損する。種皮は硬く、表面には浅く細かな網目模様がみられる。

ミズキ（Swida controversa（Hemsl.）Sojak）　ミズキ科ミズキ属

核（内果皮）が検出された。炭化しており黒色。長さ４mm、径５mm 程度の偏球体。基部に大きく深い孔がある。内果皮は硬く、表面には一周する１本のやや幅広く深い縦溝と、やや深い縦溝が数本走る。

イネ（Oryza sativa L.）　イネ科イネ属

胚乳の破片と穎（果）の破片が検出された。炭化しており黒色。長楕円形でやや偏平。胚乳は完形ならば長さ４－5.5mm、幅2.5－3.5mm、厚さ1.5mm 程度で基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。破片は下半部を欠損し、大きさは長さ1.7mm、幅２mm 程度。表面はやや平滑で、２－３本の隆条が縦列する。

胚乳を包む穎（果）は、完形ならば長さ６－7.5mm、幅３－４mm、厚さ２mm 程度。破片の大きさは、最大で３mm 程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は５脈、内穎は３脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

ヒエ近似種（Echinochloa cf. utilis Ohwi et Yabuno）

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ1.4mm、幅1.1mm、厚さ0.8mm 程度のやや偏平な広卵体で背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部正中線上に長さ1.0mm、幅0.4mm 程度の馬蹄形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面。

キビ近似種（Panicum cf. miliaceum L.）　イネ科キビ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、胚乳は、長さ1.5mm、幅1.3mm、厚さ１m 程度のやや偏平な広卵体で、背面は丸みがあり腹面は平ら。基部正中線上に径0.5mm 程度の半円形の胚の凹みがある。表面は粗面。

タデ属（Polygonum）　タデ科

果実が検出された。黒色、径1.8mm 程度のやや偏平な広卵体。頂部は尖り、花柱を欠損する。基部は切形。果皮表面は粗面。

炭化していない種実

イネ科（Gramineae）

果実が確認された。形態上差異のある複数種を一括している。淡－茶褐色、長さ１－3.5mm、径0.7－２mm 程度の狭卵－半偏球体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面に微細な縦長の網目模様が縦列し、毛が密生する個体がみられる。

アカザ科（Chenopodiaceae）

種子が検出された。黒色、径1.3mm 程度のやや偏平な円盤状。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

エノキグサ（Acalypha australis L.）　トウダイグサ科エノキグサ属

種子の破片が検出された。黒褐色、長さ1.7mm、径1.5mm 程度の倒卵体。基部はやや尖り、Ｙ字状の稜がある。種皮は薄く硬く、表面には細粒状凹点が密布する。

キク科（Compositae）

果実が検出された。淡褐色、長さ2.5mm、径0.7mm 程度の倒挟皮針体。腹面方向にやや湾曲する。果実頂部は切形で径0.5mm 程度の円形の臍がある。果皮表面には微細な網目模様があり、数本の縦隆条が配列する。

５．炭化材樹種同定（第16表、図版②）

樹種同定結果を第16表に示す。炭化材は、広葉樹４分類群（オニグルミ・クリ・ヤマグワ・カエデ属）とイネ科に同定された。なお、ＳＫ6182－試料番号１の２点、ＳＫ7015－試料番号１の４点中３点、試料番号３の３点中１点の合計４点は、道管が認められることから広葉樹材であるが、いずれも微細片で、組織の観察が十分に行えないため種類不明である。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana（Maxim.）Kitamura）　クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または２～３個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、１～３細胞幅、１～40細胞高。

クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

全て年輪界で割れている。環孔材で、孔圏部は２～４列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

ヤマグワ（Morus australis Poiret）　クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は３～４列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または２～４個が塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～50細胞高。

カエデ属（Acer）　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および２～３個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～５細胞幅、１～40細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

イネ科（Gramineae）

試料は、微細片で脆い。原生木部角小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成する。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

第16表炭化材樹種同定結果

調査次	遺構名	遺構の性格	地点	試料番号	出土層位	点数	樹種	備考
第６次	SX626	溝状の落ち込み	１地点	④	42層	5	クリ(4) 広葉樹(1)	微細物分析の炭化材
				⑤	45層	5	オニグルミ(2) クリ(3)	微細物分析の炭化材
				⑥	49層	0	－	同定可能な炭化材無し
			２地点	①	16層	1	クリ(1)	
	SK6182	フラスコ状土坑	堆積土	①	６層	2	広葉樹(2)	微細物分析の炭化材
				②	14層	1	ヤマグワ(1)	放射性炭素年代測定試料
	SK6201	フラスコ状土坑	堆積土	①	17層	5	ヤマグワ(5)	微細物分析の炭化材
	SK6275	土坑	堆積土	①	６層	5	クリ(1) ヤマグワ(3) カエデ属(1)	微細物分析の炭化材
				②	8-10層	5	クリ(5)	微細物分析の炭化材
第７次	SK7015	土坑	堆積土	①	1a層	4	ヤマグワ(1) 広葉樹(3)	微細物分析の炭化材
				③	３層	3	ヤマグワ(1) 広葉樹(1) イネ科(1)	微細物分析の炭化材
	SK7051	フラスコ状土坑	粘土	①	堆積土	1	クリ(1)	
	SK7080	土坑	堆積土	①	４層	5	クリ(5)	微細物分析の炭化材

６．土壌理化学分析（第17表）

分析結果を第17表に示す。以下に遺構ごとに結果を述べる。

１）溝状の落ち込み

SX625・SX626－１地点

腐植含量は２％前後、リン酸含量は３ ～ ５mg/g である。

２）フラスコ状土坑

SK6068

腐植含量は２ ～ ４％とやや幅があるが、リン酸含量は、いずれも４mg/g 前後を示す。

SK6175

石棒直下の堆積土であるが、腐植含量およびリン酸含量ともに他の試料に比べて低く、前者は約２％、後者は約１mg/g である。

SK6182

腐植含量とリン酸含量はともに試料番号1層で最も高く、それぞれ約４％、約3.5mg/g を示し、次いでその上位の試料番号６でそれぞれ約３％、約３mg/g を示し、下部の試料番号13で最も低く、それぞれ約２％と2.5mg/g である。

SK5017

腐植含量とリン酸含量はともに堆積土最上部の1層で最も高く、それぞれ約2.0％、約1.9mg/g を示し、次いで試料番号５で高く、約1.7％と約1.7mg/g を示す。試料番号４、６、８は、腐植含量が0.3 ～ 0.5％、リン酸含量が0.6 ～ 0.7mg/g であり、他の層位および他の遺構の試料に比べていずれも低い値を示す。

SK6049（Ａ－60357）、**SK6329**（Ａ－60690）、**SK7037**（Ａ－70409）、**SK7060**（Ａ－70447）の土器内土壌腐植含量は１ ～ ３％とやや幅があるが、リン酸含量は、３ ～ 4.5mg/g を示す。

３）フラスコ状以外の土坑

SK6275

腐植含量では、堆積土下部の試料番号２ ～ ４が最も高く、約６％を示し、次いで堆積土上部の試料番号１で約4.8％、土器内土壌の試料番号３は最も低く、約3.4％である。一方、リン酸含量は、３点ともに３mg/g 台を示すが、堆積土上部の試料番号１がやや高く約3.6mg/g であり、次いで堆積土下部の試料番号２ ～ ４が3.4mg/g、土器内土壌の試料番号３はリン酸含量でも最も低く、約3.2mg/g である。

SK7078

腐植含量は約2.4％、リン酸含量は約3.1mg/g であり、他の遺構の試料に比べるといずれも中間的な値と言える。

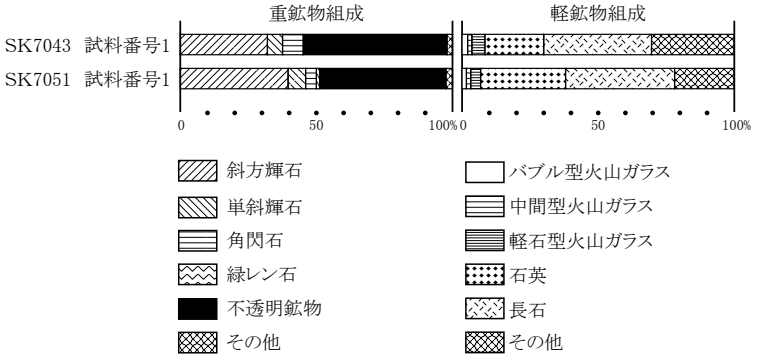
第17表　土壌理化学分析結果

遺構名	遺構の性格	試料番号・試料名	層位	土性	土色		腐植含量 (%)	P2O5(mg/g)
SX625	溝状の落ち込み	⑤	31層	LiC	10YR2/3	黒褐	1.80	3.24
SX626－１地点		⑧	51層	LiC	7.5YR2/2	黒褐	2.37	4.61
SK6049	フラスコ状土坑	①	A-60357内土壌	LiC	7.5YR2/2	黒褐	2.04	4.35
SK6068		⑥	6層	LiC	10YR2/2	黒褐	3.78	4.26
		⑬	11b 層	SiL	10YR3/3	暗褐	2.02	4.59
		⑯	14層	LiC	7.5YR2/2	黒褐	2.70	3.94
		⑰	15層	LiC	7.5YR2/2	黒褐	3.83	4.29
		⑲	17層	LiC	7.5YR2/2	黒褐	3.45	4.08
SK6175		①	石棒直下層、床面直上堆積土	LiC	7.5YR3/2	黒褐	1.83	1.43
SK6182		①	6 層	LiC	7.5YR2/1	黒	3.36	2.97
		②	12層	HC	7.5YR1.7/1	黒	3.95	3.48
		③	13層	LiC	7.5YR2/2	黒褐	2.36	2.47
SK6275	土坑	①	6 層	LiC	10YR2/1	黒	4.83	3.61
		①	8 －10層	LiC	10YR2/1	黒	5.96	3.44
		①	A-60642内土壌	SiL	10YR3/3	暗褐	3.43	3.23
SK6329	フラスコ状土坑	①	A-60690内土壌	LiC	10YR3/3	暗褐	1.40	3.75
SK7037		①	注口土器(A-70409)内土壌	LiC	7.5YR2/1	黒	3.27	4.52
SK7060		①	A-70447内土壌	SiL	10YR3/3	暗褐	1.72	3.14
SK7078	土坑	①	堆積土	SiL	10YR3/3	暗褐	2.41	3.43
SK5017	フラスコ状土坑	①	1 層	SiL	10YR3/3	暗褐	1.97	1.92
		④	4 層	SCL	10YR4/4	褐	0.32	0.71
		⑤	5 層	SCL	10YR3/3	暗褐	1.68	1.67
		⑥	6 層	SCL	10YR4/4	褐	0.48	0.68
		⑥	6 層	SCL	10YR4/4	褐	0.41	0.61
		⑧	8 層	SCL	10YR4/4	褐	0.34	0.71

注.（1）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
（2）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
SiL･･･ シルト質壌土（粘土0 ～ 15%、シルト45 ～ 100%、砂0 ～ 55%）
SCL･･･ 砂質埴壌土（粘土15 ～ 25%、シルト0 ～ 20%、砂5 ～ 85%）
LiC･･･ 軽埴土（粘土25 ～ 45%、シルト0 ～ 45%、砂10 ～ 55%）
HC･･･ 重埴土（粘土45 ～ 100%、シルト0 ～ 55%、砂0 ～ 55%）

７．鉱物分析

結果を第721図、第18表に示す。ＳＫ7043－試料番号１およびＳＫ7051－№.81は、ともにほぼ同様の重鉱物組成と軽鉱物組成を示す。重鉱物組成では、斜方輝石が20 ～ 30%、不透明鉱物が50％前後で主体を占め、10％前後の少量の単斜輝石と角閃石を伴い、軽鉱物組成では、長石が約40％、石英が20 ～ 30％で主体を占め、数％程度で少量の軽石型火山ガラスと微量のバブル型および中間型火山ガラスを伴う組成である。



第721図　重軽鉱物組成

第18表　鉱物分析結果

遺構名	遺構の性格	試料の質・点数	試料番号	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
SK7043	フラスコ状土坑	粘土塊	No.80	80	14	19	2	132	3	250	5	4	12	54	99	76	250
SK7051			No.81	99	16	10	3	116	6	250	4	4	9	78	100	55	250

⑷　考　察

１．遺構の年代

溝状の落ち込み

発掘調査所見によれば、ＳＸ625およびＳＸ626ともに多量の土器が堆積土中より出土しており、出土土器の型式は大木８ａ・ｂ式を中心とするとされている。各遺構で年代測定を行った炭化物および炭化種子は、土器出土層位と同層位であることから、土器とともに廃棄された可能性は高いと考えられる。中野（2008）に示された大木８ａ式および大木８ｂ式の各型式に伴う放射性炭素年代をみると、およそ4,500－4,200BP という年代幅が看取される。今回の分析では、ＳＸ626の試料番号５の出土炭化種子が、上述の年代範囲内に入る放射性炭素年代値を示しており、供伴する土器の年代観と整合している。このことから、ＳＸ626の試料番号５の出土炭化種子から得られた年代値は、土器の廃棄された年代を示している可能性が高いと考えられる。

一方、ＳＸ625の埋積層最下部の炭化物が示した年代は、供伴する土器の年代観よりも有意に古い値といえる。この場合、試料が「炭化物」すなわち炭化材なのか炭化種子の破片なのかあるいはそれ以外の有機物に由来するかが不明なため、試料の由来に起因するずれの可能性もある。現時点では廃棄年代がＳＸ626の炭化種子よりも有意に古かった可能性が示唆されるが、伴出土器の型式などの再検討の必要がある。なお、ＳＸ625の炭化物の年代は、較正暦年代でみると小林編（2008）による縄文土器様式編年表のおよそ縄文時代前期の中頃に相当する。したがって、ＳＸ625におけるこの時期に相当する型式の土器の出土状況などからも、この年代の評価を検討すべきであり、それが溝状の落ち込みＳＸ625の年代観についての評価にもなると考えられる。

フラスコ状土坑

ＳＫ6068堆積土より抽出された炭化種実の放射性炭素年代は、堆積土の下層も中層もほぼ同時期であることを示した。このことから、ＳＫ6068の埋積は非常に短期間に行われた可能性があると考えられる。その場合、堆積土中の炭化物の示す年代は、土坑の機能時の年代にかなり近いか同時期である可能性があると考えられる。ＳＫ6182堆積土より抽出された炭化材は１点のみの測定であるが、ＳＫ6068と同様の埋積事情が考えられ、やはり、その年代は土坑の機能時に近い可能性がある。今回のＳＫ6068およびＳＫ6182から得られた放射性炭素年代はおよそ4,600－4,400BP であり、上述の大木８ａ式～ ８ｂ式の年代幅と概ね重複する。すなわち、ＳＫ6068およびＳＫ6182から得られた放射性炭素年代は、出土する土器型式の年代観とも整合すると言える。したがって、上野遺跡におけるフラスコ状土坑の年代としては、放射性炭素年代では4,600－4,400BP、較正暦年代では5,400－5,000calBP の範囲を示すことができる。

フラスコ状以外の土坑

ＳＫ6275の堆積土から抽出された炭化種実からは、およそ3,200－3,000calBP の年代が得られている。上述したフラスコ状土坑の年代に比べると約2,000年も新しい。抽出された堆積土は、土坑底面直上といえる層位であることから、この年代は、土坑の廃棄直後～堆積初期を示唆している可能性がある。したがって、フラスコ状土坑とは関連のない土坑である可能性が高い。また、その年代は、およそ縄文時代晩期初頭頃に相当し、土坑の年代を縄文時代晩期とする発掘調査所見と整合する値となっている。

ＳＫ7015の堆積土から抽出された炭化種実からは、較正暦年代でおよそ4,800－4,500calBP の年代が得られている。上述したフラスコ状土坑の年代に比べると500 ～ 600年程度新しい。放射性炭素年代測定における誤差や精度の幅を考慮すると、上述したフラスコ状土坑との関連性の有無は判断できない。なお、この年代は、森（2008）に示されている大木９式～ 10式に伴う年代とほぼ一致しており、調査所見とも整合する値となっている。

２．遺構の用途・機能および周辺環境について

溝状の落ち込み

ＳＸ625では珪藻化石の産状が不良であり、ＳＸ626では多量の陸生珪藻が検出された。これらの産状からは、溝内に定常的な水域が存在した可能性は低いと考えられ、堆積層自体も周囲の土壌に由来する可能性が示唆される。このことは、開けて乾いた場所に生育する種類が多いネザサ節を含むタケ亜科が目立った植物珪酸体の産状からも支持される。なお、湿潤な場所に生育するヨシ属の植物珪酸体もわずかに認められたことから、周辺にヨシ属が生育するような湿潤な場所の存在も考えられる。

ところで、ＳＸ625やＳＸ626の上位層からは栽培植物のイネ属の植物珪酸体が検出された。遺構の立地を考慮すれば、段丘上でイネ属が栽培された、あるいは周囲から持ち込まれた可能性が考えられる。また、奈良・平安時代の遺構・遺物も検出されていることから、検出されたイネ属には上層からの落ち込みの可能性が考えられる。

各遺構の微細物の産状は、以下の傾向を示す。ＳＸ625の堆積土層最下部の試料番号５と試料番号４は、検出物が少ない。試料番号１－３は、炭化材、オニグルミの核などの炭化物や不明植物片、土器、角礫（チップ）が検出された。オニグルミは、河畔林・渓谷林要素であることから、本遺跡周辺の河畔・渓谷林に生育していたものに由来すると推定される。オニグルミは可食種実であることから、植物質食糧として利用された後の残渣が火を受け残存した可能性がある。炭化した材片なども産出することを合わせ考えると、食料や燃料材として利用された生活残滓であることが示唆される。土器、角礫（チップ）は、炭化物と共に遺構内に埋積した可能性がある。

ＳＸ626では、炭化物は、試料番号８、７で少なく、試料番号５以上で比較的多く検出されるようになる。炭化種実は、ほとんどがオニグルミの核の破片であった。この他にクリの果実の破片、サンショウの種子の破片、ミズキの核、栽培種のイネの穎と胚乳、ヒエ近似種の胚乳が確認された。オニグルミ、ミズキは河畔林･渓谷林要素で、クリ、サンショウは二次林や森林の林縁部等に生育する樹種であることから、本遺跡周辺の河畔・渓谷林や林縁部等に生育していたものに由来すると推定される。また、オニグルミ、クリは、可食種実であることから、当時の本遺跡周辺域の森林から植物質食糧として採取され、食利用後の残渣が火を受け残存した可能性がある。炭化した材片や動物遺存体なども産出することを合わせ考えると、食料や燃料材として利用された生活残滓が流れ込んだことが示唆される。

ＳＸ626の試料番号１は他の試料と異なり、栽培種の炭化したイネの胚乳・穎と、炭化したヒエ近似種の胚乳が確認され、イネ科、アカザ科、エノキグサ、キク科などの炭化していない草本種実を伴う。栽培種以外の草本類は、生態性を踏まえると、調査区周辺に普通に生育していたと考えられる種類であり、燃料材や人体に付着するなど何らかの過程を経て遺構内に持ち込まれたものと推定される。同試料からは、イネ属の植物珪酸体が検出されることから、当時のイネの利用が推定されるが、後代の可能性を含むため、年代観を慎重に検討する必要がある。

なお、ＳＸ626の炭化材の産状では、試料番号４でクリと種類不明の広葉樹、試料番号５でクリとオニグルミが認められ、少なくとも２種類の木材が認められる。炭化種実でも述べたように、いずれも河畔林・渓谷林を構成する種類である。木材は重硬で強度が高い材質を有する。果実とともに木材も利用されていたことが推定される。

動物遺存体は、今回分析を行った中でＳＸ626が最も多くの種類を確認することができた。微細な破片が多いが、ウニ類？、魚類、鳥類、獣類を確認することができ、中でも魚類が中心となっている。近隣海域での漁猟活動によって採取されたものが持ち込まれたのであろう。また、それだけでなくサケ科椎骨が確認されることから、河川を遡上する魚類も漁猟対象となっていたと思われる。

フラスコ状土坑

ＳＫ6068やＳＫ5017での植物珪酸体の産状は、検出個数に違いがあるものの、溝状の落ち込みと同様にネザサ節を含むタケ亜科が目立つ、あるいは主に検出される分類群が見られた。これより、フラスコ状土坑も溝状の落ち込

みと同様な土壌で堆積したと思われる。また、イネ科作物に由来する植物珪酸体は検出されなかった。この産状を見る限り、土坑内にイネ科作物の貯蔵は考えにくい。

堆積土から検出された微細物のうち、炭化物は、ＳＫ6068が最も多く、ＳＫ6016、ＳＫ6049、ＳＫ6329、ＳＫ6182でも確認される。ＳＫ6201は、炭化材のみ確認され、ＳＫ6175、ＳＫ6217、ＳＫ5017は、炭化物だけでなく、検出物が殆ど得られなかった。

ＳＫ6068は、各層から炭化材とオニグルミの核の破片を主とした炭化物が検出され、クリの果実の破片も５層と17層で確認された。オニグルミ、クリは、可食種実であることから、当時の本遺跡周辺域の河畔・渓谷林や林縁部等から植物質食糧として採取され、食利用後の残渣が火を受け残存した可能性がある。炭化した材片や動物遺存体なども産出することを合わせ考えると、食料や燃料材として利用された生活残滓であることが示唆される。また、16層から栽培種の可能性があるキビ近似種の胚乳が、17層から草本のタデ属の果実が各１個確認された。栽培種は、種類の特定と当時の利用について慎重に検討する必要がある。タデ属は、調査区周辺に普通に生育していたと考えられる種類であり、燃料材や人体に付着するなど何らかの過程を経て遺構内に持ち込まれたものと推定される。

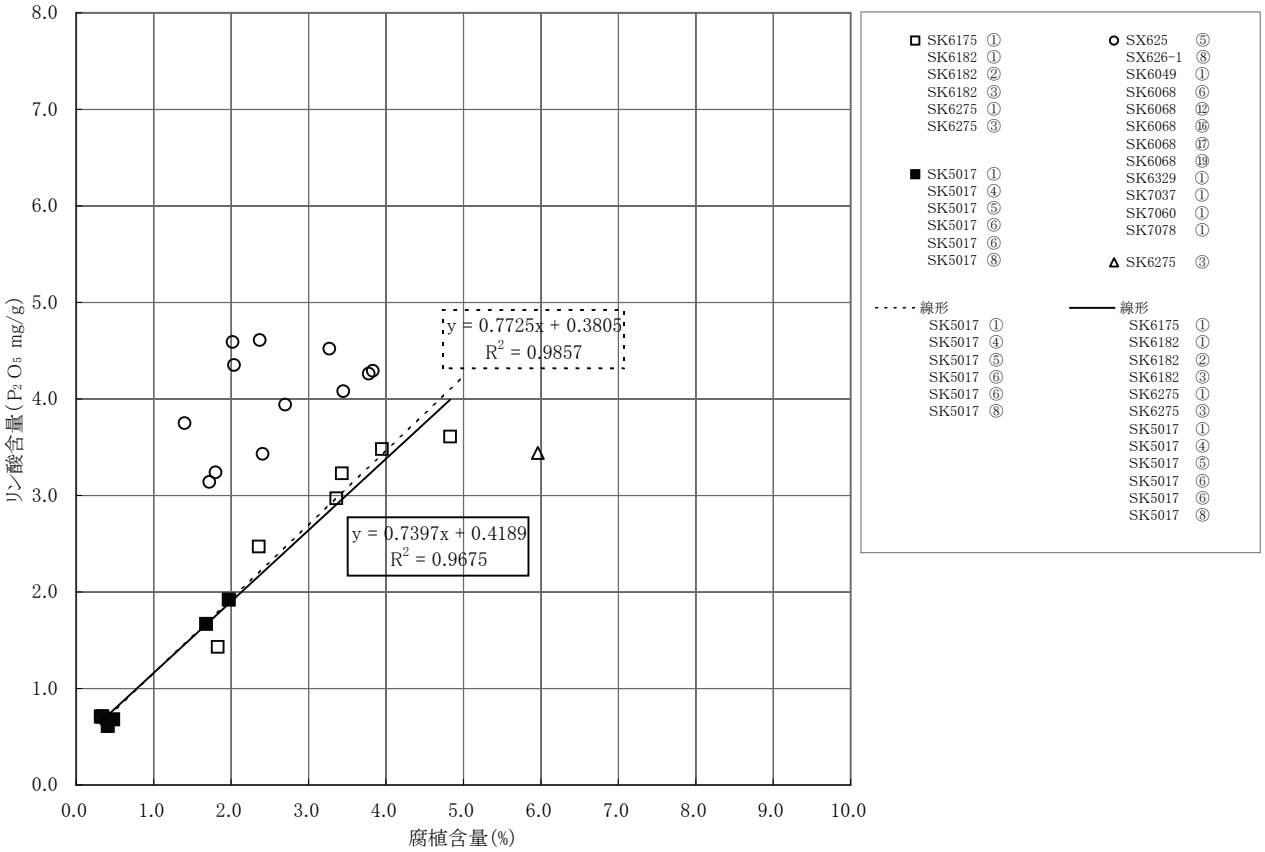
一方、各遺構の堆積土の土壌理化学分析からは以下の推定ができる。土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen　1983;Bolt・Bruggenwert　1980；川崎ほか　1991；天野ほか　1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0mg/g 程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5mg/g（川崎ほか　1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0mg/g を越える場合が多い。

今回分析を行ったフラスコ状土坑のうち、ＳＫ6068の堆積土各層とＳＫ6182の堆積土の一部に、上述した天然賦存量を超えるリン酸含量が確認された。ただし、リン酸の由来には土壌を形成している腐植の元となった植物遺体も想定されることから、ここでは腐植含量とリン酸含量の散布図を作成し、その相関をみた。散布図を第722図に示す。フラスコ状土坑の堆積土では、ＳＫ6182とリン酸含量が天然賦存量の範囲内であるＳＫ5017の堆積土に腐植含量とリン酸含量との間に正の相関のあることが判断され、これらの土坑堆積土におけるリン酸含量の由来は主に腐植の元となった植物遺体であると考えられる。これに対して、ＳＫ6068の土坑堆積土は、上述した腐植含量とリン酸含量の相関に比べてリン酸含量の高い方にずれている。このことからＳＫ6068の土坑堆積土におけるリン酸含量の由来は、腐植を形成した植物ではなく、動物遺体であることが推定される。微細物分析では、ＳＫ6068には動物遺存体が検出されているが、魚類の骨片が比較的多く認められている。このことからは、フラスコ状土坑ＳＫ6068の高いリン酸含量は、魚などの食物残滓に由来する可能性のあることが窺える。しかし、数量的には、動物遺存体自体の検出量が微量であり、リン酸含量との相関性を認めるまでには至らない。したがって現時点では、発掘調査所見でも述べられている墓である可能性も否定することはできない。

また、フラスコ状土坑の中でも、ＳＫ6175の石棒直下層やＳＫ5017の堆積土の上層から下層までについては、そのリン酸含量は天然賦存量の範囲内にあり、かつ腐植含量との相関も高い。これらの土坑からは、上述したように微細物分析でも検出物がほとんど得られていない。これらについては、他のフラスコ状土坑と用途や機能が異なっていたのか、あるいは堆積時の何らかの事情が異なっていたのか、今後の検討を要す。

土器内埋納物の検討

土器内土壌の土壌理化学分析結果についても第722図の散布図上に載せた。その結果、土器内土壌試料５点のうち、ＳＫ6275－試料番号３以外の４点は、いずれも天然賦存量を超えるリン酸含量を示し、かつ腐植含量との相関を超えるリン酸含量を示している。このことから、ＳＫ6275－試料番号３以外の４点の土器内土壌には動物遺存体があった可能性が高いと考えられる。ＳＫ6275－材料番号３については、リン酸含量自体は天然賦存量を若干超えるものの動物遺存体の有無については判断できない。また、その腐植含量も同じ土坑堆積土に比べて特に高い値ではない



第722図　腐食含量とリン酸含有量の相関

ことから、植物遺存体があったとも考えられない。

フラスコ状土坑から検出された粘土塊の由来

結果では、ＳＫ7043－試料番号１とＳＫ7051－試料番号１とでは産出する珪藻化石の種類が異なると述べたが、基本的には、いずれも珪藻化石の産状が不良であり、その差は有意なものではなく、形成環境を推定するには至らない。一方、ＳＫ7043の粘土塊での植物珪酸体の産状からは、ネザサ節、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育した場所の堆積物に由来する可能性が示唆される。さらに、重軽鉱物組成ではほぼ同様の組成が得られたことから、ＳＫ7043－試料番号１とＳＫ7051－試料番号１の粘土は、同一の由来（例えば一連の堆積層など）が推定される。

前述したように上野遺跡は、名取川左岸の河成段丘上に位置している。一般に、河成段丘を構成する砂礫層の直上には、粘土層が発達し、その上位の風成土壌へ漸移するということがよく認められる。このような粘土層では、珪藻化石の産状が不良なことが多い。また、同粘土層は段丘が離水する過程の堆積物であり、上述した植物珪酸体に見られるイネ科植物の産状も、その形成環境と矛盾するものではない。さらに、鉱物分析で確認された重鉱物粒および軽鉱物粒は、比較的自形を保ち、結晶表面も新鮮であること、軽鉱物中に降下火山灰由来と考えられる火山ガラスも混在することなどから、仙台平野背後の山地を構成する新第三紀中新世の凝灰岩や火山岩類（北村ほか1986）に由来するものではなく、第四紀更新世以降に仙台平野および周辺域に降下堆積したテフラに由来すると考えられる。この場合、堆積層として認められているテフラばかりではなく、降下後に撹乱し、さらに風成塵などとなって周辺に再堆積した火山砕屑物も含めている。

以上のことから、現時点では、上野遺跡の立地する段丘構成層の分析例はないが、上野遺跡から至近の粘土層の由来として、段丘堆積物の可能性があると考えられる。

３．縄文土器の胎土分析

⑴　試料（図版196・242－21 ～ 29）

試料は、上野遺跡第６・７次調査より出土した縄文土器片９点と第７次調査で出土した粘土塊２点の計11点である。土器片は資料１ ～資料９までの番号が付されている。粘土塊については、便宜上、資料10、資料11とする。

資料１と資料２は、ともにＳＫ7080土坑より出土した深鉢形土器の胴部破片であり、資料１は本土坑の時期決定資料より一段階古い大木８ｂ式とされ、資料２は本土坑の時期決定資料と同じ大木９式とされている。なお、本土坑からは、後述する粘土塊も出土しており、土器との関連性が注目されている。

資料３ ～資料５は、ＳＸ625溝状の落ち込みより出土した土器片であり、資料３は深鉢形土器口縁部破片、資料４は深鉢形土器胴部破片、資料５は小型深鉢形土器口縁部～頸部破片である。資料３と資料４は、ともに大木８ａ式とされているが、資料３に見られる隆線は後述する粘土塊との関連性（隆線作成段階で生じたものという仮説）が考えられており、資料４は外面の摩滅が激しいことが特徴とされている。資料５については、内外面ともにツヤがあり精製土器の範疇に入るとされている。

資料６は、ＳＸ626溝状の落ち込みから出土した深鉢形土器口縁部破片であり、大木８ａ式の中でも古い段階または大木７ｂ式とされている。

資料７は、ＳＫ7011土坑から出土したほぼ完形の深鉢形土器胴部破片であり、縄文時代晩期のものとされている。資料８はＳＫ6275土坑から出土した鉢あるいは壺形土器の胴部破片であり、縄文時代晩期の土器とされている。資料９は、ＳＩ709竪穴住居跡より出土した深鉢形土器胴部破片であり、大木10式とされている。

資料10および資料11とした粘土塊は、第7次調査ＳＫ7080土坑から出土したものであり、土器の製作段階で生じたものなどの由来が考えられている。資料10は粘土塊の中でも比較的大きく、粘土板が裏返ったような形状を呈しており、資料11は丸味を帯びた筒状の形状を呈する。

第19表　胎土分析試料一覧および胎土分類結果

資料No.	調査次数	遺構名	種別	部位・その他特徴など	時期	胎土分類									
						鉱物・岩石				粒径組成					
						A	B	C	D	1	2	3	4	5	
1	7	ＳＫ7080	深鉢形土器	胴部・厚み・重量感あり	大木8b	■						■			
2	7	ＳＫ7080	深鉢形土器	胴部	大木9(出土遺構時期決定資料と同時期)	■						■			
3	6	ＳＸ625	深鉢形土器	口縁部	大木8a	■					■				
4	6	ＳＸ625	深鉢形土器	胴部・外面摩滅	大木8a		■							■	
5	6	ＳＸ625	小型深鉢形土器	口縁部～頸部・精製土器	大木8b			■				■			
6	6	ＳＸ626	深鉢形土器	頸部	大木8aまたは7b	■				■					
7	7	ＳＫ7011	深鉢形土器	胴部・ほぼ完形品	晩期				■					■	
8	6	ＳＫ6275	壺形土器	胴部	晩期				■				■		
9	7	ＳＩ709	深鉢形土器	胴部	大木10				■		■				
10	7	ＳＫ7080	粘土塊	大きい塊・めくれ上がり	出土遺構時期決定資料は大木9	■					■				
11	7	ＳＫ7080	粘土塊	円筒状	出土遺構時期決定資料は大木9	■	■								

⑵　分析方法

ここでは、松田ほか（1999）の方法を用いる。この方法は、土器の薄片を作製して、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べるものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される、同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか（1999）の方法は適当である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mm の厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

⑶　結　果（第20表、第723～725図、図版⑥）

結果を第20表、第723～725図に示す。鉱物片の組成をみると、いずれの試料も石英と斜長石が同量程度に多く主体を占め、それ以外の鉱物片は、カリ長石、輝石類、角閃石、黒雲母、不透明鉱物などが試料によって微量含まれる程度である。石英と斜長石の鉱物片は、いずれの試料も新鮮であり、第四紀の火山岩または火砕岩由来であることが示唆される。岩石片の組成では、ほぼ全ての試料において、頁岩、凝灰岩、流紋岩・デイサイト、安山岩、多結晶石英、花崗岩類、変質岩、珪化岩および火山ガラスが微量～少量含まれている。これらの量比を詳細に見ると、資料４では火山ガラスの量比が斜長石と同量程度に多いことが指摘され、資料５では火山ガラスとともに砂混じり粘土塊とした砕屑物が多く、資料８、９では他の資料に比べて安山岩の量比の高いことが特徴として認められる。ここでは、このような岩石片の種類構成とその量比から、以下に示すＡ～Ｄ類までの４種類に分類することができる。

Ａ類：岩石片の種類構成は、頁岩または珪質頁岩の堆積岩類と、凝灰岩や流紋岩・デイサイトおよび安山岩の火砕岩類や火山岩類、および花崗岩類からなり、変質岩や珪化岩および火山ガラスも伴っている。鏡下の観察から、変質岩は火山岩の風化岩であり、珪化岩は珪化流紋岩とされる。また、火山ガラスは平板状のバブル型と発泡した塊状の軽石型とが混在する。各岩石間の量比関係では、特に突出して多いものはなく、凝灰岩および流紋岩・デイサイトが若干多い傾向を示している。今回の試料では、資料１～３、６の４点の土器と粘土塊である資料10がＡ類に分類される。

Ｂ類：岩石片の種類構成は、Ａ類とほぼ同様であるが、火山ガラスの量比が突出して多いことから、Ｂ類として区別する。これに分類される試料は、資料４の１点のみである。なお、粘土塊の資料11については、出現した岩石片の数が少ないために組成として認めることはできないが、種類構成からみればＡ類またはＢ類の可能性があると考えられる。

Ｃ類：岩石片の種類構成は、Ａ類とほぼ同様であるが、火山ガラスの量比が他の岩石片より多く、さらに砂混じり粘土塊とした砕屑物も多く含まれることから、Ａ類ともＢ類とも異なるＣ類とした。砂混じり粘土塊は、粘土塊内部の孔隙や粘土塊を構成する基質粘土に配向性が認められたことから、土器片を破砕して得た細片である可能性が高い。これに分類される試料は、資料５の１点のみである。

Ｄ類:岩石片の種類構成は、Ａ類とほぼ同様であるが、その中で安山岩の量比が他の岩石片よりも多いことから、Ｄ類とした。これに分類される試料は、資料８と資料９であるが、資料７についても、Ａ～Ｃ類の試料では多い傾向のある凝灰岩や流紋岩・デイサイトが計数されない中で安山岩が計数されていることから、Ｄ類に分類する。

砕屑物の量比（第725図）は､いずれの試料もほぼ15～20％の範囲に入り､特にまとまりを見出すことはできない。胎土中の砂粒の粒径組成（第724図）では、モードとする粒径の違いにより以下の分類ができる。

１類：粗粒砂をモードとする。資料６の１点のみである。

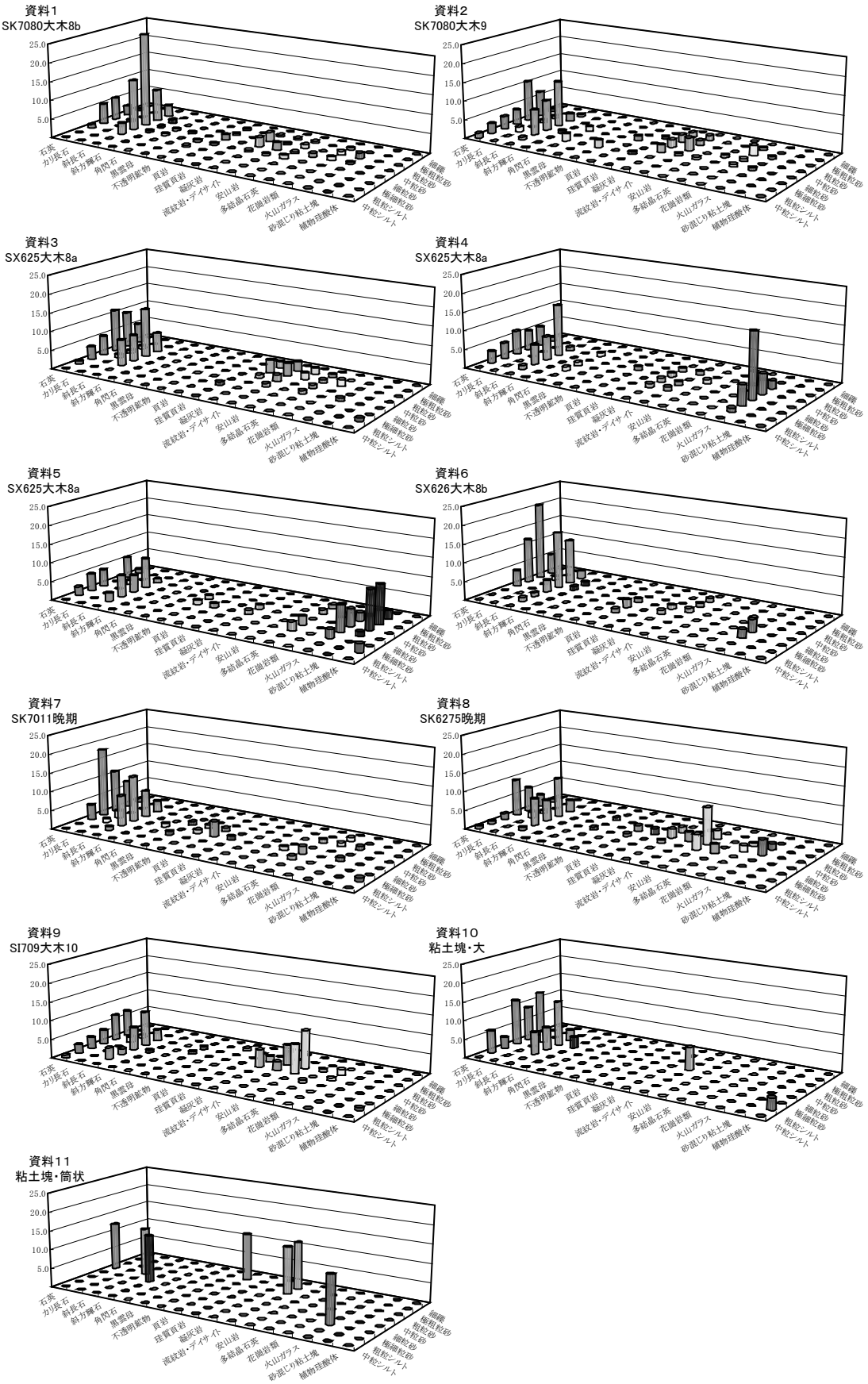
２類：中粒砂をモードとし、それに次いで粗粒砂の割合が高い。資料３、９、10の３点がこれに分類される。

３類：中粒砂をモードとするが、それに次ぐ粒径は粗粒砂と細粒砂がほぼ同程度である。資料１、２、５の３点がこれに分類される。

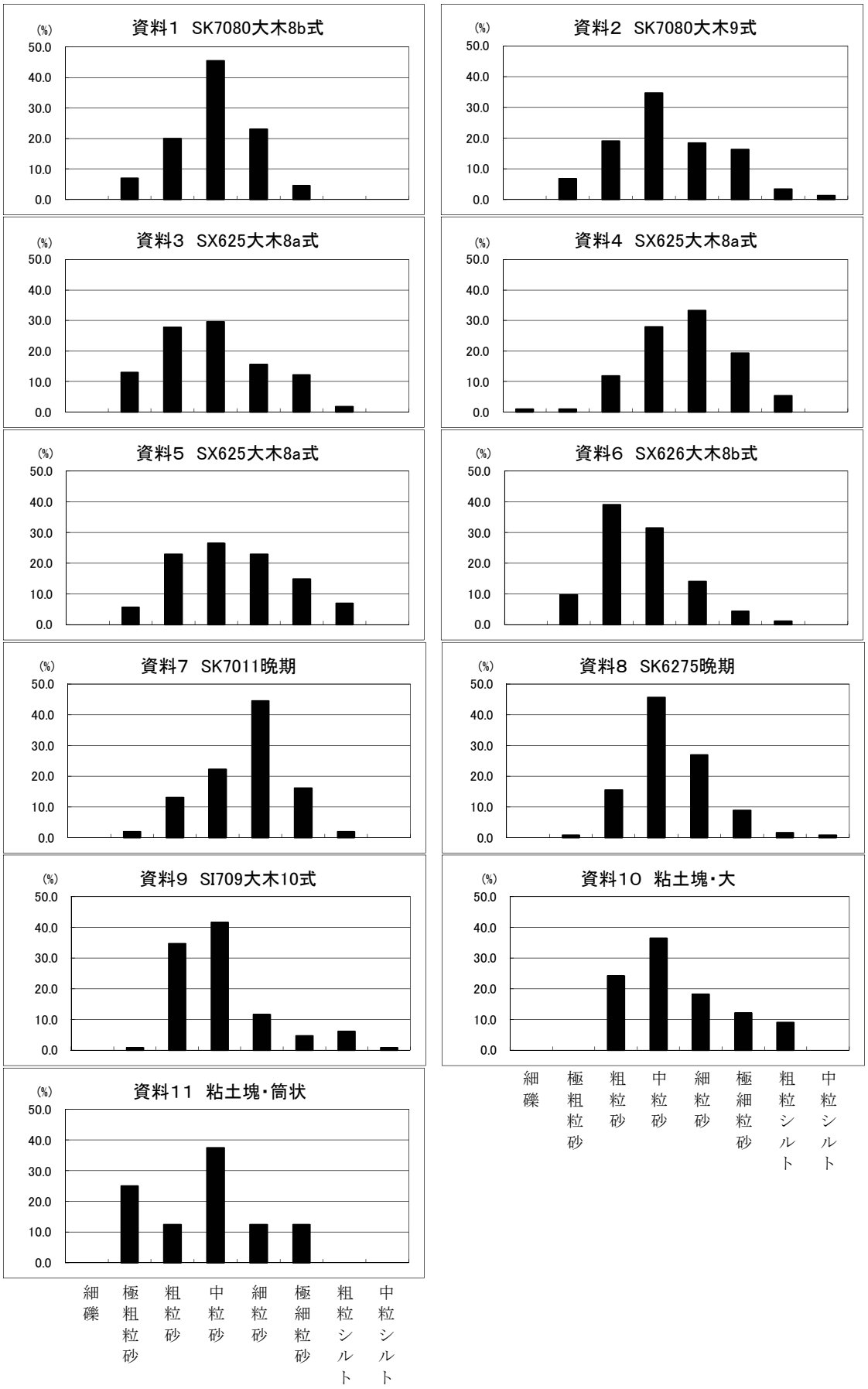
４類：中粒砂をモードとし、それに次いで細粒砂の割合が高い。資料８の１点のみである。

第20表　薄片観察結果

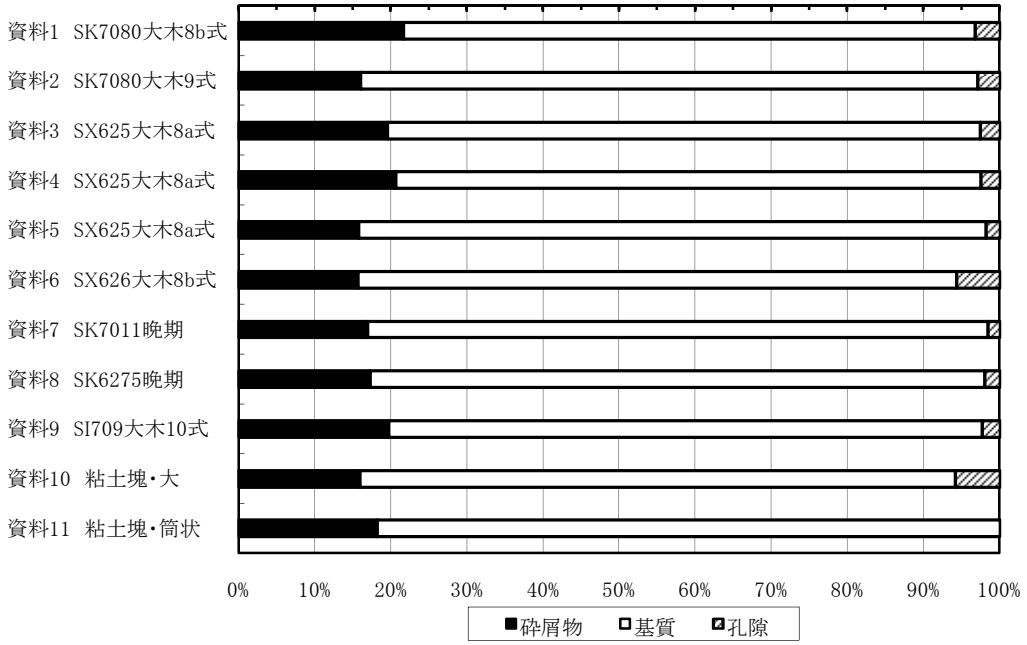
資料	砂粒区分		砂粒の種類構成																																										合計
			鉱物片																岩石片																					その他					
			石英	トリディマイト	カリ長石	斜長石	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	ザクロ石	緑廉石	白雲母	黒雲母	ジルコン	褐廉石	不透明鉱物	頁岩	珪質頁岩	砂岩	軽石	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	角閃石岩	珪長岩	石英片岩	雲母片岩	ホルンフェルス	千枚岩	ホルンフェルス	粘板岩	緑色岩	脈石英	変質岩	珪化岩	火山ガラス	砂混じり粘土塊	植物片	海綿骨針	植物珪酸体	
1	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂	1			6													1			2	1	1	1		1																		14
		粗粒砂	5			17		2											1				5	1	2		2		1									1		3					40
		中粒砂	12		1	55		1		1					1				3		1		5	4	1	2	2												1	1					91
		細粒砂	11			27		1		1								1	1				1	1	2																				46
		極細粒砂	2			6												1																											9
		粗粒シルト																																											0
		中粒シルト																																											0
		基質																																											693
		孔隙																																											30
2	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂	1			1																	2	2			1												3						10
		粗粒砂	10		1	3														1			3	2			4											1	2	1					28
		中粒砂	16		1	18				2			1						2				3	5		1	1										1								51
		細粒砂	6			12		1															3	1	1		1										1			1					27
		極細粒砂	5		2	10				3								3		1																									24
		粗粒シルト	4			1																																							5
		中粒シルト	2																																										2
		基質																																											745
		孔隙																																											26
3	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂	6																				2	3	2	1													1						15
		粗粒砂	11		1	6																	4	4	2	1	2												1						32
		中粒砂	13		1	15																	1	2		1																	1		34
		細粒砂	6		1	8																		1		1														1					18
		極細粒砂	4			8								1						1																									14
		粗粒シルト	1																																									1	2
		中粒シルト																																											0
		基質																																											458
		孔隙																																											15
4	砂	細礫																																					1						1
		極粗粒砂	1																																										1
		粗粒砂	5			1				1													1	1																2					11
		中粒砂	5			13													1				1		1															5					26
		細粒砂	6			6				1													1	1																16					31
		極細粒砂	4	1		5				1													1	1																5					18
		粗粒シルト	3			1																																		1					5
		中粒シルト																																											0
		基質																																											347
		孔隙																																											11
5	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂	1																			1				1															2				5
		粗粒砂	5			1																				1												2		2	9				20
		中粒砂			1	7												1					1																	4	9				23
		細粒砂	4			4												1	1				1			2														6	1				20
		極細粒砂	4			5																				2														2					13
		粗粒シルト	2			2																																						2	6
		中粒シルト																																											0
		基質																																											456
		孔隙																																											10
6	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂	5			2																		1														1							9
		粗粒砂	19		1	11		1																1														2	1						36
		中粒砂	11			14		1											1				1	1																					29
		細粒砂	4			3													2				1																	3					13
		極細粒砂				1													1																					2					4
		粗粒シルト				1																																							1
		中粒シルト																																											0
		基質																																											461
		孔隙																																											33
7	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂	1																								1																		2
		粗粒砂	7			3																				1	1													1					13
		中粒砂	11			7									1		1	1																			1							22
		細粒砂	18		2	12			1	1								1	4	1					1	2														1					44
		極細粒砂	4		1	8			1						1											1																			16
		粗粒シルト				1																																						1	2
		中粒シルト																																											0
		基質																																											477
		孔隙																																											9
8	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂	1																																										1
		粗粒砂	4			4									1								2	1	3		1					1								2					19
		中粒砂	8		1	13													2	2	1		3	3	12		2					1						2	1	5					56
		細粒砂	12		2	7			1						1				1				1		5	3																			33
		極細粒砂	2			9																																							11
		粗粒シルト	1			1																																							2
		中粒シルト	1																																										1
		基質																																											575
		孔隙																																											14
9	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂																	1																										1
		粗粒砂	9		1	4			1						1								2	7	13	1	2		1									1	2						45
		中粒砂	9		2	12									1								6	3	10		1		2									6	1				1		54
		細粒砂	5			8		1																		1																			15
		極細粒砂	4			2																																							6
		粗粒シルト	3			4																																						1	8
		中粒シルト	1																																										1
		基質																																											514
		孔隙																																											15
10	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂																																											0
		粗粒砂	4			1															1																		2						8
		中粒砂	3		1	4		1																2														1							12
		細粒砂	4			2																																							6
		極細粒砂	1			2							1																																4
		粗粒シルト	2																																									1	3
		中粒シルト																																											0
		基質																																											162
		孔隙																																											12
11	砂	細礫																																											0
		極粗粒砂																	1					1																					2
		粗粒砂																						1																					1
		中粒砂	1			1																																	1						3
		細粒砂						1																																					1
		極細粒砂																																						1					1
		粗粒シルト																																											0
		中粒シルト																																											0
		基質																																											36
		孔隙																																											



第723図　各粒度階における鉱物･岩石出現頻度



第724図　胎土中の砂の粒径組成



第725図　砕屑物・基質・孔隙の割合

５類：細粒砂をモードとする。資料４、７の２点がこれに分類される。

なお、資料11は砂粒の数が少ないことから、粒径組成の傾向は判別できない。

(4) 考　察

１．胎土の地域性について

胎土中に認められた鉱物片および岩石片の組成は、土器の原材料となった土（一般には粘土と呼ばれることが多いが、実際にはシルトや砂も含まれている）が採取された場所の地質学的背景を反映している。今回の分析では、岩石片の量比関係からＡ～Ｄ類に分類したが、胎土中に認められた鉱物片と岩石片の種類は粘土塊も含めて全試料ほぼ同様であると言える。このことは、今回の試料がいずれも同一の地質学的背景を有する地域内で採取された土を原材料にしていることを示唆している。今回の試料の鉱物・岩石組成から推定される地質学的背景としては、頁岩を主体とし砂岩なども含む堆積岩類と凝灰岩、流紋岩・デイサイト、安山岩の火砕岩や火山岩が分布し、さらには花崗岩類からなる貫入岩体（岩体の周縁にはホルンフェルスが形成される）の分布のあることが考えられる。

ここで上野遺跡の位置する仙台平野背後の名取川流域の山地の地質を、大沢ほか（1986）、北村ほか（1986）、日本の地質「東北地方」編集委員会（1989）などにより概観すると、新第三紀中新世の礫岩・砂岩・泥岩からなる堆積岩層と安山岩溶岩および同質の火砕岩からなる層により構成されている名取層群と同じく中新世の凝灰岩層により構成されている秋保層群の両地質により構成されていることがわかる。また、花崗岩類は、蔵王山の北方に阿武隈帯の古期深成岩類に属する白亜紀に貫入した花崗岩類の岩体が分布する。このような地質学的背景は、今回の試料の胎土から推定される地質学的背景とほぼ一致することから、今回の試料の原材料となった土は、名取川流域の堆積物に由来する可能性が高いと考えられる。現時点では、名取川流域という以上の地域的な絞り込みはできないが、上野遺跡あるいは周辺域で作製されたとしても矛盾はない。

２．胎土と型式および粘土塊との関係について

第17表に示した胎土分類と試料のその他の属性とを対応させてみると、以下の状況が読み取れる。ＳＫ7080から出土した土器は、大木８ｂ式と大木９式であるが、胎土分類は鉱物・岩石組成および粒径組成ともに同様であるこ

とから、それら２点は同じ製作者あるいは製作集団によるものという可能性がある。また、ＳＸ626出土の大木８ａまたは７ｂ式とされる試料の胎土も、粒径組成は上記２点とはことなるものの鉱物・岩石組成は同じ分類であった。型式の違いが年代の違いを示すというのであれば、ある期間にわたって土器の材質が一様に保たれたということが推定される。

なお、ＳＫ7080出土の粘土塊のうち資料10は、鉱物・岩石組成が同遺構出土土器と同様であり、粒径組成も近い分類となった。このことから、粘土塊は土器と同質の材料からなると判断され、土器の製作途中で生じたものとする所見を支持すると言える。また、粘土塊についても、斜方輝石、単斜輝石、角閃石、不透明鉱物という種類からなる重鉱物組成と石英と長石が同量程度で多く、火山ガラスを少量含むという軽鉱物組成は、土器胎土の鉱物組成と共通するとみることができる。すなわち、土器材料に関係する粘土塊であった可能性はあると考えることができる。

ＳＸ625から出土した試料では、同じ大木８ａ式とされた２点の試料は、鉱物・岩石組成も粒径組成も胎土分類は異なっており、さらに大木８ｂ式の試料もこれらとは異なり、かつＳＫ7080出土の大木８ｂ式とも異なる胎土分類となった。この場合、同時期に様々な材質の土器が共存した可能性のあることも示している。この状況は、上述したＳＸ7080出土土器の胎土から推定される状況とは反対である。なお、同時期に様々な材質の土器が共存という状況は、製作者（集団）により材料の採取地や調整が異なっていたか、一人（一つ）の製作者（集団）でも材質のばらつきがあったなどのことが想定される。

それぞれ出土遺構も時期も異なる大木10式と晩期とされた土器の胎土は、鉱物・岩石組成がいずれも同様であり、かつ上述した大木８ａ～大木９式までのいずれの試料とも異なっていた。このことから、大木10式以降と以前とで、土器材料に関わる事情に大きな変化があった可能性もあり、土器の材質が長期にわたり同質に保たれた可能性もある。

現時点では、上述した出土遺構と型式と胎土との関係は、膨大な出土量から抽出された数点における分析結果からみたものであり、今後、分析事例を蓄積することにより、その関係の確からしさを検証する必要がある。その検証を通じて、上野遺跡における、より確かな土器製作事情を推定することができると考える。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信 ,1991, 中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量 . 農林水産省農林水産技術会議事務局編　土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発 ,28-36.

安藤一男 ,1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用 . 東北地理 ,42,73-88.

Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom,10, 35-47.

Bowen,H.J.M.,1983, 環境無機化学 - 元素の循環と生化学 -. 浅見輝男・茅野充男訳 , 博友社 ,297p.

Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M,1980, 土壌の化学 . 岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行訳 , 学会出版センター ,309p.

土壌標準分析・測定法委員会編 ,1986, 土壌標準分析・測定法 . 博友社 ,354p.

原口和夫・三友清史・小林　弘 ,1998, 埼玉の藻類　珪藻類 . 埼玉県植物誌 , 埼玉県教育委員会 ,527-600.

林　昭三 ,1991, 日本産木材　顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

Hustedt, F.,1937-1939,Systematische und okologische Untersuchungen uber die Diatomeen-Flora von Java,, Bali und Sumatra. Archiv fur Hydrobiology, Supplement,15:131-177,15:187-295,15:393-506,15:638-790,16:1-155,16:274-394.

石川茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ . 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ . 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

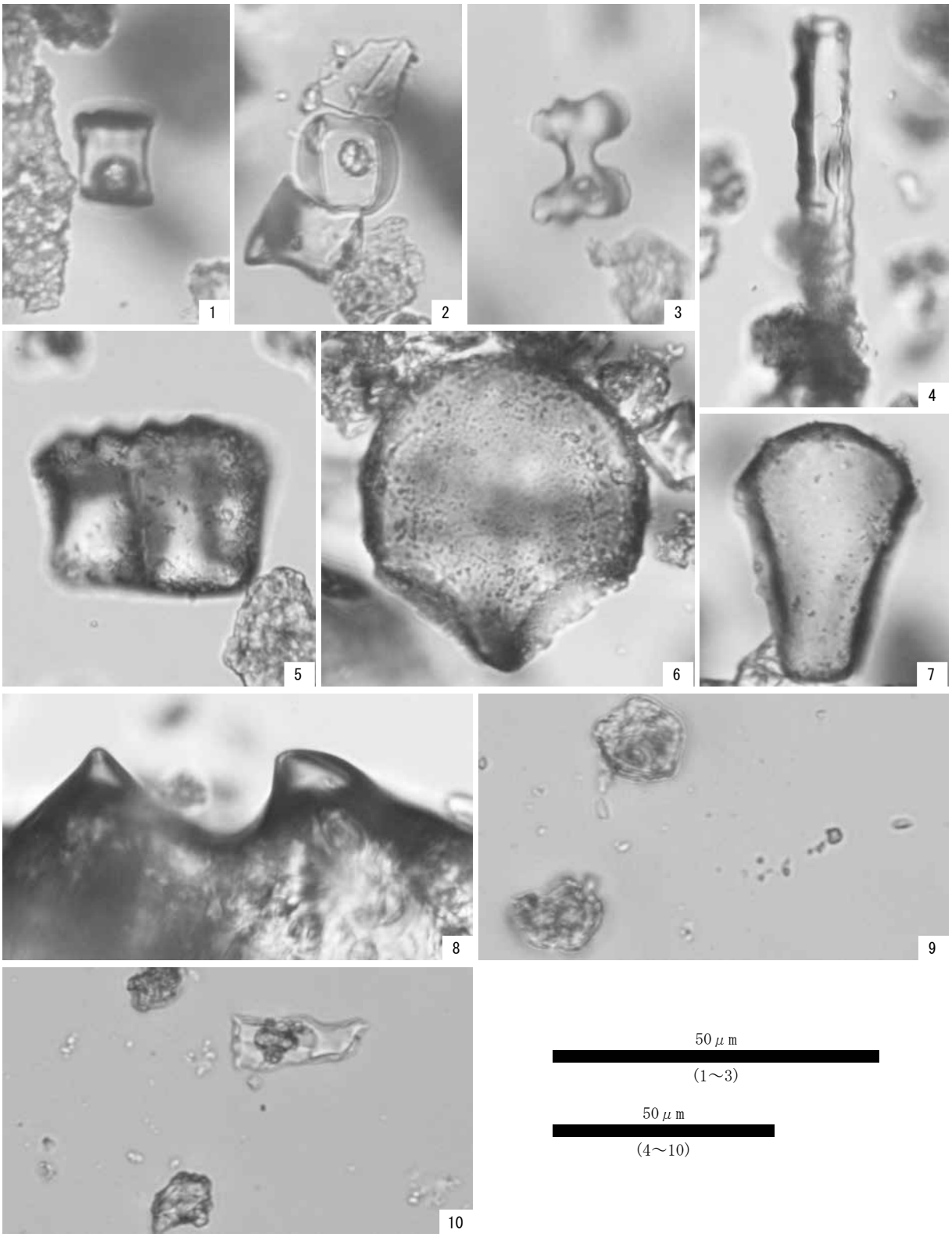
伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ . 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ . 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ . 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

伊藤良永・堀内誠示 ,1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用 . 珪藻学会誌 , 6 ,23-45.

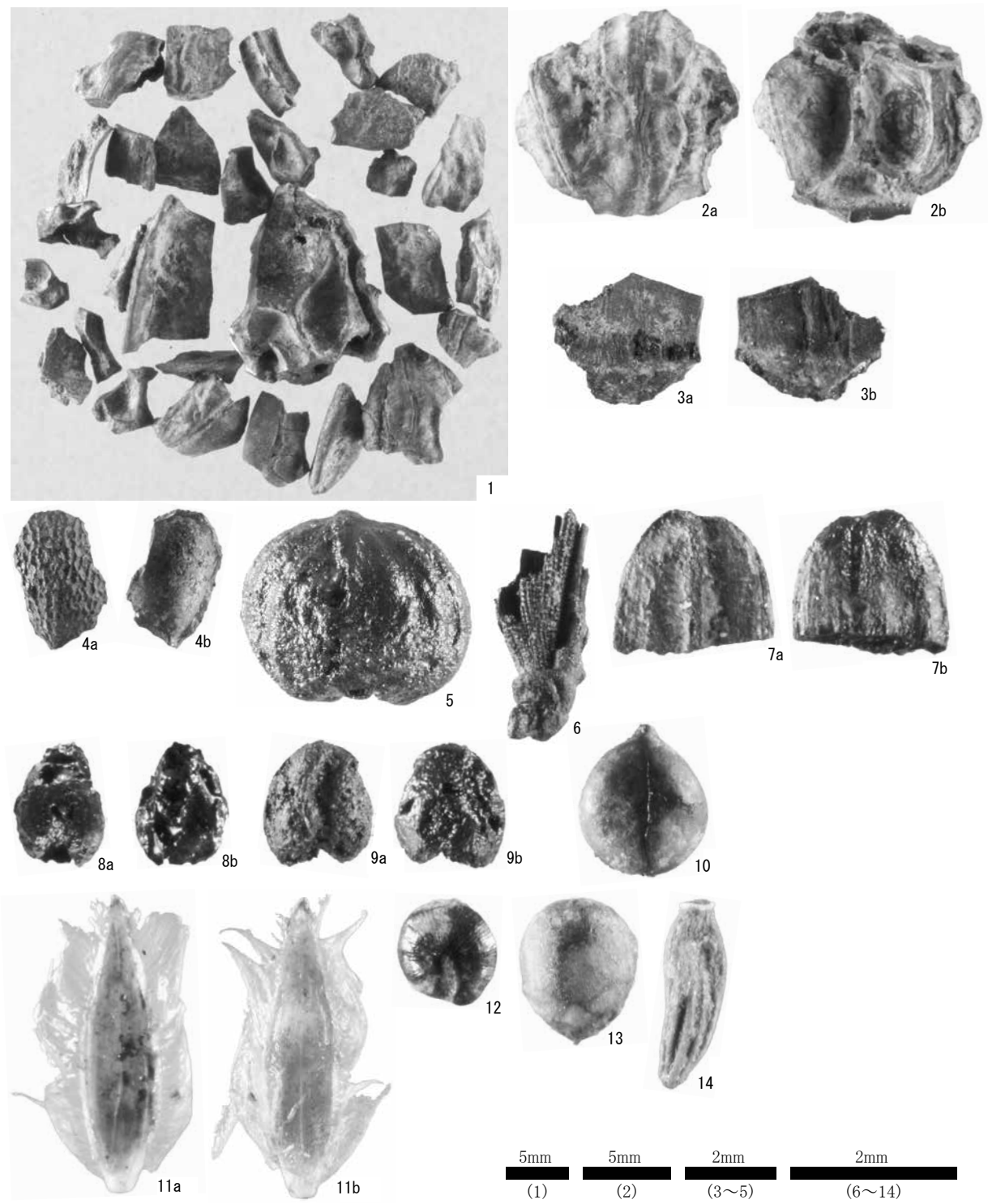
川崎　弘・吉田　澪・井上恒久 ,1991, 九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量 . 農林水産省　農林水産技術会議事務局編　土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発 ,23-27.
北村　信・石井武政・寒川　旭・中川久夫 ,1986, 仙台地域の地質 . 地域地質研究報告 (5 万分の1地質図幅) 地質調査所 ,134p.
小林達雄編 ,2008, 小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器 . 株式会社アム・プロモーション ,1322p.
小林　弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲　保・長田啓五 ,2006, 小林弘珪藻図鑑 . 第1巻 , ㈱内田老鶴圃 ,531p.
小池一之・田村俊和・鎮西清高・宮城豊彦編 ,2005, 日本の地形 3　東北 . 東京大学出版会 ,355p.
小岩直人 ,1994, 河川地形 . 仙台市史編纂委員会編　仙台市史　特別編・自然 . 仙台市 ,69-76.
近藤錬三 ,2004, 植物ケイ酸体研究 . ペドロジスト ,48,46-64.
小杉正人 ,1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用 . 第四紀研究 ,27, 1 -20.
Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav Fischer Verlag,248p.
Lowe, R.L,1974,Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms.　334p.
In Environmental Monitoring Ser.EPA Report 670/ 4 -74-005.　Nat. Environmental Res. Center Office of
Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinati.
松田順一郎・三輪若葉・別所秀高 ,1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－ . 日本文化財科学会第16回大会発表要旨集 ,120-121.
森　幸彦 ,2008, 大木 9 ・10式土器 . 小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器 . 株式会社アム・プロモーション ,360-367.
中野幸大 ,2008, 大木7a ～ 8b 式土器 . 小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器 . 株式会社アム・プロモーション ,352-359.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 . 東北大学出版会 ,642p.
日本の地質「東北地方」編集委員会 ,1989, 日本の地質 2　東北地方 . 共立出版 ,338p.
農林省農林水産技術会議事務局監修 ,1967, 新版標準土色帖 .
大沢　穠・三村弘二・久保和也・広島俊男・村田泰章 ,1986,20万分の 1 地質図幅「仙台」, 地質調査所 .
Patrick,R.,1977,Ecology of freshwater diatoms and diatom communities.The biology of diatoms.,Botanical Monographs,13,284-332,Blackwell Scientific Publication,London.
ペドロジスト懇談会 ,1984, 野外土性の判定 . ペドロジスト懇談会編　土壌調査ハンドブック , 博友社 ,39-40.
Round, F. E.., Crawford, R. M. & Mann, D. G.1990,The diatoms. Biology & morphology of the genera. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.
島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.
Vos, P.C. & H. de Wolf,1993,Diatoms as a tool for reconstructing sedimentary environments in coastal wetlands; methodological aspects. Hydrobiologica,269/270,285-296.
和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 ,1992, 和光市埋蔵文化財調査報告書第5集　埼玉県和光市　丸山台遺跡群Ⅰ　丸山遺跡・丸山台遺跡・義名山遺跡・中丸遺跡・浅川遺跡　－丸山台土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書－　本文編 .464p.
渡辺　誠 ,1975, 縄文時代の植物食 . 雄山閣出版 ,187p.
渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻　彰洋・伯耆晶子 ,2005, 淡水珪藻生態図鑑 . 内田老鶴圃 ,666p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.
柳沢幸夫 ,2000, Ⅱ - 1 - 3 - 2 -(5) 計数・同定 . 化石の研究法―採集から最新の解析法まで― , 化石研究会 , 共立出版株式会社 ,49-50.



1. ネザサ節短細胞珪酸体(SK6068;試料番号6)
2. ヨシ属短細胞珪酸体(SK6068;試料番号6)
3. ススキ属短細胞珪酸体(SK6068;試料番号6)
4. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(SX625;試料番号1)
5. ネザサ節機動細胞珪酸体(SX625;試料番号1)
6. ヨシ属機動細胞珪酸体(SX625;試料番号1)
7. ウシクサ族機動細胞珪酸体(SK6068;試料番号6)
8. イネ属穎珪酸体(SX626-1地点;試料番号1)
9. 状況(鉱物粒子が散在)(SK7043:試料番号1)
10. 状況(鉱物粒子が散在)(SK5017:試料番号8)

植物珪酸体

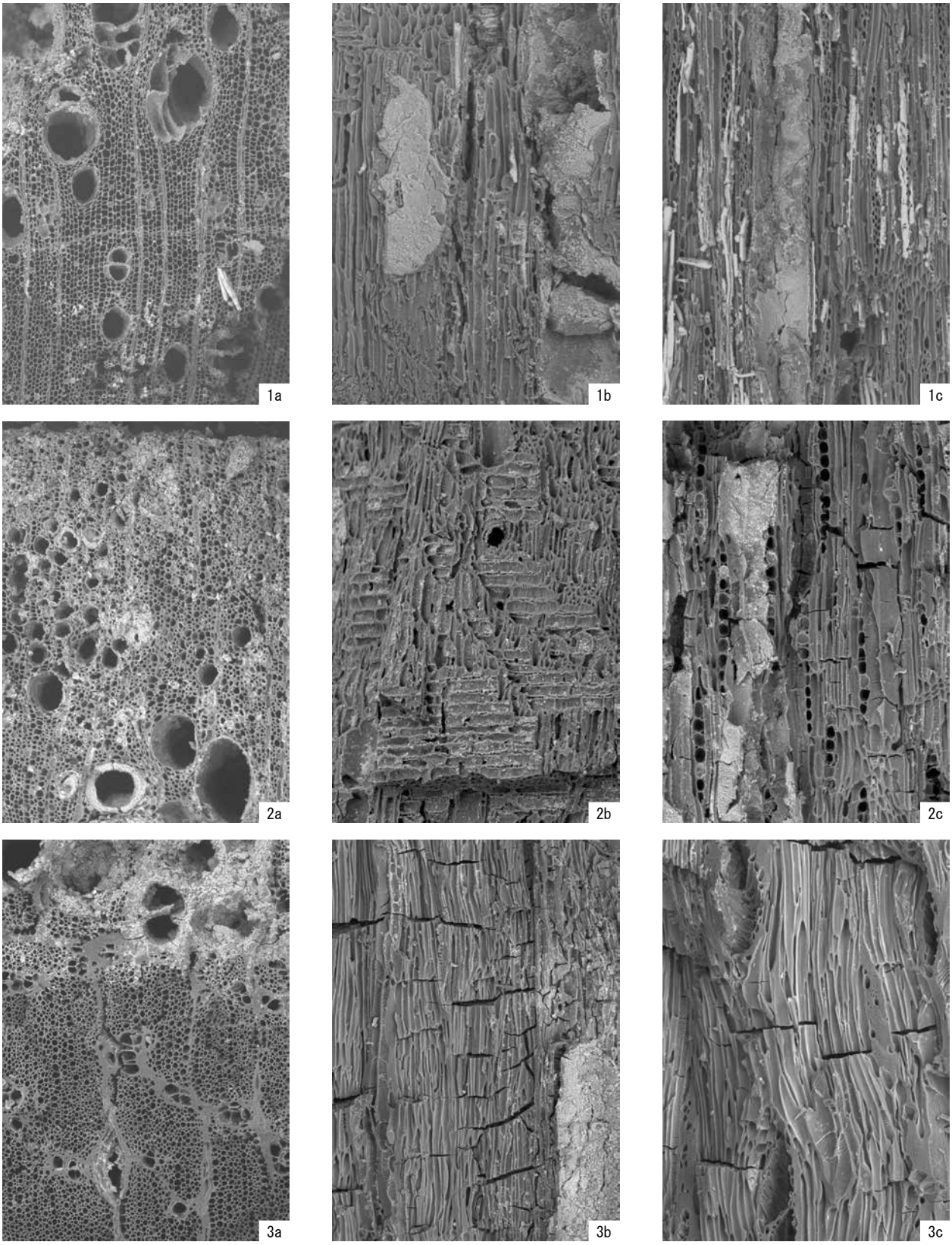
写真図版　自然科学分析①



1. オニグルミ 核(SK7015;試料番号1)
2. オニグルミ 核(SK7015;試料番号3)
3. クリ 果実(SK7015;試料番号1)
4. サンショウ属 種子(SX626-1地点;試料番号3)
5. ミズキ 核(SX626-1地点;試料番号5)
6. イネ 穎(SX626-1地点;試料番号1)
7. イネ 胚乳(SX626-1地点;試料番号1)
8. ヒエ近似種 胚乳(SX626-1地点;試料番号1)
9. キビ近似種 胚乳(SK6068;試料番号18)
10. タデ属 果実(SK6068;試料番号19)
11. イネ科 果実(SK7015;試料番号2)
12. アカザ科 種子(SX626-1地点;試料番号1)
13. エノキグサ 種子(SK5017;試料番号1)
14. キク科 果実(SX626-1地点;試料番号1)

種実遺体

写真図版　自然科学分析②

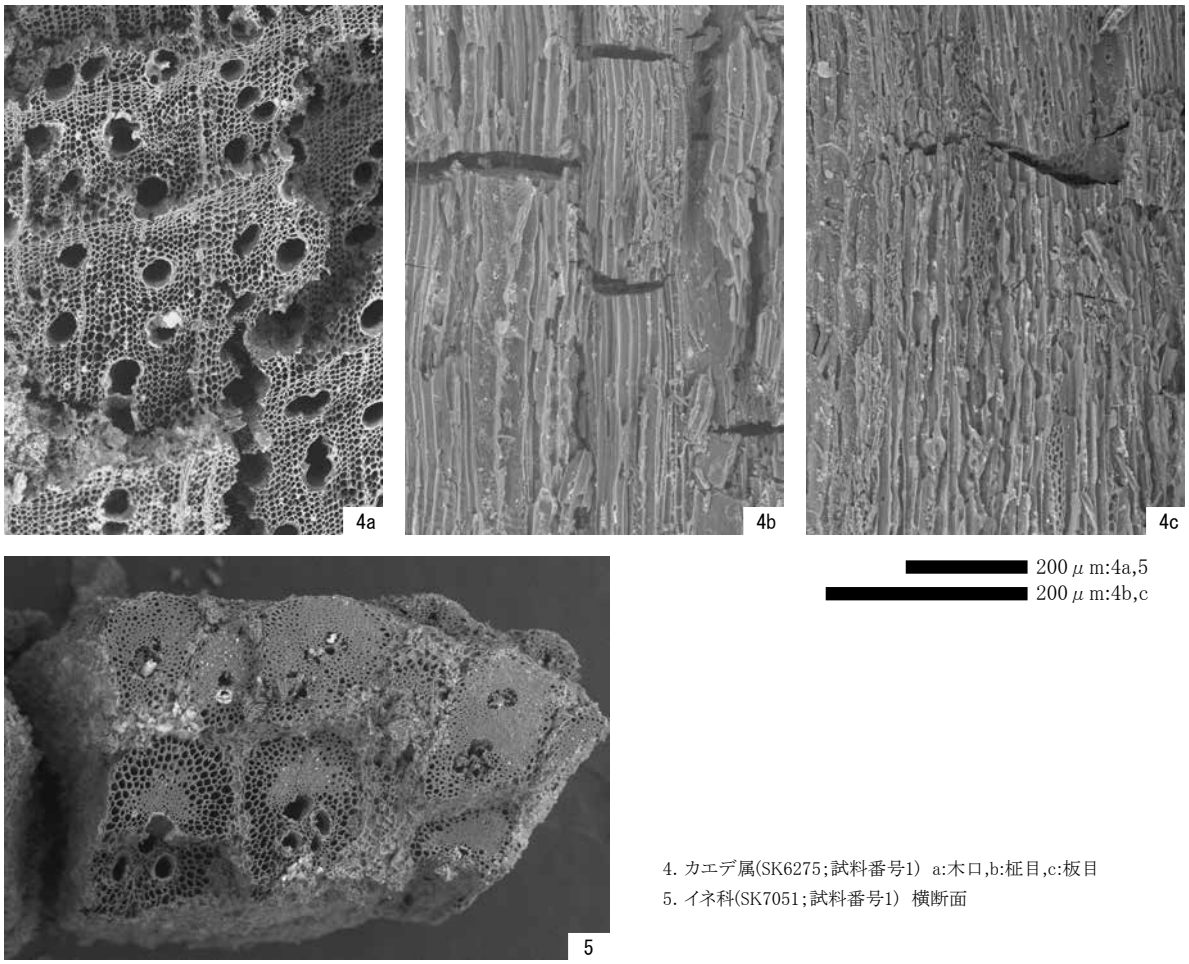


1. オニグルミ(SX626;試料番号5)
2. クリ(SK7080;試料番号1)
3. ヤマグワ(SK6201;試料番号1)
　a:木口,b:柾目,c:板目

200μm:a
200μm:b,c

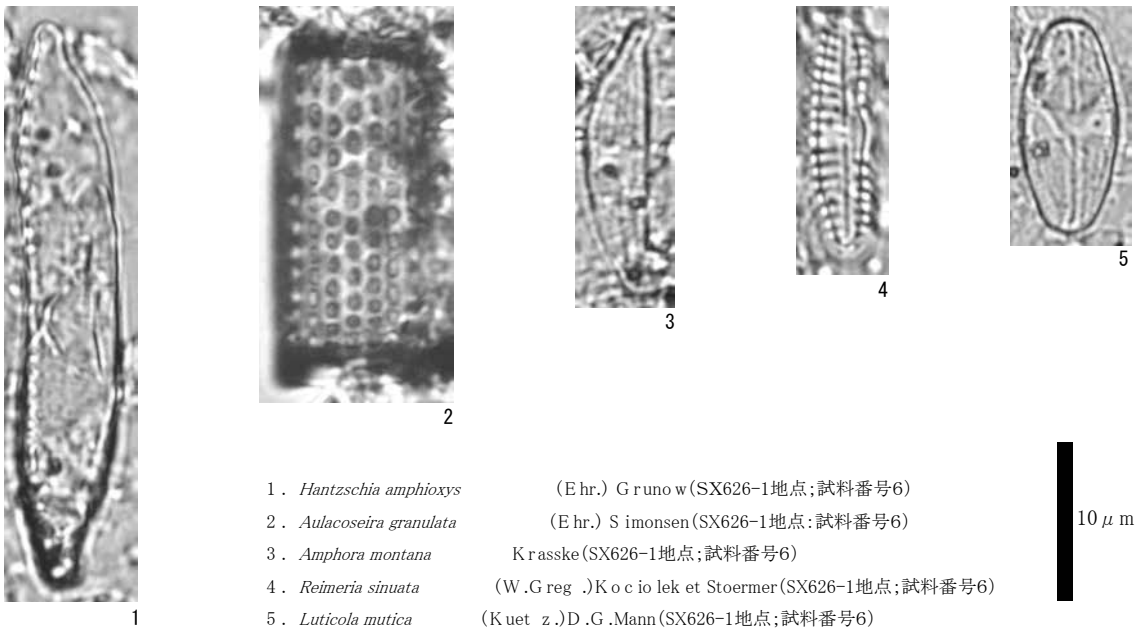
炭化材（１）

写真図版　自然科学分析③



4. カエデ属(SK6275;試料番号1) a:木口,b:柾目,c:板目
5. イネ科(SK7051;試料番号1) 横断面

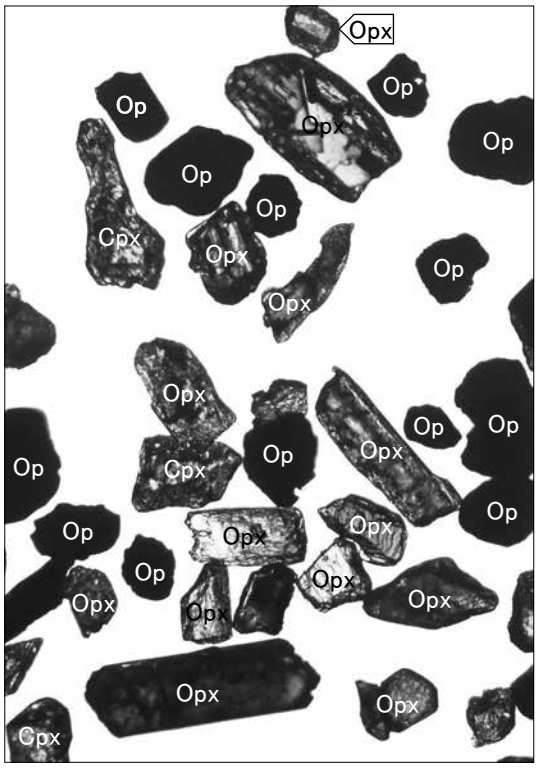
炭化材（２）



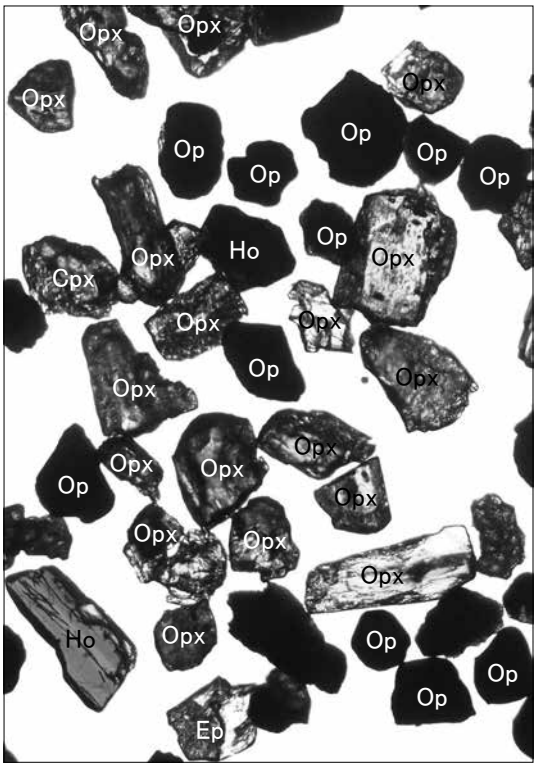
1．*Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow(SX626-1地点;試料番号6)
2．*Aulacoseira granulata* (Ehr.) Simonsen(SX626-1地点:試料番号6)
3．*Amphora montana* Krasske(SX626-1地点;試料番号6)
4．*Reimeria sinuata* (W.Greg.)Kociolek et Stoermer(SX626-1地点;試料番号6)
5．*Luticola mutica* (Kuetz.)D.G.Mann(SX626-1地点;試料番号6)

珪藻化石

写真図版　自然科学分析④

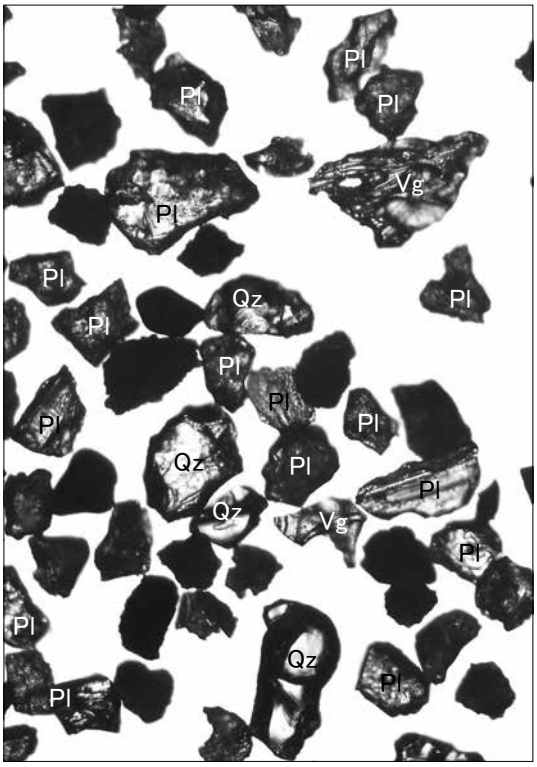


重鉱物(SK7043;試料番号1



重鉱物(SK7043;試料番号2)

軽鉱物(SK7043;試料番号1)



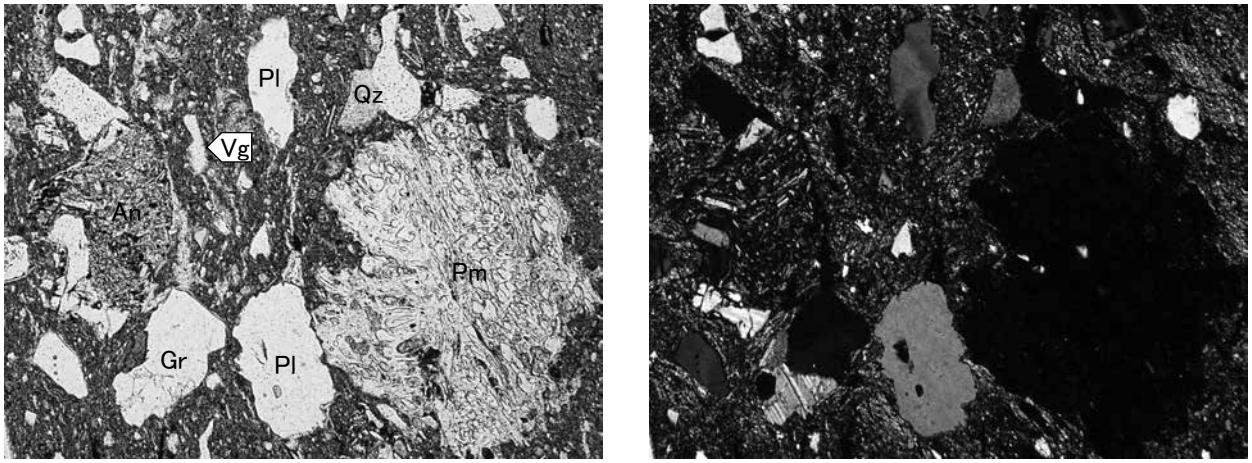
軽鉱物(SK7043;試料番号2)

Opx:斜方輝石．Cpx:単斜輝石．Ho:角閃石．Ep:緑レン石．Op:不透明鉱物．
Vg:火山ガラス．Qz:石英．Pl:斜長石．

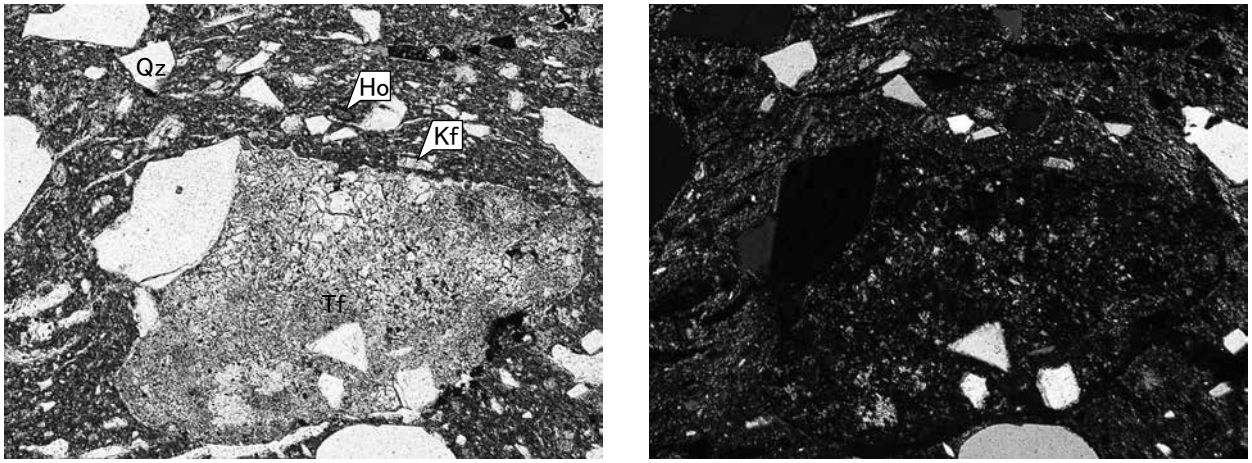
0.5mm

重軽鉱物

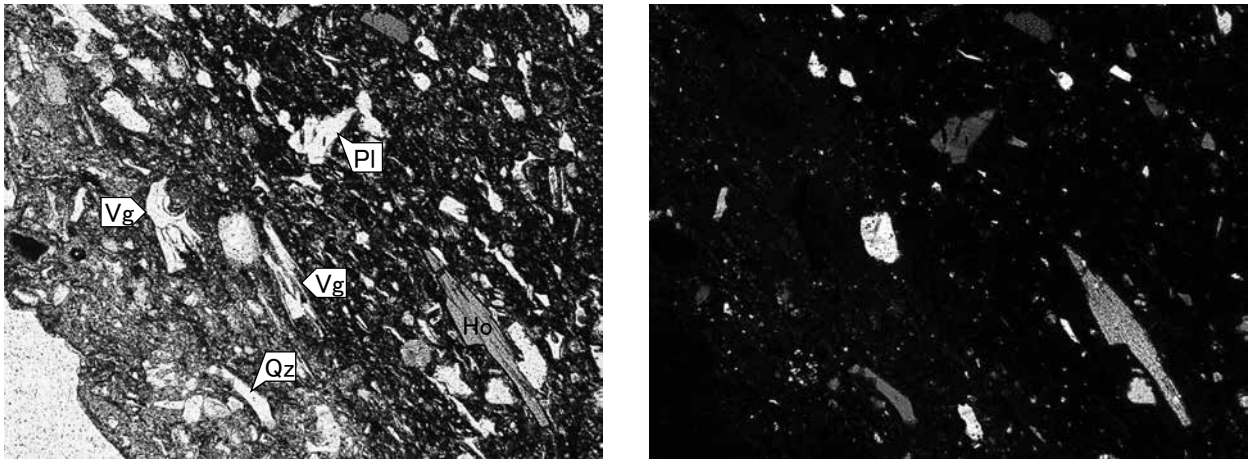
写真図版　自然科学分析⑤



資料№1(SK7080　大木8b式　胴部)



資料№3(SX625　大木8a式　口縁部)



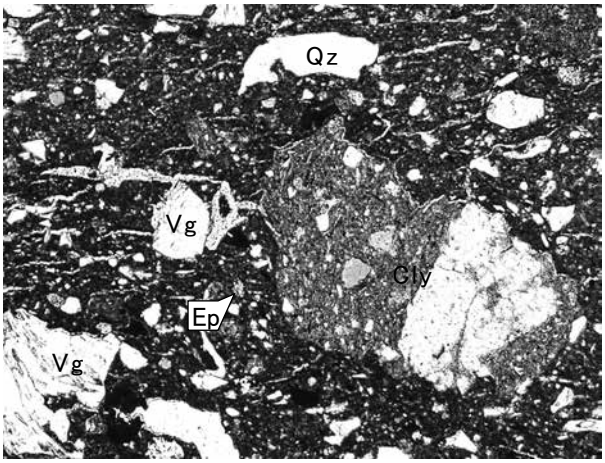
資料№4(SX625　大木8a式　胴部)

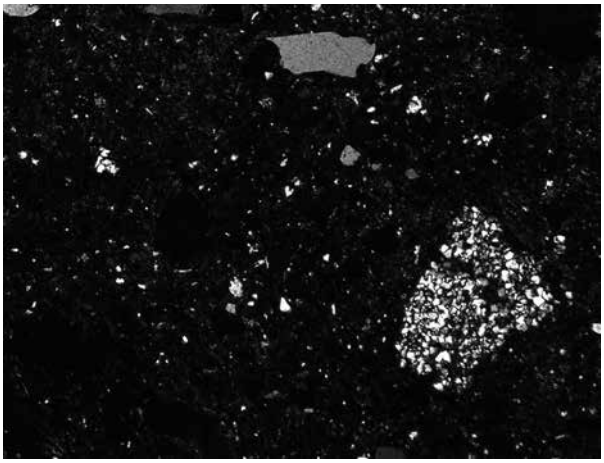
Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Pm:軽石. Tf:凝灰岩. An:安山岩.
Gr:花崗岩. Vg:火山ガラス
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

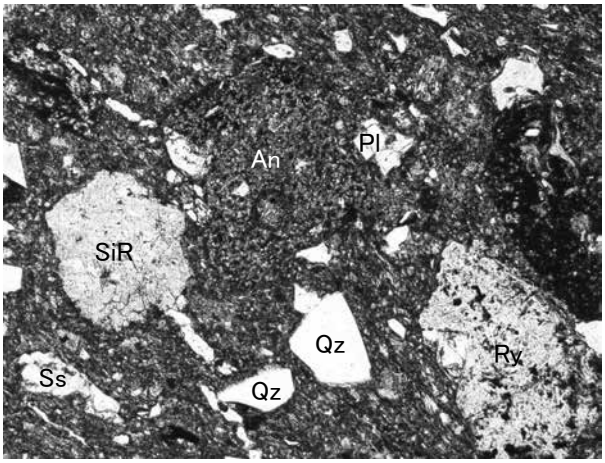
胎土薄片(1)

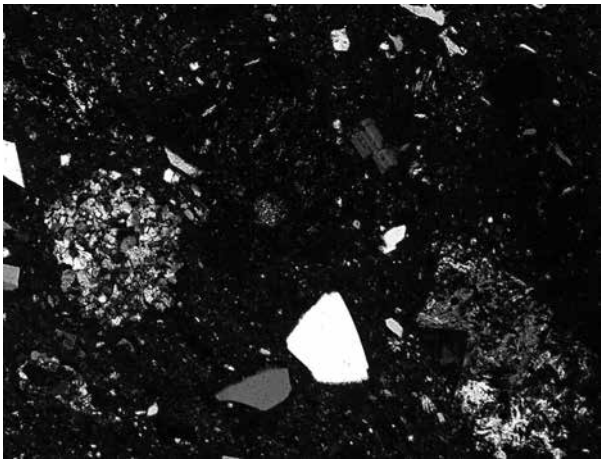
写真図版　自然科学分析⑥



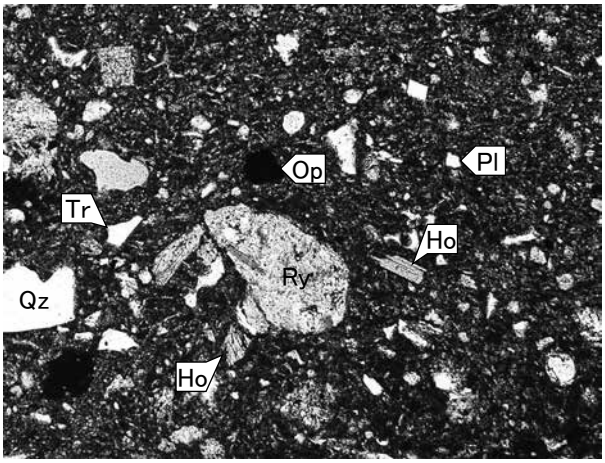


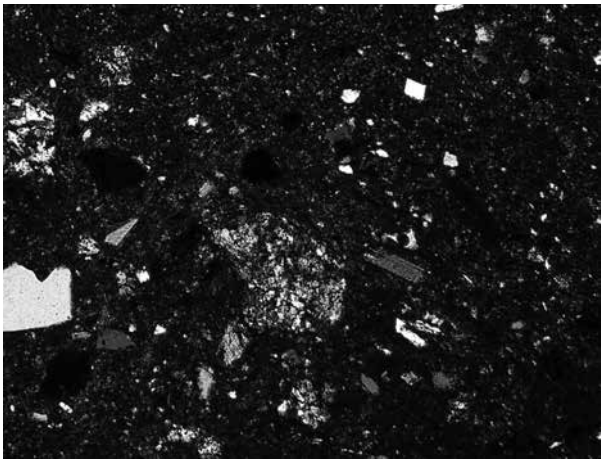
資料№5(SX625　大木8a式　口縁部)





資料№9(SI709　大木10式　胴部)





資料№10(粘土塊　SK7080)

Qz:石英. Pl:斜長石. Ho:角閃石. Op:不透明鉱物. Ss:砂岩. Ry:流紋岩. An:安山岩.
SiR:珪化岩. Tr:トリディマイト. Vg:火山ガラス. Cly:砂混じり粘土塊.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

胎土薄片（２）

写真図版　自然科学分析⑦

第 2 節　上野遺跡出土の骨角製品と動物遺体

東京国立博物館客員研究員　　金子浩昌

1．はじめに

上野遺跡からはごく僅かであったが、骨角製品と動物遺体が検出されている。骨角製品はきわめて断片的なものであったが、内陸地域における骨角製品を知る好資料であった。動物遺体はすべて被熱して灰白色を呈した骨片であったが、魚、鳥、獣類の各種を含み、それぞれの特徴ある在り方をみることができた。検出された骨角製品および動物遺体の一覧表を第21・22表に示した。

2．骨角製品

骨　針（第492図、図版⑧－1）

素材；鹿角

現長1.15

骨針の先端部分をわずかに残すものである。丁寧に研磨されている。断面は扁平な長楕円形である。ヤス状刺突具の先端と比べるとやや扁平さがつよいところから、針製品ではないかと思われる。確認された本遺跡唯一の骨角製品である。骨角製の針はもっとも多くつくられた骨角器で、今回のような偶然にのこされた遺物の場合でも、断片であるが検出されたということはかなりの数がつくられたことを示すものであろう。

骨針は道具としての針というよりも装身具としての用途が考えられるものであるが、それはまた単なる装飾品ではなく、呪術的な意味をもつものであったと思う。身辺に起こり得る多くの災難に対する防御は縄文人の常日頃念頭をあったことである。この小さな骨片は縄文人の日常の生活を反映するものなのである。

ヤス状刺突具（第492図、図版⑧－2）

素材；シカの中手骨もしくは中足骨

現長7.35

被熱した小断片であるが、骨角製品の形状をよくのこしている。表面は多少荒れた状態であるが、研磨加工された痕跡がのこされている。おそらく完形品であれば均斉のとれたつくりのヤス状刺突具であったろう。ヤス状刺突具にはシカの中手骨もしくは中足骨を縦に割って第一次の加工がおこなわれるが、その際、骨のどの部分がつかわれるかによって、全体のかたちも変わってくる。中手骨もしくは中足骨の前、側面はほぼ均等な厚みの柱状であるので、素材は長方形の断面形の板状製品になる。その両端を尖らせて先端と基部がつくられる。一方、後面は発達した稜状の隆起帯が左右側にあり、この部分は骨格の厚みがあり、断面は丸みのある三角形になり、内側つまり髄腔面は浅い凹面をつくる。さらに全体のかたちも中太りのする独特の形態をつくる。ヤス骨体の厚みがあり、利器としての効果と頑丈さは倍加したものと思われる。

本標本はそうした利器であったのである。筆者の経験ではこうした骨角器が被熱した状態で出土したのをみることは稀であり、またもともと貝塚で知られることが多い。道具としての使用は貝塚に限られたわけではないので、本遺跡での出土が特別特異とするわけではないが、被熱骨角器であるということと、当該地方遺跡での稀な出土ということで注意したいと思う。

棒状鹿角加工品（図版⑧－3）

現長40.86

現状は細い鹿角で、両端を欠損し、体部また半欠して海綿体をみせている。鹿角の枝部分であろう。自然の鹿角

としては棒状に細長く、加工されたものではないかと思われる、ただ鹿角表面には顕著な擦痕などをみることができないので保留しておきたい。

３．検出された動物遺体

動物遺体種名表

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

軟骨魚綱 Class Chondrichthyes

ネズミザメ目 Order Lamniformes

ネズミザメ科 Family Lamnidae

スルキデンスサメ　Carcharodon sulucidenns（化石種）

メジロザメ目　Order Carcharhiniformes

属種不明　gen. et sp. indet.

硬骨魚綱 Class Osteihthyes

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科 Family Salmonidae

サケ類 Oncorhynchus sp.

ダツ目 Order Beloniformes

ダツ科 Family Belonidae

属種不明　Gen. et sp. indet.

鳥綱 Class Aves

ガンカモ目 Order Anseriformes

ガンカモ科 Family Anatidae

属種不明　Gen. et sp. indet.

哺乳綱 Class Mammalia

ウサギ目 Order Lagomorpha

ウサギ科 Family Leporidae

ノウサギ Lepus brachyurus

ネコ目　O rder C arnivora

イヌ科 Family Canidae

タヌキ Nyctereutes procyonoides

ウシ目　O rder A rtiodactyla

イノシシ科 Family Suidae

イノシシ Sus scrofa

シカ科 Family Cervidae

ニホンジカ　Cervus nippon

４．検出された動物遺骸の記載

以下の骨格の計測値は mm 単位を基本としており、㎝の場合はその都度単位を付けた。

魚　類

スルキデンスサメ（図版⑧－９）

現歯冠高51.58、歯冠厚15.35

巨大な歯が１点出土している。破損し、原状を損なっている。中新統～鮮新統より産出する化石種である。やや丸みのある歯冠形である。鋸歯は摩滅してほとんどみえない。化石は近域で産することが知られている。興味をもった縄文人によってはこばれたものであろう。現状でみるかぎり、人為的な加工痕はみられない。

サケ類（図版１－６）

尾椎体片

1点の破片を検出できた。これを検出したブロックを精査したが、同じ標本を得ることはできなかった。わずかな検出であった。このことから本遺跡でのサケ漁に言及することは不可能に近いが、標本の採取が実際に在った資料のごく一部であったとすれば、何ほどかを推定することは可能であるかもしれない。

ダツ類（図版⑧－４）

右側上顎骨砕片３点

ダツ標本もきわめてわずかなものであった。この3点はもともと同一の骨格であったものが､検出時に砕片となったものであろう。とすればこのブロック中に30㎜となり、全長は1.2ｍに達するかと思われる。ここでもまたこれほどの体長のあるダツ個体がわずかに数ミリの標本をのこすのみにとどまったのかという不可解さがあるが、これも遺物埋存の条件が何らかあったのであろうか。

種名不詳

魚類鰭棘細片１

現長6.97、幅2.25

鳥　類

ヤマドリ（図版⑨－１）

足根中足骨近位骨端の破片である。サイズからみて♀と思われる。ヤマドリはキジと比較してややきゃしゃである。

獣　類

ノウサギ（図版⑨－７）

右側の近位骨端である。現存する部分は骨体のごくわずかな部分を残す小さなものであるが、ウサギ類の撓骨近位骨端の形状をよくみせている。破損部が直線的であることから、被熱した段階ではさらに長い骨体部のあり、その後に破損したのではないかと思われる。

近位骨端幅は被熱後も7.13があり、元は9.0前後はあったものであろう。

タヌキ（図版⑨－８・９）

１．左側上腕骨の遠位骨端を残す。標本は完存せず内側顆部分を欠き、骨端もまた滑車上孔部を半決するわずかなものである。保存の状況は悪いがタヌキの形態はサイズ共に確認されるものと思われる。

２．左側尺骨の近位骨端がある。骨端は完存せず、滑車部分、肘頭突起を残す。おそらく埋存時、もしくはそれに近い時点では今少し近位骨端も残されていたのではないかと思われる。

さらに上腕骨と尺骨が同時に採集されているところから、同一個体ではないかと思われ、埋存時には関節した状態であったことも推測される。このことは焼骨全体の在り方を考える手だてにもなりそうである。

イノシシ（図版⑨－25～32）

下顎骨細片（図版２－26）

骨体部の一部である。歯槽がのこされている。成体。

下顎骨細片（図版２－25）

骨体部の一部であって、歯槽が残されている。成体の標本である。

尺骨片（図版２－29）

左側骨体、滑車切痕部を残す破片である。成体の標本である。尺骨骨体部ではもっとも厚みを持つ場所であり、被熱にもかかわらず残ったのであろうか。

中手骨もしくは中足骨（図版２－31）

遠位骨端部、骨体部のみが残る。成体であろう。

ニホンジカ

左側下顎骨枝部（図版⑩－３）

４個の破片分割、接合できなかったが、同一個体のものと思われる。筋突起はごく一部がのこされているのみで、関節突起の上部がのこされている。

５．収　束

上野遺跡における焼骨にみる特徴

上野遺跡の調査では焼骨が多く採取されている。それらは土坑中の埋土中において検出されたもの、調査グリッドにおいて検出されたものであり、そのつどできる限りサンプリングにあたって土壌毎採取し、水洗選別したものである。ただし、そのすべてが採取されたわけではなく、断面での確認の場合は確認時での採取であった。採取された骨格が破損し量的にも少なかったのはそのためである。実際はさらに多くの焼獣骨のあったことが推測される。

こうした限定された条件のなかでの焼獣骨であったが、本遺跡の場合は中形獣類の破片が多かったようである。大形獣骨に混在するというよりも、中形獣類の骨格片のみがまとまっていたという状況があったのではないかと思われる。タヌキの四肢骨が幸運にも検出できたが、同様の骨格がさらにあり、しかもまとまっていた可能性もある。興味ある事例といえよう。それには鳥骨も混在、もしくは別のブロックのあったことも予想される。

魚骨については、きわめて少なかった。ダツ類のような珍しい標本を得たにもかかわらず、その標本はあまりに少なかった。また、サケ類の椎骨片数点、他の魚類の鰭骨1点、というのも、通常の在り方と異なるようである。やはり、われわれがみ得たのは遺物のごく一部であったということなのであろう。しかし、当時のこの地での焼骨が獣骨を中心とする扱いであったことも考慮される。焼骨出土の遺跡で、魚骨のほとんどみられない事例も多く知られる。この点については今後の検討が望まれる。なお本遺跡の形成時期が中期中葉から後葉という点も考慮されよう。焼骨出土の多くの事例が後晩期である。

東北地方の遺跡にみる魚類遺体

この地域の遺跡にみる魚類遺体をサケ類を中心としてのみ論じることに疑問を感じている。東北地方においても貝塚の魚類遺体の在り方は多様であって、河川域即サケ漁撈域とは云えず、淡水域ではフナ類を中心とした淡水漁撈のあったことは広大な貝塚の形成の基幹ともなっている。しかも、そうした淡水域においてもなお海との関わりは強く、それは単に海の魚への関心のみではなく、海への心のつながりを求めていたことも確かであった。

かつて筆者らが調査した岩手県花泉町貝鳥貝塚は、もちろん純淡水貝塚であるが、そこではマダイの前頭骨に穿孔して垂飾品とする遺物が出土している。この種の遺物は海岸地方よりもむしろ内陸淡水域でつくられることが多かったのである。上野遺跡におけるダツの上顎骨の出土も、海産の想像模し難い奇怪な魚へ関心と共に、果てしなく拡がる海に対する畏敬と憧憬の思いでみていたのではないか。こうした縄文人の思いも考えなくてはならないであろう。

第21表　出土骨一覧（1）

遺構名	細部	位置・層位	種別	点数・重量	備考・計測値（mm）	図版番号
SI601	複式炉	7層主体	シカ／イノシシ　骨片	3点	－	－
SI601	複式炉	灰白色粘土	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SI601	複式炉	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	4点	－	－
SI602	－	断面Ａ－Ａ'	シカ／イノシシ　骨片	14点	－	－
SI602	－	断面Ｂ－Ｂ'	シカ／イノシシ　骨片	7点	－	－
SI602	複式炉	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	7点	－	－
SI602	ピット	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	2点	－	－
SI602	ピット	堆積土	イノシシ　下顎骨	2点	－	2－27・28
SI602	ピット	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	15.2g	－	－
SI603	－	下層	シカ／イノシシ　骨片	1点	土塊に付着	－
SI604	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SI613	－	堆積土	イノシシ　右／左 下顎骨	1点	－	2－26
SI613	－	堆積土	シカ　左 下顎骨	1点	－	3－3
SI613	－	堆積土	シカ／イノシシ	10.6g	－	－
SI613	－	堆積土	シカ　右／左　基節骨　近位端	1点	－	3－12
SI613	－	断面Ａ－Ａ'3層上面	シカ／イノシシ　肩甲骨 破片	1点	－	－
SI613	ピット	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	2点	－	－
SI703	複式炉	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	3点	－	－
SI703	複式炉	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	0.2g	－	－
SI708	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	12点	－	－
SI708	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	1.0g	－	－
SI708	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	18.0g	－	－
SI708	－	堆積土	シカ／イノシシ　肋骨	4点	－	－
SI708	－	堆積土	シカ　末節骨　近位端	1点	－	－
SI708	－	堆積土	シカ　中節骨　遠位端	2点	－	－
SI708	－	堆積土	シカ／イノシシ　指骨片	6点	－	－
SI713	カマド	堆積土	サカナ　棘？	1点	－	－
SK6016	－	3～4層	シカ／イノシシ　骨片	6点	－	－
SK6016	－	4層	シカ／イノシシ　骨片	4点	－	－
SK6275	－	6層	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SK7015	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SK7015	－	下層	シカ／イノシシ　骨片	1.0g	－	－
SK7015	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	4.3g	－	－
SK7015		堆積土	シカ／イノシシ　骨片	8点	－	－
SK7051	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	2点	－	－
SK7076	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SK7078	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	5点	－	－
SK7080	－	堆積土	イノシシ　下顎角片	1点	－	－
SK7080	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	0.7g	－	－
SK7080	－	堆積土	アワビ・サザエ類　小片	2点	－	－
SK7080	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	7点	－	－
SX606	埋設土器	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	8点	－	－
SX609	埋設土器	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SX622	合わせ甕棺状	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	3点	－	－
SX625	溝状の落ち込み	上層	角	2点	－	－
SX625	溝状の落ち込み	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SX625	溝状の落ち込み	堆積土	骨片	2点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ａ－Ａ'	シカ 左 中節骨 近位端	1点	近位端幅12.21	3－15
SX626	溝状の落ち込み	断面Ａ－Ａ'	シカ　左　末節骨 近位端	1点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ａ－Ａ'	シカ／イノシシ	4.6g	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ａ－Ａ'	シカ／イノシシ　骨片	4.9g	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ａ－Ａ'	シカ／イノシシ　未骨化	2点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ａ－Ａ'	トリ　破片	1点	部位不明	2－2
SX626	溝状の落ち込み	断面Ａ－Ａ'	若いシカ　基節骨？	2点	未骨化	3－14
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｂ－Ｂ'	シカ／イノシシ　骨片	3点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｂ－Ｂ'　9b層	中形獣　骨片	3点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｂ－Ｂ'　9b層	シカ　基節骨　遠位端	1点	－	3－13
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｂ－Ｂ'　9b層	イノシシ　中手／中足骨 遠位端	1点	－	2－31
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｂ－Ｂ'	サカナ　胸椎	1点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｂ－Ｂ'	シカ／イノシシ　骨片	3.8g	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｂ－Ｂ'　10a層	シカ／イノシシ　骨片	1点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	ヤマドリ 中足骨 近位端	1点	近位端幅8.75	2－1
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	トリ　破片	16点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	トリ　基節骨 近位端	1点	近位端幅3.20	2－5
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	中型獣　部位不明片	3点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	中型獣　踵骨片	1点	－	2－11
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	シカ／イノシシ　骨片	5.9g	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	シカ／イノシシ　手足根	2点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｃ－Ｃ'	シカ／イノシシ　肢骨片	2点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｄ－Ｄ'	シカ／イノシシ　骨片	10.5g	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｄ－Ｄ'	中型獣　中手／中足骨　近位端	1点	－	2－14
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｄ－Ｄ'	中型獣　指骨片	4点	近位端幅（3.08　3.12　2.86　2.81）	2－16・18
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｄ－Ｄ'	中型獣　肋骨	5点	－	
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｄ－Ｄ'	トリ（中型）　肢骨片	7点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	ノウサギ　右 橈骨	1点	7.13	2－7
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	トリ　中足骨 遠位端	1点	－	2－6
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	トリ　橈骨	1点	－	2－4
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	トリ　頚椎？	2点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	トリ	10点	管状骨として残る	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣（キツネ？）右 Ⅱ 中足骨 遠位端	1点	遠位端幅5.89	2－12
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣片	12点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣・トリ　肢骨片	4.1g	－	－

第22表　出土骨一覧（２）

遺構名	細部	位置・層位	種別	点数・重量	備考・計測値（mm）	図版番号
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣　肋骨	４点	径4.83×4.33	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣　肋骨	３点	－	２－19
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣　指骨片	１点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣　中節	１点	全長9.66　近位端幅3.72　遠位端幅3.83	２－15
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	中形獣　基節	２点	全長13.01　近位端幅4.87	２－17
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	タヌキより小さい獣　基節骨　遠位端	１点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	タヌキ 右　中手骨Ⅴ	２点	－	２－13
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	ダツ　歯骨	３点	現長7.83　厚2.40	１－４
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	シカ／イノシシ　骨片	24.1g	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	サケ　椎体片	１点	－	１－６
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	サカナ　骨端	１点	－	１－７
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	大形獣　破片	４点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	断面Ｅ－Ｅ'	イノシシ　下顎骨片	１点	－	２－25
SX626	溝状の落ち込み	上層	シカ　肩甲骨 棘突起片	１点	－	３－５
SX626	溝状の落ち込み	上層	トリ　左 脛骨 近位端寄り	１点	断面丸味強い。	２－３
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	イノシシ　中手／中足骨 遠位端 骨端骨	１点	未骨化　幅14.11	２－30
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	イノシシ　右 尺骨	１点	被熱　若い	２－29
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	加工品 ヤス刺突具	１点	－	１－２
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	サカナ（硬骨魚）　鰭棘	１点	幅2.25　全長6.97	１－８
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	シカ　左　寛骨臼	１点	－	３－６
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	シカ／イノシシ　肋骨 破片	３点	－	２－20・21
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	シカ／イノシシ 破片	９点	－	３－16
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	16点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	13.6g	－	－
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	鹿角枝片	１点	－	３－２
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	鹿角片	４点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	鹿角棒（加工品？）	１点	現長40.86	１－３
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	タヌキ　左 尺骨	１点	－	２－９
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	タヌキ　左 上腕骨 遠位端	１点	－	２－８
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	中形獣　肢骨片	１点	－	－
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	中形獣　肋骨	１点	－	２－22
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	中形獣　肋骨 破片	１点	幅7.36	２－23・24
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	骨針尖端	１点	－	１－１
SX626	溝状の落ち込み	堆積土	鹿角片	２点	幅14.63×厚9.14	３－１
SX628	性格不明遺構（近世）	堆積土	ウマ　下顎臼歯片	１点	－	－
SX637	溝状の落ち込み	SX625上層	シカ／イノシシ　骨片	１点	－	－
SX638	溝状の落ち込み上層	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	１点	－	－
SX638	溝状の落ち込み上層	堆積土	シカ／イノシシ　肩甲骨	１点	－	－
SX639	溝状の落ち込み	１層	シカ 中手／中足骨 遠位端 滑車部	１点	－	３－11
SX639	溝状の落ち込み	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	８点	－	－
SX702	埋設土器	土器内	シカ／イノシシ　骨片	２点	－	－
SX710	埋設土器	土器内	シカ／イノシシ　骨片	１点	－	－
SX726	埋設土器	土器内	イノシシ　末節骨片	３点	－	－
SX730	焼土跡	焼土直上	シカ／イノシシ　骨片	６点	－	－
SX731	焼土跡	焼土直上	シカ／イノシシ　骨片	1.5g	－	－
SX748	焼土跡	焼土直上	イノシシ　中節骨		－	２－32
SX751	埋設土器	堆積土	シカ／イノシシ　肋骨	0.9g	－	－
SX752	風倒木痕	堆積土	スルキデンンスサメ　歯　化石	１点	－	１－９
SX755	焼土跡	焼土周辺	シカ／イノシシ　肩甲骨	１点	－	－
P60576	－	堆積土	シカ　左 中足骨 近位端	１点	－	３－10
P60576	－	堆積土	シカ 踵骨	１点	－	－
P60614	－	堆積土	中形獣　環椎	１点	－	２－10
P61185	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	１点	－	－
P61235	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	１点	殆ど土	－
P70091	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	６点	－	－
P70309	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	５点	－	－
P70326	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	1.0g	－	－
P70326	－	堆積土	シカ　左　末　近位端	１点	－	－
P70341	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	１点	－	－
P70557	－	堆積土	シカ／イノシシ　骨片	0.4g	－	－
E-45Gr.	－	Ⅲ層上面	シカ／イノシシ　骨片	１点	－	－
F-34Gr.	－	Ⅲ層上面	シカ／イノシシ　骨片	2.8g	－	－
G-34Gr.	－	Ⅲ層上面	シカ　踵骨	２点	－	３－９
G-36Gr.	－	Ⅲ層上面	シカ／イノシシ　骨片	３点	－	－
I-20Gr.	－	Ⅲ層上面	シカ　距骨	１点	－	３－８
J-20・21Gr.	－	Ⅲ層上面	シカ／イノシシ　仙骨椎	１点	－	３－７

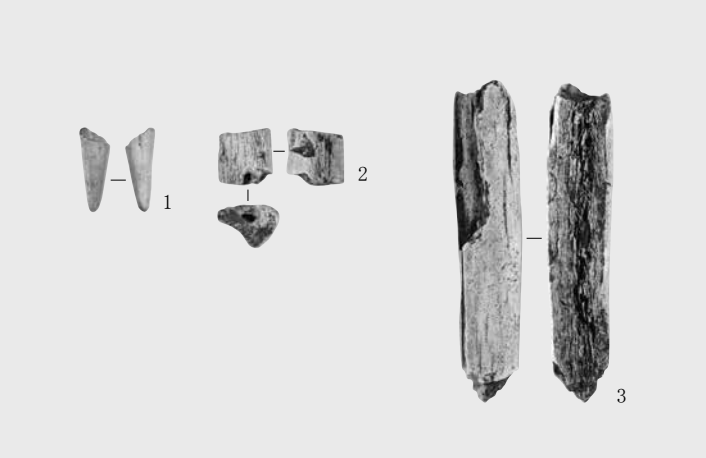
謝　辞

本報告を記すにあたり、玉川文化財研究所の方々に大変お世話になった。特に坪田弘子、赤間和重氏には資料分類、整理の段階から写真撮影に至る間常時協力いただいた。また直接発掘の担当者であった佐々木竜郎氏とは発掘所見、文献などでお世話いただいた。併せて御礼申し上げたい。

〈参考文献〉

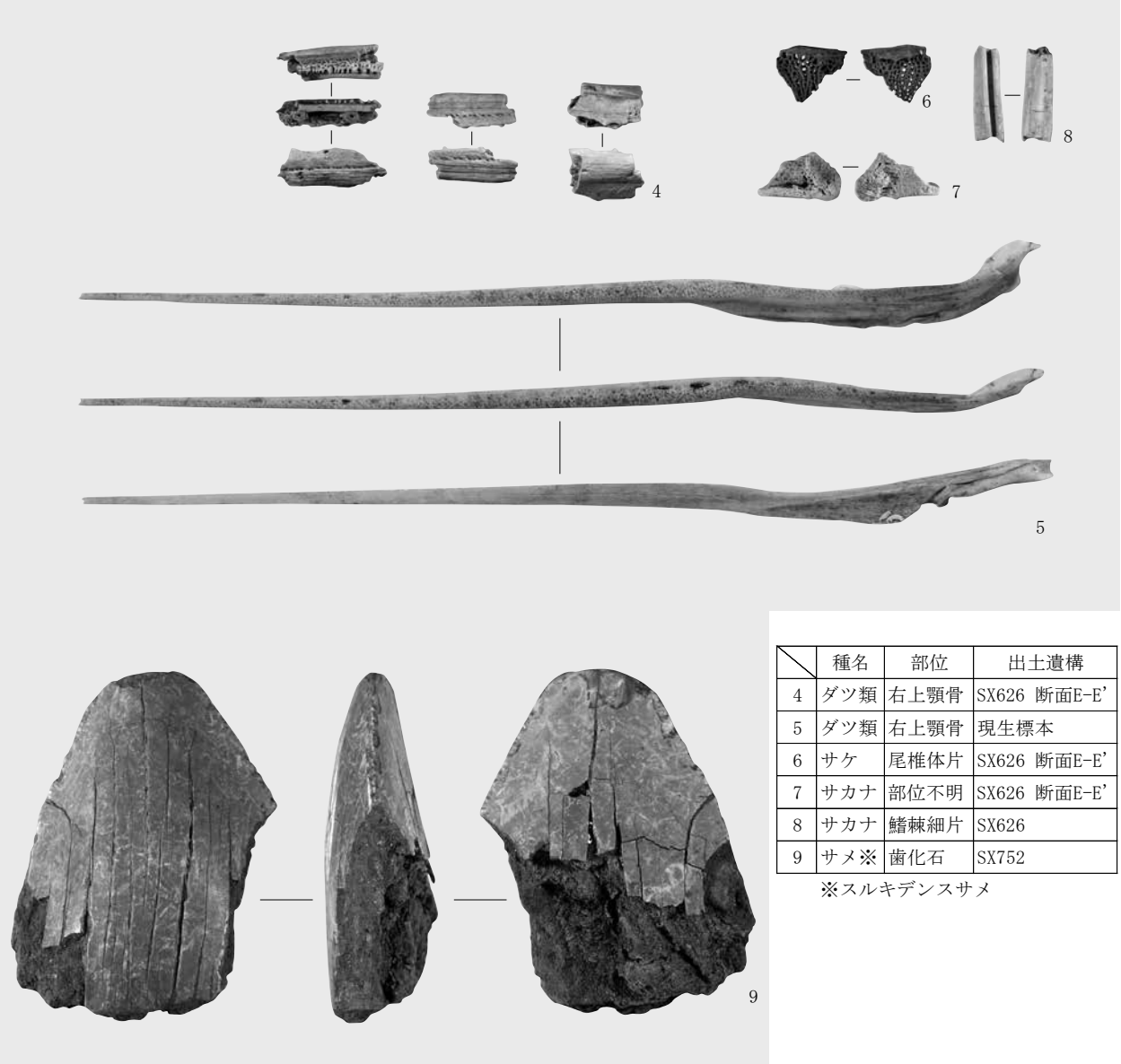
仙台市教育委員会　1996「大野田遺跡」仙台市文化財パンフレット第38集

山田晃弘　2005「縄文時代のサケ－三陸沿岸から仙台湾周辺地域における検討－」『東北歴史博物館研究紀要６』



	器種	出土遺構
1	骨針尖端	SX626
2	ヤス状刺突具	SX626
3	棒状鹿角加工品	SX626

骨角製品（縮尺 1/1）

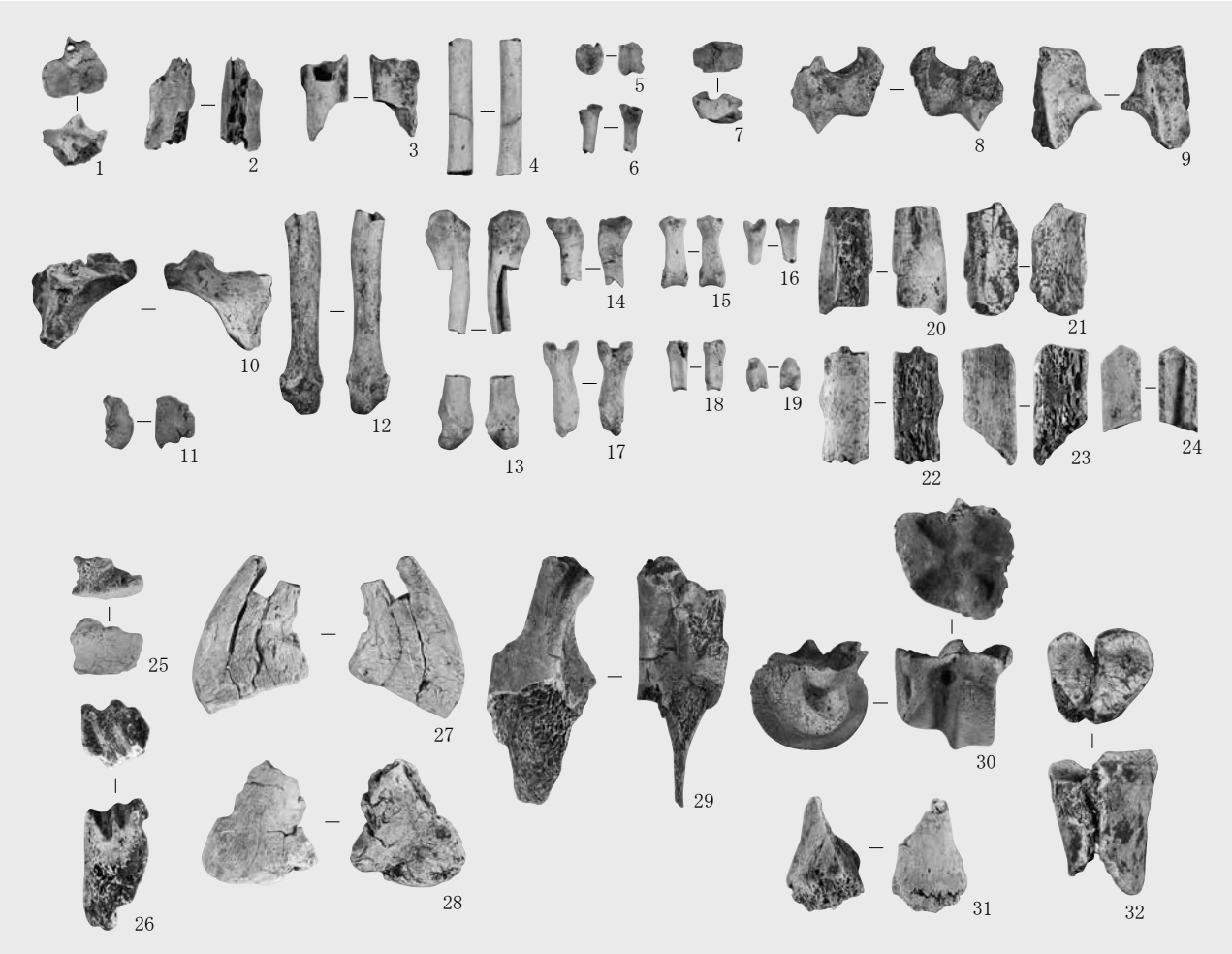


	種名	部位	出土遺構
4	ダツ類	右上顎骨	SX626 断面E-E’
5	ダツ類	右上顎骨	現生標本
6	サケ	尾椎体片	SX626 断面E-E’
7	サカナ	部位不明	SX626 断面E-E’
8	サカナ	鰭棘細片	SX626
9	サメ※	歯化石	SX752

※スルキデンスサメ

魚類（縮尺 4・6 ～ 8=2 倍，5・9=1/1）

写真図版　自然科学分析⑧



（縮尺 1/1）

	種名	部位	出土遺構		種名	部位	出土遺構
1	ヤマドリ	中足骨	SX626 断面C-C’	17	中形獣	右基節骨	SX626 断面E-E’
2	トリ類		SX626 断面A-A’	18	中形獣	指骨	SX626 断面D-D’
3	トリ類	左脛骨	SX626	19	中形獣	肋骨	SX626 断面E-E’
4	トリ類	橈骨	SX626 断面E-E’	20	中形獣	肋骨	SX626
5	トリ類	基節骨	SX626 断面C-C’	21	中形獣	肋骨	SX626
6	トリ類	中足骨	SX626 断面E-E’	22	中形獣	肋骨	SX626
7	ノウサギ	右橈骨	SX626 断面E-E’	23	中形獣	肋骨	SX626
8	タヌキ	左上腕骨	SX626	24	中形獣	肋骨	SX626
9	タヌキ	左尺骨	SX626	25	イノシシ	下顎骨	SX626 断面E-E’
10	中形獣	環椎	ピット60614	26	イノシシ	下顎骨	SI613
11	中形獣	踵骨片	SX626 断面C-C’	27	イノシシ	下顎骨	SI602 ピット13
12	中形獣（キツネ？）	右中足骨Ⅱ	SX626 断面E-E’	28	イノシシ	下顎骨	SI602 ピット13
13	タヌキ	右中手骨Ⅴ	SX626 断面E-E’	29	イノシシ	右尺骨	SX626
14	中形獣	中手／中足骨	SX626 断面D-D’	30	イノシシ	中手／中足骨	SX626
15	中形獣	左中節骨	SX626 断面E-E’	31	イノシシ	中手／中足骨	SX626
16	中形獣	指骨	SX626 断面D-D’	32	イノシシ	左中節骨	SX748

写真図版　自然科学分析⑨

ニホンジカ（縮尺 1/1）

	部位	出土遺構・Gr		部位	出土遺構・Gr
1	鹿角片	SX626	9	踵骨	G-34Gr.
2	鹿角枝	SX626	10	中手骨	ピット60576
3	左下顎骨	SI613	11	中手／中足骨滑車部	SX639
4	左下顎骨	現生標本	12	基節骨	SI613
5	肩甲骨棘突起片	SX626	13	基節骨	SX626
6	左寛骨臼	SX626	14	基節骨	SX626 断面A-A’
7	仙骨椎	J-20.21Gr.	15	左中節骨	SX626 断面A-A’
8	右距骨	I-20Gr.	16	シカ／イノシシ骨片	SX626

写真図版　自然科学分析⑩

第Ⅶ章　ま　と　め

今回の第６・７次調査は上野遺跡の南側を東西に走る位置に計画された都市計画道路「富沢山田線」の予定地を調査対象としており、同一事業を調査原因とした第５次調査（仙台市教育委員会 2004）を含めると調査範囲は全長約320m、幅は16～33m程で、調査総面積は約6,400㎡となる。本遺跡は古くから縄文時代中期の遺跡として知られたが（松本 1930）、昭和51年に行われた第１次調査（仙台市教育委員会 1976）から第４次調査（仙台市教育委員会 1989）までは面積も狭く断片的なものであり、今回の調査により初めて遺跡の内容を広く面的に捉えることが可能になったといえる。第６・７次調査で検出された遺構・遺物の時代は縄文時代および古代、近世にわたり、縄文時代では竪穴住居跡21軒、土坑348基、焼土跡33基、埋設土器29基、配石遺構５基、集石１基、溝状の落ち込み３ヵ所、ピット約3,200個が検出され、特に遺物では第６次調査１区中央から検出されたＳＸ625・626・639の３基の溝状の落ち込み内からは多量の土器・石器が出土した。古代以降では竪穴住居跡11軒、土坑76基、溝状遺構15条、焼土跡他７基、ピット約200個が検出され、竪穴住居跡の存在から奈良・平安時代の集落の存在が明らかとなり、また本遺跡ではこれまで注目されてこなかった近世の遺構が第６次調査区の東端部を中心に展開することが判明した。本章ではこれまでの調査成果をふまえ各時代の遺構と遺物について見ていきたい。

１．縄文時代の遺構・遺物の様相

１）遺　構

竪穴住居跡

竪穴住居跡は第６次調査で６軒、第７次調査で21軒の合計27軒が検出され、分布は調査区全体からみて中央にあたる第６次調査１区から第７次調査２区の間に認められた。時期は中期後葉の大木９～10式期に比定されるものが主であり、中期中葉の大木8b式期の所産と推定されるものはＳＩ604竪穴住居跡の１軒のみである。ＳＩ604竪穴住居跡は今回検出された住居跡のうち唯一の石囲炉を持つ住居跡であり、同様の形態をもつ炉は本遺構の検出地点から南西へ約100m離れた第１次調査区で１基が確認されており（仙台市教育委員会 1976）２例目の発見事例となる。

その他の竪穴住居跡は遺物の少なかったＳＩ605竪穴住居跡をのぞく25軒が大木９～10式に比定されるものと考えられ、大木９式のものが18軒、大木10式のものが７軒となる。竪穴や周溝が確認され形態が概ね把握できたものは12軒で、平面形はいずれも円形または楕円形を基調とし、規模はＳＩ702竪穴住居跡の3.4mが最も小さく、ＳＩ602Ａ竪穴住居跡の7.2mが最大であり、平均は5.2m程である。周溝は壁の内側をほぼ全周するものが主体である。床面は硬化面などは顕著ではなく、炉の検出面より判断したものが多い。

炉は地床炉をもつＳＩ709竪穴住居跡以外では複式炉となっている。炉の形態は、石組部と掘り込み部から構成されるものと、土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部から構成されるもの、扁平な礫を用いて方形に囲った石組部を有するものなどが見られた。また住居跡分布域に重なって焼土跡が多数検出されており、住居の炉の可能性も考慮されるが、同地区が居住に関わる生活の場であったことを示していると思われる。第６次調査１区中央のＨ－21グリッドでは７基の焼土跡が集中して存在し、北東から南西方向への緩やかな弧状の配置が認められた。周囲からは石匙、石錐など剥片石器が出土したピットが集中しており、住居以外の可能性も含めて注意しておきたい。特にＰ60911ピットでは、下層から硬玉製大珠が礫で覆われた状態で出土しており、大珠の埋納例として貴重な資料である。

土　坑

土坑は第６次調査で264基、第７次調査で84基の合計348基が検出され、これまでの調査（第１～８次）のものを

全て合わせると合計428基となる。調査区のほぼ全域に分布が認められるが、特に第６次調査２区では複数の土坑が密集した状態で多数検出されているのに対し、これより西側ではやや稀薄な散漫な状態となるが第７次調査２区の東側にあたるＣ・Ｄ－47・48グリッドおよび西側のＢ・Ｃ－57・59グリッド付近では分布にまとまりが見られた。

平面形は円形、楕円形、不整形およびその他に大別され、その数は推定のものを含めて円形233基、楕円形101基、不整形その他14基で、全体の約７割が円形を基調としている。断面形の主なものでは壁がオーバーハングして立ち上がりフラスコ状となるもの151基、ほぼ垂直に立ち上がる円筒形のもの36基、逆台形や皿形のもの79基が認められ、フラスコ状や円筒形となるものの中には開口部付近が壁の途中から外側に緩やかに開く朝顔形となるものも見られた。土坑の底面から検出されたピットの中で、ＳＫ6164土坑では中央のピットから放射状に広がる小規模な溝状の落ち込みが確認されており、第４次調査で十字状の溝とピットが検出されたＳＫ５土坑（仙台市教育委員会 1989）に類似するもので本遺跡では希少な事例の一つといえよう。

堆積土では人為堆積層と推測されるものが多く見られる。遺物の出土状態では上層から中層にかけて完形土器や大型破片が出土していることなど、その出土状態から堆積過程における単なる混入ではない意図的な廃棄が想定されるものがある。その他、底面から完形土器や礫がまとまって検出されるものが見られ、第８次調査のＳＫ23土坑にみられた底面の壁際から連なった状態の配石など（仙台市教育委員会 2009）、使用時の機能あるいは廃絶直後の様子を考える上で注意しておきたい。その一方で平面形が楕円形または隅丸長方形で、断面形が皿形あるいは箱形になる浅い土坑が第６次調査１区から第７次調査１区の間に認められ、底面付近からは礫や土器などの遺物が出土しているものもある。中には大型の礫が敷き詰められたような状態で検出されたものもあり、主に東側に展開しているフラスコ状土坑群とは分布やその形態に違いが見られた。

土坑の性格については、断面形がフラスコ状あるいは円筒形の形態をもつものは貯蔵穴の機能が想定されていたが、今回自然科学分析を行った結果、堆積土中からオニグルミやクリが検出され、植物質食糧として利用された後の残滓が火を受けて残存した可能性が指摘された。したがって本来の貯蔵物は明らかにできなかったが、堆積過程において捨て場的に利用されていたことが推測される。また、完形土器や石棒などが出土した土坑では遺物周辺の土壌のサンプリングを行い理化学分析を行ったが、性格を特定するまでには至らなかった。

時期については、出土遺物から断面形がフラスコ状あるいは円筒形となるほとんどのものが中期中葉の大木8a・b式期のものと判断され、それ以外の時期については検出された土坑の全体数からみて大幅に少ない状況と言える。年代測定の結果、ＳＫ6068土坑は上層と下層の堆積に要する時間に幅がなくほぼ同時期のものと見られ、放射性炭素年代ではおよそ4,600－4,400BP であり大木8a ～ b 式期に位置づけられた。それ以外の土坑では土器型式に一致する縄文時代中期末葉および縄文時代晩期の年代的結果が得らた。

時期別に分布をみると中期中葉の土坑はその大部分がフラスコ状あるいはそれに類する断面形態となるもので、第６次調査１区中央よりも東側および第７次調査１区西側での分布が見られた。続く中期末葉では同時期の竪穴住居跡が分布している第７次調査１区中央付近に分布がみられるがその数は減少し、後期を挟んで晩期ではわずか３基となる。

土坑からの遺物で特に注意が必要と思われるものに、ＳＫ7080土坑の堆積土中から出土した小型棒状粘土塊がある。出土土器から土坑の時期は中期末葉の所産と推測され、焼土・炭化物を多量に含む中層から多数検出された。分析の結果、土器と同じ胎土で熱を受けていることが確認され、形態的には指先でのばしたような小さな棒状の形態をもち、大きさは５ ～ 10㎜未満のものが多い。指の爪ほどの潰れた状態の塊のものもあり「指紋」が確認されるものもある。見た目や形状から土器に貼付された隆線が剥がれ落ちた可能性も考えられるが、断面形が丸く両端がやや尖った状態であることから単独の製品、あるいは土器などを成形した際に生じた残滓の可能性が考えられる。類例では同じ形状のものが北海道千歳市美々４遺跡から出土しており、棒状の「耳栓」との説明がされているが（北

海道埋蔵文化財センター 1998)、その用途についてはさらなる類例を待って検討したいと思う。

埋設土器

埋設土器は第６次調査で10基、第７次調査で19基の合計29基が検出された。分布は第６次調査の１区東側と第７次調査１区西側にまとまりが捉えられる。埋設状態は正位の状態のもの16基、斜位の状態のもの２基、横位の状態のもの７基、逆位の状態のもの４基で、正位のものは東側･西側に認められ全体の55％となり半数以上を占めるが、その他では逆位のものが東側のみ、斜位または横位のものが西側のみに存在し、両群の相違点としてあげられる。土器内からはＳＸ619では小型土器が入れ子状態で出土し、ＳＸ702では埋設土器の胴部下半が伏せられた状態で出土している。堆積土ではＳＸ606・609では土壌を水洗して確認を行ったところシカ・イノシシの骨が検出された。

用いられる土器の大きさは東側のものが小型の傾向がうかがえ、埋設状況では西側でのみ横位の状態のものが認められるなど両群には相違が見られる。また、東側が中期中葉の大木8a・ｂ式のものであるのに対し、西側は中期中葉から末葉にかけて形成されたものとみられることから両者の存続期間も異なっている。

溝状の落ち込み

第６次調査１区中央から東側で、３ヵ所の不整形または隅丸長方形が連結したような溝状を呈する落ち込み内から完形土器などを含む多量の土器・石器が出土した。遺物の出土はＳＸ625Ａ南東側およびＳＸ625Ｂ中央部分に見られ、特にＳＸ625Ａでは小型土器の集中する傾向がうかがえる。南側のＳＸ625Ｄ付近では焼土や炭化物が薄層になって混入している。ＳＸ626は遺物は落ち込み内の全体から出土しており、中央部分から南側が出土量も多く完形土器や大型破片などが多く含まれており、南端部分では大木8b式新段階のものがまとまっている。ＳＸ639の遺物は上層を中心に出土している。

これらの遺構の性格については、遺物が多量に出土していることからいわゆる廃棄場としての機能が想定されるが、溝状の落ち込みが作られることには注意が必要である。上記した３ヵ所の落ち込みを見ると各遺構は異なった平面形ともみえるが、ＳＸ625で行ったように方向や底面の高さで分節化した場合、ＳＸ626は北側と南側に分けられ、さらにＳＸ625Ｂと比較すると長さ８ ～ ９ｍ、幅約２ｍでほぼ同じ規模となる。ひとつの仮説として、このような８ ～ ９ｍ程の規模の掘り方を一単位として位置を変えながら掘り込まれた結果、溝状となったことも考えられよう。北側に隣接する第８次調査において検出されたＳＫ19土坑も規模や遺物の出土状況に類似が認められ（仙台市教育委員会 2009)、これらの遺構との関連にも留意しておきたい。

溝状の落ち込みの用途や機能については明かではないが、堆積土層の断面観察や自然科学的分析の結果、貯水や流水の機能を目的としたものではないことが示されている。下層部分の堆積土を見ると掘り込まれてから遺物が投棄されるまでの間は自然堆積が想定される。ＳＸ625およびＳＸ626の堆積土に含まれた炭化物の放射性炭素年代の測定を行った結果、ＳＸ625最下層のものは年代が縄文時代前期となる古い数値となっており、ＳＸ626の土器を含んだ層位から検出された炭化物から得られた値からは大きくずれている。土器型式からみた場合、ＳＸ625がやや古相の文様構成をもつ土器が存在するが、ＳＸ626同様に大木8a式の範疇に捉えられるものであり、これらを総合するならば上層と下層の堆積までにかなりの時間があったと考えられよう。その他に留意すべき点では堆積土中から焼骨が検出されており、貝塚以外からの骨の検出事例としても注意しておきたい。また、この溝状の落ち込みを挟んだ東西ではフラスコ状土坑群が分布する東側の地区とピットなどが密集する西側では遺構の様相が大きく異なり、何らかの境界として意識されていた可能性が考えられよう。

２）遺　物

土　器

縄文土器は今回の調査で出土した土器の中で最も遺物量が多い。時期は縄文時代早期から晩期におよぶ。今回の出土土器中で最も古い段階のものは早期中葉の押型文土器がみられ、外面に菱形状押型文が施文されており日計式

と考えられる（第560図１）。また、同じ早期後葉にあたる貝殻文土器も出土しており、施文技法からは明神裏Ⅲ式に比定されるものである（第560図２・３）。

中期中葉の大木8a・b式に至り、爆発的に遺物量が増加するが、その殆どが前述した溝状の落ち込み内およびその周辺や土坑から出土したものである。大木8a式とした口縁部に文様帯が集約されるものの中で、前型式の施文技法に見られた区画沿いに押圧縄文が施文されるもの（第449図３）や連続山形文（第377図１、第457図１）あるいは弧状文をモチーフにもつもの（第383図４）や、連続する押引文（第381図１）などがみられ、古い様相を残すものと捉えることができよう。また、口縁部文様帯には縦位の押圧縄文が施文される土器（第448図３）がみられ、前述した土器群とともに大木7b式新～ 8a式古段階の様相をもつものもと捉えることもできよう。大木8a式では口縁部に大・小となる２対の発達した突起や把手がみられ（第414図１）、胴部には隆線や沈線文を組み合わせてクランク状文（第418図１）、幾何学文（第542図１）などが描かれる。頸部や胴部中位には波状文を伴う横位平行隆線文で文様が区画されるものがある。大木8b式では深鉢はキャリパー型の器形が多くなり、口縁部文様帯と胴部文様帯の分化がさらに明確となる。頸部には平行沈線文が巡り、無文帯の形成をみるものもある（第434図１）。口縁部文様帯では隆沈線文による有棘渦巻文や連結渦巻文がモチーフとなるものが多くなり、胴部文様では渦巻文や剣先文（第438図２）が多用されている。

中期後～末葉の大木９・10式に比定される土器は竪穴住居跡や埋設土器に多く見られた。大木９式では磨消縄文の発達が見られ、口縁部文様が次第に胴部文様と融合し楕円文・「∩」状文が多様され文様は縦位に展開する（第162図）。また、沈線文や隆沈線文による渦巻Ｕ字状文が組み合わされて人面状となるものも見られた（第276図２、第363図１）。大木10式では胴部に沈線や隆沈線文などでアルファベット文や幾何学文などの整理された文様となり、口縁部から胴部上半を中心として横位に展開していく（第124・135図）。

その後の後期前葉のものでは南境式が僅かに出土しており（第576図10 ～ 15）、晩期では皿や鉢、壷などの器種が増加し、三叉状文や羊歯状文が見られる（第267・277図）。

土製品

土製品では第６・７次調査全体で336点が出土した。その内訳は土偶43点、三角形形土製品16点、三角形檮形土製品３点、パイプ形土製品７点、皮袋形土製品６点、ミニチュア土器67点、土製円盤171点、その他の土製品25点である。出土地点では遺構内160点、遺構外176点で遺構外出土のものが若干多い。特に注意すべき遺物としては皮袋形土製品があり、形状から皮袋あるいは樹皮性のカゴなどを模して作られたと考えられる。形状は異なるが類例では上ノ原遺跡出土（太白区秋保町）のものが著名である。

石　器

石器は計4,453点の石器を登録した。器種別の内訳は石鏃204点、石錐239点、石箆25点、石匙159点、スクレイパー444点、クサビ形石器69点、二次加工のある剥片288点、微細剥離痕のある剥片876点、剥片13点、石核90点、磨製石斧42点、打製石斧１点、礫器３点、礫石器1,779点、石皿153点、台石８点、砥石26点、石棒10点、その他24点である。なお、礫石器の使用痕別の細分では、磨痕が観察された礫石器が577点、凹みが観察された礫石器は502点、敲打痕が観察された礫石器は54点、磨痕と凹みが観察された礫石器は534点、磨痕と敲打痕が観察された礫石器は30点、凹みと敲打痕が観察された礫石器は47点、磨痕と凹みと敲打痕が観察された礫石器は35点である（第23 ～ 25表）。

各器種別の割合を見ると微細剥離痕のある剥片が約20％とやや多く認められるが、その他の器種では0.02％から12.9％と多くても10％をやや超える程度である。しかしながら、これらの各器種を石鏃から石核までを剥片石器としてまとめると2,407点を数え、50％を超える割合を示し、剥片素材の石器が多く出土したことが分かる。一方で礫石器は40％を占め、石皿類を含めると44％を占めることとなり、割合的には剥片石器と石皿類を含む礫石器でほ

ぼ半数ずつを占めるという結果となった。

次に、石器全体の石材組成を見てみると珪質頁岩が最も多く1,854点を数え、頁岩と凝灰質頁岩を含めると頁岩系石材全体で1,965点、44.1％を占める。続いて安山岩が1,457点を数え、デイサイトを含めると安山岩系石材全体で1,752点、39.3％を占めることとなり、この２種類の石材で全体の83.4％を占めることになる。このような石材の偏重性からは求める石器の形状や用途によって使い分けている様子がうかがわれ、剥片石器では珪質頁岩が突出した点数を占めており、頁岩を含めると80.2％と高い占頻率を示す。一方で石皿類を含む礫石器では安山岩が突出しており、デイサイトを含めると87.9％を占めることになる。このような使用石材の偏重性は本地域の縄文時代遺跡では一般的に認められる傾向であり、その他で注目する点としては碧玉・瑪瑙・玉髄が剥片石器の11％を占めていることや、磨製石斧に蛇紋岩がやや多く認められる点などが挙げられよう（第26・27表）。

遺構別の出土点数では、ＳＩ605・716竪穴住居跡の１点からＳＩ715竪穴住居跡の101点までと大きな差が認められるが、これは遺構確認面の深さによるものと考えられ、床面が深く堆積土の多い住居跡と炉跡と柱穴だけが確認されて堆積土がほとんど認められなかった住居跡との違いが大きく影響しているものと考えられる。

その他

特筆されるものとしては、Ｐ60918ピットから硬玉製大珠が出土している。15㎝ほどの礫２個で蓋をされたような状態で検出されており、デポ状の出土状況も含めて注目される。ＳＸ626溝状の落ち込みからは骨角器２点が出土した。鹿角製の骨針とシカの中手骨または中足骨を素材としたヤス状刺突文具である。残存率は良好ではないが、被熱骨角器である点や貝塚以外からの出土例として注意される。

２．古代以降の遺構・遺物の様相

１）古　代

竪穴住居跡は第６次調査で６軒、第７次調査で５軒の合計11軒が検出され、第６次調査２区北東側と第７次調査３区の２カ所に分布が見られた。遺物は土師器、須恵器が出土しており土師器ではロクロを使用しない国分寺下層式と、ロクロを使用した表杉ノ入式の両者が認められた。国分寺下層式期の住居は主に調査区中央付近にまとまりが見られたものの、東側にＳＩ607竪穴住居跡や第８次調査区のＳＩ１竪穴住居跡なども点在していることから調査区全体では中央部分から北東側にかけて展開する分布を見て取ることができる。一方の表杉ノ入式期の住居は西端部でＳＩ713竪穴住居跡が検出されており東西に分かれた分布を示し、前者とは分布状況が一部異なっている。時代別にみた住居の方向では、前者のものが第８次調査ＳＩ１竪穴住居跡を含め北東方向を向いてほぼ同じ方向であるのに対し、後者にはばらつきがある。古代の遺物が出土した土坑は第６次調査中央北側で分布にまとまりがみられたが、平面形や規模に共通する特徴は見られない。

遺物ではＳＫ6051・6070土坑から墨書土器が１点ずつ出土しており、堆積土中に含まれていた焼土とともに廃棄されたものと考えられる。墨書はいずれも坏の体部外面に正位で書かれ、「大白一」と読むことができるが「大」は筆の運びから「火」とも読める。管見では類例が見られなかったが、参考までに「大白」は「大坏」、さらに「太白」の場合は「金星」を指すことから陰陽道との関連も含めて、何らかの祭祀や儀礼にともない廃棄された可能性がある。また同じ書体の土器が近接した位置の土坑から出土していることや、ＳＫ6051土坑が同じ場所で繰り返し掘りこまれたことを考慮すれば、これらの行為が行われる場所としての集落内での土地利用も想定する必要があろう。

２）近世以降

近世の遺構は第６次調査区東側からまとまって検出され、土坑と溝跡が存在する。溝跡は土坑との間に関連性が想定されることから近世以降のものと判断した。ＳＫ6072土坑は北側に階段を有し、規模および形態から作物貯蔵用の穴蔵などの機能が推測される。通常では農地に関わるこのような施設の場合にはほとんど遺物が出土しないが、ＳＫ6072土坑では遺物が一定量見られることから、廃絶にともないごみ穴として使用されたことが考えられ、さら

に隣接する地区に居住域が存在していたことも想定される。出土遺物は肥前系磁器、瀬戸・美濃系陶磁器などの広域流通品の他に在地の陶器が出土しており、埋没年代は概ね幕末と考えられる。また、ＳＸ628性格不明遺構から出土した初期伊万里、肥前系陶器（唐津産）、三島手鉢などの古手の近世遺物が含まれていることには注意が必要である。遺構は平面形が長方形または隅丸方形で断面形がＵ字形または箱形の土坑が、北西から南東方向に長軸方向を揃えた整然とした配置が認められ、溝跡はこれらとほぼ平行あるいは直交する方向のものが見られ関連性が推測される。遺物はいずれも細片資料がわずかに出土したのみであるが18世紀代～ 19世紀前半の江戸中・後期に位置づけられる資料である。遺構の新旧関係ではＳＸ608溝跡がＳＸ628性格不明遺構よりも新しいことから、少なくとも江戸後期以降の遺構群と捉えることができよう。

上記した様に遺物のあり方から調査区の隣接地周辺に江戸後期以降となる居住域の存在が想定されたが、本遺跡周辺が描かれた明治８年から同18年に作成された『皇国地誌附図』「宮城縣管轄陸前國名取郡富田村図」を見ると、現在でも同位置に存在する八坂神社と金昌寺との間に人家の存在が示されており、今回調査地点の周辺に重なる状況がみてとれる。本遺跡の立地する台地下に「富田街道」の名が記されており、人家はこの街道に面して存在していことから溝跡を含む遺構群の形成はこの街道に対して直行する方向を意識した排水あるいは地割りなどの区画の機能が想定されよう。

遺物の様相からみると、18世紀以降に人的活動が本格的に開始されたようであり、出土遺物の量にもその点が反映されている。組成は肥前系磁器染付丸碗や皿、徳利仏飯器、肥前系陶器鉢（唐津）などの広域流通品に加えて大堀相馬産の陶器碗・皿類が組み込まれている。磁器皿には18世紀代前半の生産になる尺皿などの高級磁器も含まれていることから使用者の経済的優位性も想定される。また、大堀相馬などの在地産陶器からみると18世紀代でも後半代に軸があるものと推定され、上記した18世紀前半代の肥前系磁器は伝世した可能性が考えられる。さらに19世紀代は遺物量がピークを迎える時期であり、磁器は肥前系を主体として、瀬戸・美濃系磁器が少ない傾向にある。陶器碗皿類や擂鉢などの雑器類は大堀相馬や在地産で占められているが、器種によっては（瓶掛など）広域流通品（瀬戸・美濃系）も組成の中に組み込まれている。

周辺の遺跡での事例では本遺跡の西側に接する山田条里遺跡で『名取郡北方山田邑絵図』に記された「ヤチヤシキ（谷地屋敷）」として描かれた屋敷地を区画したと考えられる堀跡から17世紀代から19世紀代の陶磁器が出土している。江戸後期から明治前半頃の有力農民の屋敷跡と考えられており、本遺跡からも尺皿などの高価な食器が出土していることから両者の関連性についても留意しておきたい。

〈引用・参考文献〉

氏家和典　1957「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史　第14輯』
松本彦七郎　1930「陸前國名取郡西多賀村の三石器時代乃至直後遺蹟（二）（完）」『考古学雑誌』第20巻第4号
仙台市史編さん委員会編　1995『仙台市史　特別編２　考古資料』仙台市
仙台市史編さん委員会編　1999『仙台市史　通史編１　原始』仙台市
仙台市史編さん委員会編　2000『仙台市史　通史編２　古代中世』仙台市
仙台市教育委員会　1976『第１回青少年文化財講座　上野遺跡縄文時代遺跡発掘調査市民報告会資料』
宮城県教育委員会　1977『宮城県文化財調査報告書第49集　清太原西遺跡・船渡前遺跡』
宮城県教育委員会　1978『宮城県文化財調査報告書第52集　東北自動車道遺跡調査報告書Ⅰ上深沢遺跡』
仙台市教育委員会　1980『仙台市文化財調査報告書第23集　年報１　昭和54年度（八幡西遺跡）』
仙台市教育委員会　1981『仙台市文化財調査報告書第34集　六反田遺跡遺跡発掘調査報告書』
仙台市教育委員会　1982『仙台市文化財調査報告書第37集　仙台平野の遺跡群Ⅰ－昭和56年度発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　1983『仙台市文化財調査報告書第45集　茂庭』
仙台市教育委員会　1986a『仙台市文化財調査報告書第88集　上野遺跡　市道十文字線関係調査略報』
仙台市教育委員会　1986b『仙台市文化財調査報告書第91集　東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書』
仙台市教育委員会　1987『仙台市文化財調査報告書第100集　山田上ノ台遺跡－昭和55年度発掘調査報告書－』
宮城県教育委員会　1987『宮城県文化財調査報告書第122集　七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ　小梁川遺跡』宮城県
仙台市教育委員会　1989a『仙台市文化財調査報告書第127集　上野遺跡－電力鉄塔関係発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　1989b『仙台市文化財調査報告書第129集　北前遺跡－第３次発掘調査報告書－〈太白区消防署建設関連〉』
仙台市教育委員会　1990『下ノ内遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書Ⅱ－』
仙台市教育委員会　1992『仙台市文化財調査報告書第166集　沼遺跡－仙台市上谷刈土地区画整理事業関係調査報告書－』
仙台市教育委員会　1993『仙台市文化財調査報告書第170集　仙台平野の遺跡群ⅩⅡ　平成４年度発掘調査報告書・山田条里遺跡発掘調査報告書』
宮城県図書館　1994『宮城県図書館蔵　絵図・地図解説目録「宮城県管轄陸前國名取郡富田邑図」『皇国地誌附図』
仙台市教育委員会　1995『仙台市文化財調査報告書第190集　高柳遺跡』
仙台市教育委員会　1996『仙台市文化財調査報告書第207集　下ノ内浦・山口遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書Ⅴ－』
大川清・鈴木公雄・工楽善通　1997『日本土器事典』雄山閣
財団法人北海道埋蔵文化財センター　1998『美沢川流域の遺跡群ⅩⅨ－新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　1999『仙台市文化財調査報告書第237集　船渡前遺跡－発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2000『仙台市文化財調査報告書第245集　鍛冶屋敷Ａ遺跡･鍛冶屋敷前遺跡－市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2004『仙台市文化財調査報告書第278集　上野遺跡－平成15年度確認調査・第5次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2004「上野遺跡」『平成16年度宮城県遺跡調査成果発表会要旨』宮城県考古学会
仙台市教育委員会　2005「上野遺跡」『平成17年度宮城県遺跡調査成果発表会要旨』宮城県考古学会
千葉宗久　2006『地図でみる高舘の歴史』畑山印刷所
仙台市教育委員会　2008『仙台市文化財調査報告書第329集　山田上ノ台遺跡　第５次発掘調査平成19年度概報－』
阿部昭典　2008『縄文時代の社会変動論』株式会社アム・プロモーション
小林達雄編　2008『総覧　縄文土器』『総覧　縄文土器』刊行委員会
仙台市教育委員会　2009『仙台市文化財調査報告書第343集　上野遺跡－第８次発掘調査報告書－』

第23表　縄文時代石器組成表（１）

遺構	石鏃	石錐	石篦	石匙	スクレイパー	クサビ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	磨製石斧	打製石斧	礫器	礫石器（磨）	礫石器（凹）	礫石器（敲）	礫石器（磨凹）	礫石器（磨敲）	礫石器（凹敲）	礫石器（磨凹敲）	石皿	台石	砥石	石棒	その他	計
SI601					1		4	6						3	1		1				4					20
SI602	1			1	6	1	2	8			1			2	2											24
SI604	7	9		5	4	2	6	16						7	1		6		1	1	1				1	67
SI605																					1					1
SI612		3			1		2	4				1		16	5	2	25	2	1	2	8			1		73
SI613	2	7		4	4	2	5	5						12	5		3			1	17			1	1	69
SI701	3			1	2									4	3		2	1	1		2		1			20
SI702					1									3	3		1	1								9
SI703	1	1		3	2			1						2	4		1	1			1		1			18
SI704	1			1				1		1				2	1		2				2					11
SI705	4	3	1	5	11	2	3	11	2					5	4		3									54
SI706	1	1		1	3	1	1	6						8	4	1	4	2	1		2					36
SI707	1	3	1					1		1				5	1		4				1		1			19
SI708	1	1		4	6		2	1						12	9	1	13		1		2	1	4			58
SI709	3		1	2	5	1	1	10						6	8		2		1		1		2			43
SI710	1	1		1	6		3	9		2				4	3		4	1	1		2					38
SI711								2	5																	7
SI712														2	1		2									5
SI714	2	4		2	7		3	5		2	1			9	4	1	3						1			44
SI715	1	5		5	11		7	28			3			15	7		11				5	1			2	101
SI716															1											1
SI717					2			2						2	1		1									8
SI718					1									3	1								1			6
SI719	1	3		3	3		1	9		2				4	2	1	3				2					34
SI720		1			3									1	3		3									11
SI723		1			1			2						1	2	1										8
SI725		1				1	1	5						7	6				1	3						25
SI726								1						1	1				1	1	1					6
SK6001	2				3		1	1																		7
SK6002		1		1										1												3
SK6003	1	2			3			1			1						1									9
SK6004				1																						1
SK6005		1					1								1	1	1	2			2					9
SK6009	2		2	1	1			3						1	2											12
SK6014	1				1		4	2						1	3											12
SK6016	5	5	1	3	5	1	3	11						4	3		3				1					45
SK6018																		1								1
SK6019														1		1					1					3
SK6020	2	4			1			5							3						1					16
SK6021																		1								1
SK6023					3										4											7
SK6024		1																								1
SK6025	3	3		3	2	1	3	1																		16
SK6029	1	1																								2
SK6030															1											1
SK6031	1				3			2		1				2	1											10
SK6038	3							1																		4
SK6039		2			1			2									1									6
SK6042																	1									1
SK6043								1																		1
SK6044			1																							1
SK6049																	1									1
SK6050																	1									1
SK6053	1			1	2																					4
SK6054	1						1	3																		5
SK6055	1	1					1	2			1			1	1	1										9
SK6056		3					1								2											6
SK6057		3			1	2	3	4							1											14
SK6058								2																		2
SK6059	1				1		2	3		1				1	4			1								14
SK6063		1		2	4			5									1									13
SK6075					1			1							2						1					5
SK6076	1	1			1			2		1					2		2									10
SK6077														1	2		1									4
SK6078																	1									1
SK6083	1						1																			2
SK6086								1						1												2
SK6094						1				1					1											3
SK6095																					1					1
SK6096		1																								1
SK6097														1			1									2
SK6101								1									1									2
SK6105								1						1												2
SK6107				1																						1
SK6108					1																					1

第24表　縄文時代石器組成表（２）

遺構	石鏃	石錐	石篦	石匙	スクレイパー	クサビ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	磨製石斧	打製石斧	礫器	礫石器（磨）	礫石器（凹）	礫石器（敲）	礫石器（磨凹）	礫石器（磨敲）	礫石器（凹敲）	礫石器（磨凹敲）	石皿	台石	砥石	石棒	その他	計
SK6109														1												1
SK6112															1					1						2
SK6115								1																		1
SK6121	1						1	1						3	2		2									10
SK6124	1																									1
SK6125															1											1
SK6127															1											1
SK6129																					1					1
SK6131															1											1
SK6134								1							1											2
SK6136										1																1
SK6138															2											2
SK6147	1				1			2							1		1				1					7
SK6148														1												1
SK6152															1											1
SK6153																	1									1
SK6155																	2									2
SK6156																1										1
SK6157															1											1
SK6159														1						1						2
SK6163					1																					1
SK6164																	1									1
SK6172														1												1
SK6175																								1		1
SK6181								1																		1
SK6185																					1					1
SK6187								1																		1
SK6189								2																		2
SK6190								1							1											2
SK6196								3																		3
SK6198															2											2
SK6201							1																			1
SK6203																	1									1
SK6204								1									1									2
SK6206						1									2		1				1					5
SK6208														1												1
SK6209																	1									1
SK6211								1																		1
SK6213							1																			1
SK6217					1																					1
SK6219																	2									2
SK6220								2							2		3									7
SK6221														1	1											2
SK6223					1																					1
SK6229							1										1									2
SK6237							1																			1
SK6240					1																					1
SK6254	1				2										1		1									5
SK6255					1																					1
SK6258						1																				1
SK6275	4	2			5		5	11			1			1	2						1					32
SK6276								1						1			1	1								4
SK6278	1																									1
SK6279														1												1
SK6280								1																		1
SK6282	1				1																					2
SK6284						1		1						1							1					4
SK6287														1												1
SK6289					1																					1
SK6292																					1					1
SK6302					1																					1
SK6309										1					1											2
SK6312								1						1							1					3
SK6313																	1									1
SK6324					1																					1
SK6326					1																2					3
SK6327																	1									1
SK6328							2																			2
SK6329		1																								1
SK6330					1		1							2	1				1							6
SK6332					1																					1
SK7001								1							1											2
SK7002														1												1
SK7003																	1									1
SK7005		1																								1

第25表　縄文時代石器組成表

遺構	石鏃	石錐	石篦	石匙	スクレイパー	クサビ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	石核	磨製石斧	打製石斧	礫器	礫石器（磨）	礫石器（凹）	礫石器（敲）	礫石器（磨凹）	礫石器（磨敲）	礫石器（凹敲）	礫石器（磨凹敲）	石皿	台石	砥石	石棒	その他	計
SK7008	1				1									1							1					4
SK7011					1												1									2
SK7015				1				1						1	1		1									5
SK7018														1												1
SK7022														1	1											2
SK7031																	1									1
SK7032														1			1			1						3
SK7033											1			1			1									3
SK7037		1					1	2																		4
SK7039								2																		2
SK7041							1	2									1									4
SK7042														1			1									2
SK7043					1																					1
SK7044							1																			1
SK7046														4			1									5
SK7050								2																		2
SK7051																	1				1					2
SK7052					1									2			3									6
SK7055					3		1																			4
SK7057							1																			1
SK7058														2								1				3
SK7060				1			1	2						1												5
SK7062					1		2	3																		6
SK7063		1					1	1																		3
SK7067																					1					1
SK7070	1			1			1	2																		5
SK7071		1			1		1	6						3			3				1					16
SK7075								1																		1
SK7076					1			1																		2
SK7077																					1					1
SK7078		1												1								1				3
SK7080					1			3						1												5
SK7081															1											1
SK7083								1						5	4		2		1							13
SK7084																	1									1
SK7085															1		2									3
SK7087														1	3											4
SK7089	1																									1
SX612					1												1									2
SX617															1											1
SX625	18	11	2	11	24	2	10	30		4	2		2	13	17	6	20	3	1	2	7				1	186
SX626	27	27	1	13	26	10	23	71		12	3		1	16	30	7	33	4	7	7	10		1		1	330
SX639	5	7		2	7	3	4	21		4					6		5				2				2	68
SX701	1	1			1		1	1			1			3	3		5				1					18
SX704															1											1
SX706																							1			1
SX711														2									1			3
SX713															1											1
SX714																	1				3					4
SX719															1		1									2
SX721																							1			1
SX722																	1				2					3
SX723		1												1												2
SX724								1																		1
SX731		1			1		1							6	5	1	5	1			1					22
SX746														1												1
SX748											1			1												2
ピット	12	19	3	14	32	5	19	90	2	8	2			31	21	2	18			1	6	1		2	2	290
遺構外	71	90	12	65	207	31	144	412	4	48	24			306	263	27	292	8	28	14	47	3	11	5	14	2,126
計	137	161	18	108	310	51	213	655	6	76	34	0	3	407	360	43	402	16	37	25	84	6	15	7	20	3,194
%	4.3%	5.0%	0.6%	3.4%	9.7%	1.6%	6.7%	20.5%	0.2%	2.4%	1.1%	0.00%	0.1%	12.7%	11.3%	1.3%	12.6%	0.5%	1.2%	0.8%	2.6%	0.2%	0.5%	0.2%	0.6%	
	剥片石器		1,653								石斧類		34	礫石器	1,290						石皿類		105			
	%		51.8%								%		1.1%	%	40.4%						%		3.3%			

第26表　縄文時代石器石材組成表（１）

器種＼石材	砂岩	凝灰質砂岩	頁岩	珪質頁岩	凝灰質頁岩	凝灰岩	角礫凝灰岩	玄武岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	流紋岩質凝灰岩	安山岩質凝灰岩	珪質凝灰岩	流紋岩	黒曜石	安山岩	デイサイト	花崗閃緑岩	石英閃緑岩	蛇紋岩	石英斑岩	ヒン岩	アプライト	翡翠	碧玉	瑪瑙	玉髄	滑石	軽石	珪化木	計
剥片石器			94	1,836					2	2		33	151	18	1	4								88	32	144			2	2,407
%			3.9%	76.3%					0.1%	0.1%		1.4%	6.3%	0.7%	0.04%	0.2%								3.7%	1.3%	6.0%			0.1%	54.1%
石斧類	1	1	6	5	7	2		2	1		3				2	1			10	1	1									43
%	2.3%	2.3%	14.0%	11.6%	16.3%	4.7%		4.7%	2.3%		7.0%				4.7%	2.3%			23.3%	2.3%	2.3%									1.0%
礫器				1											2															3
%				33.3%											66.7%															0.1%
礫石器石皿類	45			11	1	1	1		48	3			8		1,447	281	106	1		4	8	1								1,966
%	2.3%			0.6%	0.1%	0.1%	0.1%		2.4%	0.2%			0.4%		73.6%	14.3%	5.4%	0.1%		0.2%	0.4%	0.1%								44.2%
石棒															1	9														10
%															10.0%	90.0%														0.2%
その他	1		3	1		3				2			2		4								1	1	1		4	1		24
%	4.2%		12.5%	4.2%		12.5%				8.3%			8.3%		16.7%								4.2%	4.2%	4.2%		16.7%	4.2%		0.5%
計	47	1	103	1,853	8	6	1	2	5 1	7	3	33	161	18	1,454	286	106	1	10	5	9	1	1	89	33	144	4	1	2	4,453
%	1.1%	0.02%	2.3%	41.6%	0.2%	0.1%	0.02%	0.04%	1.1%	0.2%	0.1%	0.7%	3.6%	0.4%	32.7%	6.4%	2.4%	0.02%	0.2%	0.1%	0.2%	0.02%	0.02%	2.0%	0.7%	3.2%	0.1%	0.02%	0.04%	

第27表　縄文時代石器石材組成表（２）

器種＼石材	砂岩	凝灰質砂岩	頁岩	珪質頁岩	凝灰質頁岩	凝灰岩	角礫凝灰岩	玄武岩質凝灰岩	デイサイト質凝灰岩	流紋岩質凝灰岩	安山岩質凝灰岩	珪質凝灰岩	流紋岩	黒曜石	安山岩	デイサイト	花崗閃緑岩	石英閃緑岩	蛇紋岩	石英斑岩	ヒン岩	アプライト	翡翠	碧玉	瑪瑙	玉髄	滑石	軽石	珪化木	計
石鏃			2	125								1	29	5										11	4	27				204
%			1.0%	61.3%								0.5%	14.2%	2.5%										5.4%	2.0%	13.2%				4.6%
石錐			16	174								1	5	2										10	8	22			1	239
%			6.7%	72.8%								0.4%	2.1%	0.8%										4.2%	3.3%	9.2%			0.4%	5.4%
石篦			1	24																										25
%			4.0%	96.0%																										0.6%
石匙			8	131						1			5	1		1								4	1	7				159
%			5.0%	82.4%						0.6%			3.1%	0.6%		0.6%								2.5%	0.6%	4.4%				3.6%
スクレイパー			21	344								5	33	1	1	3								11	5	20				444
%			4.7%	77.5%								1.1%	7.4%	0.2%	0.2%	0.7%								2.5%	1.1%	4.5%				10.0%
クサビ形石器			2	41								2	5	1										6	1	11				69
%			2.9%	59.4%								2.9%	7.2%	1.4%										8.7%	1.4%	15.9%				1.5%
二次加工のある剥片			11	224								7	17											11	2	16				288
%			3.8%	77.8%								2.4%	5.9%											3.8%	0.7%	5.6%				6.5%
微細剥離痕のある剥片			30	706					1			14	51	4										25	9	36				876
%			3.4%	80.6%					0.1%			1.6%	5.8%	0.5%										2.9%	1.0%	4.1%				19.7%
剥片				12										1																13
%				92.3%										7.7%																0.3%
石核			3	55					1	1		3	6	3										10	2	5			1	90
%			3.3%	61.1%					1.1%	1.1%		3.3%	6.7%	3.3%										11.1%	2.2%	5.6%			1.1%	2.0%
磨製石斧	1	1	6	5	7	2		2	1		3				1	1			10	1	1									42
%	2.4%	2.4%	14.3%	11.9%	16.7%	4.8%		4.8%	2.4%		7.1%				2.4%	2.4%			23.8%	2.4%	2.4%									0.9%
打製石斧															1															1
%															100.0%															0.02%
礫器				1											2															3
%				33.3%											66.7%															0.1%
礫石器	38			10		1	1		47	2			4		1,299	259	104	1		4	8	1								1,779
%	2.1%			0.6%		0.1%	0.1%		2.6%	0.1%			0.2%		73.0%	14.6%	5.8%	0.1%		0.2%	0.4%	0.1%								40.0%
石皿	5			1	1				1				3		130	11	1													153
%	3.3%			0.7%	0.7%				0.7%				2.0%		85.0%	7.2%	0.7%													3.4%
台石															4	4														8
%															50.0%	50.0%														0.2%
砥石	2									1			1		14	7	1													26
%	7.7%									3.8%			3.8%		53.8%	26.9%	3.8%													0.6%
石棒															1	9														10
%															10.0%	90.0%														0.2%
その他	1		3	1		3				2			2		4								1	1	1		4	1		24
%	4.2%		12.5%	4.2%	0.0%	12.5%				8.3%			8.3%		16.7%								4.2%	4.2%	4.2%		16.7%	4.2%		0.5%
計	47	1	103	1,854	8	6	1	2	51	7	3	33	161	18	1,457	295	106	1	10	5	9	1	1	89	33	144	4	1	2	4,453
%	1.1%	0.02%	2.3%	41.6%	0.2%	0.1%	0.02%	0.04%	1.1%	0.2%	0.1%	0.7%	3.6%	0.4%	32.7%	6.6%	2.4%	0.02%	0.2%	0.1%	0.2%	0.02%	0.02%	2.0%	0.7%	3.2%	0.1%	0.02%	0.04%	

第28表　SI竪穴住居跡一覧表

番号	グリッド	主軸方向（N－）	規模（長軸×短軸・深さ）cm	重複関係（旧→新）	備　考	遺構		遺物		時代・時期	旧遺構名称
						挿　図	写　真	挿　図	写　真		
601	G・H-26・27	45°-E	510×490・18	SI602、SK7081→SI601	－	14・15	7	16～18	127・128	縄文（大木９）	SI 1
602A	G・H-26・27	83°-E	720×650・28	SI602B→SI602A	－	19・20	7	22～25	128～130	縄文（大木９）	SI 2
602B	G・H-26・27	47°-E	650×600・12	SK7081→SI601、SK7080	－	21	7	22～25	128～130	縄文（大木９）	SI 2
603	G・H-25・26	38°-E	350×350・30	－	－	660・661	112・14	662	254	奈良	SI 3
604	H～J-22・23	A：33°-E B：20°-E	730×670・7	－	炉は新旧有り。炉Ｂ→炉Ａ。	26・27	8	28～34	130～132	縄文（大木8a）	SI 4
605	J-22・23	－	(295) ×（70）・20	SI605→SX605	－	35	9	－	－	縄文	SI 5
606	G・H-10・11	11°-E	525×470・20	SI609→ピット	－	663・664	112・113	665・666	254・255	平安	SI 6
607	G・H-9	19°-E	不明	SI607→SK6242・6244・6317	－	667・668	113・114	669	255	奈良	SI 7
608	F-12・13	19°-W	415×345・－	SI608→SD608	掘り方のみのため深さは不明。	670	114	671	255	平安	SI 8
609	欠番	－	－	－	SX640に変更。	－	－	－	－	－	SI 9
610	欠番	－	－	－	SX641に変更。	－	－	－	－	－	SI10
611	G-14	－	290×（190）・26	SI611→SD607、SX628	－	672	－	－	－	古代～	SI11
612	F・G-33・34	6°-E（35°-E）	564×505・11	SI612→SI613	－	36・37	9・10	38～45	132～135	縄文（大木９）	3区SI 1
613	G・H-33・34	17°-E	480×480・37	SI612→SI613	－	46・47	9・11・12	48～55	136～139	縄文（大木10）	3区SI 2
614	F-15	－	(250) ×（220）・－	SI614→SK6316	掘り方のみ。	674	114	673	－	平安	SX36
701	D・E-41・42	30°-W	不明	SX713・715と重複	複式炉のみ。	56・57	14	58・59	139	縄文（大木９）	SI 1
702	F-41・42	－	340×340・23	SI702→SX704	炉なし。	60	13・14	61・62	140	縄文（大木９）	SI 2
703	D・E-38	18°-W	不明	－	複式炉のみ。	63・64	15	65～67	140・141	縄文（大木９）	SI 3
704	E-37	1°-W	不明	－	複式炉のみ。	68・69	15	70・71	142	縄文（大木９）	SI 4
705	F・G-37・38	3°-W	不明	－	SX738石器集中部有り。	72・73	16・17	74～81	142～144	縄文（大木10）	SI 5
706	D-39	40°-W	不明	SI712→SI706	複式炉のみ。	82・83	17	84～87	145・146	縄文（大木９）	SI 6
707A	D-40・41	34°-W	(直径570)・15	SI707→SK7003	炉は新旧Ａ・Ｂ有り。炉Ｂ→炉Ａ	88・89	18	91～94	147・148	縄文（大木９）	SI 7
707B	D-40・41	2°-E	570～640・15	SI707→SK7003	炉は新旧Ａ・Ｂ有り。炉Ｂ→炉Ａ	90	18			縄文（大木９）	SI 7
708	G-39・40	A：51°-E B：37°-W	不明	－	炉Ａ・Ｂあるが新旧は不明	95～97	19	98～103	148～150	縄文（大木10）	SI 8
709	E・F-38・39	1°-E	550×545・16	SK7016→SI709→ピット	地床炉。	104	20	105～108	150～152	縄文（大木10）	SI 9
710	G-41・42	2°-E	360×（280）・34	SI710→SK7019	－	109・110	13・21	111～114	152・153	縄文（大木10）	SI10
711	F・G-36	1°-E	不明	－	複式炉掘り方。	115・116	22・110	117・18	154	縄文（大木９・10）	SI11
712A	D-39	A：14°-E	不明	SI712B→SI712A	炉Ａ・Ｂの新旧有り。	119	22	121	154	縄文（大木９）	SI12
712B	D-39	B：29°-W	不明	SI712B→SI712A	炉Ａ・Ｂの新旧有り。	120				縄文（大木９）	SX33
713	B・C-59	99°-W	410×380・20	－	－	675・676	115	677	255・256	奈良・平安	SI13
714	E-50・51	3°-W	460×460・20	－	－	122・123	23・27	124～130	155～157	平安	SI14
715	E-52・53	9°-W	(540) ×480・45	SI716・718、SK7070→SI715	－	131・132	24・25・27	133～146	158～164	縄文（大木10）	SI15
716	E-51・52	18°-W	470×（370）・10	SI716→SI715・718、SK7073・7074	－	147・148	26・27	149	165	縄文（大木９）	SI16
717	E・F-51	－	A：(380) ×（79）・40 B：(410) ×（135）・23 C：(345) ×（40）・－	SI717→SI718	周溝に新旧有り。周溝Ｂ・Ｃ→周溝Ａ	150	27	151	165・166	縄文（大木９）	SI17
718	E-51・52，F-52	－	(250) ×（200）・77	SI718→SI715、Sk7074	－	152	27	153・154	166	縄文（大木９）	SI18
719	B・C-51	9°-W	620×（210）・42	－	配石有り。	155	28	156～159	167・168	縄文（大木９）	SX44
720	H・I-27・28	11°-E	423×400・7	SI720→ピット	－	678・679	116	680・681	256・257	奈良	3区SI 1
721	E・F-28・29	23°-E	450×435・32	－	－	682・683	117・118	684	257	奈良	3区SI 2
722A	G・H-30・31	59°-W	380×300・15	SI722B→SI722A	カマドから新旧Ａ・Ｂ有り。	685	117・118	686	258	奈良	3区SI 3
722B		37°-E	320×280・15			687・688					
723	H-31・32，I-31	1°-W	560×435・10	－	－	160・161	29	162～165	169・170	縄文（大木９）	3区SI 4
724	G-27・28	27°-E	(275) ×（85）・20	－	－	689	－	690	258	奈良	3区SI 5
725	H・I-28・29	53°-E	(440) ×（350）・5	－	－	166	30	167・168	171	縄文（大木９）	3区SI 6
726	H-27・28	80°-W	不明	－	－	169	30	170・171	171	縄文（大木９）	3区SI 7
－	欠番	－	－	－	欠番	－	－	－	－	－	3区SI 8

第29表　SK土坑一覧表（１）

番号	グリッド	平面形	規　模（cm）（長軸×短軸・深さ）	断面形	重複関係（旧→新）	遺構		遺物		時　期	旧遺構名称
						挿　図	写　真	挿　図	写　真		
6001	I・J-23	楕円形	147×124・18	箱形	SK6001→ピット	172	31	223・296	172・199	縄文（大木8b）	SK 1
6002	I-23	楕円形	130×111・30	箱形	－	172	31	223・296	172・199	縄文（大木8b）	SK 2
6003	G25-・26	不整楕円形	145×90・19	皿形	SK6004・6028・6035→SK6003	172	31	224・296・297	172・199	縄文（大木8b）	SK 3
6004	G-26	(不整楕円形)	(110) ×97・18	皿形	SK6035→SK6004→SK6003	172	31	224・298	172・199	縄文（大木8b）	SK 4
6005	I-25	(楕円形)	148×（131）・93	フラスコ状	SK6007と重複するが新旧は不明。	172	31	225・226・298	172・199	縄文（大木8a・b）	SK 5
6006	E-21	楕円形	158×116・36	逆台形	－	691	119	700	259	平安	SK 6
6007	I-25	不明	164×－・68	円筒形	SK6005と重複するが新旧は不明。	172	31	224	172	縄文（大木8b）	SK 7
6008	F-19	不整楕円形	190×113・26	逆台形	SK6047→ＳＫ6008	691	－	700	259	古代～	SK 8
6009	J-23	円形	125×114・81	フラスコ状	SK6009→SK6022	172	－	227	173・199	縄文（大木8a）	SK 9
6010	G-24	楕円形	(110) ×87・17	皿形	－	172	31	227・299	173	縄文（大木8a）	SK10
6011	G-20	(方形)	98×76・21	Ｕ字形	－	691	119	700	259	平安	SK11
6012	F-20	円形	109×100・84	フラスコ状	－	172	31	224	－	縄文（大木8a・b）	SK12
6013	H-23・24	不整楕円形	126×103・18	Ｕ字形	ピット→SK6013	173	31	－	－	縄文	SK13
6014	H-22	楕円形	123×102・40	Ｕ字形	－	173	32	228・297	199	縄文	SK14
6015	G-21	不整楕円形	226×148・43	皿形	－	173	32	－	－	縄文	SK15
6016	G-21	不整長方形	288×260・85	フラスコ状	SK6016→SD603	173	32	228～231・299～301	173・174・200	縄文（大木8a）	SK16
6017	H-24	不整円形	71×66・17	箱形	ピット→SK6017	173	－	231	－	縄文（大木8a）	SK17
6018	H-23・24	不整円形	76×69・26	逆台形	ピット→SK6018	173	33	301	199	縄文	SK18
6019	H-24	不整楕円形	160×126・19	皿形	SK6021と重複するが新旧は不明。	173	－	231・301	174・199	縄文（大木8b）	SK19
6020	J-22	(隅丸方形)	249×151・75	箱形	SX605→SK6020	173	－	232・302	174・200	縄文（大木8b）	SK20
6021	H-24	楕円形	134×107・18	皿形	SK6019と重複するが新旧は不明。	174	－	231・303	174	縄文（大木8a・b）	SK21
6022	J-23	不整形	(97) ×86・42	箱形	SK6009→SK6022	691	119	－	－	古代以降	SK22
6023	H-25	不整円形	133×125・58	フラスコ状	－	174	33	232・233・303	174	縄文（大木8a）	SK23
6024	H・I-22	不整円形	100×100・35	Ｕ字形	ピット→SK6024	174	33	233・303	200	縄文（大木8a・b）	SK24
6025	I-20	不整円形	131×115・32	Ｕ字形	SK6025→ピット	174	33	233・234・304	174・175・201	縄文（大木8a）	SK25
6026	I-22	楕円形	72×59・8	皿形	SK6026→ピット	174	－	－	－	縄文	SK26
6027	G-25	(楕円形)	(94) ×74・17	皿形	SK6027→SK6028→SK6035	174	－	－	－	縄文	SK27
6028	G-25	(楕円形)	(87) ×55・20	皿形	SK6027→SK6028→SK6035	174	－	－	－	縄文	SK28
6029	J-20	不整長方形	82×62・28	箱形	－	174	－	235・303	200	縄文	SK29
6030	I-20・21	(長方形)	(70) ×40・17	Ｕ字形	SK6030→ピット	174	－	233	－	縄文	SK30
6031	H-20	不整楕円形	227×97・18	皿形	－	174	33	235・303	175・200	縄文（大木8a）	SK31
6032	H-23	長楕円形	106×70・21	皿形	SK6032→ピット	174	－	－	－	縄文	SK32
6033	G-24	瓢箪形	120×71・21	逆台形	－	175	－	－	－	縄文	SK33
6034	H-24	(楕円形)	(140) ×（74）・17	皿形	SK6034→SD610、ピット	175	－	236	－	縄文（大木8a・b）	SK34
6035	G-25・26	不整楕円形	310×127・23	皿形	SK6027→SK6028→SK6035→SK6037	175	－	236	－	縄文（大木8b）	SK35
6036	H-20	隅丸長方形	147×62・10	皿形	－	691	－	－	－	古代以降	SK36
6037	G-26	不整形	127×80・27	皿形	－	691	－	－	－	古代以降	SK37
6038	H-22	不整円形	85×85・32	フラスコ状～円筒形	ピット→SK6038	175	－	236・305	175・201	縄文（大木8a・b）	SK38
6039	H-21	楕円形	114×89・47	円筒形	SK6039→ＳＫ6940	175	33	236・304	175・200	縄文（大木8b）	SK39
6040	H-21	隅丸長方形	135×66・32	皿形	SK6039→ＳＫ6940	691	－	－	－	古代以降	SK40
6041	J-17	楕円形	95×65・25	皿形	－	691	34・119	－	－	古代以降	SK41
6042	I・J-17	円形	143×147・82	フラスコ状	－	175	34	237・305	175	縄文（大木8a・b）	SK42
6043	J-16	不整円形	173×159・92	フラスコ状	ピット→SK6043	175	34	236	－	縄文（大木8a）	SK43
6044	J-16	楕円形	213×185・120	フラスコ状～朝顔形	SK6044→SD605	175	34	236・305	175・201	縄文（大木8a）	SK44
6045	E-19	(楕円形)	(113) ×（43）・47	Ｕ字形	－	691	－	－	－	古代以降	SK45
6046	F-19	不整楕円形	141×131・94	円筒形	SK6046→SK6064	175	34	－	－	縄文	SK46
6047	F-19	円形	111×105・93	フラスコ状	SK6047→SK6008	176	34	－	－	縄文	SK47
6048	E-19	楕円形	172×115・98	フラスコ状	SK6048→SK6084	176	－	－	－	縄文	SK48
6049	K-16	不整楕円形	220×194・44	皿形	SK6049→ピット	176	35	238	176	縄文（大木8b）	SK49
	K-16	不整円形	165×159・123	フラスコ状		176	35	－	－	縄文（大木8a・b）	SK49
6050	K-16	不整楕円形	148×125・25	皿形	－	176	35	239	176	縄文（大木8b）	SK50
6051	F-18・19	不整形	245×200・36	逆台形～皿形	SX624→SK6051	692	120	701・703	259	平安	SK51
6052	J-15	楕円形	44×26・7	皿形	－	692	－	704	261	近世～	SK52
6053	F-17	円形	120×120・123	フラスコ状	－	176	36	238・306	176・201	縄文（大木8a）	SK53
6054	F-16	円形	141×116・65	フラスコ状	SK6054→ピット	177	36	238・239・305	176・201	縄文（大木8a）	SK54
6055	G-16	不整円形	150×135・82	フラスコ状	SK6055→ピット	177	38	238・306	176・201	縄文（大木8a・b）	SK55
6056	G-17	円形	140×135・33	フラスコ状	－	177	36	240・305	176・201	縄文（大木8b）	SK56
6057	G-16	円形	162×148・110	フラスコ状	SK6057→ピット	177	36	240・307	178・201	縄文（大木8a）	SK57

第30表　SK土坑一覧表（２）

番号	グリッド	平面形	規　模(cm) (長軸×短軸・深さ)	断面形	重複関係（旧→新）	遺構		遺物		時　期	旧遺構名称
						挿　図	写　真	挿　図	写　真		
6058	K・L-15	不整円形	214×210・120	フラスコ状～朝顔形	－	177	38	240・241	176	縄文（大木8a・b）	SK58
6059	G-19	円形	135×130・45	皿形	－	177	37	242～246・308	177・201	縄文（大木8a）	SK59
		円形	118×106・124	フラスコ状	－	178	37		177・201	縄文（大木8a）	SK59
6060	H-19	円形	85×83・18	皿形	SX626→SK6060	692	120	701	259	平安	SK60
6061	I-21	不整円形	73×70・31	U字形	SK6061→ピット	178	－	246	－	縄文（大木8a）	SK61
6062	H-19	円形	59×53・13	皿形	SX626→SK6062	692	－	－	－	縄文（大木8a・b）	SK62
6063	F-18	円形	213×210・108	円筒形～朝顔形	SK6063→SK6071・6079	178	38	247・248・307	178・179・202	縄文（大木8a・b）	SK63
6064	F-19	不整円形	83×75・28	逆台形	SK6046→SK6064	692	－	－	－	近代～	SK64
6065	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SK65
6066	H-16	隅丸長方形	193×90・26	皿形	SK6073→SK6066	692	119	－	－	近代～	SK66
6067	H-17	不整円形	84×74・28	皿形	－	692	119	－	－	古代以降	SK67
6068	H-16	円形	111×107・87	フラスコ状	－	178	39	248・308	179・202	縄文（大木8a）	SK68
6069	G-15・16	隅丸長方形	147×81・22	皿形	－	692	119	－	－	近代以降～	SK69
6070	H-18	楕円形	94×70・17	皿形	－	692	120	702	260	平安	SK70
6071	F-18	不整形	165×98・33	皿形	SK6063→SK6071	693	－	702	260	平安	SK71
6072	H・I-16	隅丸長方形	372×157・100	箱形	SK6077→SK6072	692	121	705	262	近世～	SK72
6073	G-15	円形	101×99・80	フラスコ状	SK6073→SK6066、ピット	178	40	－	－	縄文	SK73
6074	H-15	円形	84×78・22	皿形	SK6075→SK6074	693	－	－	－	古代	SK74
6075	H-15	不整円形	198×183・113	円筒形	SK6075→SK6074、ピット	178	39	248	－	縄文	SK75
6076	H-15	不整円形	244×234・92	フラスコ状	SK6076→ピット	179	39	249・309	179・202	縄文（大木8b）	SK76
6077	H-15・16	円形	117×108・103	フラスコ状	SK6077→SK6072	179	40	248・310	202	縄文（大木8a）	SK77
6078	I-15・16	楕円形	170×149・65	逆台形	－	179	40	248・309	179	縄文（大木8a）	SK78
6079	F-18	円形	102×100・19	皿形	SK6063→SK6079	693	－	－	－	古代以降	SK79
6080	F-19	隅丸方形	84×（78）・22	皿形	SK6080→SK6084	693	－	702	－	古代以降	SK80
6081	G-15	楕円形	150×115・93	フラスコ状	－	179	40	248	－	縄文（大木8a・b）	SK81
6082	F-16	(楕円形)	(85)　×60・20	皿形	－	693	－	－	－	古代以降	SK82
6083	F-21	(楕円形)	(235)　×137・26	皿形	SK6083→SX625、SD610	179	40	248・250・308	180・202	縄文（大木8a）	SK83
6084	E-19	不整楕円形	155×130・22	皿形	SK6080→SK6084→SK6048	693	－	－	－	縄文（大木8b）	SK84
6085	F・G-20	円形	171×167・43	箱形	SX625→SK6085	179	－	250	－	縄文	SK85
6086	F-19	(楕円形)	(225)　×（100）・35	皿形	－	180	－	250・309	180	縄文	SK86
6087	F-19	隅丸方形	151×128・18	皿形	－	693	－	－	－	古代以降	SK87
6088	I-21・22	楕円形	113×107・26	箱形	－	180	－	－	－	縄文	SK88
6089	I-20・21	円形	107×100・22	皿形	ピット→SK6089	693	122	－	－	古代～	SK89
6090	G-14	(円形)	128×（58）・12	皿形	SK6090→SD608	693	－	－	－	古代～	SK90
6091	I-15	楕円形	173×132・34	皿形	SK6102・6136→SK6091	693	122	－	－	古代～	SK91
6092	H-14	楕円形	180×145・30	皿形	SK6104・6125・6127→SK6092→SK6093	693	122	－	－	古代～	SK92
6093	H-14	楕円形	164×141・26	皿形	SK6128～SK6092・6127→SK6093	694	122	－	－	古代～	SK93
6094	H-14	不整円形	210×196・112	フラスコ状～朝顔形	SK6094→ピット	180	41	250・251・310	180・202	縄文（大木8a・b）	SK94
6095	F-14	(円形)	159×（64）・100	フラスコ状～円筒形	SK6095→SD607	180	40	－	－	縄文	SK95
6096	F-14	不整円形	163×152・85	円筒形	－	180	40	251・310	202	縄文（大木8a）	SK96
6097	G-13	円形	134×122・47	フラスコ状	－	180	41	251・310	180・202	縄文（大木8a）	SK97
6098	G-13	隅丸長方形～楕円形	232×88・29	箱形	－	694	122	－	－	近世～	SK98
6099	G-14	円形	93×85・22	箱形	－	694	－	－	－	近世～	SK99
6100	J・K-18・19	(円形)	101×（61）・4	皿形	SK6100→SX626	180	41	251	180	縄文（大木8b）	SK100
6101	G-14	円形	113×103・73	フラスコ状	SK6104→SK6101→SK6099	181	－	251・311	－	縄文（大木8a）	SK101
6102	I-15	円形	121×115・100	フラスコ状～円筒形	SK6102→SK6091	181	42	251	－	縄文（大木8b）	SK102
6103	F-13	(楕円形)	(138)　×（125）・82	フラスコ状	SK6103→SK6101	181	42	251	－	縄文（大木8a）	SK103
6104	H-14	(円形)	(98)　×（27）・14	皿形	SK6104→SK6092	694	123	－	－	古代～	SK104
6105	F-13	(楕円形)	(177)　×（80）・89	フラスコ状～円筒形	SK6106→SK6105	181	－	251	180	縄文（大木8b）	SK105
6106	G-13	(楕円形)	160×（136）・25	箱形	SK6106→SK6105	181	－	251	－	縄文（大木8a）	SK106
6107	G-14	不整円形	127×127・87	フラスコ状	SK6129→SK6107→SK6098、SD606	181	42	251・311	202	縄文（大木8a）	SK107
6108	G-13	不整円形	152×149・90	フラスコ状～円筒形	－	182	42	252	－	縄文（大木8a）	SK108
6109	G-12・13	不整円形	161×148・113	フラスコ状～円筒形	SK6110・6154・6225→SK6109	182	43	252	－	縄文（大木8a）	SK109
6110	G-12・13	(円形)	148×（71）・38	フラスコ状～円筒形	SK6110→SK6109・6154	182	43	252	180	縄文（大木8a）	SK110
6111	H-13	不整円形	119×108・24	皿形	SK6112→SK6111	182	43	252	180	縄文（大木8a）	SK111
6112	H-13	不整円形	121×107・69	フラスコ状	SK6112→SK6111	182	43	311	－	縄文	SK112
6113	H-13	円形	137×135・48	フラスコ状～円筒形	SK6113→SD607	182	44	252	180	縄文（大木8b）	SK113
6114	I-13	不整楕円形	166×141・42	円筒形	－	183	44	－	－	縄文？	SK114
6115	I-13	円形	126×120・43	フラスコ状	－	183	44	－	－	縄文	SK115
6116	I-13	不整円形	144×133・19	円筒形	SK6177→SK6116	183	44	252	－	縄文（大木8a・b）	SK116
6117	I-14	不整円形	195×179・77	円筒形	－	183	44	252	181	縄文（大木8b）	SK117
6118	I-13	円形	121×120・17	箱形	SK6119→SK6118	694	123	－	－	近代～	SK118
6119	I-13	楕円形	211×170・49	U字形	SK6119→SK6118	694	123	－	－	近代～？	SK119
6120	J-13	円形	168×155・53	円筒形	SK6272→SK6120	183	45	252	181	縄文（大木8a・b）	SK120
6121	H-12	円形	156×140・95	フラスコ状～円筒形	SK6121→SK6153	183	45	253・254・312	181・202	縄文（大木8a）	SK121
6122	I-14	円形	153×141・95	フラスコ状～円筒形	SK6130→SK6122	183	46	252	－	縄文（大木8b）	SK122
6123	I-8	不整円形	119×110・64	フラスコ状	SK6124→SK6123→SK6318	184	46	252	－	縄文（大木8a）	SK123
6124	I-8	(楕円形)	157×（84）・52	円筒形	SK6124→SK6123・6318	184	46	311	202	縄文	SK124
6125	H-14	不整楕円形	124×97・46	U字形	SK6126～6128・6320→SK6125	184	－	254	－	縄文（大木8a・b）	SK125
6126	H-14	(円形)	136×（69）・35	U字形	SK6128・6320→SK6126→SK6125	184	－	－	－	縄文	SK126
6127	H・I-14	円形	161×153・42	フラスコ状	SK6128・6320→SK6127→SK6125	184	46	254・311	181	縄文（大木8b）	SK127
6128	H-14	円形	160×146・46	円筒形	SK6128→SK6092・6125・6127	184	－	－	－	縄文	SK128
6129	G-14	円形	175×173・99	フラスコ状～円筒形	SK6129→SD606・607、SK6107	184	－	254	－	縄文（大木8b）	SK129
6130	I-14	円形	135×128・52	フラスコ状～円筒形	SK6130→SK6122	185	46	254	－	縄文（大木8a・b）	SK130
6131	I-13	楕円形	184×153・74	フラスコ状～円筒形	SK6132→SK6131	185	46	254	－	縄文（大木8a）	SK131
6132	I-13	(円形)	104×（65）・30	円筒形	SK6132→SK6131	185	46	－	－	縄文	SK132
6133	J-8	円形	136×116・62	フラスコ状	SK6133→SK6137、ピット	185	46	254	－	縄文（大木8a）	SK133
6134	I-8	楕円形	189×145・72	フラスコ状～朝顔形	SK6134→ピット	185	46	－	－	縄文	SK134
6135	I-14	(円形)	123×（100）・55	フラスコ状	SK6135→SK6136	185	47	－	－	縄文	SK135
6136	I-14	不整円形	177×159・81	円筒形	SK6135→SK6136→SK6091、ピット	186	47	255	181	縄文（大木8b）	SK136
6137	J-8	楕円形	169×103・22	皿形	SK6133→SK6137→ピット	694	123	－	－	古代	SK137
6138	K-8	円形	144×130・54	フラスコ状	－	186	47	312	203	縄文	SK138
6139	J-8	円形	140×131・73	フラスコ状	SK6140→SK6139	186	47	255	－	縄文（大木8a）	SK139
6140	J-8	楕円形	169×（143）・34	フラスコ状～円筒形	SK6140→SK6139	186	47	－	－	縄文	SK140
6141	H-14	不整楕円形	257×197・108	円筒形	SK6171→SK6141→SX628	694	123	－	－	近世～	SK141
6142	L-11	不整円形	117×115・28	フラスコ状	SK6141→ピット	186	47	－	－	縄文	SK142
6143	L-10	楕円形	157×150・60	フラスコ状	SK6142→ピット	186	47	－	－	縄文	SK143
6144	I-15	楕円形	221×158・38	逆台形	－	694	123	704	261	近世～	SK144
6145	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SK145
6146	I-11	円形	156×154・77	フラスコ状	SK6146→SK6250・ピット	187	48	255	－	縄文（大木8b）	SK146
6147	J-10	円形	151×151・54	フラスコ状～円筒形	SK6148→SK6147→SD608	187	48	255・313	182・203	縄文（大木8a・b）	SK147
6148	J-10	不整円形	217×209・92	フラスコ状～円筒形	SK6148→SK6147→SD608	187	48	255	－	縄文（大木8a）	SK148
6149	M-10	不整円形	130×113・53	フラスコ状	SK6149→ピット	187	49	－	－	縄文（大木8a）	SK149
6150	M-9	円形	144×133・21	フラスコ状	－	187	49	－	－	縄文（大木8b）	SK150
6151	M-9	不整楕円形	156×137・25	皿形	SK6238→SK6151	695	－	－	－	近世～	SK151
6152	L-10	円形	157×151・28	フラスコ状	－	187	49	－	－	縄文	SK152
6153	H-12	円形	128×120・104	フラスコ状～円筒形	SK6121→SK6153→SK6154	188	45	255	－	縄文	SK153
6154	G-12	円形	147×134・53	フラスコ状	SK6110・6153→SK6154→SK6109	188	－	255	－	縄文	SK154
6155	H-12	楕円形	(140)　×127・79	フラスコ状	SK6155→SK6217	188	59	255	－	縄文（大木8b）	SK155
6156	H-11	(円形)	195×（85）・110	フラスコ状～朝顔形	SK6156→SK6157	188	49	－	－	縄文	SK156
6157	H-11	不整円形	165×150・95	フラスコ状～円筒形	SK6158・6156→SK6157	188	49	255	－	縄文（大木8b）	SK157
6158	H-11	(円形)	141×（118）・83	フラスコ状	SK6180→SK6158→SK6157	188	－	256	－	縄文（大木8a・b）	SK158
6159	I-9・10	(円形)	179×（173）・98	フラスコ状～朝顔形	－	189	50	256・313	203	縄文（大木8a・b）	SK159
6160	L-11	不整円形	134×131・36	フラスコ状	－	189	50	256	－	縄文（大木8a・b）	SK160
6161	L-11	円形	120×117・22	フラスコ状	－	189	50	－	－	縄文	SK161
6162	L-9	円形	119×111・37	フラスコ状	－	189	50	256	182	縄文（大木8a）	SK162
6163	L-13	楕円形	144×130・32	皿形	－	189	－	256・313	－	縄文（大木8a・b）	SK163
6164	K-11	円形	120×113・54	フラスコ状	－	189	50	－	－	縄文	SK164
6165	I-13	楕円形	(174)　×（143）・62	フラスコ状～円筒形	SK6165→SK6119	189	51	－	－	縄文	SK165
6166	L-14	不整円形	149×137・80	フラスコ状	－	190	51	256	182	大木8a・b	SK166
6167	L-13・14	不整円形	162×155・77	フラスコ状	SK6167→ピット	190	51	257	182	縄文（大木8b）	SK167
6168	L-9	不整円形	137×130・25	円筒形	－	190	51	－	－	縄文	SK168
6169	L-9	円形	142×134・29	フラスコ状	－	190	51	－	－	縄文	SK169
6170	K-15・16	円形	114×114×52	フラスコ状	－	190	52	256	182	縄文（大木8a）	SK170
6171	G・H-13・14	(円形)	(179)　×（172）・82	フラスコ状	SK6171→SK6141・6194、SD608、SX628	190	52	－	－	縄文	SK171
6172	K-10	不整円形	124×112・56	フラスコ状	－	190	52	258	－	縄文（大木8a）	SK172
6173	K・L-8・9	円形	157×152・24	フラスコ状	－	191	52	－	－	縄文	SK173
6174	L-12	円形	115×103・27	フラスコ状	－	191	52	－	－	縄文	SK174

第31表　SK土坑一覧表（3）

番号	グリッド	平面形	規　模(cm) (長軸×短軸・深さ)	断面形	重複関係（旧→新）	遺構		遺物		時　期	旧遺構 名称
						挿　図	写　真	挿　図	写　真		
6175	K－13	円形	114×114・55	フラスコ状	－	191	53	313	203	縄文	SK175
6176	H・I－12	(円形)	156×〈144〉・53	フラスコ状～円筒形	SK6177・6224→SK6176→SK6186、SD608	191	53	－	－	縄文	SK176
6177	H・I－13	(円形)	137×〈40〉・14	皿形	SK6177→SK6116・6176→SD608	191	－	－	－	縄文	SK177
6178	K－10	円形	125×120・61	フラスコ状	－	191	53	258	－	縄文（大木8a）	SK178
6179	J－11	円形	117×107・42	フラスコ状	SK6211→SK6179	191	－	258	－	縄文（大木8a・b）	SK179
6180	G・H－11	(楕円形)	〈160〉×〈136〉・34	皿形	SK6181・6322→SK6180→SK6158	192	－	258	183	縄文（大木8b）	SK180
6181	G－11	円形	186×172・127	フラスコ状	SK6181→SK6180・6215・6221・6300	192	54	258	183	縄文（大木8a）	SK181
6182	L－12・13	円形	123×117・66	フラスコ状	SK6183→SK6182	192	54	258	183	縄文（大木8a・b）	SK182
6183	L－13	(円形)	133×〈78〉・20	円筒形	SK6183→SK6182	192	54	258	183	縄文（大木8b）	SK183
6184	K－14	円形	224×220・45	フラスコ状	SK6184→ピット	192	54	258	183	縄文（大木8a）	SK184
6185	H－12	円形	172×168・40	円筒形	SK6186→SK6185	192	53・54	－	－	縄文（大木8b）	SK185
6186	H－12	円形	127×118・73	フラスコ状	SK6176・6224→SK6186→SK6185、SD608	193	53	259	183	縄文（大木8a）	SK186
6187	K－9	円形	167×145・43	フラスコ状	SX632→SK6187	193	55	259	183	縄文（大木8a・b）	SK187
6188	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SK188
6189	I－9	円形	141×140・38	フラスコ状	SK6189→SK6251・6269	193	－	－	－	縄文	SK189
6190	I－14・15	楕円形	175×148・102	フラスコ状～円筒形	SK6191・6192→SK6190	193	55	259	－	縄文（大木8a）	SK190
6191	I・J－14・15	(円形)	135×〈120〉・54	フラスコ状～円筒形	SK6192→SK6191→SK6190	193	－	259	－	縄文	SK191
6192	I－14・15	(円形)	145×〈55〉・25	円筒形	SK6192→SK6190・6191・6289	193	－	－	－	縄文	SK192
6193	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SK193
6194	G・H－14	楕円形	166×132・37	皿形	SK6288→SK6194→SX628	695	123	704	261	近世～	SK194
6195	G－14	楕円形	〈139〉×80・66	逆台形	SK6228→SK6195→SD607	695	123	702	260	古代～	SK195
6196	K－14	円形	147×140・57	フラスコ状	－	193	55	259	183	縄文（大木8a）	SK196
6197	K－12	楕円形	132×108・27	皿形	SK6198→SK6197	695	－	－	－	古代以降	SK197
6198	K－11・12	円形	135×〈129〉・24	箱形	SK6198→SK6197	194	55	314	203	縄文	SK198
6199	J・K－15	隅丸長方形	160×121・34	箱形	SK6200→SK6199	695	123	－	－	近世～	SK199
6200	K－15・16	円形	159×145・108	フラスコ状	SK6200→SK6199	194	55	260	－	縄文（大木8a）	SK200
6201	K－15	円形	158×141・97	フラスコ状	SK6314→SK6201	194	56	260	－	縄文（大木8a・b）	SK201
6202	K－12	不整円形	103×103・64	フラスコ状	－	194	56	－	－	縄文	SK202
6203	K－10	円形	164×148・41	フラスコ状	－	194	55	－	－	縄文	SK203
6204	H・I－10	不整円形	190×178・71	フラスコ状～円筒形	SK6205・6241・6251→SK6204	195	56	260・315	184・203	縄文（大木8b）	SK204
6205	H－9・10	(楕円形)	160×〈133〉・30	箱形	SK6205→SK6204	195	56	262	184	縄文（大木8b）	SK205
6206	H・I－10・11	不整円形	189×175・114	フラスコ状	SK6207→SK6206	195	57	261・314	184・203	縄文（大木8b）	SK206
6207	H－10	(円形)	185×〈91〉・113	フラスコ状	SK6207→SK6206	195	57	－	－	縄文	SK207
6208	L－12	円形	116×115・74	フラスコ状	－	195	56	－	－	縄文	SK208
6209	G・H－10・11	楕円形	158×128・94	フラスコ状	SK6209→SI606、ピット	196	57	260	－	縄文（大木8a・b）	SK209
6210	K－9	円形	143×134・40	フラスコ状	－	196	58	260	－	縄文（大木8a・b）	SK210
6211	J－11	円形	214×190・86	フラスコ状	SK6211→SK6179	196	58	260	185	縄文（大木8b）	SK211
6212	I－11・12	不整円形	154×132・51	円筒形	－	196	58	262	185	縄文（大木8b）	SK212
6213	J－9	円形	151×150・57	フラスコ状	－	196	58	－	－	縄文	SK213
6214	J・K－9	円形	165×154・88	フラスコ状	－	196	58	262	185	縄文（大木8a）	SK214
6215	G－11	楕円形	138×123・47	円筒形	SK6181・6221→SK6215→SK6300	197	58	263	185	縄文（大木8a）	SK215
6216	G－14・15	(円形)	〈175〉×〈153〉・73	フラスコ状～円筒形	SK6216→SI611	197	59	262	－	縄文（大木8a）	SK216
6217	H－12	楕円形	144×126・88	フラスコ状	SK6155・6218→SK6217	197	59	262	185	縄文（大木8b）	SK217
6218	H－11・12	円形	178×173・41	円筒形	SK6263→SK6218→SK6217	197	59	262	－	縄文（大木8a・b）	SK218
6219	H－12	(楕円形)	〈97〉×128・72	フラスコ状	SK6220・6263→SK6219	197	60	264・315	186	縄文（大木8b）	SK219
6220	H・G－12	円形	139×127・91	フラスコ状	SK6223→SK6220→SK6219	197	59	264・315	185・203	縄文（大木8a）	SK220
6221	G－11	円形	138×120・76	フラスコ状～円筒形	SK6181→SK6221→SK6209・6215・6300	197	58	264	－	縄文（大木8b）	SK221
6222	G－9・10	円形	171×170・98	フラスコ状～円筒形	SK6222→SI607、ピット	198	60	264	186	縄文（大木8b）	SK222
6223	G－12	(不整楕円形)	〈144〉×103・15	皿形～U字形	SK6223→SK6220	198	－	－	－	縄文	SK223
6224	I－12	(楕円形)	〈55〉×〈103〉・42	円筒形	SK6224→SK6176・6186、SD608	198	53	－	－	縄文	SK224
6225	G－12・13	(楕円形)	〈128〉×〈72〉・40	フラスコ状～円筒形	SK6264→SK6225→SK6109・6226	198	60	264	－	縄文（大木8a）	SK225
6226	G－12・13	不整楕円形	190×154・91	フラスコ状	SK6225・6264→SK6226	198	60	264	186	縄文（大木8b）	SK226
6227	G－9	(円形)	〈133〉×〈46〉・77	フラスコ状	－	198	60	264	186	縄文（大木8a）	SK227
6228	G－14	(楕円形)	157×〈73〉・73	円筒形	SK6228→SK6194・6195	695	－	－	－	近世～	SK228
6229	G－11	(円形)	〈240〉×〈95〉・63	逆台形	SK6299→SK6229→SK6230	198	60	264	－	縄文（大木8a・b）	SK229
6230	G－10	(円形)	〈115〉×140・100	フラスコ状	SK6229→SK6230	199	60	265	186	縄文（大木8b）	SK230
6231	G－10	(円形)	〈137〉×〈42〉・92	フラスコ状	－	199	60	－	－	縄文	SK231
6232	G－10	(円形)	139×〈63〉・68	フラスコ状	－	199	61	－	－	縄文	SK232
6233	G－10	(円形)	159×〈111〉・29	皿形	SK6233→SI606	199	61	265	－	縄文（大木8a）	SK233
6234	G－12	円形	74×64・25	U字形	－	695	－	－	－	古代～	SK234
6235	K－10	円形	123×123・38	フラスコ状	－	199	61	265	186	縄文（大木8a・b）	SK235
6236	J－9	円形	149×134・34	フラスコ状～円筒形	－	199	－	－	－	縄文	SK236
6237	I－10	円形	118×118・42	フラスコ状	－	199	61	－	－	縄文	SK237
6238	M－9	不整楕円形	116×97・43	円筒形	SK6238→SK6151	695	－	－	－	古代以降	SK238
6239	H・I－11	円形	112×110・43	フラスコ状	SK6239→SK6150、ピット	200	61	－	－	縄文	SK239
6240	I－10	不整楕円形	187×166・94	フラスコ状～円筒形	SK6279→SK6140	200	－	265	186	縄文	SK240
6241	H－10	(円形)	124×〈64〉・47	フラスコ状	SK6241→SK6204	200	56	－	－	縄文	SK241
6242	H－8・9	隅丸長方形	143×60・69	U字形	－	696	－	－	－	近世～？	SK242
6243	H－9	円形	112×105・38	皿形	－	695	124	－	－	古代以降	SK243
6244	I－9	隅丸長方形	132×75・75	U字形	－	696	124	－	－	近世～？	SK244
6245	I－8	隅丸長方形	145×68・57	U字形	－	696	124	－	－	近世～？	SK245
6246	I－8	楕円形	115×〈95〉・85	逆台形	－	696	－	－	－	古代～	SK246
6247	H－7	円形	90×85・17	皿形	－	696	124	－	－	古代以降	SK247
6248	I－8	凸状	135×〈77〉・23	箱形	－	696	－	－	－	古代以降	SK248
6249	J－11	円形	147×145・73	フラスコ状～円筒形	－	200	62	265	186	縄文（大木8b）	SK249
6250	I－11	隅丸長方形	174×53・44	U字形	－	696	－	－	－	近世～？	SK250
6251	H－9	楕円形	123×96・20	箱形	SK6251→SK6204・6269	200	56	265	－	縄文（大木8a・b）	SK251
6252	K－13	円形	191×189・23	フラスコ状～円筒形	－	200	62	265	－	縄文（大木8a）	SK252
6253	L－12	円形	169×152・60	フラスコ状	－	201	62	－	－	縄文	SK253
6254	I－9	円形	184×170・78	円筒形	SK6254→SK6189・6269・6295	201	62	265・316	203	縄文（大木8b）	SK254
6255	J－12	円形	132×125・38	フラスコ状	SK6256→SK6255	201	62・63	265	－	縄文（大木8a）	SK255
6256	J－11・12	円形	174×164・80	フラスコ状	SK6256→SK6255	201	62・63	265	－	縄文（大木8a）	SK256
6257	I・J－11・12	円形	133×124・53	フラスコ状	SK6257→SD608	201	63	265	186	縄文（大木8a・b）	SK257
6258	I－12	円形	164×158・55	フラスコ状	SK6258→SD608	201	63	266・316	203	縄文（大木8a・b）	SK258
6259	I－12	円形	152×145・80	フラスコ状	SK6259→SI608	202	64	－	－	縄文	SK259
6260	H－8	隅丸長方形	184×92・75	U字形	SK6261・6278→SK6260	696	124	－	－	近世～	SK260
6261	H－8	隅丸長方形	146×72・61	U字形	SK6275・6297→SK6261→SK6260	696	－	－	－	近世～	SK261
6262	H－7	不整楕円形	115×103・43	U字形	－	697	－	－	－	近世～	SK262
6263	H－12	(円形or楕円形)	155×〈44〉・23	箱形	SK6263→SK6218・6219	202	－	266	－	縄文（大木8a）	SK263
6264	G－12	楕円形	142×117・79	フラスコ状	SK6264→SK6225・6226	202	64	266	－	縄文（大木8a）	SK264
6265	I－12	円形	132×124・63	フラスコ状	SK6265→SI608、SD608	202	64	－	－	縄文	SK265
6266	H－9	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	SK266
6267	J－12	(円形)	133×〈89〉・15	皿形	－	202	－	－	－	縄文	SK267
6268	J－12	(円形)	114×〈80〉・33	フラスコ状	－	202	－	－	203	縄文	SK268
6269	I－9	楕円形	287×201・30	皿形	SK6189・6251・6254→SK6269→ピット	202	－	266・316	203	縄文（大木8a）	SK269
6270	J－12	円形	182×179・59	フラスコ状～円筒形～朝顔形		203	64	－	－	縄文	SK270
6271	J－13	円形	157×150・47	フラスコ状		203	64	－	－	縄文	SK271
6272	J－13	楕円形	193×167・79	フラスコ状	SK6272→SK6120	203	65	266	－	縄文（大木8a・b）	SK272
6273	J－14	円形	152×134・97	フラスコ状	SK6274→SK6273	203	65	266	－	縄文（大木8a・b）	SK273
6274	J－14	(円形)	133×〈85〉・50	フラスコ状	SK6274→SK6273	203	－	－	－	縄文	SK274
6275	H－8	円形	175×160・53	円筒形～皿形	SK6276・6297・6302→SK6275→SK6261	203	65	267・317	187・204	晩期	SK275
6276	H－8	円形	158×152・82	フラスコ状	SK6297→SK6276→SK6275	204	66	266・316	186・203	縄文（大木8a）	SK276
6277	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SK277
6278	H－8	円形	153×143・62	フラスコ状	SK6278→SK6260→SK6242	204	66	318	204	縄文	SK278
6279	I－10	円形	275×263・108	円筒形	SK6279→SK6240	204	66	－	－	縄文	SK279
6280	J－15	円形	151×142・89	フラスコ状	－	204	66	266	187	縄文（大木8b）	SK280
6281	J－15	円形	200×190・95	フラスコ状～円筒形	－	204	66	268	－	縄文（大木8a・b）	SK281
6282	J－16	円形	164×158・93	フラスコ状	SK6282→SK6294	205	66	268・318	187・204	縄文（大木8a・b）	SK282
6283	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SK283
6284	G－12	円形	195×〈124〉・120	フラスコ状～円筒形～朝顔形	SK6284→SK6296・6300	205	66・124	268・318	187	縄文（大木8a・b）	SK284
6285	I－15	円形	138×127・51	フラスコ状	SK6288・6289→SK6285→SK6144	205	67	259・269・314	188	縄文（大木8a）	SK285
6286	L－12	円形	135×135・33	フラスコ状～円筒形	－	205	67	－	－	縄文	SK286
6287	G－12	(円形)	〈212〉×〈45〉・65	皿形	SK6325→SK6287→SK6324→SK6315	205	－	－	－	縄文	SK287
6288	I－15	不整円形	155×152・89	フラスコ状	SK6288→SK6144・6285	205	－	－	－	縄文	SK288
6289	I－15	(円形)	154×〈83〉・40	フラスコ状	SK6192→SK6289→SK6288	206	－	268	－	縄文（大木8a・b）	SK289
6290	I－13	不整円形	105×93・54	フラスコ状	SK6290→SI608	206	67	268	－	縄文（大木8a）	SK290
6291	J－16	不整円形	154×148・105	フラスコ状	－	206	67	268	－	縄文（大木8a・b）	SK291
6292	H・G－9	(円形)	155×〈152〉・84	フラスコ状	SK6293→SK6292→SI607、SK6303、ピット	206	67	268・318	188	縄文（大木8b）	SK292

第32表　SK土坑一覧表（４）

番号	グリッド	平面形	規　模(cm) (長軸×短軸・深さ)	断面形	重複関係（旧→新）	遺構		遺物		時　期	旧遺構 名称
						挿　図	写　真	挿　図	写　真		
6293	H－９	円形	220×190・100	フラスコ状～朝顔形	SK6293→SK6292→SI607	206	67・68	268	－	縄文（大木8a）	SK293
6294	J－16	不整円形	91×85・30	U字形	－	697	－	－	－	古代～	SK294
6295	I－９	隅丸長方形	140×61・47	逆台形	SK6254→SK6295	697	－	－	－	古代	SK295
6296	G－11・12	楕形	130×116・40	皿形	SK6298→SK6296	206	－	268	－	縄文（大木8a・b）	SK296
6297	H－８	(楕円形)	196×（162）・47	逆台形	SK6297→SK6275・6276→SK6261	207	68	268	188	晩期	SK297
6298	G－12	楕円形	160×141・61	フラスコ状	SK6298→SK6296	207	68	270	－	縄文（大木8a）	SK298
6299	G－11	(円形)	143×（72）・111	フラスコ状	SK6299→SK6229・6300	207	－	270	－	縄文（大木8a）	SK299
6300A	G－11	溝状	(280) ×98・91	箱形	SK6181・6221・6284・6299→SK6300	697	124	703	261	古代	SK300
6300B			490×80・111	箱形							
6301	E－21	(円形)	135×（45）・20	皿形	SX625→SK6301	697	－	－	－	古代	SK301
6302	H・I－８	円形	190×181・53	フラスコ状～円筒形	SK6302→SK6275	207	68	270・318	189	縄文（大木8a・b）	SK302
6303	G－９	(円形)	120×（61）・32	円筒形	SK6292→SK6303	207	－	－	－	縄文	SK303
6304	H－８	(長方形)	(127) ×（65）・72	U字形	SK6305・6310→SK6304	697	－	－	－	古代～	SK304
6305	H－８	隅丸長方形	(158) ×88・81	U字形	SK6310→SK6305→SK6304	698	－	－	－	古代～	SK305
6306	H－８	隅丸長方形	154×118・53	U字形	SK6306→ピット	698	－	－	－	古代～	SK306
6307	J－15	楕形	144×99・32	箱形	－	698	124	－	－	古代～	SK307
6308	J－８	楕円形	95×49・33	U字形	－	698	－	－	－	古代～	SK308
6309	J－15	円形	145×150・82	フラスコ状～円筒形	SK6309→SX640	207	68	270・318	189・204	縄文（大木8b）	SK309
6310	H－８	(円形)	160×（100）・84	フラスコ状	SK6310→SK6304・6305・6311	207	－	－	－	縄文	SK310
6311	H－７・８	(円形)	(137) ×（100）・58	フラスコ状～円筒形	SK6300→SK6311→ピット	208	－	273	－	縄文（大木8b）	SK311
6312	K－14	楕円形	280×227・54	円筒形	SK6312→SD609、SX640	208	68	271・272・318	188・204	縄文（大木8a）	SK312
6313	K－14	円形	155×144・99	円筒形	SK6313→SD609、SX640	208	69	273	189	縄文（大木8a・b）	SK313
6314	K－15	楕円形	198×170・23	箱形	SK6314→SK6201、SX640	208	－	－	－	縄文	SK314
6315	G－12	円形	202×175・123	フラスコ状	SK6287・6324・6325→SK6315→ピット	208	69	273	189	縄文（大木8a）	SK315
6316	F－15	楕円形	78×65・12	皿形	－	698	－	－	－	近世～	SK316
6317	H－９	隅丸長方形	133×72・19	皿形	SK6317→SK6242	698	－	－	－	古代以降	SK317
6318	I－８	隅丸長方形	152×58・37	箱形	SK6123・6124→SK6318	698	－	－	－	古代～	SK318
6319	F－15	(円形)	100×（49）・54	円筒形	SK6319→SI614	208	－	－	－	縄文	SK319
6320	H－14	(楕円形)	(138) ×125・77	逆台形	SK6320→SK6125～6127	209	－	－	－	縄文	SK320
6321	J－８	楕円形	128×80・46	箱形	－	698	－	－	－	古代	SK321
6322	G－11	(円形)	(92) ×（52）・12	皿形	SK6322→SK6180	209	－	－	－	縄文	SK322
6323	G－12	円形	77×66・38	U字形	－	209	－	273	189	縄文（大木8a）	SK323
6324	G－12	(円形)	295×（60）・43	箱形	SK6287・6325→SK6324→SK6300・6315	209	－	274・319	189	縄文（大木8a）	SK324
6325	G－12	(円形)	141×（45）・70	フラスコ状	SK6325→SK6287・6324→SK6315	209	－	－	－	縄文	SK325
6326	F－33	円形	127×125・40	フラスコ状	－	209	70	274・319	189・204	縄文（大木8a）	３区SK１
6327	E－32・33	(円形)	(123) ×（110）・103	フラスコ状	－	209	－	274・320	189・204	縄文（大木8a）	３区SK２
6328	L・M－12	円形	142×138・13	皿形	SK6329→SK6328	209	70	－	－	縄文	６次追加SK２
6329	M－12・13	円形	139×134・29	箱形	SK6329→SK6328	209	70	274	－	縄文	６次追加SK３
6330	M－11	円形	143×141・57	フラスコ状～円筒形	SK6341→SK6330	210	70	274・320	189・204	縄文（大木8a）	６次追加SK４
6331	M－11	円形	119×110・48	フラスコ状	－	210	70	－	－	縄文	６次追加SK５
6332	M－11	円形	145×137・52	フラスコ状	－	210	71	－	－	縄文	６次追加SK６
6333	M－11	円形	140×138・33	フラスコ状	－	210	71	－	－	縄文	６次追加SK７
6334	M・N－10	円形	138×138・42	箱形	－	210	71	－	－	縄文	６次追加SK８
6335	M－10	不整楕円形	134×118・24	フラスコ状	－	210	71	－	－	縄文	６次追加SK９
6336	N－９	卵形	130×110・９	皿形	－	210	－	－	－	縄文	６次追加SK10
6337	L－15	(円形)	110×（58）・72	円筒形～朝顔形	－	210	71	－	－	縄文	６次追加SK11
6338	L－13	不整円形	129×124・28	フラスコ状	－	210	72	－	－	縄文	６次追加SK12
6339	M－10	円形	138×128・42	フラスコ状	－	211	72	－	－	縄文	６次追加SK13
6340	M－10	不整円形	145×130・18	円筒形	－	211	72	－	－	縄文	６次追加SK14
6341	M－11	(円形)	140×（120）・23	円筒形	SK6341→SK6330	211	－	－	－	縄文	６次追加SK15
7001	E－34	不整円形	123×118・13	箱形	SK7006→SK7001	212	73	275	－	縄文（大木8a）	SK１
7002	D－42・43	不整楕円形	179×167・24	箱形	－	212	73	275	－	縄文	SK２
7003	D－41	楕円形	144×90・15	皿形	SI707→SK7003	212	－	275	－	縄文（大木8a・b）	SK３
7004	D－42・43	楕円形	149×117・16	皿形	－	212	73	275	－	縄文（大木8b）	SK４
7005	F・G－43	楕円形	145×95・20	皿形	－	212	73	275・321	190・204	縄文（大木9）	SK５
7006	E－34	楕円形	(123) ×99・12	皿形	SK7006→SK7001	212	74	－	－	縄文	SK６
7007	F－35	隅丸方形	116×100・14	皿形	－	212	74	－	－	縄文	SK７
7008	D・E－37	不整円形	90×78・48	フラスコ状	SK7017→SK7008	212	74	276・321	190・204	縄文（大木9）	SK８
7009	G－42	楕円形	104×72・11	皿形	－	212	74	－	－	縄文	SK９
7010	F・G－42	隅丸長方形	118×73・10	皿形	－	213	74	－	－	縄文	SK10
7011	F－41	楕円形	98×69・29	皿形	SK7011→ピット	213	75	277	191	後期	SK11
7012	F・G－42	隅丸長方形	132×88・19	皿形	－	213	75	－	－	縄文	SK12
7013	G－35	不整円形	112×96・11	皿形	－	213	75	275	－	縄文（大木9・10）	SK13
7014	G－40	不整円形	92×89・17	皿形	SK7020→SK7014	213	75	275	－	縄文	SK14
7015	F－36	不整楕円形	108×94・47	円筒形	SX726→SK7015	213	76	278・321	191・204	縄文（大木10）	SK15
7016	E－38	不整円形	123×112・47	フラスコ状	SK7016→SI709	213	76	275	－	縄文	SK16
7017	D－37	楕円形	154×116・17	皿形	SK7017→SK7008	213	74	－	－	縄文	SK17
7018	G－38	不整円形	95×89・17	皿形	－	213	76	－	－	縄文	SK18
7019	G－41・42	(楕円形)	101×（75）・10	皿形	SK7019→SI710	214	－	－	－	縄文	SK19
7020	F－40	楕円形	80×56・33	円筒形	SK7020→SK7014	214	76	－	－	縄文	SK20
7021	F－39	不整楕円形	83×70・７	皿形	－	214	77	－	－	縄文	SK21
7022	F－39	不整楕円形	67×59・８	皿形	－	214	77	278	190	縄文（大木8a）	SK22
7023	F－38	不整円形	56×53・17	皿形	－	214	77	－	－	縄文	SK23
7024	B－64・65	楕円形	217×203・32	皿形	－	699	125	－	－	古代～	SK24
7025	B・C－64	隅丸方形	200×192・31	皿形	SK7026→SK7025	699	125	－	－	古代～	SK25
7026	B・C－64	(隅丸方形)	200×（141）・30	皿形	SK7026→SK7025	699	125	－	－	古代～	SK26
7027	B－62	円形	99×90・26	フラスコ状	－	214	77	－	－	縄文	SK27
7028	C・D－62・63	円形	102×98・45	フラスコ状	－	214	77	－	－	縄文	SK28
7029	D－59	楕円形	115×102・92	フラスコ状	－	214	77	278	190	縄文（大木9・10）	SK29
7030	A－65	(楕円形)	(70) ×（48）・32	皿形	－	214	77	278	－	縄文（大木8a・b）	SK30
7031	C・D－59	円形	136×131・114	円筒形	－	215	78	279	190	縄文（大木9）	SK31
7032	C－58・59	不整円形	153×133・46	フラスコ状	－	215	78	－	－	縄文	SK32
7033	C・D－58・59	楕円形	140×128・102	フラスコ状	－	215	78	279・321	190・204	縄文（大木10）	SK33
7034	C－58	不整円形	115×113・79	フラスコ状	－	215	79	－	－	縄文	SK34
7035	C－58	不整円形	97×92・15	皿形	－	215	－	－	－	縄文	SK35
7036	C－57	円形	115×118・14	皿形	－	215	－	－	－	縄文	SK36
7037	E－54	円形	123×114・50	フラスコ状	－	215	79	280・321	192・204	後期	SK37
7038	E－47	円形	114×（95）・11	皿形	－	215	80	－	－	縄文	SK38
7039	E－48	不整円形	165×156・45	フラスコ状	－	215	80	279	191	縄文（大木10）	SK39
7040	E－48	円形	83×80・59	フラスコ状	－	216	80	279	－	縄文（大木8a）	SK40
7041	E－49	不整楕円形	154×142・52	皿形	－	216	80	279	191	縄文（大木8b）	SK41
7042	E－49	楕円形	102×81・67	フラスコ状	－	216	81	282	191	縄文（大木8a）	SK42
7043	D・E－48	不整円形	118×108・84	フラスコ状	－	216	81	281・282・321	192	縄文（大木8a）	SK43
7044	D・E－49・50	円形	177×176・82	(フラスコ状)	－	216	82	282	192	縄文（大木8a）	SK44
7045	E－50	不整円形	105×100・45	円筒形	－	216	80	282	191	縄文（大木8a）	SK45
7046	D－52・53	円形	200×196・18	皿形	－	217	82	282	－	縄文（大木8a）	SK46
7047	B・C－57・58	不整楕円形	132×102・38	円筒形	－	217	82	282	191	縄文（大木10）	SK47
7048	B・C－57	不整楕円形	145×125・70	U字形	－	217	82	282	－	縄文（大木10）	SK48
7049	B－54	(円形)	124×（84）・70	フラスコ状	－	217	82	－	－	縄文	SK49
7050	B・C－49	円形	119×109・22	皿形	SK7071→SK7050	217	82	283	193	縄文（大木8a）	SK50
7051	D－48	不整円形	82×78・75	フラスコ状	－	217	83	284	193	縄文（大木8a）	SK51
7052	D－49	不整円形	78×70・47	フラスコ状	－	217	83	283・322	192・204	縄文	SK52
7053	B・C－56	不整楕円形	143×124・72	U字形	－	218	83	－	－	縄文	SK53
7054	B－58	楕円形	140×125・38	フラスコ状	－	218	83	－	－	縄文	SK54
7055	C－52	楕円形	195×168・12	皿形	SK7056→SK7055	218	83	283・322	193・204	縄文（大木8a）	SK55
7056	C－52	(円形)	147×（89）・８	皿形	SK7056→SK7055	218	83	－	－	縄文	SK56
7057	C－47	不整円形	98×87・54	フラスコ状	ピット→SK7057	218	84	285	194	縄文（大木8a）	SK57
7058	C・D－52	不整円形	203×187・37	円筒形	－	218	83・84	285・323	194・204	縄文（大木8a・b）	SK58
7059	D－47	不整円形	103×97・23	皿形	－	218	84	285	194	縄文（大木8a）	SK59
7060	C・D－48	円形	87×81・86	フラスコ状	－	218	85	286～288・323	194・204	縄文（大木8a）	SK60
7061	D－48	円形	78×74・68	フラスコ状	SK7064→SK7061	218	84	285	194	縄文	SK61
7062	D－48	瓢形	223×159・29	皿形	SK7063→SK7062	219	84	288～290	195	縄文（大木8a）	SK62
7063	D－48	円形	84×67・78	フラスコ状	SK7063→SK7062	219	85	290・323	195・205	縄文（大木8a）	SK63
7064	D－48	不整形	(156) ×89・22	皿形	SK7064→SK7061	219	－	290	195	縄文（大木8a）	SK64
7065	D－46	隅丸長方形	123×71・51	箱形	－	219	86	－	－	縄文	SK65
7066	E－46	楕円形	78×65・14	皿形	－	699	－	－	－	古代～	SK66
7067	F－46	(円形)	146×（81）・35	逆台形	－	219	86	－	－	縄文	SK67
7068	F－45	楕円形	113×93・13	皿形	ピット→SK7068	219	86	290	195	縄文	SK68

第33表　SK土坑一覧表（５）

番号	グリッド	平面形	規　模(㎝) (長軸×短軸・深さ)	断面形	重複関係（旧→新）	遺構		遺物		時　期	旧遺構 名称
						挿　図	写　真	挿　図	写　真		
7069	D－50	楕円形	147×131・32	皿形	ＳＫ7069→ピット	219	－	－	－	縄文	SK69
7070	D・E－52	円形	(169) ×190・99	フラスコ状	SK7070→SI715	220	86	290・323	195・205	縄文（大木8a)	SK70
7071	B・C－49	(楕円形)	(104) ×（93）・23	皿形	SK7071→SK7050	220	－	291・324	196・205	縄文（大木9)	SK50
7072	E－51・52	楕円形	123×90・52	箱形	SI715・716・718→SK7072	220	－	－	－	縄文	SK72
7073	E－51	不整円形	90×75・65	フラスコ状	SK7073→SI716	220	86	－	－	縄文	SK73
7074	E－51	楕円形	125×95・50	箱形	SI716→SK7074	220	86	290	195	縄文	SK74
7075	E－52	(楕円形)	130×（74）・28	皿形	SK7075→SI715複式炉	220	87	290	195	縄文（大木8a・b)	SK75
7076	I－27・28	楕円形	190×146・25	皿形	－	220	87	290	195	縄文（大木9)	3ESK 1
7077	I－27	不整楕円形	106×99・13	皿形	－	220	87	－	－	縄文	3ESK 2
7078	G－27	円形	110×（105）・43	円筒形	－	221	87	292・323	198・205	縄文（大木8a・b)	3ESK 3
7079	H－29	楕円形	162×141・12	箱形	－	221	87	292	198	縄文	3ESK 4
7080	G・H－27	(楕円形)	224×（189）・59	皿形	SI602・SK7081→SK7080	221	－	291	196	縄文（大木9)	3ESK 5
7081	H－27	円形	137×134・53	フラスコ状	SK7081→SK7080・SI601・602	221	87	－	－	縄文	3ESK 6
7082	G・H－30	楕円形	163×（96）・32	箱形	SK7082→SI722	221	88	－	－	縄文	3ESK 7
7083	E－31	不整楕円形	200×121・43	皿形	ＳＫ7083→ピット	221	88	325・326	205	縄文	3ESK 8
7084	G－28	(円形)	129×（97）・43	フラスコ状	－	221	88	－	－	縄文	3ESK 9
7085	G－28	(円形)	120×（59）・45	フラスコ状	－	222	88	295・326	197・198・205	縄文（大木8a)	3ESK10
7086	F・G－30	(楕円形)	143×（107）・37	箱形	－	222	87	293	197	縄文（大木8b)	3ESK11
7087	F・G－31	楕円形	178×122・68	フラスコ状	－	222	88	294・326	205	縄文（大木8a)	3ESK12
7088	F－31・32	(円形)	(244) ×（90）・62	皿形	SX754→SK7088	222	－	292	196	縄文（大木10)	3ESK13
7089	F－35	不整楕円形	125×102・11	皿形	－	222	111	295・326	198・205	縄文（大木9・10)	SX36

第34表　SX一覧表（１）

番号	グリッド	遺構内容	平面形	規模 (長軸×短軸・深さ)㎝	重複関係 (旧→新)	備　考	遺　構		遺　物		時期	旧遺構 名称
							挿　図	写　真	挿　図	写　真		
601	G-26	焼土跡	不整形	84×60・6	－	－	328	－	－	－	縄文	SX 1
602	G-26	焼土跡	不整形	45×41・6	－	－	328	－	－	－	縄文	SX 2
603	F-21	埋設土器	円形	39×37・8	SX625→SX603	埋設状況：正位	345	89	349	206	大木8a・b	SX 3
604	F-21	埋設土器	円形	28×26・22	SX625→SX604	埋設状況：正位	345	89	349	206	大木8a	SX 4
605	J-22・23	風倒木痕	不整形	510×（230）・－	SI605、SK6009・6020→SX605	－	－	－	－	－	縄文	SX 5
606	H-21・22	埋設土器	円形	27×25・11	SK6038→SX606	埋設状況：正位	345	89	350	206	大木8b	SX 6
607	I-22	埋設土器	円形	26×26・16	SK6088→SX607	埋設状況：逆位	345	89	350	206	大木8a	SX 7
608	K-18	埋設土器	円形	23×23・14	－	埋設状況：正位	345	89	351	206	縄文	SX 8
609	K-18	埋設土器	円形	39×36・12	－	埋設状況：逆位	345	89	351	206	大木8a	SX 9
610	K-18	埋設土器	円形	40×40・15	－	埋設状況：正位	345	89	351	206	縄文	SX10
611	J-18	埋設土器	円形	30×28・12	－	埋設状況：正位	345	89	351	206	縄文	SX11
612	H-21	焼土跡	不整楕円形	76×40・5	－	－	329	－	－	－	縄文	SX12
613	H-21	焼土跡	不整楕円形	80×62・8	－	－	329	－	－	－	縄文	SX13
614	H-21	焼土跡	不整楕円形	95×78・5	－	－	329	－	－	－	縄文	SX14
615	H-21	焼土跡	円形	36×35・6	－	－	329	－	－	－	縄文	SX15
616	H・I-21	焼土跡	楕円形	48×20・4	－	－	329	－	－	－	縄文	SX16
617	I-21	焼土跡	不整楕円形	25×10・3	－	－	329	－	－	－	縄文	SX17
618	H-21	焼土跡	楕円形	30×17・4	－	－	329	－	－	－	縄文	SX18
619	G-20	埋設土器	円形	16×14・10	SX620→SX619	埋設状況：逆位	345	89	349	206	大木8b	SX19
620	G-20	埋設土器	円形	30×30・16	SX620→SX619	埋設状況：逆位	345	89	349	－	大木8b	SX20
621	I-25	焼土跡	長楕円形	43×32・6	－	－	330	－	－	－	縄文	SX21
622	G-19	合わせ甕棺	－	－	－	SK6059A 土坑内。	177	37	244	177	縄文	SX22
623	H-23	焼土跡	楕円形	72×46・7	－	－	331	－	－	－	不明	SX23
624	F-18	性格不明遺構	楕円形	65×32・12	SX624→SK6051	SK6051土坑関連か？	711	－	－	－	古代	SX24
625	E-21・F-20・21、G-19・20	溝状の落ち込み	不整形・溝状	1680×70～240・4～62	SK6083→SX625→SK6051・6085、SD610	土器・石器多量出土。	371・372	97～100	376～413・505～513	210～214・225～227	大木8a・b	SX25
626	H・I-19、J-18・19、K-18	溝状の落ち込み	隅丸方形が連結した溝状	1390×170～240・36～56	SK6100→SX626→SK6060	土器・石器多量出土。	373・374	101～105	414～492・513～526	215～223・225・228～231	大木8a・b	SX26
627	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
628	G・H-13・14	性格不明遺構	歪んだ方形	2.8×（2.4）・40	SK6194・6195・6228→SX628→SD608、ﾋﾟｯﾄ	－	711	－	712	262・263	近世	SX28
629	欠番	－	－	－	－	ＳＩ607のＰ６に変更。	－	－	－	－	－	SX29
630	欠番	－	－	－	－	ピットに変更。	－	－	－	－	古代	SX30
631	欠番	－	－	－	－	ピットに変更。	－	－	－	－	古代	SX31
632	K-8・9	風倒木痕	不整形	－	－	SK188を振り替え。SX32→SK187	－	－	－	－	縄文	SX32
633	I-12	焼土跡	楕円形		SX633→SI608、SD608、ﾋﾟｯﾄ	－	709	－	－	－	古代～	SX33
634	H-9	焼土跡	不整形	148×65・5	SX635→SI607		709	－	－	－	古代～	SX34
635	欠番	－	－	－	－	SI607ピットに変更。	－	－	－	－	－	SX35
636	欠番	－	－	－	－	SI714掘り方に変更。	－	－	－	－	古代	SX36
637	I-19・20	遺物集中１	－	－	－	SX625最上層遺物。	－	－	－	－	縄文	－
638	J・K-17～19	遺物集中２	－	－	－	SX626・SK6065最上層遺物。	－	－	－	－	縄文	－
639	K-19・20	溝状の落ち込み	(隅丸方形)	(240) ×220・42～70	SX639→SD604	土器・石器多量出土。	375	106	493～500・527～529	223～225・231	大木8a・b	SK65
640	H・I-10	性格不明遺構	隅丸方形	455×140・20	SX640→SI606、ﾋﾟｯﾄ	住居掘り方の一部または竪穴遺構の可能性有り。	711	－	－	－	古代～	SI 9
641	G-11	性格不明遺構	楕円形	210×130・32	SK6300→SX641	住居掘り方の一部または竪穴遺構の可能性有り。	711	－	710	262	古代～	SI10
701	F・G-36・37	集石	－	全体：400×200・－ 集中部Ａ：51×22・－ 集中部Ｂ：100×20・－ 集中部Ｃ：95×19・－	－	－	368	96	369	209	縄文	SX 1
702	F-43	埋設土器	楕円形	53×44・24	－	埋設状況：正位。	346	90	352	207	縄文	SX 2
703	E-42	埋設土器	円形	40×40・39	－	埋設状況：斜位。	346	90	352	207	大木 9	SX 3
704	F-41	埋設土器	楕円形	52×46・36	SI702→SX704	埋設状況：横位。	346	90	353	207	大木10	SX 4
705	F-41	埋設土器	楕円形	51×46・19	ピット→SX705	埋設状況：横位。	346	90	354	207	大木 9	SX 5
706	F-40	埋設土器	楕円形	68×53・16	ピット→SX706	埋設状況：横位、上位に礫。	346	90	355	207	大木 9	SX 6
707	G-40	埋設土器	円形	60×58・30	－	埋設状況：正位。	346	91	356	207	大木10	SX 7
708	G-41	埋設土器	円形	29×27・18	SI710→SX708	埋設状況：正位。	346	91	356	－	縄文	SX 8
709	F-40	埋設土器	楕円形	50×38・38	SX710、ピット→SX709	埋設状況：正位。	346	92	352	207	大木10	SX 9
710	F-40	埋設土器	楕円形	56×44・39	ピット→SX710→SX709	埋設状況：正位。	346	92	357	208	大木 9	SX10
711	F-39	埋設土器	楕円形	64×48・38	－	埋設状況：正位、東側に集石。	346	91	358・359	207	大木8b	SX11
712	E-40	埋設土器	円形	56×51・18	－	埋設状況：横位。	347	92	360	－	大木8b	SX12
713	D-42	埋設土器	楕円形	78×70・28	－	埋設状況：横位。	347	－	361	208	大木 9	SX13
714	F-41	配　石	－	130×30・－	－	－	366	95	367	209	縄文	SX14
715	F-40	埋設土器	楕円形	78×68・26	－	埋設状況：横位。	348	91・95	362	208	大木8b	SX15
716	E-44	風倒木痕	不整形	350×180・－	SX716→SX718	－	－	－	－	－	縄文	SX16
717	D-43、E-43・44	風倒木痕	不整形	400×130・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX17
718	E-43・44	風倒木痕	不整形	420×150・－	SX716→SX718	－	－	－	－	－	縄文	SX18
719	F-41	配　石	－	150×30・－			366	95	－	－	縄文	SX19
720	D-42、E-42・43	風倒木痕	不整形	270×210・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX20
721	G-42	配　石	－	140×50・－	－	－	366	95	367	209	大木 9	SX21
722	F-39	配　石	－	150×130・－	－	－	366	－	367	209	縄文	SX22
723	F-41	埋設土器	円形	44×42・22	ピット→SX723	埋設状況：正位。	347	92	360	－	縄文	SX23
724	F-40	埋設土器	円形	44×40・13	－	埋設状況：正位。	347	92	362	－	大木8a・b	SX24
725	G-39	凹　み	楕円形	160×100・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX25
726	F-36	埋設土器	円形	78×75・32	SX726→SK7015	埋設状況：斜位。	347	93	363	208	大木 9	SX26
727	F-36	埋設土器	楕円形	64×54・40	－	埋設状況：正位。	348	93	364	208	大木 9	SX27
728	G-36	埋設土器	楕円形	49×40・14	－	埋設状況：横位。	348	92	359	208	大木8a	SX28
729	F-44・45	風倒木痕	不整形	270×30・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX29
730	E-38	焼土跡	不整楕円形	84×60・15	－	－	332	94	－	－	縄文	SX30
731	F-36・37、G-36	焼土跡	楕円形	100×88・20	－	－	333	94	342・343	209	大木8a	SX31
732	D・E-37	風倒木痕	楕円形	90×70・－	SK7017→SX732	－	－	－	－	－	縄文	SX32
733	欠番	－	－	－	－	SI12Ｂ竪穴住居跡炉跡に変更。	－	－	－	－	－	SX33
734	F・G-34・35	焼土跡	楕円形	150×115・9	－	－	334	－	－	－	縄文	SX34
735	E-36	風倒木痕	不整形	740×350・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX35
736	欠番	－	－	－	－	SK7089土坑に変更。	－	－	－	－	縄文	SX36
737	G-36・37	風倒木痕	不整形	280×240・－	SI711との新旧不明。		－	－	－	－	縄文	SX37
738	F-37	石器集中部				SI705竪穴住居跡内。	72	16	79・80	144	縄文	SX38
739	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	SX39

第35表　SX一覧表（２）

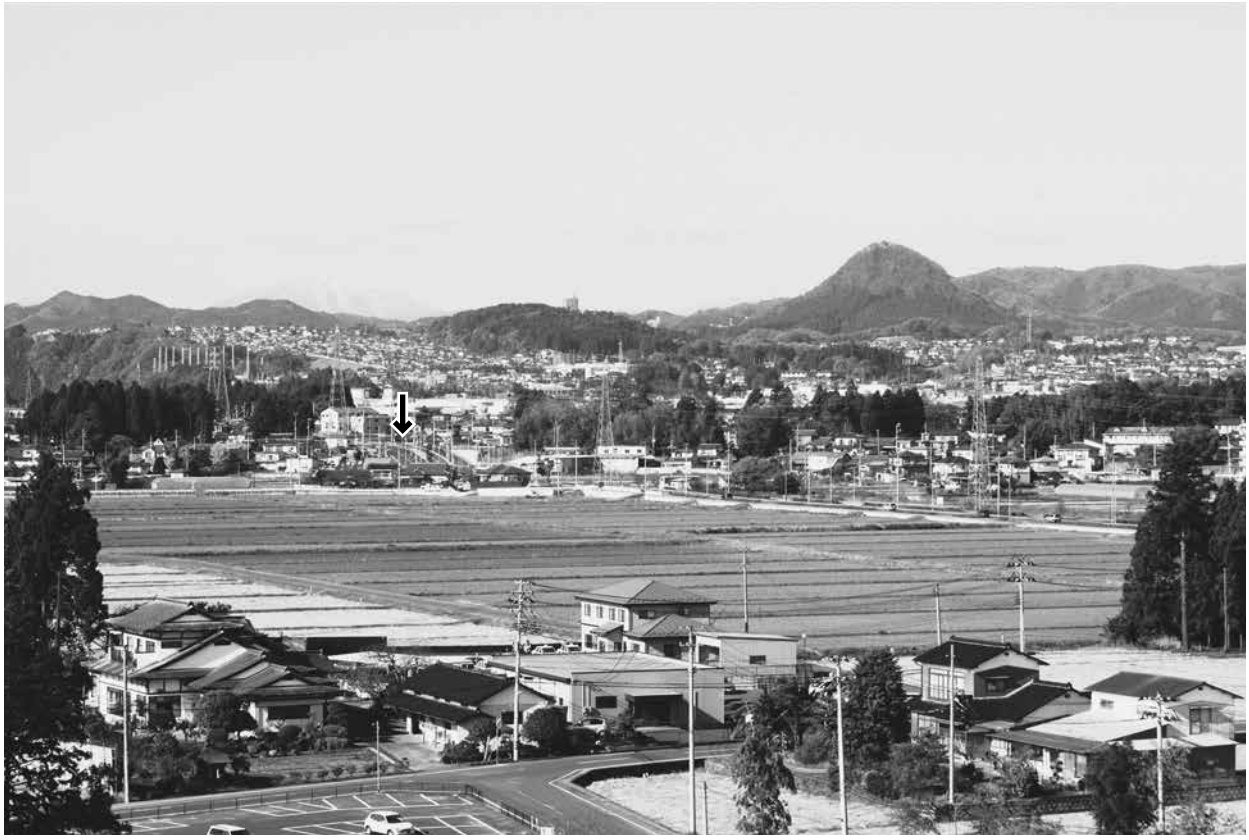
番号	グリッド	遺構内容	平面形	規模 （長軸×短軸・深さ）cm	重複関係 （旧→新）	備　考	遺　構		遺　物		時期	旧遺構 名称
							挿　図	写　真	挿　図	写　真		
740	E-36	風倒木痕	不整形	112×100・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX40
741	D-38	風倒木痕	不整形	160×40・－	SI703との新旧不明。	－	－	－	－	－	縄文	SX41
742	E-54	凹み	楕円形	<150> ×110・35	SX742→ SD703	－	711	－	－	－	近世～	SX42
743	B-56	凹み	－	－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX43
744	欠番	－	－	－	－	SI719に変更。	－	－	－	－	－	SX44
745	F-45・46	風倒木痕	不整形	270×160・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX45
746	E・F-46	焼土跡	不整形	220×132・18	－	－	335	94	－	－	縄文	SX46
747	D・E-45・46	風倒木痕	不整形	700×460・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX47
748	E-30・31	焼土跡	A：不整楕円形 B：不整楕円形	A：80×57・12 B：162×105・20	－	－	336	－	－	－	縄文	SX48
749	E-29	焼土跡	楕円形	95×75・20	－	－	337	－	－	－	縄文	SX49
750	E-29	焼土跡	楕円形	42×26・10	－	－	337	－	－	－	縄文	SX50
751	E-29	埋設土器	円形	40×42・38	－	埋設状況：正位。	348	93	365	208	縄文	SX51
752	H-28	風倒木痕	不整形	363×238・－	SI726→ SX752→ SI720	－	－	－	－	－	縄文	SX52
753	I-29	焼土跡	楕円形	90×52・15	－	－	338	－	－	－	縄文	SX53
754	F-31・32	風倒木痕	－	－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX54
755	E-28	焼土跡	不整楕円形	(85) ×84・18	－	－	339	94	－	－	縄文	SX55
756	G-28	焼土跡	不整形	73×40・6	－	－	340	94	－	－	縄文	SX56
757	G-27	焼土跡	A：楕円形 B：楕円形 C：三日月形	A：30×23・5 B：50×30・7 C：75×40・7	－	－	341	－	－	－	縄文	SX57
758	E・F-28	風倒木痕	不整形	440×340・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX58
759	F・G-29・30	風倒木痕	不整形	740×560・－	－	－	－	－	－	－	縄文	SX59
760	E-28・29	遺物集中区	－	－	－	－	－	107	－	－	大木8a	－

第36表　SD一覧表

番号	グリッド	規模 （長軸×短軸・深さ）m	重複関係 （旧→新）	主軸方向	遺　構		遺　物		時期	旧遺構 名称
					挿　図	写　真	挿　図	写　真		
601	G-26	1.02×0.14～0.22・0.11～0.15	－	N－31°－W	706・707	－	－	－	近世～	SD 1
602	G-26	1.5×0.1～0.27・0.12～0.15	－	N－34°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD 2
603	H-22～G-21	3.05×0.32～0.39・0.08～0.14	－	N－39°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD 3
604	K～J-19	5.75×0.32～0.6・0.0 7 ～0.16	－	N－42°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD 4
605	K-17～J-16	(7.9×0.35～0.87・0.16～0.31	－	N－45°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD 5
606	F-15～H-13	(13.5) ×0.36～0.77・0.16～0.23	SD607・608→ SD606	N－47°－W	706・707	－	－	－	近世～	SD 6
607	F-14	2.2×0.43～0.51・0.13	SD607→ SD606	N－21°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD 7
608	G-14～K-9	28.5×0.39～1.25・0.14～0.34	SD608→ SD606	N－52°－W	706・707	－	708	262	近世～	SD 8
609	K-15～J-13	9.7×0.27～0.77・0.04～0.10	－	N－44°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD 9
610	J-25～E-20	30.7×0.38～1.88・0.17～0.60	－	N－42°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD10
611	I-25～H-24	13.5×0.16～0.80・0.12～0.17	－	N－43°－E	706・707	－	－	－	近世～	SD11
701	D-35～H-34	19.2×0.20～0.87・0.10～0.14	－	N－ 9 °－W	706・707	126	－	－	近世～	SD 1
702	D-38～H-36	18.7×0.15～0.98・0.05～0.18	－	N－16°－W	706・707	126	－	－	近世～	SD 2
703A	D-65～B-62	14.9×0.20～1.97・0.23～0.46	－	N－68°－W	706・707	126	－	－	近世～	SD 3
703B		－×－・0.18～0.50	－	N－68°－W	706・707	126	－	－	近世～	SD 4
704	E-32～F-31	4.4×0.28～1.00・0.03～0.16	－	N－31°－W	706・707	126	－	－	近世～	3区 SD1

写　真　図　版

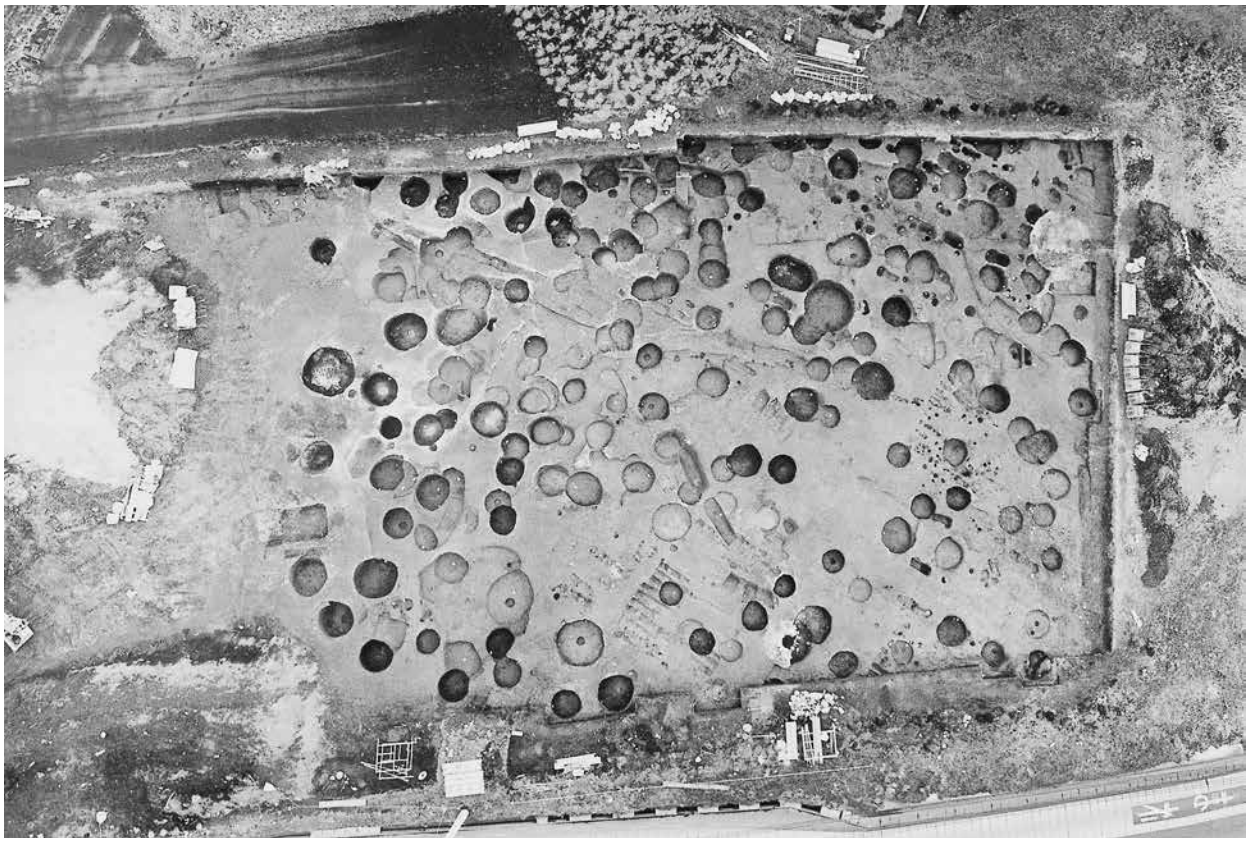
1．遺跡遠景（上空南から）



2．遺跡全景（東から）

写真図版１　遺跡遠景

1．第６次調査１区全景（上空から、写真上が北）



2．第６次調査２区全景（上空から、写真上が北）

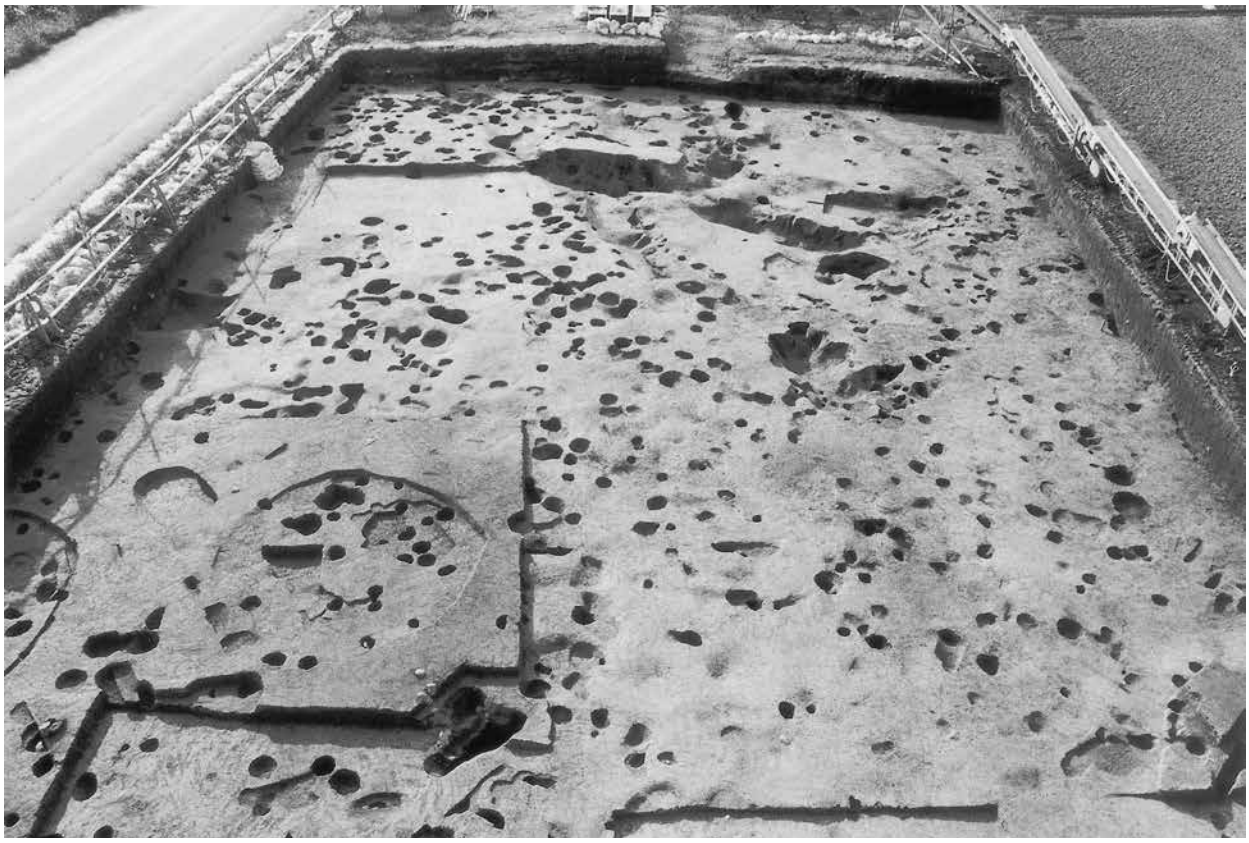
写真図版２　第６次調査全景

1．第６次調査１区全景（東から）

2．第６次調査２区全景（西から）

写真図版３　第６次調査全景

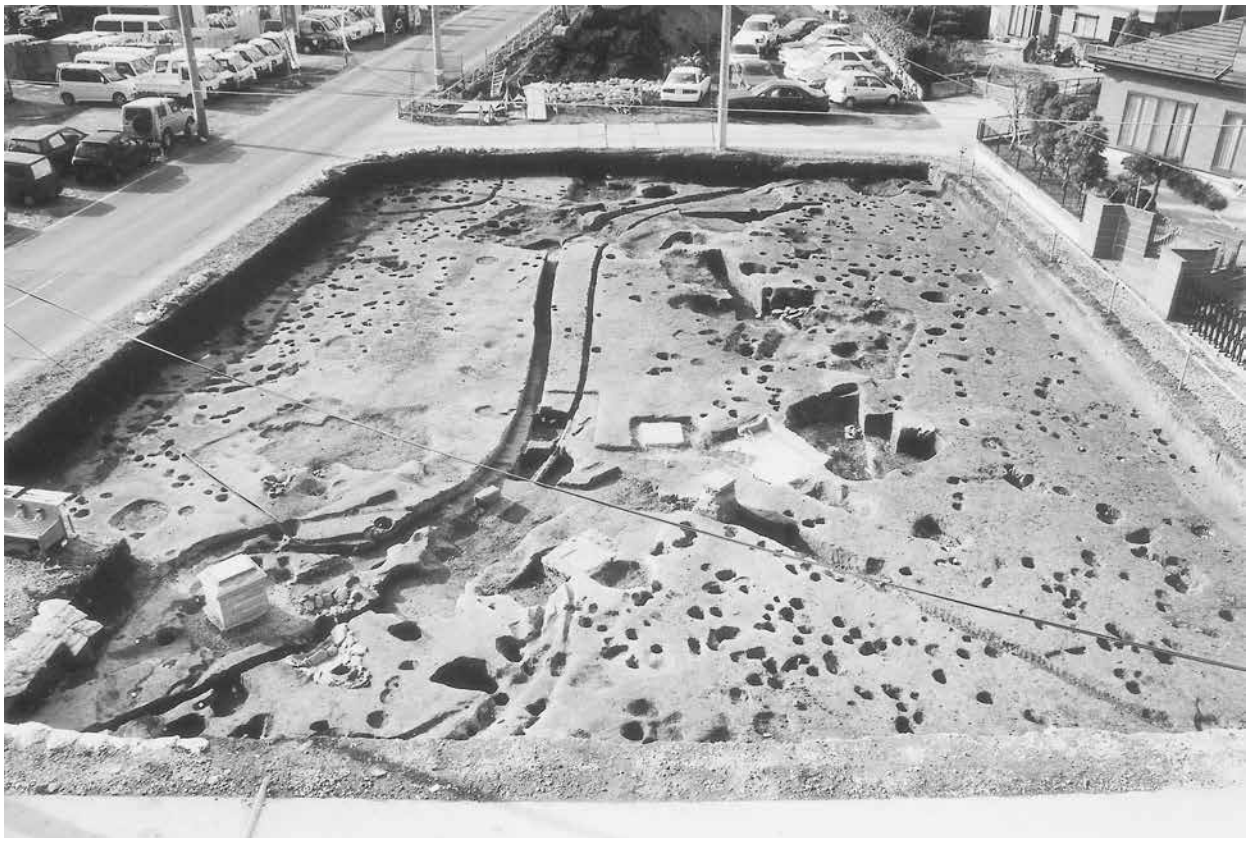
1．第７次調査１区全景（東から）



2．第７次調査１区西側全景（東から）

写真図版４　第７次調査全景

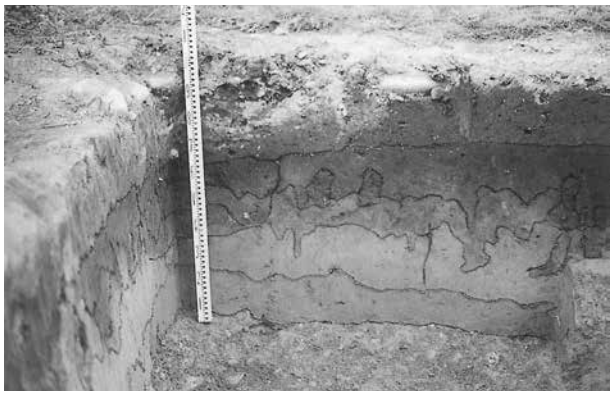
1．第７次調査２区全景（東から）



2．第７次調査３区全景（東から）

写真図版５　第７次調査全景

1．第６次追加調査区全景（西から）



2．第６次・第７次調査基本土層（Ａ－65 グリッド北壁、南から）

3．第６次・第７次調査基本土層（Ｆ－23 グリッド南壁、北から）

4．第６次・第７次調査基本土層（Ｊ－20 グリッド南壁、北から）

写真図版６　第６次調査区全景・基本土層

1．ＳＩ 601（上）・ＳＩ 602（下）竪穴住居跡全景（南西から）

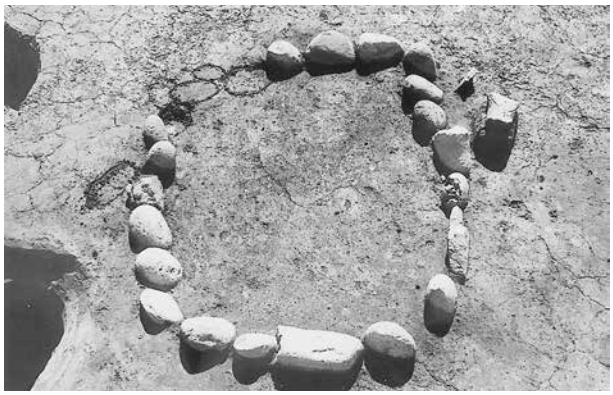
2．ＳＩ 601・602 竪穴住居跡複式炉全景（南西から）

3．ＳＩ 602 竪穴住居跡複式炉全景（西から）

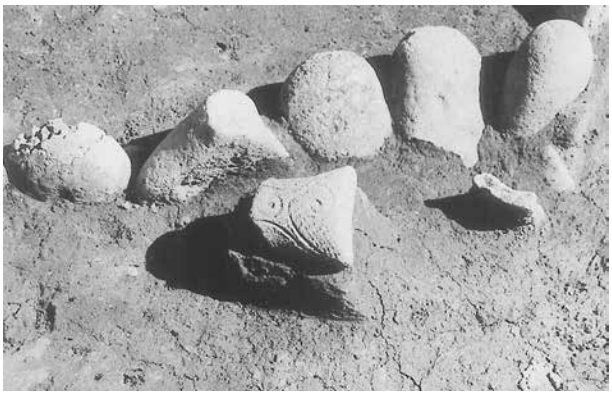
4．ＳＩ 602 竪穴住居跡複式炉土層断面（北から）

写真図版 7　縄文時代竪穴住居跡

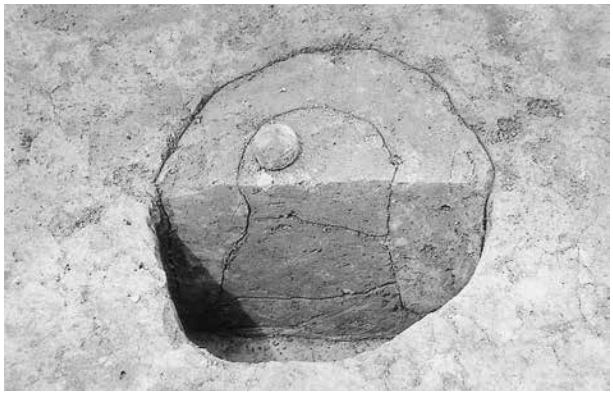
1．ＳＩ 604 竪穴住居跡全景（北から）



2．ＳＩ 604 竪穴住居跡炉全景（北から）



3．ＳＩ 604 竪穴住居跡炉遺物（P-607）出土状況（西から）



4．ＳＩ 604 竪穴住居跡ピット 14 土層断面（南から）

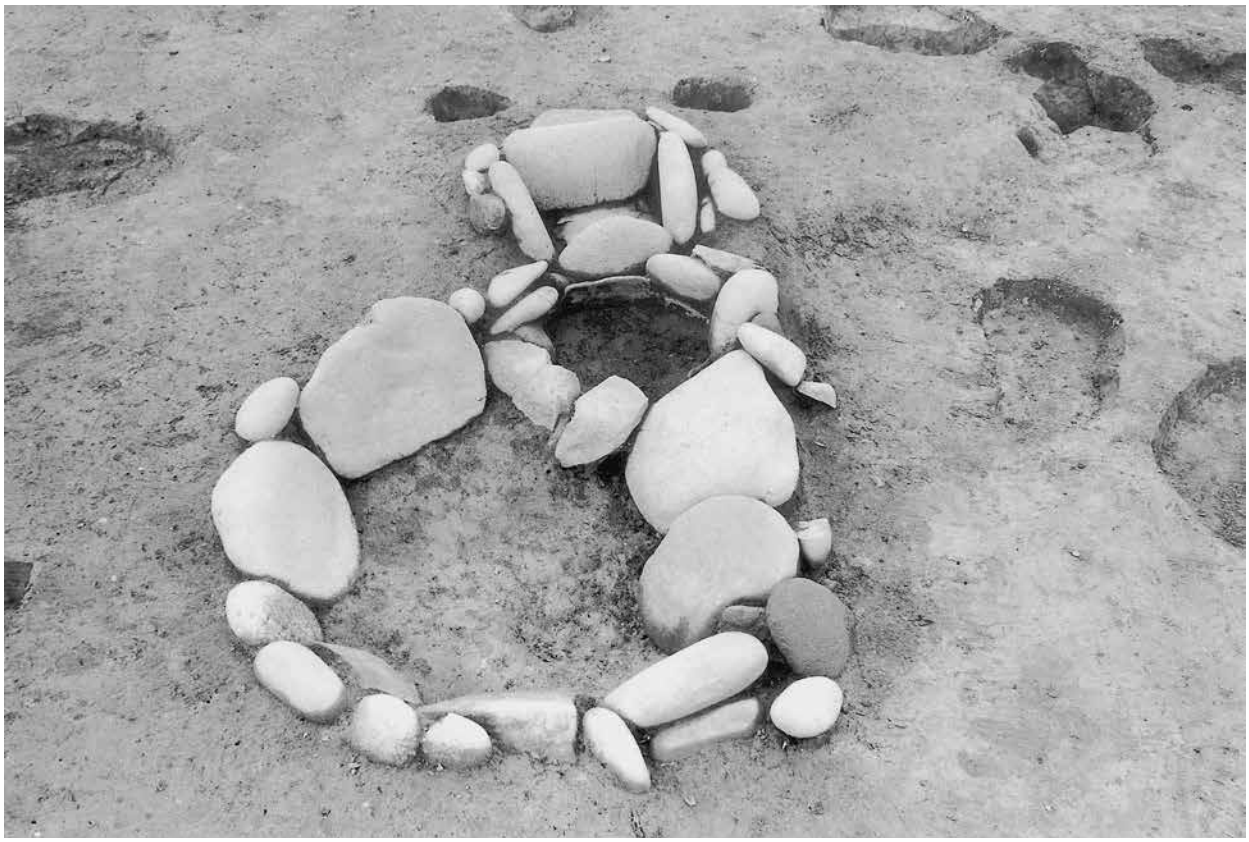
5．ＳＩ 604 竪穴住居跡ピット 34 遺物(A-60066)出土状況(西から)

写真図版 8　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 605 竪穴住居跡全景（西から）

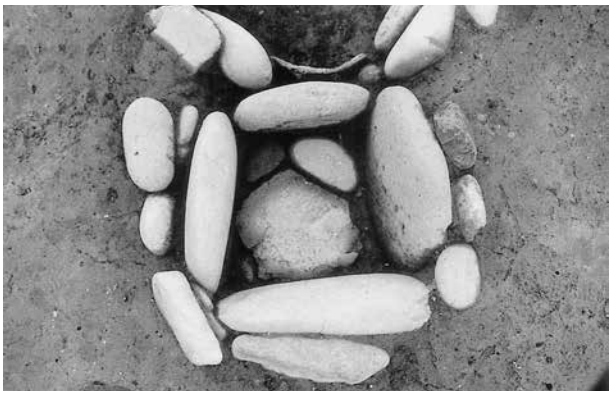
2．ＳＩ 612（左）・ＳＩ 613（右上）竪穴住居跡全景（東から）

写真図版 9　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 612 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

2．ＳＩ 612 竪穴住居跡複式炉全景（北から）

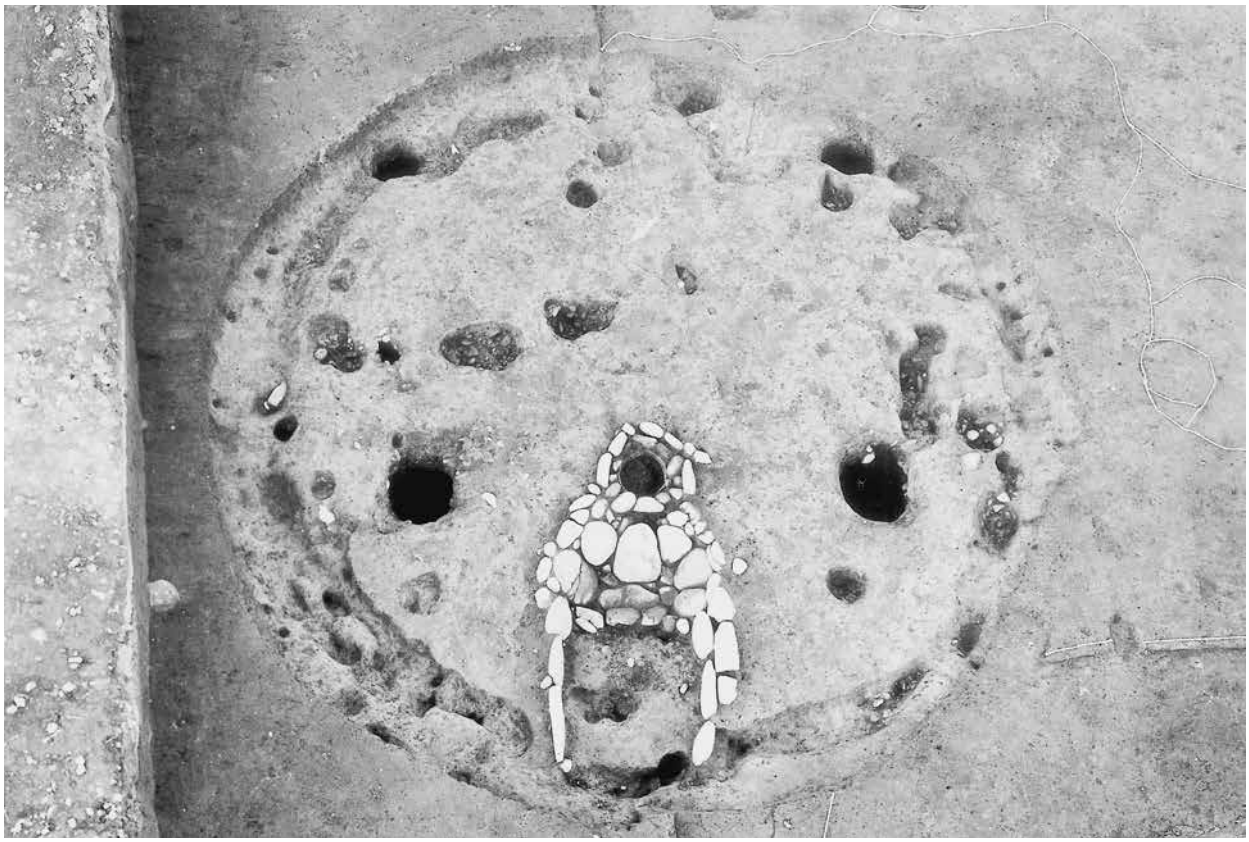


3．ＳＩ 612 竪穴住居跡複式炉石組部（北から）

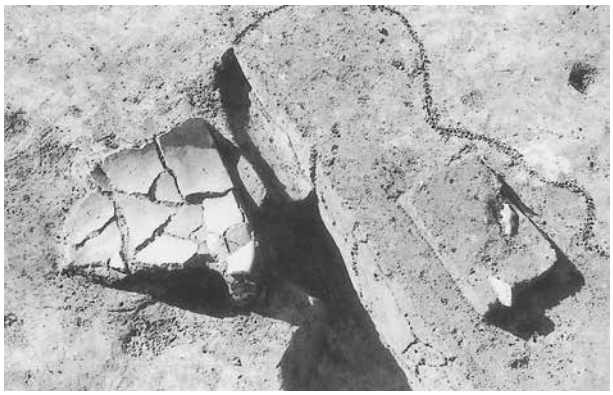
4．ＳＩ 612 竪穴住居跡複式炉石囲部内粘土検出状況（南から）

5．ＳＩ 612 竪穴住居跡複式炉埋設土器内礫出土状況（南から）

写真図版 10　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 613 竪穴住居跡全景（南から）



2．ＳＩ 613 竪穴住居跡遺物（A-60133）出土状況（北東から）

3．ＳＩ 613 竪穴住居跡遺物（異形石器 Ka-g-6001）
出土状況（北西から）

4．ＳＩ 613 竪穴住居跡断面（北東から）

5．ＳＩ 613 竪穴住居跡確認状況（南から）

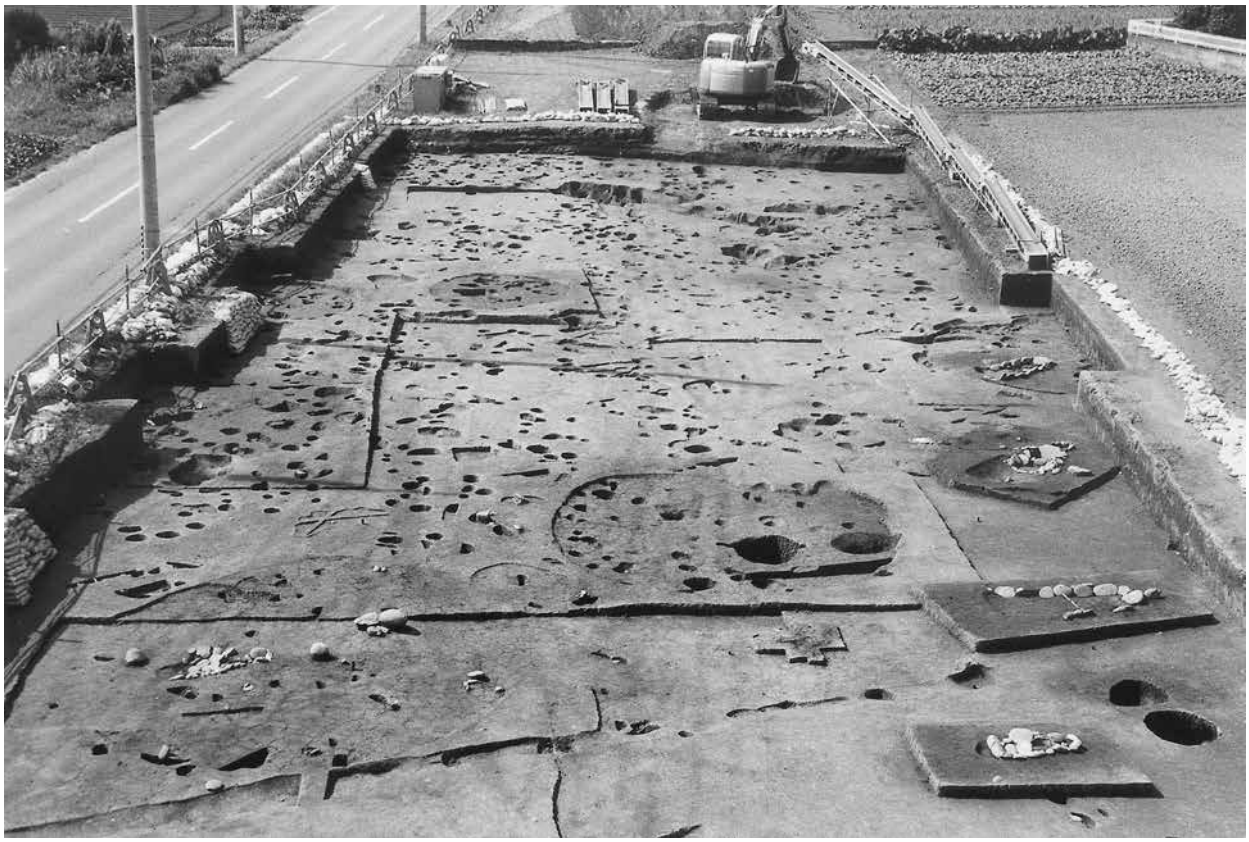
写真図版 11　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 613 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

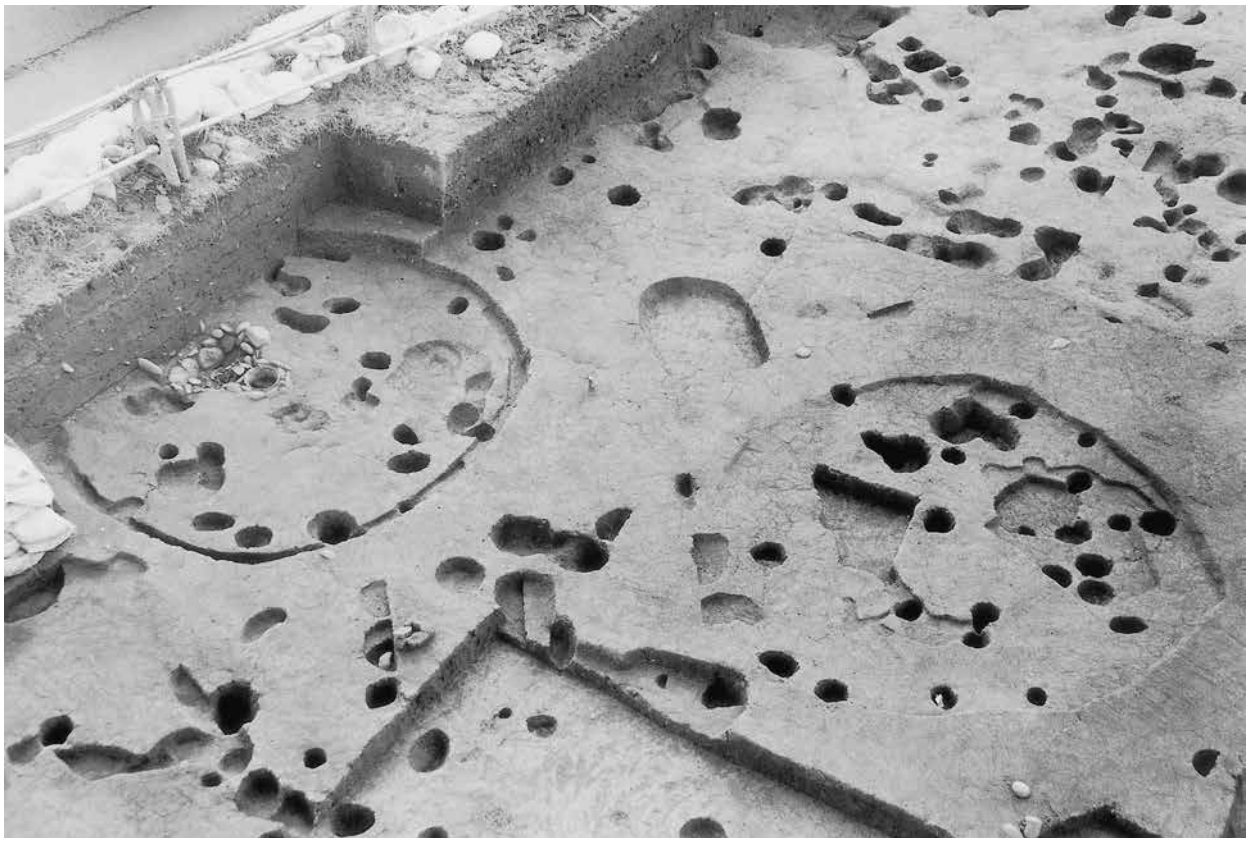
2．ＳＩ 613 竪穴住居跡複式炉遺物（A-60132）出土状況（北東から）

3．ＳＩ 613 竪穴住居跡複式炉部分（東から）

写真図版 12　縄文時代竪穴住居跡

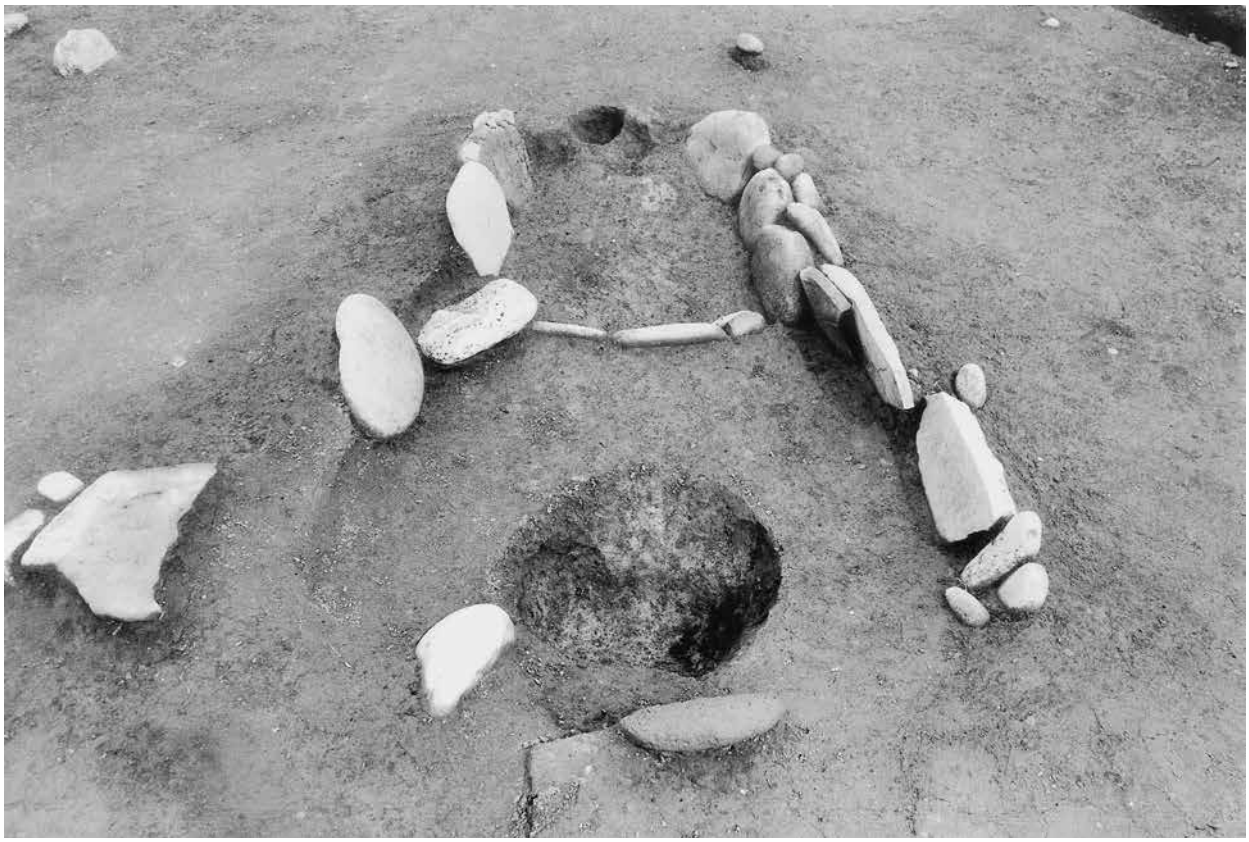


1．第７次調査１区竪穴住居跡群全景（東から）



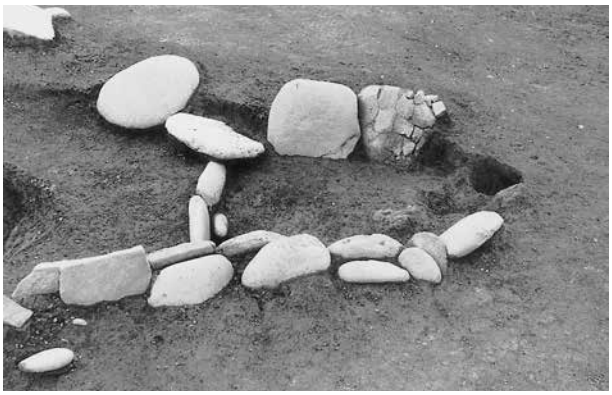
2．ＳＩ 710（左）・ＳＩ 702（右）竪穴住居跡全景（北東から）

写真図版 13　縄文時代竪穴住居跡

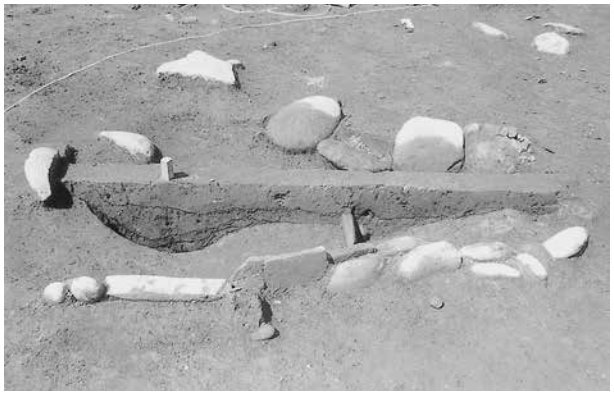


1．ＳＩ 701 竪穴住居跡複式炉全景（南東から）

2．ＳＩ 701 竪穴住居跡複式炉石組部（南西から）



3．ＳＩ 701 竪穴住居跡複式炉石組部（北東から）



4．ＳＩ 701 竪穴住居跡複式炉土層断面（北東から）

5．ＳＩ 702 竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

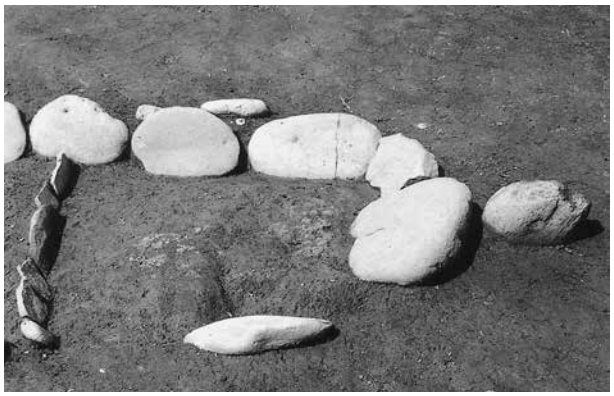
写真図版 14　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 703 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

4．ＳＩ 704 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

2．ＳＩ 703 竪穴住居跡複式炉石組部（西から）

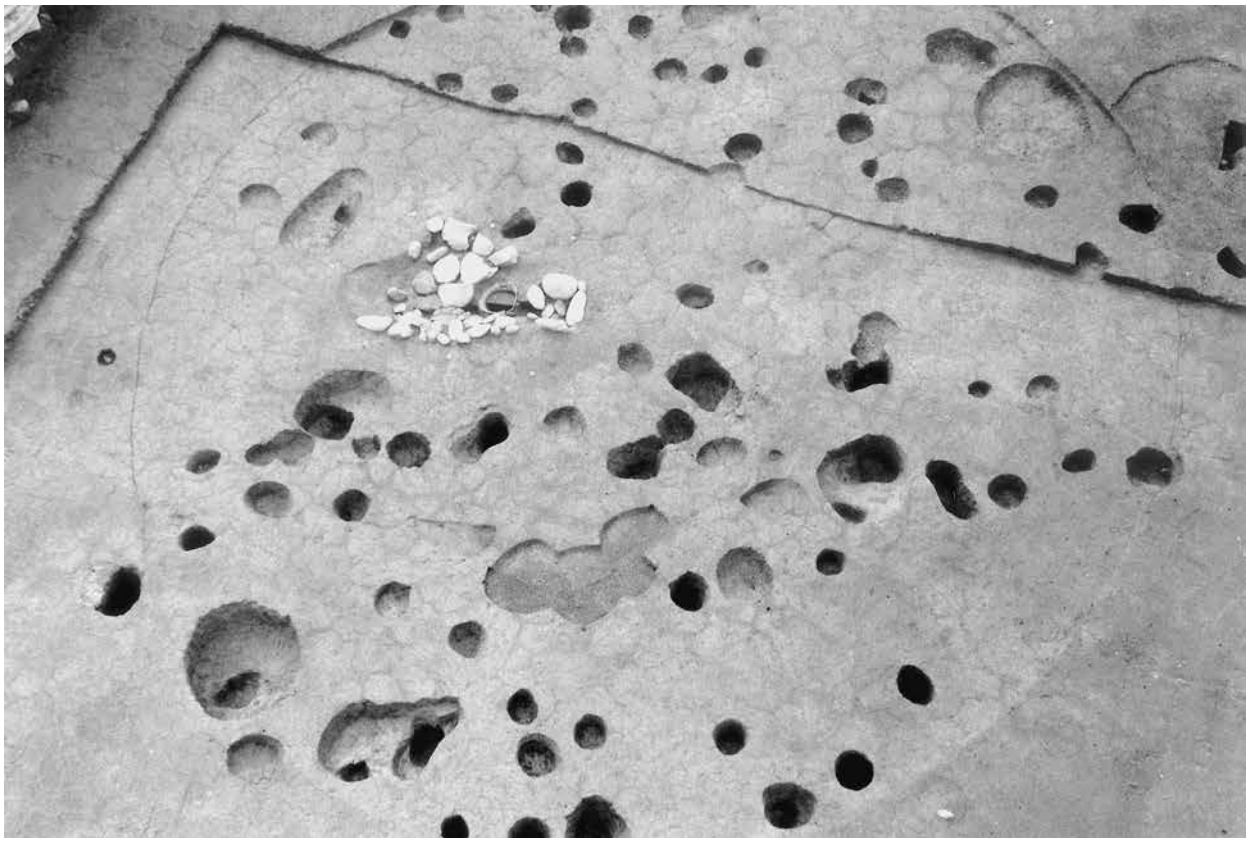
5．ＳＩ 704 竪穴住居跡複式炉石組部内礫出土状況（西から）



3．ＳＩ 703 竪穴住居跡複式炉石組部（東から）

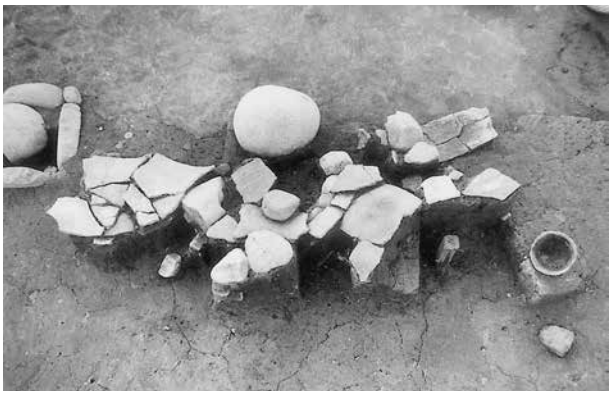
6．ＳＩ 704 竪穴住居跡複式炉土層断面（西から）

写真図版 15　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 705 竪穴住居跡全景（東から）

2．ＳＩ 705 竪穴住居跡遺物出土状況（北西から）



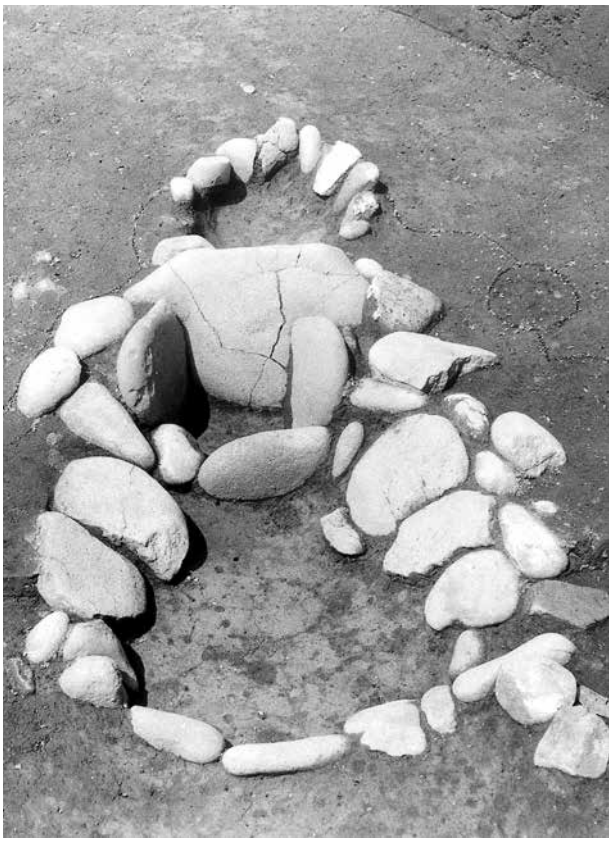
3．ＳＩ 705 竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

4．ＳＩ 705 竪穴住居跡ＳＸ 738 石器出土状況（南東から）

5．ＳＩ 705 竪穴住居跡ピット 57 遺物出土状況（北西から）

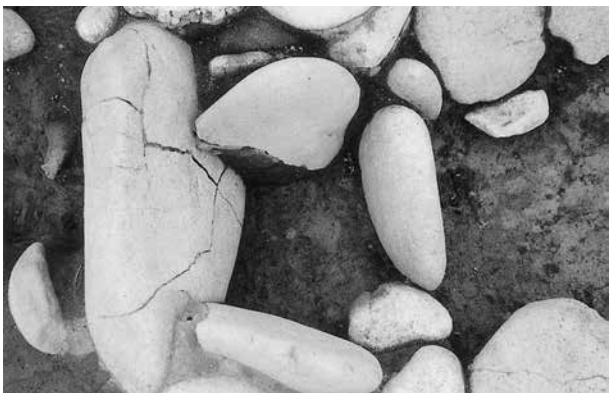
写真図版 16　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 705 竪穴住居跡複式炉全景（南から）



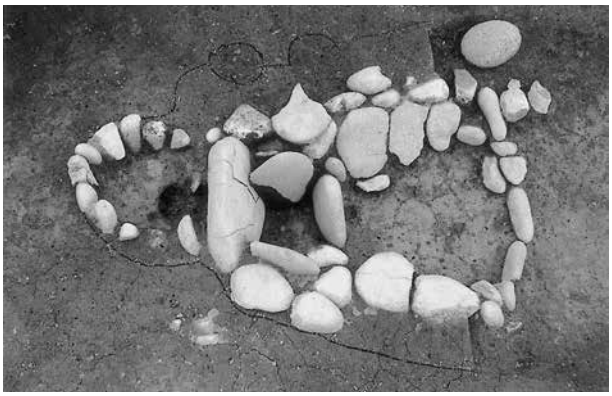
4．ＳＩ 706 竪穴住居跡複式炉全景（南東から）

2．ＳＩ 705 竪穴住居跡複式炉石組部内礫出土状況（西から）



5．ＳＩ 706 竪穴住居跡複式炉石組部（南西から）

3．ＳＩ 705 竪穴住居跡複式炉埋設土器出土状況（西から）



6．ＳＩ 706 竪穴住居跡複式炉全景（南西から）

写真図版 17　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 707 竪穴住居跡全景（南東から）

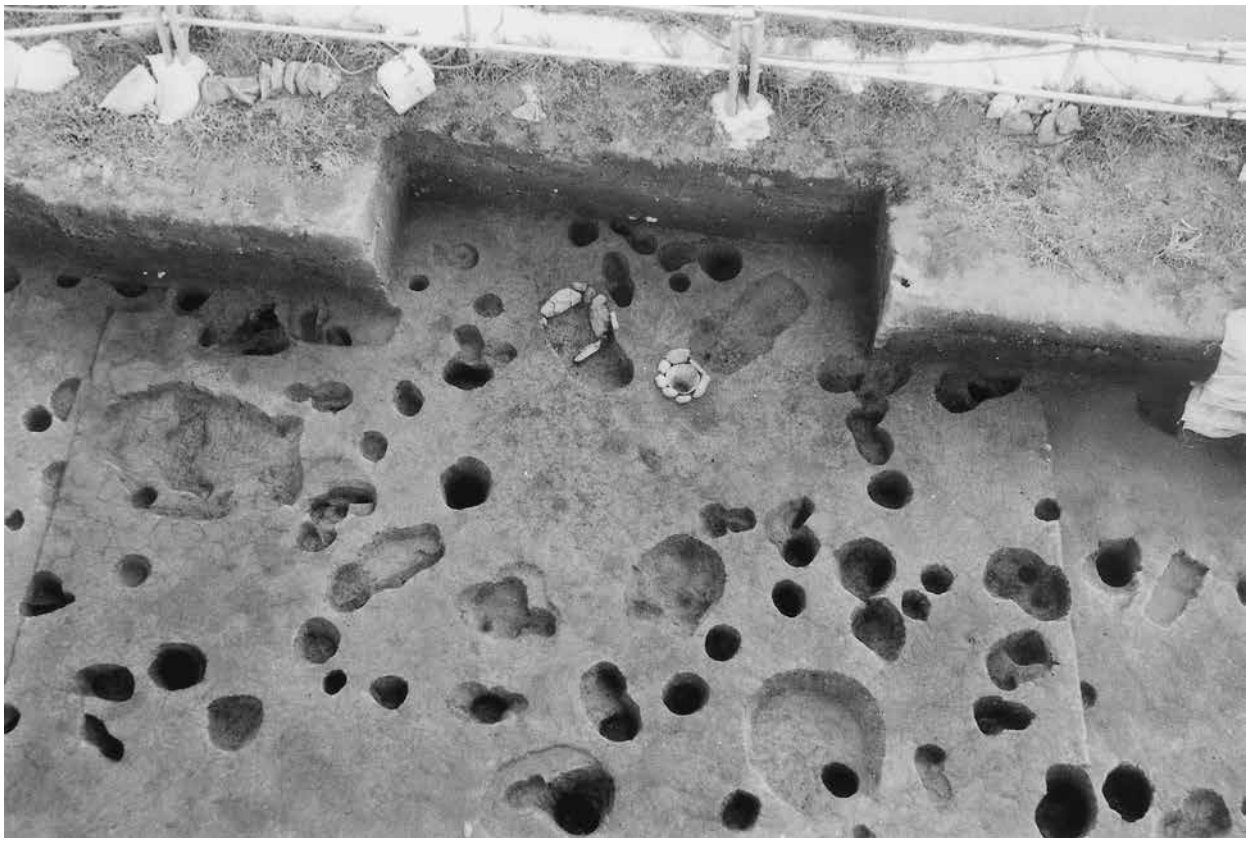
2．ＳＩ 707 竪穴住居跡複式炉Ａ土層断面（南西から）

3．ＳＩ 707 竪穴住居跡複式炉Ａ石組部内遺物出土状況（南東から）

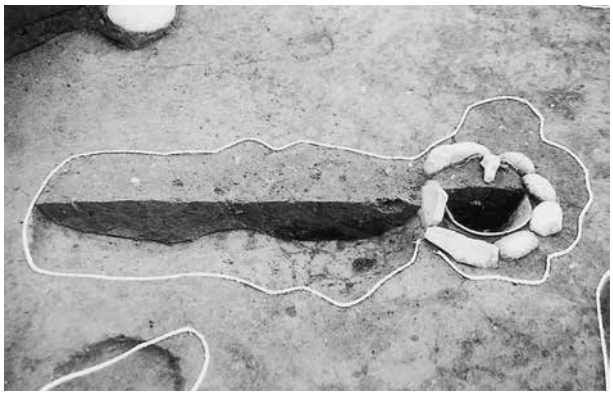
4．ＳＩ 707 竪穴住居跡複式炉内ピット遺物（A-70095）出土状況（北から）

5．ＳＩ 707 竪穴住居跡複式炉Ｂ全景（南から）

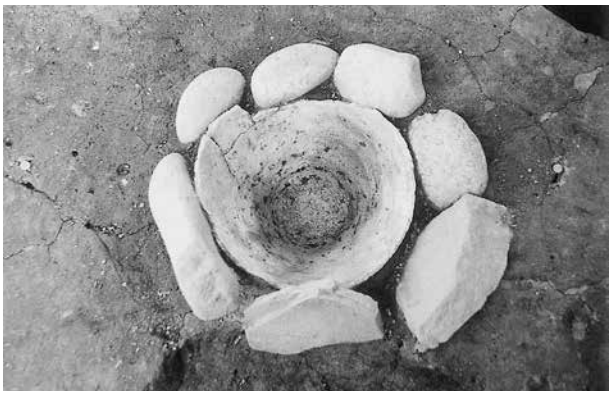
写真図版 18　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 708 竪穴住居跡全景（北から）

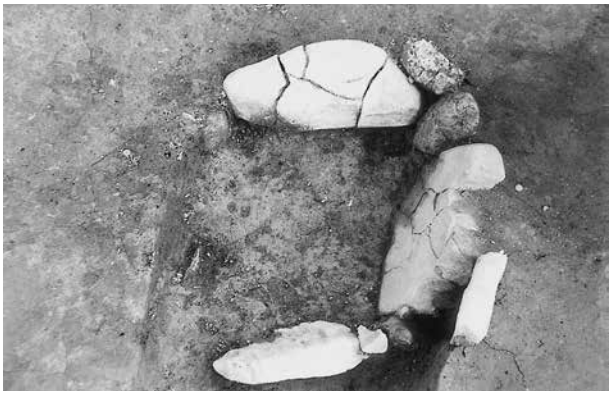


2．ＳＩ 708 竪穴住居跡複式炉Ａ土層断面（南東から）



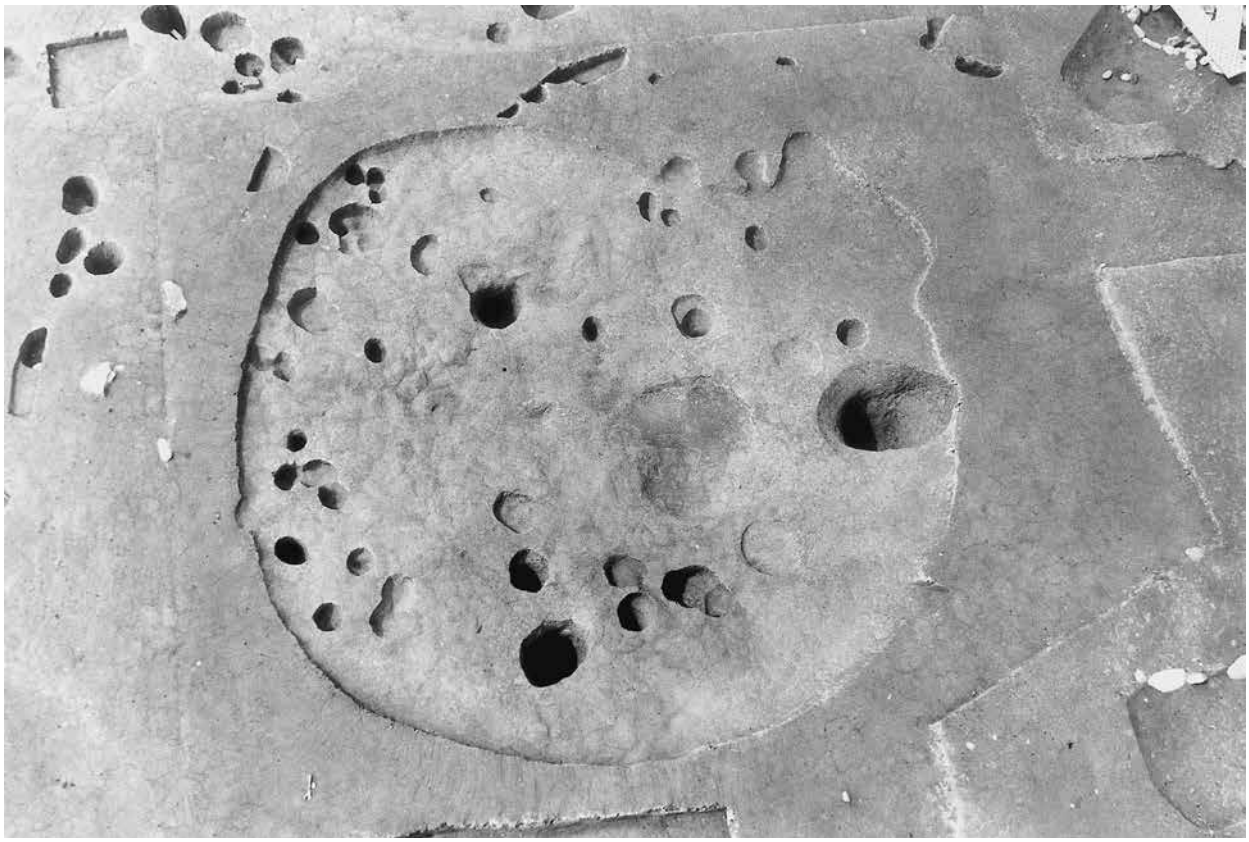
3．ＳＩ 708 竪穴住居跡複式炉Ａ土器埋設石囲部（南西から）

4．ＳＩ 708 竪穴住居跡複式炉Ｂ全景（南東から）



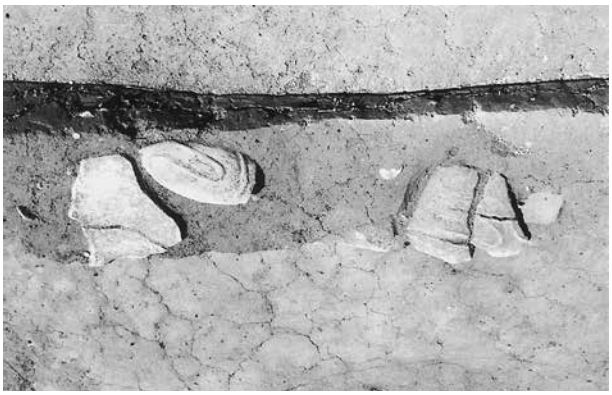
5．ＳＩ 708 竪穴住居跡複式炉Ｂ石組部（南東から）

写真図版 19　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 709 竪穴住居跡全景（東から）

2．ＳＩ 709 竪穴住居跡ピット検出状況（東から）



3．ＳＩ 709 竪穴住居跡遺物出土状況（西から）

4．ＳＩ 709 竪穴住居跡ピット１土層断面（東から）

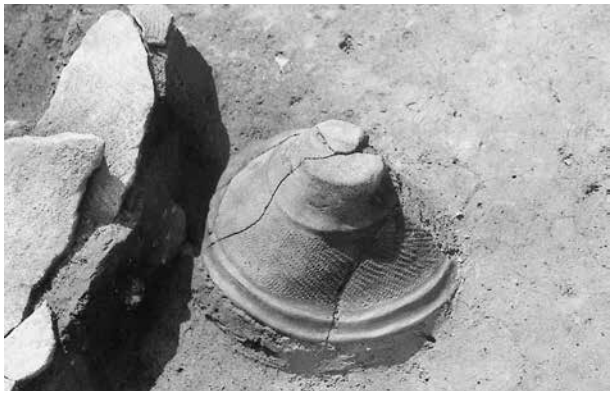
5．ＳＩ 709 竪穴住居跡炉全景（南から）

写真図版 20　縄文時代竪穴住居跡

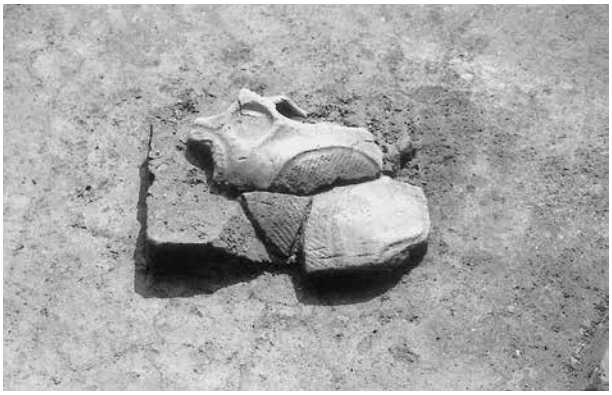
1．ＳＩ 710 竪穴住居跡全景（北から）

2．ＳＩ 710 竪穴住居跡複式炉遺物出土状況（東から）

3．ＳＩ 710 竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

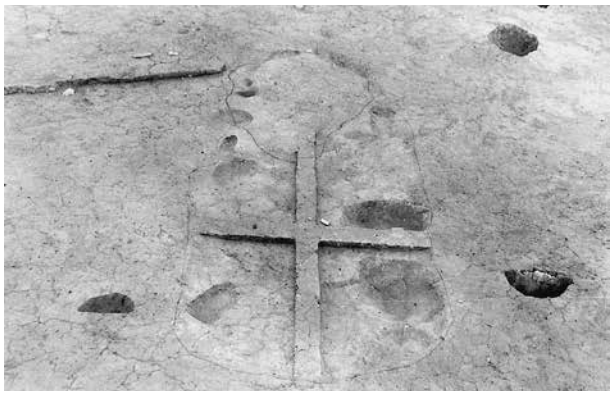


4．ＳＩ 710 竪穴住居跡遺物（A-70156）出土状況（北から）



5．ＳＩ 710 竪穴住居跡遺物（A-70157）出土状況（北から）

写真図版 21　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 711 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

2．ＳＩ 712 竪穴住居跡複式炉検出状況
（南から、右上はＳＩ 706 の複式炉）

3．ＳＩ 712 竪穴住居跡複式炉全景（南から、右上はＳＩ 706 の複式炉）

4．ＳＩ 712 竪穴住居跡複式炉石囲部内粘土検出状況（南から）

5．ＳＩ 712 竪穴住居跡複式炉遺物出土状況（南から）

写真図版 22　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 714 竪穴住居跡全景（北から）

2．ＳＩ 714 竪穴住居跡遺物出土状況（北西から）

3．ＳＩ 714 竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

4．ＳＩ 714 竪穴住居跡複式炉遺物（A-70193）出土状況（北西から）

5．ＳＩ 714 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

写真図版 23　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 715 竪穴住居跡全景（北から）

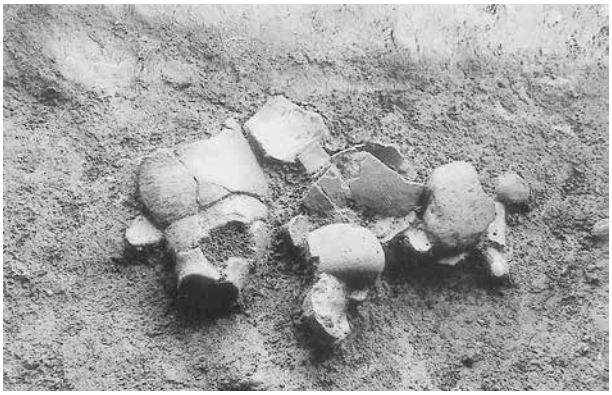
2．ＳＩ 715 竪穴住居跡複式炉全景（東から）

写真図版 24　縄文時代竪穴住居跡

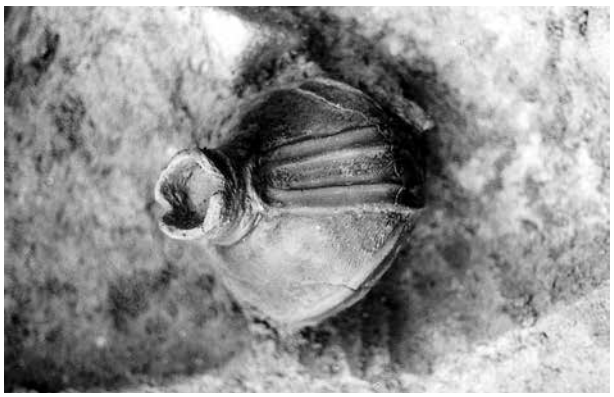
1．ＳＩ 715 竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

2．ＳＩ 715 竪穴住居跡断面（北から）

3．ＳＩ 715 竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

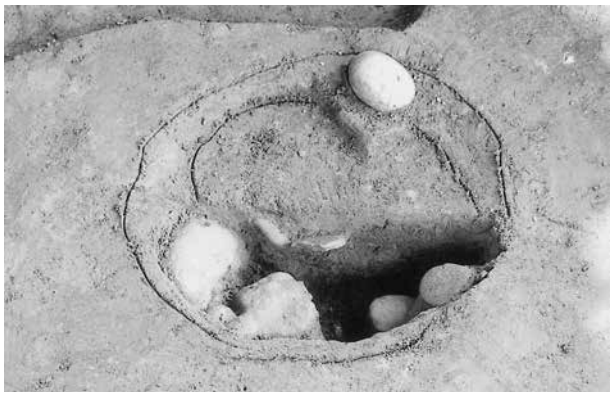


4．ＳＩ 715 竪穴住居跡遺物出土状況（南から）



5．ＳＩ 715 竪穴住居跡遺物（A-70228）出土状況（東から）

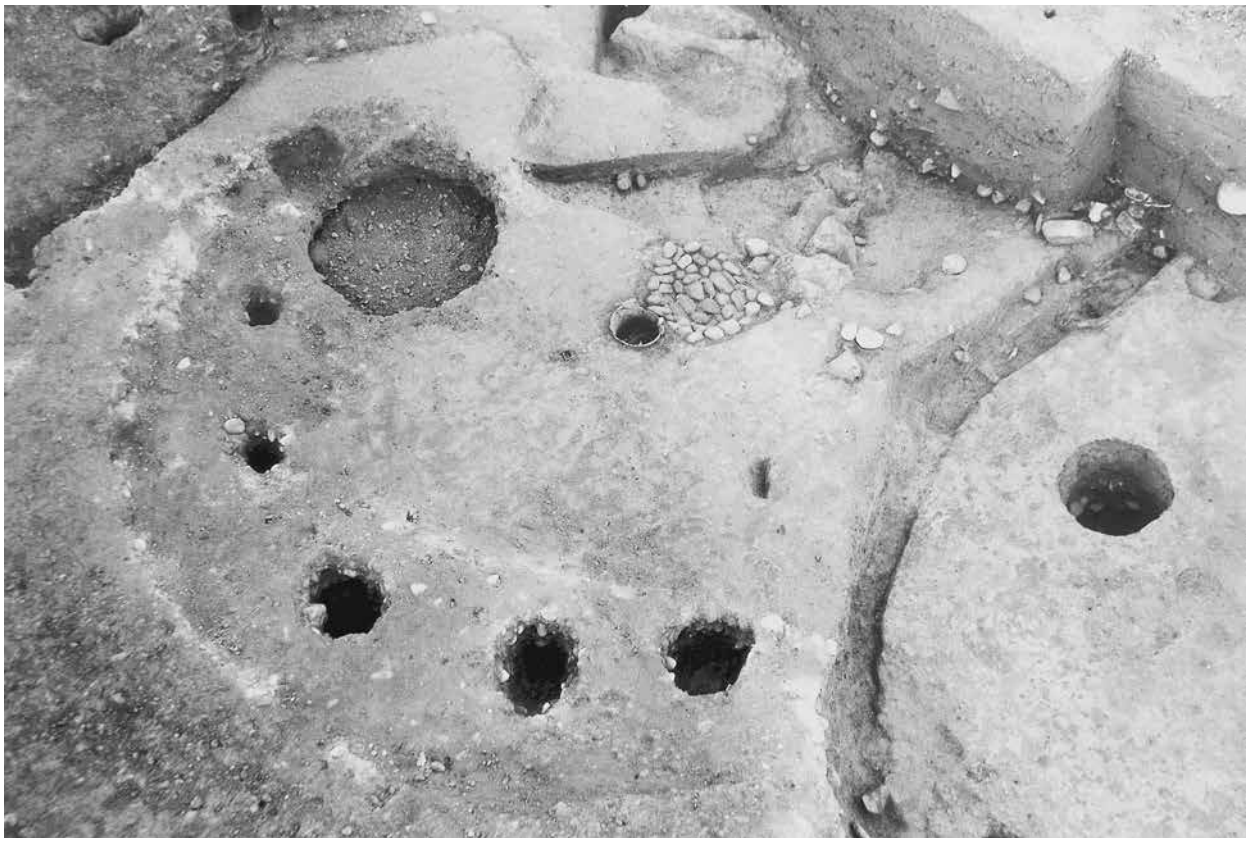
6．ＳＩ 715 竪穴住居跡遺物（Kd-a-7011）出土状況（北から）



7．ＳＩ 715 竪穴住居跡ピット２土層断面（南東から）

8．ＳＩ 715 竪穴住居跡ピット４土層断面（南西から）

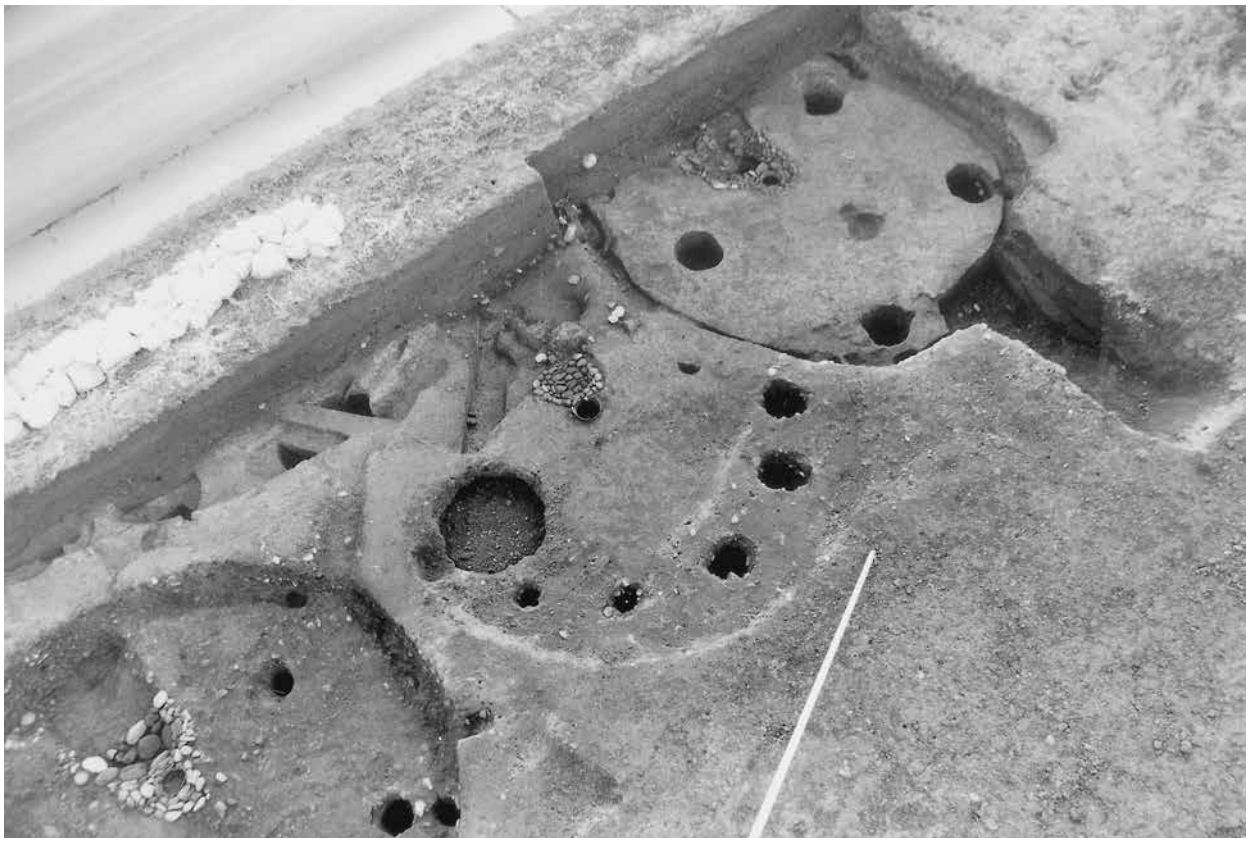
写真図版 25　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 716 竪穴住居跡全景（北から）

2．ＳＩ 716 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

写真図版 26　縄文時代竪穴住居跡



1．ＳＩ 714・715・716・717 竪穴住居跡全景（北東から）

2．ＳＩ 717 竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

3．ＳＩ 717 竪穴住居跡遺物出土状況（北東から）

4．ＳＩ 717 竪穴住居跡全景（北から）

5．ＳＩ 718 竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

写真図版 27　縄文時代竪穴住居跡

1．ＳＩ 719 竪穴住居跡全景（南西から）

2．ＳＩ 719 竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

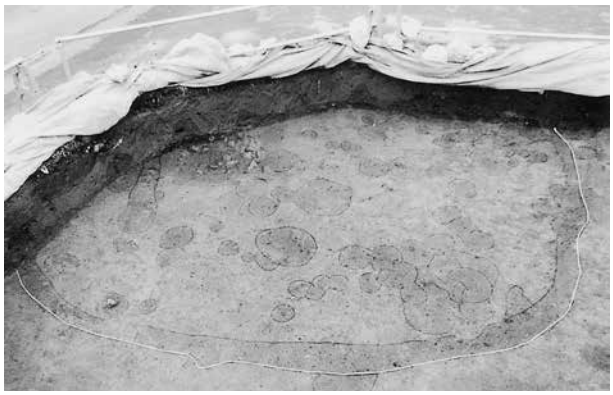
3．ＳＩ 719 竪穴住居跡土層断面（東から）

4．ＳＩ 719 竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

5．ＳＩ 719 竪穴住居跡礫出土状況（北から）

写真図版 28　縄文土器竪穴住居跡

1．ＳＩ 723 竪穴住居跡全景（東から）



2．ＳＩ 723 竪穴住居跡ピット検出状況（東から）

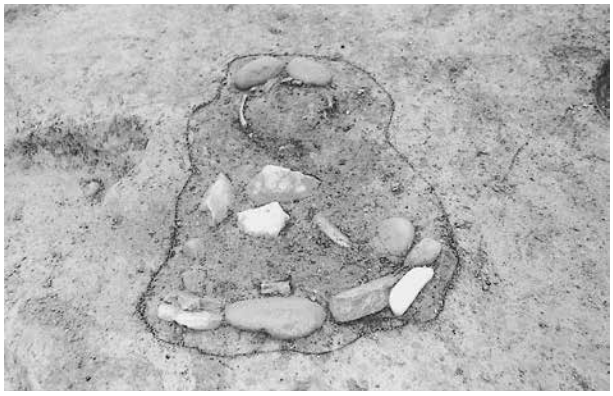
3．ＳＩ 723 竪穴住居跡複式炉土層断面（東から）

4．ＳＩ 723 竪穴住居跡複式炉全景（南から）

写真図版 29　縄文土器竪穴住居跡

1．ＳＩ 725 竪穴住居跡全景（北西から）

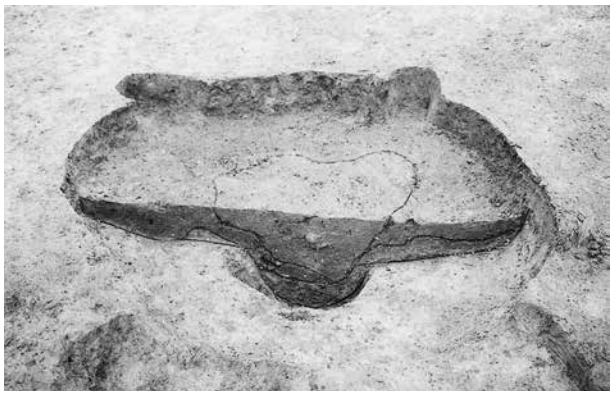
2．ＳＩ 725 竪穴住居跡複式炉全景（北西から）



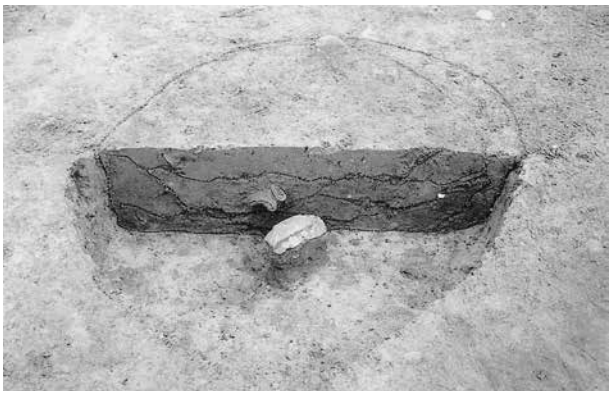
3．ＳＩ 726 竪穴住居跡複式炉検出状況（南西から）

4．ＳＩ 726 竪穴住居跡複式炉全景（南西から）

写真図版 30　縄文土器竪穴住居跡

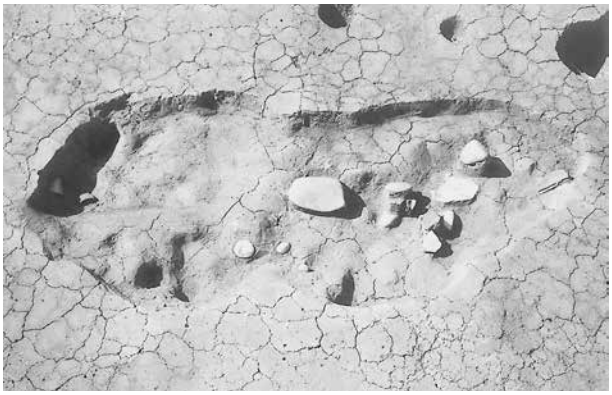


1．ＳＫ 6001 土坑土層断面（北西から）

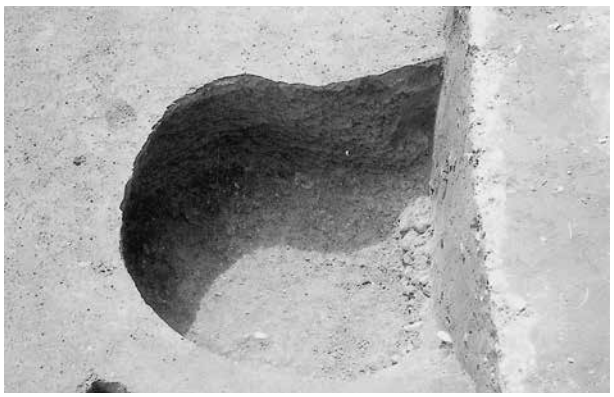


2．ＳＫ 6002 土坑土層断面（南西から）

3．ＳＫ 6003（左）・ＳＫ 6004（右）土坑土層断面（北西から）



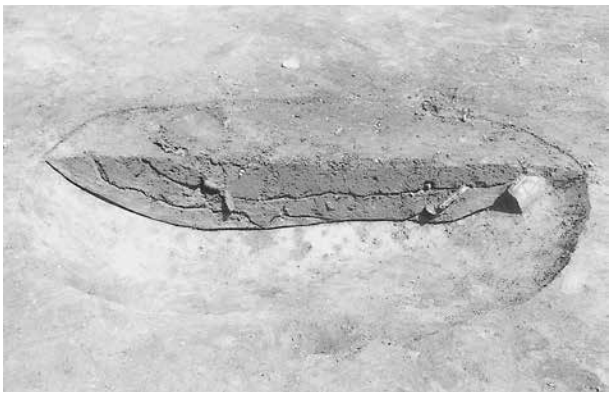
4．ＳＫ 6003（右）・ＳＫ 6004（左）土坑全景（南東から）



5．ＳＫ 6005（左）・ＳＫ 6007（右）全景（北西から）

6．ＳＫ 6010 土坑遺物出土状況（北西から）

7．ＳＫ 6012 土坑全景（北から）

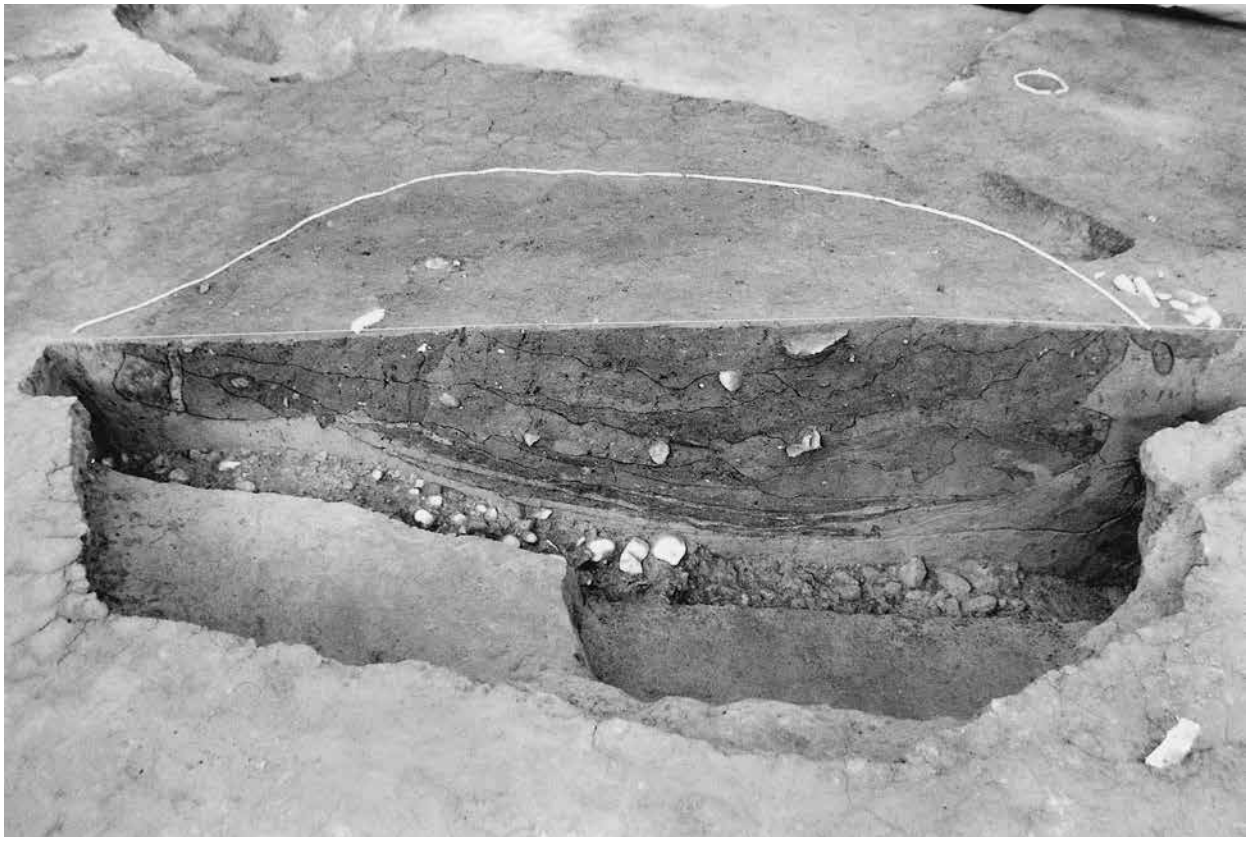


8．ＳＫ 6013 土坑土層断面（南から）

写真図版 31　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6014 土坑全景（西から）

2．ＳＫ 6015 土坑全景（北西から）

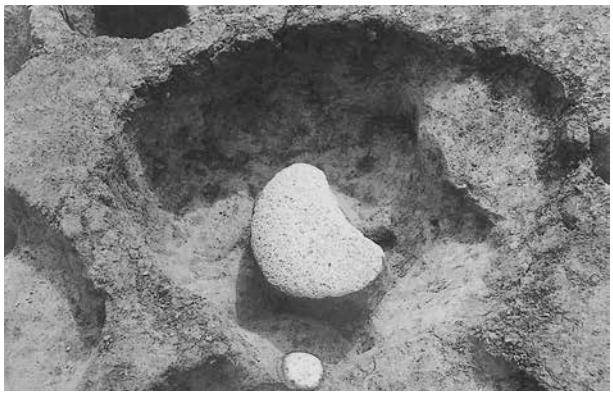


3．ＳＫ 6016 土坑土層断面（南西から）

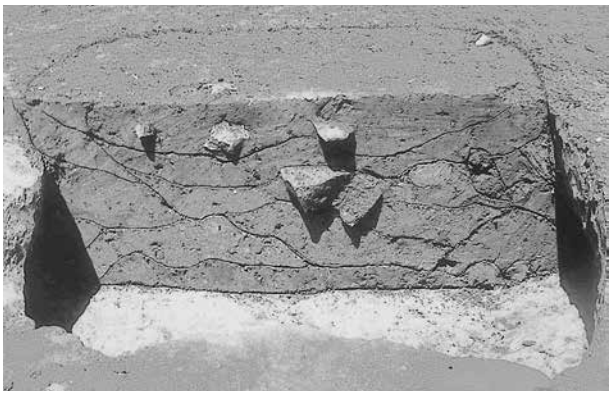
4．ＳＫ 6016 土坑上層遺物出土状況（南西から）

5．ＳＫ 6016 全景（北西から）

写真図版 32　縄文時代土坑

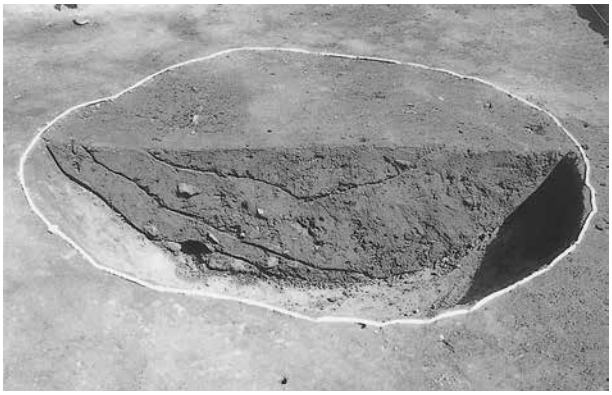


1．ＳＫ 6018 土坑礫出土状況（北から）

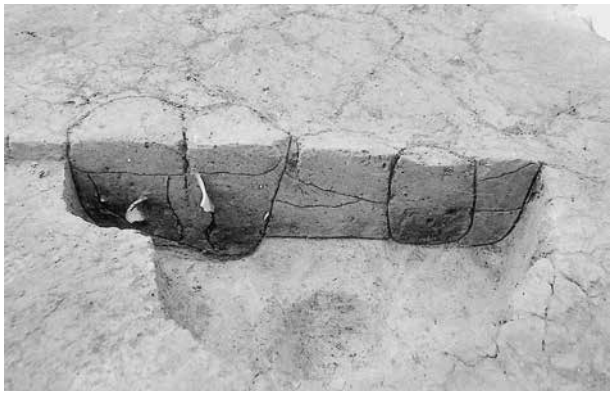


2．ＳＫ 6023 土坑土層断面（南東から）

3．ＳＫ 6023 土坑全景（北東から）



4．ＳＫ 6024 土坑土層断面（西から）



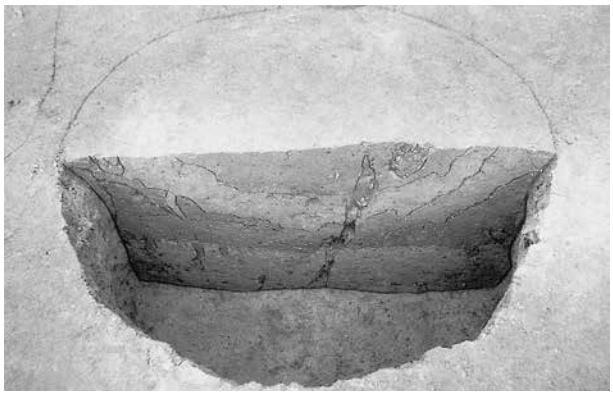
5．ＳＫ 6025 土坑土層断面（南東から）

6．ＳＫ 6025 土坑全景（南西から）

7．ＳＫ 6031 土坑全景（西から）

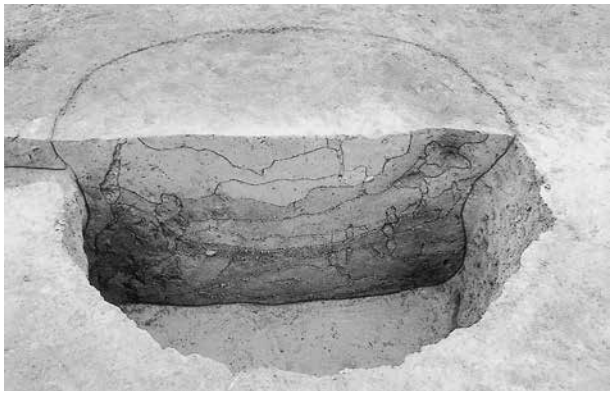
8．ＳＫ 6039 土坑全景（北東から）

写真図版 33　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6042 土坑土層断面（東から）

2．ＳＫ 6041（奥）・ＳＫ 6042（手前）土坑全景（北から）



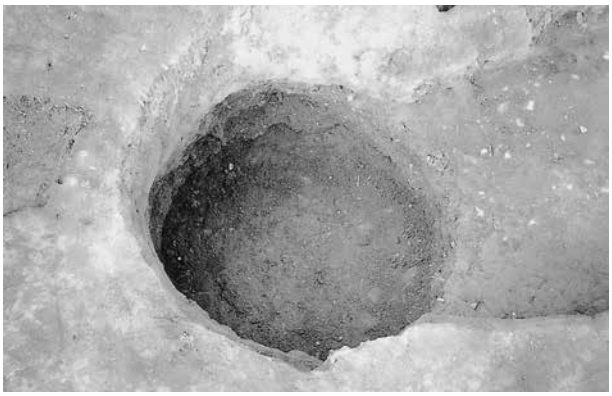
3．ＳＫ 6043 土坑土層断面（南西から）

4．ＳＫ 6043 土坑全景（東から）

5．ＳＫ 6044 土坑土層断面（南東から）

6．ＳＫ 6044 土坑全景（南東から）

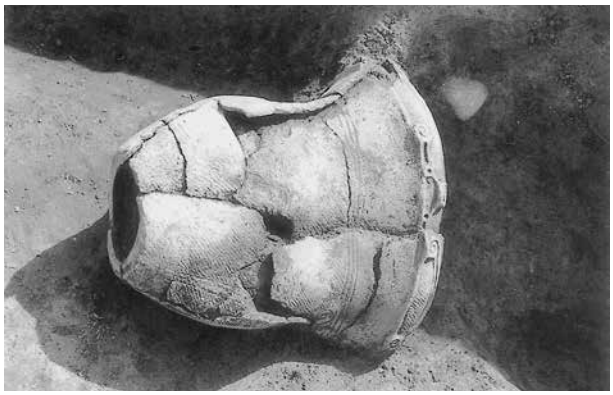
7．ＳＫ 6046 土坑全景（東から）



8．ＳＫ 6047 土坑全景（南から）

写真図版 34　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6049 Ａ土坑土層断面遺物出土状況（南から）



2．ＳＫ 6049 Ａ土坑遺物（A-60357）出土状況（北から）

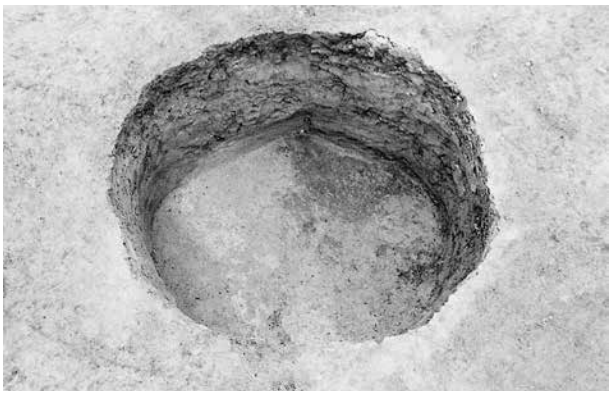
3．ＳＫ 6049 Ｂ土坑土層断面（南から）

4．ＳＫ 6049 Ａ・Ｂ土坑全景（東から）

5．ＳＫ 6050 土坑遺物出土状況（南東から）

写真図版 35　縄文時代土坑

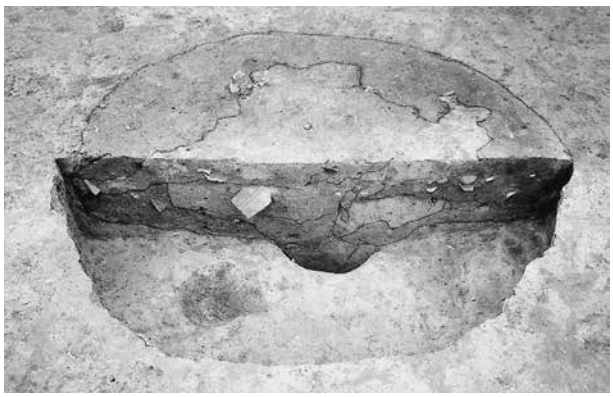
1．ＳＫ 6053 土坑土層断面（南から）



2．ＳＫ 6053 土坑全景（東から）

3．ＳＫ 6054 土坑土層断面（南から）

4．ＳＫ 6054 土坑全景（北から）



5．ＳＫ 6056 土坑土層断面（南から）

6．ＳＫ 6056 土坑全景（南東から）

7．ＳＫ 6057 土坑土層断面（東から）

8．ＳＫ 6057 土坑全景（東から）

写真図版 36　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6059 Ａ土坑遺物出土状況（南西から）

2．ＳＫ 6059 Ａ・Ｂ土坑土層断面（南西から）

写真図版 37　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6055 土坑土層断面（南から）

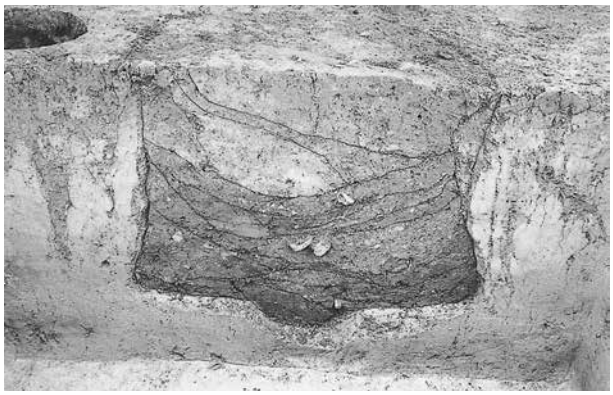
2．ＳＫ 6058 土坑土層断面（北から）

3．ＳＫ 6063 土坑土層断面（南東から）

4．ＳＫ 6063 土坑遺物（A-60434）出土状況（南から）

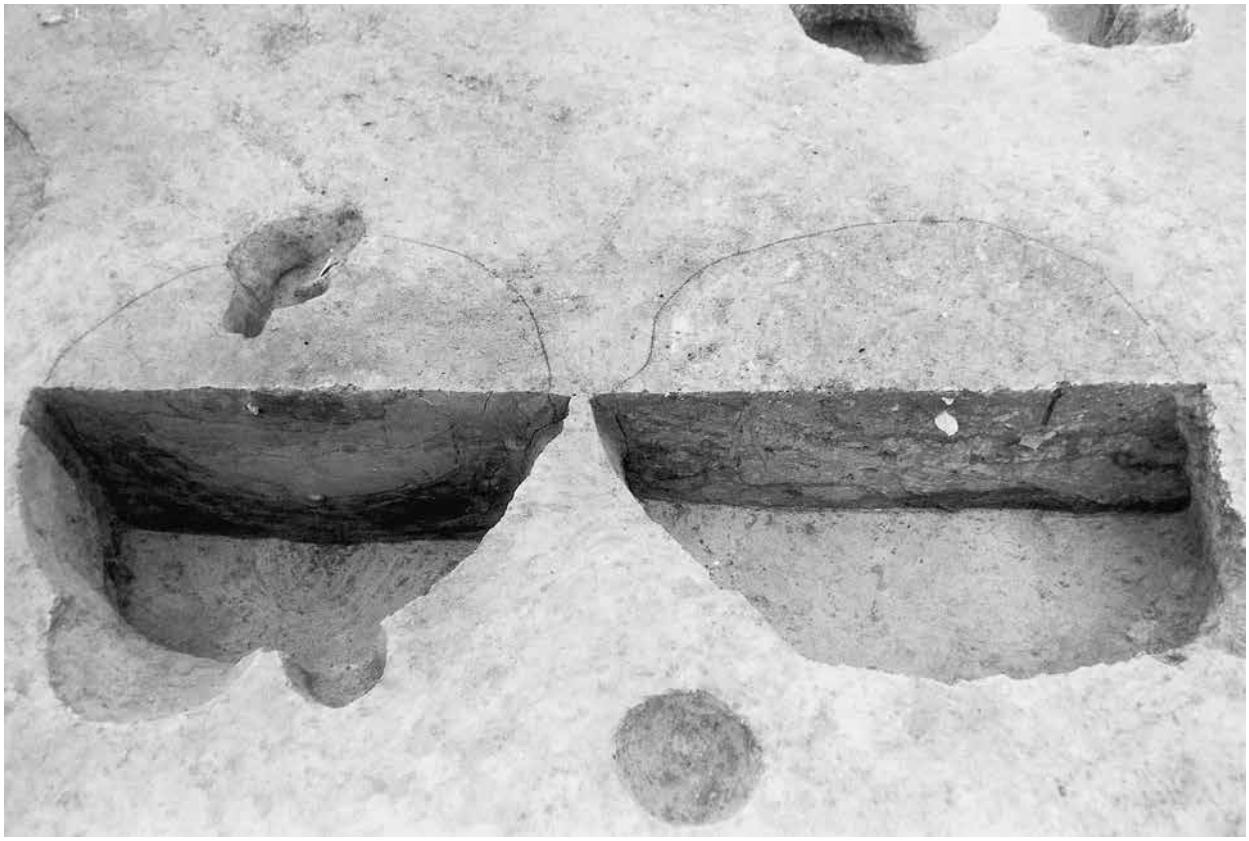
5．ＳＫ 6063 土坑全景（東から）

写真図版 38　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6068 土坑土層断面（西から）

2．ＳＫ 6076 土坑土偶（P-6024）出土状況（南東から）



3．ＳＫ 6075（左）・ＳＫ 6076（右）土坑土層断面（北東から）

4．ＳＫ 6075 土坑全景（南西から）

5．ＳＫ 6076 土坑全景（北東から）

写真図版 39　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6073 土坑土層断面（西から）

2．ＳＫ 6073 土坑全景（北東から）

3．ＳＫ 6077 土坑全景（西から）

4．ＳＫ 6078 土坑全景（東から）

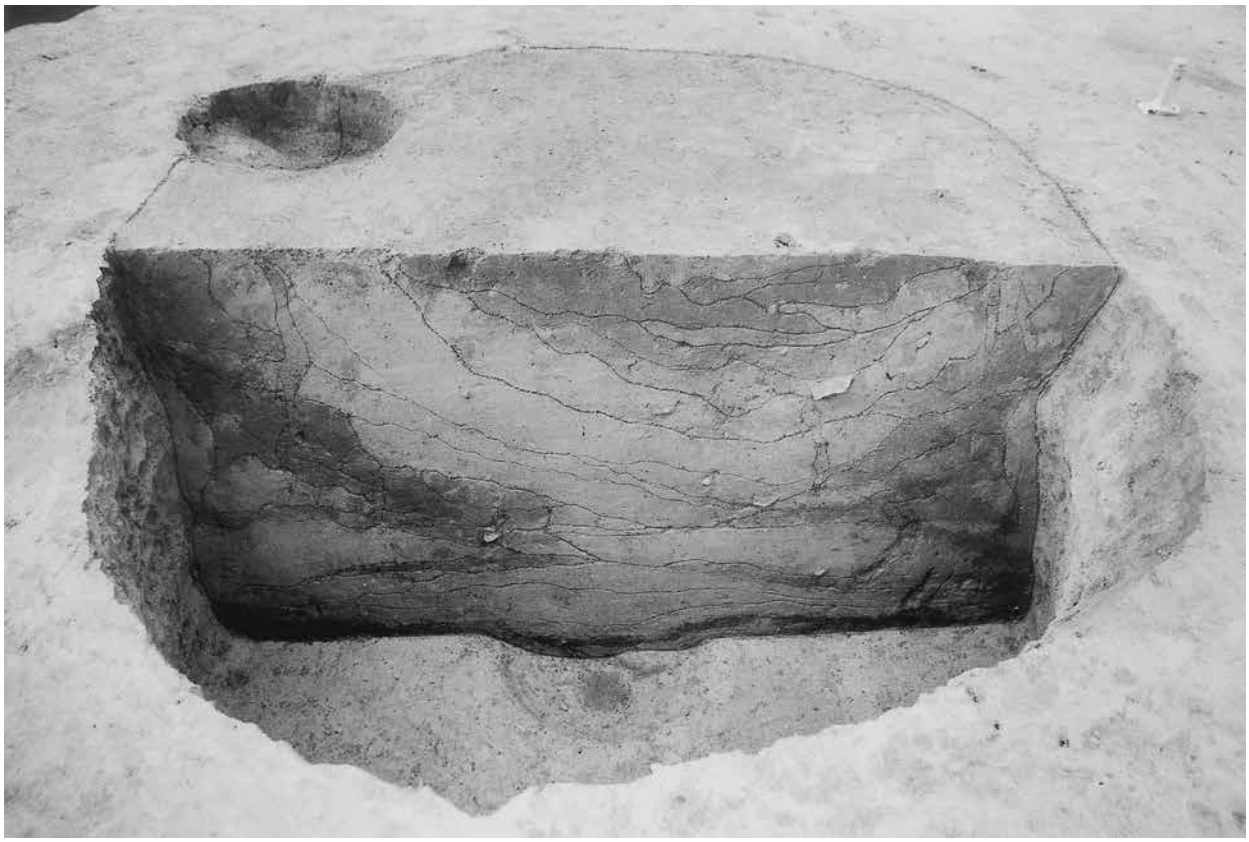
5．ＳＫ 6081 土坑全景（東から）

6．ＳＫ 6083 土坑土層断面（北東から）

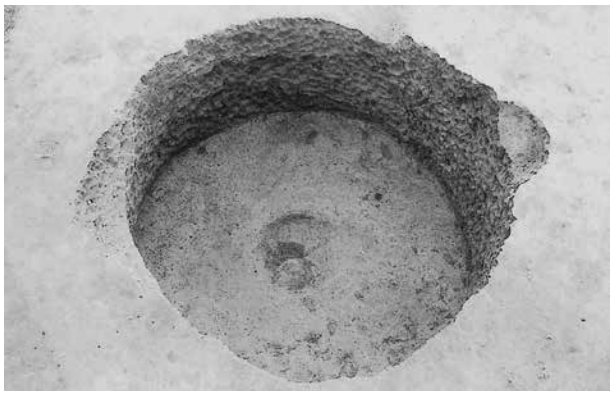
7．ＳＫ 6095 土坑土層断面（南から）

8．ＳＫ 6096 土坑土層断面（西から）

写真図版 40　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6094 土坑土層断面（東から）



2．ＳＫ 6094 土坑全景（北西から）

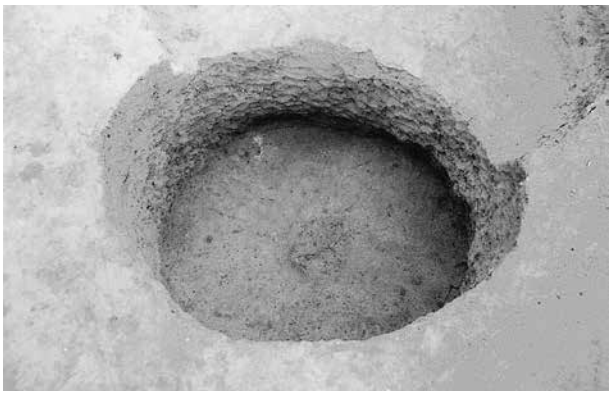
3．ＳＫ 6100 土坑遺物（A-60472）出土状況（北から）

4．ＳＫ 6097 土坑土層断面（北西から）

5．ＳＫ 6097 土坑全景（南東から）

写真図版 41　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6102 土坑土層断面（東から）



2．ＳＫ 6102 土坑全景（西から）

3．ＳＫ 6103 土坑土層断面（南東から）

4．ＳＫ 6103 土坑全景（南東から）

5．ＳＫ 6107 土坑土層断面（南西から）

6．ＳＫ 6107 土坑全景（北東から）

7．ＳＫ 6108 土坑土層断面（南東から）

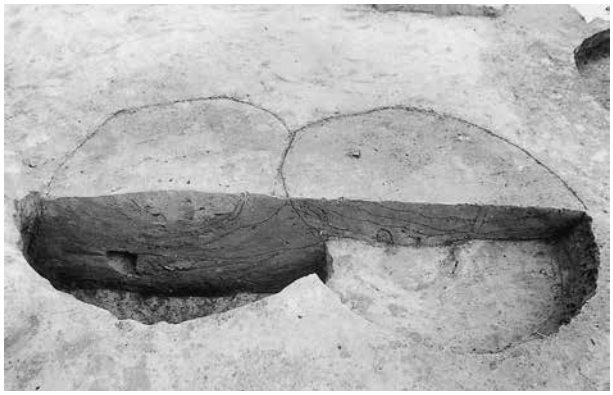
8．ＳＫ 6108 土坑全景（北東から）

写真図版 42　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6109（右）・ＳＫ 6110（左）土坑全景（北東から）

2．ＳＫ 6109（左）・ＳＫ 6110（右）土坑土層断面（南西から）

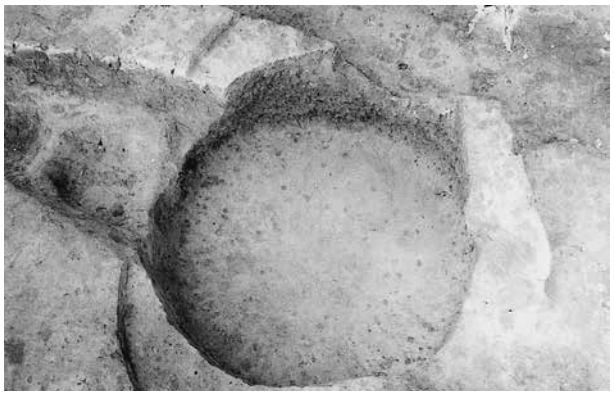
3．ＳＫ 6110 土坑遺物（A-60483）出土状況（南西から）



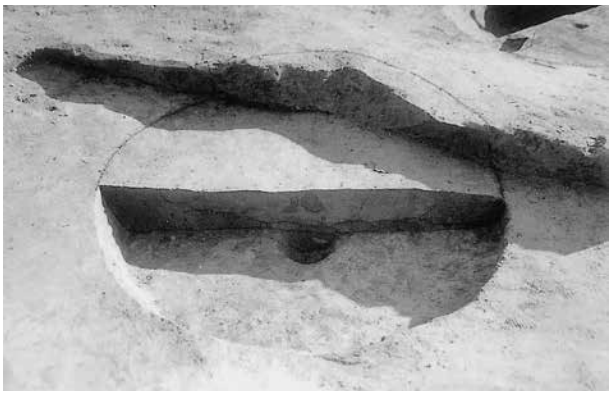
4．ＳＫ 6111（右）・ＳＫ 6112（左）土坑土層断面（北西から）

5．ＳＫ 6111（右）・ＳＫ 6112（左）土坑全景（北西から）

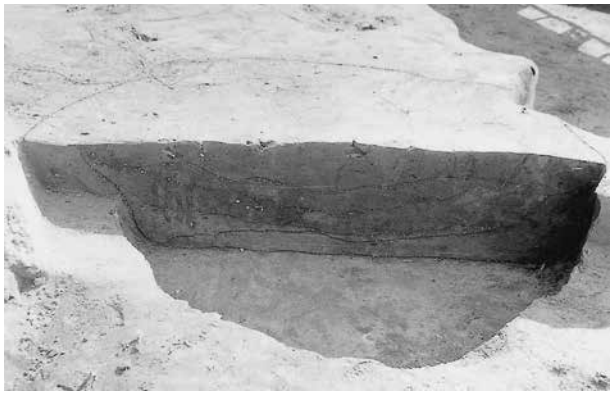
写真図版 43　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6113 土坑全景（南から）



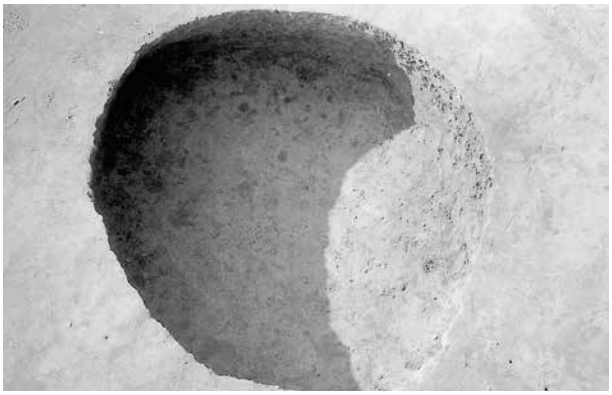
2．ＳＫ 6116 土坑土層断面（北西から）



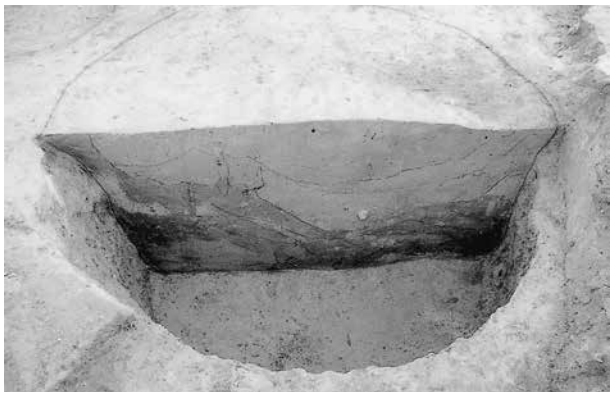
3．ＳＫ 6114 土坑土層断面（北西から）

4．ＳＫ 6114 土坑全景（南東から）

5．ＳＫ 6115 土坑土層断面（南東から）



6．ＳＫ 6115 土坑全景（東から）



7．ＳＫ 6117 土坑土層断面（北東から）

8．ＳＫ 6117 土坑全景（北東から）

写真図版 44　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6120 土坑土層断面（南東から）

2．ＳＫ 6120 土坑遺物（A-60490）出土状況（南東から）

3．ＳＫ 6121（左）・ＳＫ 6153（右）土坑全景（南西から）

4．ＳＫ 6121 土坑土層断面（西から）

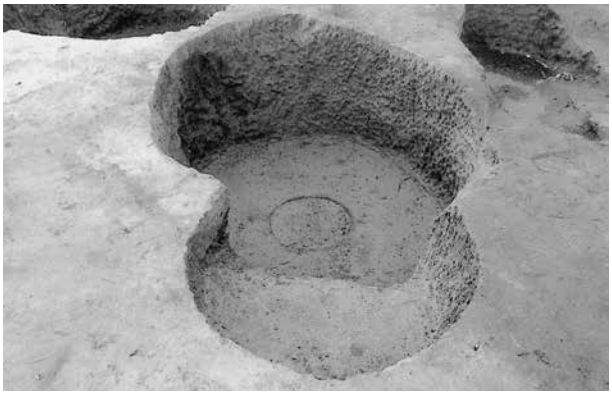
5．ＳＫ 6121 遺物（A-60495）出土状況（西から）

写真図版 45　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6122（右）・ＳＫ 6130（左）土坑全景（北西から）

2．ＳＫ 6123（左）・ＳＫ 6124（右）土坑全景（南東から）

3．ＳＫ 6131（右）・ＳＫ 6132（左）土坑土層断面（北から）



4．ＳＫ 6131（奥）・ＳＫ 6132（手前）土坑全景（南東から）

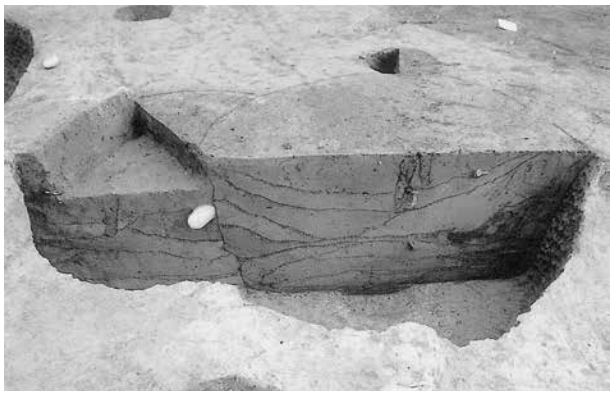
5．ＳＫ 6127 土坑全景（北東から）

6．ＳＫ 6133 土坑土層断面（南西から）

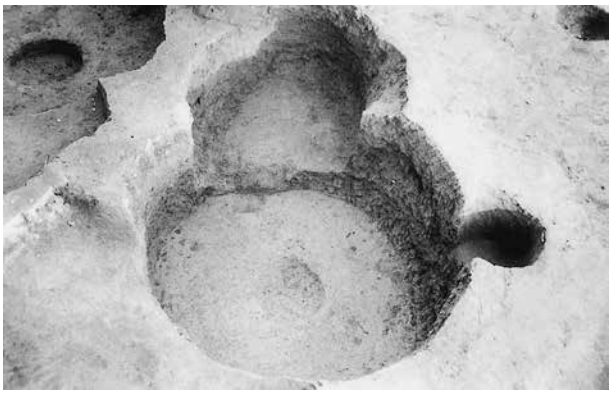
7．ＳＫ 6134 土坑土層断面（南西から）

8．ＳＫ 6134 土坑全景（南西から）

写真図版 46　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6135（左）・ＳＫ 6136（右）土坑土層断面（北から）



2．ＳＫ 6135（奥）・ＳＫ 6136（手前）土坑全景（西から）

3．ＳＫ 6139（右）・ＳＫ 6140（左）土坑土層断面（南西から）

4．ＳＫ 6139（手前）・ＳＫ 6140（奥）土坑全景（南東から）

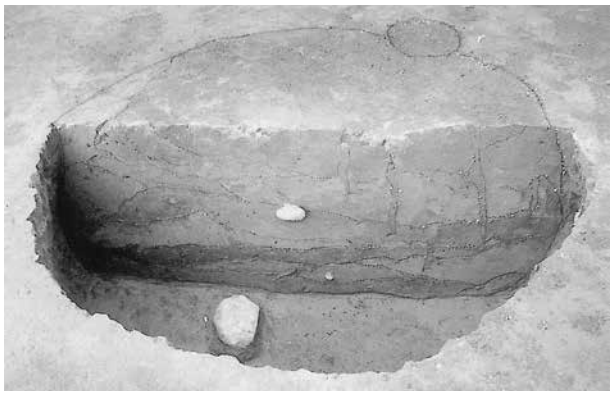
5．ＳＫ 6138 土坑土層断面（北西から）

6．ＳＫ 6138 土坑全景（南東から）

7．ＳＫ 6142 土坑全景（北東から）

8．ＳＫ 6143 土坑土層断面（南西から）

写真図版 47　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6146 土坑土層断面（南東から）

2．ＳＫ 6146 土坑礫出土状況（北西から）

3．ＳＫ 6147 土坑土層断面（南西から）

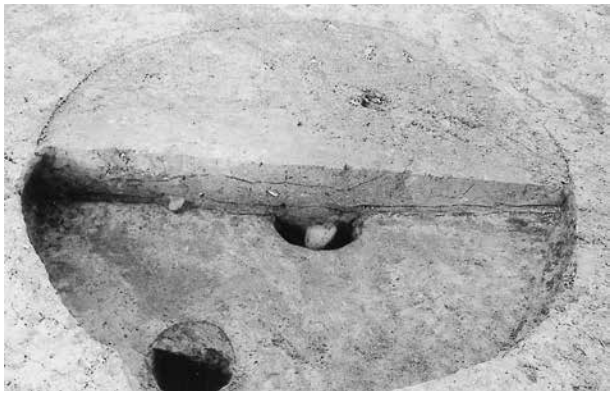
4．ＳＫ 6148 土坑土層断面（南西から）

5．ＳＫ 6147（左）・ＳＫ 6148（右）土坑全景（南西から）

写真図版 48　縄文時代土坑

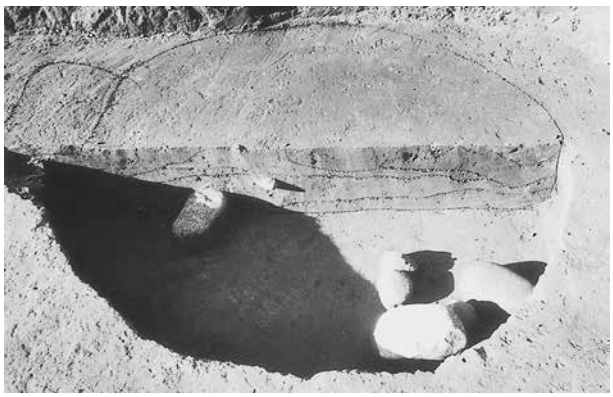
1．ＳＫ 6149 土坑土層断面（北東から）

2．ＳＫ 6149 土坑全景（北東から）



3．ＳＫ 6150 土坑土層断面（南から）

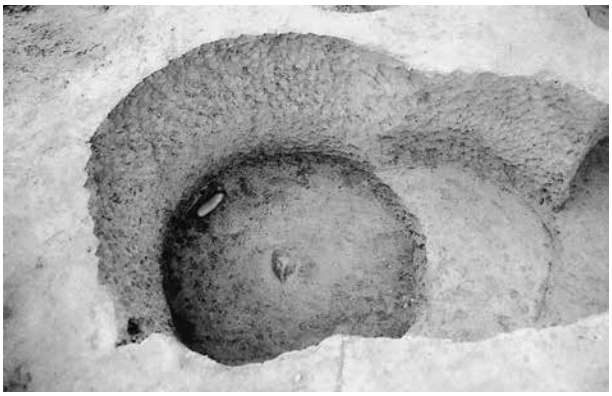
4．ＳＫ 6150 土坑礫出土状況（北東から）



5．ＳＫ 6152 土坑土層断面（南東から）

6．ＳＫ 6152 土坑礫出土状況（南から）

7．ＳＫ 6156（左）・ＳＫ 6157（右）土坑土層断面（東から）

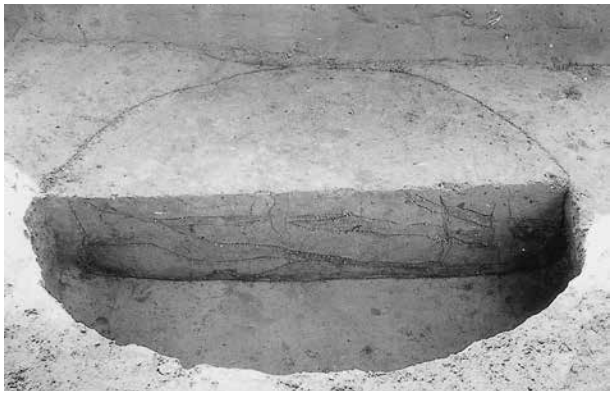


8．ＳＫ 6156（左）・ＳＫ 6157（右）土坑全景（東から）

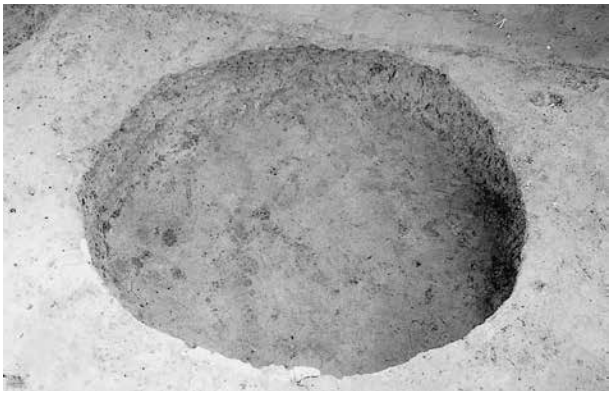
写真図版 49　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6159 土坑土層断面（南東から）

2．ＳＫ 6159 土坑全景（南東から）



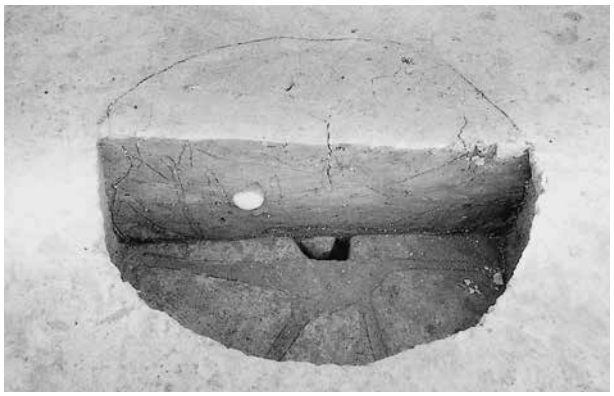
3．ＳＫ 6160 土坑土層断面（北から）



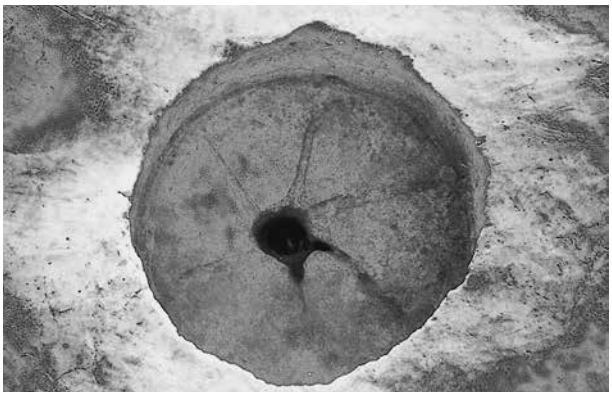
4．ＳＫ 6160 土坑全景（北から）

5．ＳＫ 6161 土坑土層断面（西から）

6．ＳＫ 6162 土坑土層断面（南から）



7．ＳＫ 6164 土坑土層断面（南から）



8．ＳＫ 6164 土坑全景（北から）

写真図版 50　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6165 土坑全景（北東から）

2．ＳＫ 6168 土坑土層断面（南東から）

3．ＳＫ 6166 土坑土層断面（北から）

4．ＳＫ 6166 土坑全景（西から）

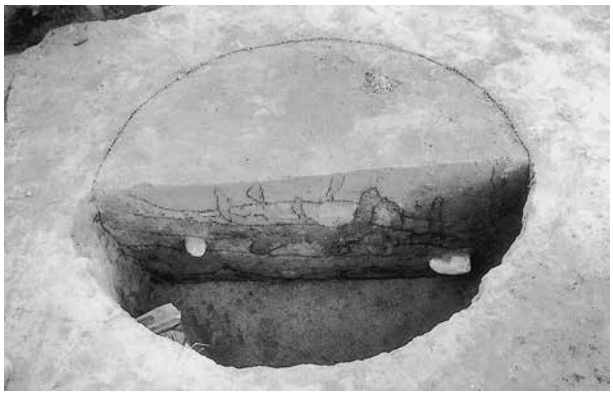
5．ＳＫ 6167 土坑土層断面（北から）

6．ＳＫ 6167 土坑全景（北東から）

7．ＳＫ 6169 土坑土層断面（南西から）

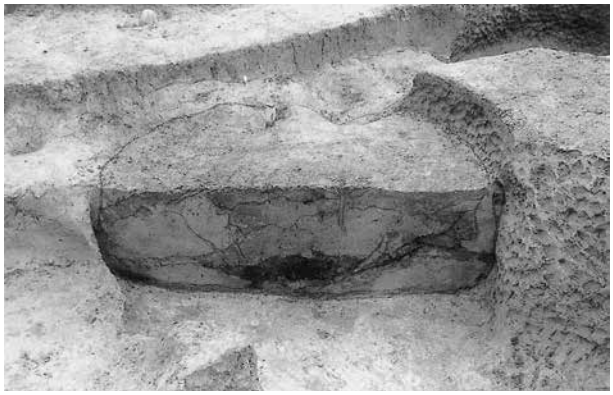
8．ＳＫ 6169 土坑全景（北から）

写真図版 51　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6170 土坑土層断面（南東から）

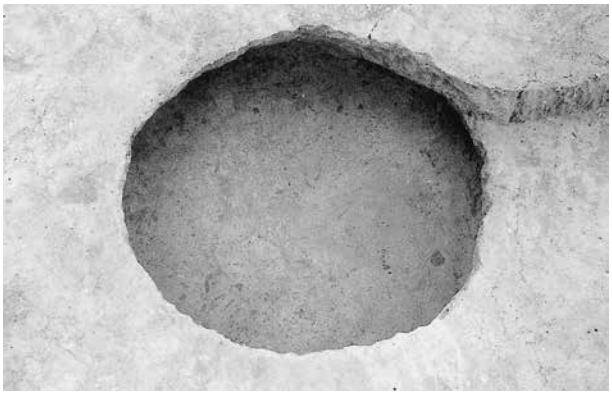
2．ＳＫ 6170 土坑礫出土状況（南西から）



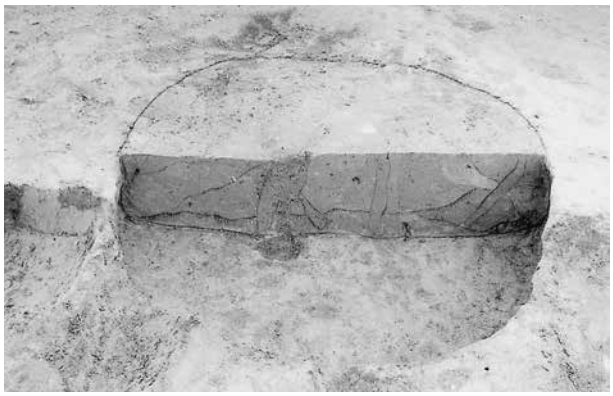
3．ＳＫ 6171 土坑土層断面（南西から）

4．ＳＫ 6173 土坑土層断面（南から）

5．ＳＫ 6172 土坑土層断面（南西から）



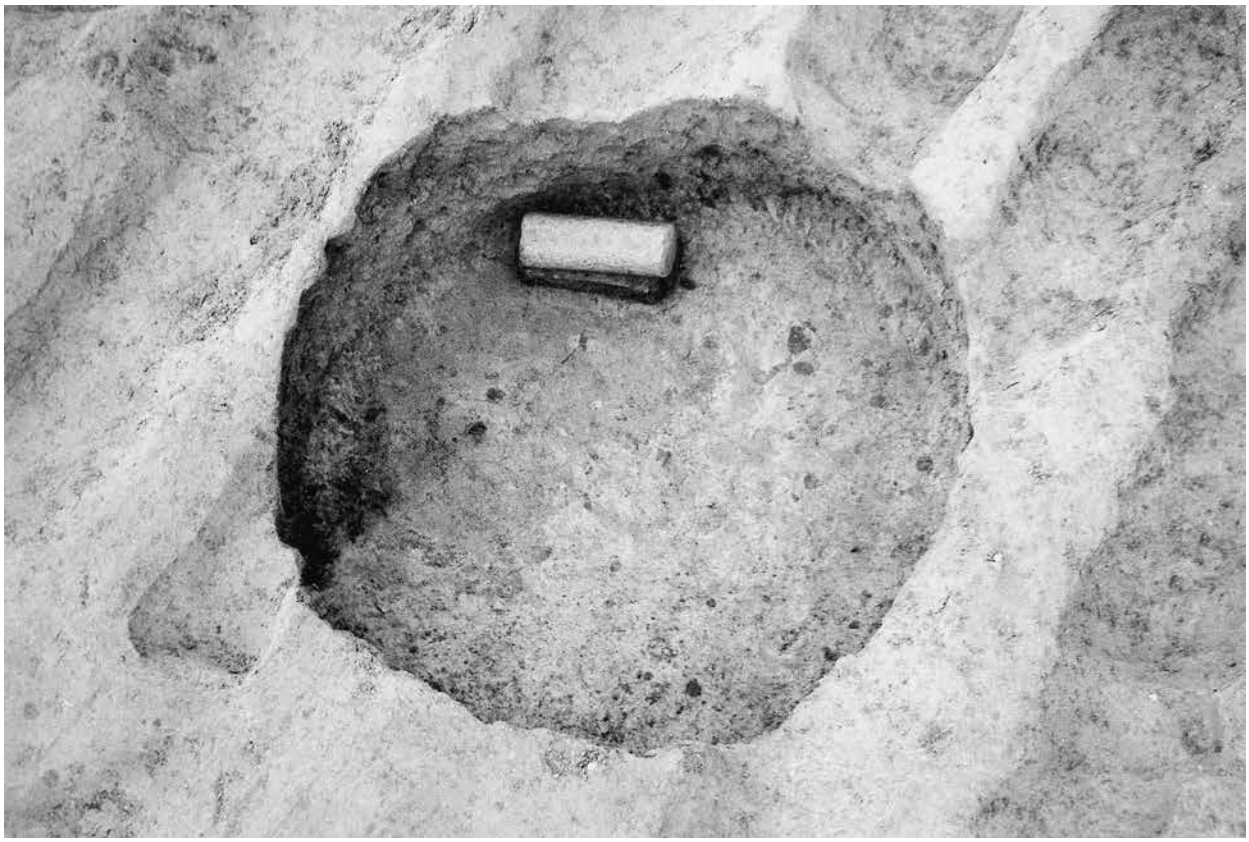
6．ＳＫ 6172 土坑全景（北西から）



7．ＳＫ 6174 土坑土層断面（北西から）

8．ＳＫ 6174 土坑全景（北西から）

写真図版 52　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6175 土坑遺物（Kd-d-6002）出土状況（東から）

2．ＳＫ 6175 土坑土層断面（西から）

3．ＳＫ 6176（右）・ＳＫ 6185（左）・ＳＫ 6186（中央）・
ＳＫ 6224（右上）土坑全景（北西から）

4．ＳＫ 6178 土坑土層断面（西から）

5．ＳＫ 6178 土坑全景（北西から）

写真図版 53　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6181 土坑土層断面（南から）

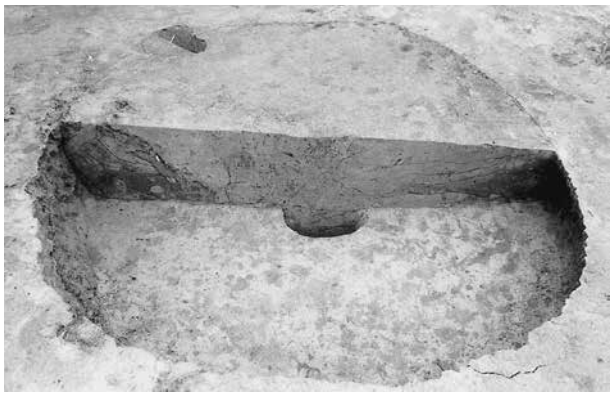
2．ＳＫ 6181 土坑全景（東から）

3．ＳＫ 6182 土坑土層断面（北東から）

4．ＳＫ 6182 土坑粘土検出状況（北西から）

5．ＳＫ 6182（左）・ＳＫ 6183（右）土坑全景（北東から）

6．ＳＫ 6185 土坑礫出土状況（北西から）

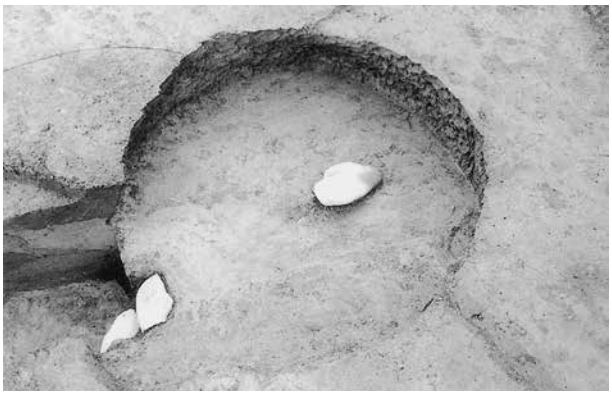


7．ＳＫ 6184 土坑土層断面（南から）

8．ＳＫ 6184 土坑全景（西から）

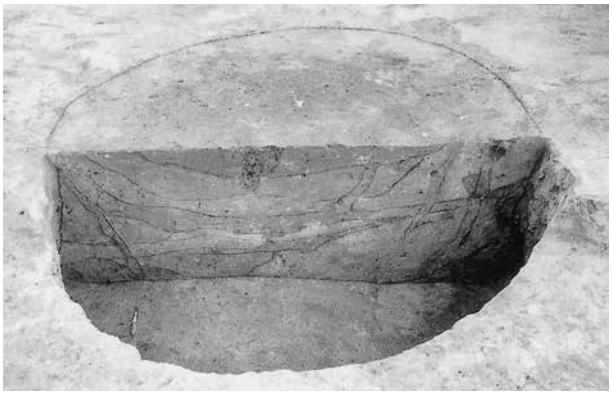
写真図版 54　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6187 土坑土層断面（北東から）



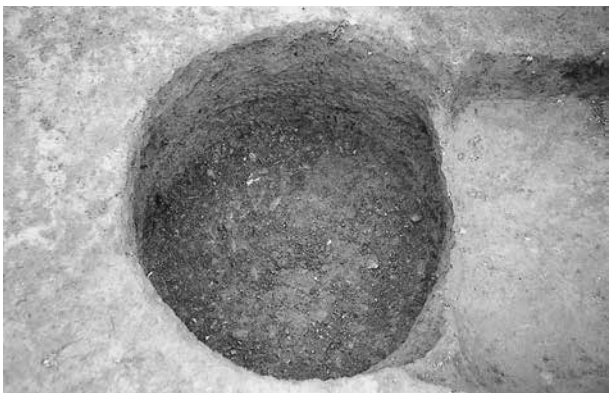
2．ＳＫ 6187 土坑礫出土状況（北東から）

3．ＳＫ 6190 土坑土層断面（北東から）



4．ＳＫ 6196 土坑土層断面（北西から）

5．ＳＫ 6200 土坑土層断面（北東から）

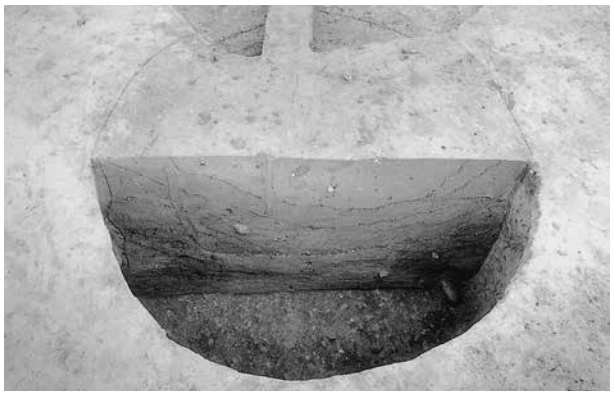


6．ＳＫ 6200 土坑全景（南東から）

7．ＳＫ 6198 土坑礫出土状況（南西から）

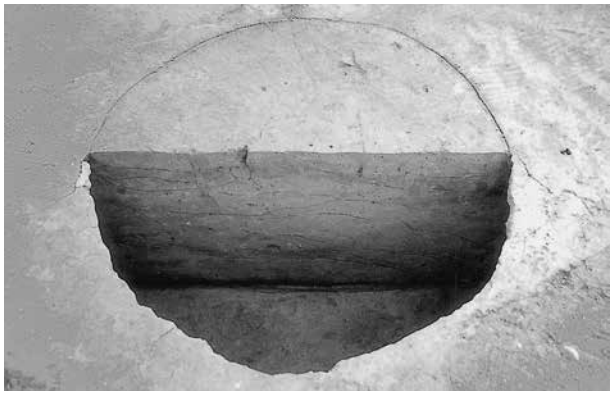
8．ＳＫ 6203 土坑土層（北西から）

写真図版 55　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6201 土坑土層断面（南西から）

2．ＳＫ 6201 土坑全景（南西から）

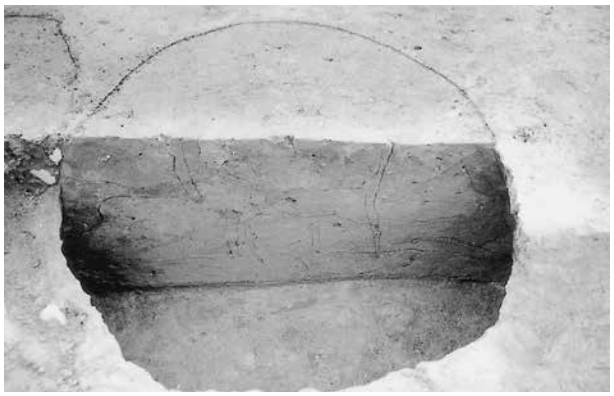


3．ＳＫ 6202 土坑土層断面（北西から）

4．ＳＫ 6202 土坑全景（南から）

5．ＳＫ 6204 土坑土層断面（東から）

6．ＳＫ 6204（奥）・ＳＫ 6205（中央）・ＳＫ 6241（左）・
ＳＫ 6251（右）土坑全景（南から）



7．ＳＫ 6208 土坑土層断面（北西から）

8．ＳＫ 6208 土坑全景（南東から）

写真図版 56　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6206（左）・ＳＫ 6207（右）土坑全景（北東から）

2．ＳＫ 6206 土坑上層遺物出土状況（北東から）

3．ＳＫ 6206 土坑土層断面（北東から、右はＳＫ 6207 土坑）

4．ＳＫ 6209 土坑土層断面（東から）

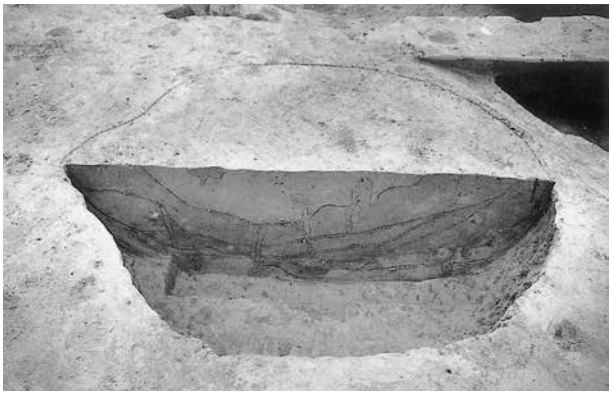
5．ＳＫ 6209 土坑礫出土状況（東から）

写真図版 57　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6210 土坑土層断面（南東から）

2．ＳＫ 6210 土坑全景（南東から）

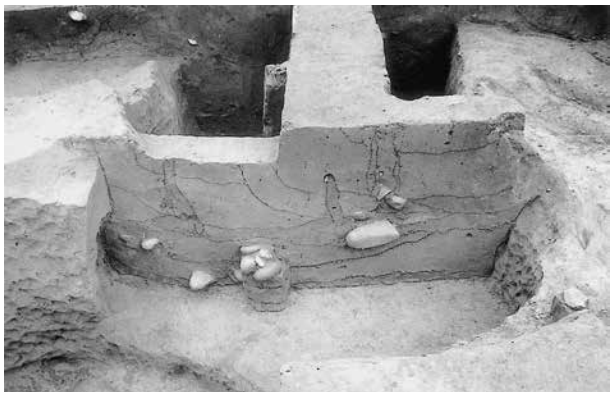
3．ＳＫ 6211 土坑土層断面（北西から）



4．ＳＫ 6212 土坑断面（北から）

5．ＳＫ 6213 土坑全景（南東から）

6．ＳＫ 6214 土坑断面（北西から）

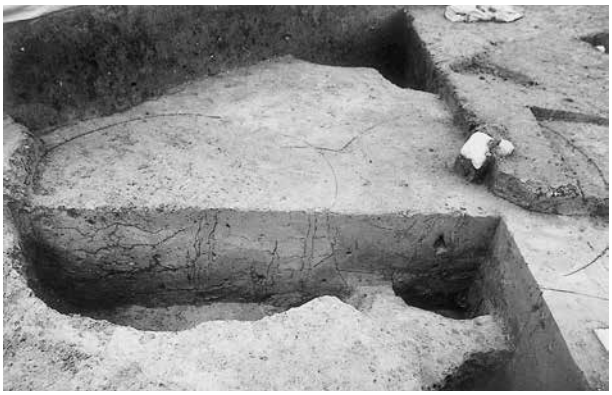


7．ＳＫ 6215（右上）・ＳＫ 6221（下）土坑土層断面（南東から）

8．ＳＫ 6215 土坑遺物（A-60598）出土状況（北東から）

写真図版 58　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6216 土坑土層土層断面（南から）



2．ＳＫ 6218（右）・ＳＫ 6217（左）土坑土層断面（南東から）

3．ＳＫ 6217 土坑遺物出土状況（北東から）

4．ＳＫ 6217 土坑遺物（A-60519）出土状況（北から）

5．ＳＫ 6220 土坑遺物出土状況（東から）

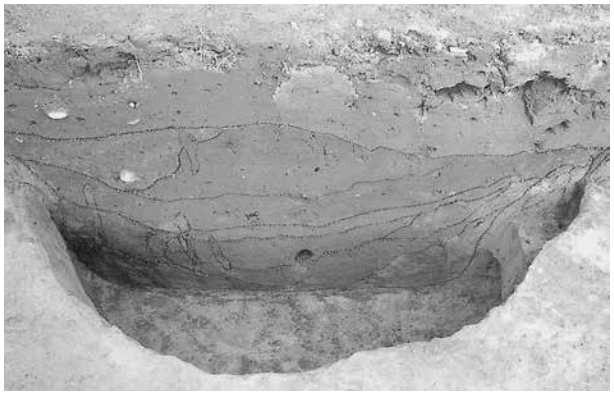
写真図版 59　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6219 土坑土層断面（北東から）

2．ＳＫ 6225（左）・ＳＫ 6226（右）土坑土層断面（南西から）

3．ＳＫ 6222 土坑土層断面（東から）

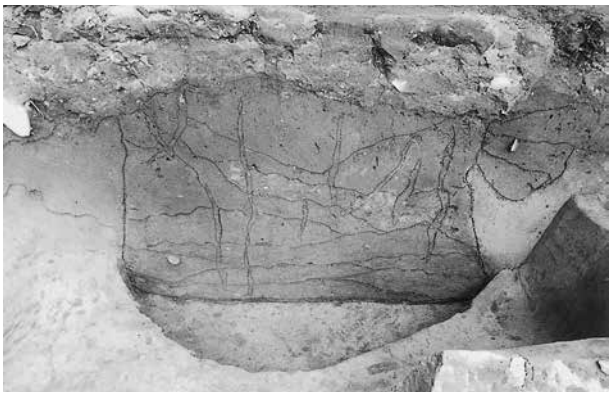
4．ＳＫ 6222 土坑全景（南東から）



5．ＳＫ 6227 土坑土層断面（南から）

6．ＳＫ 6229 土坑遺物出土状況（北から）

7．ＳＫ 6230 土坑土層断面（南から）

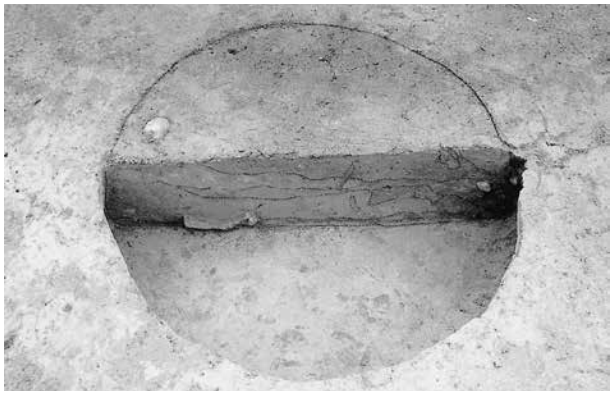


8．ＳＫ 6231 土坑土層断面（南から）

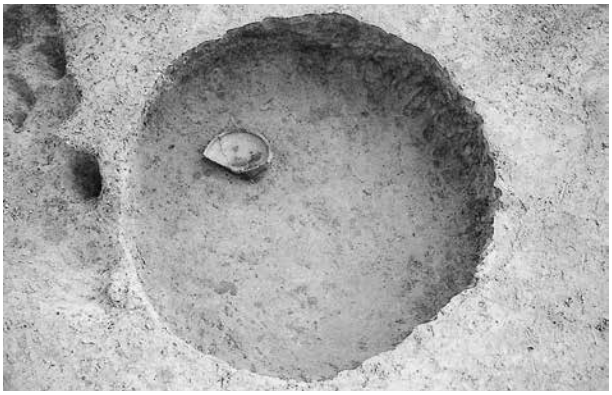
写真図版 60　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6232 土坑土層断面（南から）

2．ＳＫ 6233 土坑礫出土状況（北西から）

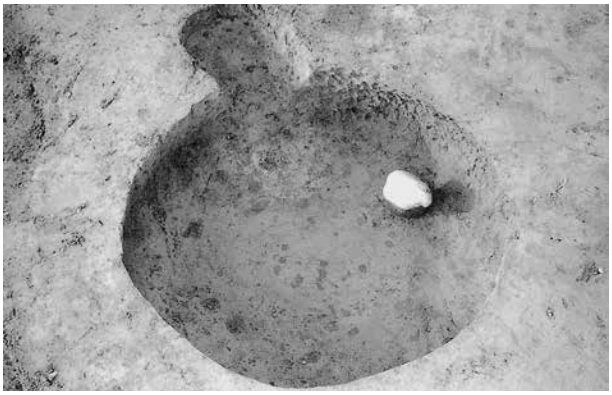


3．ＳＫ 6235 土坑土層断面（北から）

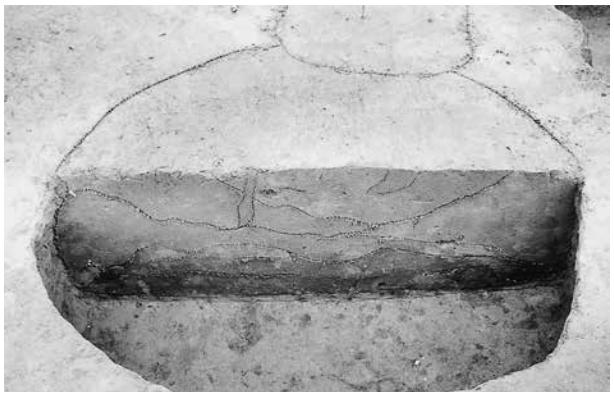


4．ＳＫ 6235 土坑遺物（A-60618）出土状況（北から）

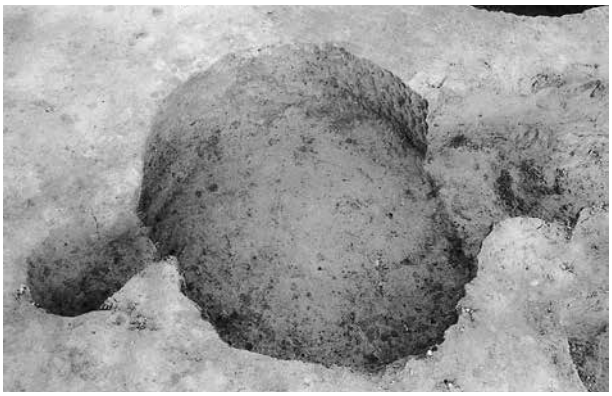
5．ＳＫ 6237 土坑土層断面（北西から）



6．ＳＫ 6237 土坑礫出土状況（南東から）

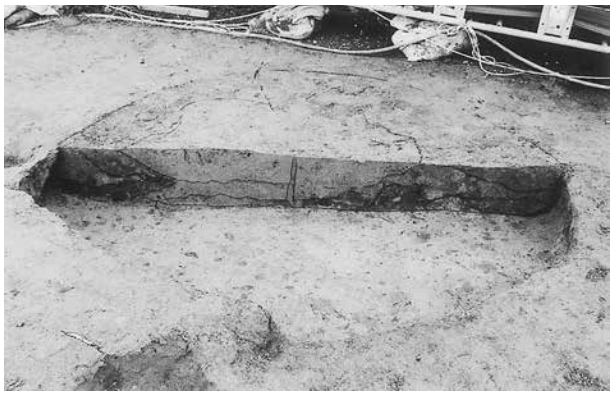


7．ＳＫ 6239 土坑土層断面（北西から）

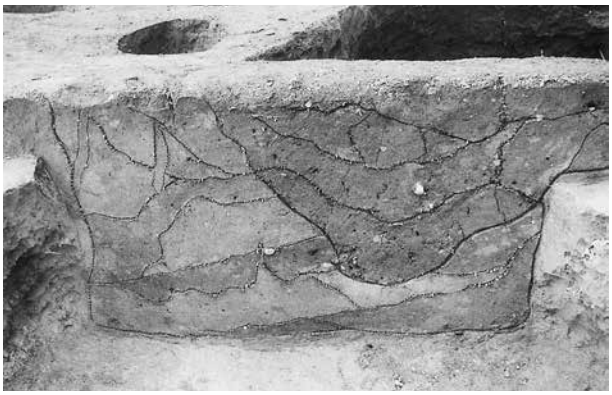


8．ＳＫ 6239 土坑全景（南西から）

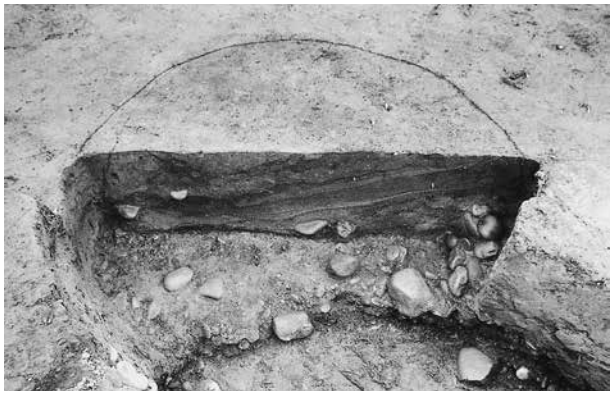
写真図版 61　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6252 土坑土層断面（南東から）



2．ＳＫ 6254 土坑土層断面（東から）



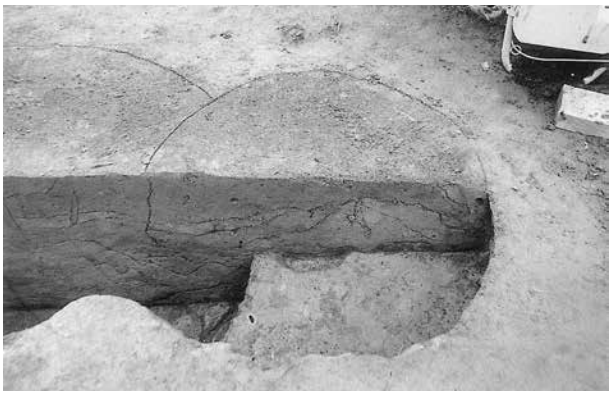
3．ＳＫ 6253 土坑土層断面（西から）

4．ＳＫ 6253 土坑礫出土状況（北西から）

5．ＳＫ 6249（左上）・ＳＫ 6255（右）・ＳＫ 6256（中央）土坑全景（北から）

写真図版 62　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6256 土坑土層断面（北から、右はＳＫ 6255 土坑）



2．ＳＫ 6255 土坑土層断面（北から、左はＳＫ 6256 土坑）

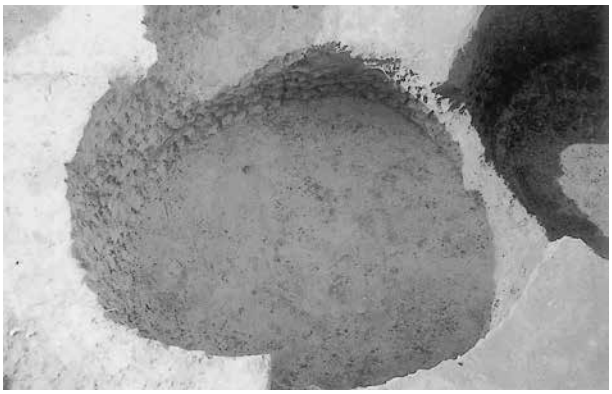
3．ＳＫ 6257 土坑全景（北から）

4．ＳＫ 6257 土坑土偶（P-6028）出土状況（北から）

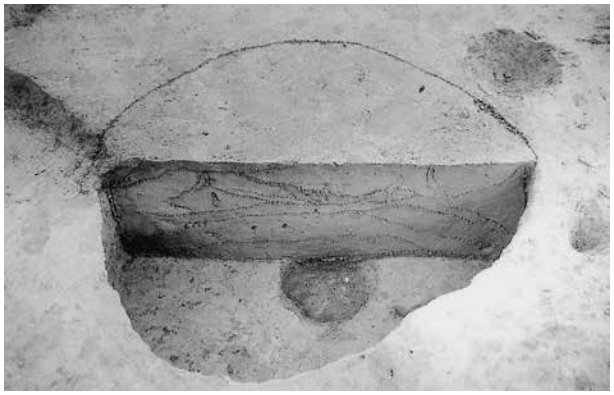
5．ＳＫ 6258 土坑土層断面（北から）

写真図版 63　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6259 土坑全景（北から）



2．ＳＫ 6264 土坑全景（北東から）

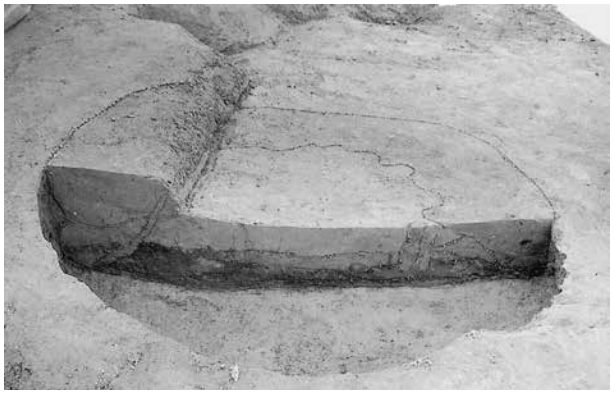


3．ＳＫ 6265 土坑土層断面（北から）

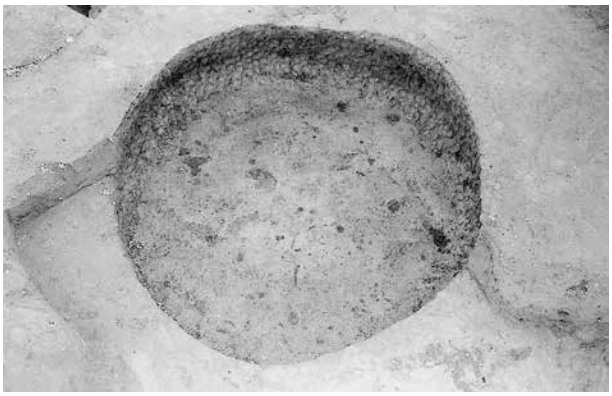
4．ＳＫ 6265 土坑全景（東から）

5．ＳＫ 6270 土坑土層断面（南東から）

6．ＳＫ 6270 土坑全景（東から）

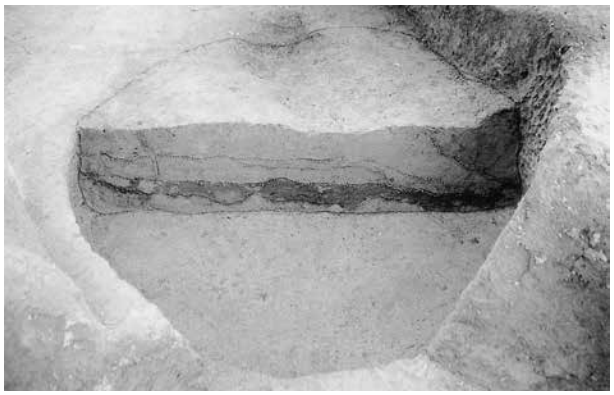


7．ＳＫ 6271 土坑土層断面（東から）



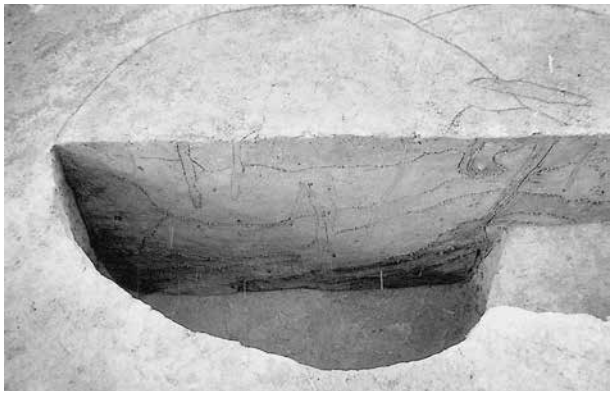
8．ＳＫ 6271 土坑全景（北東から）

写真図版 64　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6272 土坑土層断面（北西から）

2．ＳＫ 6272 土坑全景（北東から）



3．ＳＫ 6273 土坑土層断面（東から、右はＳＫ 6274 土坑）

4．ＳＫ 6273 土坑全景（東から）

5．ＳＫ 6275 土坑上層遺物出土状態（北東から）

6．ＳＫ 6275 土坑下層遺物出土状態（北東から）

7．ＳＫ 6275 土坑遺物（A-60642）出土状態（南東から）

8．ＳＫ 6275 土坑土層断面（北東から）

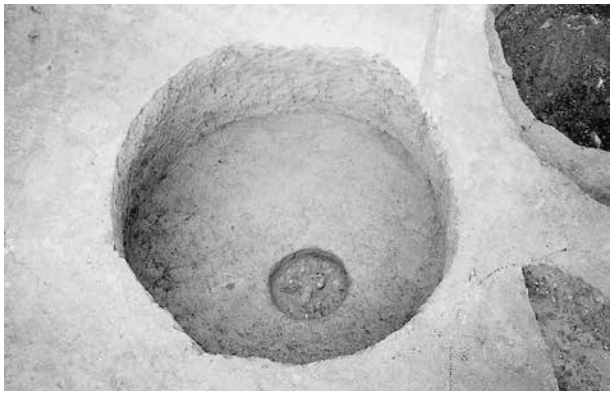
写真図版 65　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6276 土坑全景（東から）

2．ＳＫ 6278 土坑全景（南から）

3．ＳＫ 6279 土坑土層断面（南西から）

4．ＳＫ 6279 土坑全景（南から）



5．ＳＫ 6280 土坑全景（南から）

6．ＳＫ 6281 土坑土層断面（北から）

7．ＳＫ 6282 土坑土層断面（南から）

8．ＳＫ 6284 土坑全景（南から）

写真図版 66　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6285 土坑遺物出土状況（北から）

2．ＳＫ 6285 土坑全景（西から）

3．ＳＫ 6286 土坑土層断面（北から）

4．ＳＫ 6290 土坑土層断面（東から）

5．ＳＫ 6291 土坑土層断面（東から）

6．ＳＫ 6292 土坑土層（下）およびピット 61126（上）断面
（西から、右はＳＫ 6293 土坑）

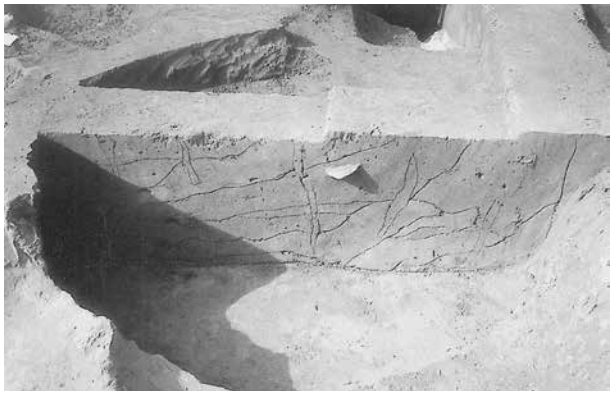
7．ＳＫ 6293 土坑土層断面（北西から、左はＳＫ 6292 土坑）

8．ＳＫ 6292 土坑全景（東から）

写真図版 67　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6293 土坑全景（西から）

2．ＳＫ 6297 土坑遺物（A-60662）出土状況（北東から）



3．ＳＫ 6298 土坑土層断面（東から）

4．ＳＫ 6302 土坑土層断面（東から）

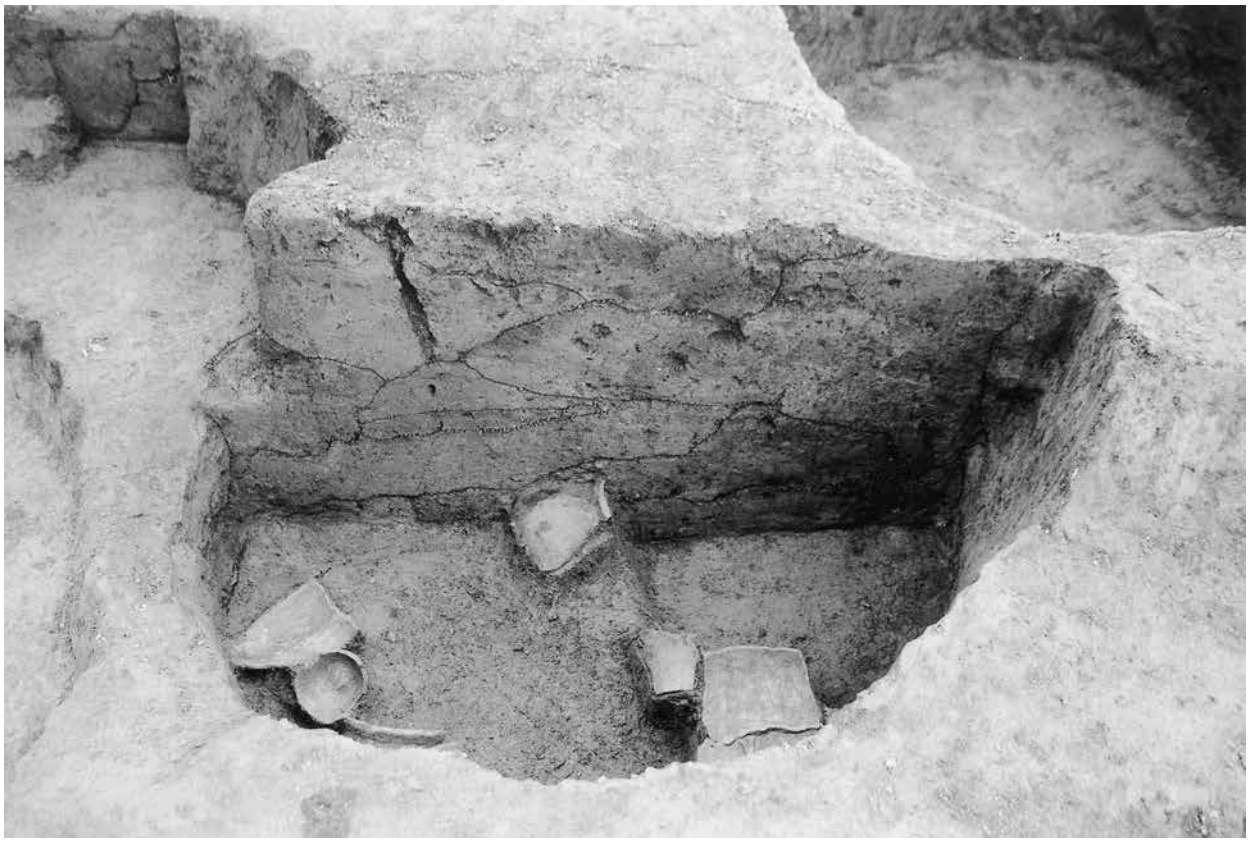
5．ＳＫ 6309 土坑土層断面（北から）

6．ＳＫ 6309 土坑全景（北から）

7．ＳＫ 6312 土坑土層断面（西から）

8．ＳＫ 6312 土坑全景（北東から）

写真図版 68　縄文時代土坑



1．ＳＫ 6313 土坑土層断面（北西から）

2．ＳＫ 6313 土坑遺物（A-60689）出土状況（南東から）

3．ＳＫ 6313 土坑全景（北西から）

4．ＳＫ 6315 土坑土層断面（南から）

5．ＳＫ 6315 土坑礫出土状況（北から）

写真図版 69　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6326 土坑礫出土状況（東から）

2．ＳＫ 6326 土坑土層断面（東から）

3．ＳＫ 6328（左）・ＳＫ 6329（右）土坑全景（南西から）

4．ＳＫ 6329 土坑遺物（A-60690）出土状況（南から）

5．ＳＫ 6330 土坑土層断面（東から）

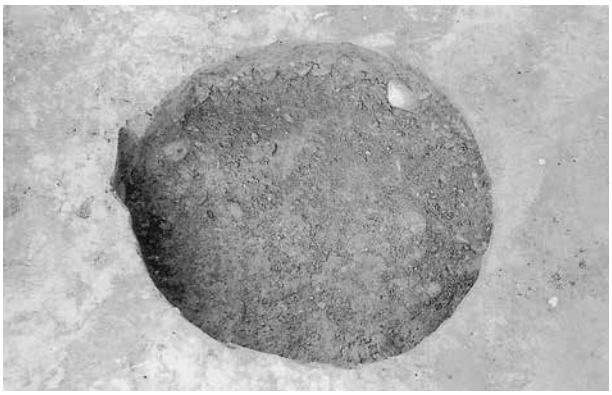
6．ＳＫ 6330 土坑礫出土状況（北東から）

7．ＳＫ 6331 土坑土層断面（北から）

8．ＳＫ 6331 土坑礫出土状況（南西から）

写真図版 70　縄文時代土坑

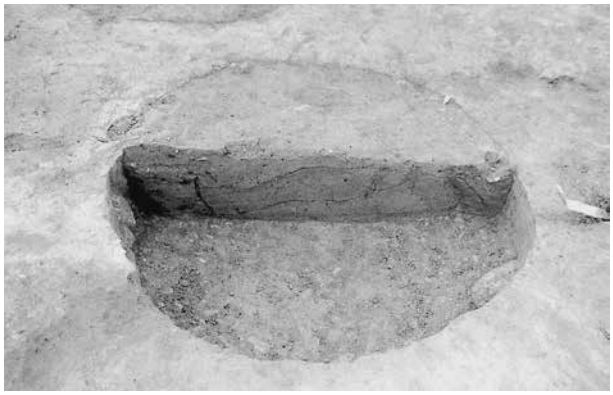
1．ＳＫ 6332 土坑土層断面（東から）



2．ＳＫ 6332 土坑全景（東から）

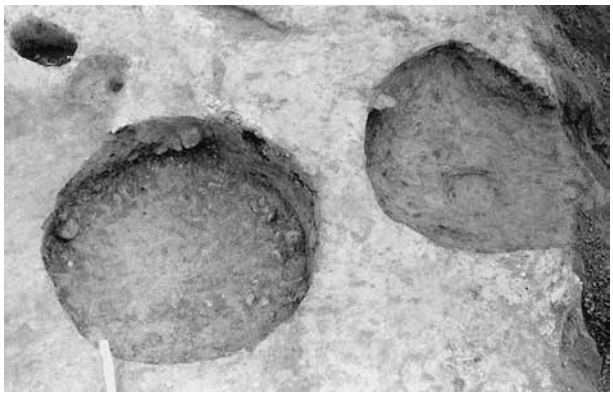
3．ＳＫ 6333 土坑土層断面（北から）

4．ＳＫ 6333 土坑全景（東から）



5．ＳＫ 6334 土坑土層断面（北から）

6．ＳＫ 6335 土坑土層断面（北から）

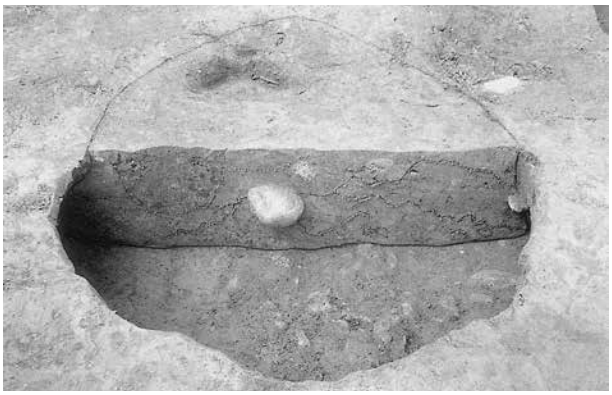


7．ＳＫ 6334（左）・ＳＫ 6335（右）土坑全景（東から）

8．ＳＫ 6337 土坑土層断面（南東から）

写真図版 71　縄文時代土坑

1．ＳＫ 6338 土坑礫出土状況（西から）



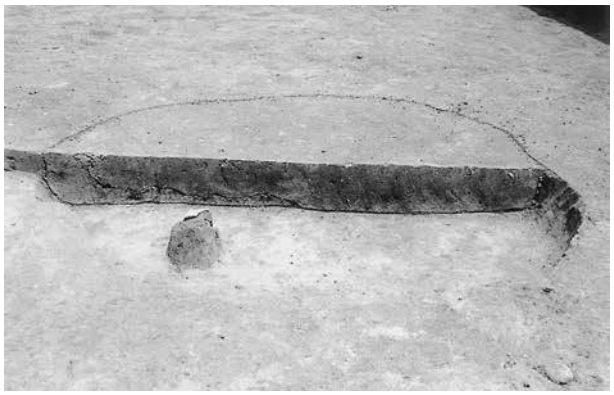
2．ＳＫ 6339 土坑土層断面（東から）

3．ＳＫ 6340 土坑土層断面（北から）

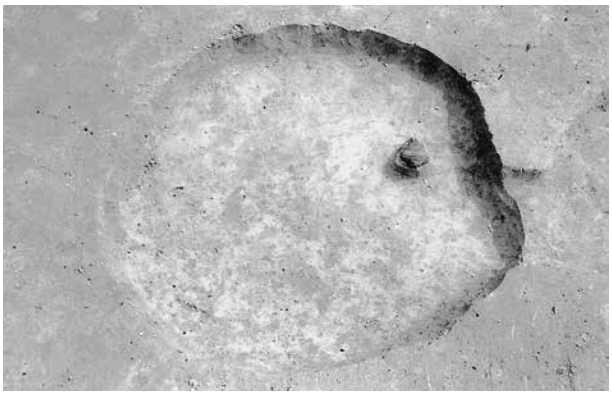
4．ＳＫ 6340（左）・ＳＫ 6339（右）土坑全景（南西から）

5．第６次追加調査区土坑群全景（東から）

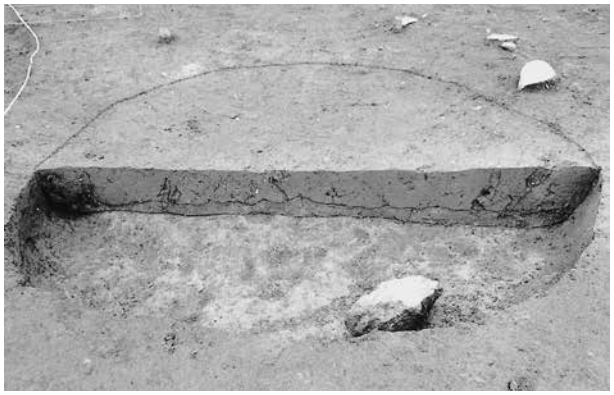
写真図版 72　縄文時代土坑



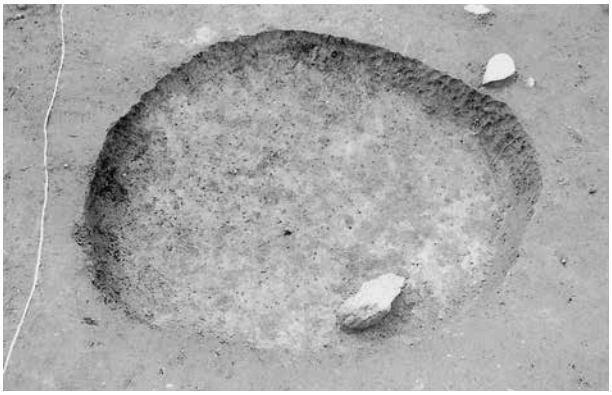
1．ＳＫ 7001 土坑土層断面（南から）



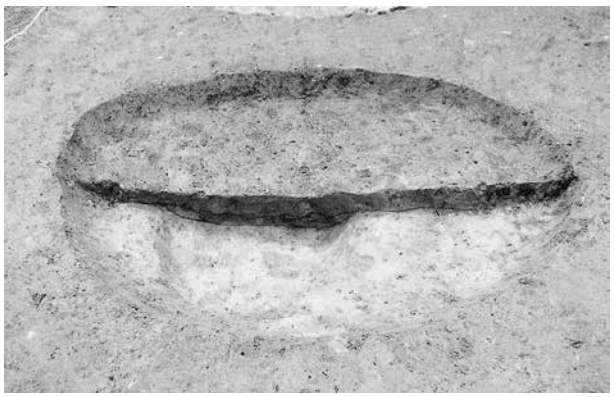
2．ＳＫ 7001 土坑遺物出土状況（北から）



3．ＳＫ 7002 土坑土層断面（北から）



4．ＳＫ 7002 土坑礫出土状況（北から）



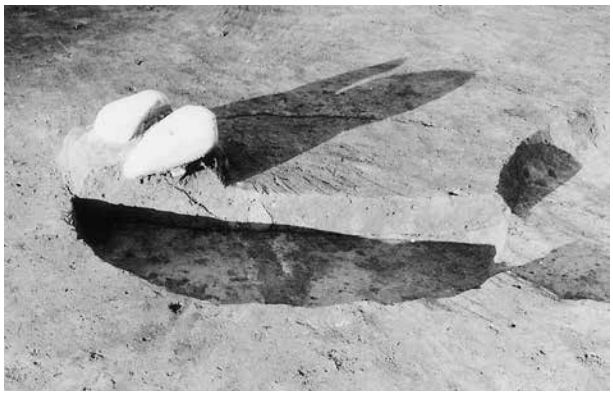
5．ＳＫ 7004 土坑土層断面（北から）

6．ＳＫ 7004 土坑全景（北から）

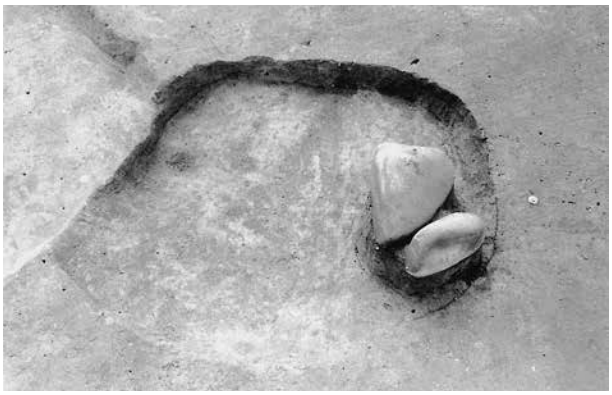
7．ＳＫ 7005 土坑土層断面（東から）

8．ＳＫ 7005 土坑遺物出土状況（東から）

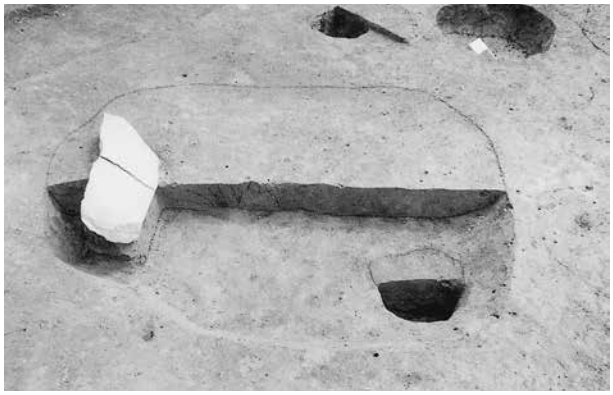
写真図版 73　縄文時代土坑



1．ＳＫ 7006 土坑土層断面（南西から）



2．ＳＫ 7006 土坑礫出土状況（北東から）



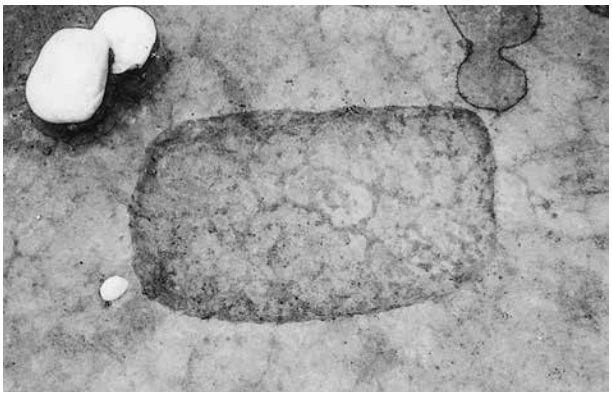
3．ＳＫ 7007 土坑土層断面（北西から）

4．ＳＫ 7007 土坑礫出土状況（北西から）

5．ＳＫ 7009 土坑土層断面（南東から）

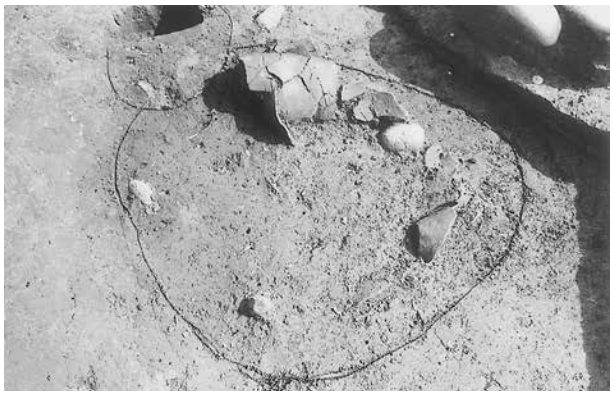
6．ＳＫ 7009 土坑礫出土状況（北西から）

7．ＳＫ 7008（下）・ＳＫ 7017（上）土坑全景（南から）



8．ＳＫ 7010 土坑全景（北西から）

写真図版 74　縄文時代土坑



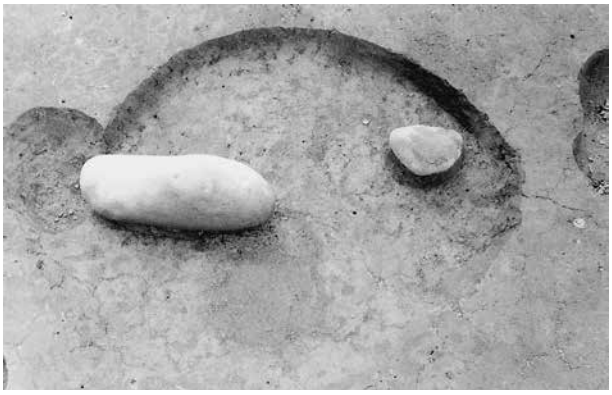
1．ＳＫ 7011 土坑検出状況（北西から）

2．ＳＫ 7011 土坑土層断面（北東から）

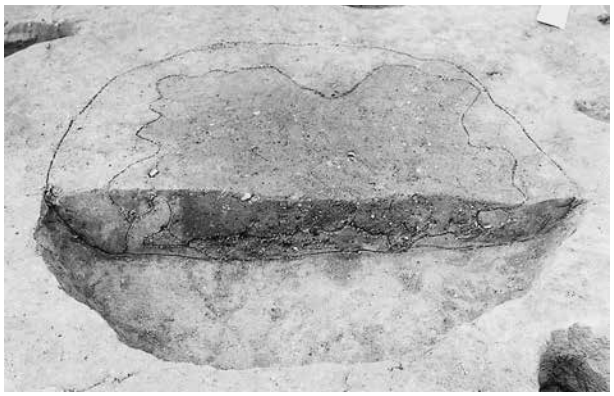
3．ＳＫ 7011 土坑遺物（A-70387）出土状況（北西から）

4．ＳＫ 7011 土坑遺物（A-70386）出土状況（北東から）

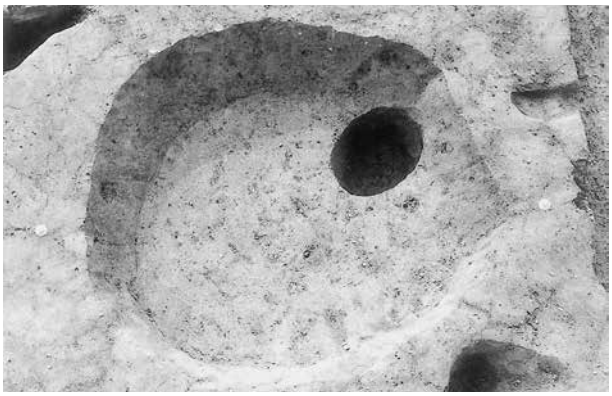
5．ＳＫ 7012 土坑礫出土状況（北西から）



6．ＳＫ 7013 土坑礫出土状況（北から）



7．ＳＫ 7014 土坑土層断面（東から）



8．ＳＫ 7014 土坑全景（東から）

写真図版 75　縄文時代土坑

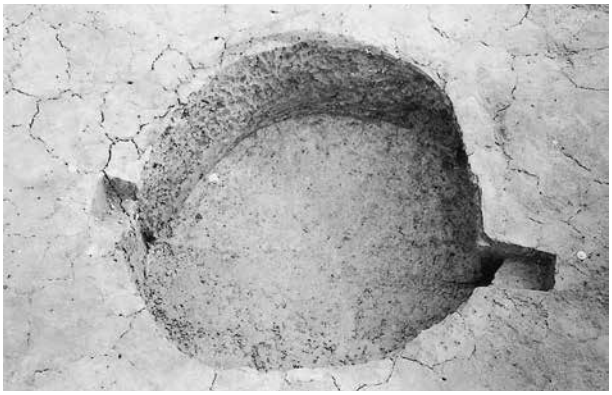
1．ＳＫ 7015 土坑断面（南から）

2．ＳＫ 7015 土坑中層遺物出土状況（南東から）

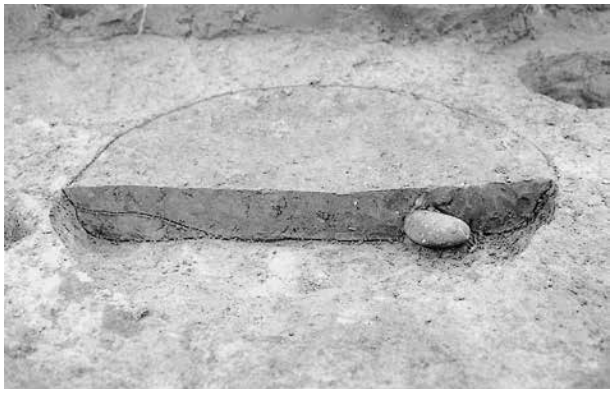
3．ＳＫ 7015 土坑下層遺物（A-70395）出土出状況（南西から）

4．ＳＫ 7015 土坑礫出土状況（南から）

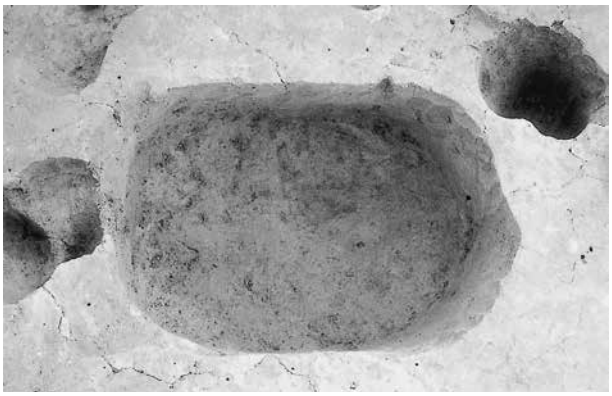
5．ＳＫ 7016 土坑土層断面（西から）



6．ＳＫ 7016 土坑全景（西から）



7．ＳＫ 7018 土坑土層断面（北から）



8．ＳＫ 7020 土坑全景（南から）

写真図版 76　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7021 土坑土層断面（西から）

2．ＳＫ 7022（右）・ＳＫ 7023（右）土坑断面（南東から）

3．ＳＫ 7021（右上）・ＳＫ 7022（左上）・ＳＫ 7023（手前）
土坑全景（北東から）

4．ＳＫ 7027 土坑土層断面（北から）

5．ＳＫ 7029 土坑土層断面（東から）

6．ＳＫ 7029 土坑全景（東から）

7．ＳＫ 7028 土坑全景（北から）

8．ＳＫ 7030 土坑全景（南から）

写真図版 77　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7031 土坑土層断面（北西から）

2．ＳＫ 7031 土坑礫出土状況（北東から）

3．ＳＫ 7032 土坑土層断面（南東から）

4．ＳＫ 7032 土坑全景（南東から）

5．ＳＫ 7033 土坑上層礫出土状況（東から）

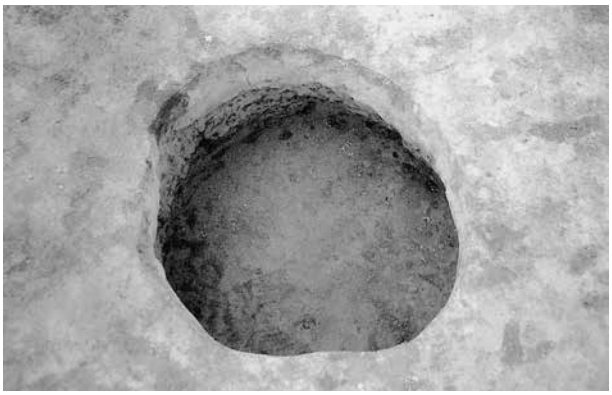
6．ＳＫ 7033 土坑土層断面（東から）

7．ＳＫ 7033 土坑遺物（ミニチュア土器）出土状況（東から）

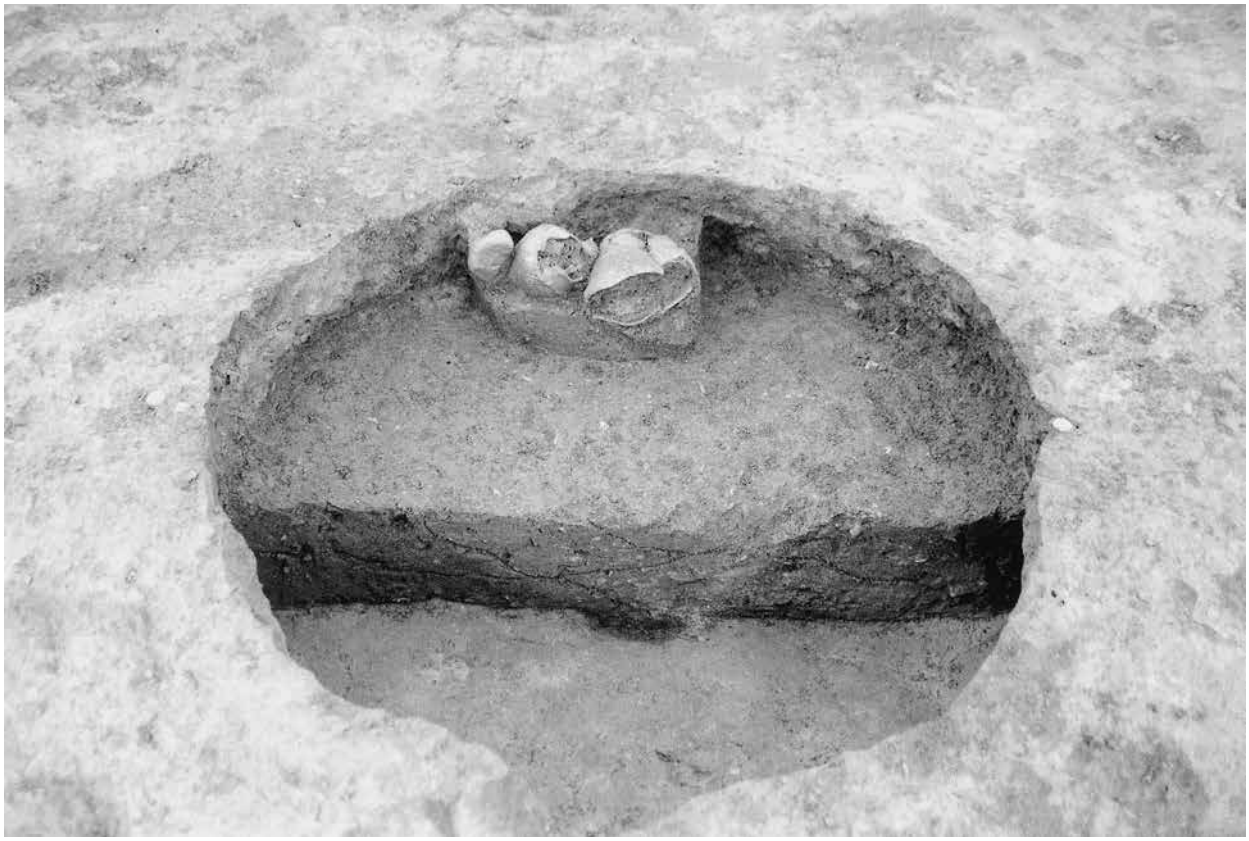
8．ＳＫ 7033 土坑礫出土状況（北東から）

写真図版 78　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7034 土坑土層断面（北西から）

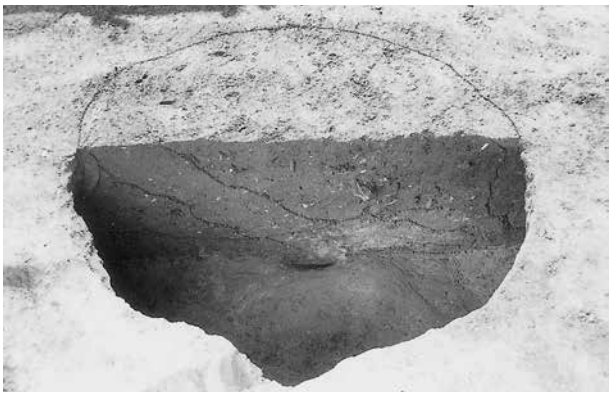


2．ＳＫ 7034 土坑全景（東から）



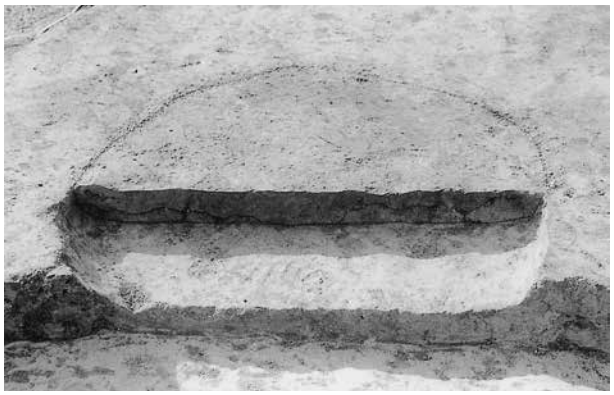
3．ＳＫ 7037 土坑中層遺物（A-70408 右、A-70409 左）出土状況（北から）

4．ＳＫ 7037 土坑中層遺物出土状況（南から）

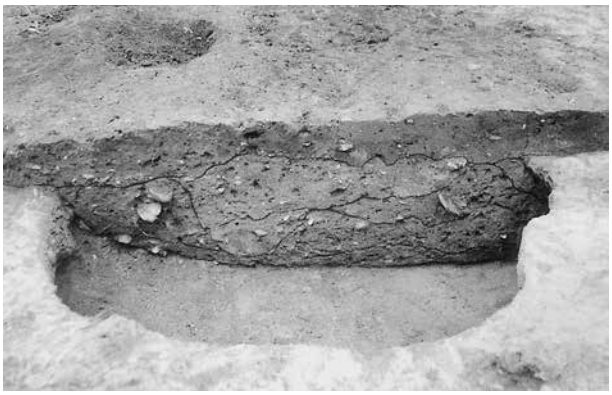


5．ＳＫ 7037 土坑土層断面（北から）

写真図版 79　縄文時代土坑



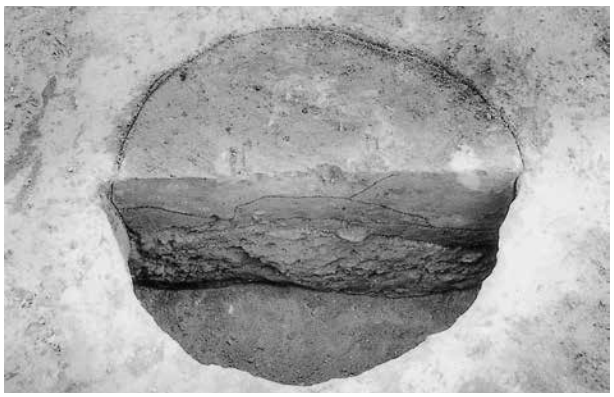
1．ＳＫ 7038 土坑土層断面（東から）



2．ＳＫ 7039 土坑土層断面（北から）

3．ＳＫ 7039 土坑遺物出土状況（北から）

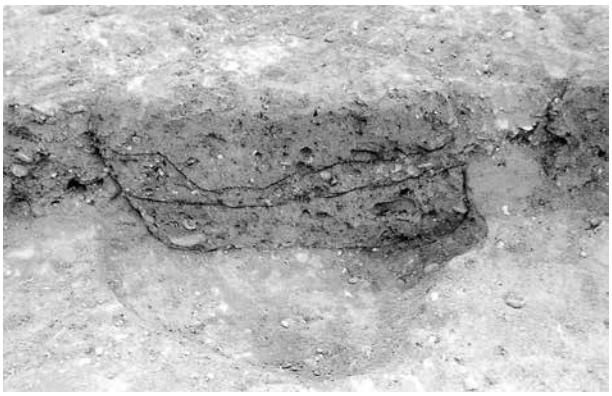
4．ＳＫ 7039 土坑全景（東から）



5．ＳＫ 7040 土坑土層断面（北から）

6．ＳＫ 7040 土坑全景（東から）

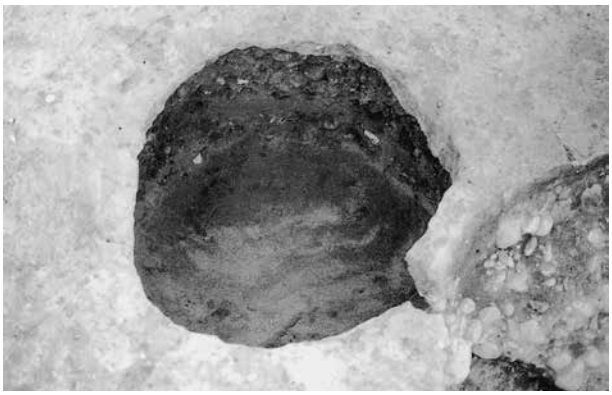
7．ＳＫ 7041 土坑土層断面（西から）



8．ＳＫ 7045 土坑土層断面（東から）

写真図版 80　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7042 土坑上層遺物出土状況（北から）



2．ＳＫ 7042 土坑全景（南西から）

3．ＳＫ 7043 土坑上層遺物（A-70417）出土状況（北西から）

4．ＳＫ 7043 土坑粘土検出状況（北から）

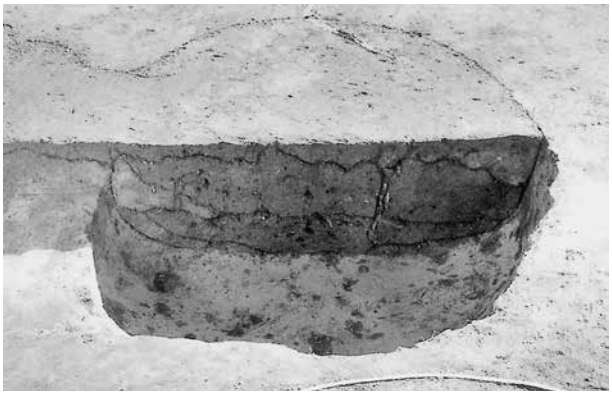
5．ＳＫ 7043 土坑下層遺物（A-70412）出土状況（北から）

写真図版 81　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7044 土坑土層断面（北から）

2．ＳＫ 7044 土坑全景（北から）

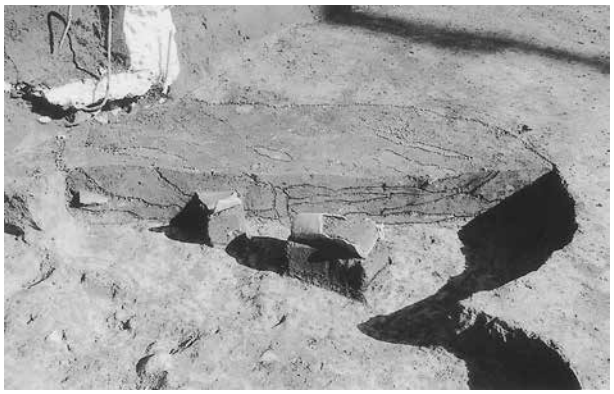
3．ＳＫ 7046 土坑土層断面（北から）



4．ＳＫ 7047 土坑土層断面（北から）

5．ＳＫ 7048 土坑土層断面（北から）

6．ＳＫ 7049 土坑土層断面（南から）



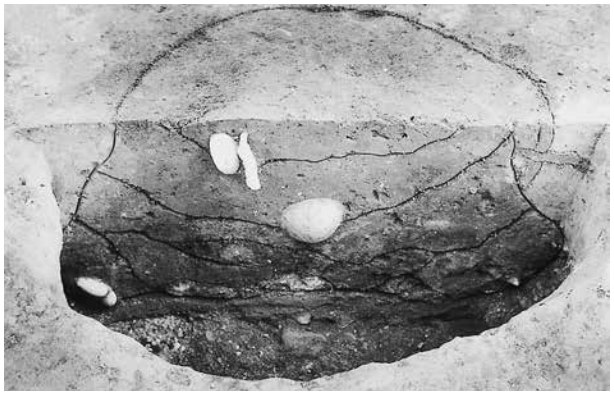
7．ＳＫ 7050 土坑土層断面（南西から）

8．ＳＫ 7050 土坑遺物（A-70436）出土状況（北東から）

写真図版 82　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7051 土坑遺物（A-70441）出土状況（北東から）

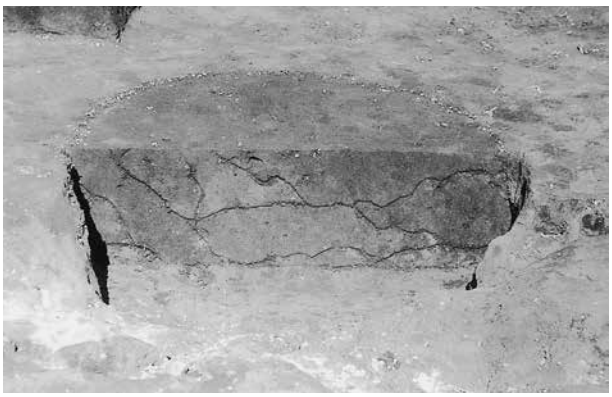
2．ＳＫ 7051 土坑礫出土状況（北西から）



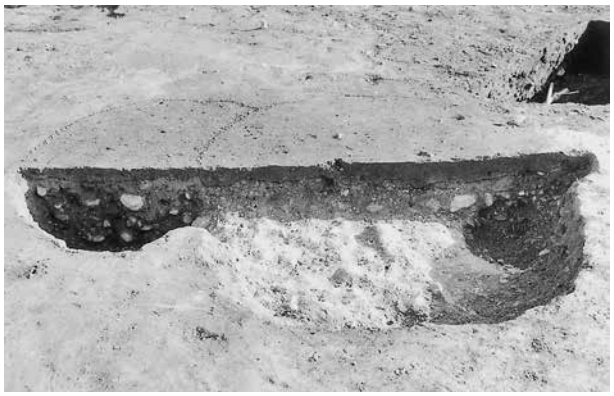
3．ＳＫ 7052 土坑土層断面（西から）

4．ＳＫ 7052 土坑全景（西から）

5．ＳＫ 7053 土坑土層断面（東から）



6．ＳＫ 7054 土坑土層断面（南から）



7．ＳＫ 7055（右）・ＳＫ 7056（左）土坑土層断面（北西から）

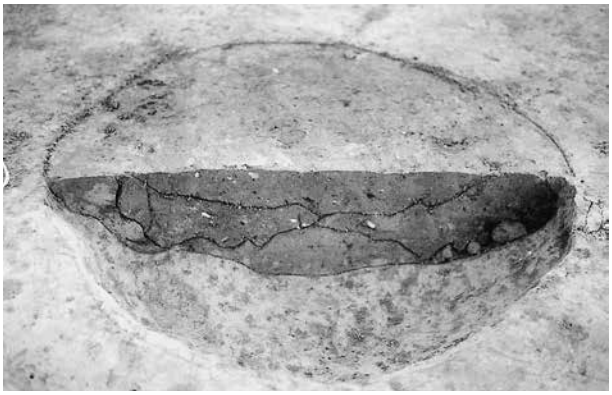
8．ＳＫ 7055（右）・ＳＫ 7056（右手前）・ＳＫ 7058（左）
土坑全景（東から）

写真図版 83　縄文時代土坑

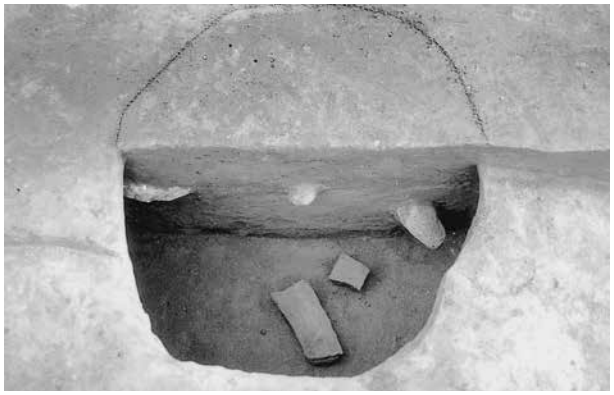
1．ＳＫ 7057 土坑土層断面（北から）

2．ＳＫ 7057 土坑全景（北西から）

3．ＳＫ 7058 土坑土層断面（西から）



4．ＳＫ 7059 土坑土層断面（北から）



5．ＳＫ 7061 土坑土層断面（西から）

6．ＳＫ 7061 土坑中層礫出土状況（西から）

7．ＳＫ 7062 土坑土層断面（北から）

8．ＳＫ 7062 土坑遺物（A-70458）出土状況（北から）

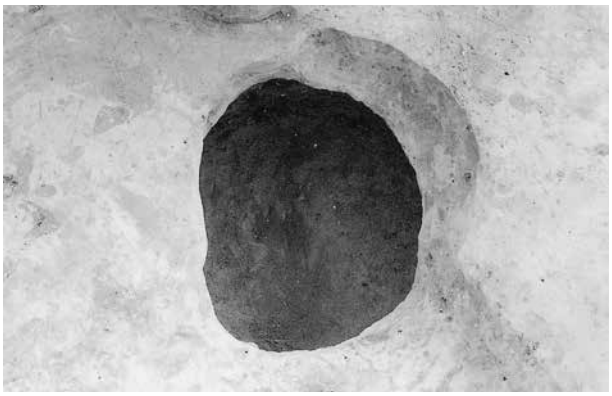
写真図版 84　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7060 土坑遺物（A-70452）出土状況（北東から）

2．ＳＫ 7060 土坑土層断面（北東から）

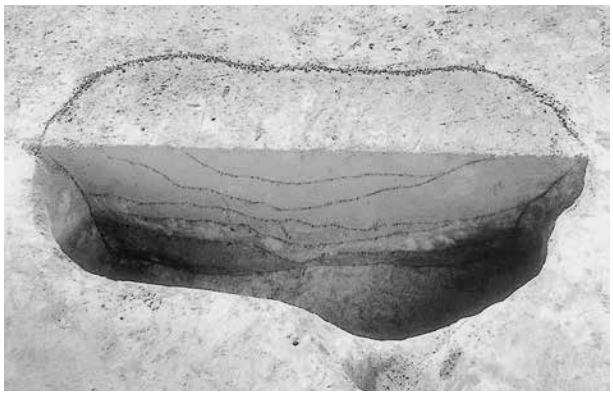
3．ＳＫ 7060 土坑遺物（A-70447 右、A-70448 左）出土状況（北西から）

4．ＳＫ 7063 土坑土層断面（北から）

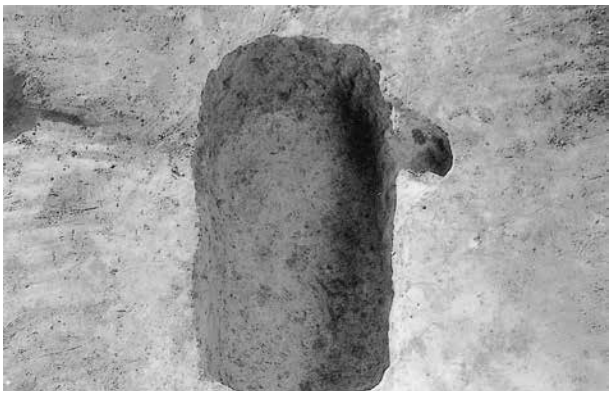


5．ＳＫ 7063 土坑全景（西から）

写真図版 85　縄文時代土坑

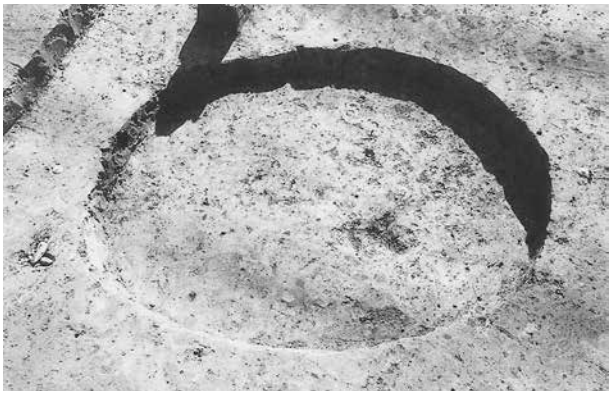


1．ＳＫ 7065 土坑土層断面（北から）



2．ＳＫ 7065 土坑全景（東から）

3．ＳＫ 7067 土坑土層断面（北から）



4．ＳＫ 7068 土坑全景（北から）

5．ＳＫ 7070 土坑土層断面（東から）

6．ＳＫ 7070 土坑全景（北東から）

7．ＳＫ 7073 土坑土層断面（南西から）

8．ＳＫ 7074 土坑土層断面（北西から）

写真図版 86　縄文時代土坑

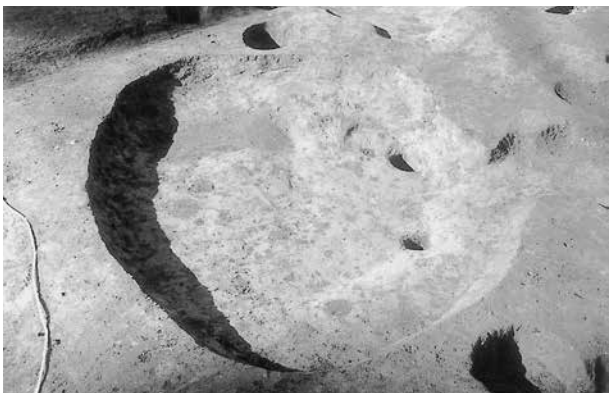
1．ＳＫ 7075 土坑土層断面（北東から）

2．ＳＫ 7076 土坑礫出土状況（北東から）

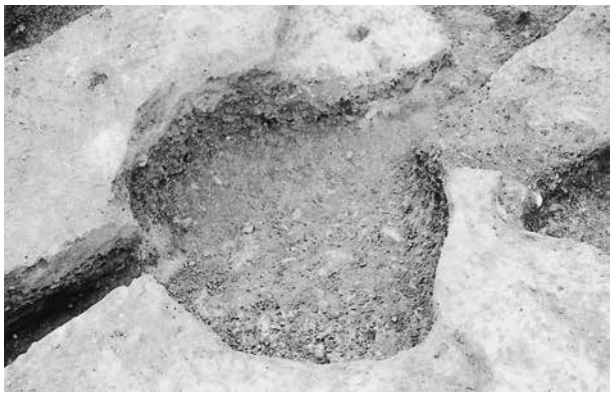
3．ＳＫ 7077 土坑礫出土状況（東から）

4．ＳＫ 7078 土坑土層断面（南西から）

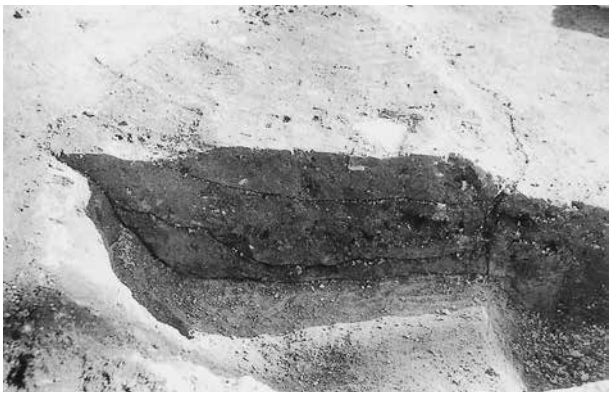
5．ＳＫ 7078 土坑礫出土状況（北から）



6．ＳＫ 7079 土坑全景（東から）



7．ＳＫ 7081 土坑全景（北東から）



8．ＳＫ 7086 土坑土層断面（北西から）

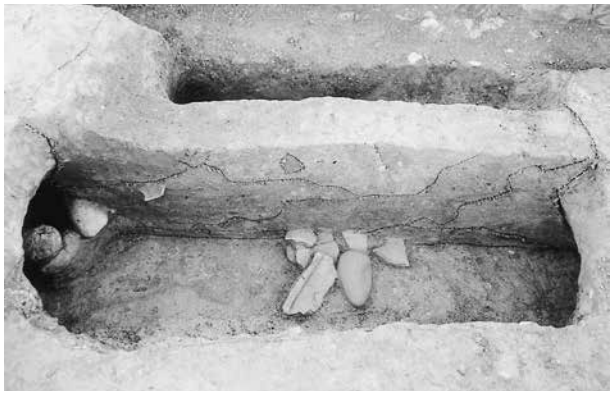
写真図版 87　縄文時代土坑

1．ＳＫ 7082 土坑土層断面（南から）

2．ＳＫ 7082 土坑全景（南東から）

3．ＳＫ 7083 土坑全景（東から）

4．ＳＫ 7084 土坑全景（南東から）



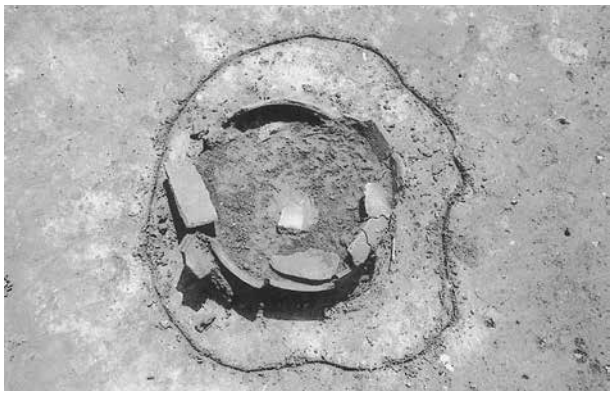
5．ＳＫ 7085 土坑土層断面（南から）

6．ＳＫ 7085 土坑全景（南東から）

7．ＳＫ 7087 土坑遺物（A-70507）出土状況（北西から）

8．ＳＫ 7087 土坑全景（北東から）

写真図版 88　縄文時代土坑



1．ＳＸ 603 埋設土器検出状況（南から）

2．ＳＸ 604 埋設土器断面（南東から）

3．ＳＸ 606 埋設土器断面（北から）

4．ＳＸ 607 埋設土器断面（南東から）

5．ＳＸ 608 埋設土器断面（北から）

6．ＳＸ 609（左）・ＳＸ 610（右）埋設土器断面（南東から）

7．ＳＸ 611 埋設土器検出状況（西から）

8．ＳＸ 619（左）・ＳＸ 620（右）埋設土器断面（東から）

写真図版 89　埋設土器

1．ＳＸ 702 埋設土器断面（南東から）

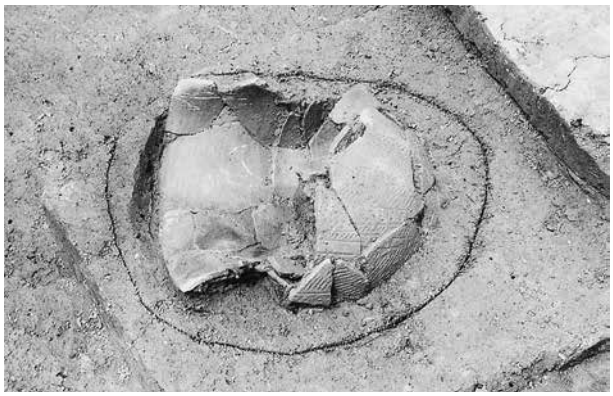
2．ＳＸ 702 埋設土器検出状況（北東から）

3．ＳＸ 703 埋設土器検出状況（南西から）

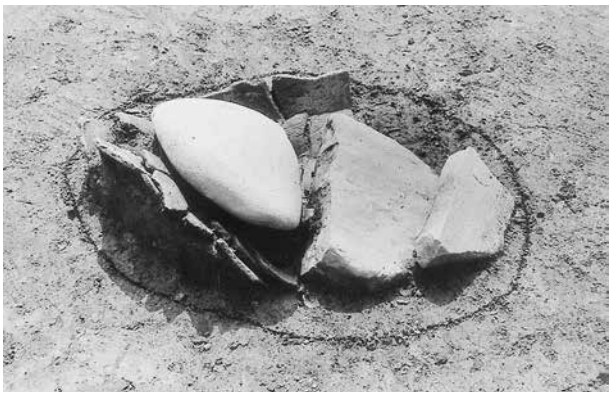
4．ＳＸ 703 埋設土器断面（南東から）

5．ＳＸ 704 埋設土器検出状況（北西から）

6．ＳＸ 704 埋設土器断面（北西から）



7．ＳＸ 705 埋設土器検出状況（南東から）



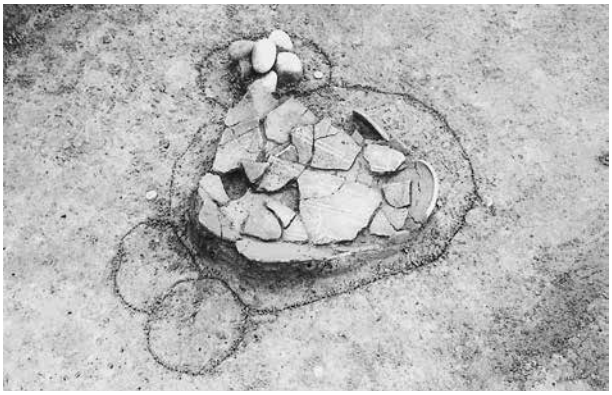
8．ＳＸ 706 埋設土器検出状況（東から）

写真図版 90　埋設土器

1．ＳＸ 707 埋設土器検出状況（北西から）

2．ＳＸ 707 埋設土器断面（南東から）

3．ＳＸ 708 埋設土器検出状況（南から）

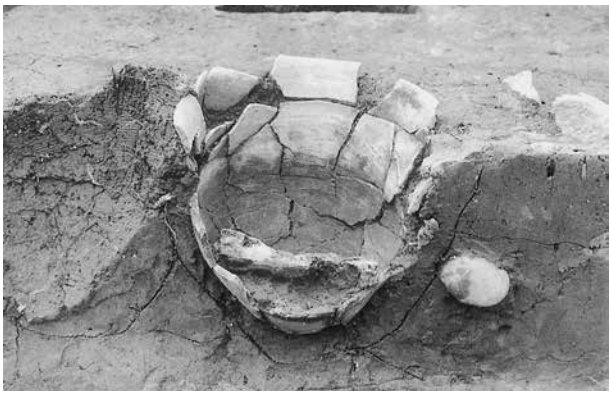


4．ＳＸ 715 埋設土器検出状況（西から）

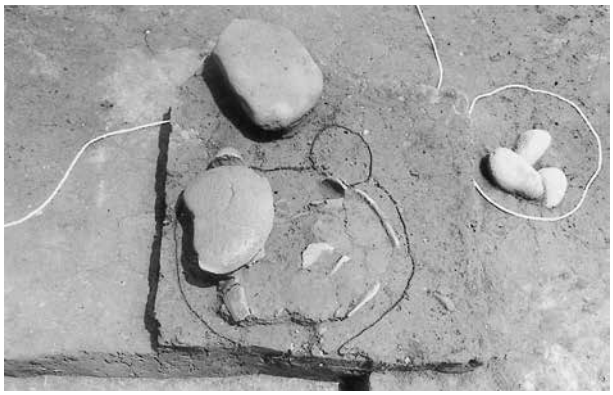
5．ＳＸ 711 埋設土器断面（南から）

写真図版 91　埋設土器

1．ＳＸ 709（左）・ＳＸ 710（右）埋設土器断面（東から）

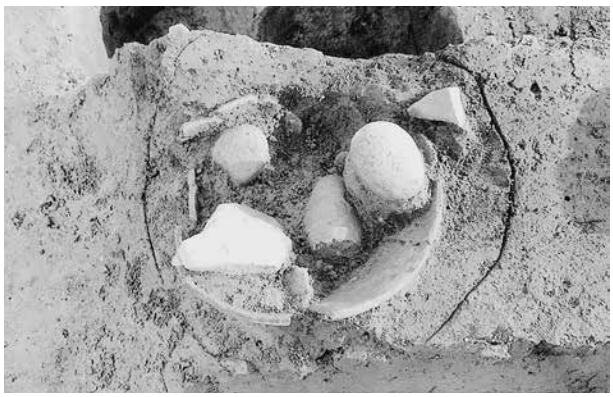


2．ＳＸ 710 埋設土器内粘土検出状況（東から）

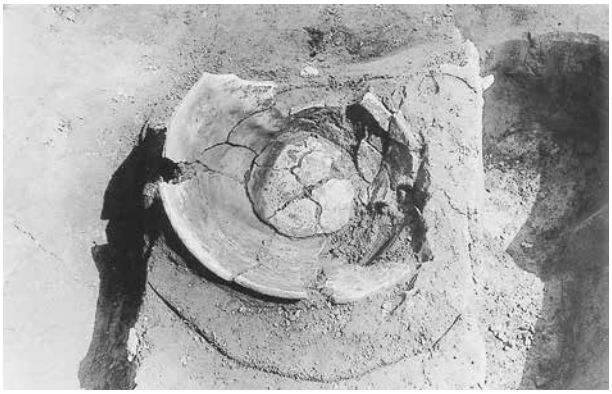


3．ＳＸ 712 埋設土器検出状況（西から）

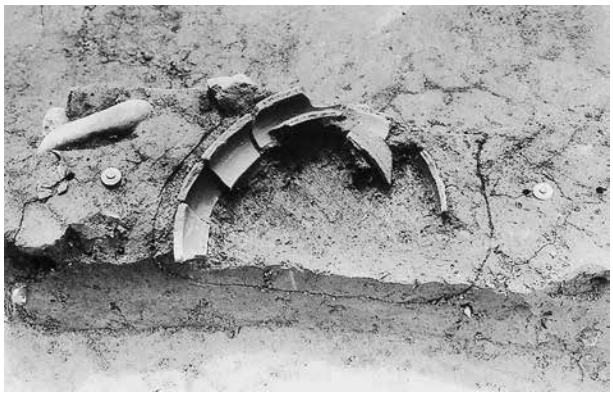
4．ＳＸ 712 埋設土器土層断面（南西から）



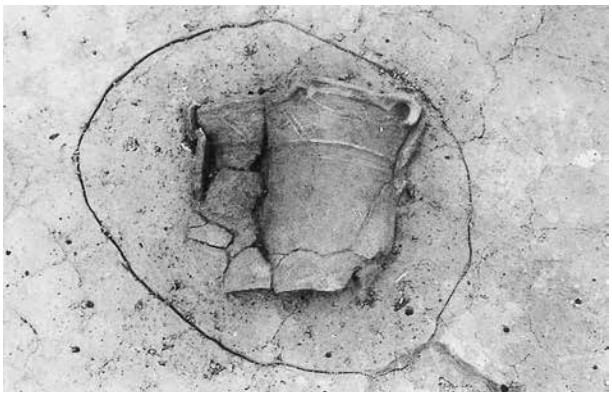
5．ＳＸ 723 埋設土器検出状況（北から）



6．ＳＸ 723 埋設土器検出状況（西から）



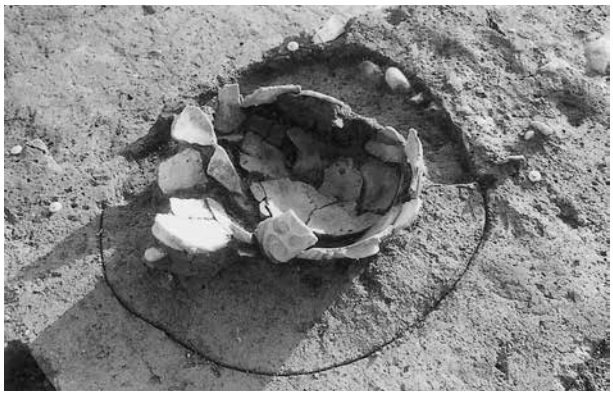
7．ＳＸ 724 埋設土器検出状況（南から）



8．ＳＸ 728 埋設土器検出状況（南西から）

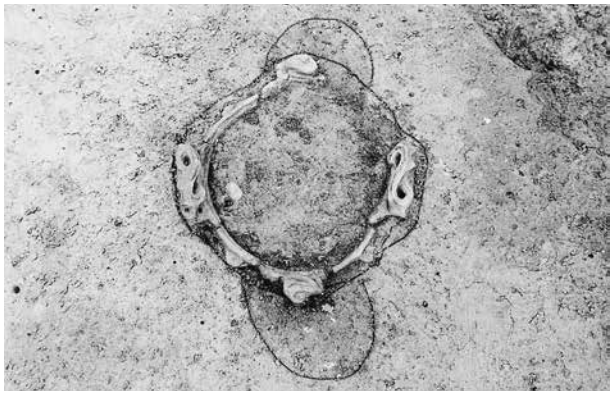
写真図版 92　埋設土器

1．ＳＸ 726（手前）・ＳＸ 727（奥）埋設土器検出状況（北西から）



2．ＳＸ 726 埋設土器検出状況（北から）

3．ＳＸ 727 埋設土器土層断面（南から）



4．ＳＸ 751 埋設土器検出状況（西から）

5．ＳＸ 751 埋設土器土層断面（西から）

写真図版 93　埋設土器

1．ＳＸ 730 焼土跡土層断面（南から）

2．ＳＸ 731 焼土跡土層断面（南から）

3．ＳＸ 755 焼土跡検出状況（西から）

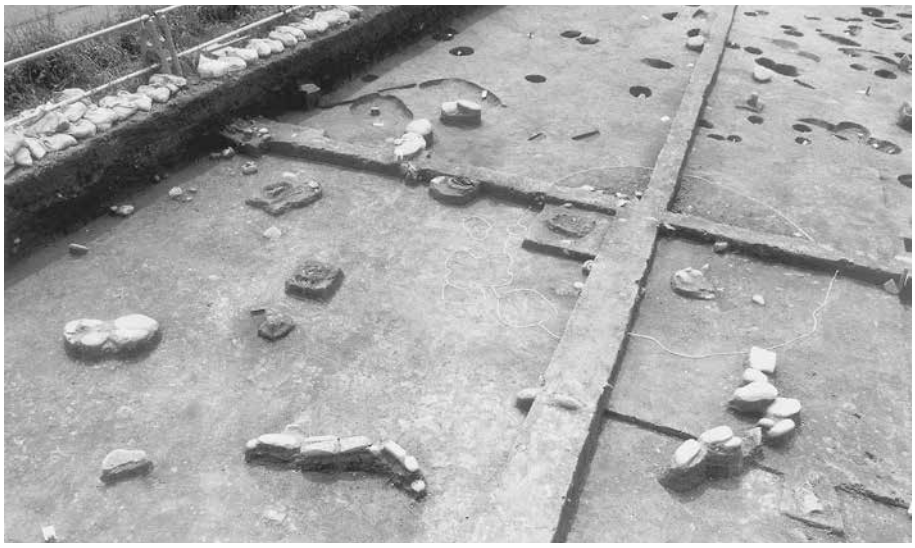
4．ＳＸ 756 焼土跡検出状況（北から）

5．ＳＸ 746 焼土跡周辺のピット検出状況（北西から）

写真図版 94　焼土跡

1．第７次調査１区Ｅ～Ｇ－ 41 ～ 43 グリッド礫検出状況（東から）

2．第７次調査１区東側Ｆ・Ｇ－ 38 グリッド礫検出状況（北から）

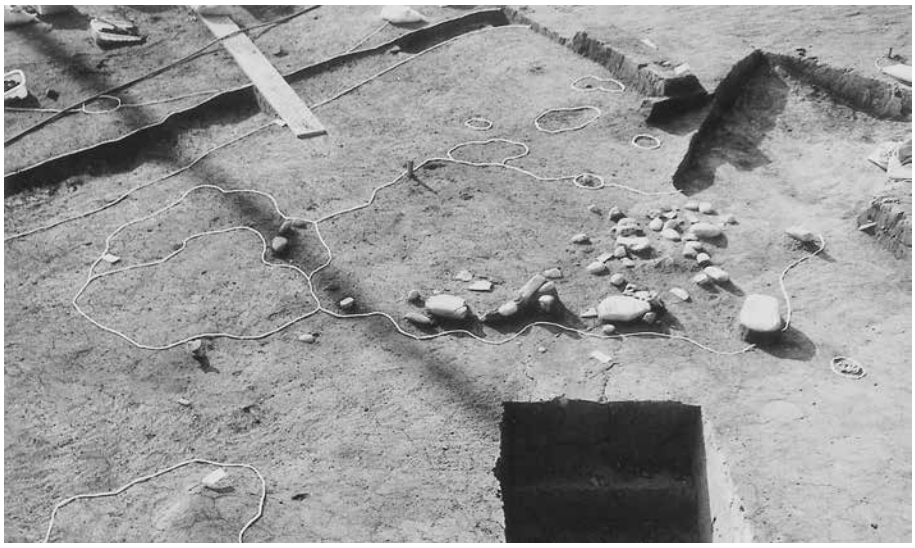


3．ＳＸ 714（手前左）・ＳＸ 719（手前右）・ＳＸ 721（奥）配石分布状況（北東から）

写真図版 95　縄文時代遺物出土状況

1．第７次調査１区礫検出状況（東から）

2．ＳＸ 701 集石検出状況（西から）



3．ＳＸ 731 焼土跡周辺の礫検出状況（南東から）

写真図版 96　縄文時代遺物出土状況

1．ＳＸ 625 溝状の落ち込み検出状況（南東から）

2．ＳＸ 625 溝状の落ち込み検出状況（北西から）

写真図版 97　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（北東から）

2．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（南から）

3．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（北東から）

写真図版 98　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（南から）

2．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（北西から）

3．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（北東から）

写真図版 99　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（東から）

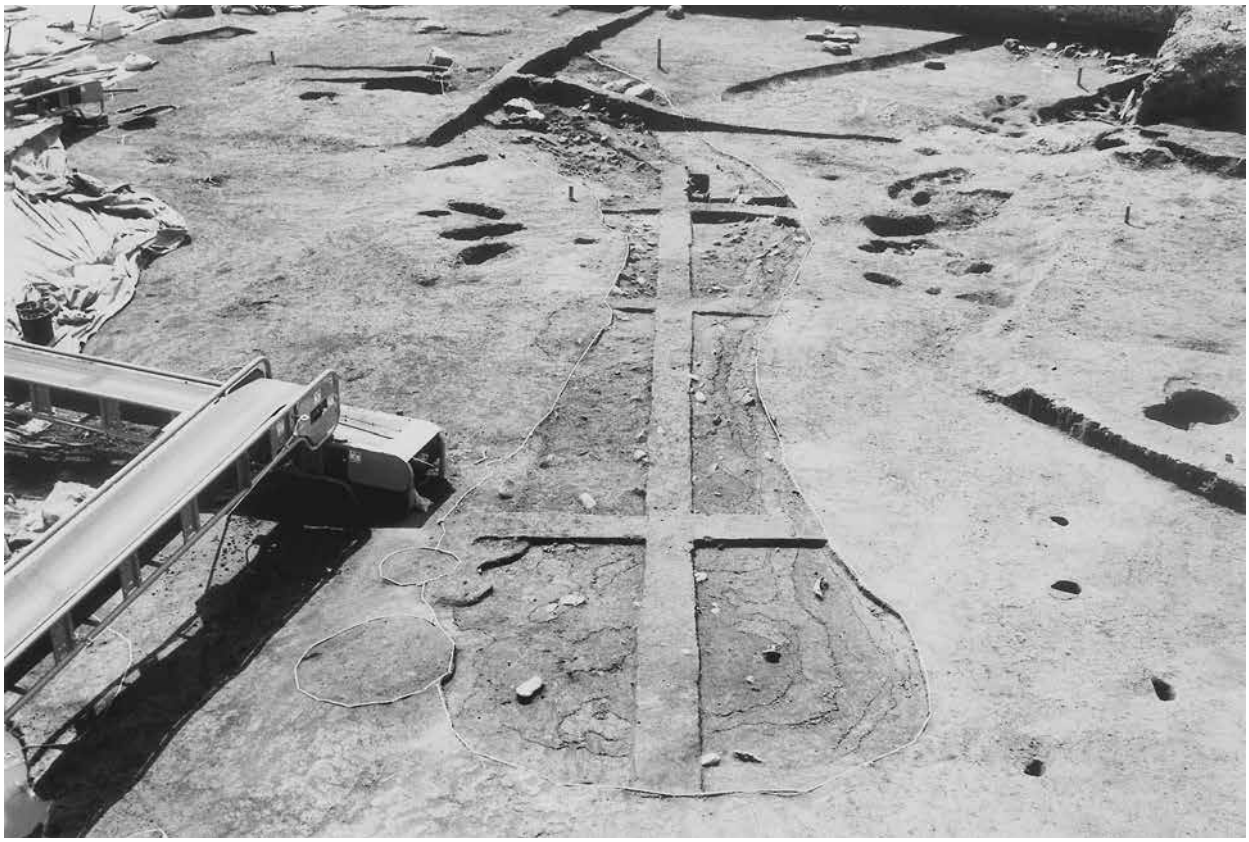
2．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（北東から）

3．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（北東から）

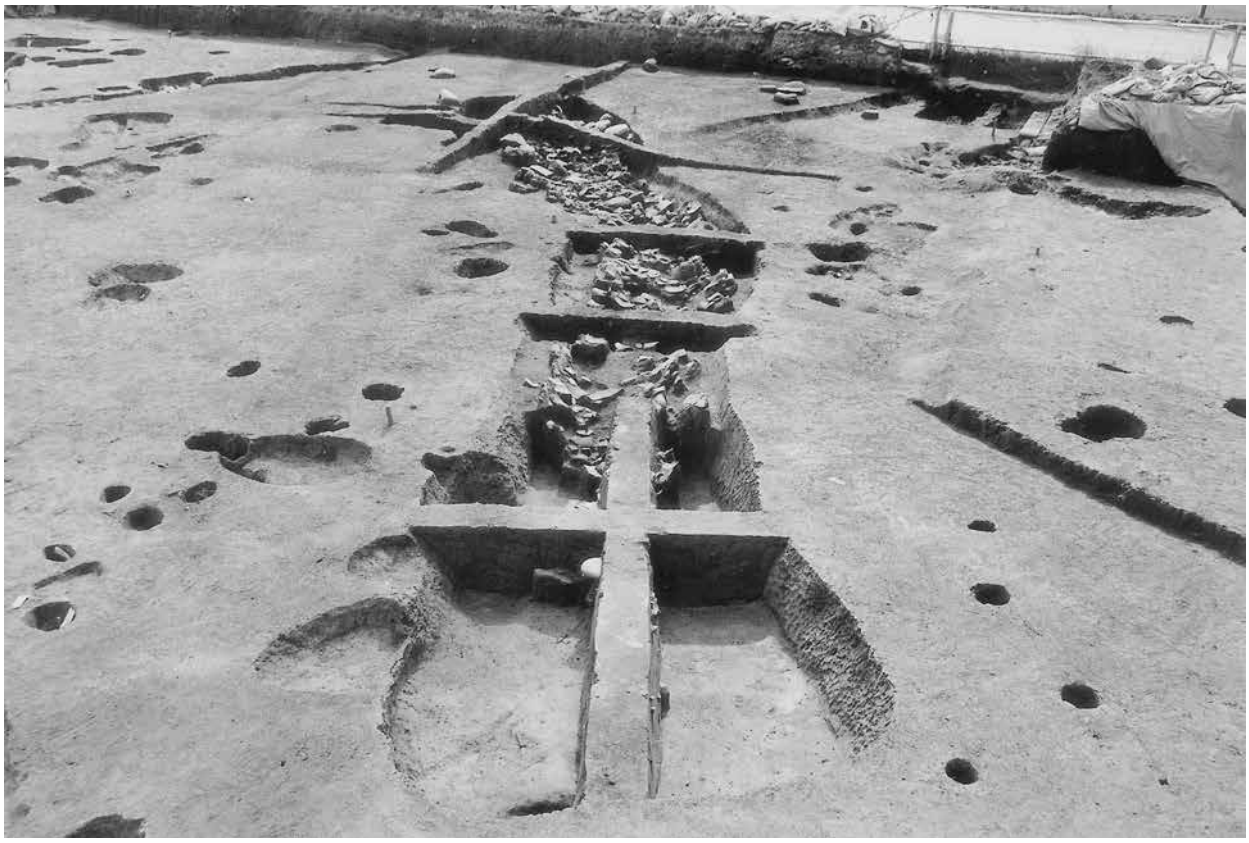
4．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（北東から）

5．ＳＸ 625 溝状の落ち込み遺物出土状況（東から）

写真図版 100　溝状の落ち込み



1．ＳＸ 626 溝状の落ち込み検出状況（北から）



2．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（北から）

写真図版 101　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（北西から）

2．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（北東から）

写真図版 102　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（東から）

2．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（東から）

3．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（東から）

写真図版 103　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（東から）

2．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（南から）

3．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（西から）

4．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（東から）

5．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物（A-60947 外、A-61071 内）
出土状況（東から）

6．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物出土状況（西から）

7．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物（P-6059）出土状況（南から）

8．ＳＸ 626 溝状の落ち込み遺物（P-6047）出土状況（南から）

写真図版 104　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 626 溝状の落ち込み土層断面（南西から）

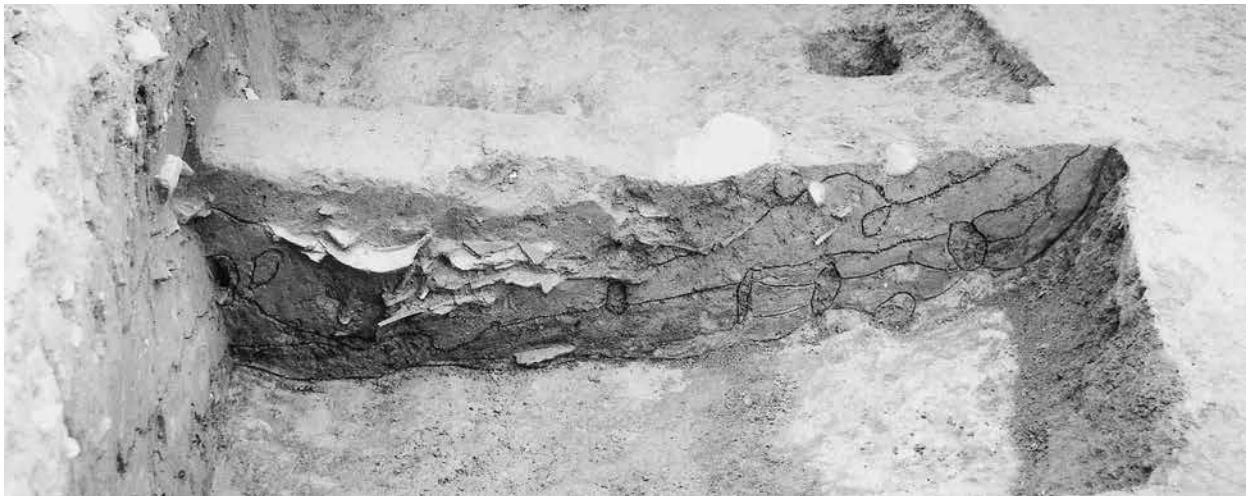
4．ＳＸ 626溝状の落ち込み完掘（南東から）

2．ＳＸ 626 溝状の落ち込み土層断面（北から）

3．ＳＸ 626 溝状の落ち込み土層断面（西から）

写真図版 105　溝状の落ち込み

1．ＳＸ 639 溝状の落ち込み検出状況（北から）



2．ＳＸ 639 溝状の落ち込み土層断面（北から）

3．ＳＸ 639 溝状の落ち込み遺物出土状況（北から）

4．ＳＸ 639 溝状の落ち込み全景（北から）

写真図版 106　溝状の落ち込み

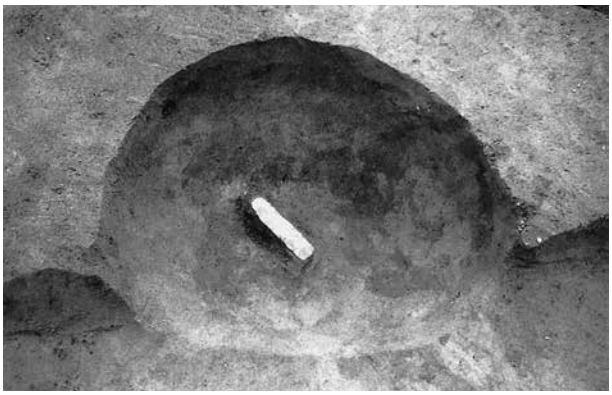
1．ＳＸ 760 遺物集中区遺物出土状況（東から）

2．ＳＸ 760 遺物集中区遺物出土状況（南から）

写真図版 107　縄文時代遺物集中区遺物出土状況

1．P60911 ピット硬玉製大珠（Kd-f-6002）出土状況（北西から）

2．P60911 ピット遺物出土状況（北西から）



3．P60200 ピット石篦（Ka-c-6006）出土状況（西から）

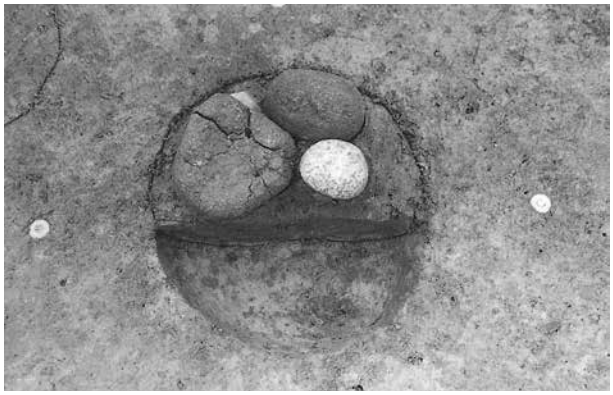
4．P60313 ピット石棒（Kd-d-6003）出土状況（北東から）

5．P61213 ピット遺物（A-61256）出土状況（南東から）

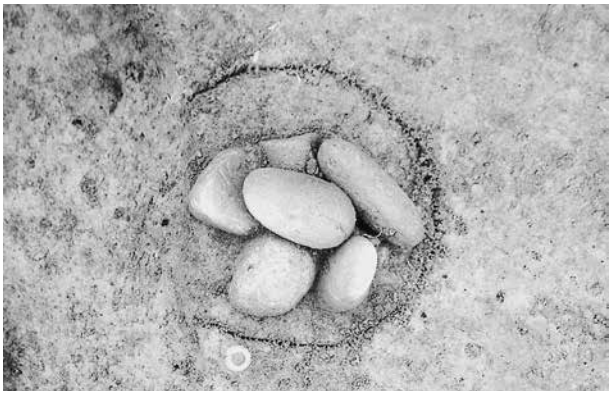
写真図版 108　縄文時代ピット

1．P70052 ピット全景（南から）

2．P70075 ピット全景（北東から）



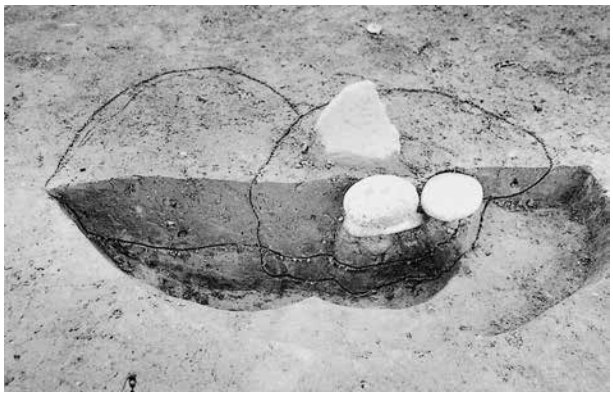
3．P70213 ピット遺物出土状況（南東から）



4．P70217 ピット遺物出土状況（南東から）

5．P70324 ピット土層断面（東から）

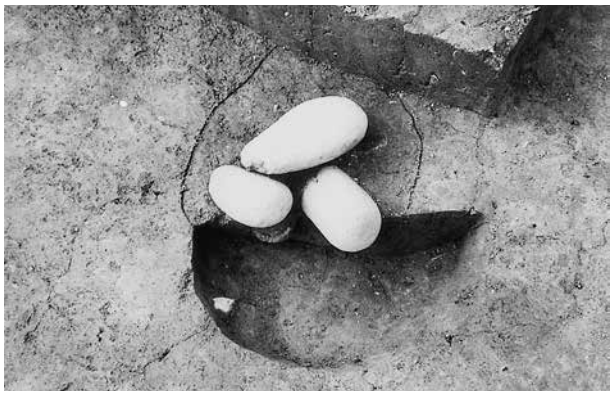
6．P70332 ピット土層断面（南西から）



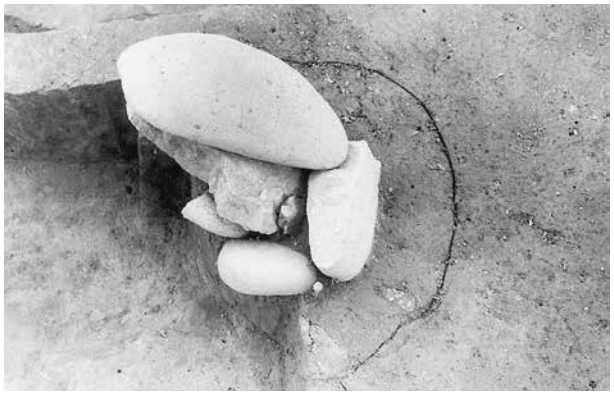
7．P70337（左）・P70333（右）ピット土層断面（西から）

8．P70334 ピット全景（北から）

写真図版 109　縄文時代ピット

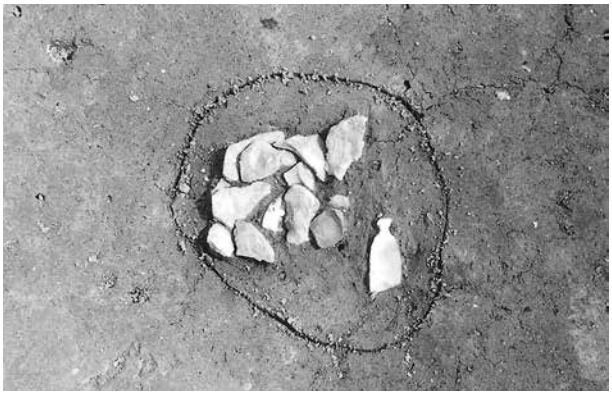

1．P70338 ピット遺物出土状況（南東から）

2．P70451 ピット土層断面（北西から）


3．P70463 ピット遺物出土状況（西から）

4．P70453（奥）・P70454 ピット（手前）全景（北から）

5．P70520 ピット全景（東から）


6．P70615 ピット（SI711P15）石器出土状況（北から）

7．P70909 ピット土層断面（東から）

8．P72057 ピット土層断面（西から）

写真図版 110　縄文時代ピット

1．Ｅ－45 グリッド遺物出土状況（北東から）

2．Ｅ－46 グリッド遺物（石冠　Kd-g-7003）
出土状況（北東から）

3．ＳＫ 7089 土抗遺物出土状況（北から）

4．Ｆ－42 グリッド遺物（土偶）出土状況（東から）

5．Ｆ－44 グリッド遺物（P-9208）出土状況（東から）

6．Ｆ－45 グリッド遺物出土状況（東から）

7．Ｇ－35 グリッド遺物出土状況（東から）

8．Ｇ－35 グリッド土偶（P-7210）出土状況
（東から、左の写真右の土器下から出土した）

写真図版 111　縄文時代遺物出土状況

1．ＳＩ 603 竪穴住居跡全景（南西から）

2．ＳＩ 606 竪穴住居跡全景（南から）

写真図版 112　古代以降竪穴住居跡

1．ＳＩ 606 竪穴住居跡カマド遺物（D-602）出土状況（南から）

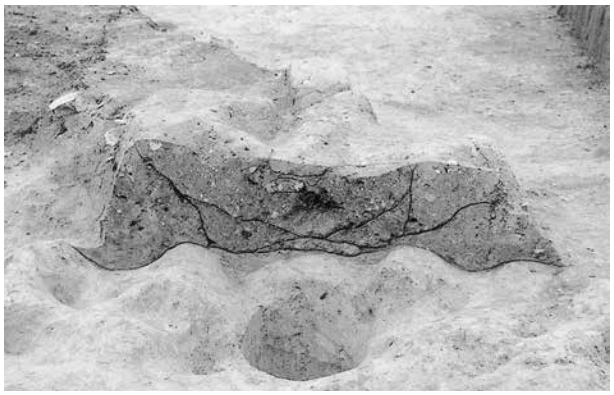
2．ＳＩ 606 竪穴住居跡カマド袖部遺物出土状況（南から）

3．ＳＩ 606 竪穴住居跡カマド土層断面（西から）

4．ＳＩ 606 竪穴住居跡１号土坑土層断面（南西から）

5．ＳＩ 607 竪穴住居跡カマド全景（南から）

写真図版 113　古代以降竪穴住居跡



1．ＳＩ 603 竪穴住居跡カマド断面（南西から）

2．ＳＩ 607 竪穴住居跡カマド断面（南から）

3．ＳＩ 608 竪穴住居跡全景（南から）

4．ＳＩ 614 竪穴住居跡検出状況（南から）

写真図版 114　古代以降竪穴住居跡

1．ＳＩ 713 竪穴住居跡全景（西から）

2．ＳＩ 713 竪穴住居跡カマド検出状況（西から）

3．ＳＩ 713 竪穴住居跡カマド全景（西から）

4．ＳＩ 713 竪穴住居跡遺物（D-701）出土状況（西から）

5．ＳＩ 713 竪穴住居跡１号土坑土層断面・遺物（D-702）
出土状況（西から）

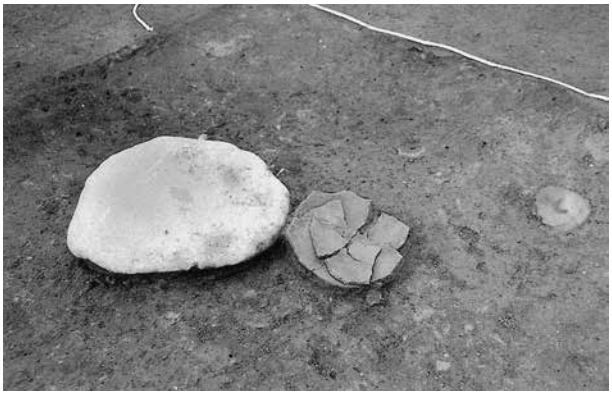
写真図版 115　古代以降竪穴住居跡

1．ＳＩ 720 竪穴住居跡全景（南西から）

2．ＳＩ 720 竪穴住居跡土層断面（南西から）

3．ＳＩ 720 竪穴住居跡カマド土層断面（南西から）

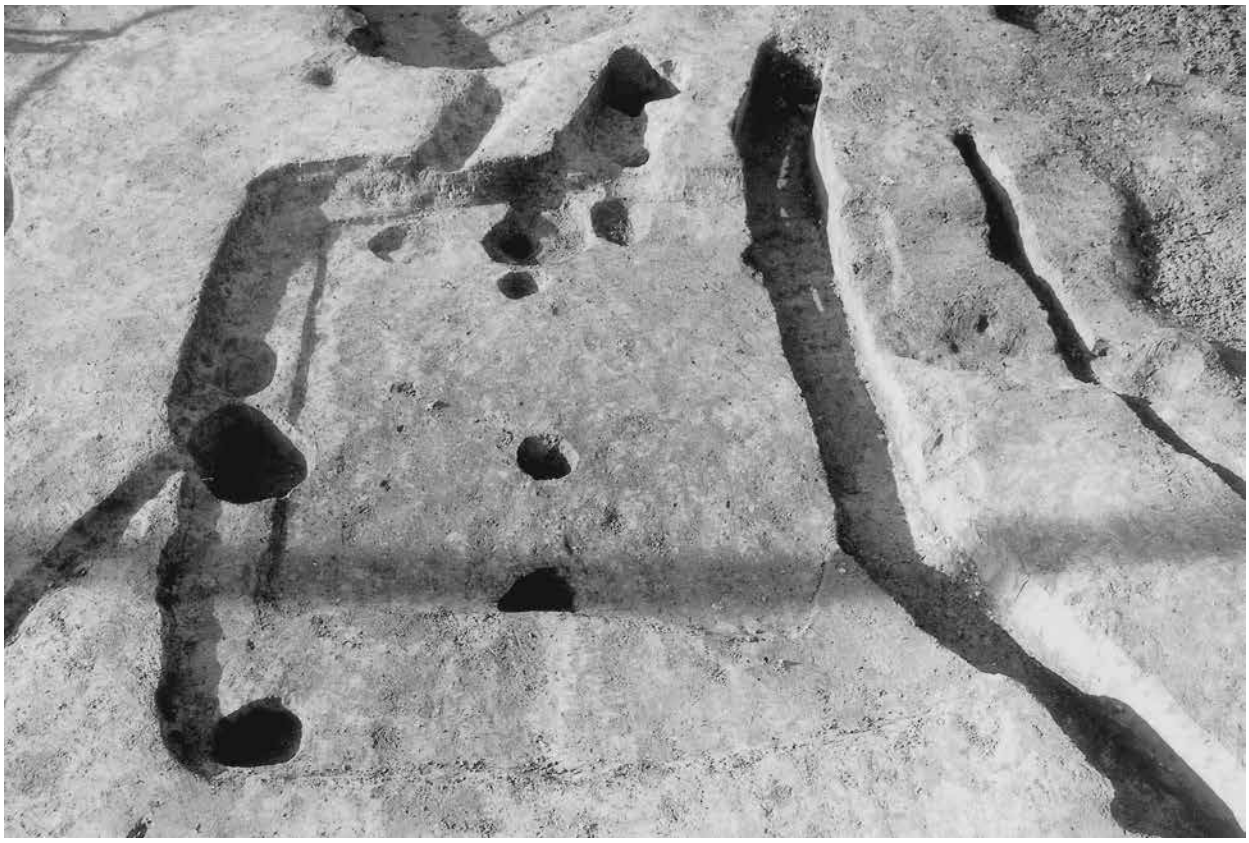
4．ＳＩ 720 竪穴住居跡カマド遺物（C-702）出土状況（南西から）



5．ＳＩ 720 竪穴住居跡遺物（C-712）出土状況（北東から）

写真図版 116　古代以降竪穴住居跡

1．ＳＩ 721 竪穴住居跡全景（南から）



2．ＳＩ 722 竪穴住居跡全景（南東から）

写真図版 117　古代以降竪穴住居跡

1．ＳＩ 721 竪穴住居跡カマド袖断面（南から）

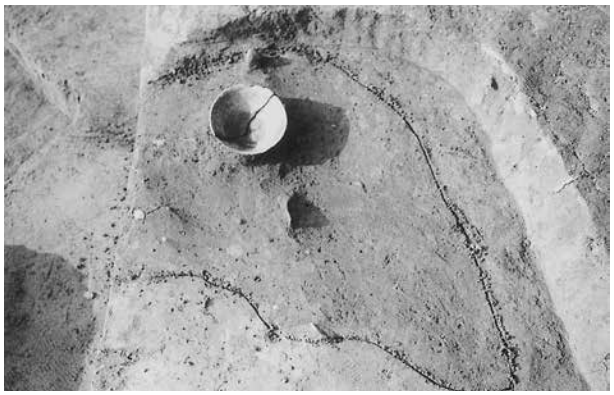
2．ＳＩ 721 竪穴住居跡カマド土層断面（東から）

3．ＳＩ 721 竪穴住居跡掘り方全景（南から）

4．ＳＩ 722 竪穴住居跡遺物（C-712）出土状況（北から）

5．第７次調査３区全景（西から）

写真図版 118　古代以降竪穴住居跡



1．ＳＫ 6011 土坑遺物（D-615）出土状況（南から）

2．ＳＫ 6011 土坑土層断面（南西から）

3．ＳＫ 6006 土坑遺物出土状況（南から）

4．ＳＫ 6022 土坑土層断面（北西から）

5．ＳＫ 6041 土坑土層断面（南東から）

6．ＳＫ 6067 土坑土層断面（東から）

7．ＳＫ 6066 土坑全景（東から）

8．ＳＫ 6069 土坑全景（東から）

写真図版 119　古代以降土坑

1．ＳＫ 6051 土坑全景（南東から）

2．ＳＫ 6051 土坑土層断面（北西から）

3．ＳＫ 6070 土坑遺物出土状況（北から）

4．ＳＫ 6060 土坑土層断面（南から）

5．ＳＫ 6070 土坑遺物出土状況（南から）

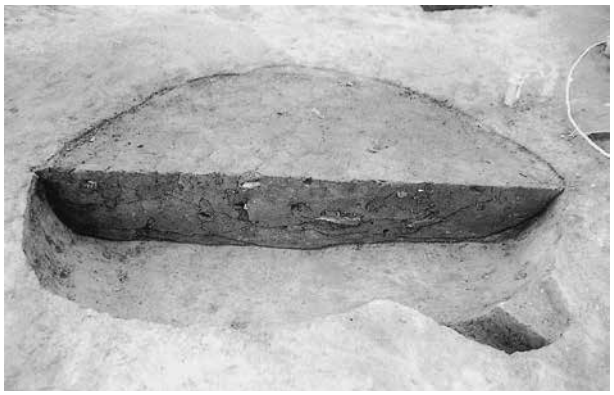
写真図版 120　古代以降土坑

1．ＳＫ 6072 土坑全景（北東から）

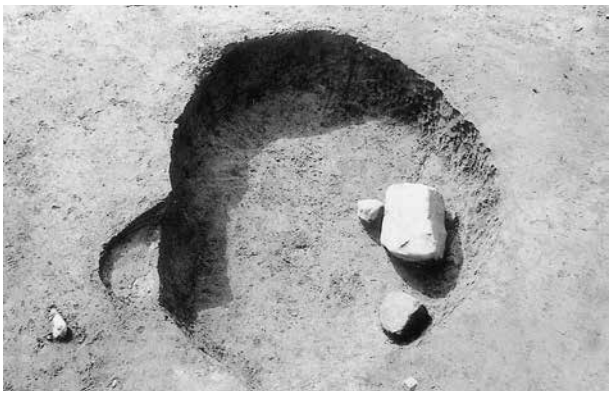
2．ＳＫ 6072 土坑階段部分（南西から）

3．ＳＫ 6072 土坑土層断面（北西から）

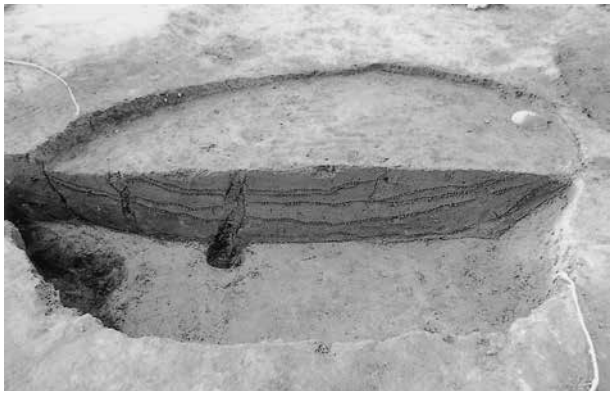
写真図版 121　古代以降土坑



1．ＳＫ 6091 土坑土層断面（南東から）



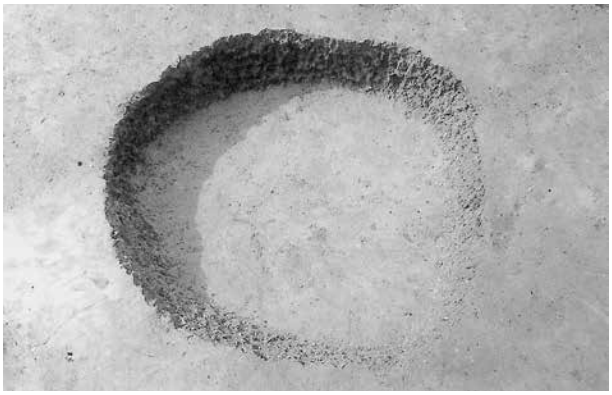
2．ＳＫ 6091 土坑礫出土状況（北東から）



3．ＳＫ 6092 土坑土層断面（南東から）

4．ＳＫ 6093 土坑土層断面（南東から）

5．ＳＫ 6092（左）・ＳＫ 6093（右）土坑全景（北西から）



6．ＳＫ 6089 土坑全景（東から）

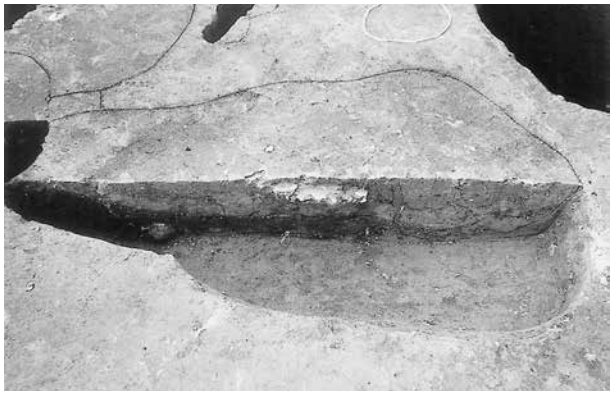
7．ＳＫ 6098 土坑土層断面（南東から）

8．ＳＫ 6098 土坑礫出土状況（北西から）

写真図版 122　古代以降土坑

1．ＳＫ 6104 土坑土層断面（北西から）

2．ＳＫ 6118（上）・ＳＫ 6119（下）土坑土層断面（南西から）



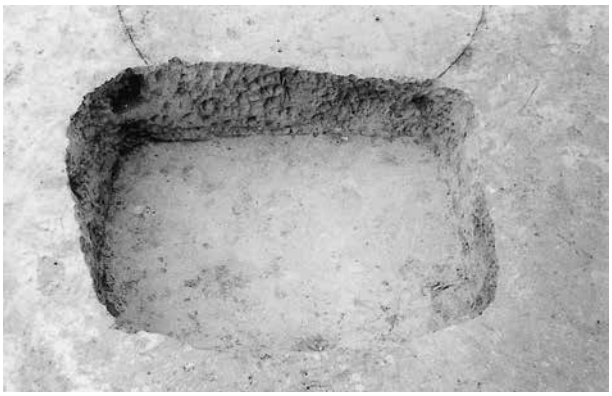
3．ＳＫ 6137 土坑土層断面（南東から）

4．ＳＫ 6141 土坑土層断面（南から）

5．ＳＫ 6144 土坑土層断面（北西から）

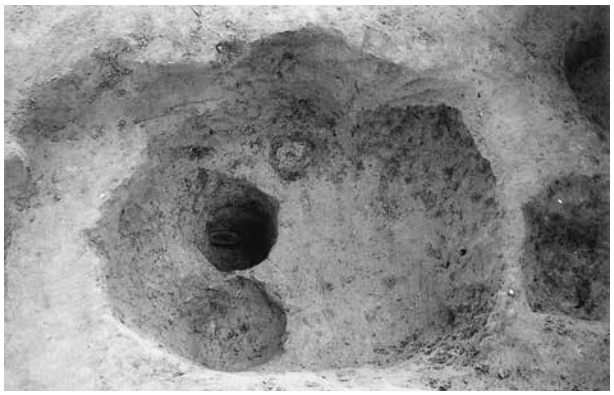
6．ＳＫ 6194 土坑土層断面（東から）

7．ＳＫ 6195 土坑遺物出土状況（南から）

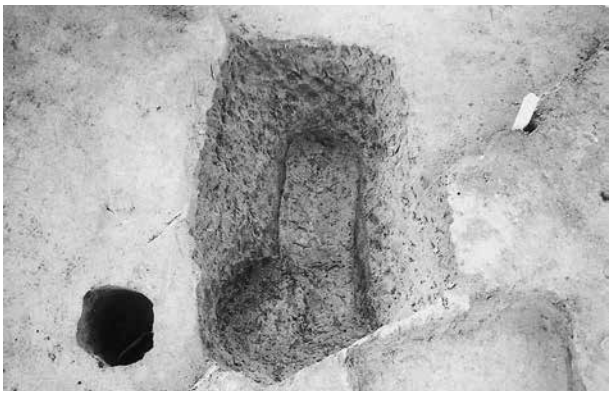


8．ＳＫ 6199 土坑全景（北東から）

写真図版 123　古代以降土坑



1．ＳＫ 6243 土坑全景（北東から）

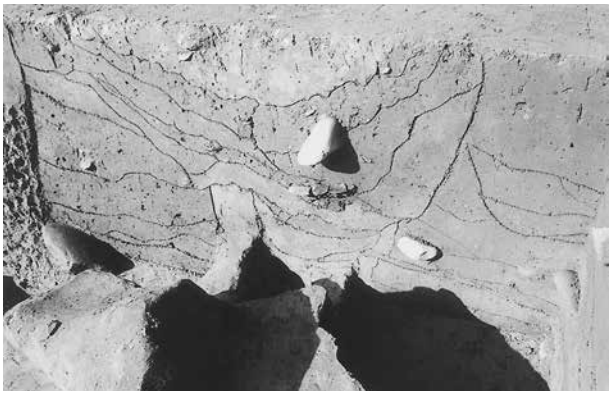


2．ＳＫ 6244 土坑全景（南東から）

3．ＳＫ 6245 土坑土層断面（南東から）

4．ＳＫ 6247 土坑全景（北西から）

5．ＳＫ 6260 土坑土層断面（南西から）



6．ＳＫ 6300 土坑土層断面（東から）

7．ＳＫ 6284（下）・ＳＫ 6300（上）土坑土層断面（北から）

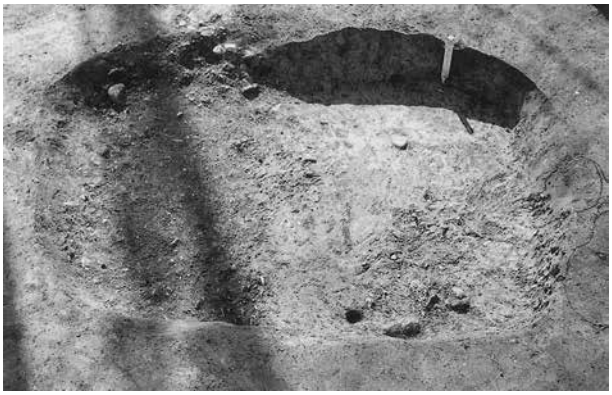
8．ＳＫ 6307 土坑土層断面（東から）

写真図版 124　古代以降土坑

1．ＳＫ 7024 土坑土層断面（南東から）

2．ＳＫ 7024 土坑全景（東から）

3．ＳＫ 7025（右）・ＳＫ 7026（左）土坑土層断面（南から）



4．ＳＫ 7025（左）・ＳＫ 7026（右）土坑全景（北東から）

5．第７次調査２区西側全景（東から）

写真図版 125　古代以降土坑

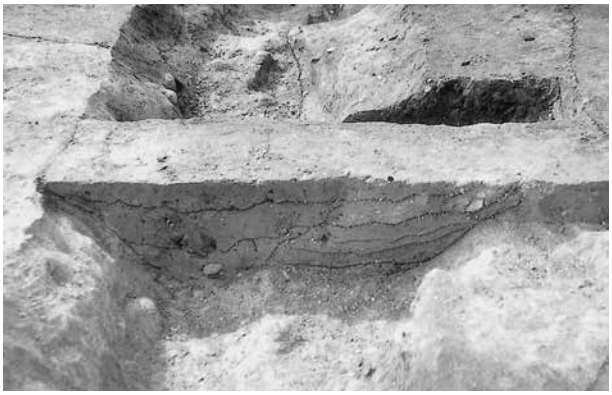
1．ＳＤ 701 溝跡礫出土状況（北から）

2．ＳＤ 702 溝跡土層断面（北から）

3．ＳＤ 703 溝跡土層断面（北東から）

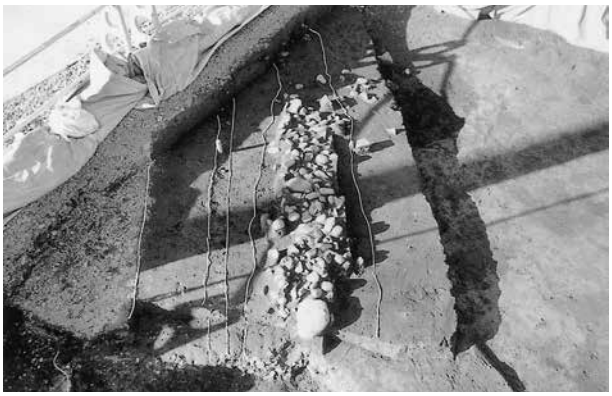
4．ＳＤ 703 溝跡全景（北東から）

5．ＳＤ 703 溝跡土層断面Ａ（北東から）



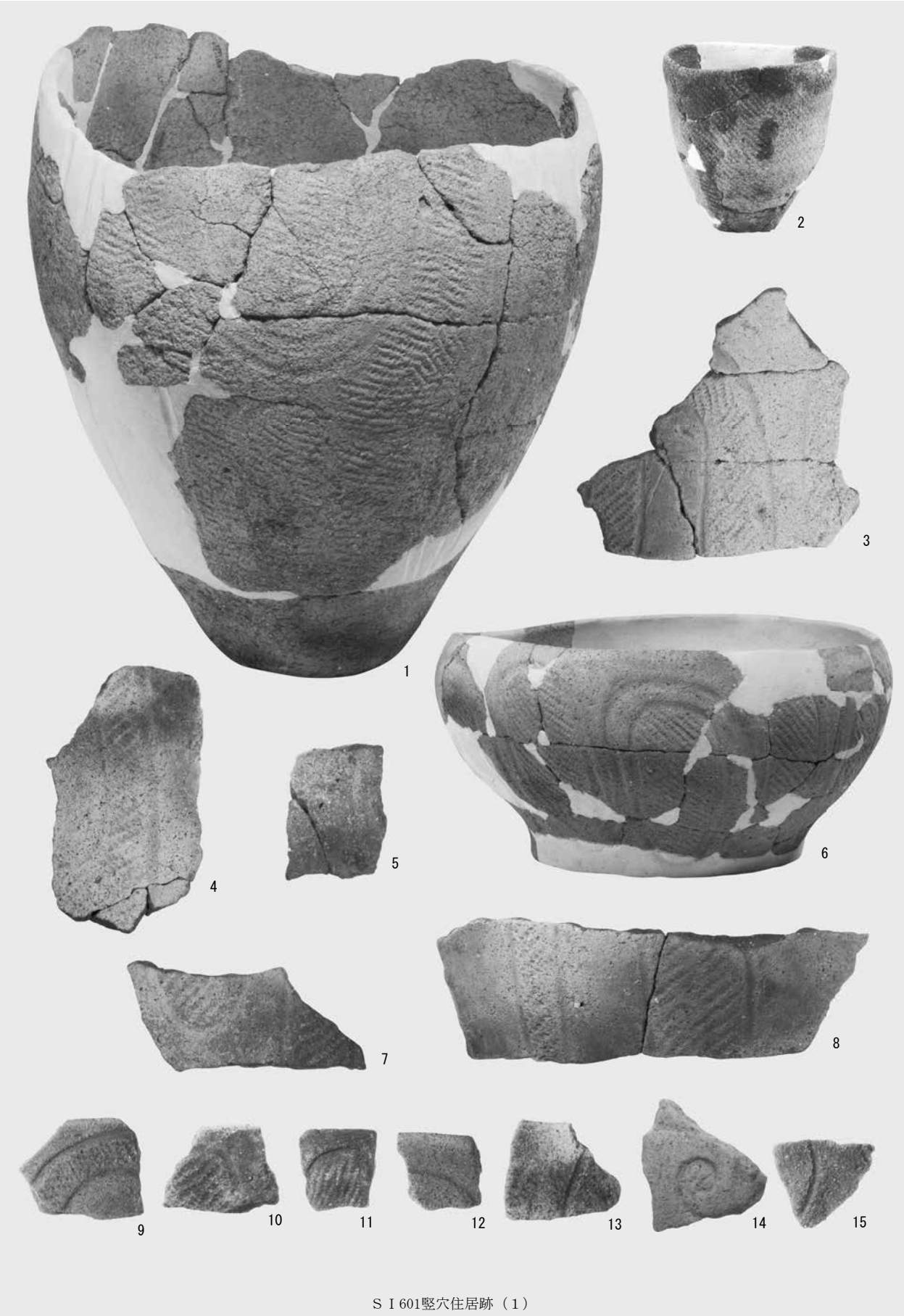
6．ＳＤ 703 溝跡土層断面Ｂ（北東から）

7．ＳＤ 703 溝跡土層断面Ｃ（北東から）



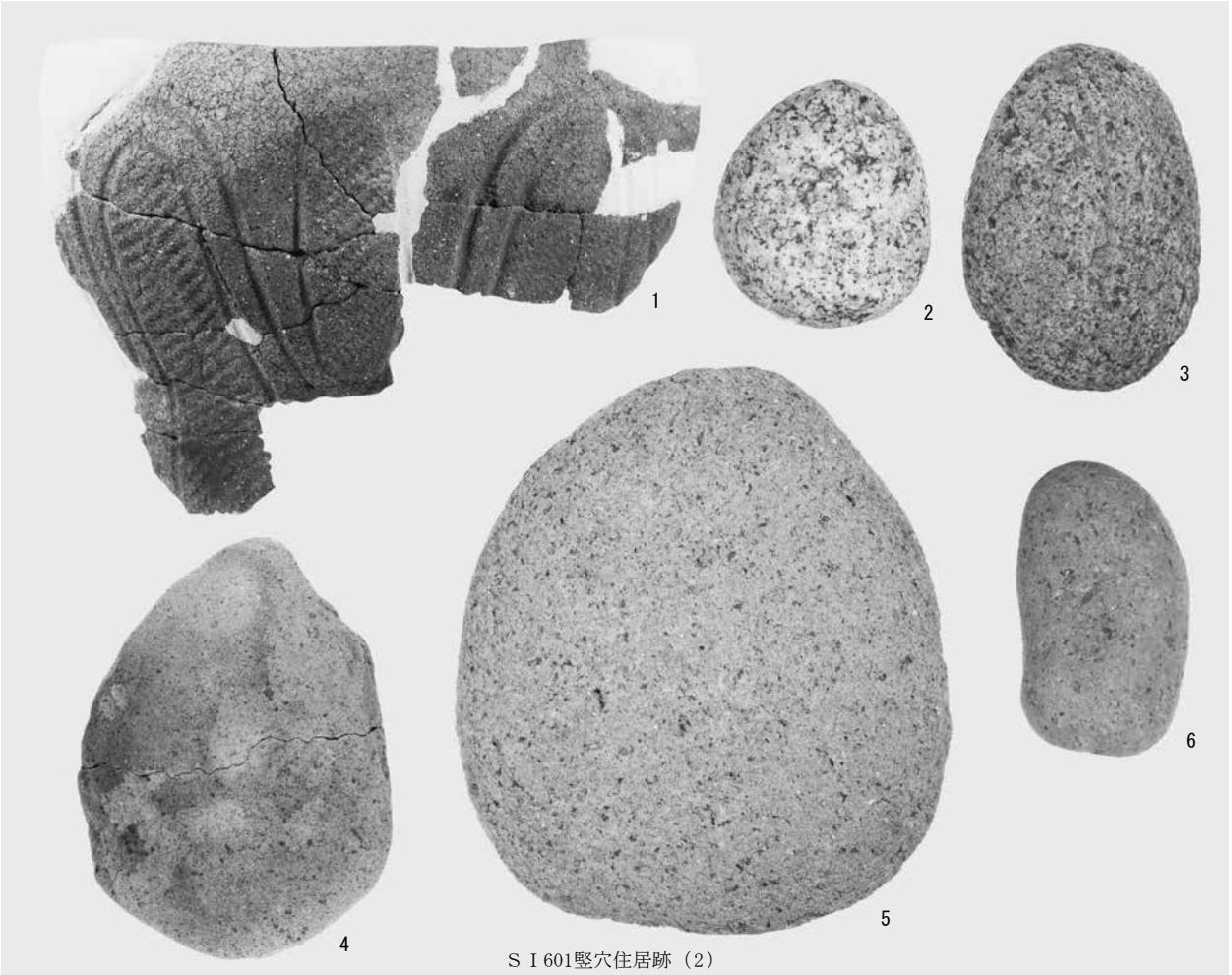
8．ＳＤ 704 溝跡礫出土状況（南東から）

写真図版 126　古代以降溝跡

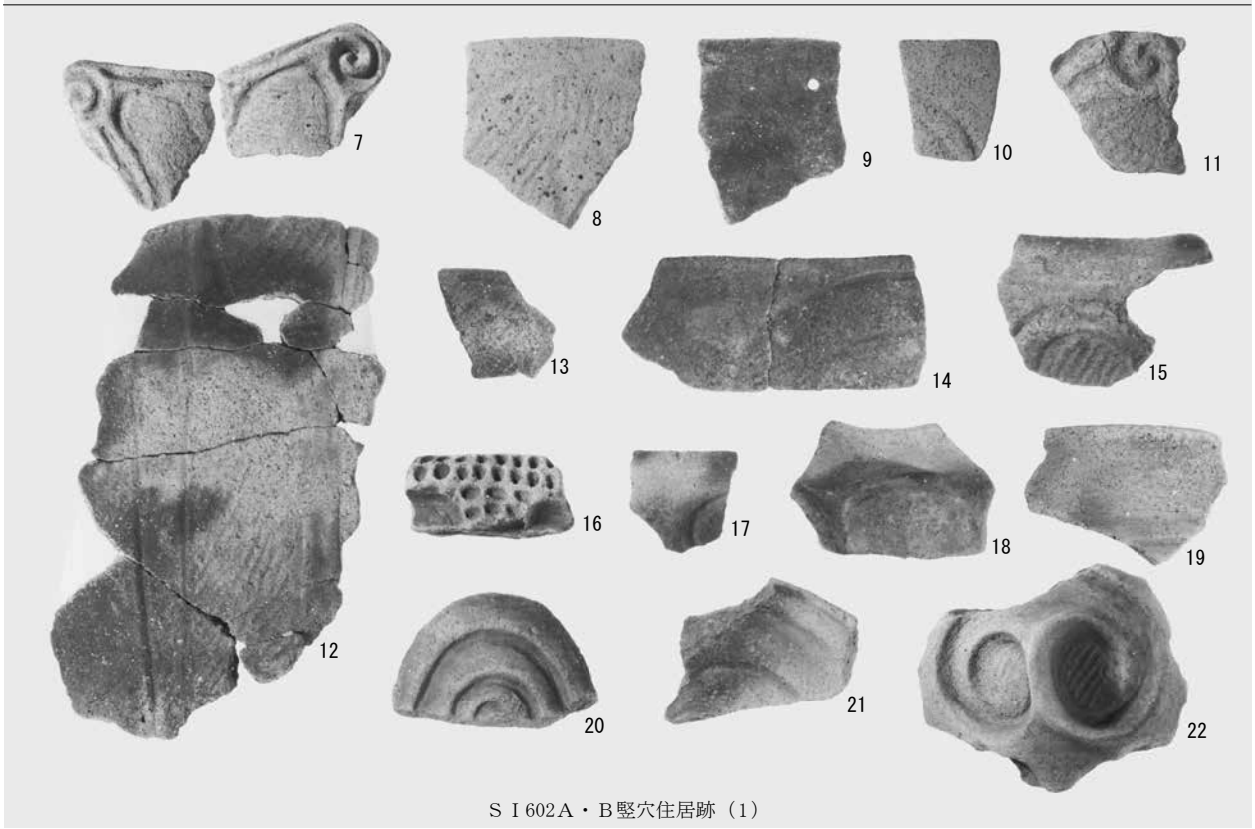


ＳＩ601竪穴住居跡（１）

写真図版127 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（1）

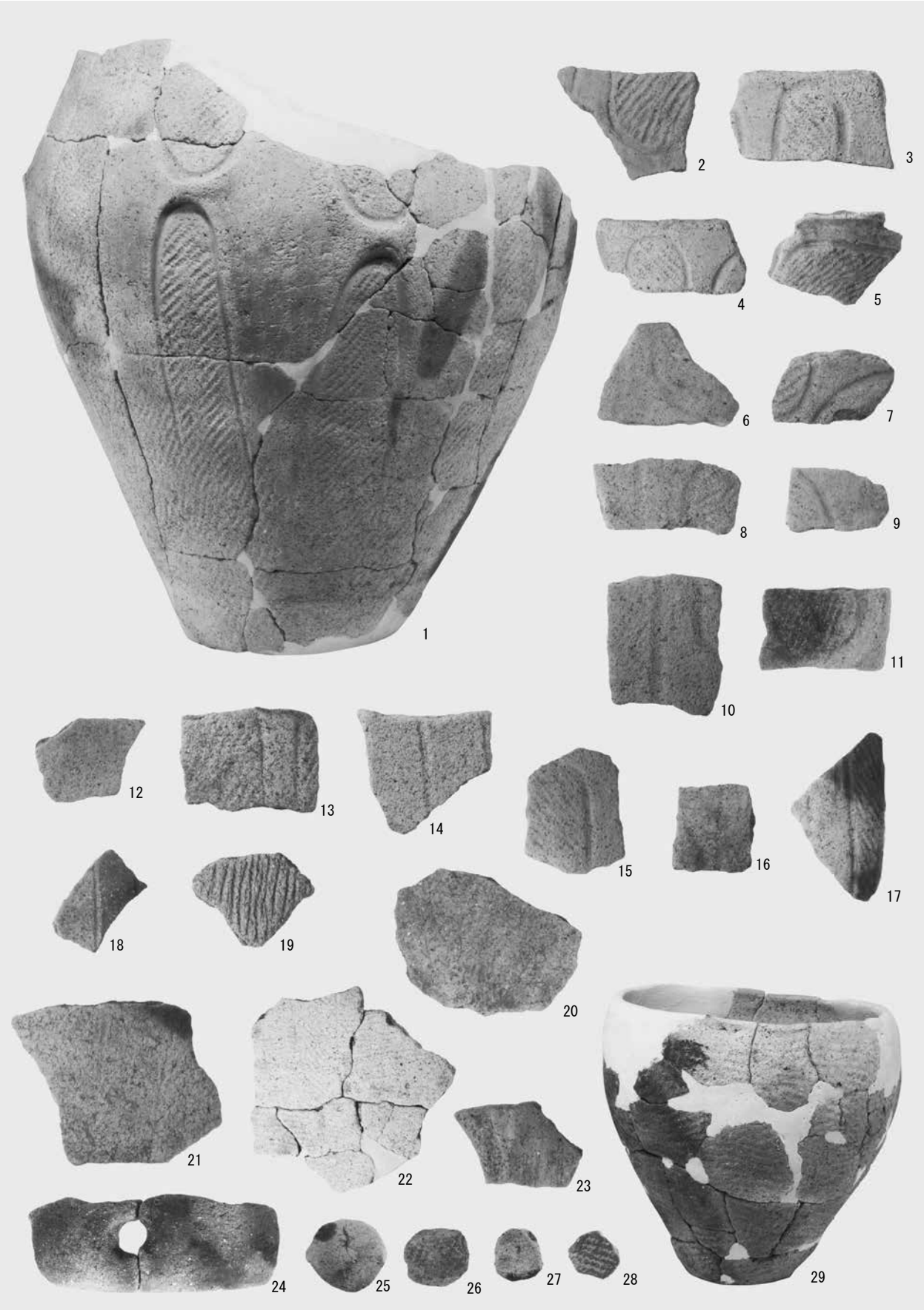


ＳＩ601竪穴住居跡（2）



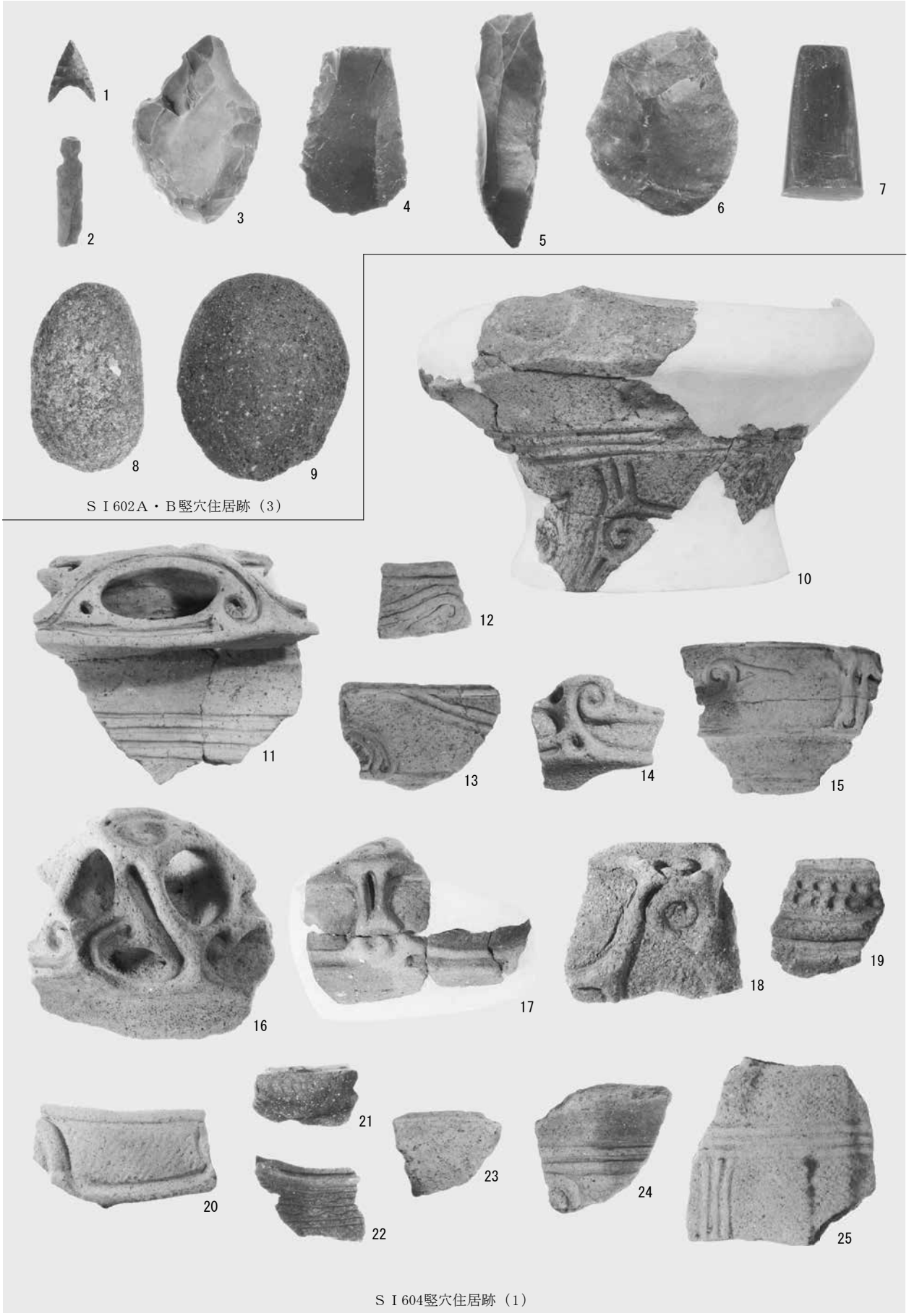
ＳＩ602Ａ・Ｂ竪穴住居跡（1）

写真図版128　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（2）



ＳＩ602Ａ・Ｂ竪穴住居跡（2）

写真図版129　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（3）



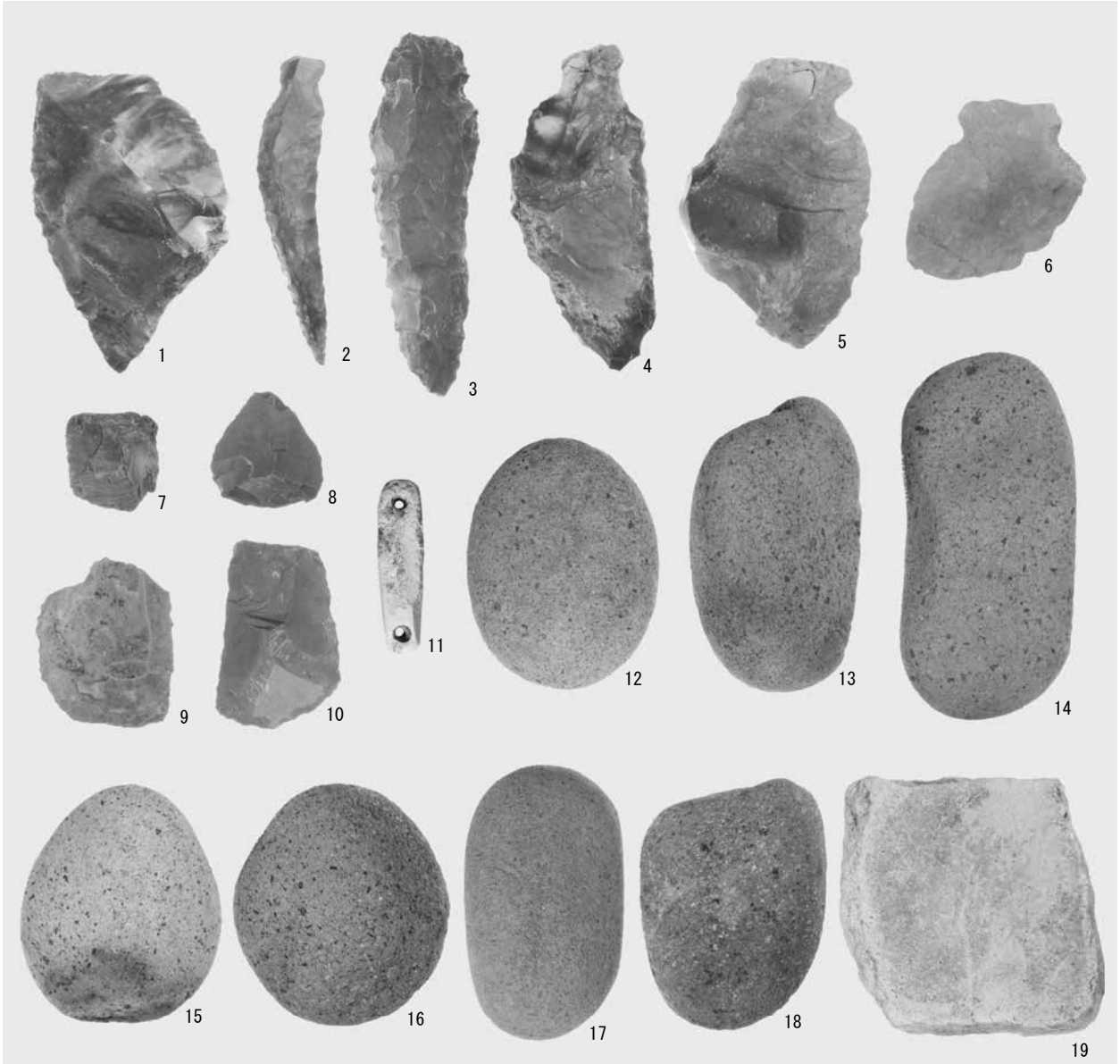
ＳＩ602Ａ・Ｂ竪穴住居跡（3）

ＳＩ604竪穴住居跡（1）

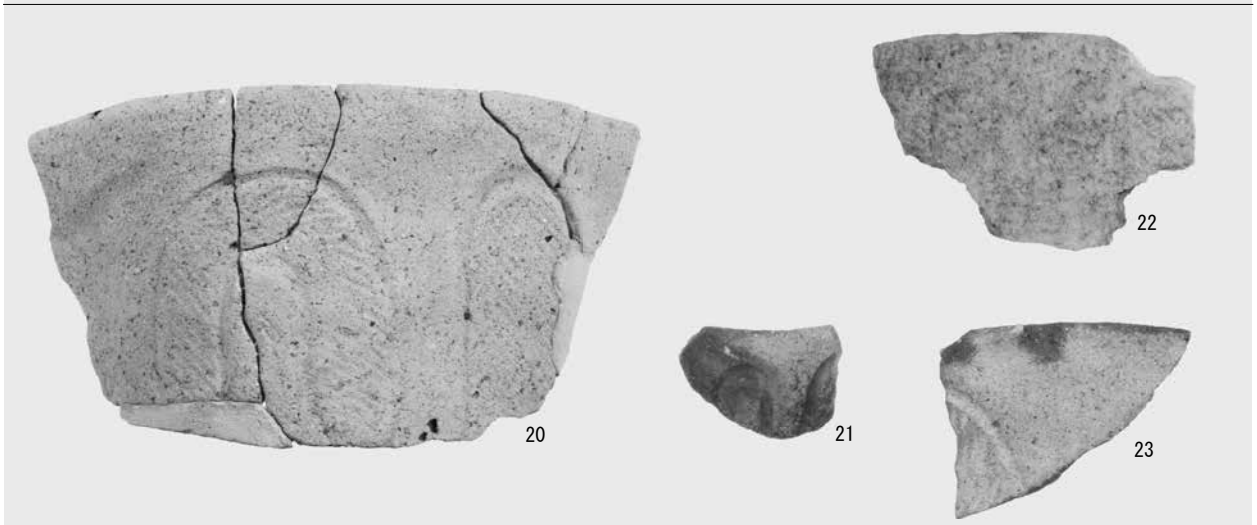
写真図版130　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（4）

ＳＩ604竪穴住居跡（2）

写真図版131　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（5）

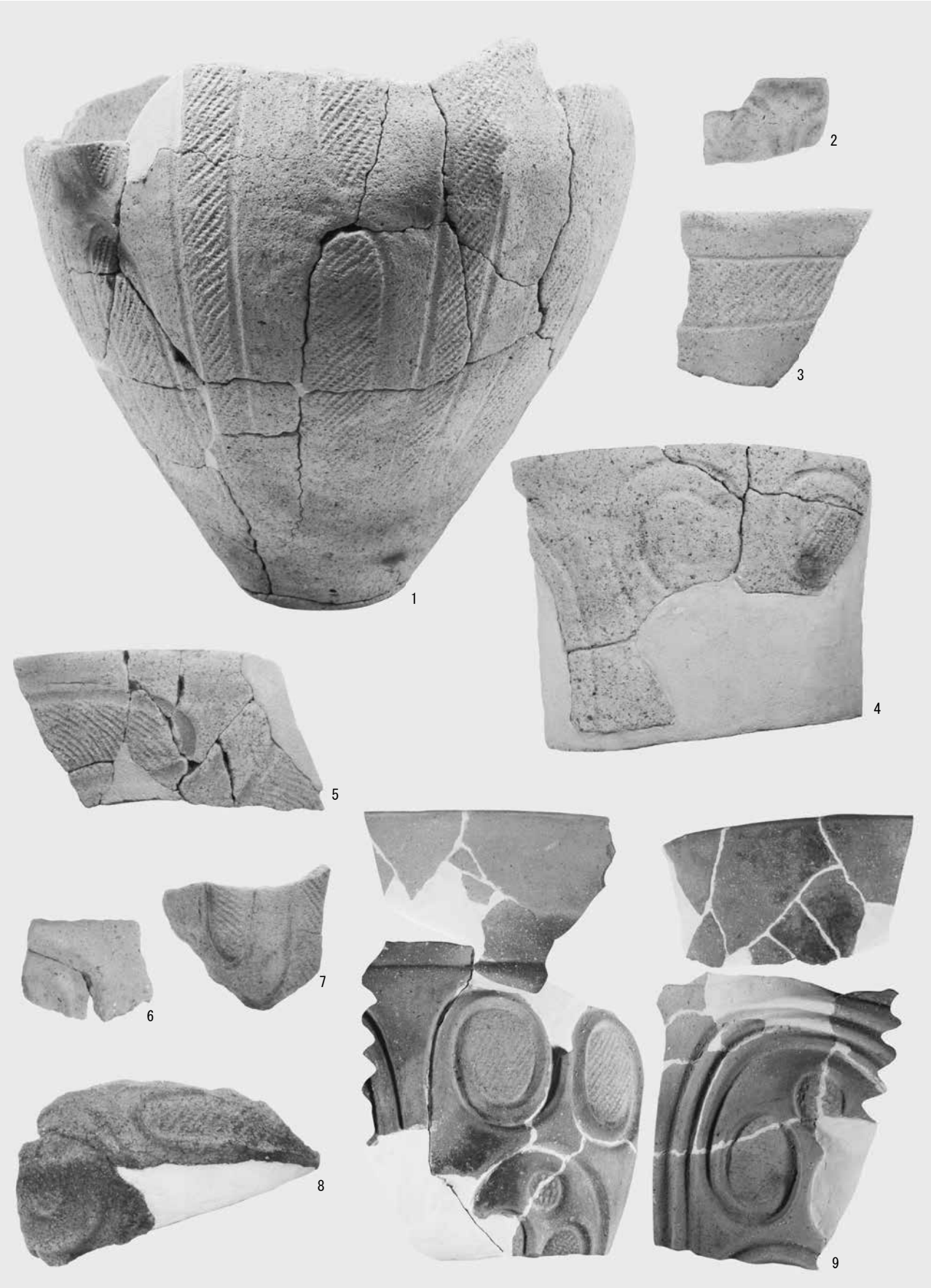


ＳＩ604竪穴住居跡（3）



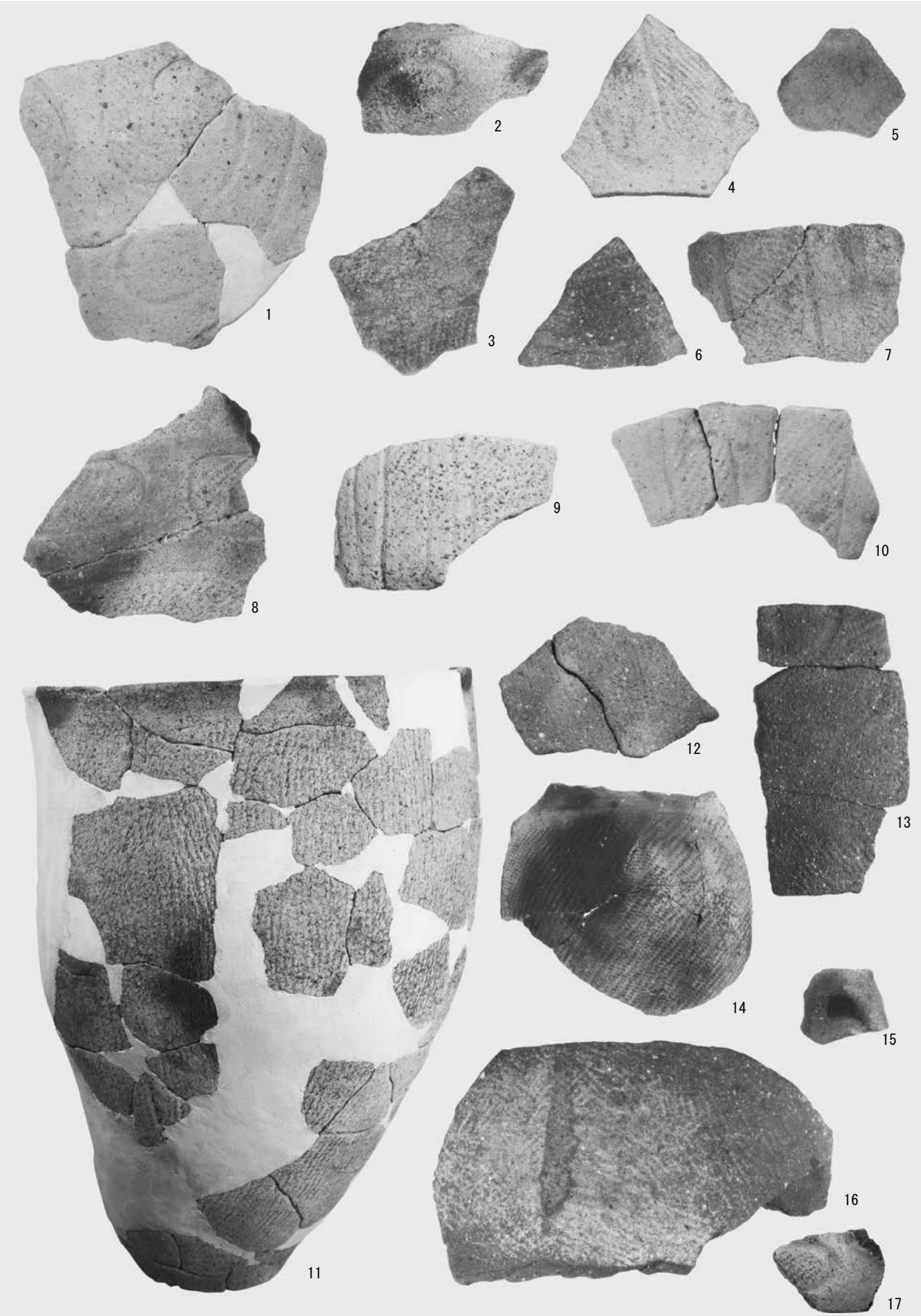
ＳＩ612竪穴住居跡（1）

写真図版132　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（6）



ＳＩ612 竪穴住居跡（2）

写真図版133　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（7）



ＳＩ612竪穴住居跡（3）

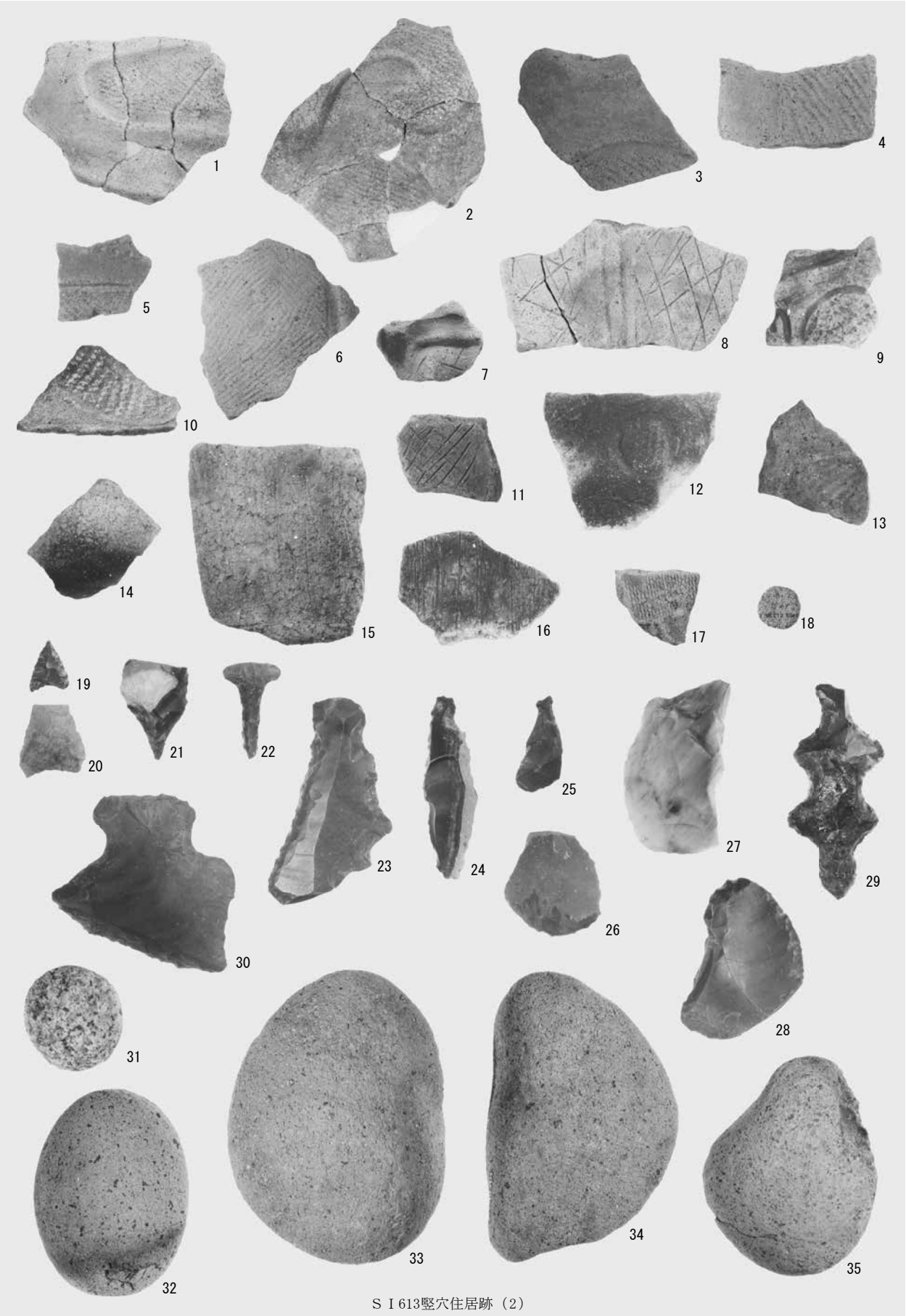
写真図版134　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（8）

ＳＩ612竪穴住居跡（4）

写真図版135　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（9）

ＳＩ613竪穴住居跡（1）

写真図版136 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（10）

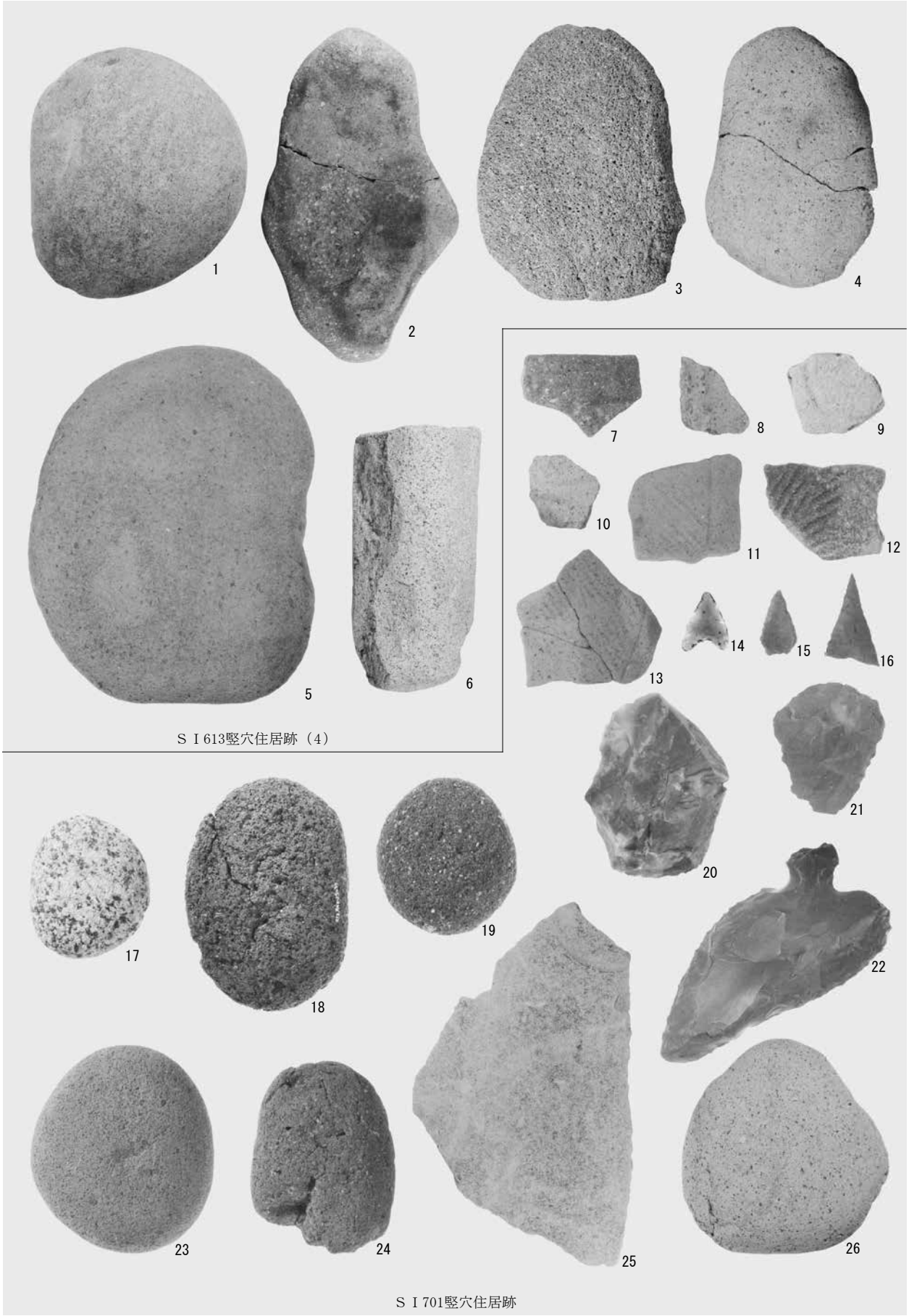


ＳＩ613竪穴住居跡（2）

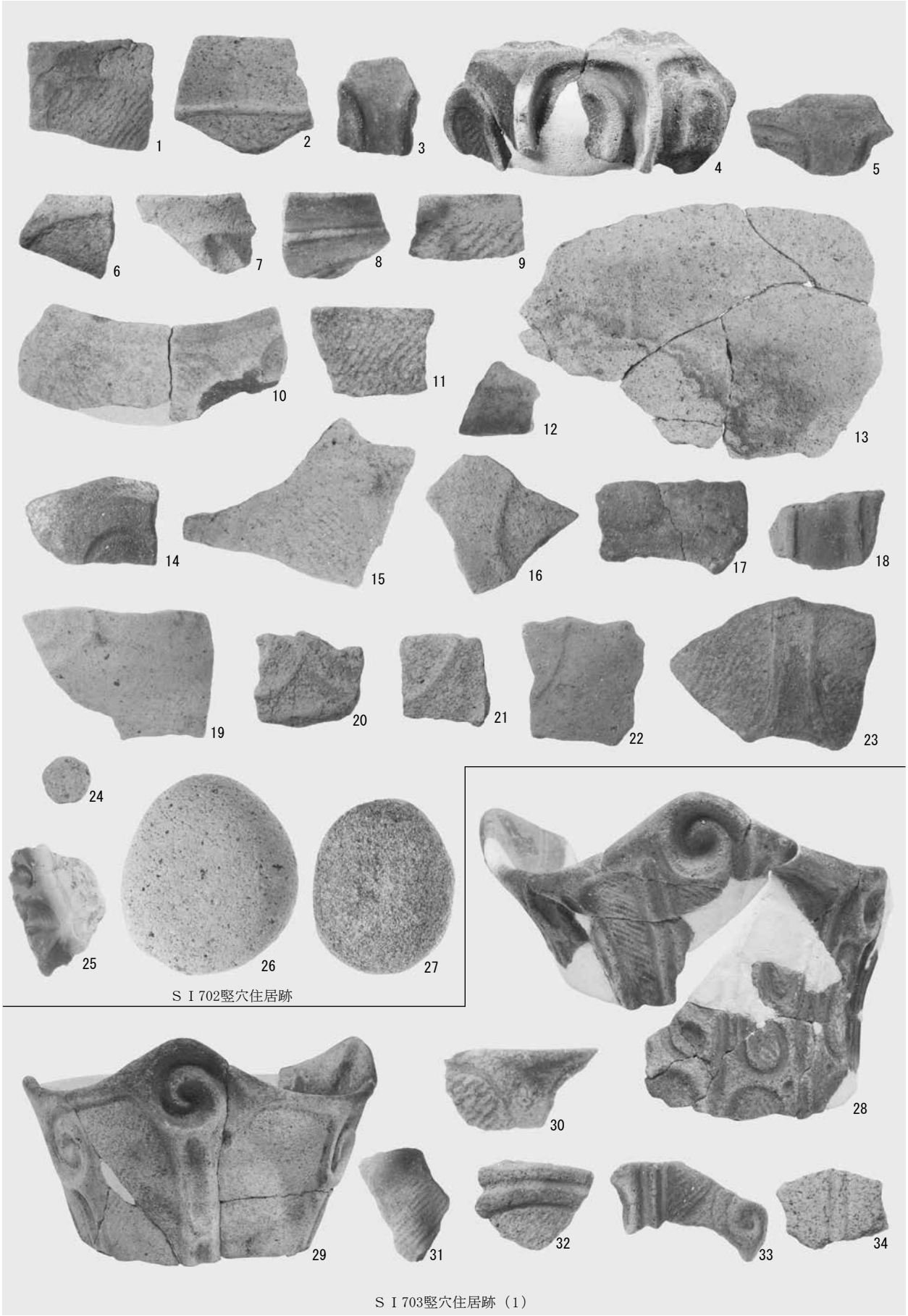
写真図版137 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（11）

ＳＩ613竪穴住居跡（3）

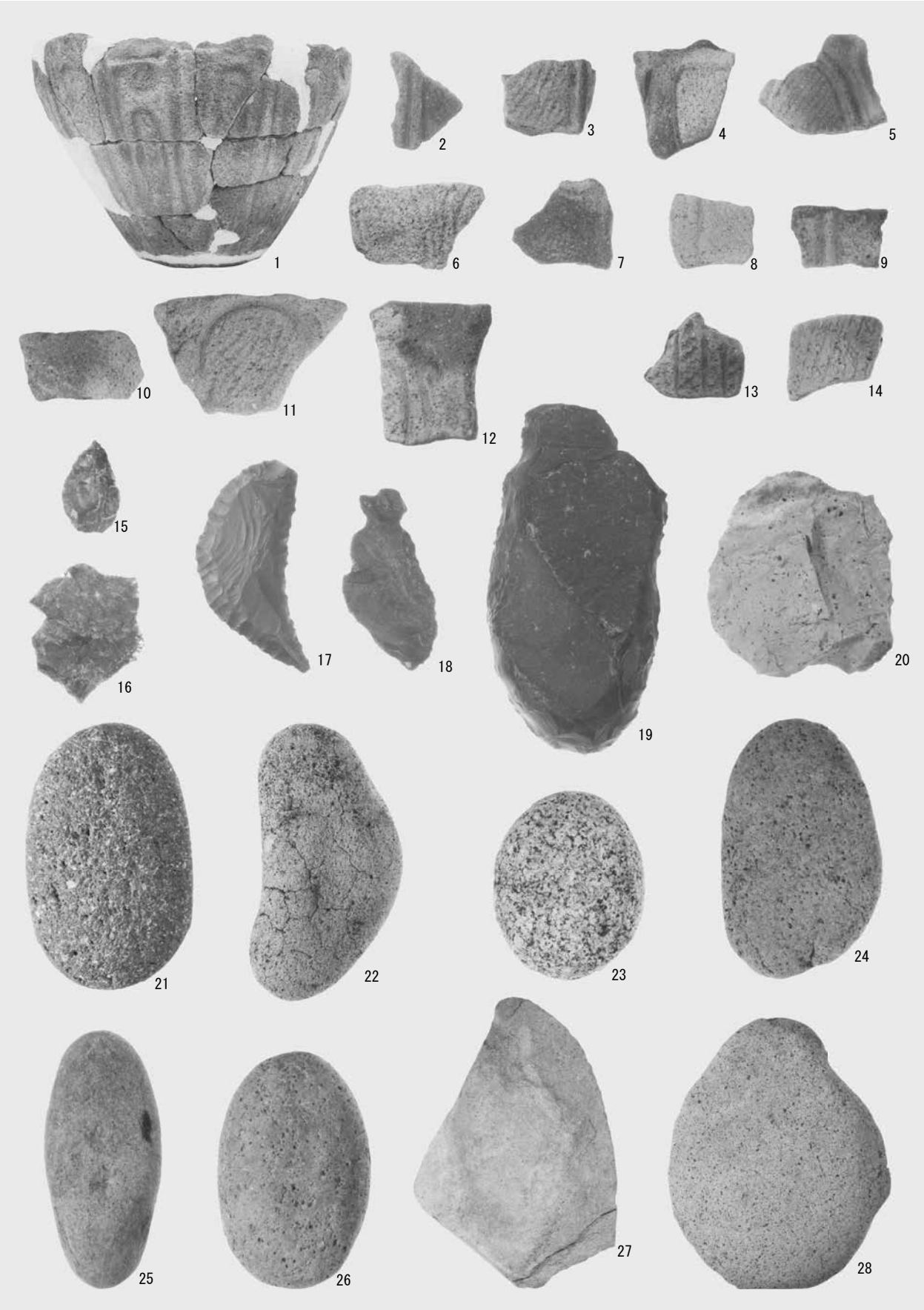
写真図版138 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（12）



写真図版139 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（13）

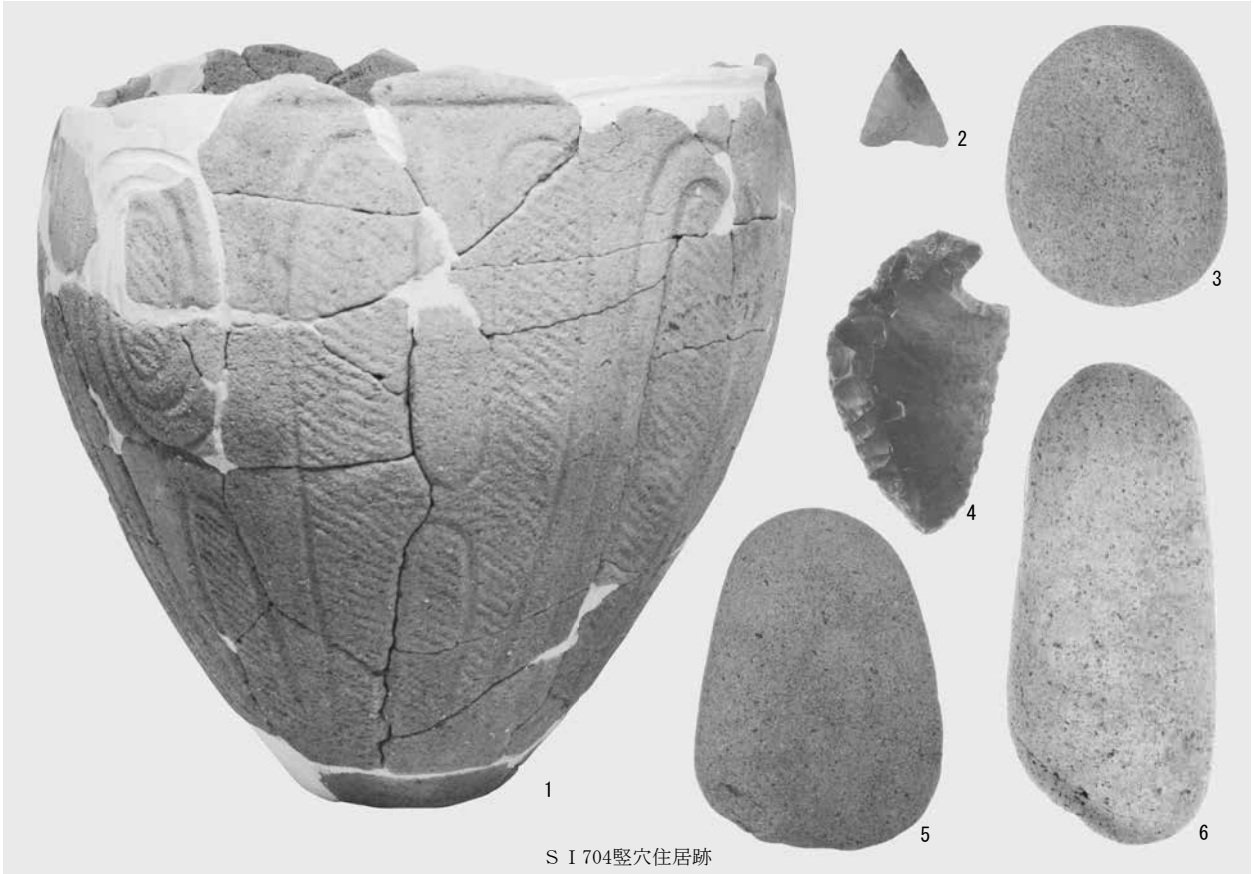


写真図版140 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（14）

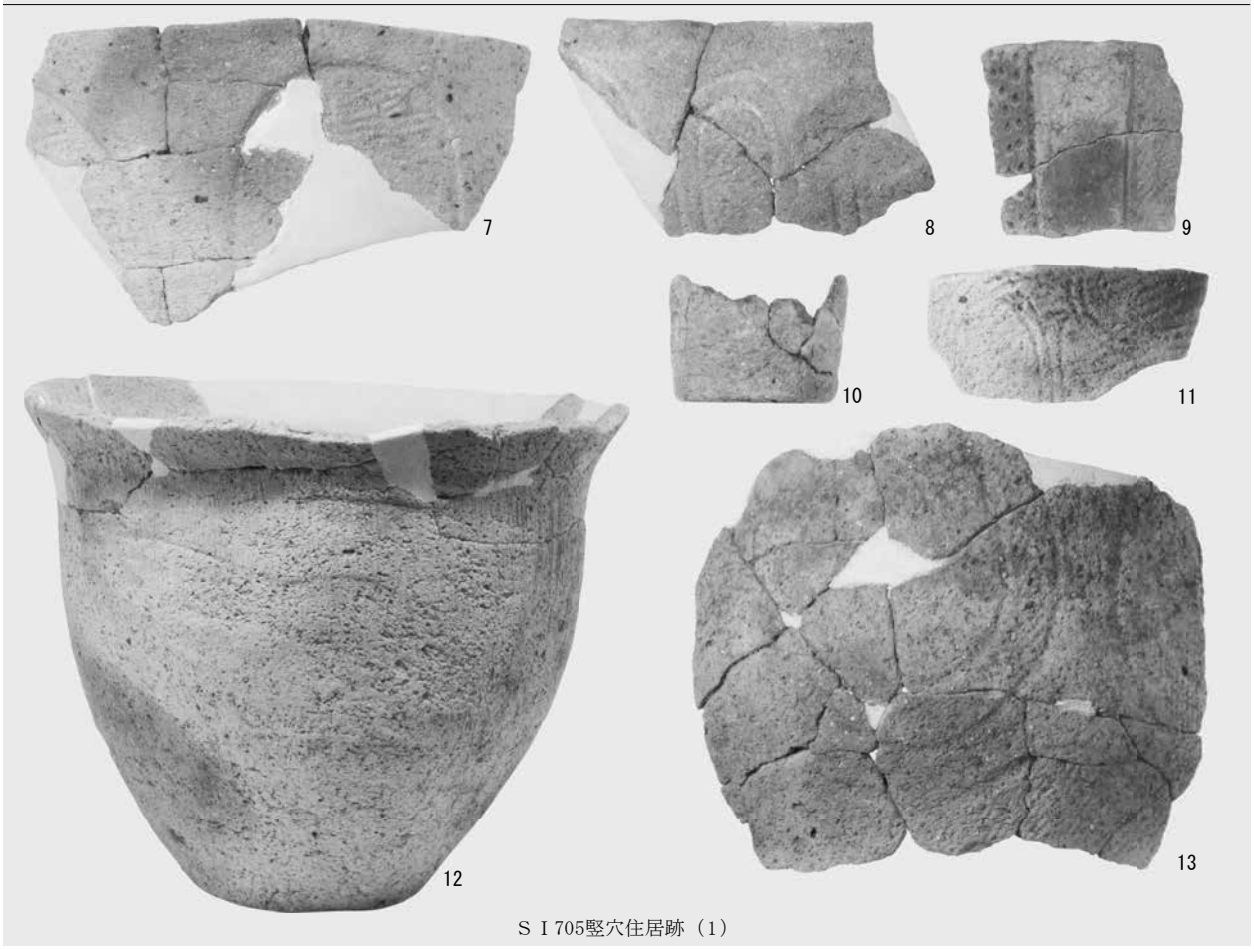


ＳＩ703竪穴住居跡（2）

写真図版141 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（15）

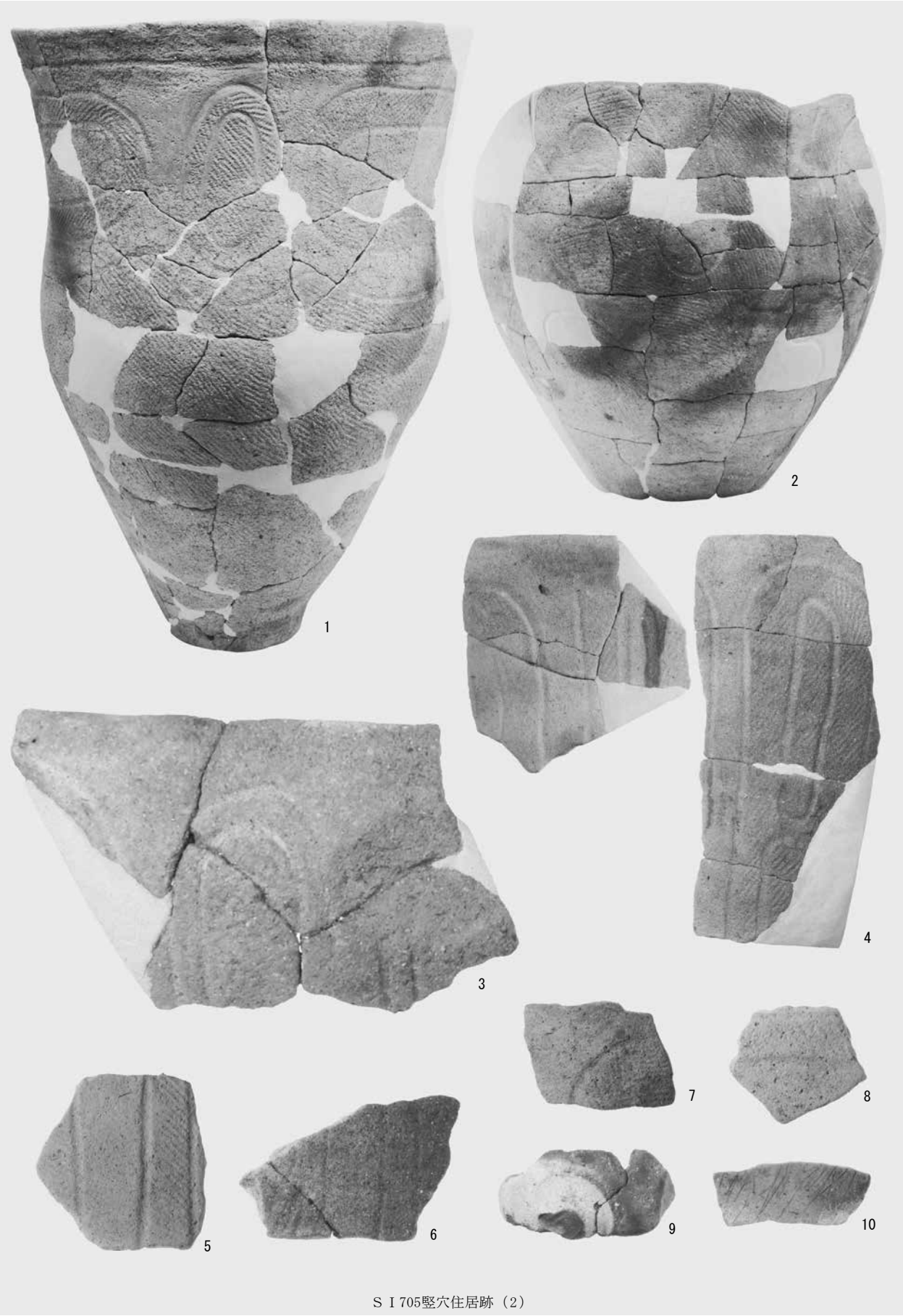


ＳＩ704竪穴住居跡



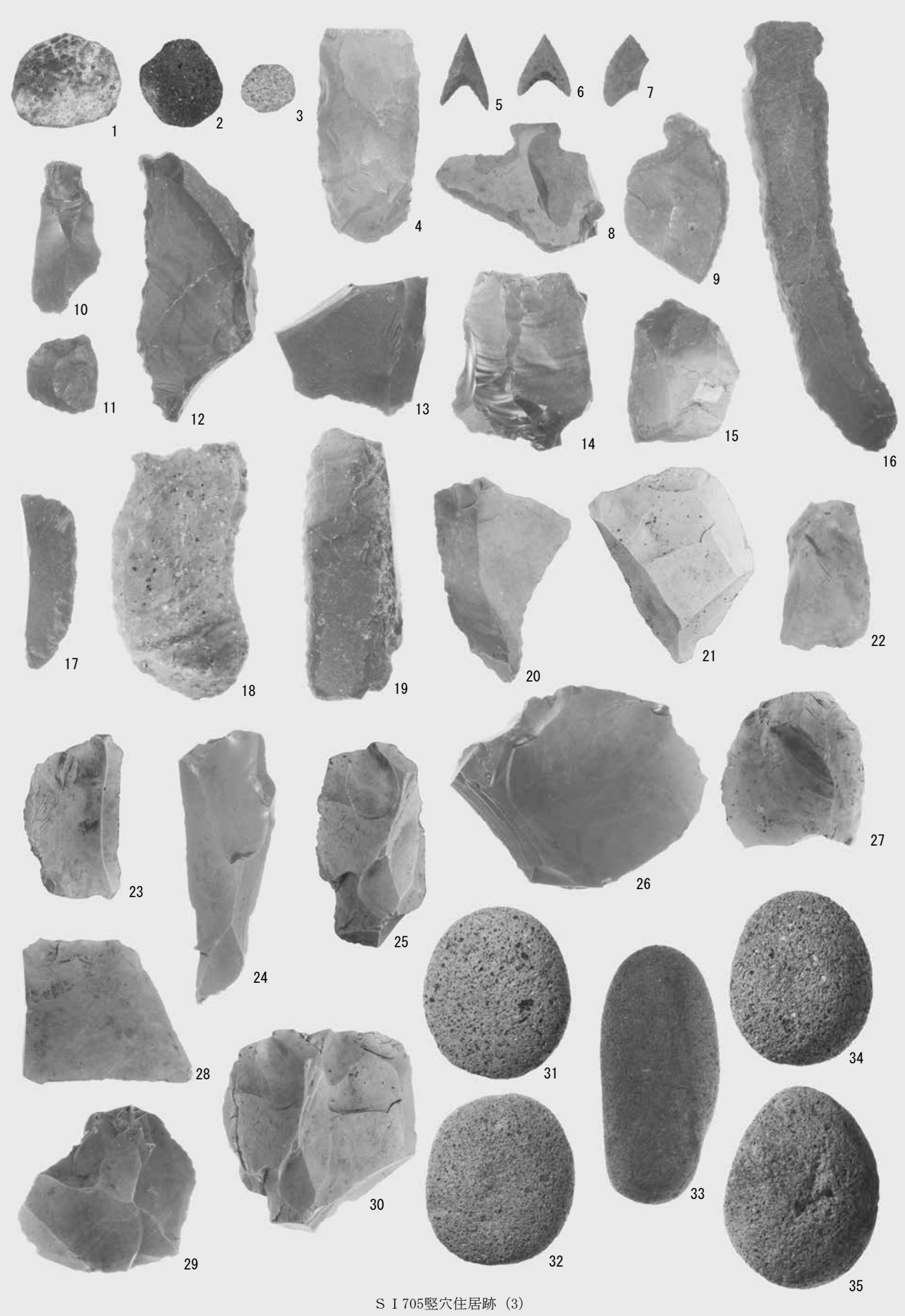
ＳＩ705竪穴住居跡（1）

写真図版142 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（16）



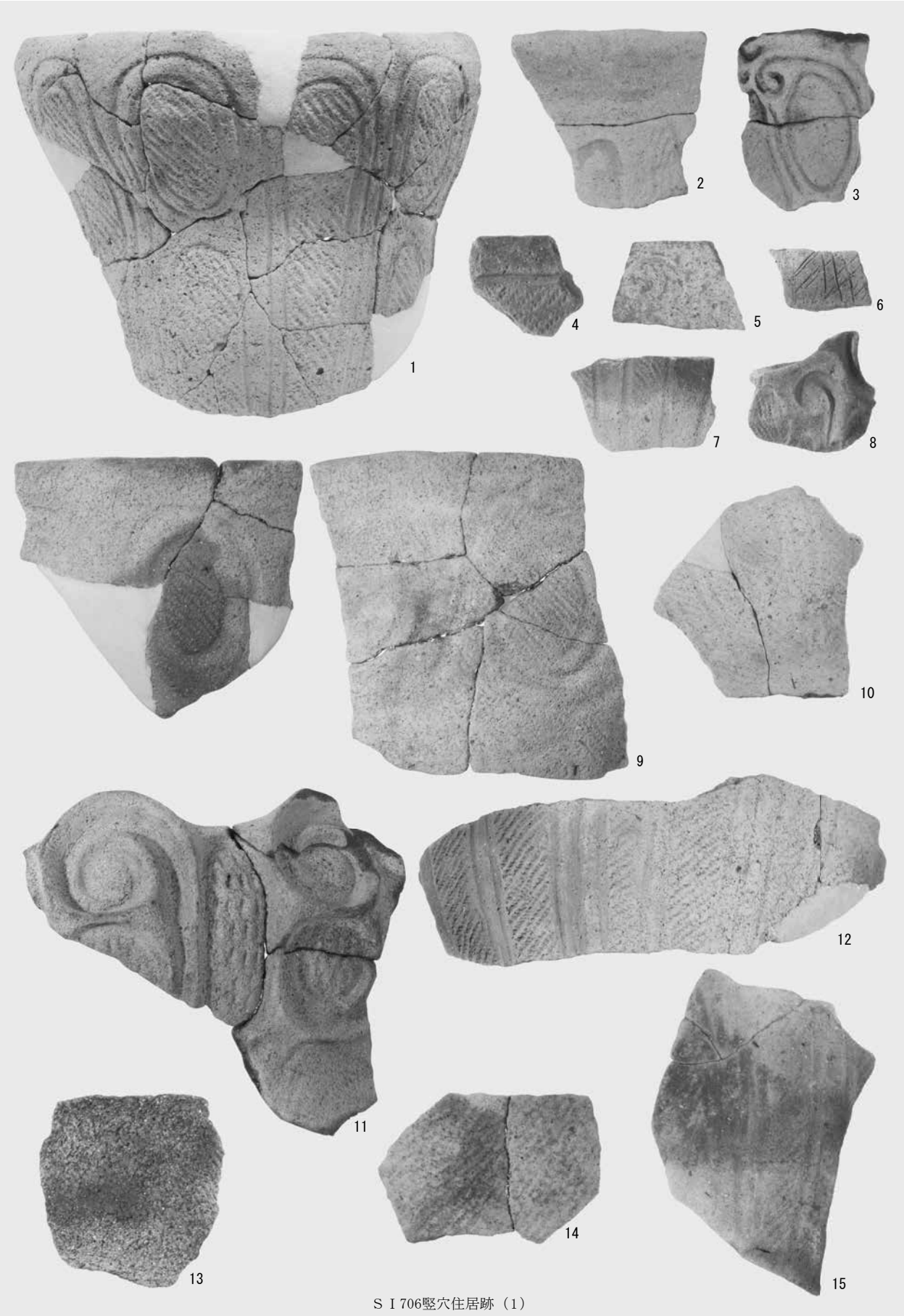
ＳＩ705竪穴住居跡（2）

写真図版143 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（17）



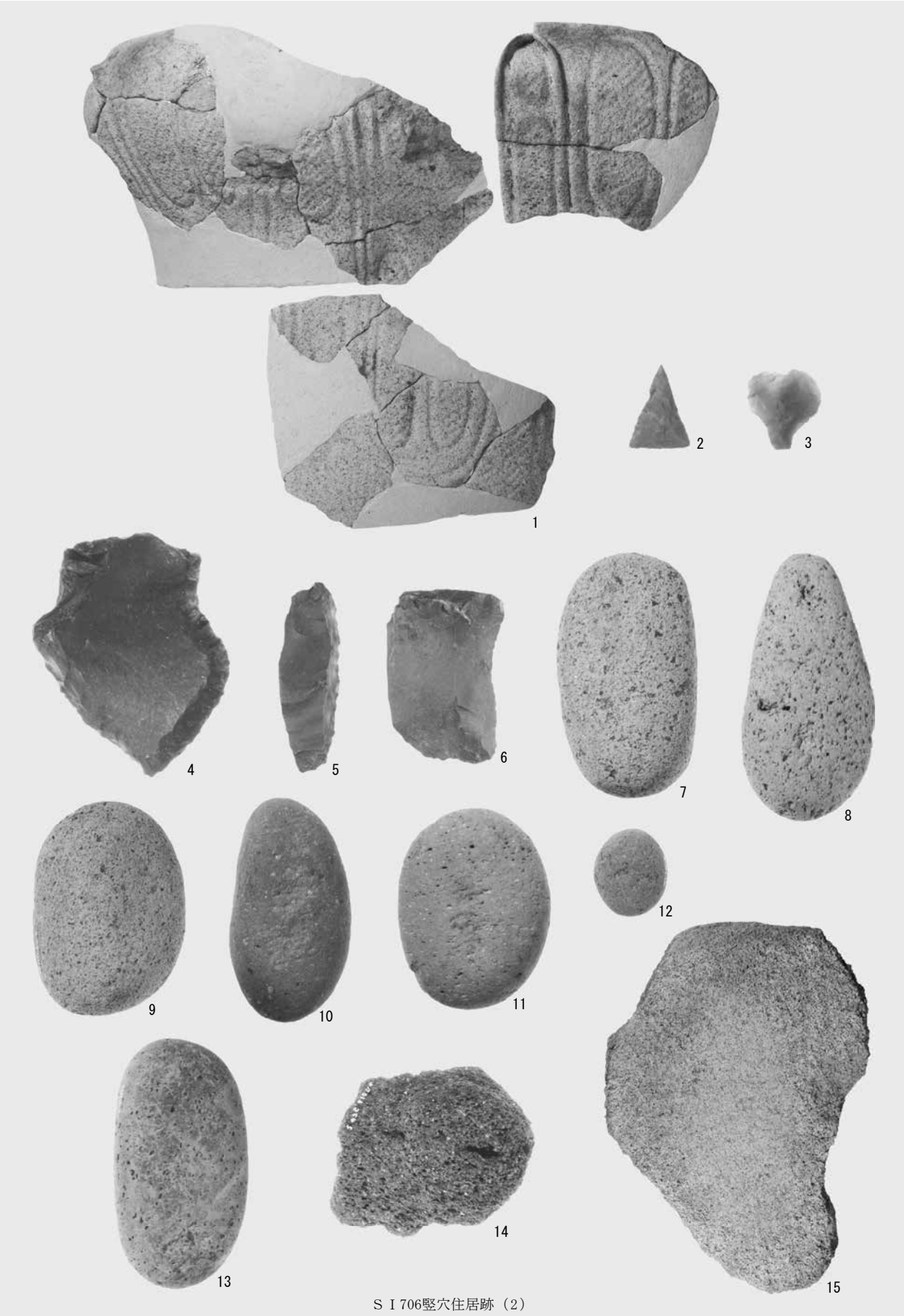
ＳＩ705竪穴住居跡（3）

写真図版144　縄文時代竪穴住居跡出土遺物（18）



ＳＩ706竪穴住居跡（1）

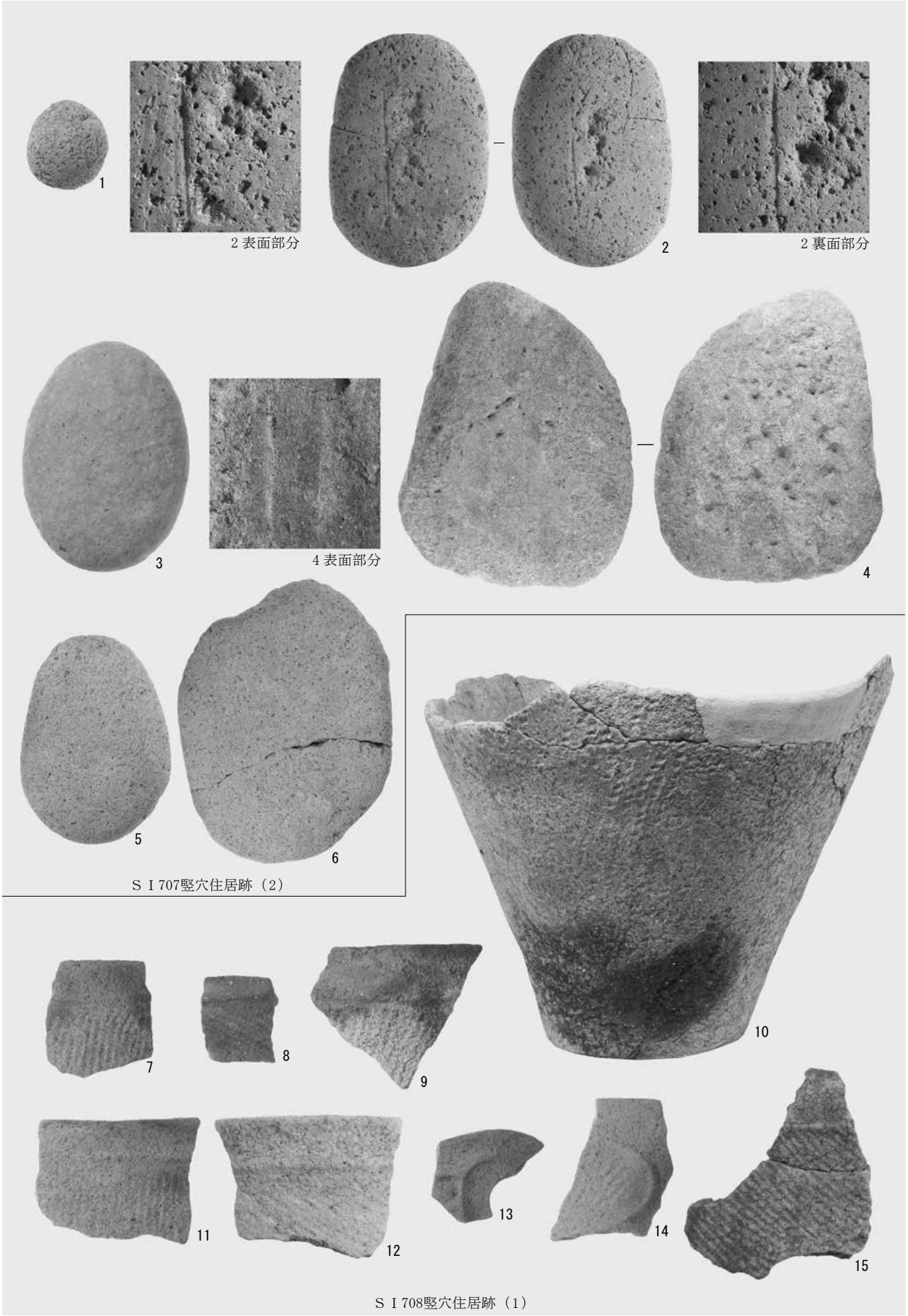
写真図版145 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（19）



ＳＩ706竪穴住居跡（2）

写真図版146 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（20）

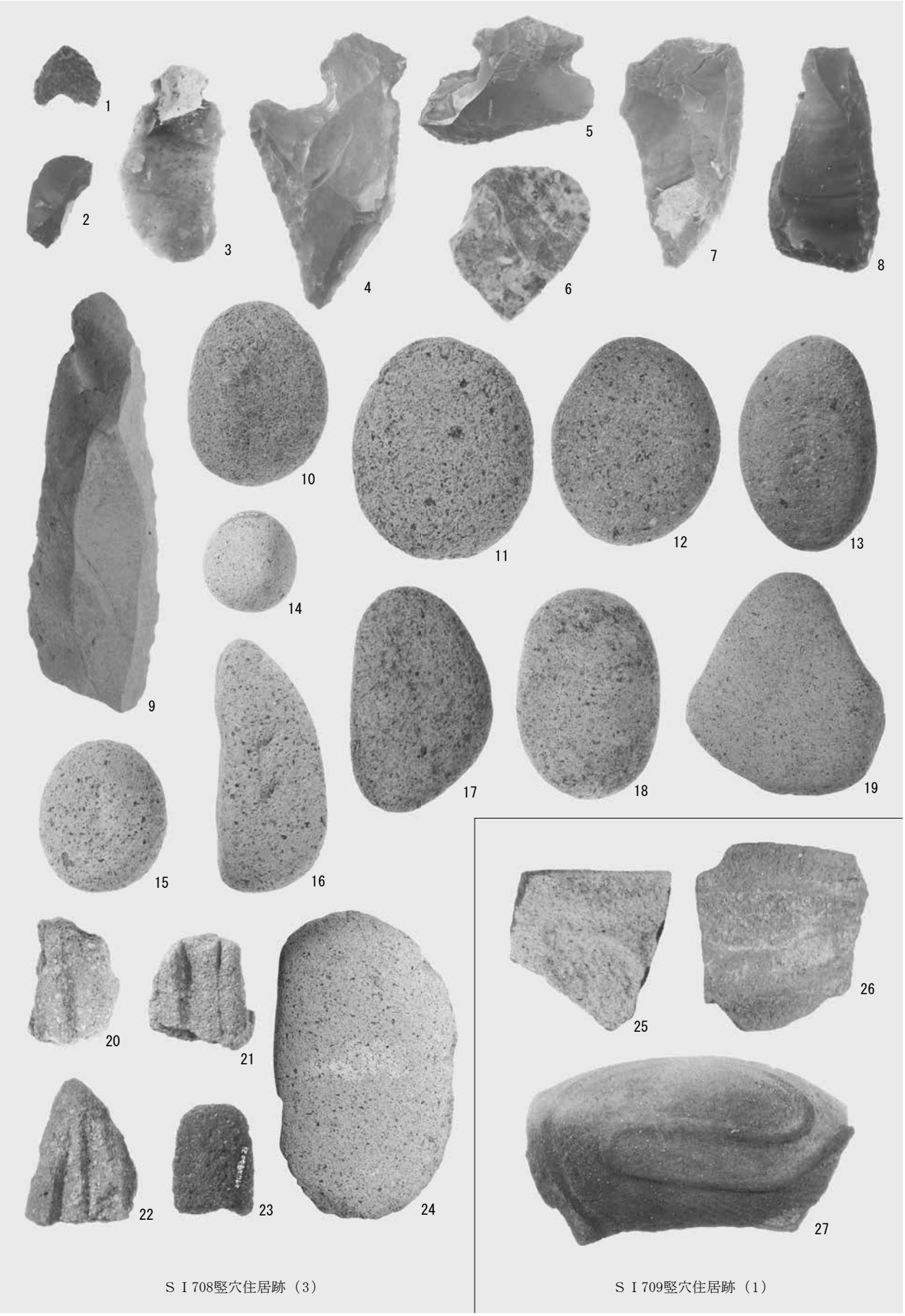
写真図版147 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（21）



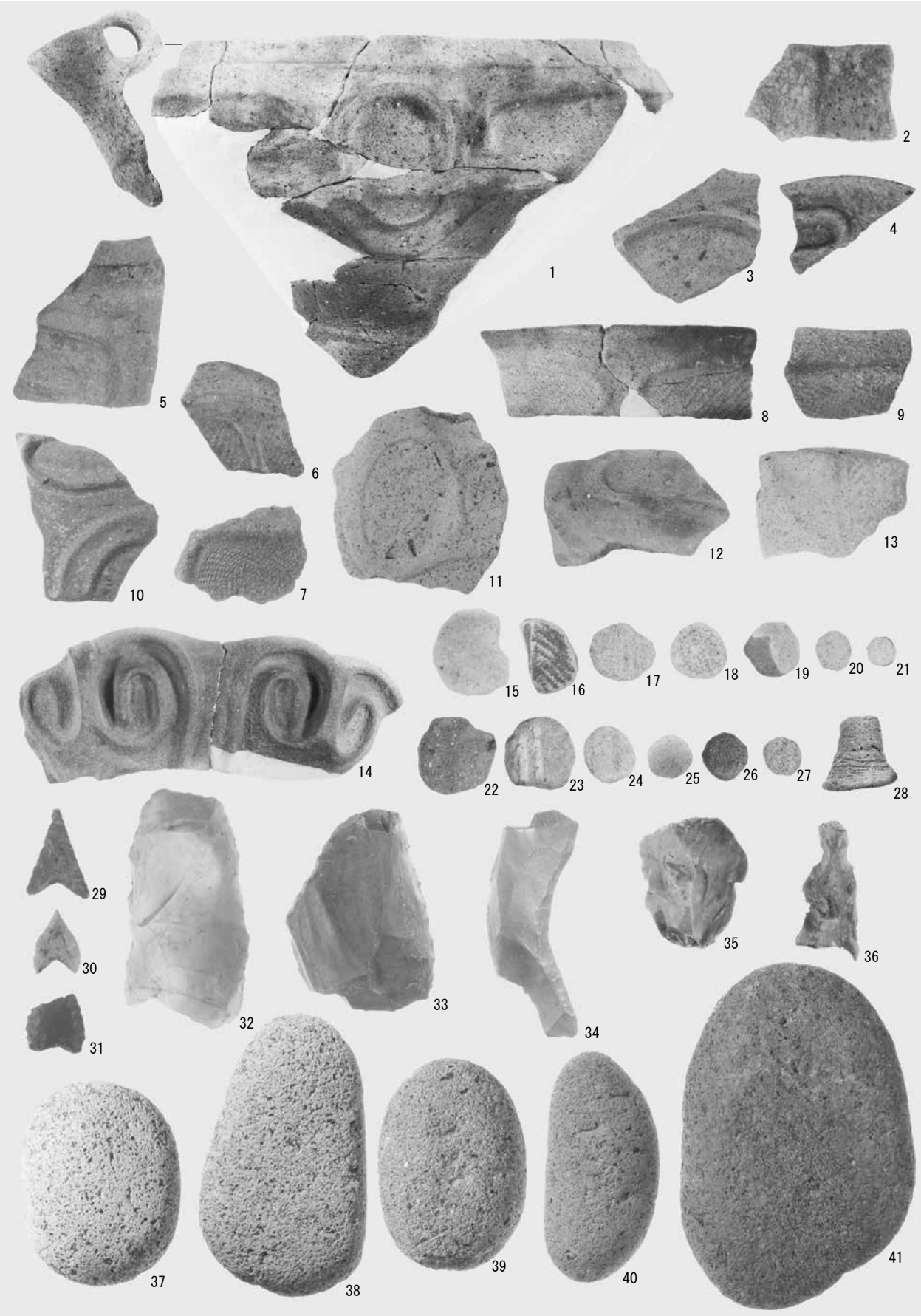
写真図版148 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（22）

ＳＩ708竪穴住居跡（2）

写真図版149 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（23）

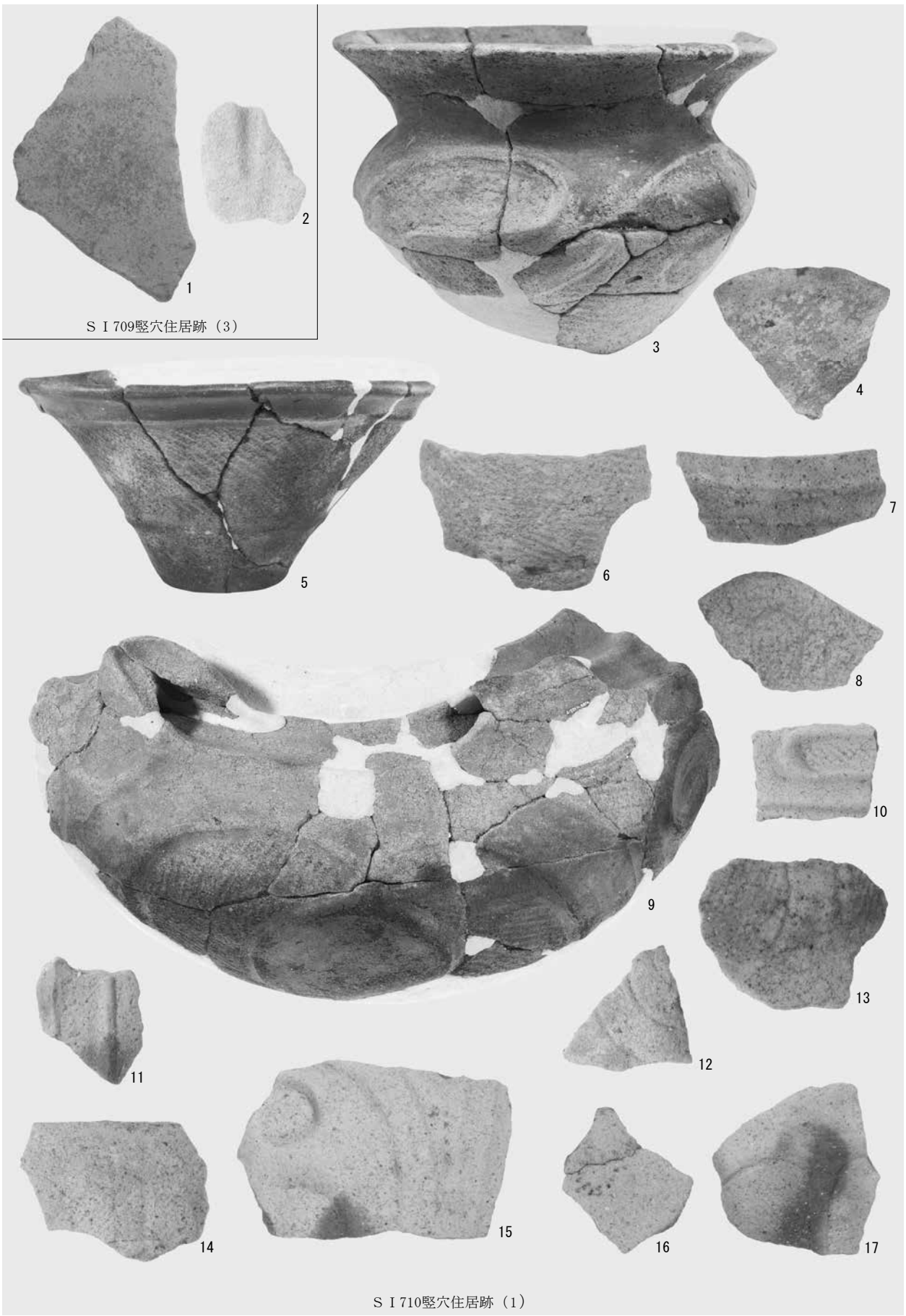


写真図版150 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（24）



ＳＩ709竪穴住居跡（2）

写真図版151 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（25）



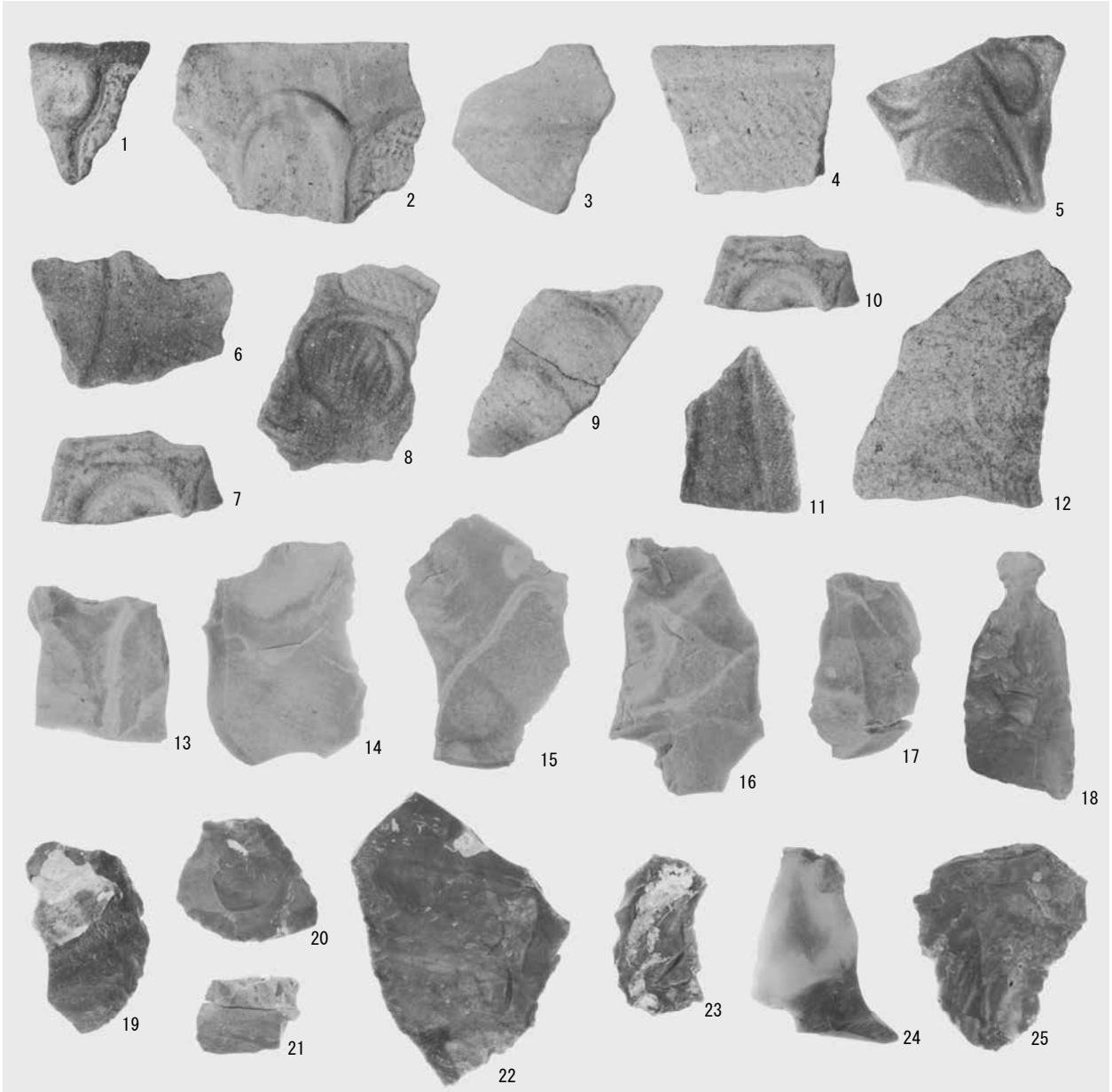
ＳＩ709竪穴住居跡（3）

ＳＩ710竪穴住居跡（1）

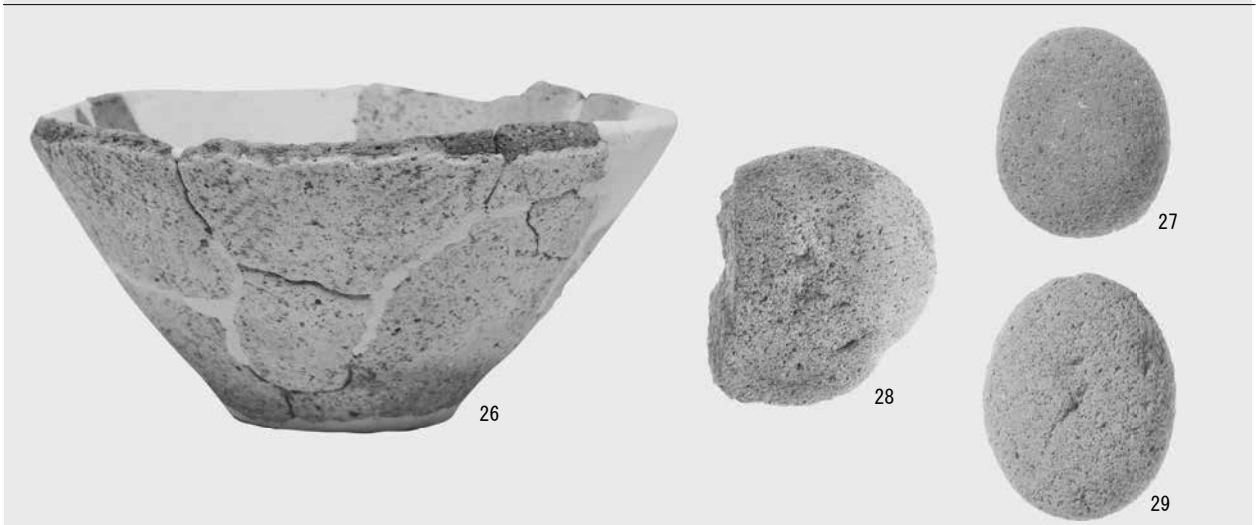
写真図版152 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（26）

ＳＩ710竪穴住居跡（2）

写真図版153 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（27）

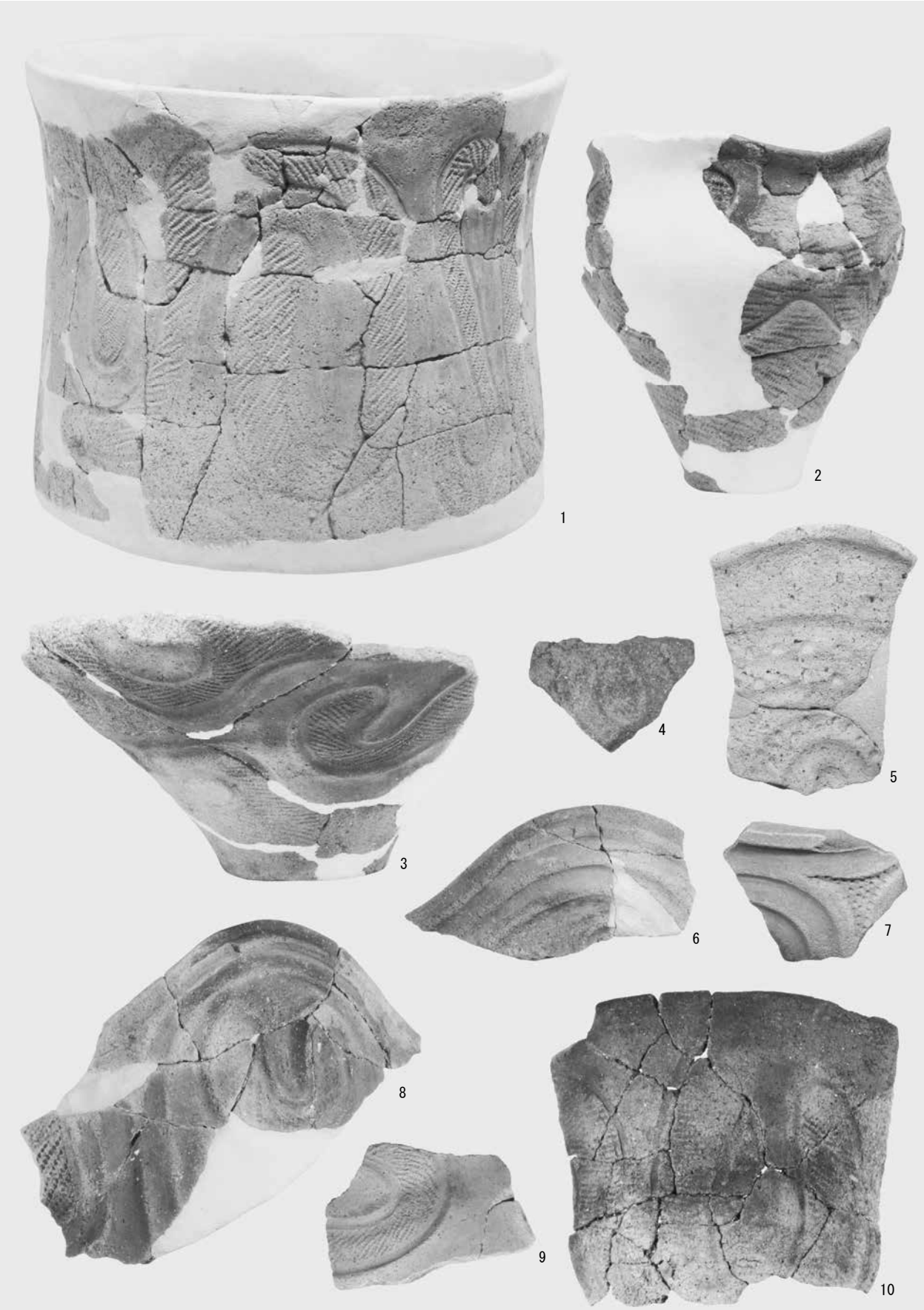


ＳＩ711竪穴住居跡



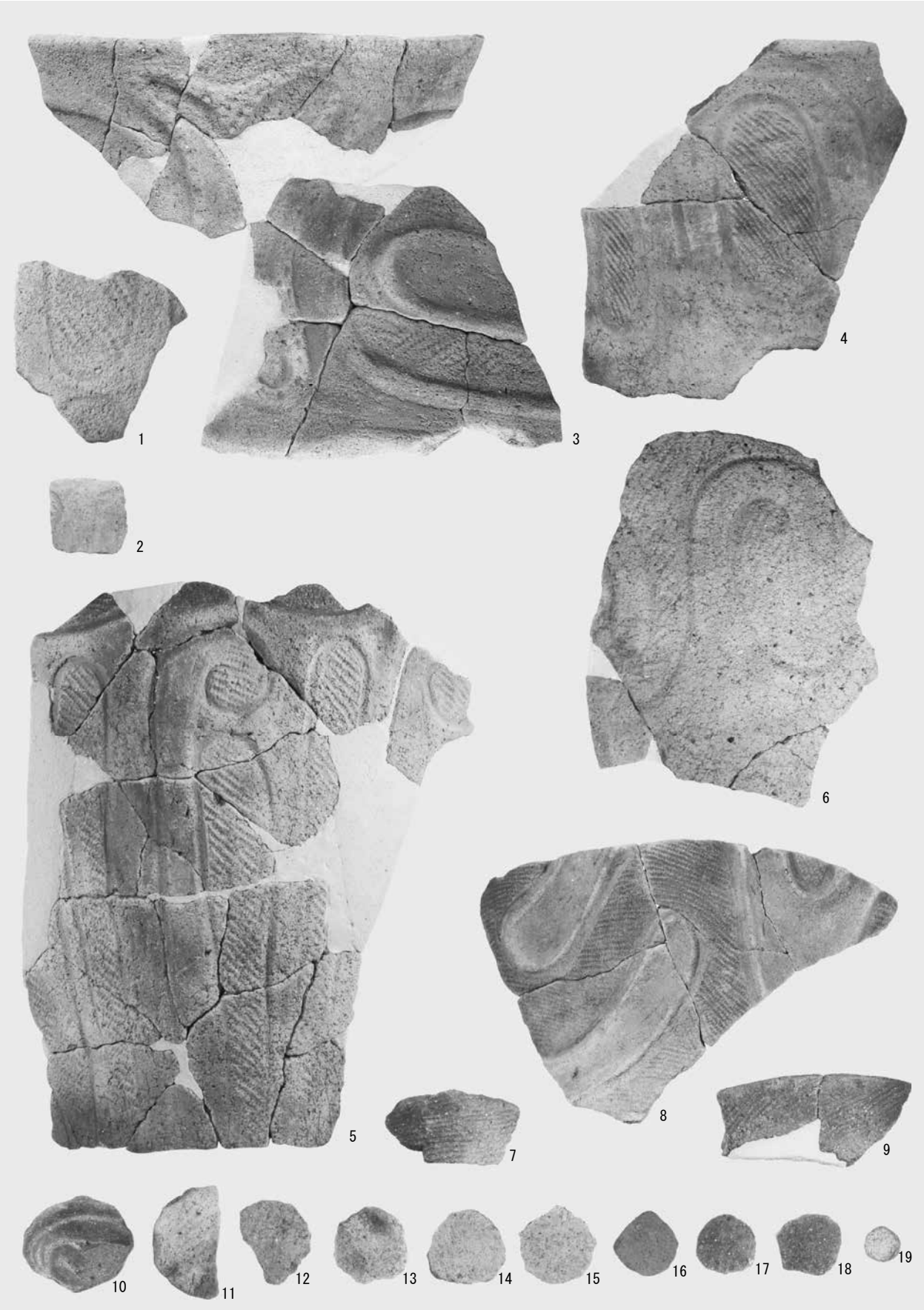
ＳＩ712竪穴住居跡

写真図版154 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（28）



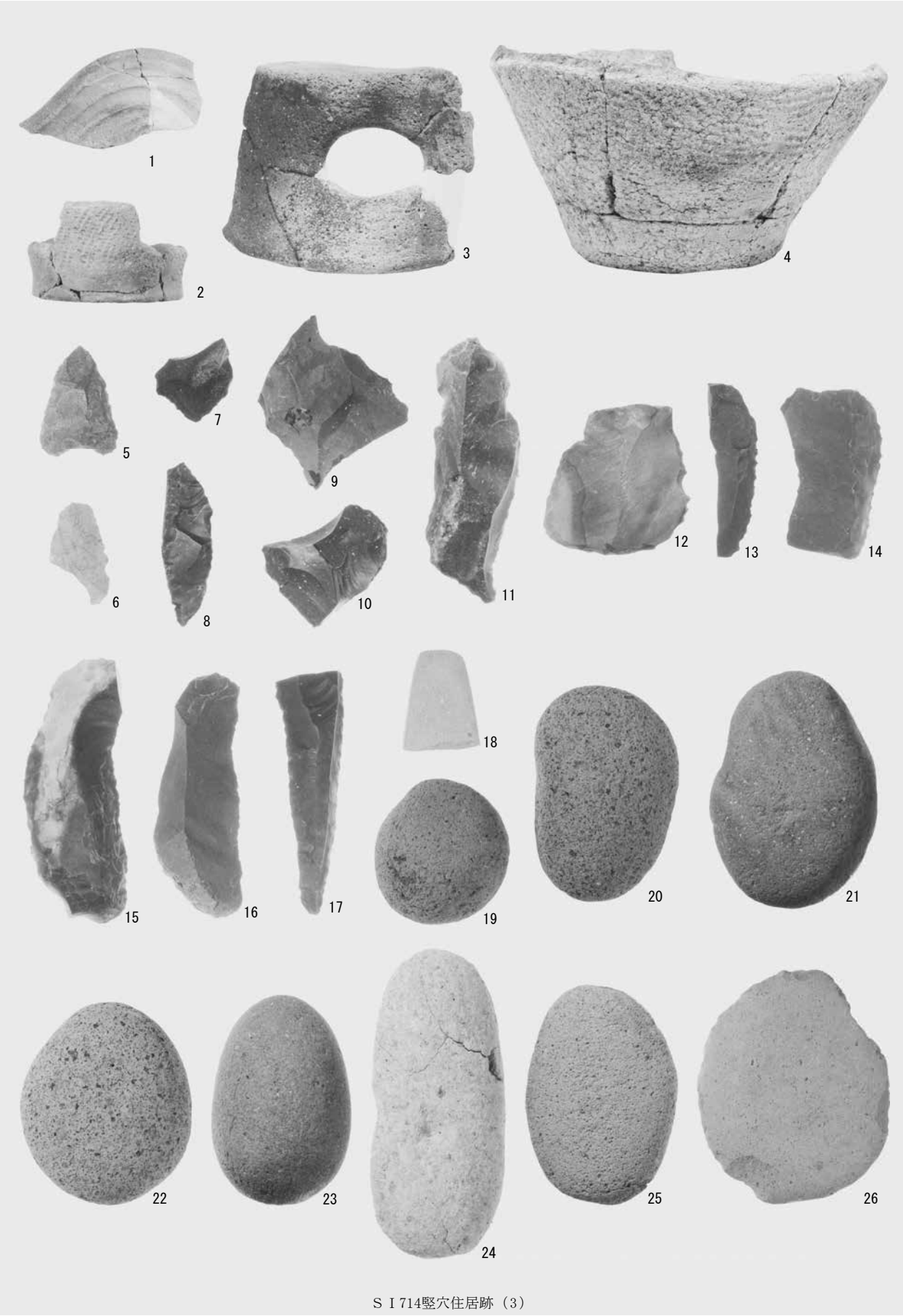
ＳＩ714竪穴住居跡（1）

写真図版155 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（29）



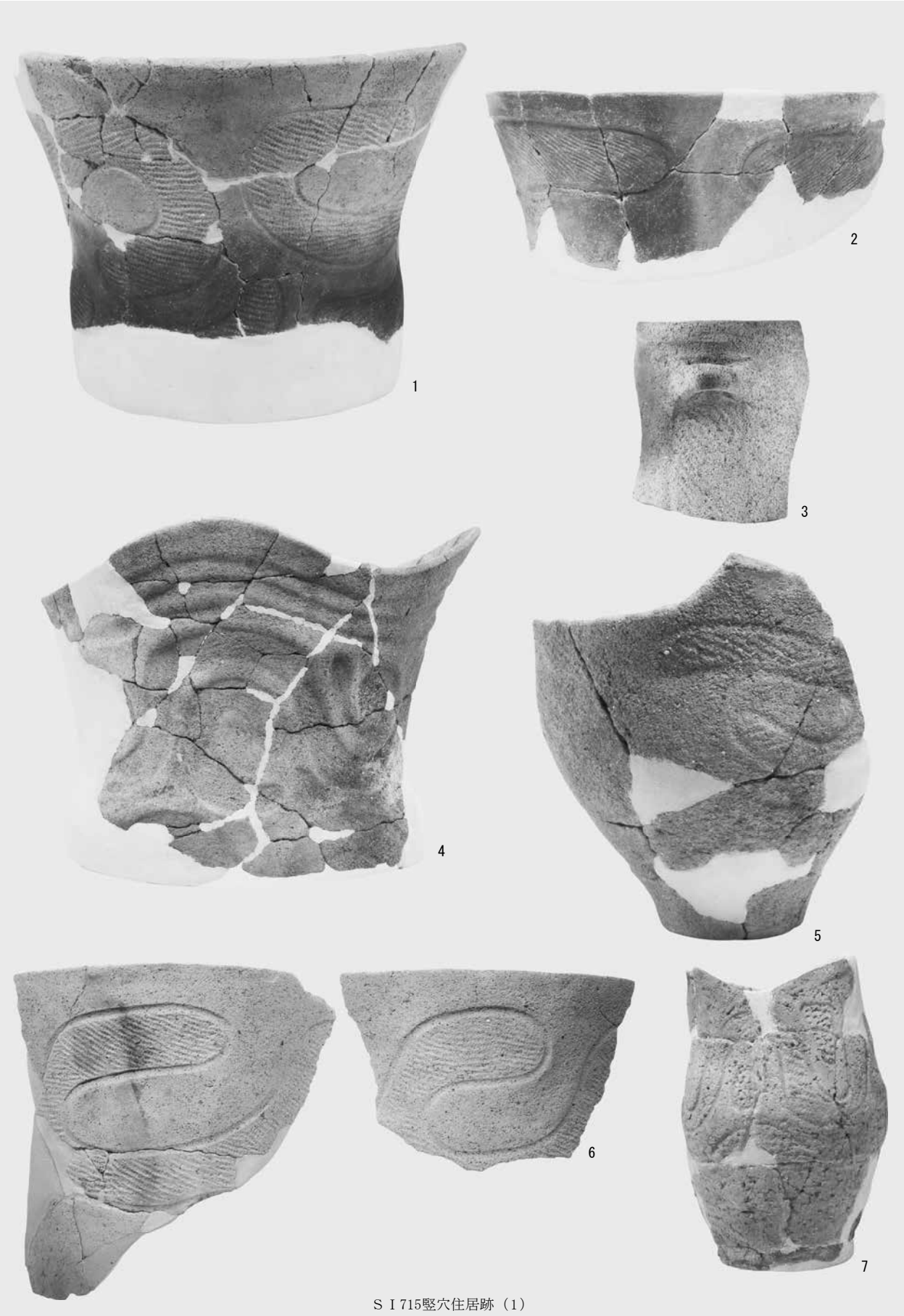
ＳＩ714竪穴住居跡（2）

写真図版156 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（30）



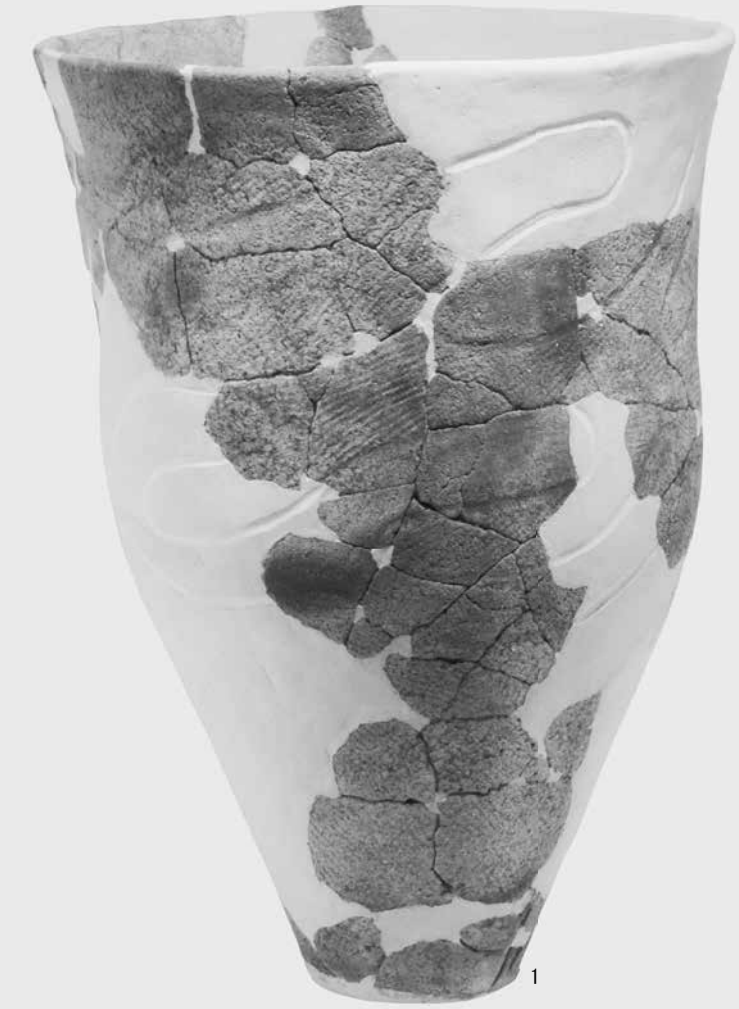
ＳＩ714竪穴住居跡（3）

写真図版157 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（31）



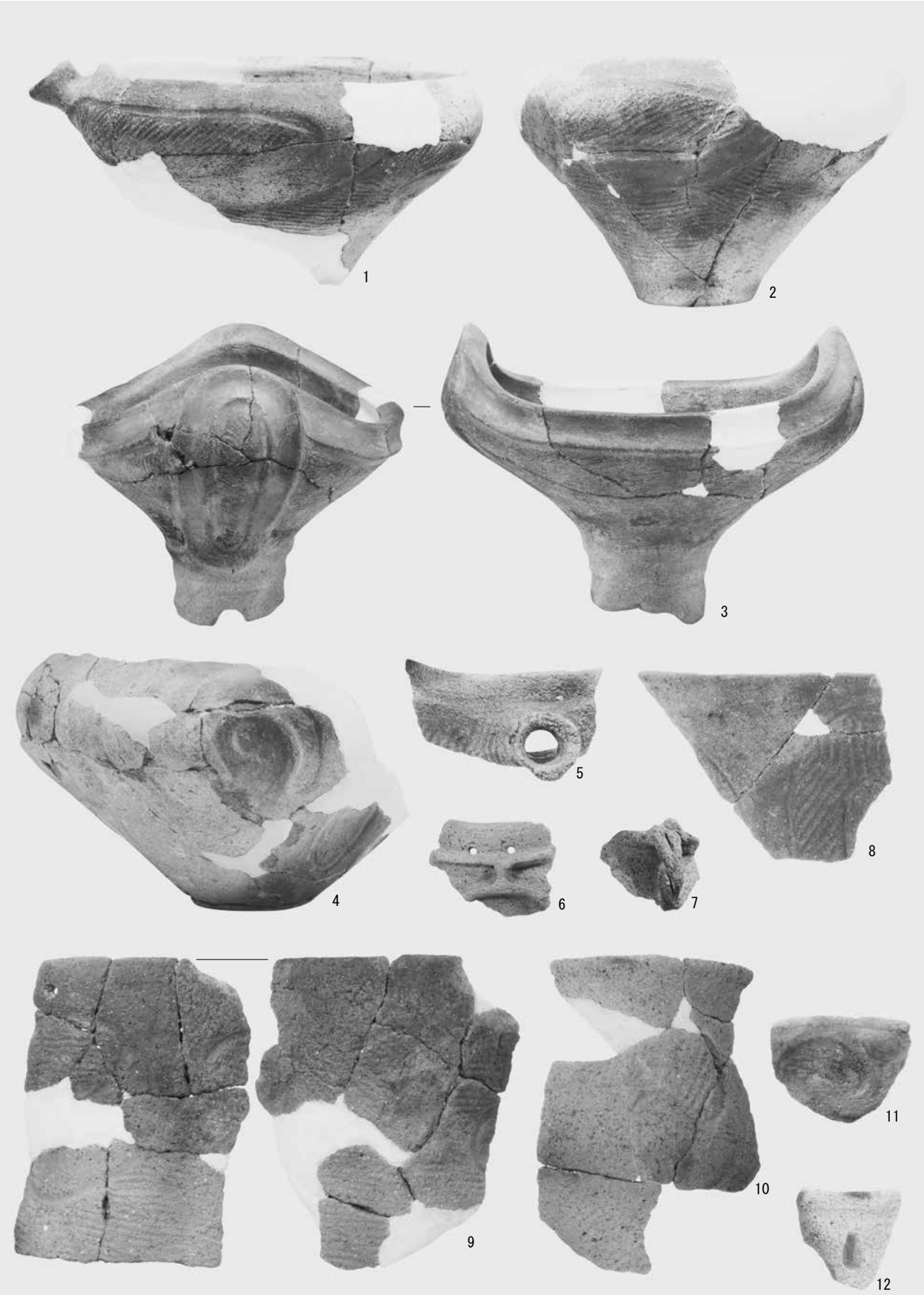
ＳＩ715竪穴住居跡（1）

写真図版158 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（32）



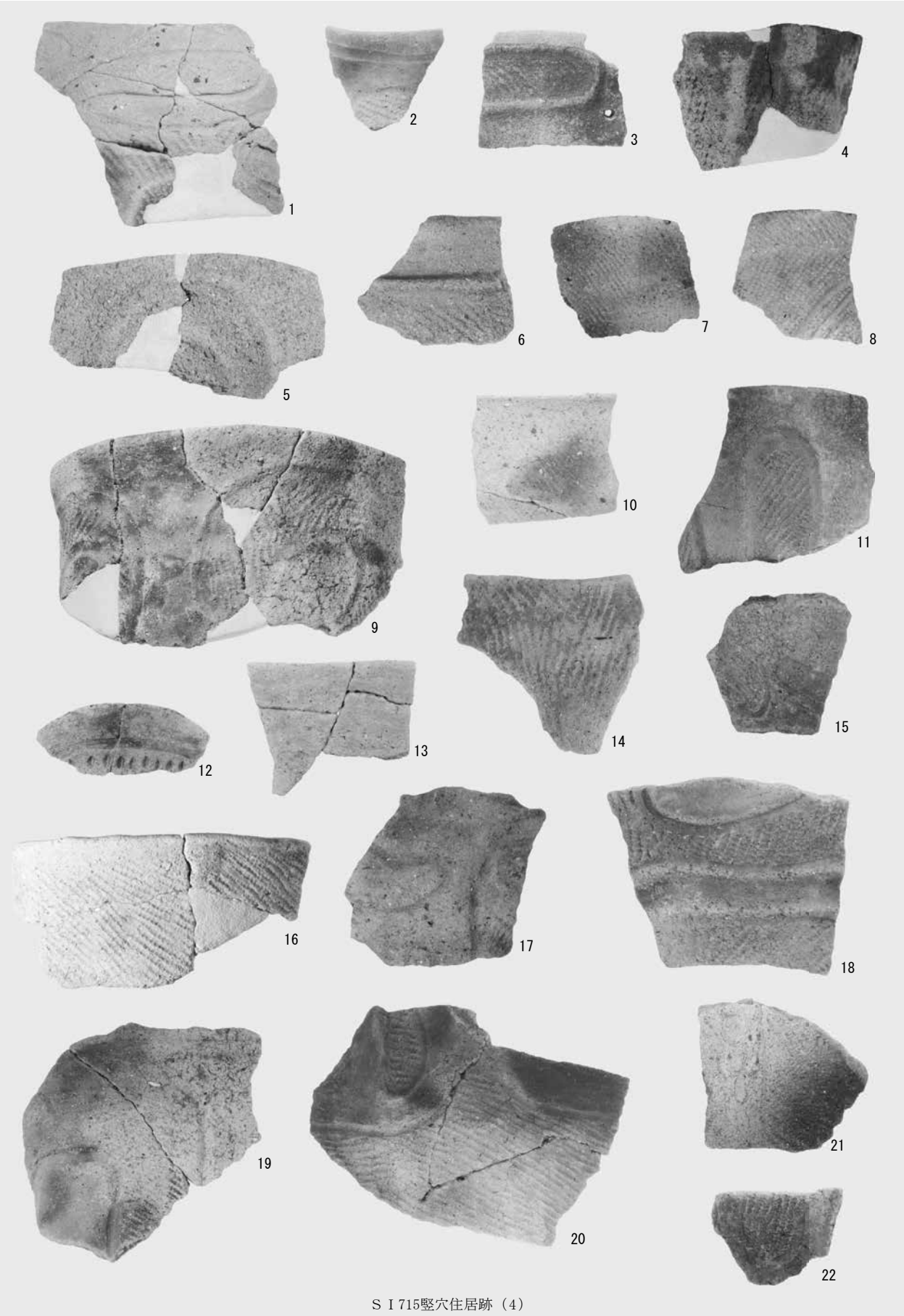
ＳＩ715竪穴住居跡（2）

写真図版159 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（33）



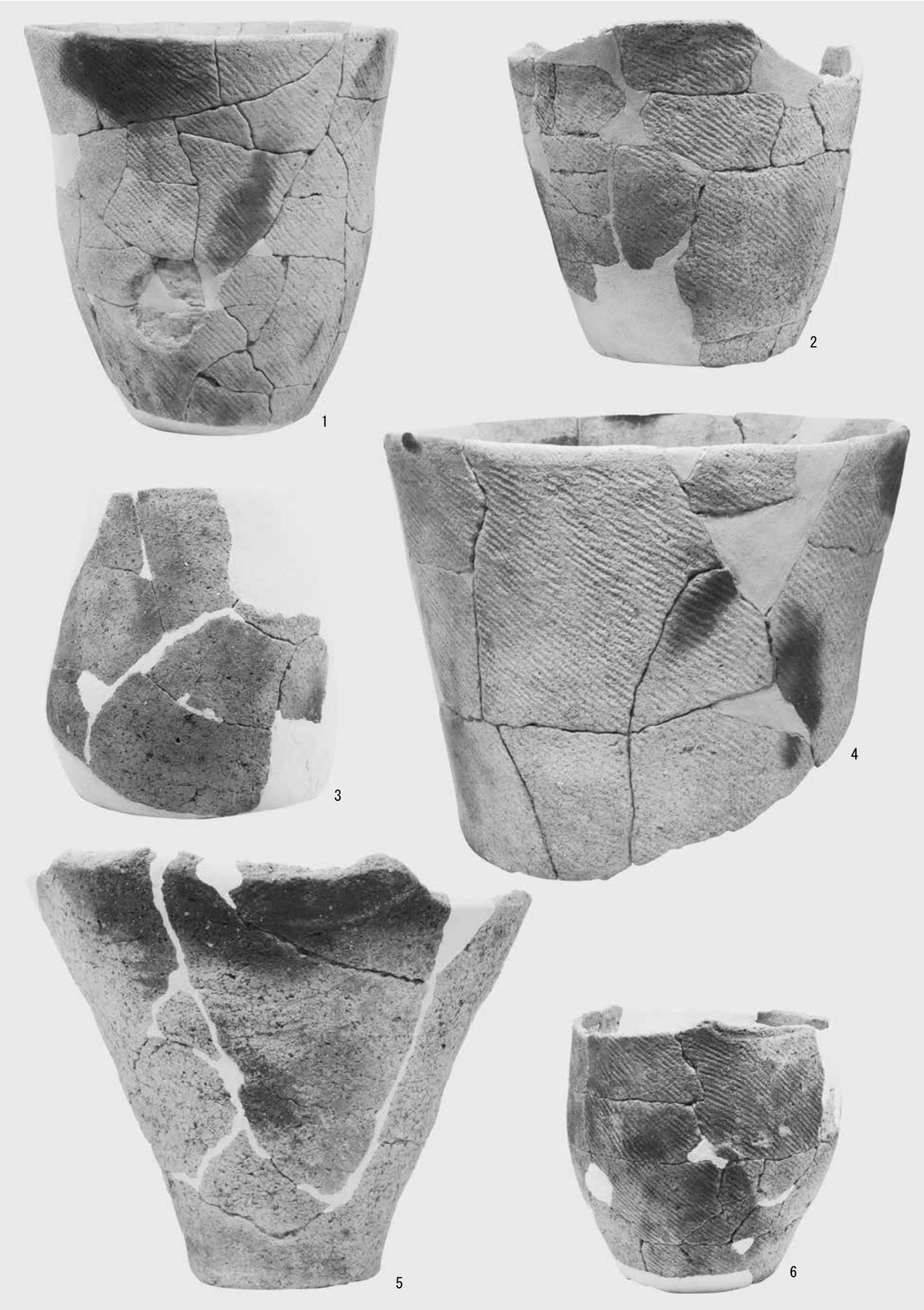
ＳＩ715竪穴住居跡（3）

写真図版160 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（34）



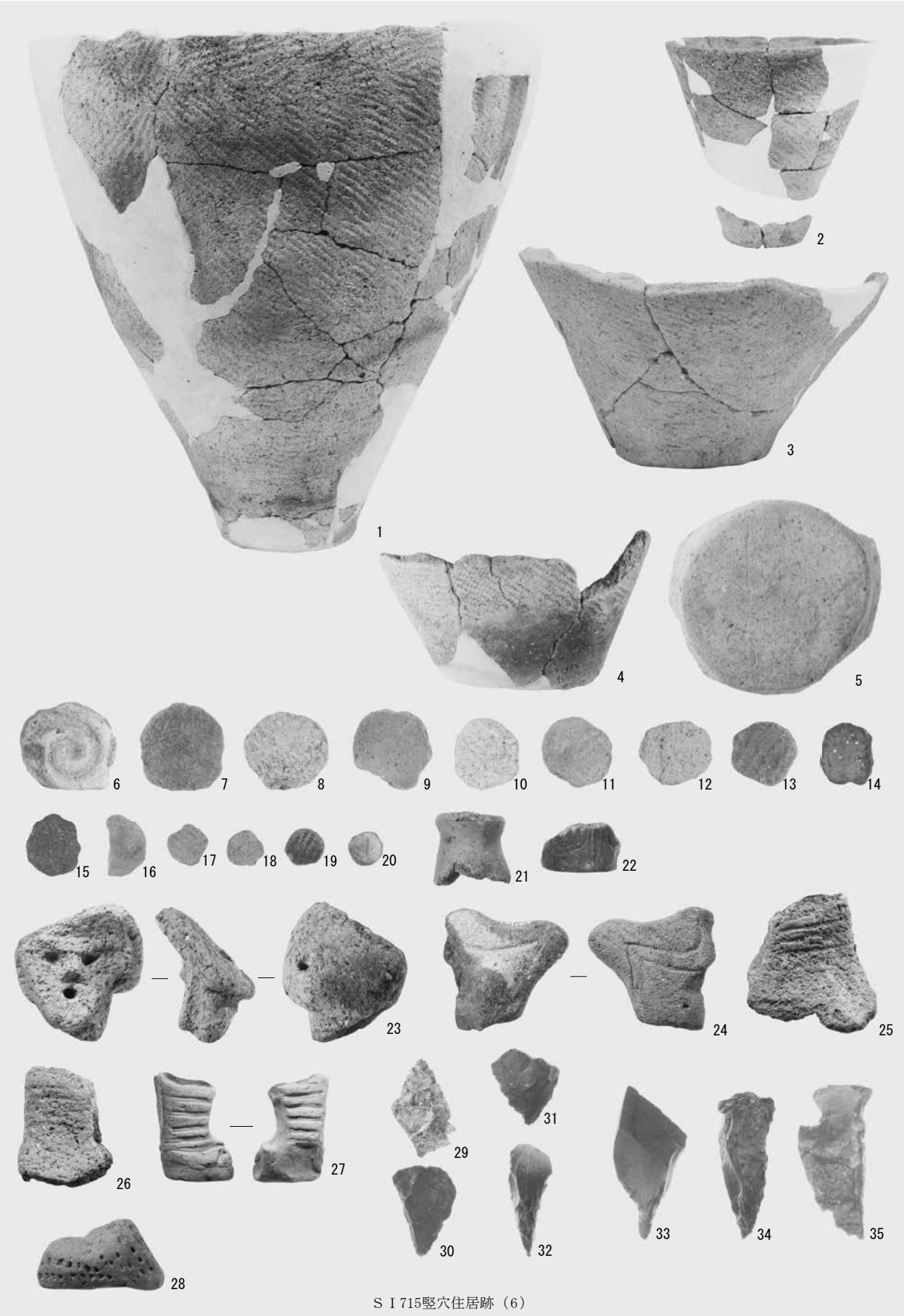
ＳＩ715竪穴住居跡（4）

写真図版161 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（35）

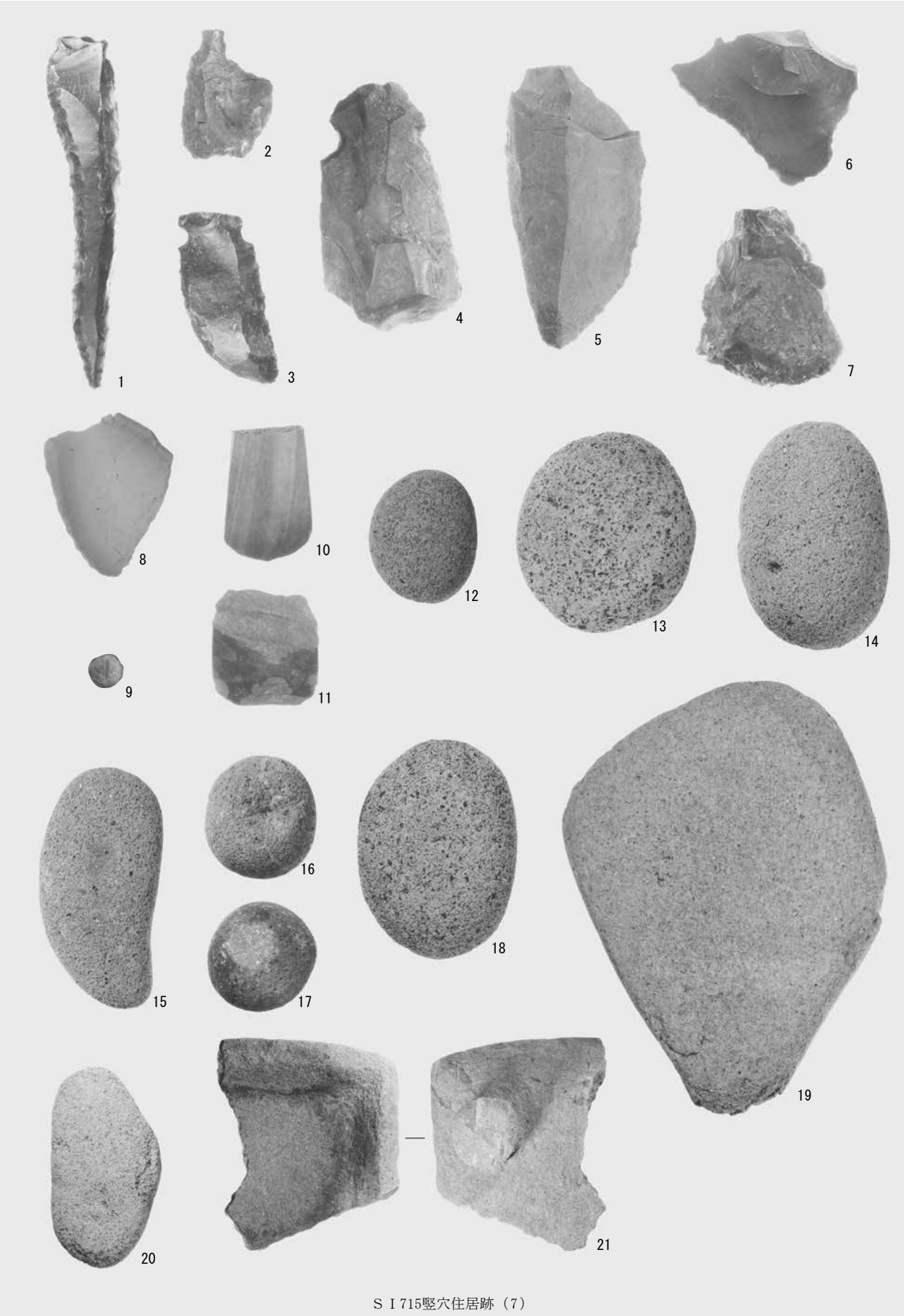


ＳＩ715竪穴住居跡（5）

写真図版162 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（36）

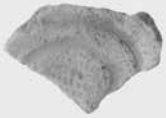


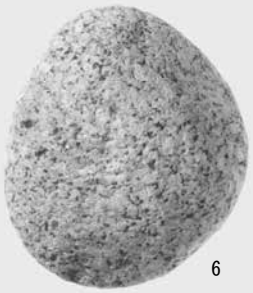
写真図版163 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（37）

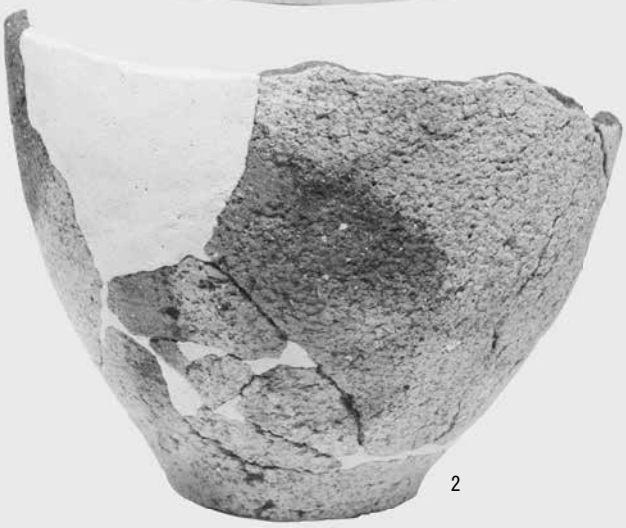


ＳＩ715竪穴住居跡（7）

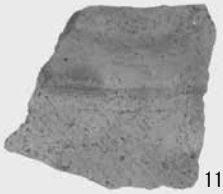
写真図版164 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（38）

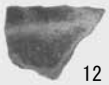






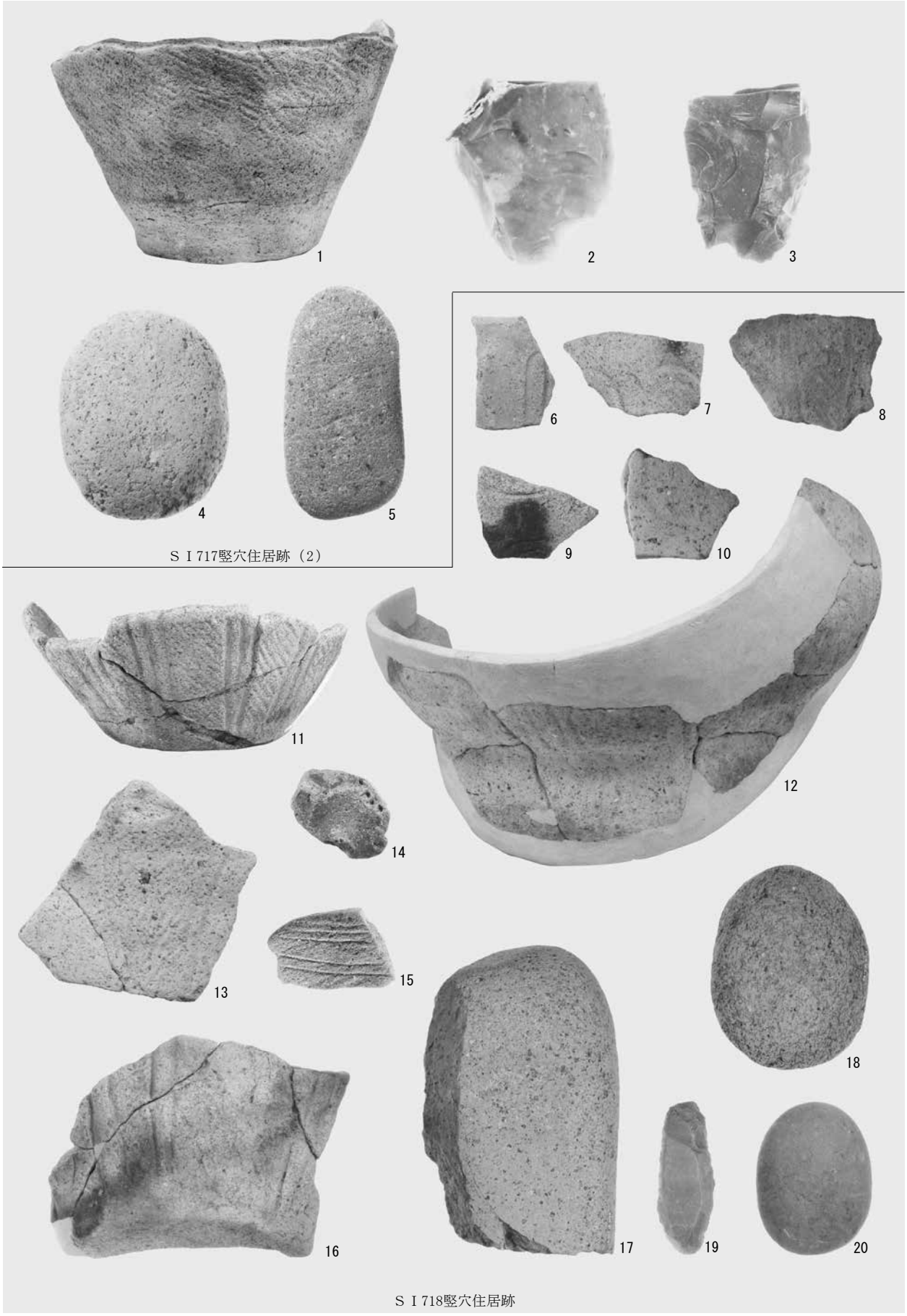
ＳＩ716竪穴住居跡



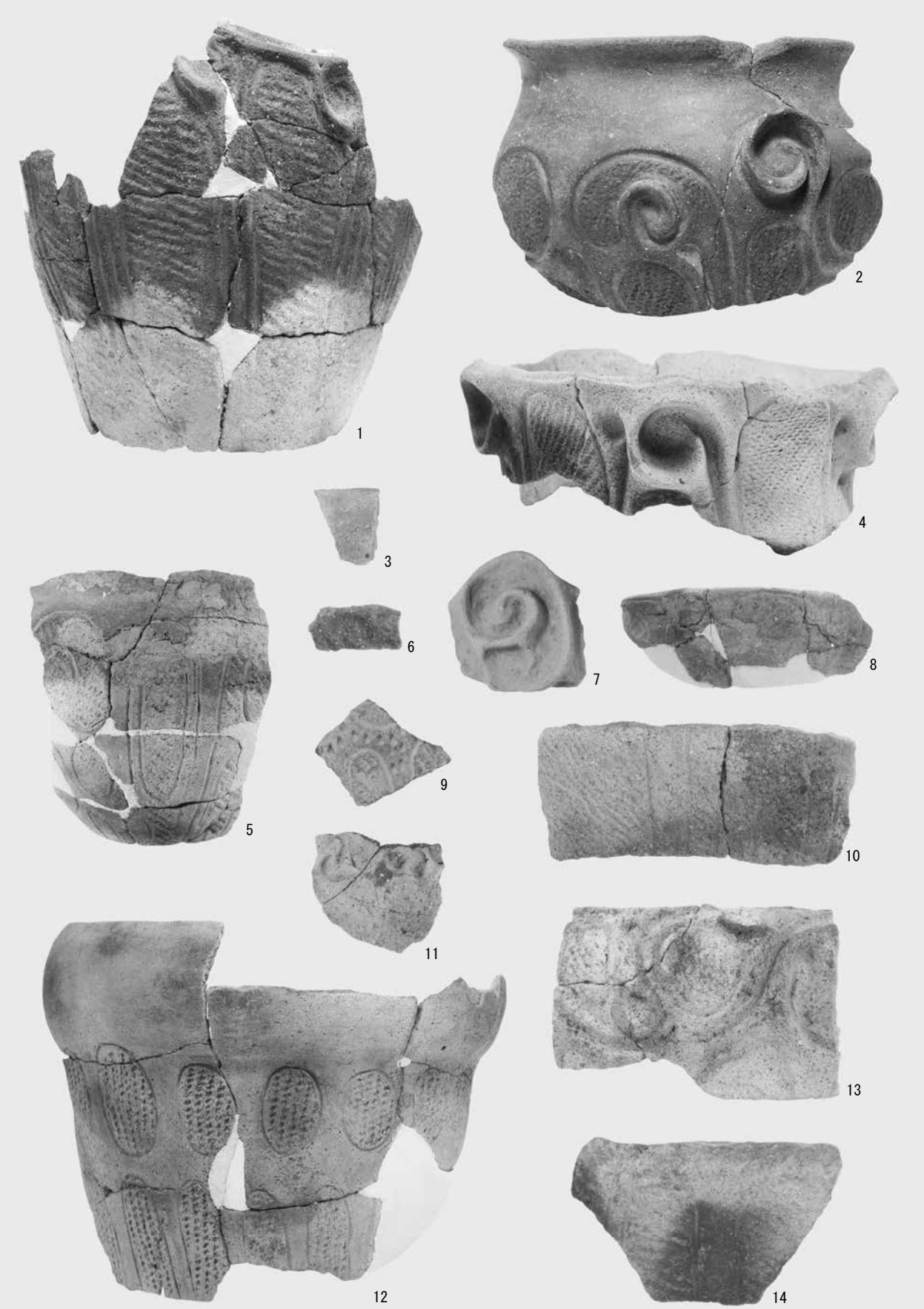


ＳＩ717竪穴住居跡（1）

写真図版165 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（39）

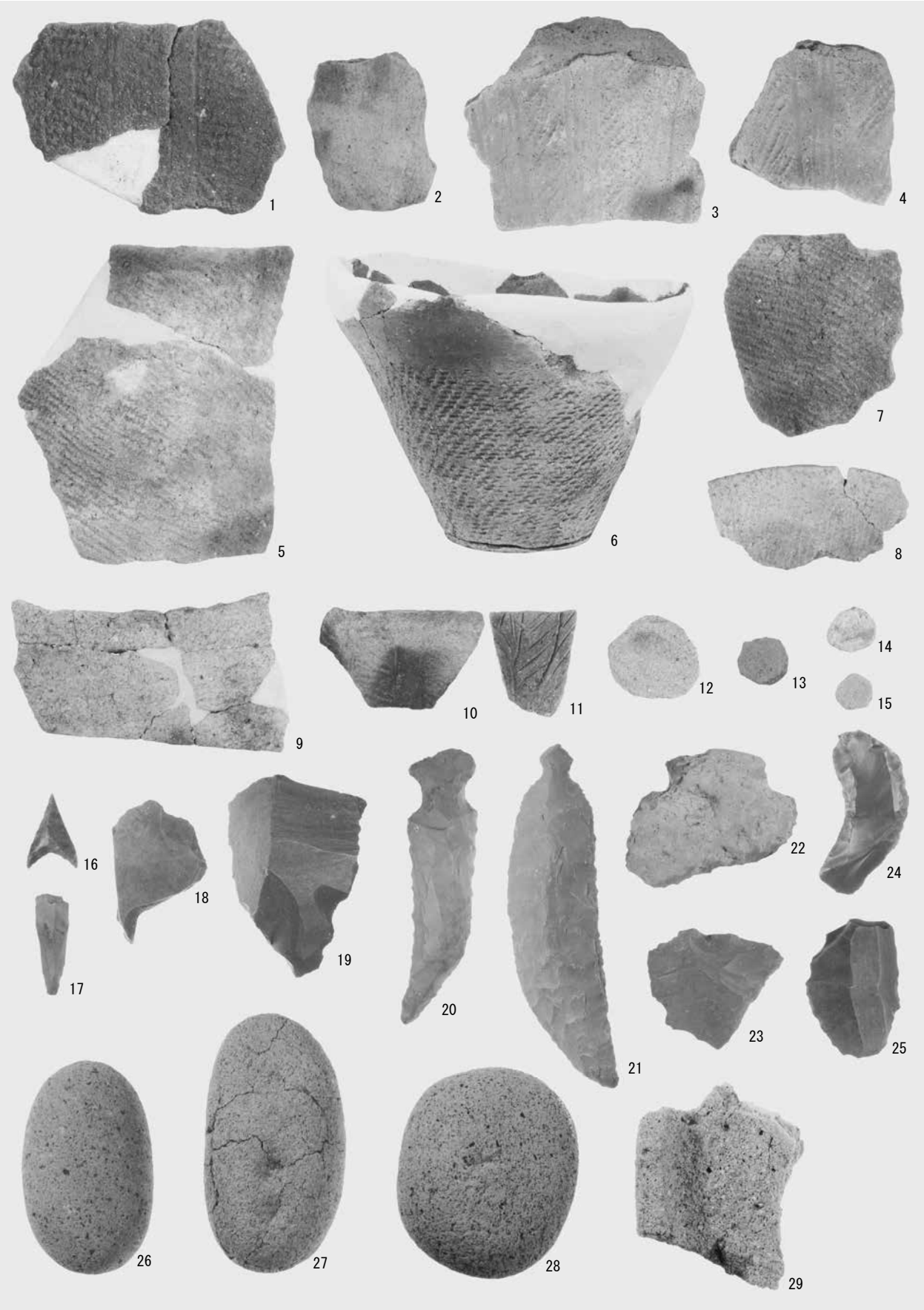


写真図版166 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（40）



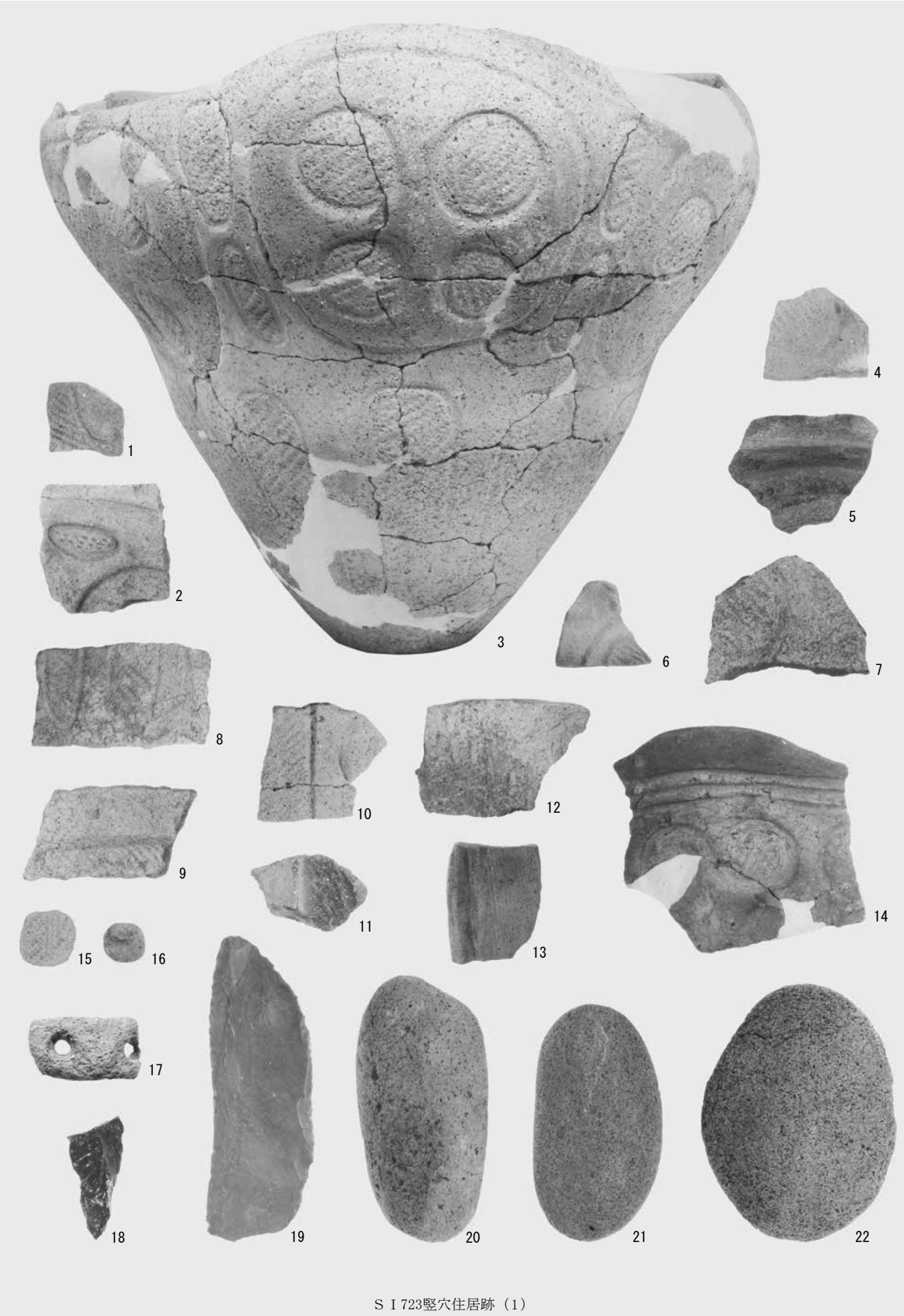
ＳＩ719竪穴住居跡（1）

写真図版167 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（41）



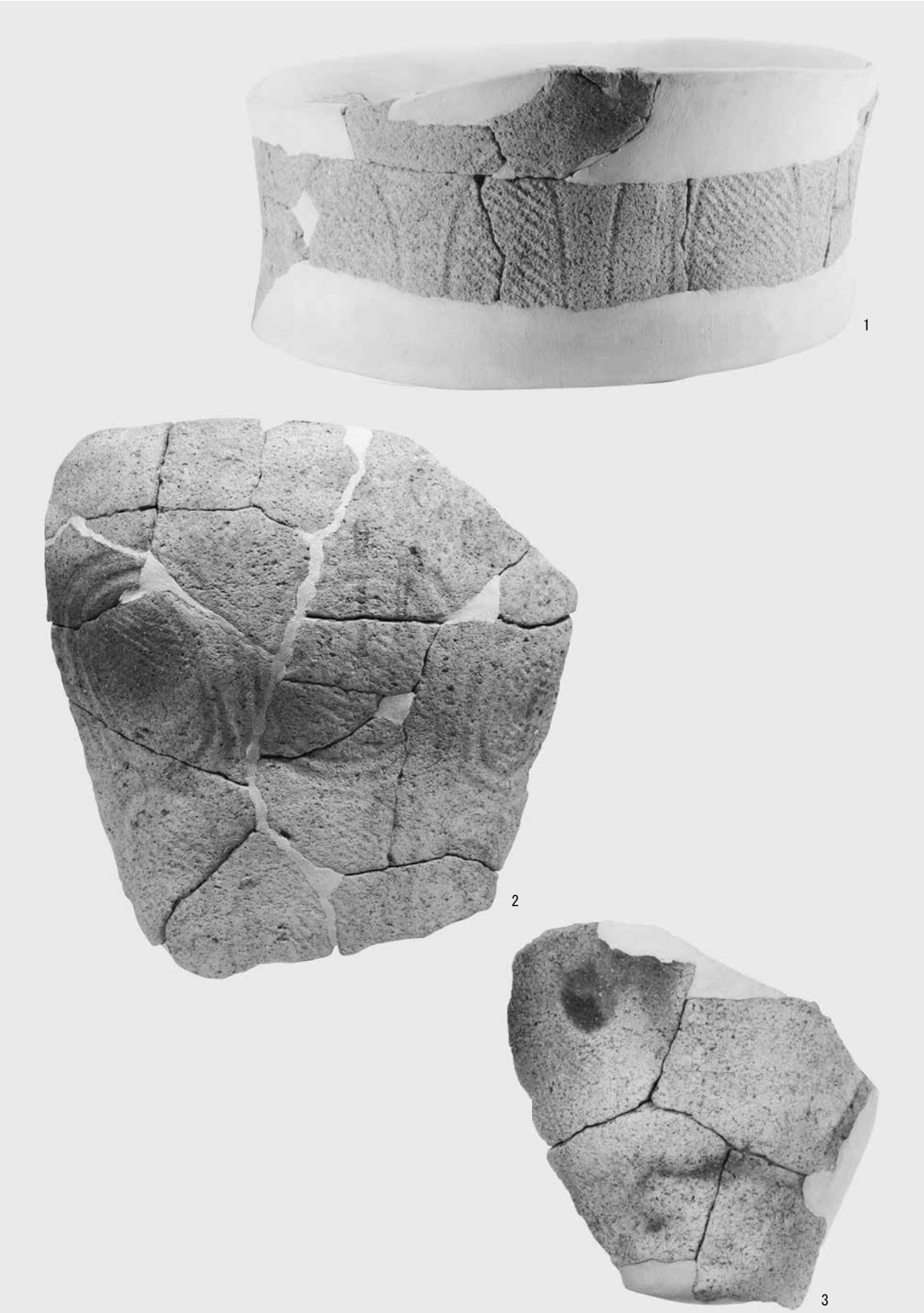
ＳＩ719竪穴住居跡（2）

写真図版168 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（42）



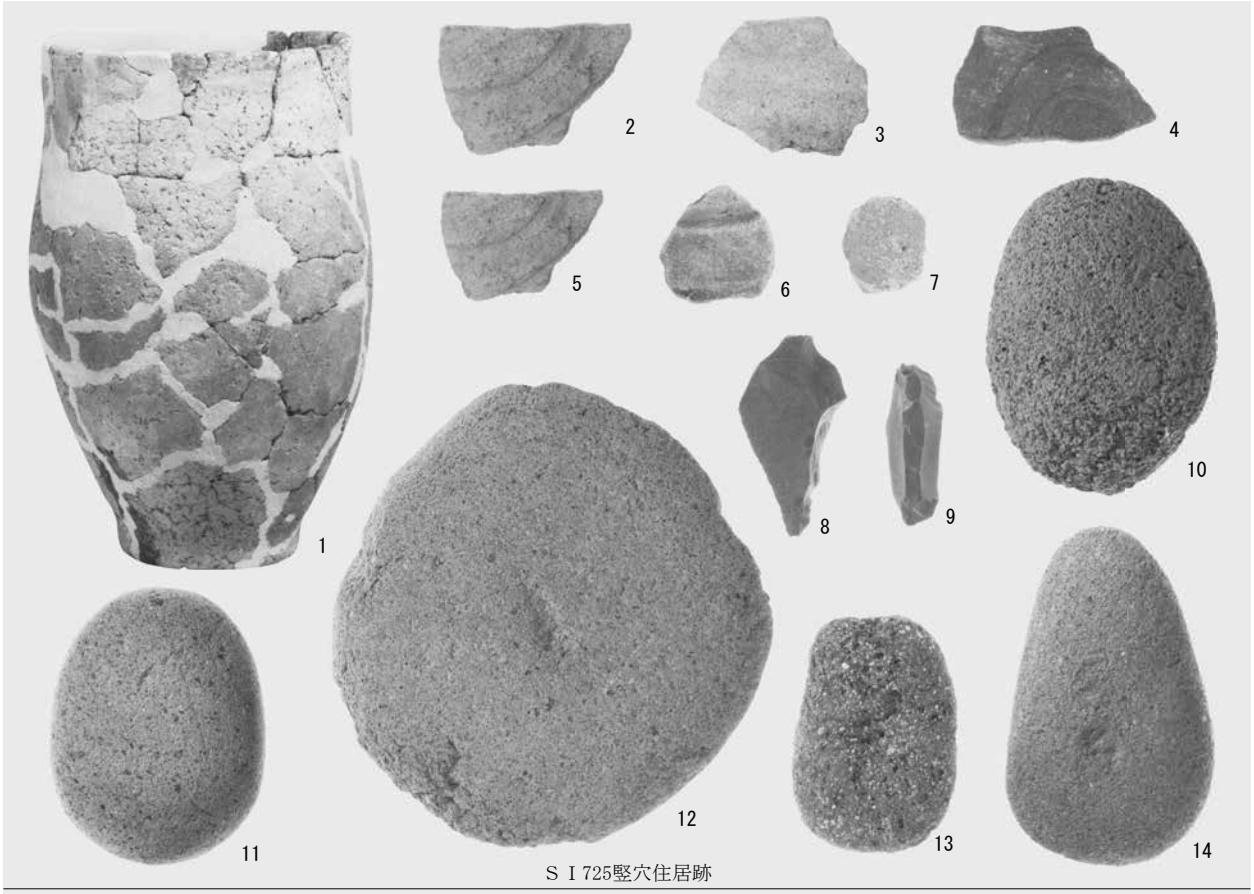
ＳＩ723竪穴住居跡（1）

写真図版169 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（43）

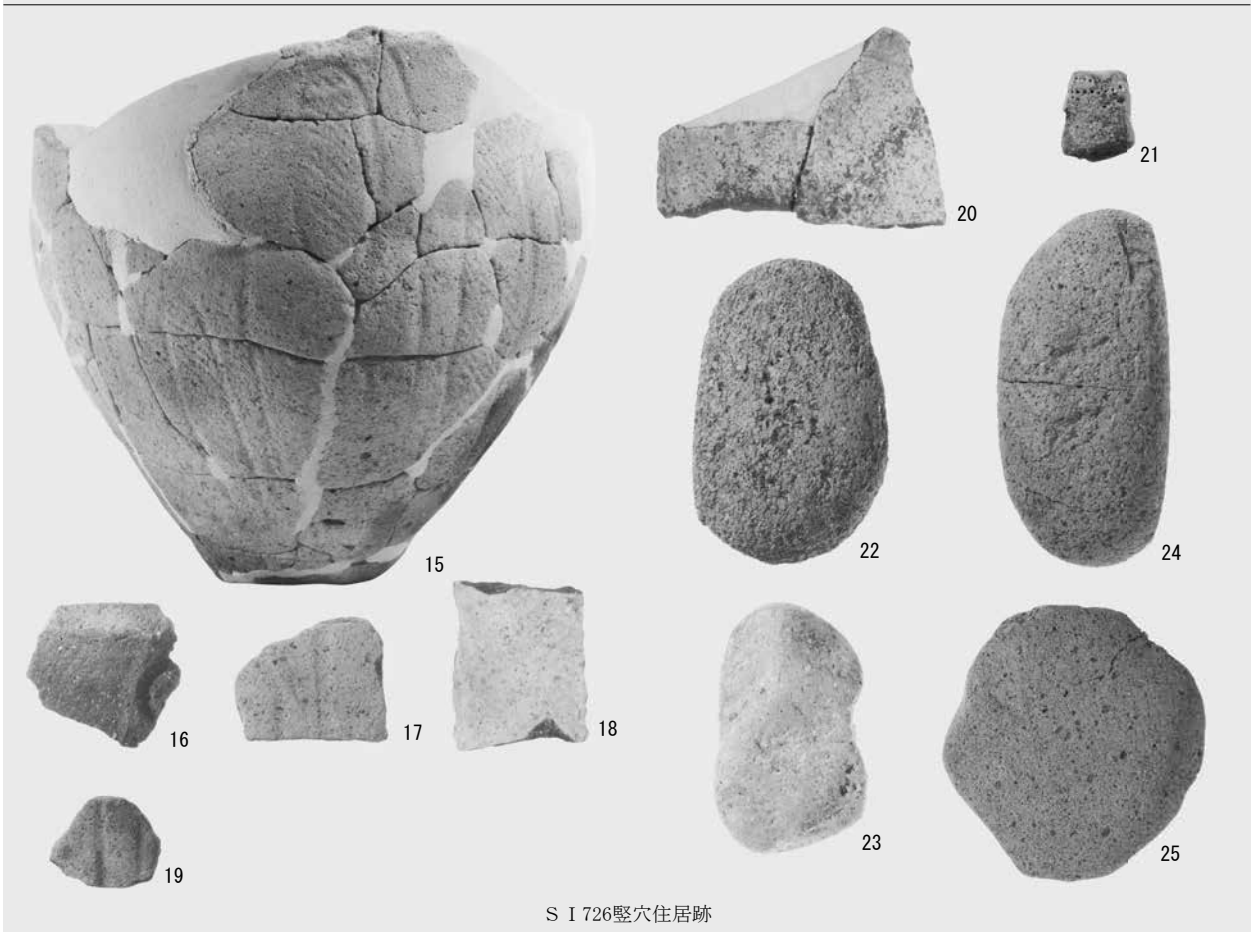


ＳＩ723竪穴住居跡（2）

写真図版170 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（44）

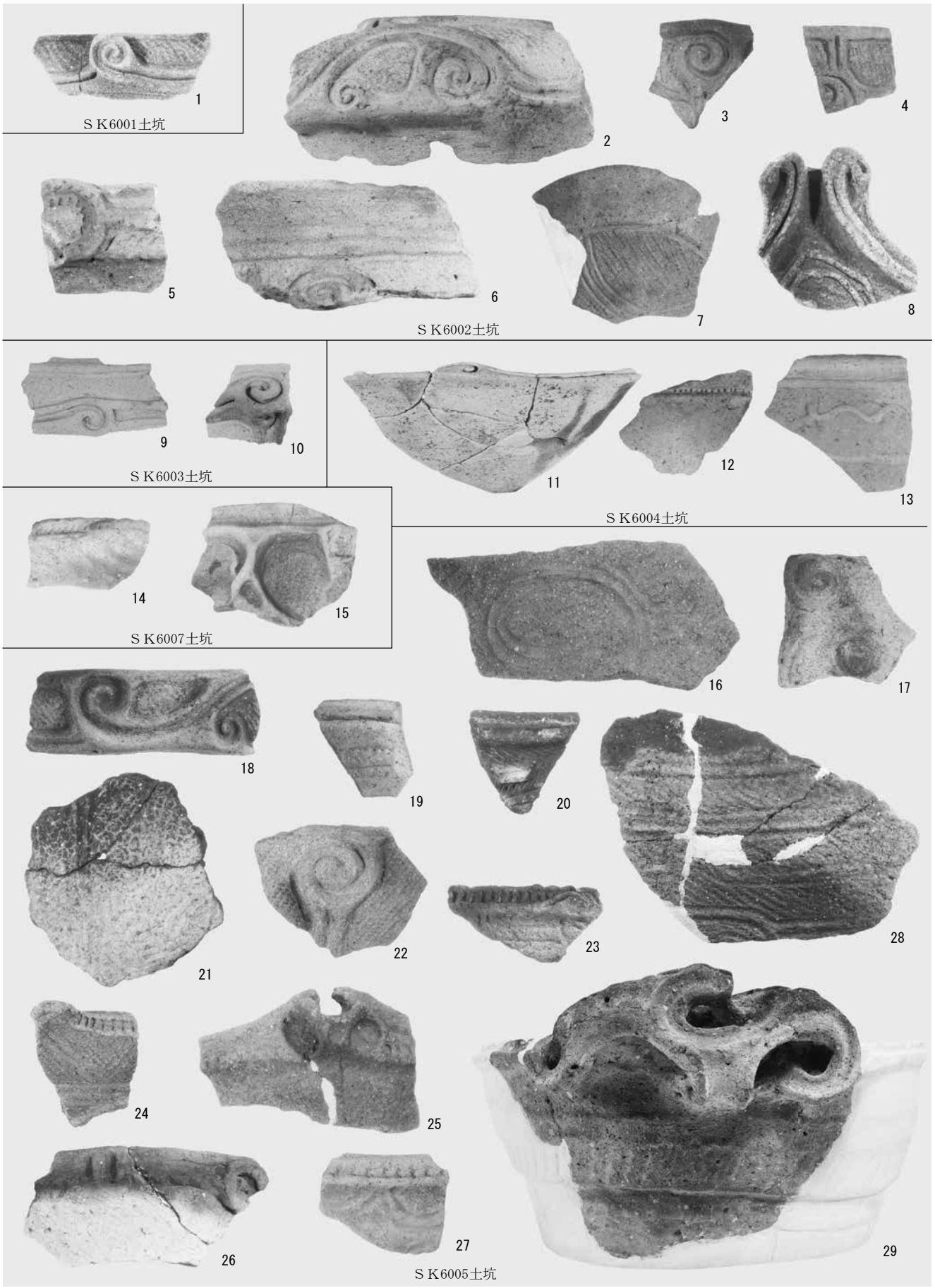


ＳＩ725竪穴住居跡

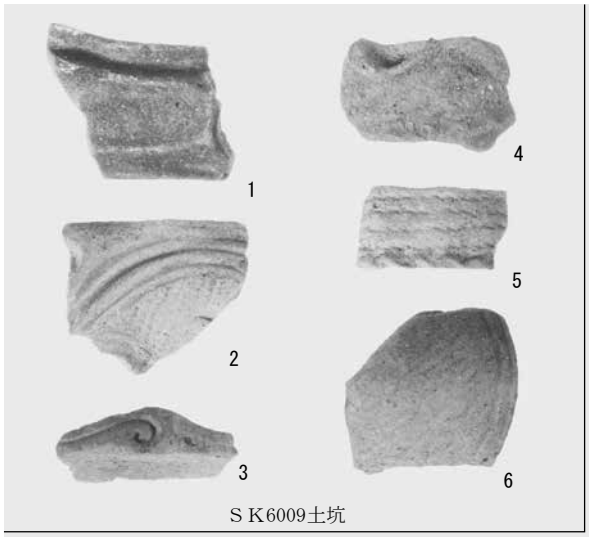


ＳＩ726竪穴住居跡

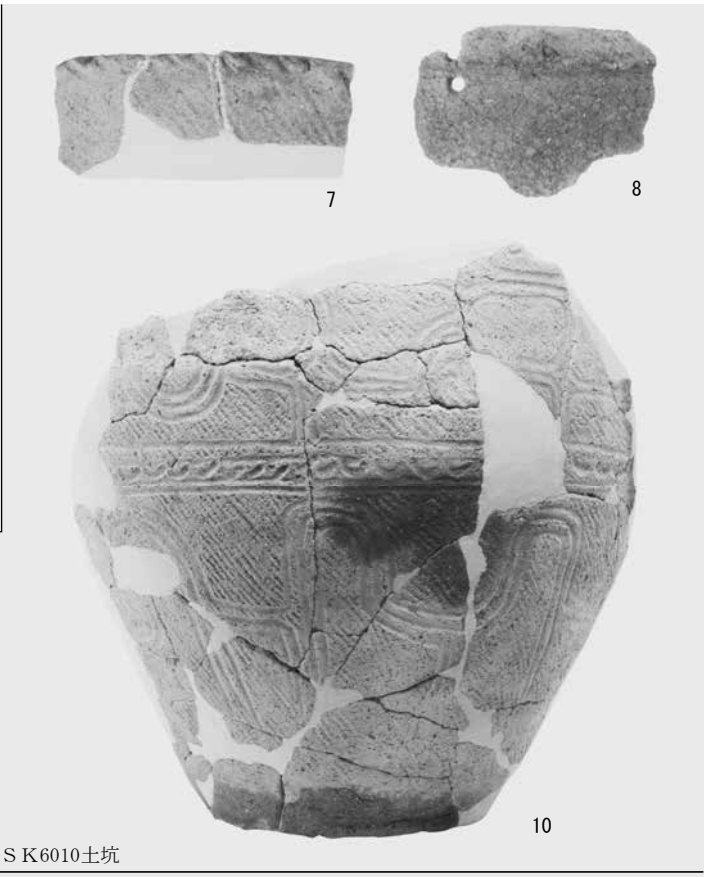
写真図版171 縄文時代竪穴住居跡出土遺物（45）



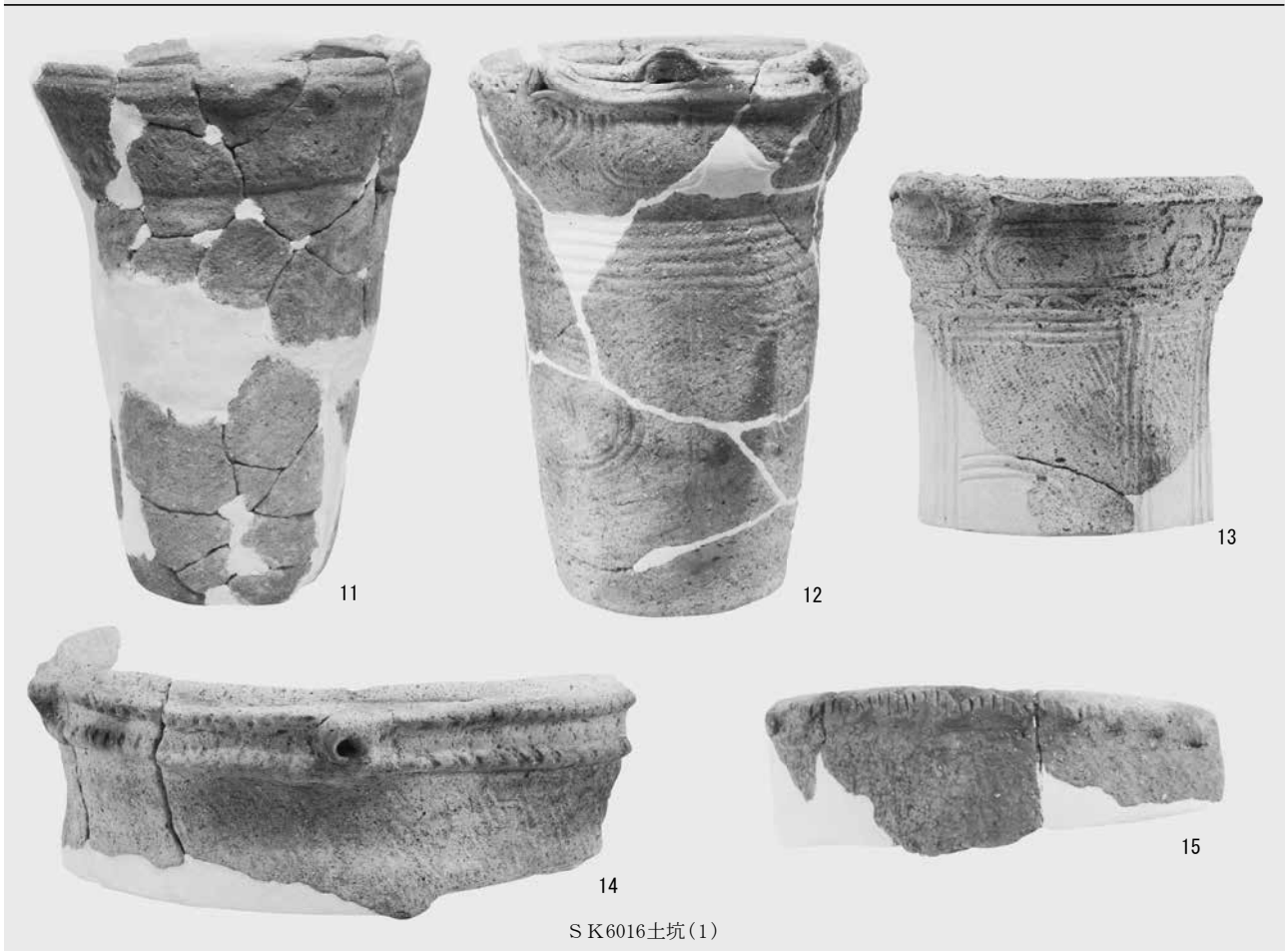
写真図版172 縄文時代土坑出土遺物（１）



ＳＫ6009土坑

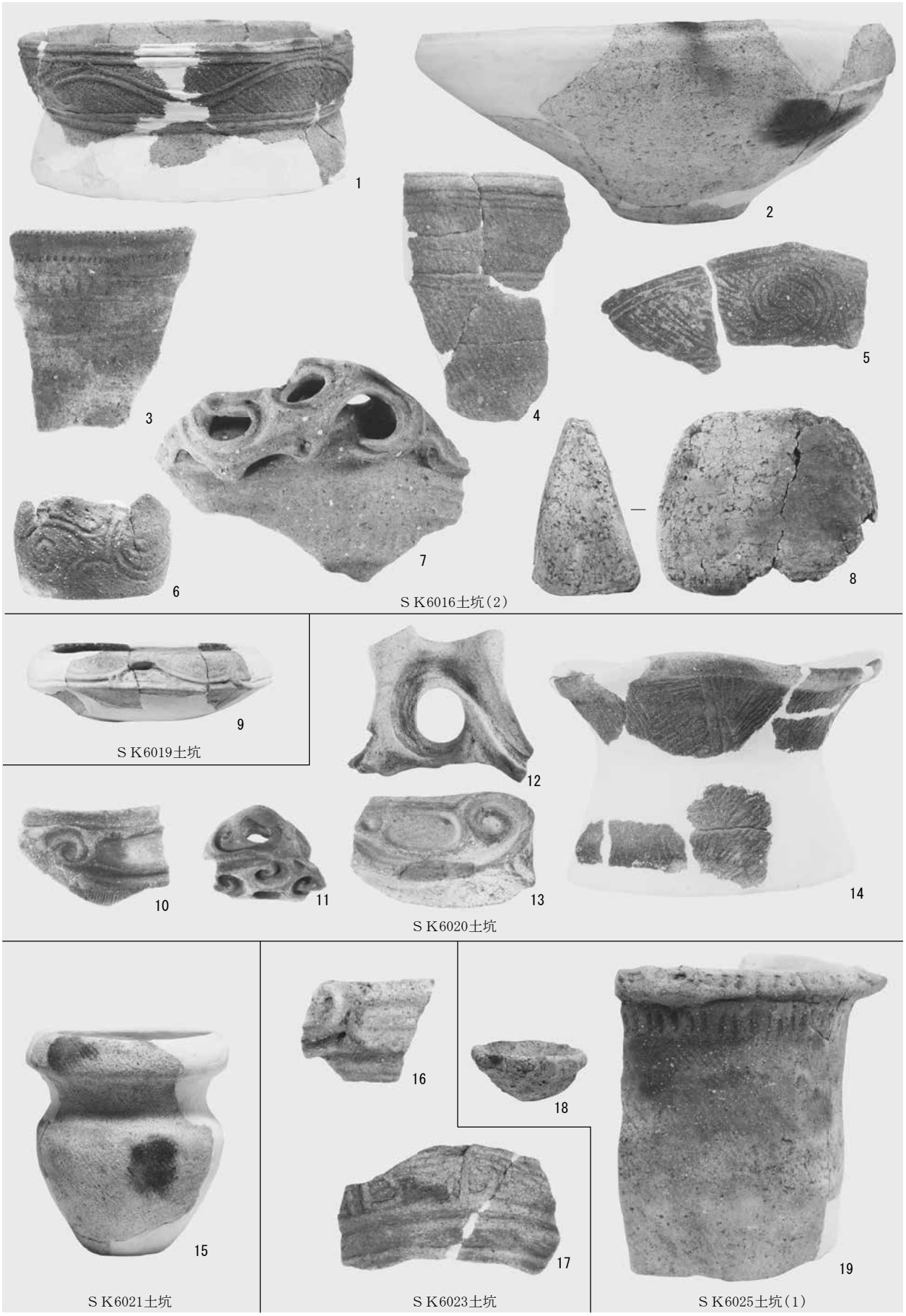


ＳＫ6010土坑

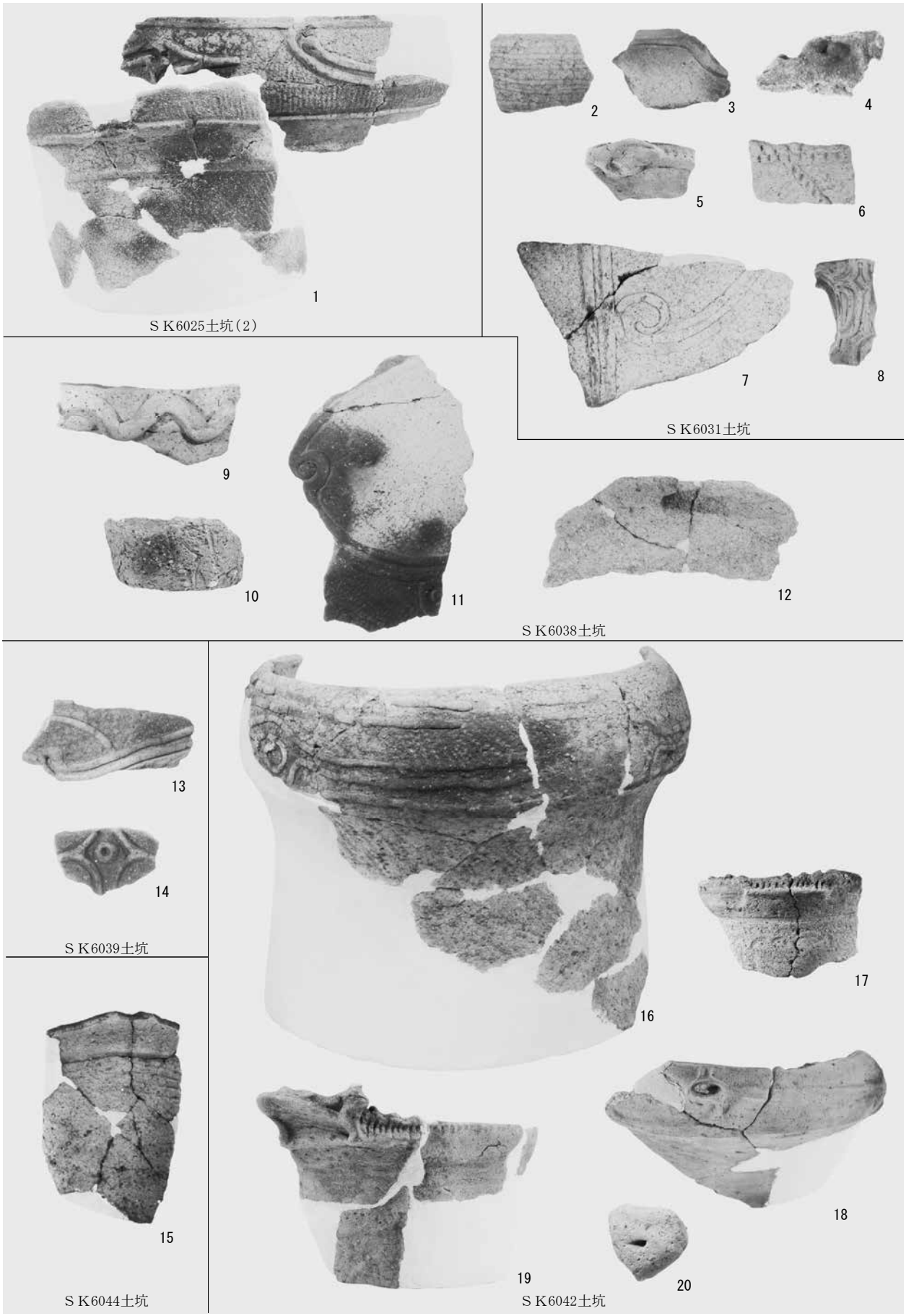


ＳＫ6016土坑(1)

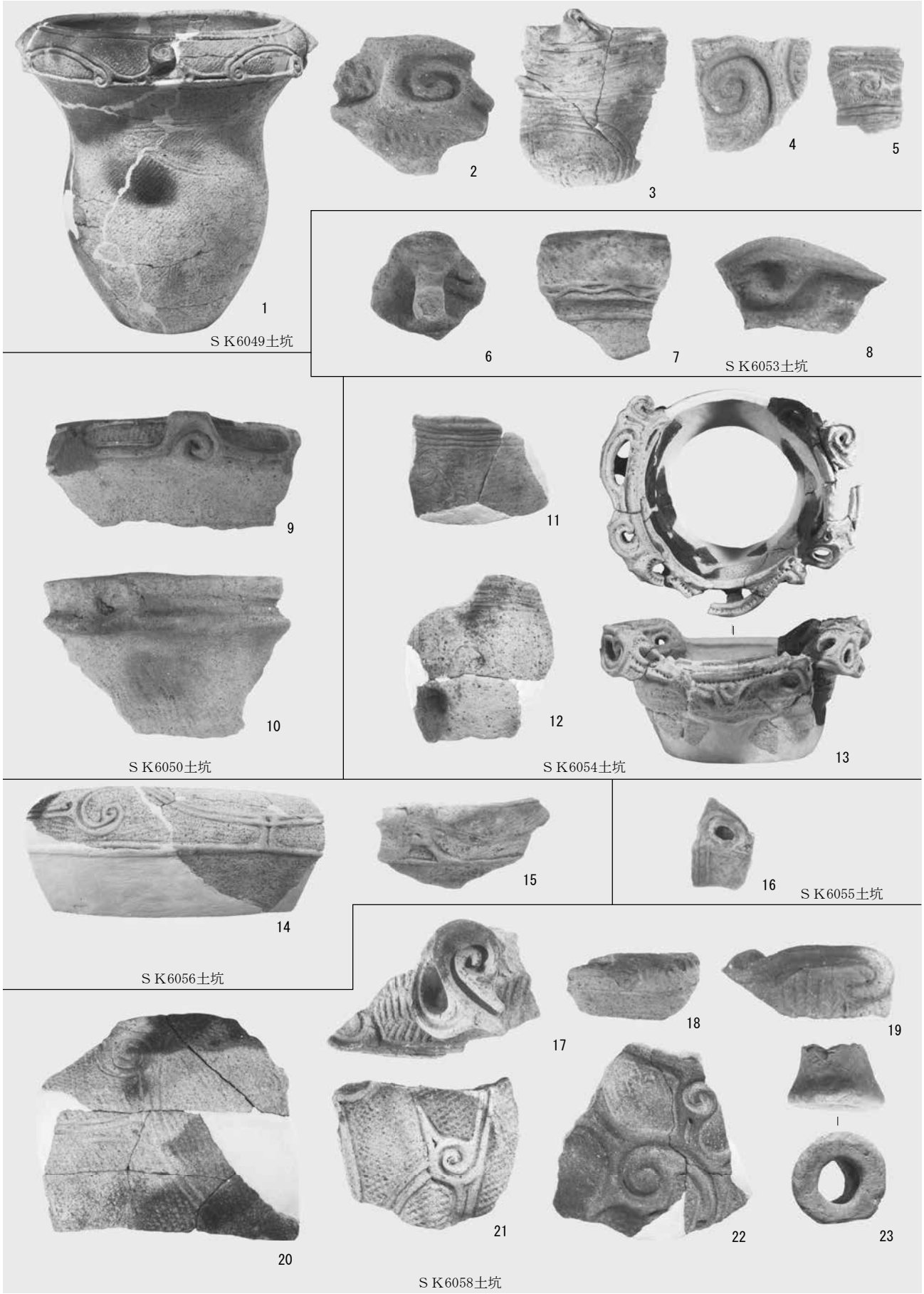
写真図版173 縄文時代土坑出土遺物（2）



写真図版174 縄文時代土坑出土遺物（3）



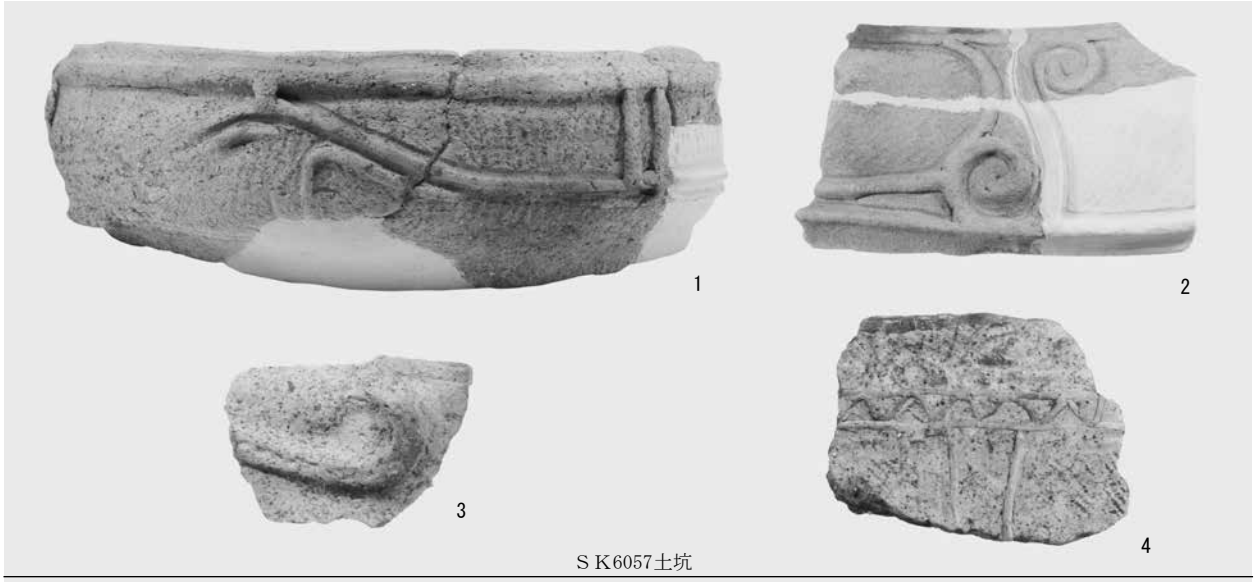
写真図版175 縄文時代土坑出土遺物（4）



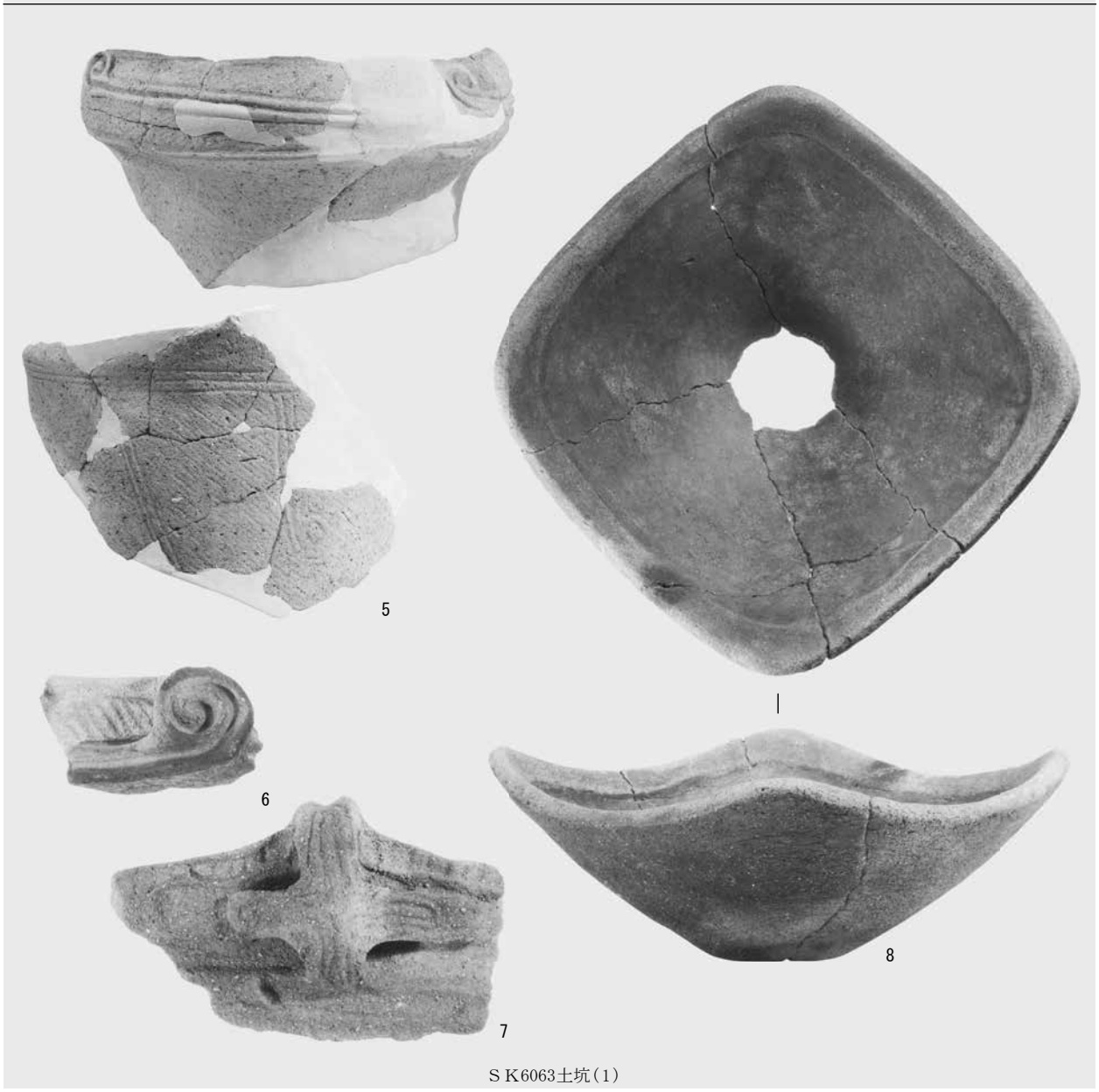
写真図版176 縄文時代土坑出土遺物（5）

ＳＫ6059土坑

写真図版177 縄文時代土坑出土遺物（6）

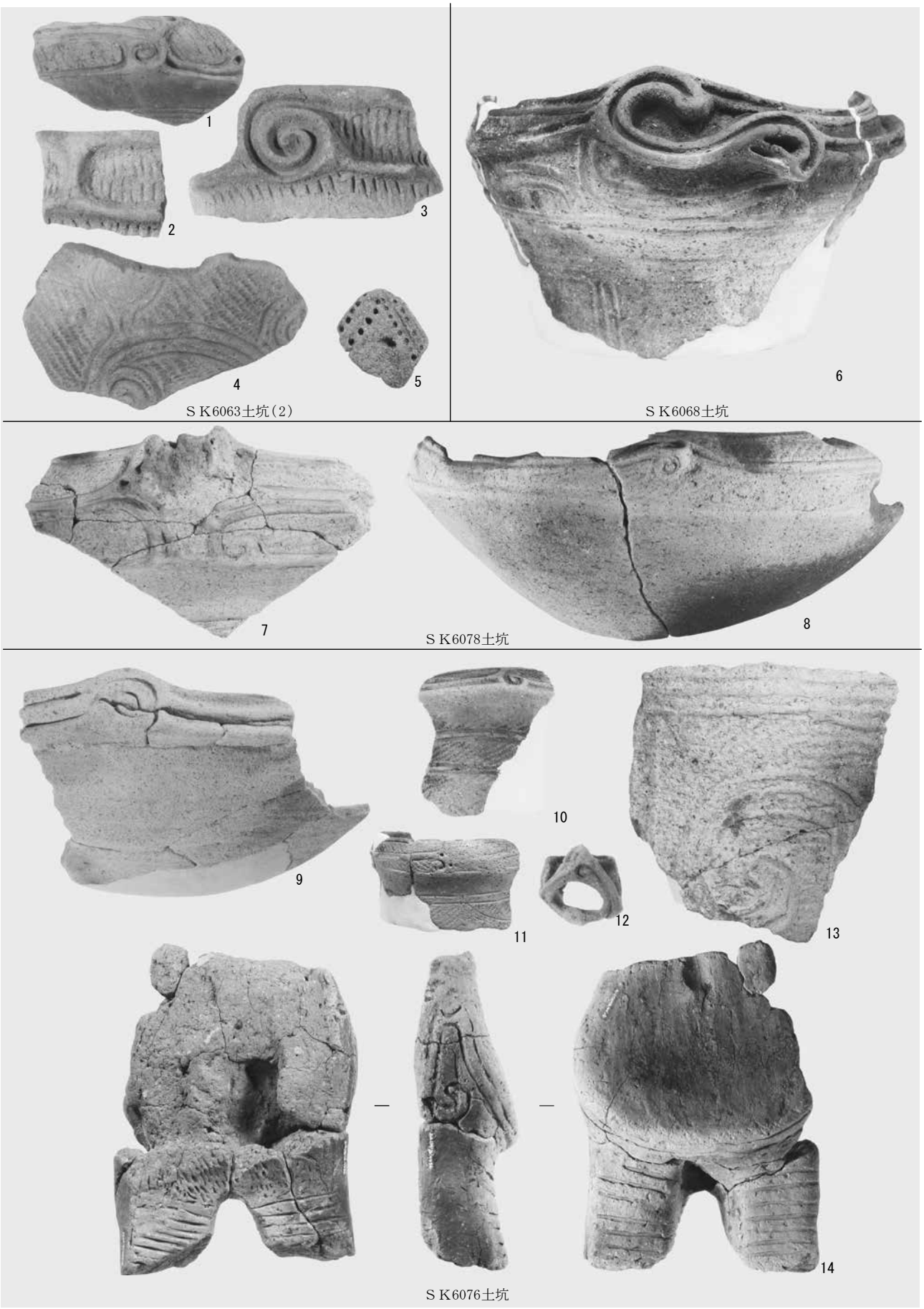


ＳＫ6057土坑



ＳＫ6063土坑（1）

写真図版178 縄文時代土坑出土遺物（7）



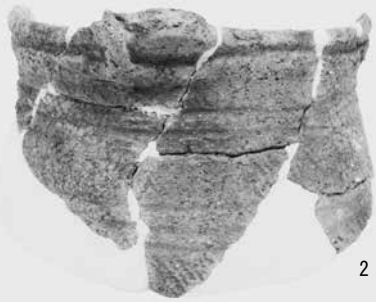
ＳＫ6063土坑（2）　ＳＫ6068土坑

ＳＫ6078土坑

ＳＫ6076土坑

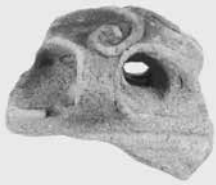
写真図版179 縄文時代土坑出土遺物（8）

ＳＫ6083土坑



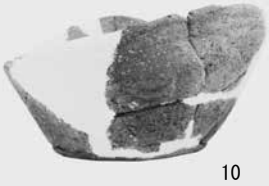
ＳＫ6086土坑

ＳＫ6094土坑



ＳＫ6097土坑

ＳＫ6105土坑



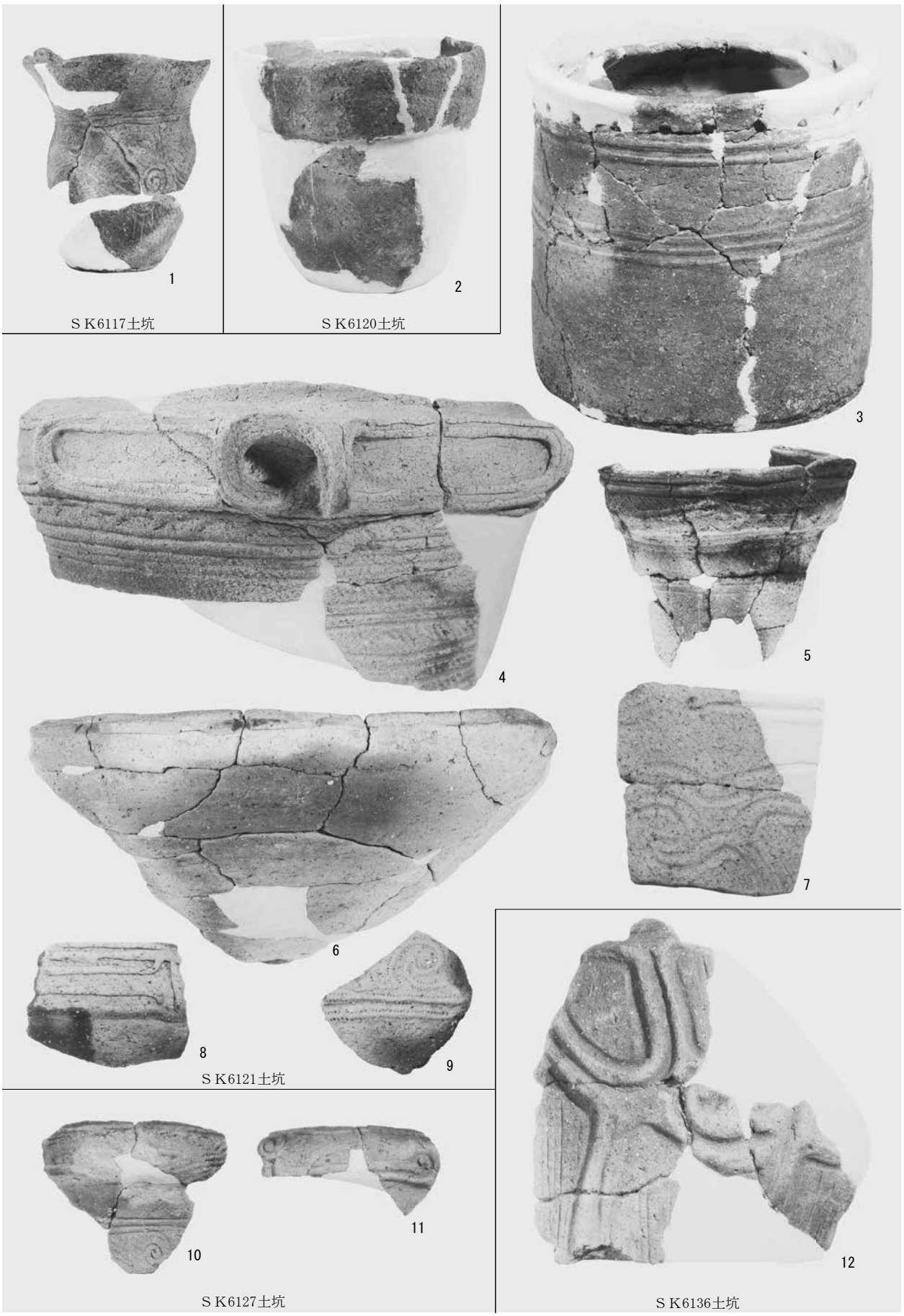
ＳＫ6111土坑

ＳＫ6100土坑

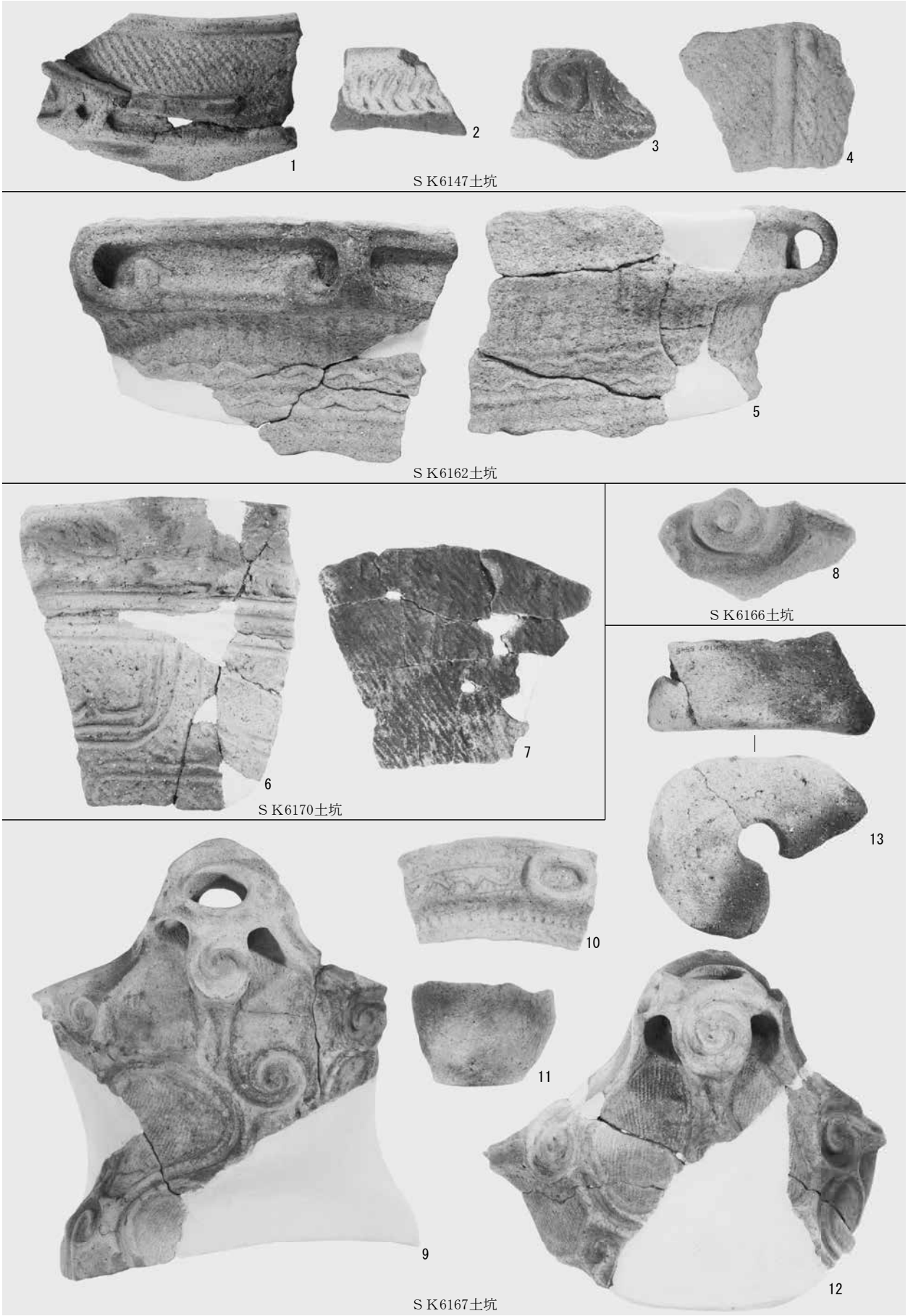
ＳＫ6110土坑

ＳＫ6113土坑

写真図版180 縄文時代土坑出土遺物（9）



写真図版181 縄文時代土坑出土遺物（10）



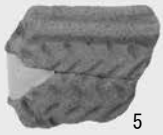
写真図版182 縄文時代土坑出土遺物（11）

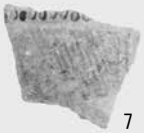
S K6180土坑

S K6182土坑

S K6183土坑

S K6181土坑





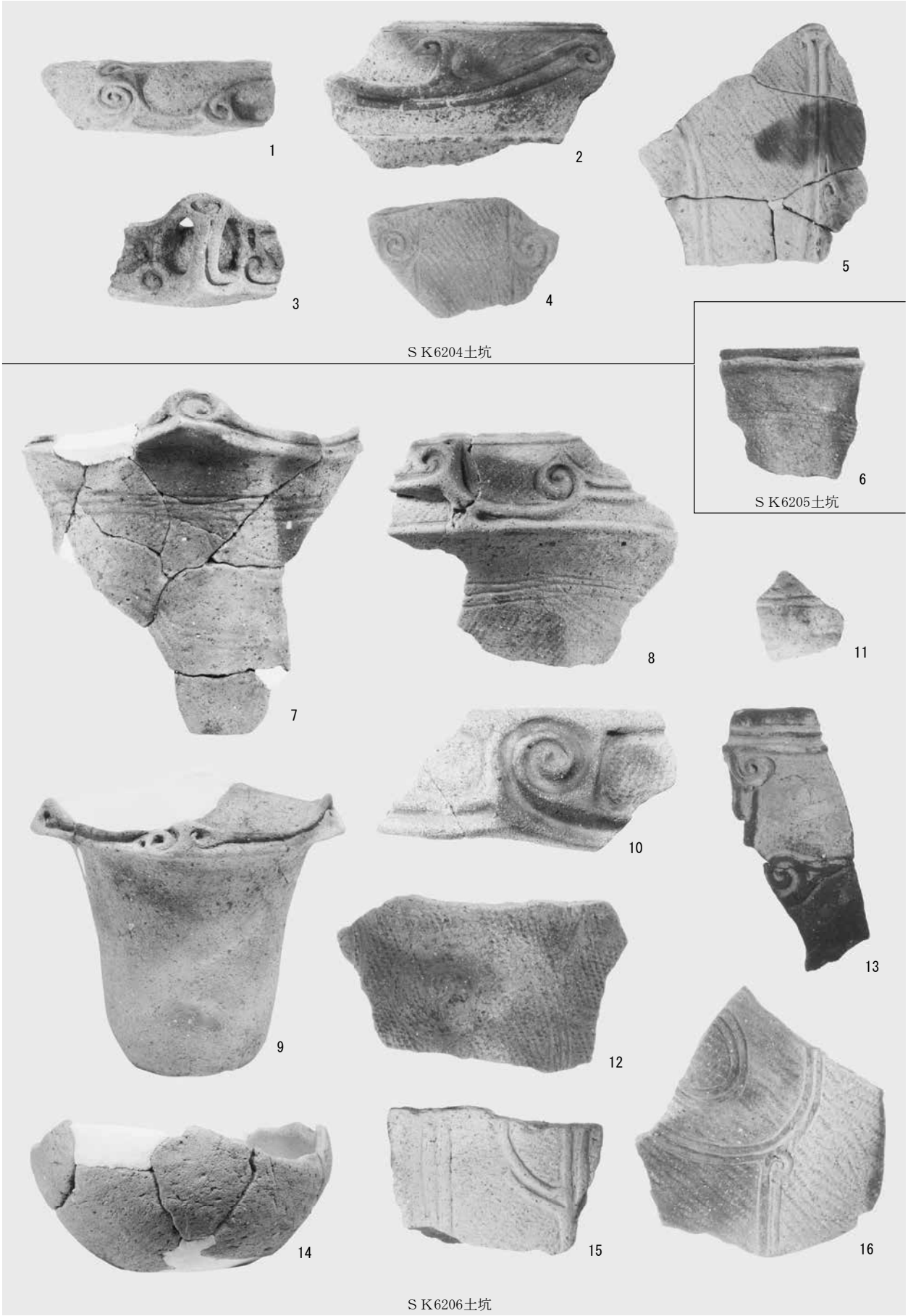
S K6184土坑

S K6196土坑

S K6186土坑

S K6187土坑

写真図版183 縄文時代土坑出土遺物（12）



写真図版184 縄文時代土坑出土遺物（13）

ＳＫ6211土坑

ＳＫ6212土坑

ＳＫ6217土坑

ＳＫ6214土坑

ＳＫ6220土坑

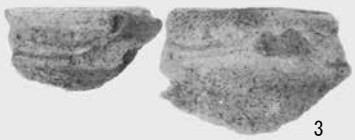
ＳＫ6215土坑

写真図版185 縄文時代土坑出土遺物（14）

S K6222土坑

S K6219土坑

S K6249土坑



S K6226土坑

S K6227土坑

S K6235土坑

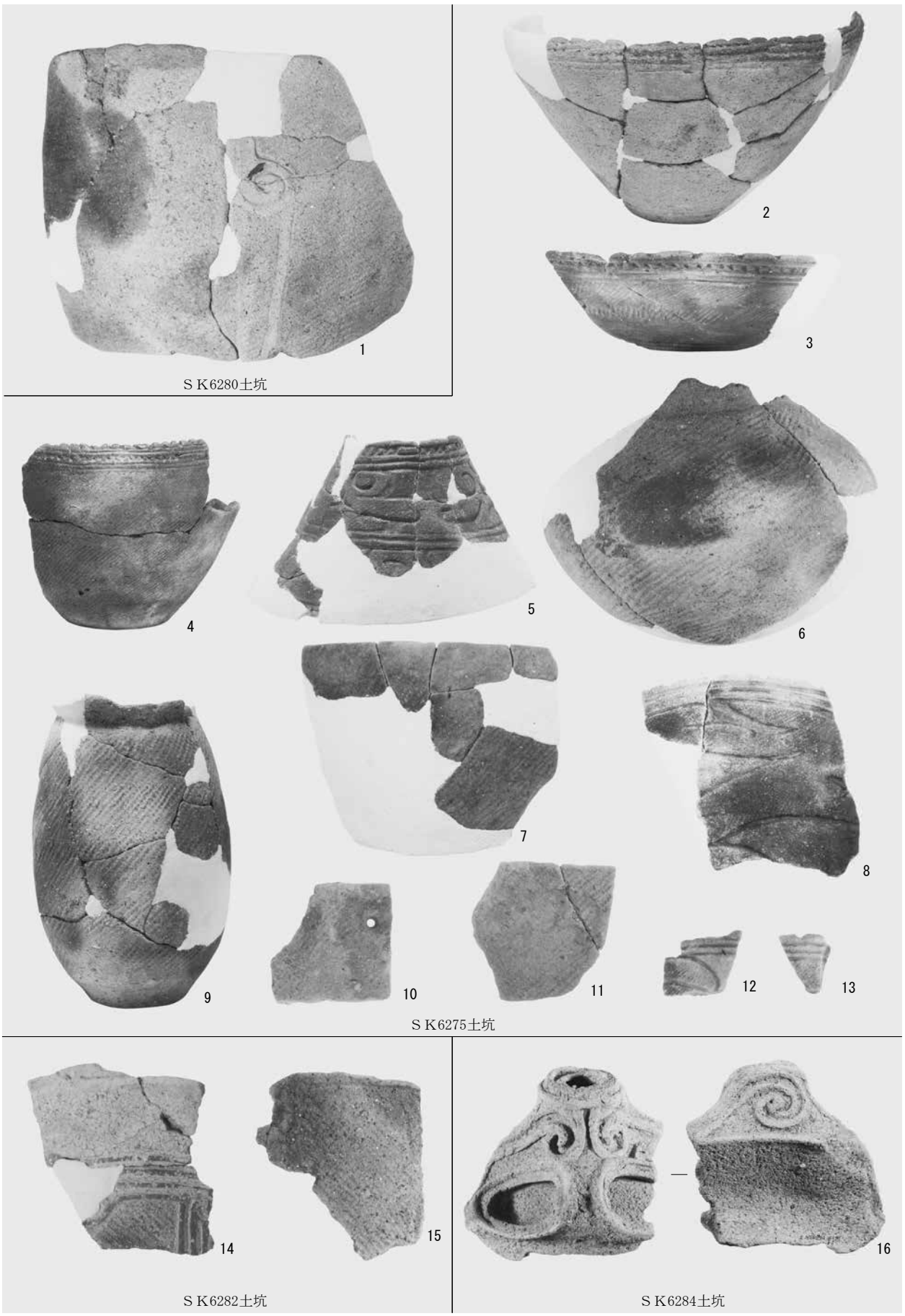
S K6230土坑

S K6240土坑

S K6276土坑

S K6257土坑

写真図版186 縄文時代土坑出土遺物（15）



写真図版187 縄文時代土坑出土遺物（16）

1

ＳＫ6292土坑

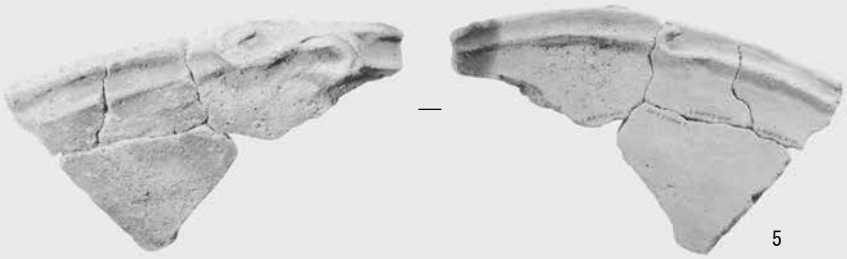
2

ＳＫ6297土坑

3

4

ＳＫ6285土坑



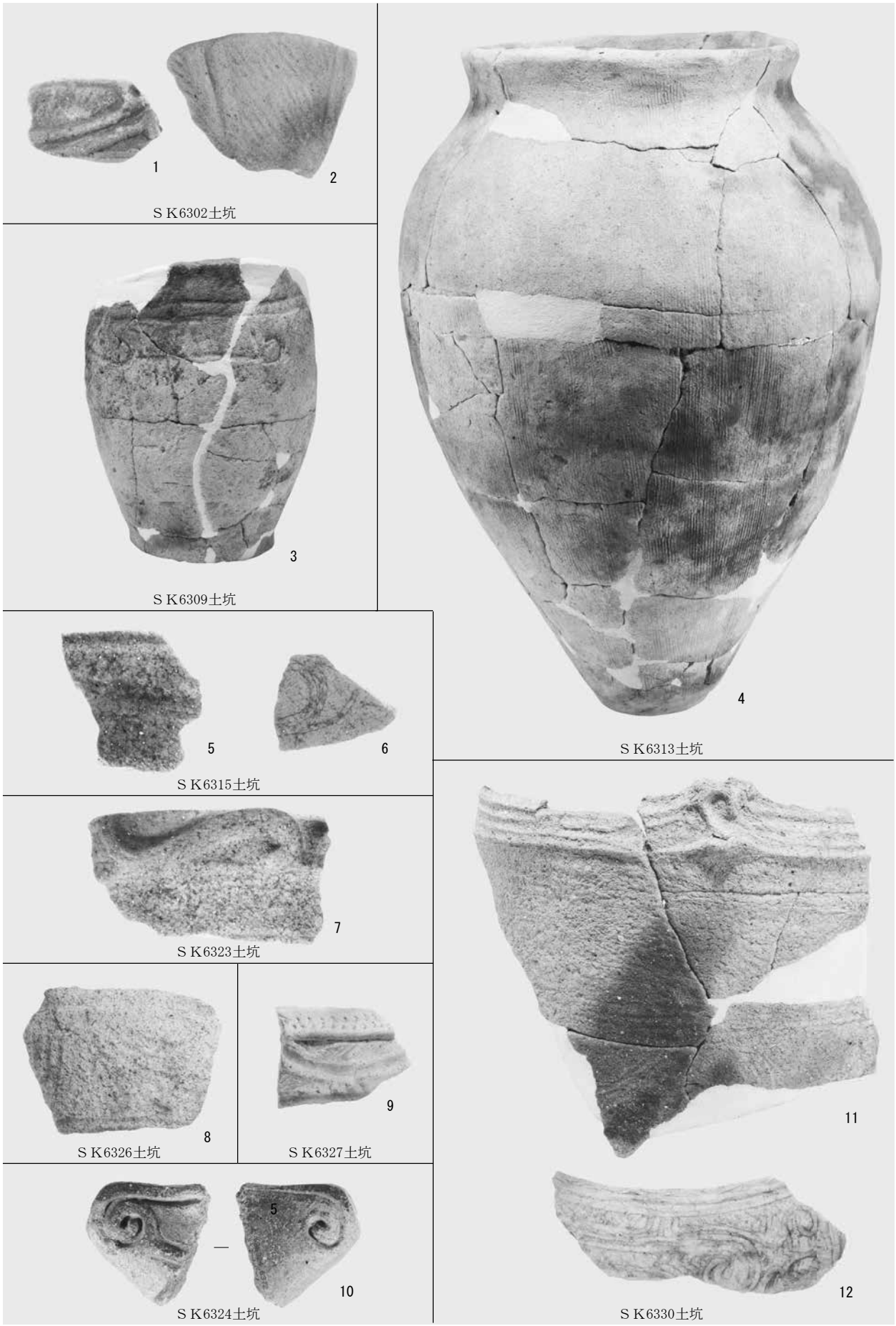
5

6

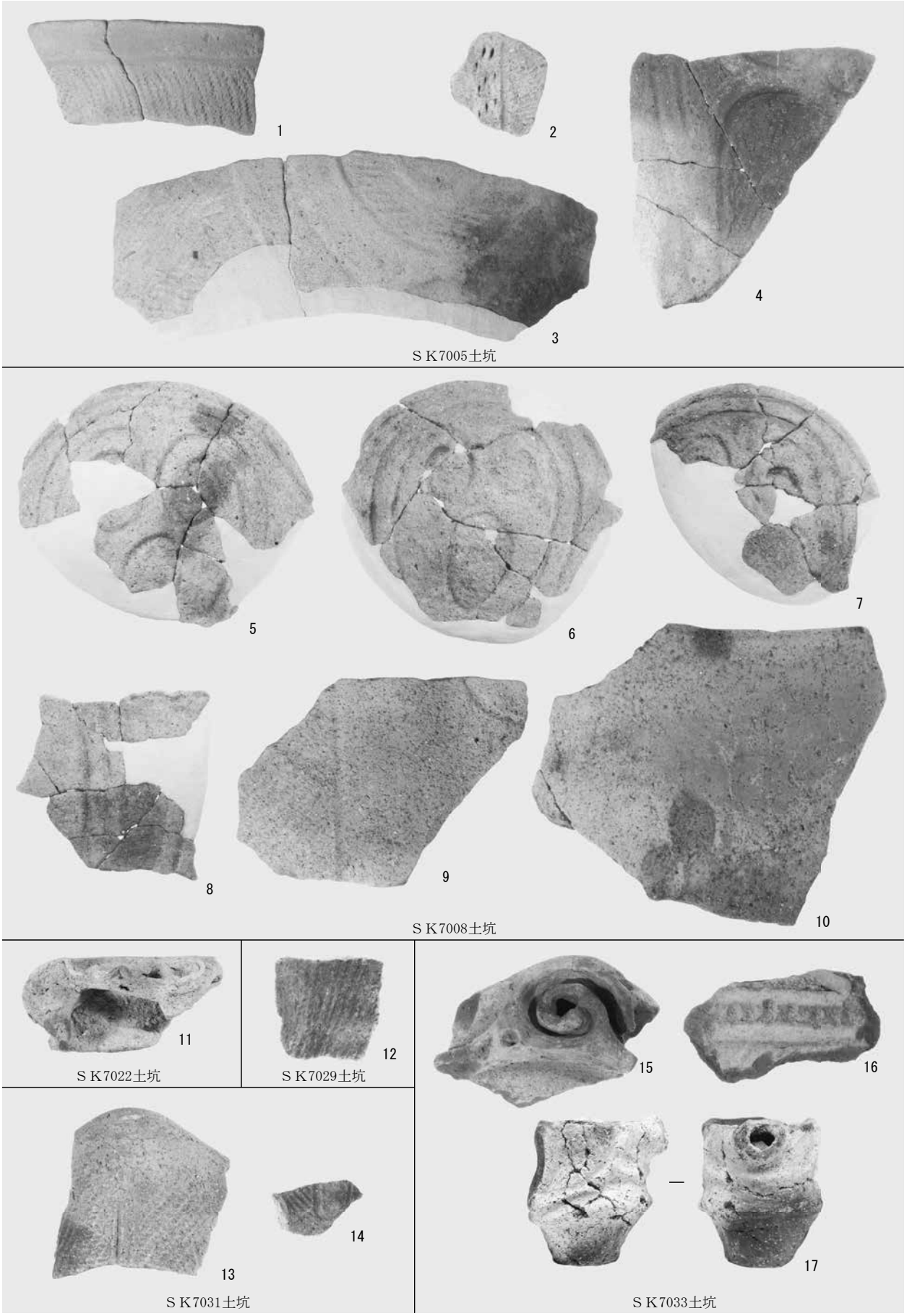
7

ＳＫ6312土坑

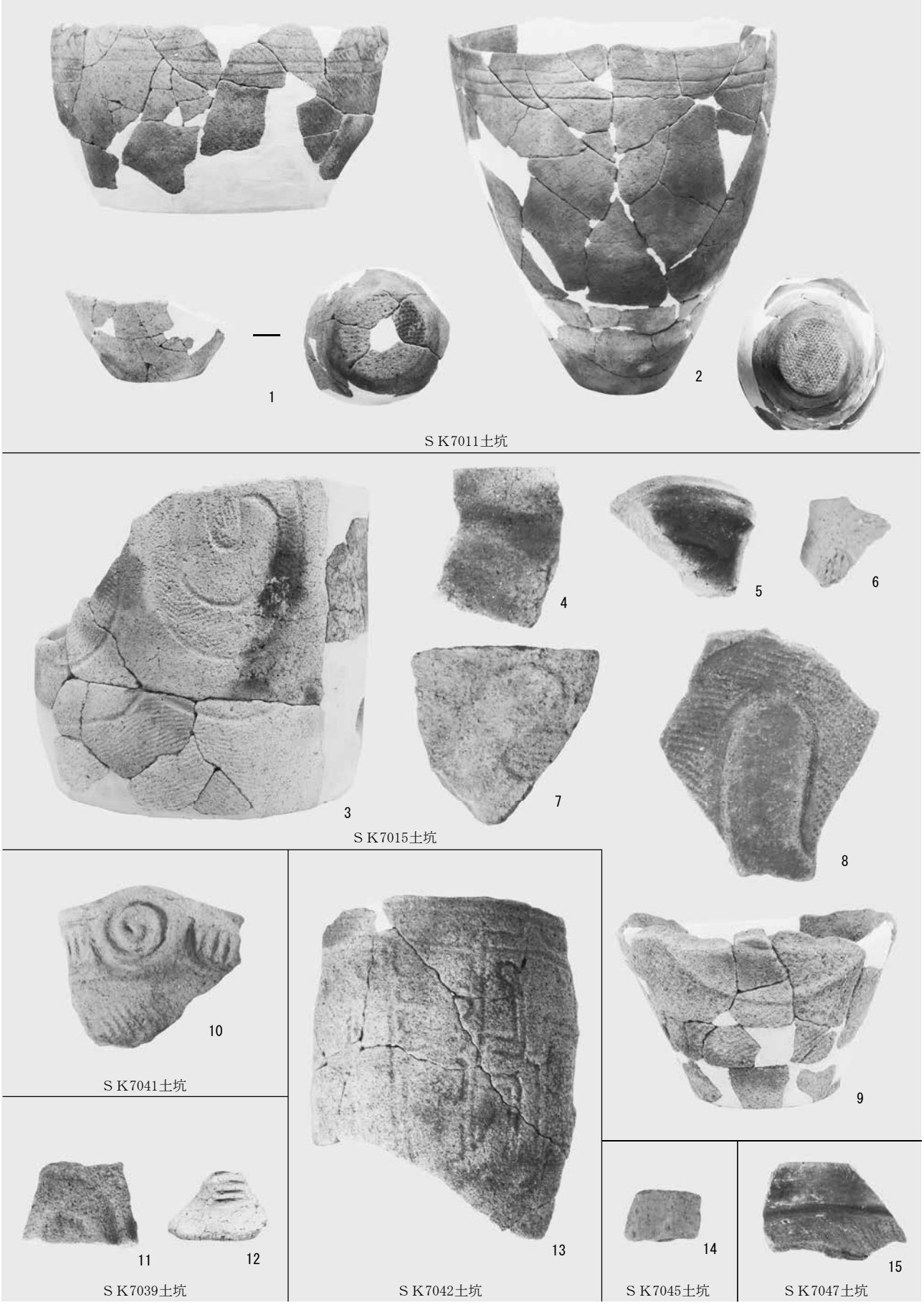
写真図版188 縄文時代土坑出土遺物（17）



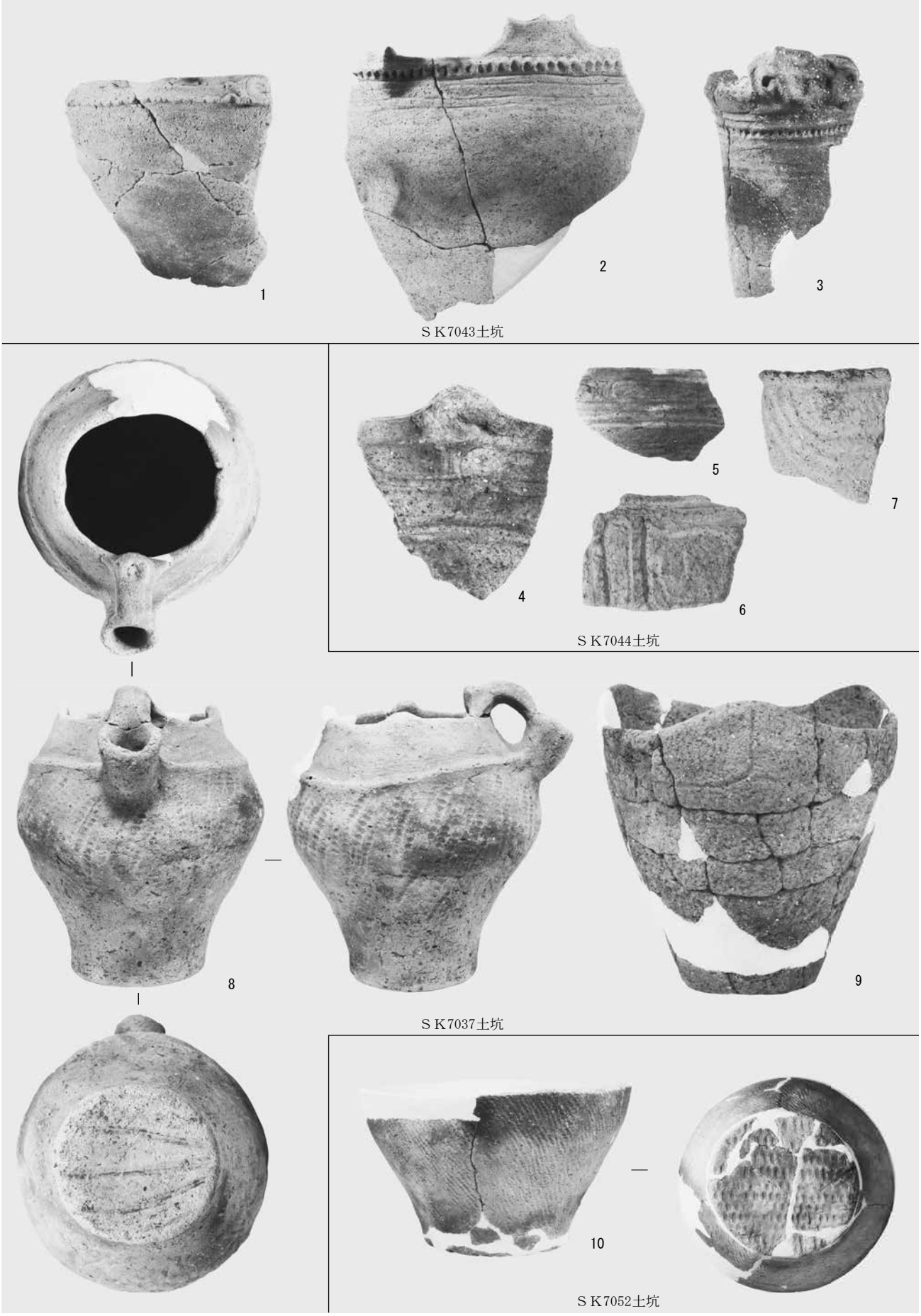
写真図版189 縄文時代土坑出土遺物（18）



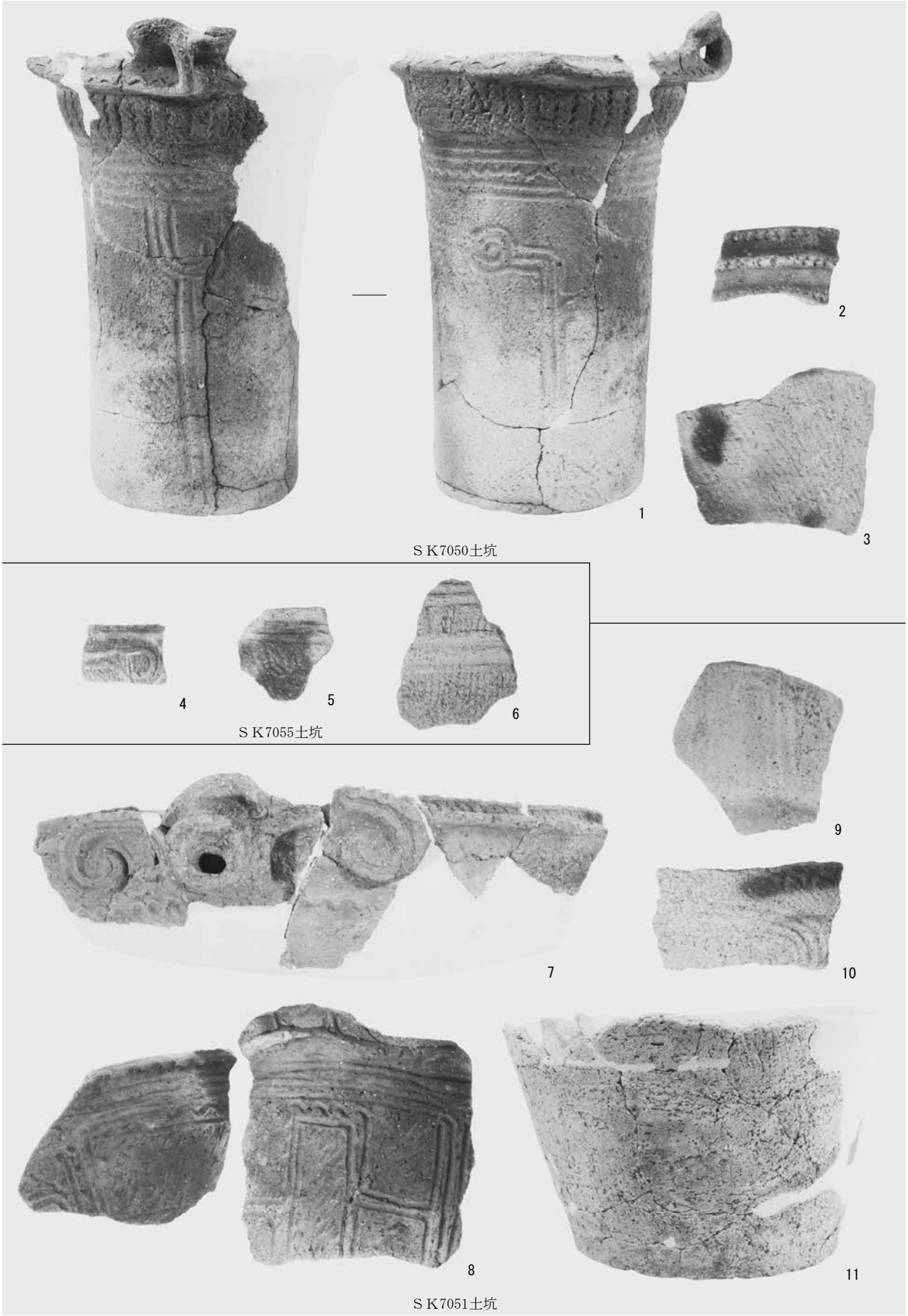
写真図版190 縄文時代土坑出土遺物（19）



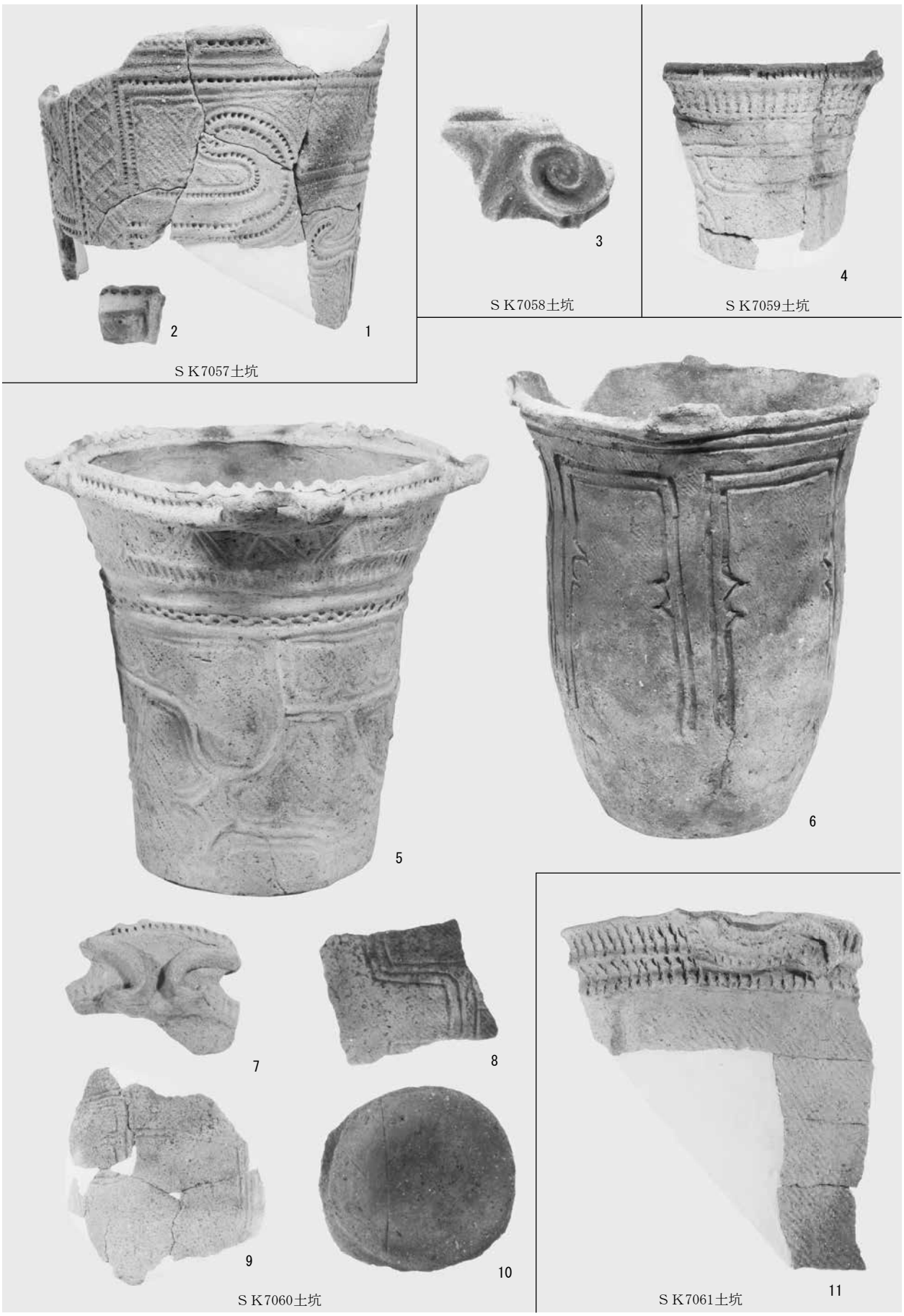
写真図版191 縄文時代土坑出土遺物（20）



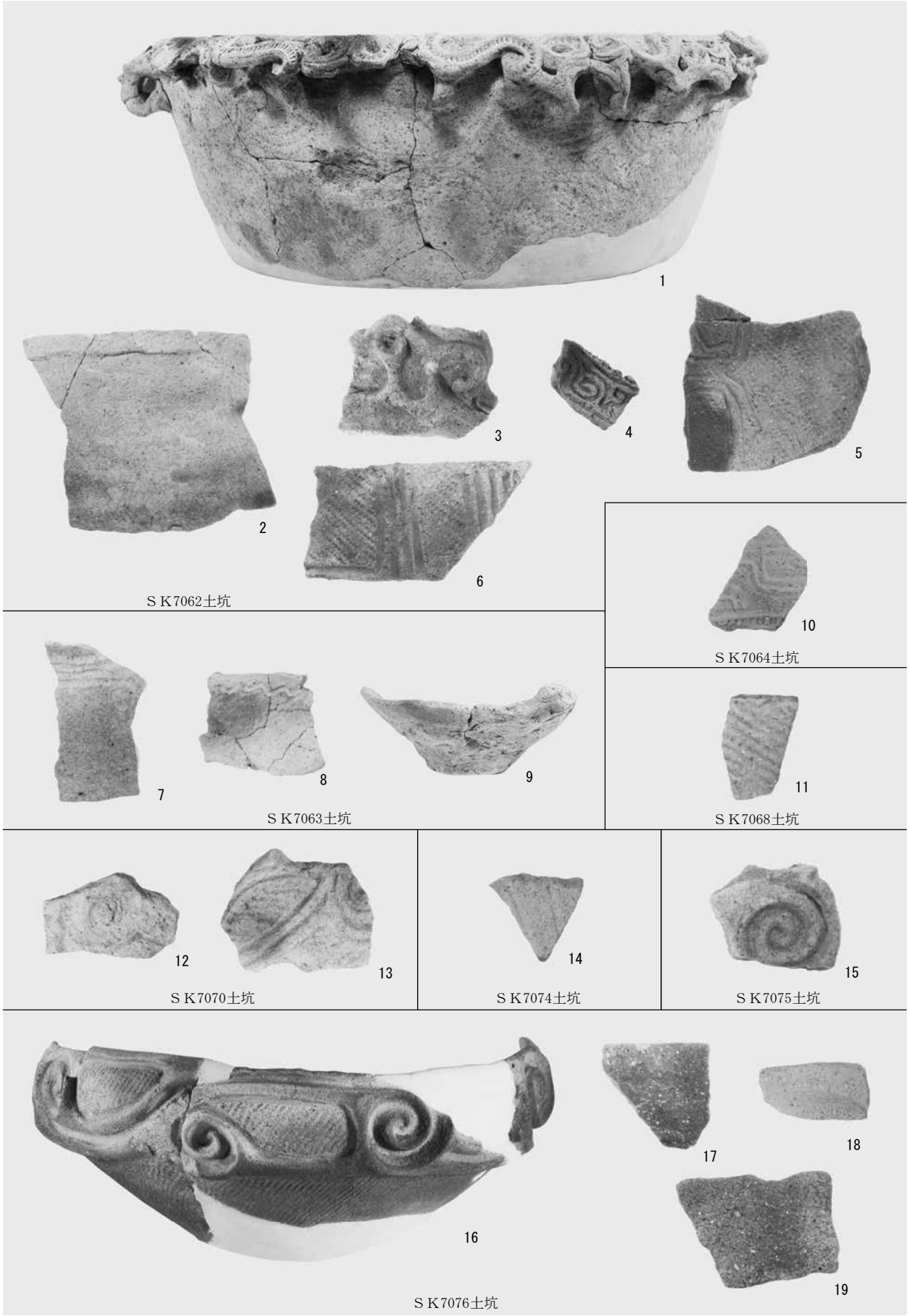
写真図版192 縄文時代土坑出土遺物（21）



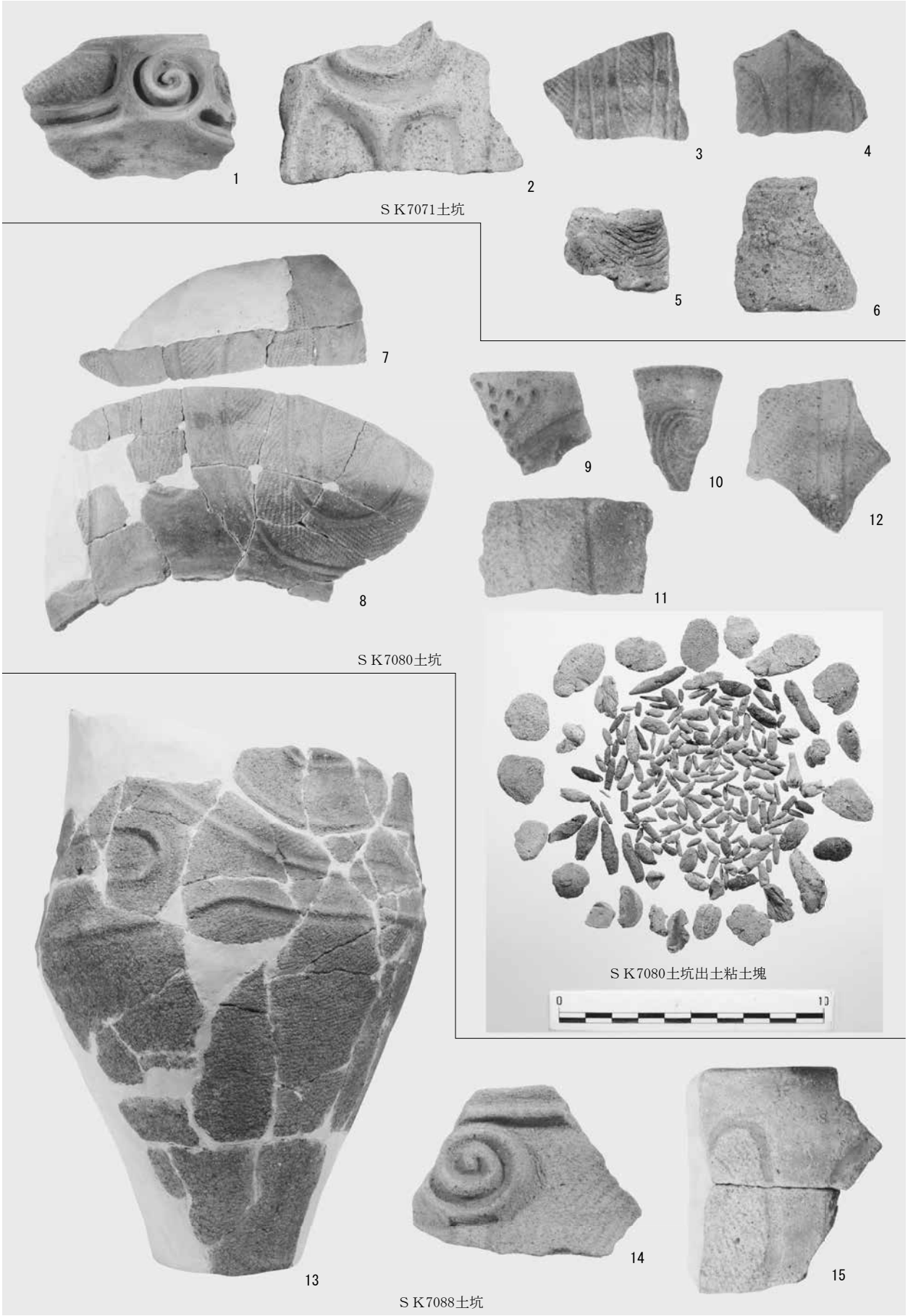
写真図版193 縄文時代土坑出土遺物（22）



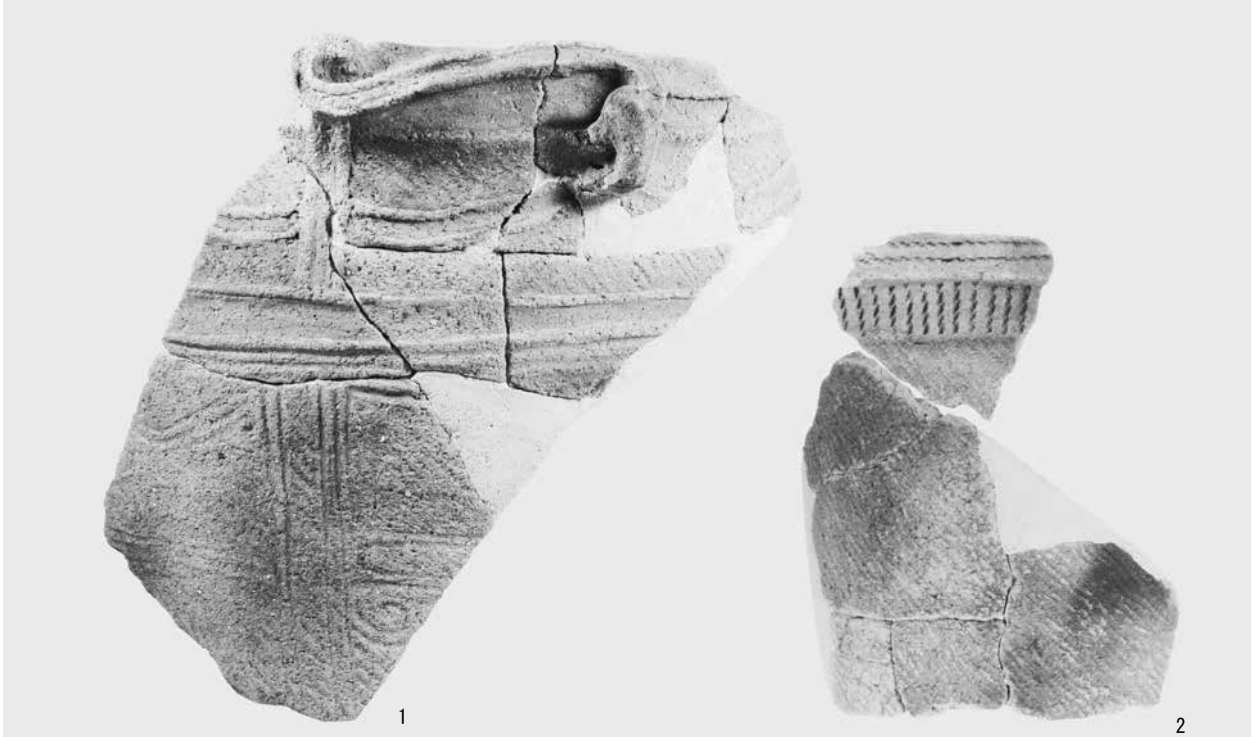
写真図版194 縄文時代土坑出土遺物（23）



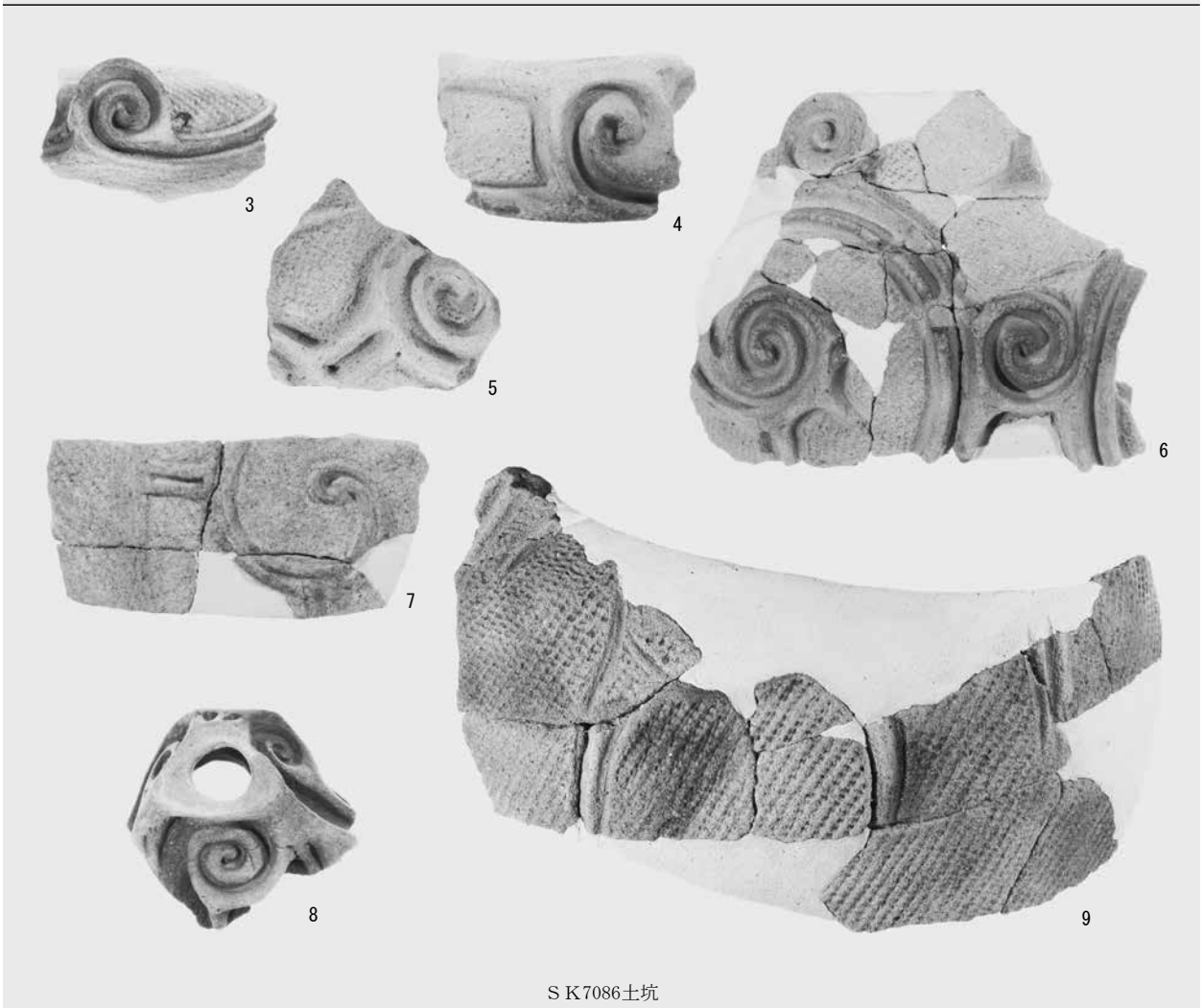
写真図版195 縄文時代土坑出土遺物（24）



写真図版196 縄文時代土坑出土遺物（25）

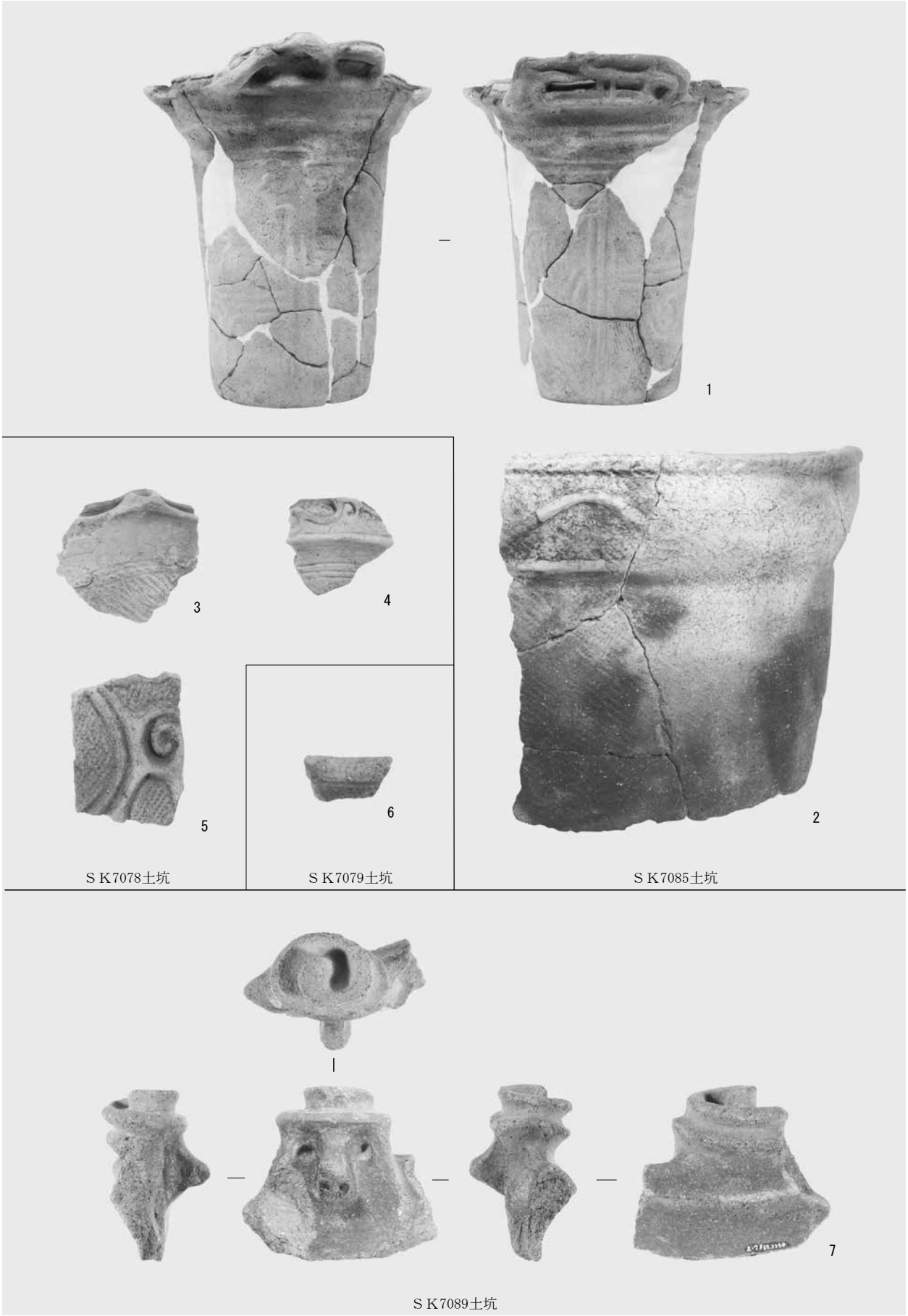


ＳＫ7085土坑

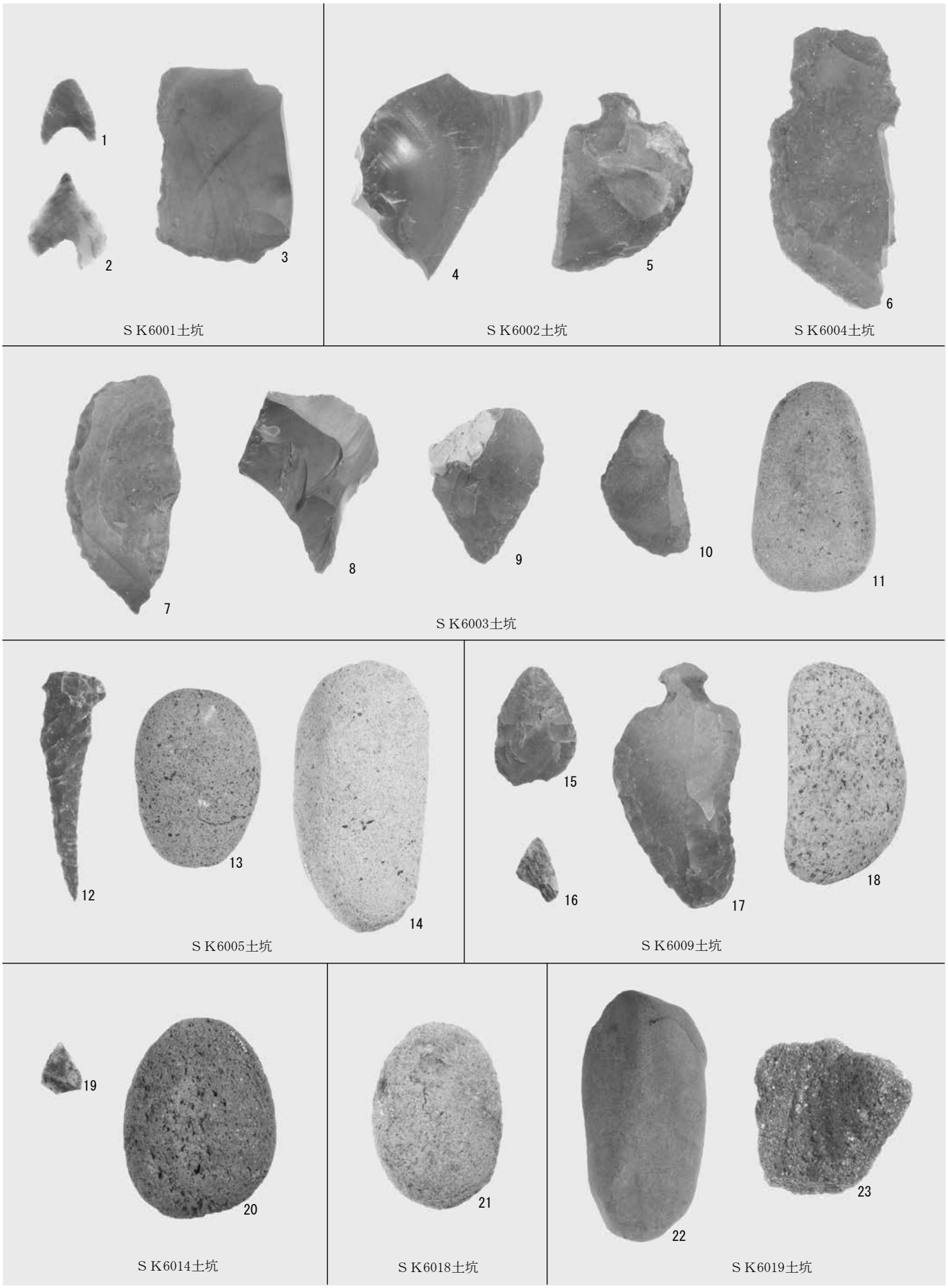


ＳＫ7086土坑

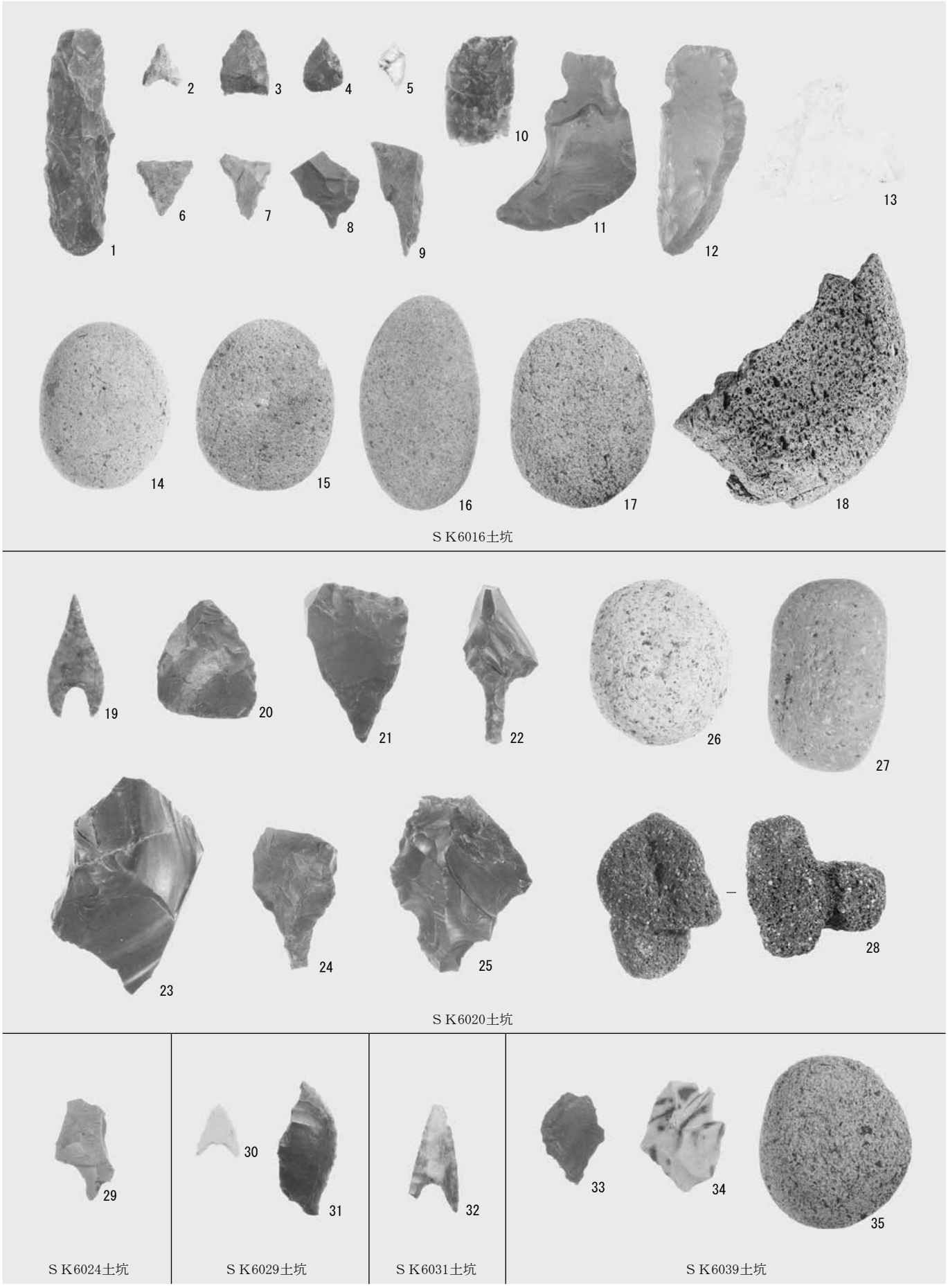
写真図版197 縄文時代土坑出土遺物(26)



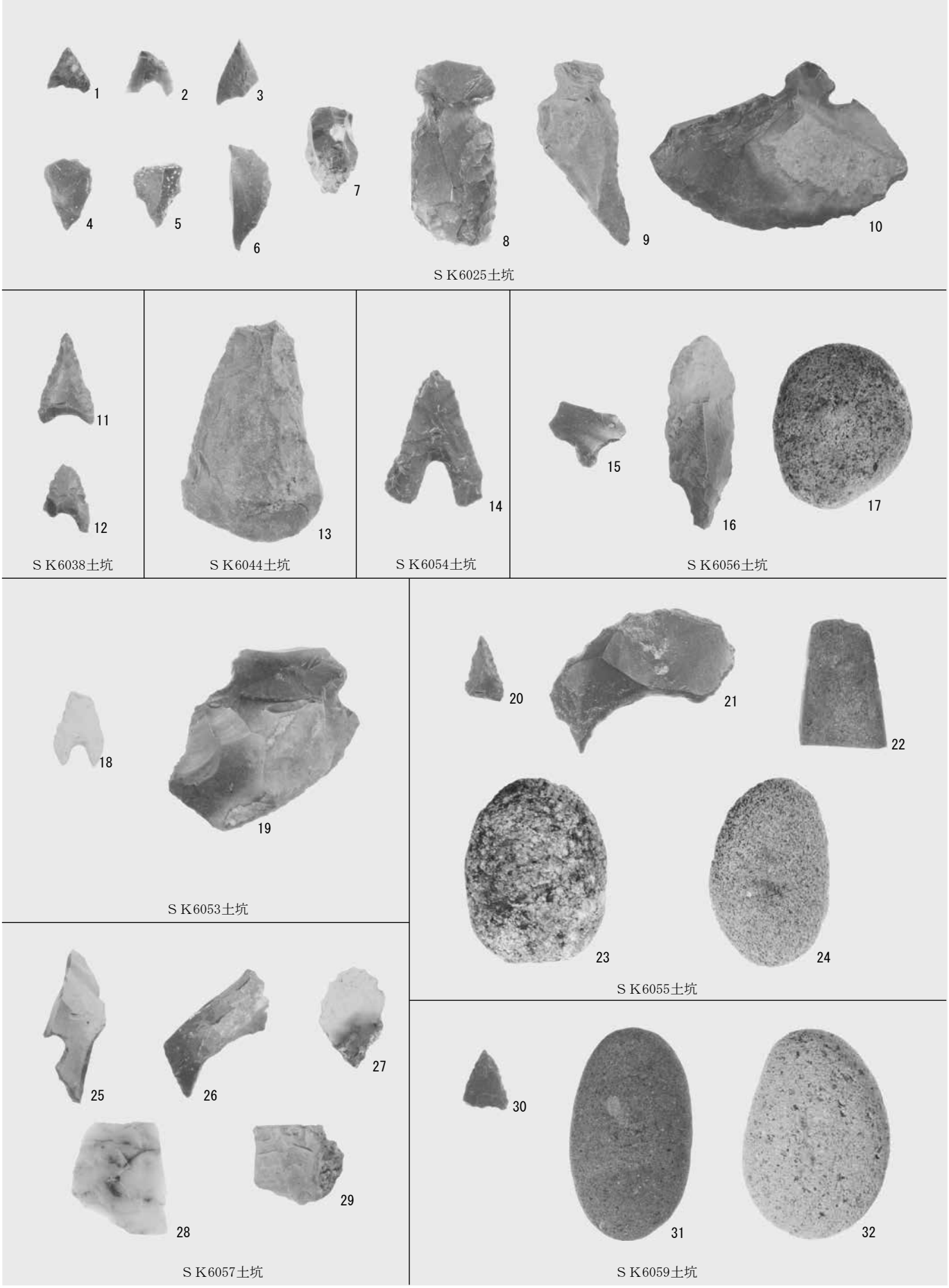
写真図版198 縄文時代土坑出土遺物(27)



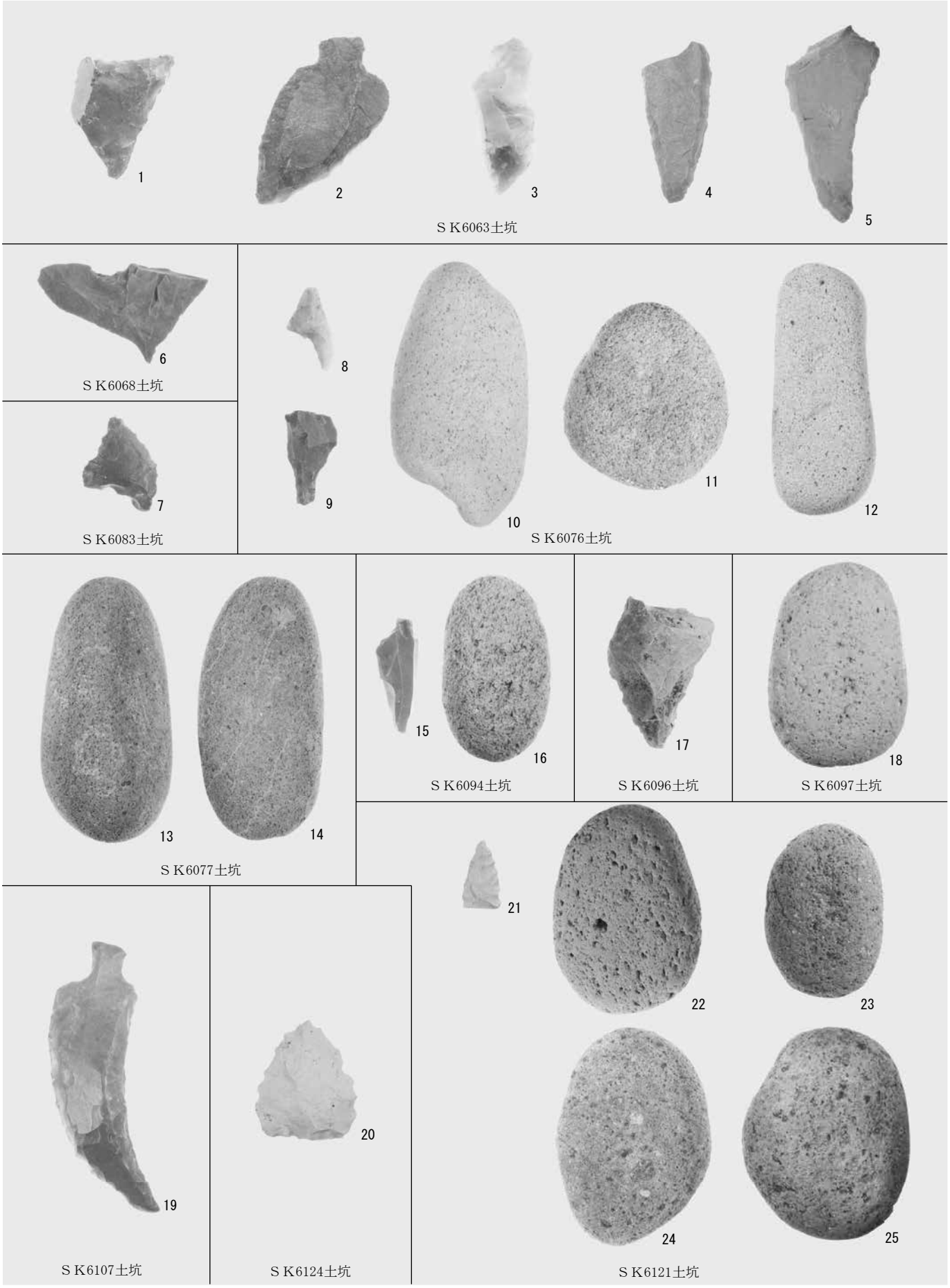
写真図版199　縄文時代土坑出土遺物（28）



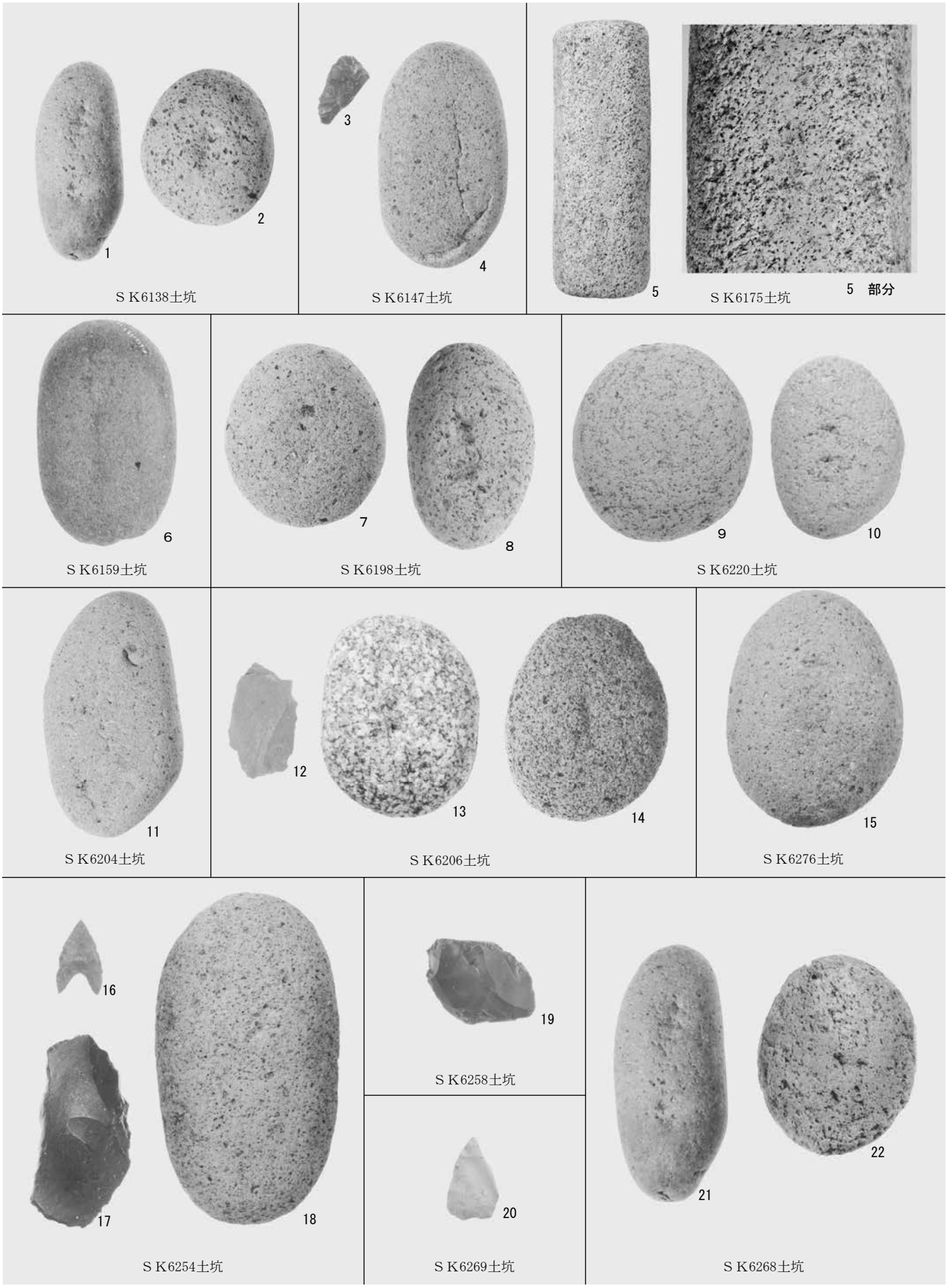
写真図版200　縄文時代土坑出土遺物（29）



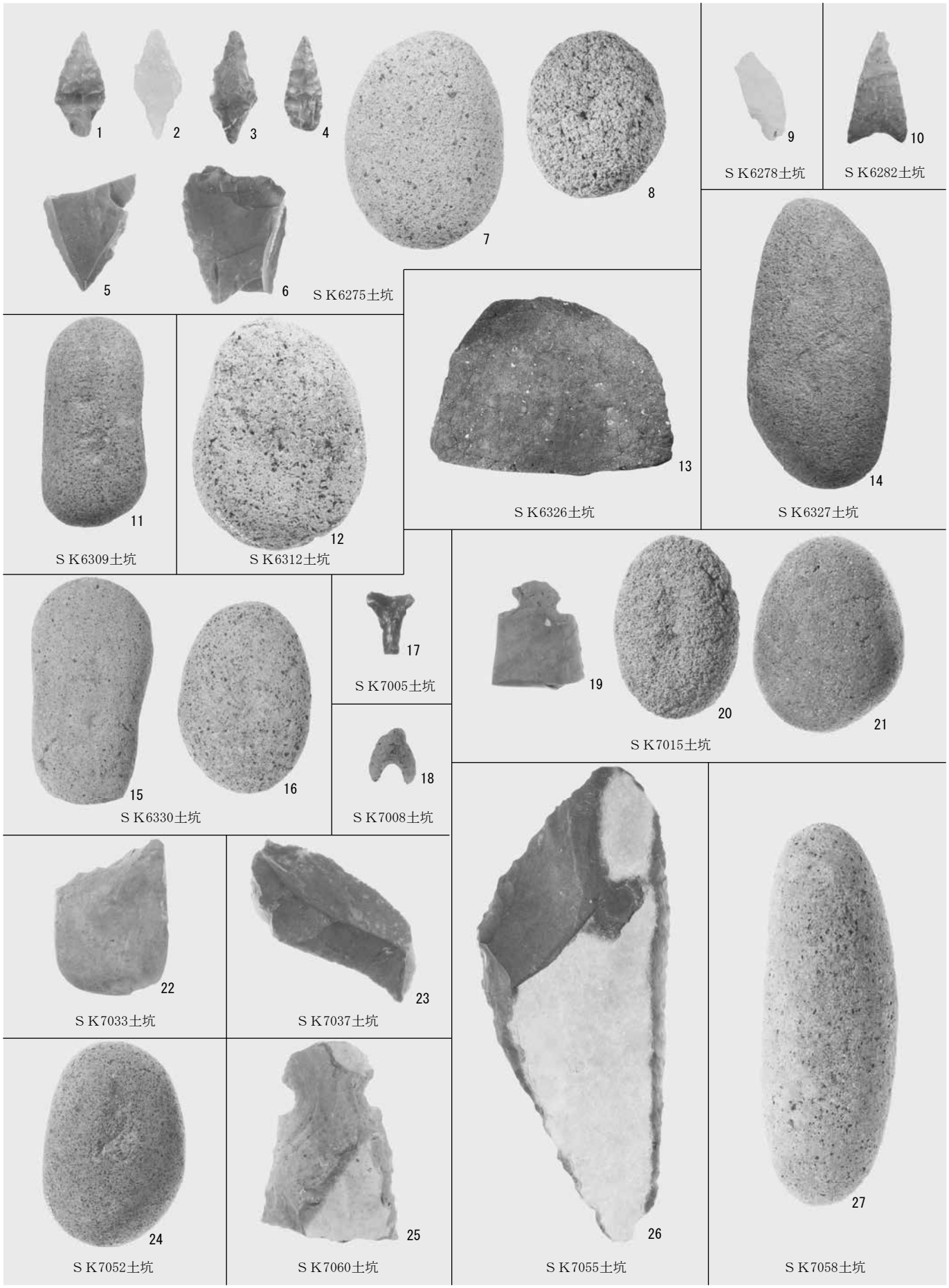
写真図版201　縄文時代土坑出土遺物（30）



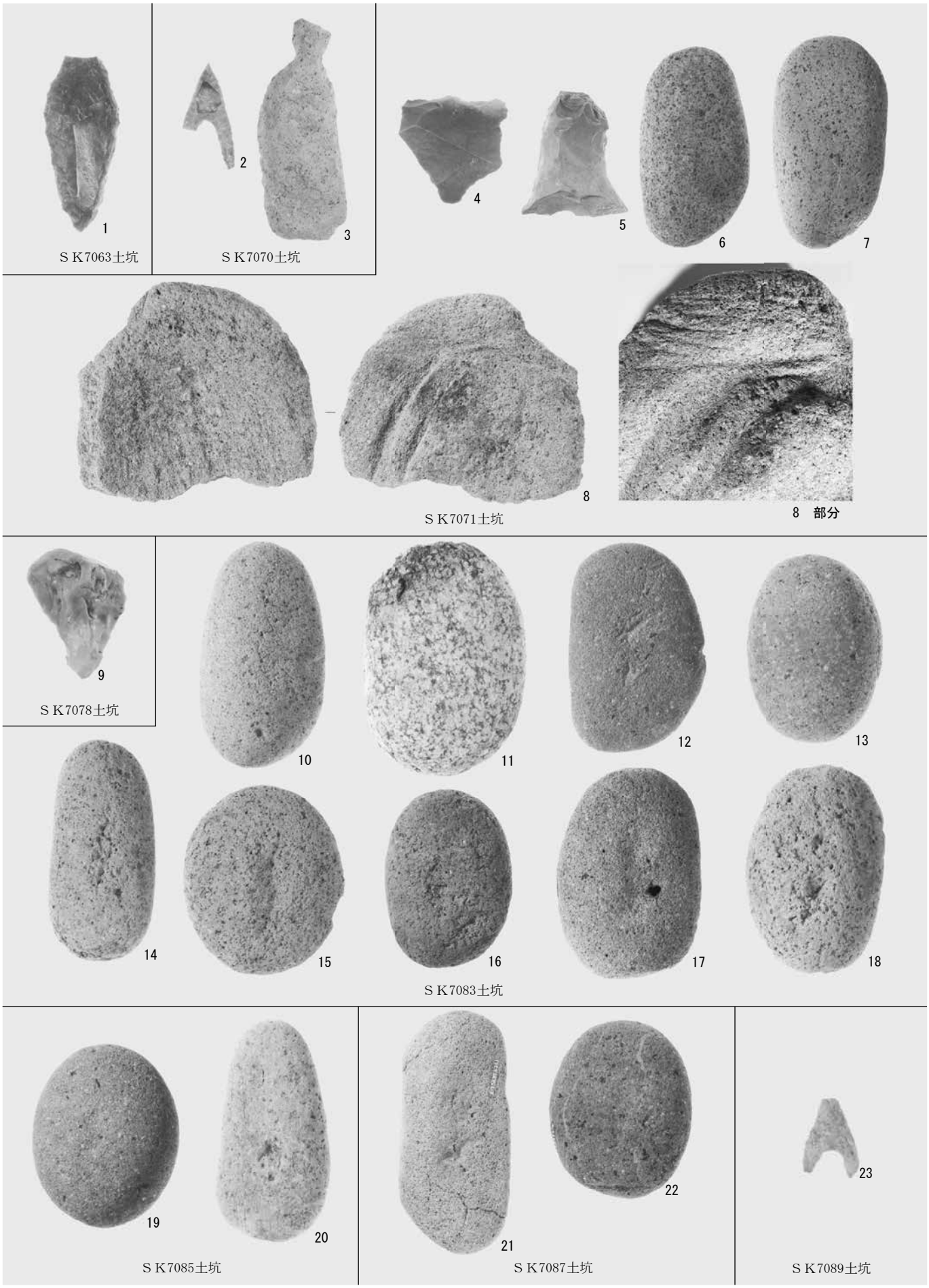
写真図版202　縄文時代土坑出土遺物（31）



写真図版203　縄文時代土坑出土遺物（32）

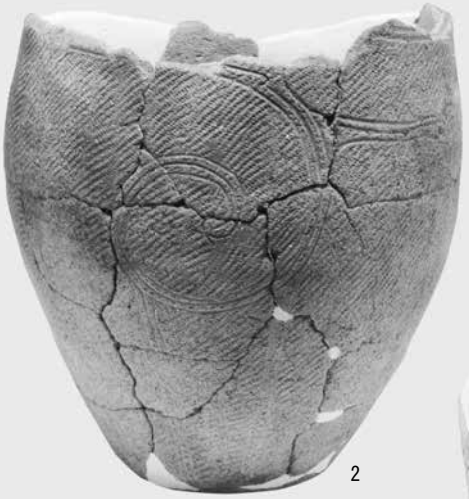


写真図版204　縄文時代土坑出土遺物（33）



写真図版205　縄文時代土坑出土遺物（34）

S X604 埋設土器



S X606 埋設土器

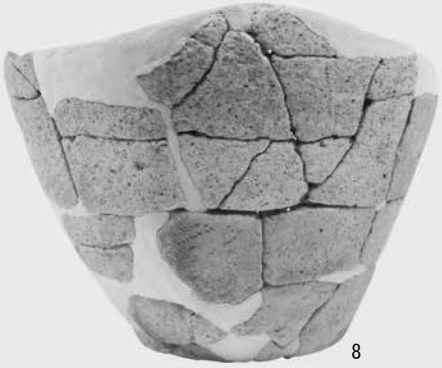
S X619 埋設土器

S X608 埋設土器

S X607 埋設土器

S X609 埋設土器

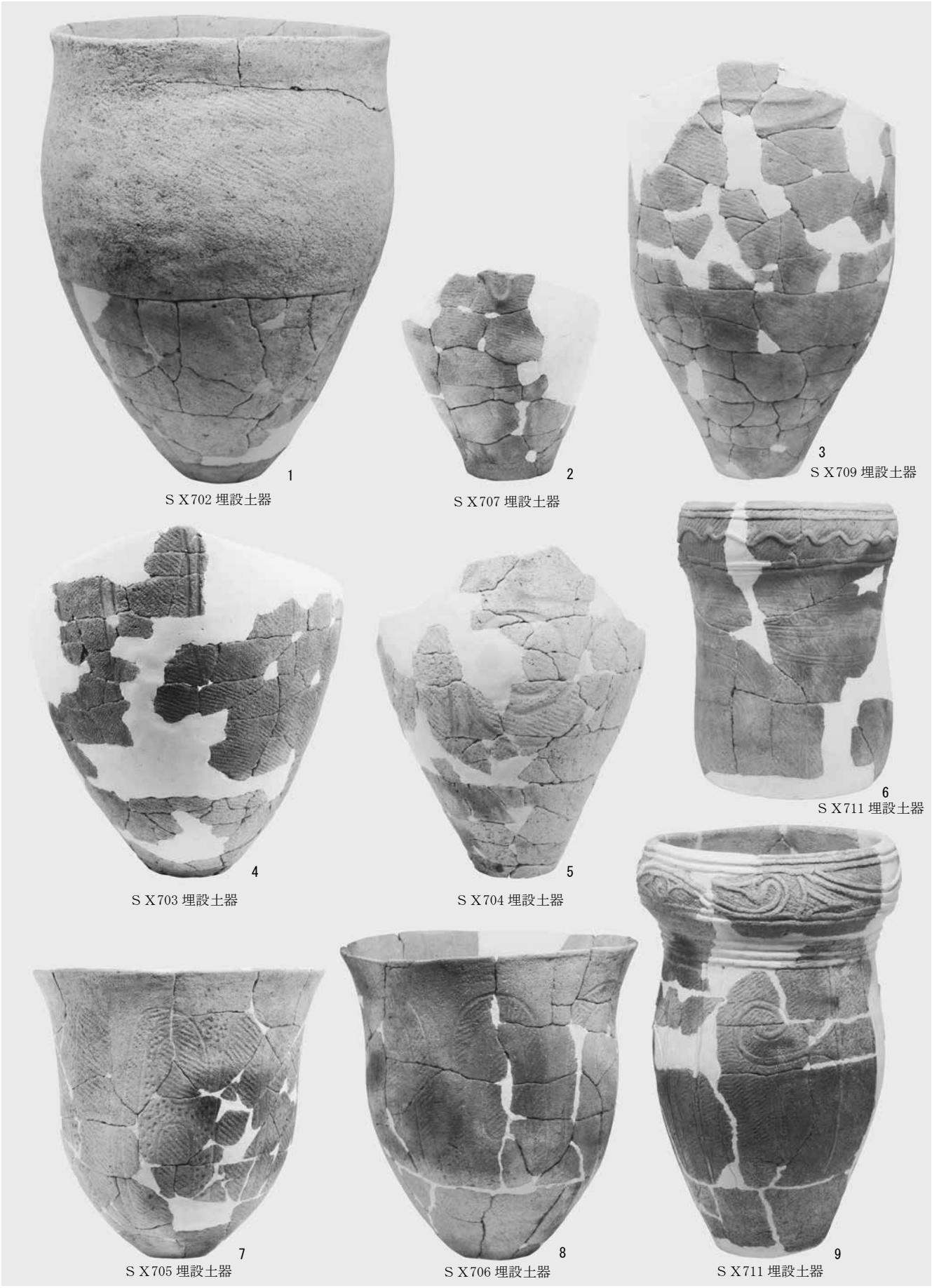
S X603 埋設土器



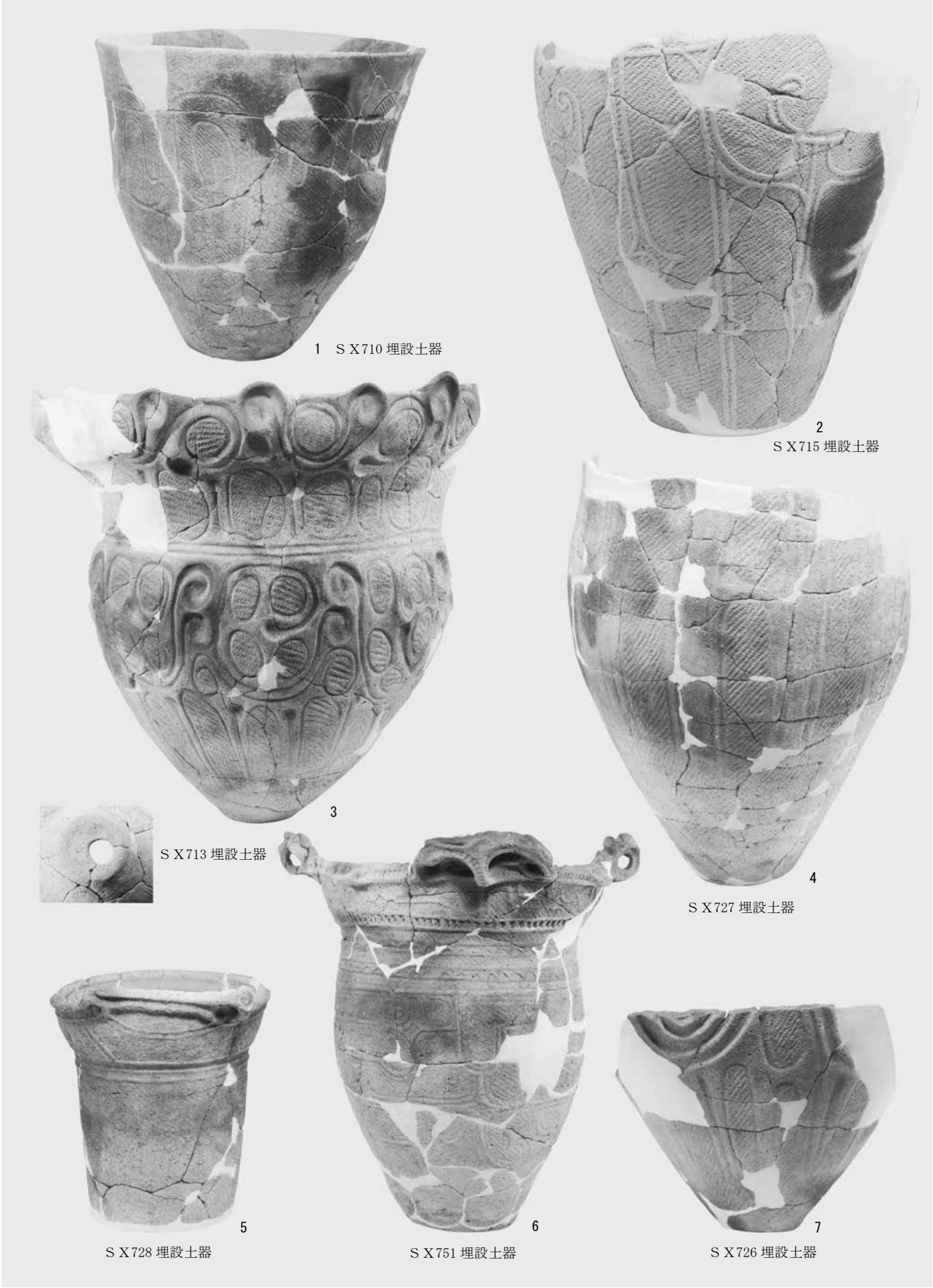
S X611 埋設土器

S X610 埋設土器

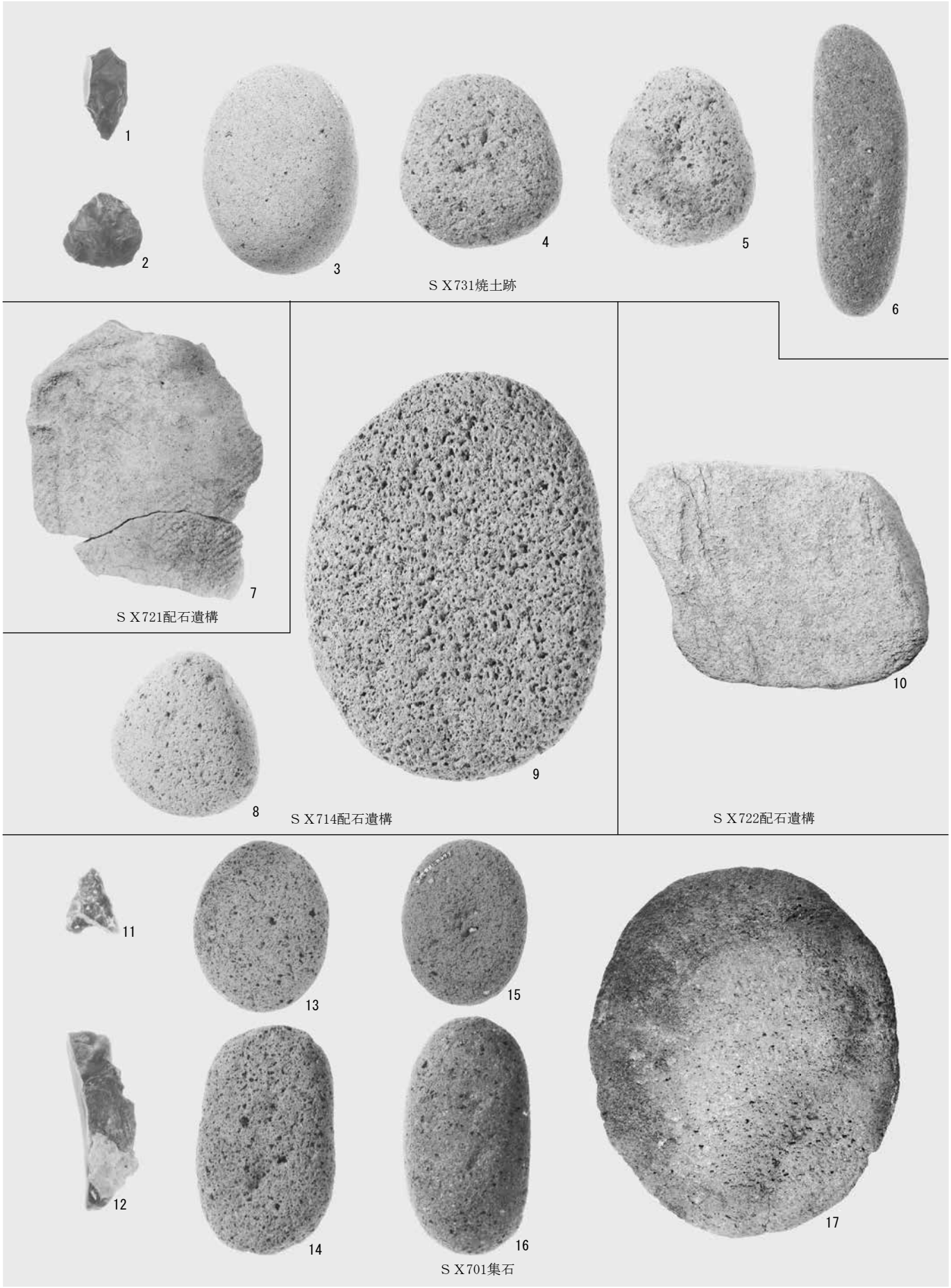
写真図版 206 埋設土器出土遺物（1）



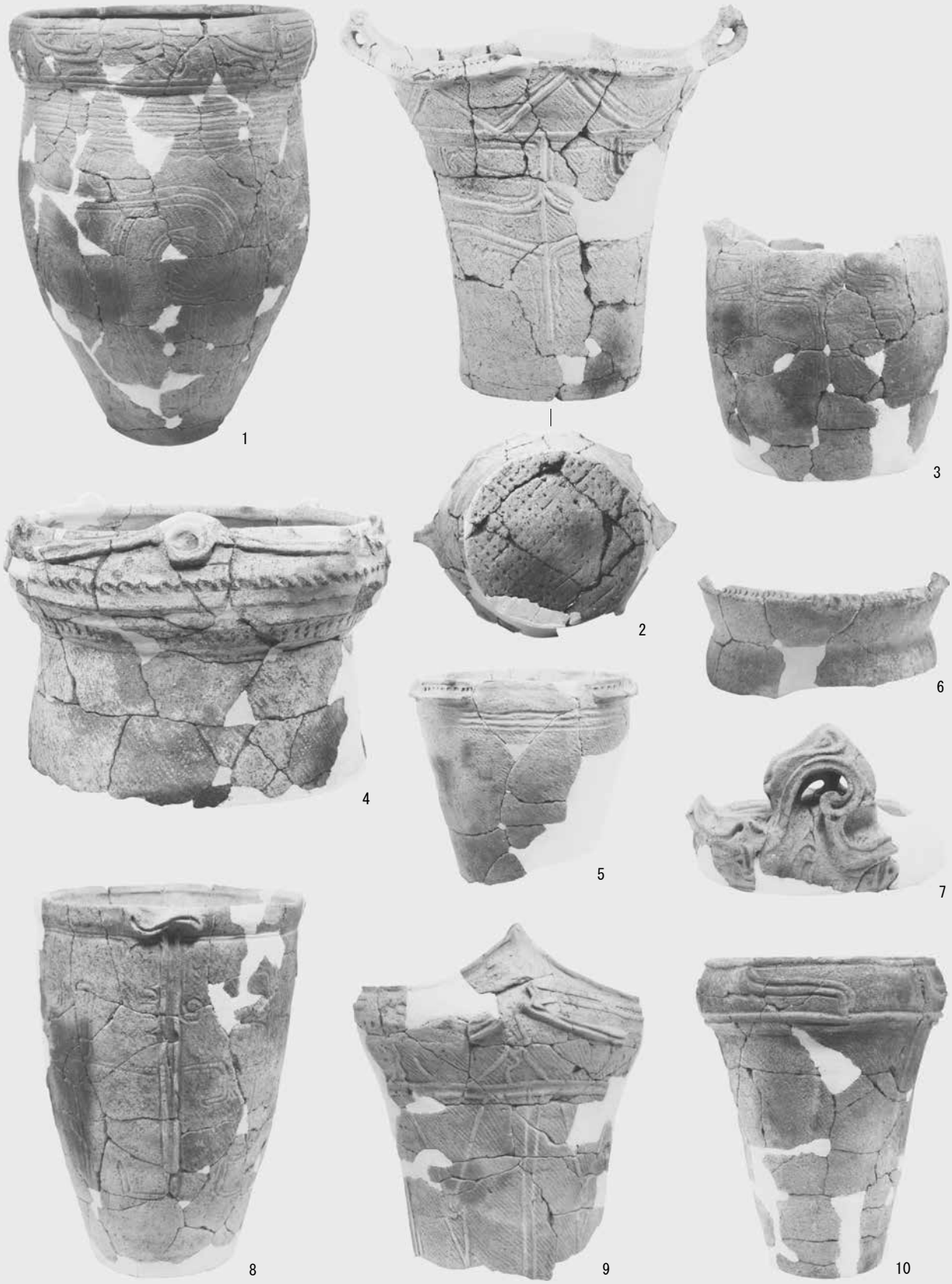
写真図版 207 埋設土器出土遺物（2）



写真図版 208　埋設土器出土遺物（3）

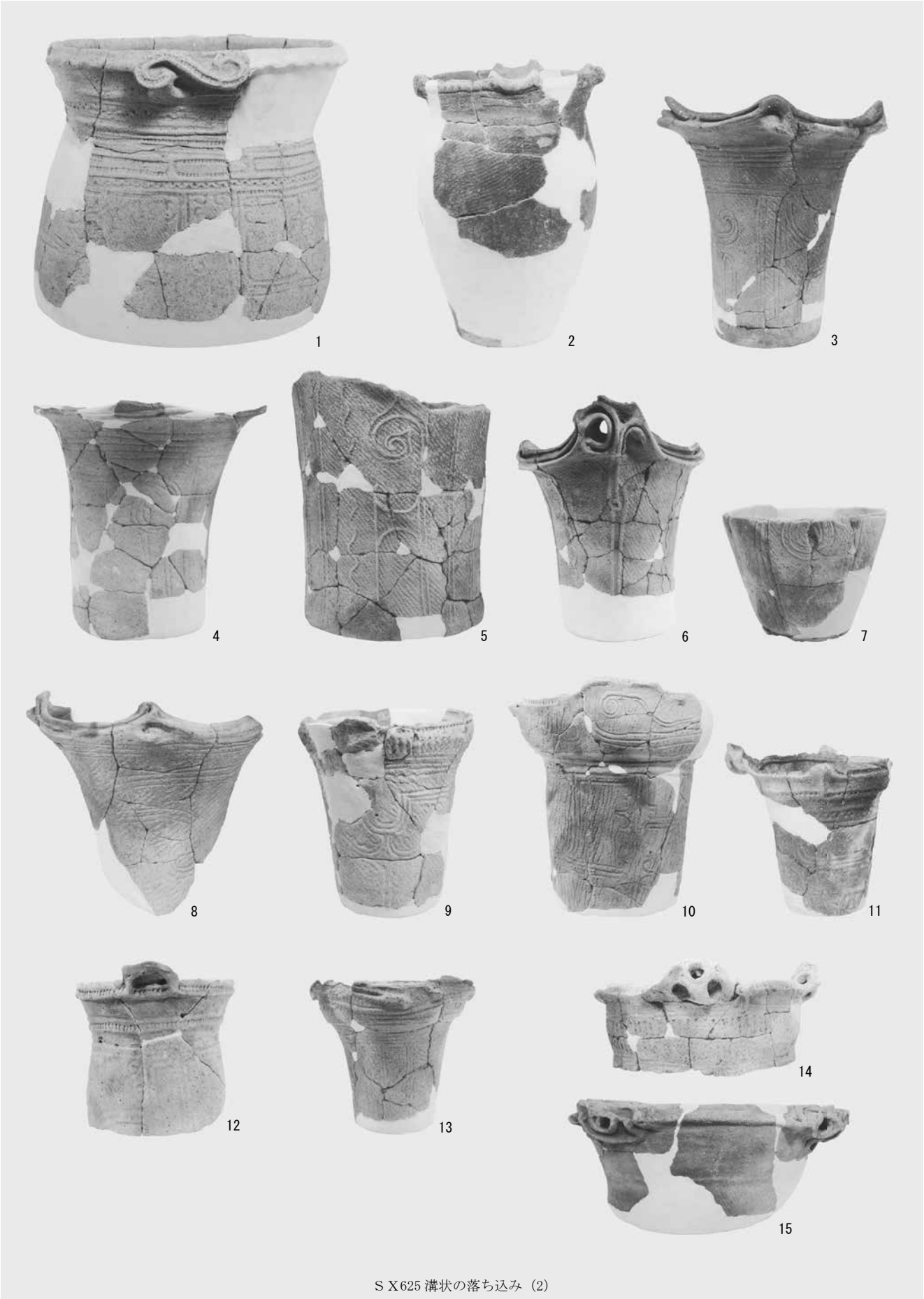


写真図版209　焼土跡・配石遺構・集石出土遺物



ＳＸ625 溝状の落ち込み（1）

写真図版 210 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（1）



ＳＸ625 溝状の落ち込み（2）

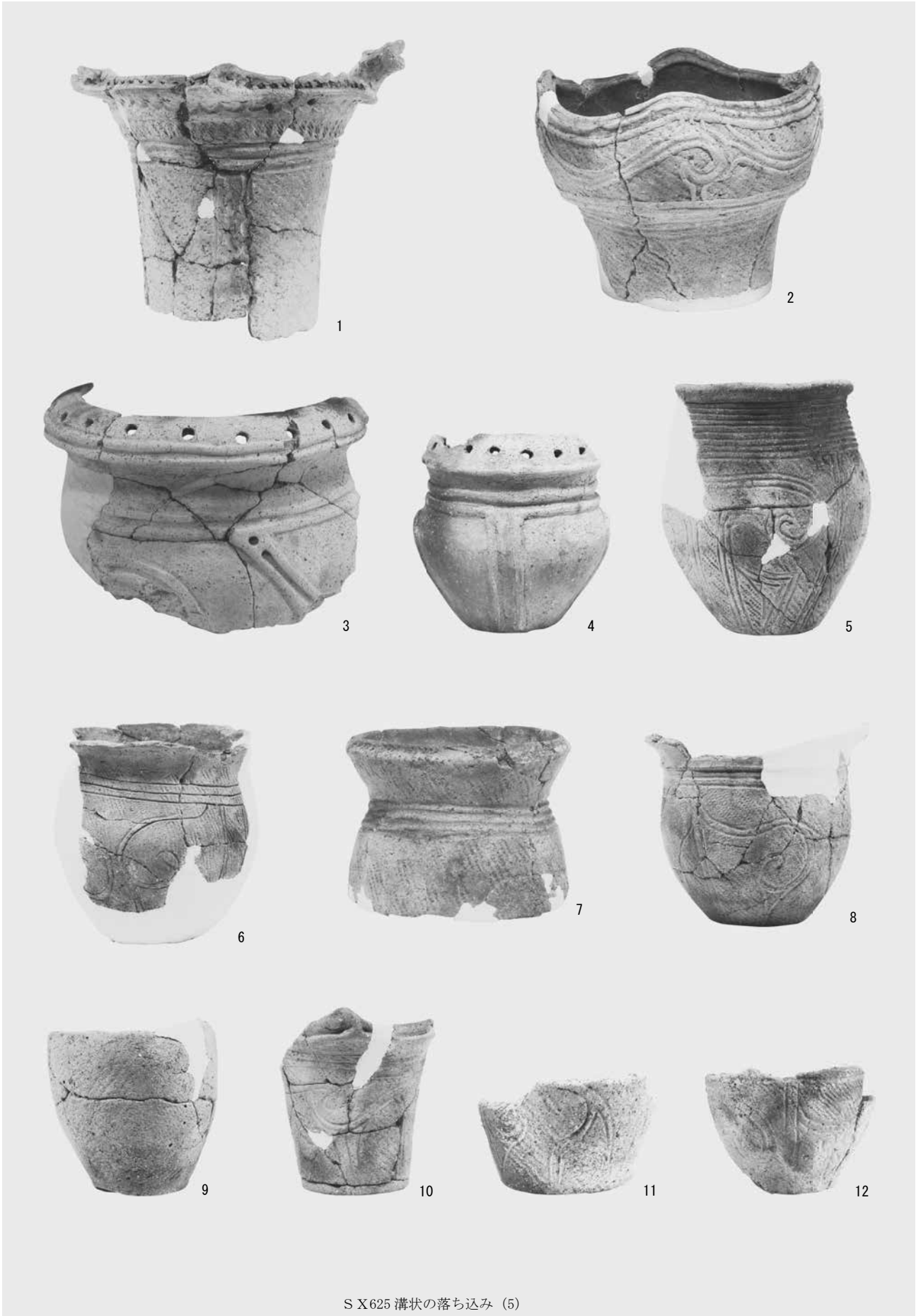
写真図版 211　縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（2）

ＳＸ625 溝状の落ち込み（3）

写真図版 212 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（3）

ＳＸ625 溝状の落ち込み（4）

写真図版 213 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（4）



ＳＸ625 溝状の落ち込み（5）

写真図版 214 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（5）

ＳＸ626 溝状の落ち込み（1）

写真図版 215 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（6）

ＳＸ626 溝状の落ち込み（2）

写真図版 216 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（7）

ＳＸ626 溝状の落ち込み（3）

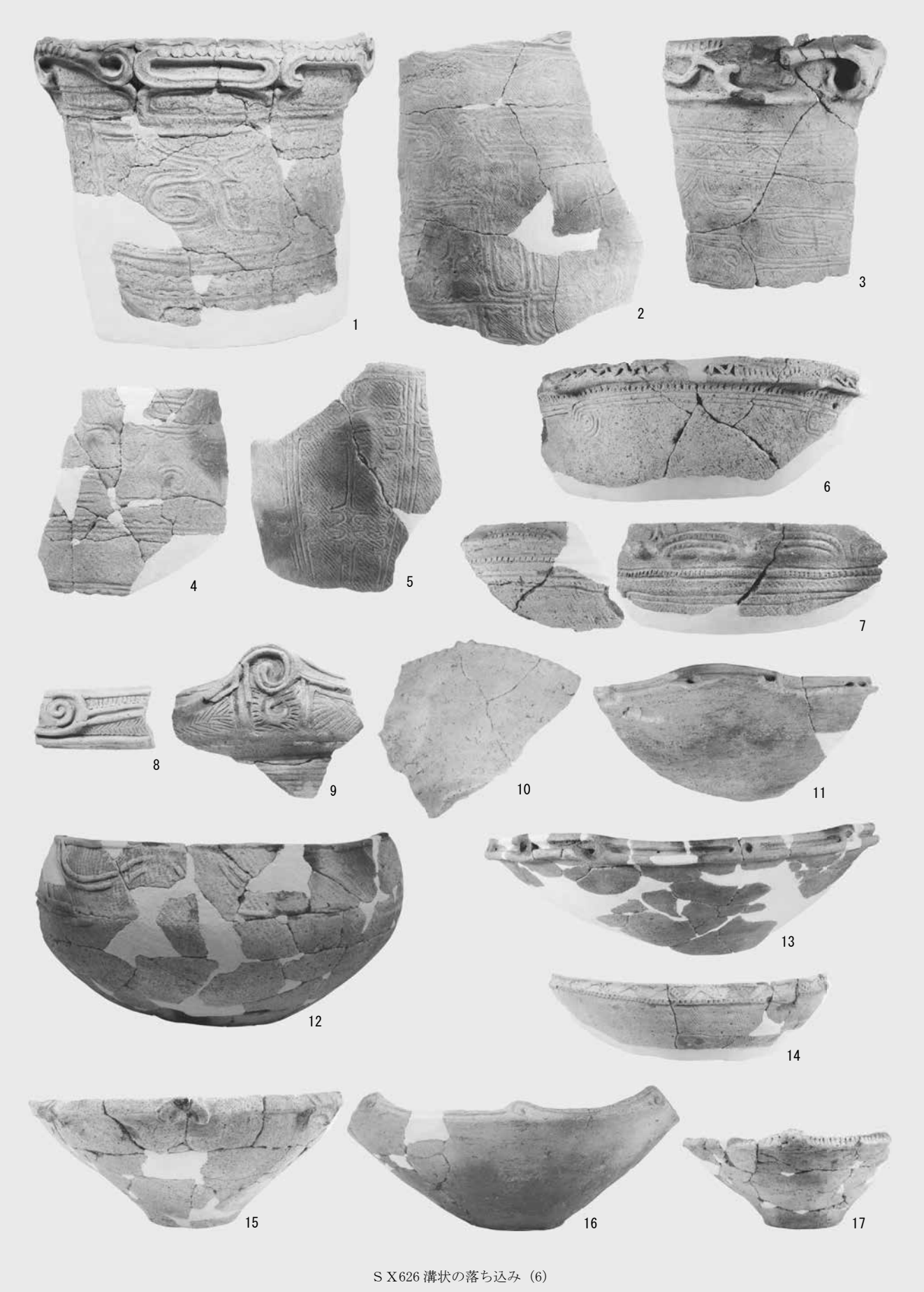
写真図版 217 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（8）

ＳＸ626 溝状の落ち込み（4）

写真図版 218 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（9）

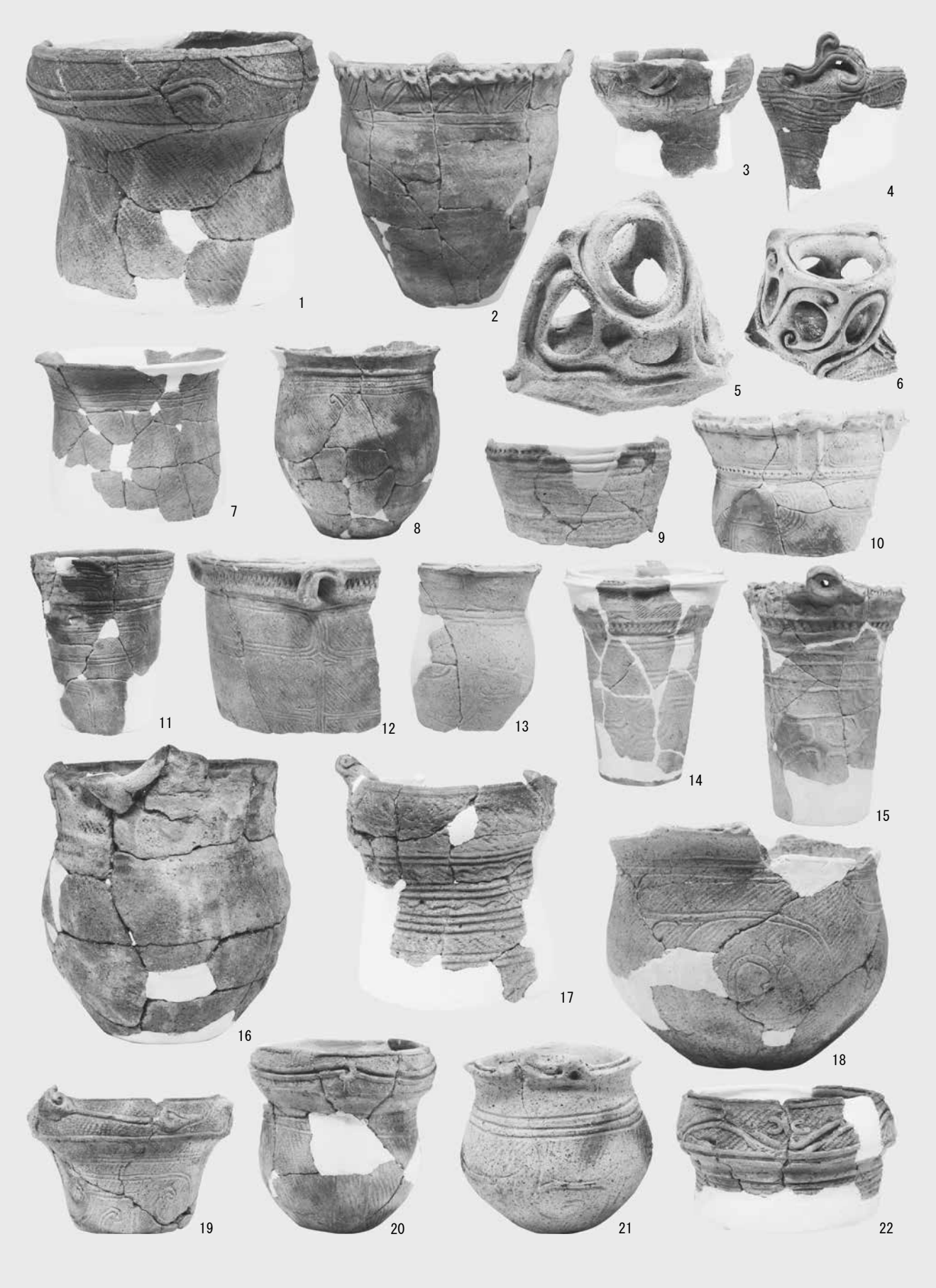
ＳＸ626 溝状の落ち込み（5）

写真図版 219 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（10）



ＳＸ626 溝状の落ち込み（6）

写真図版 220 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（11）



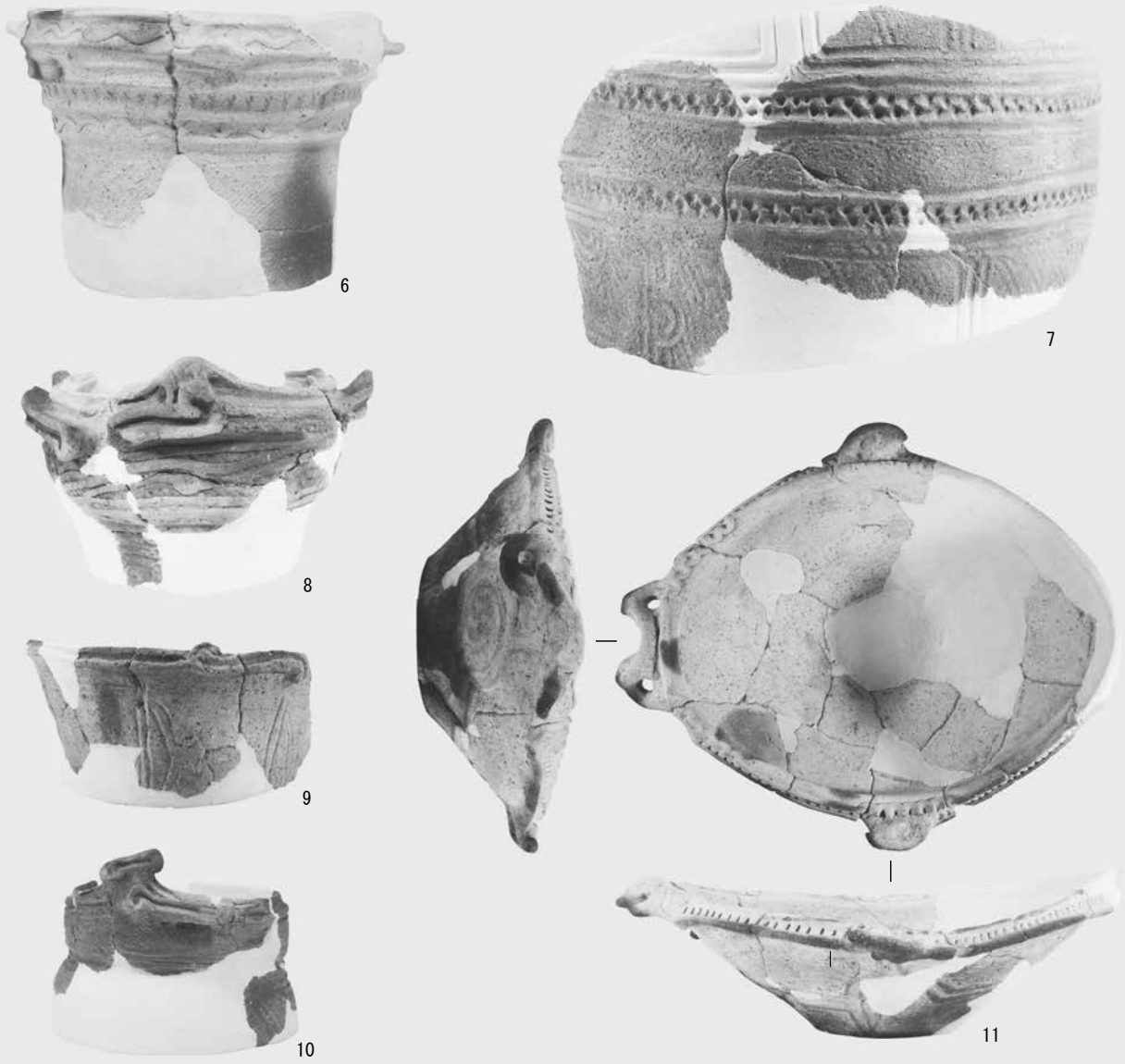
ＳＸ626 溝状の落ち込み（7）

写真図版 221 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（12）

ＳＸ626 溝状の落ち込み（8）

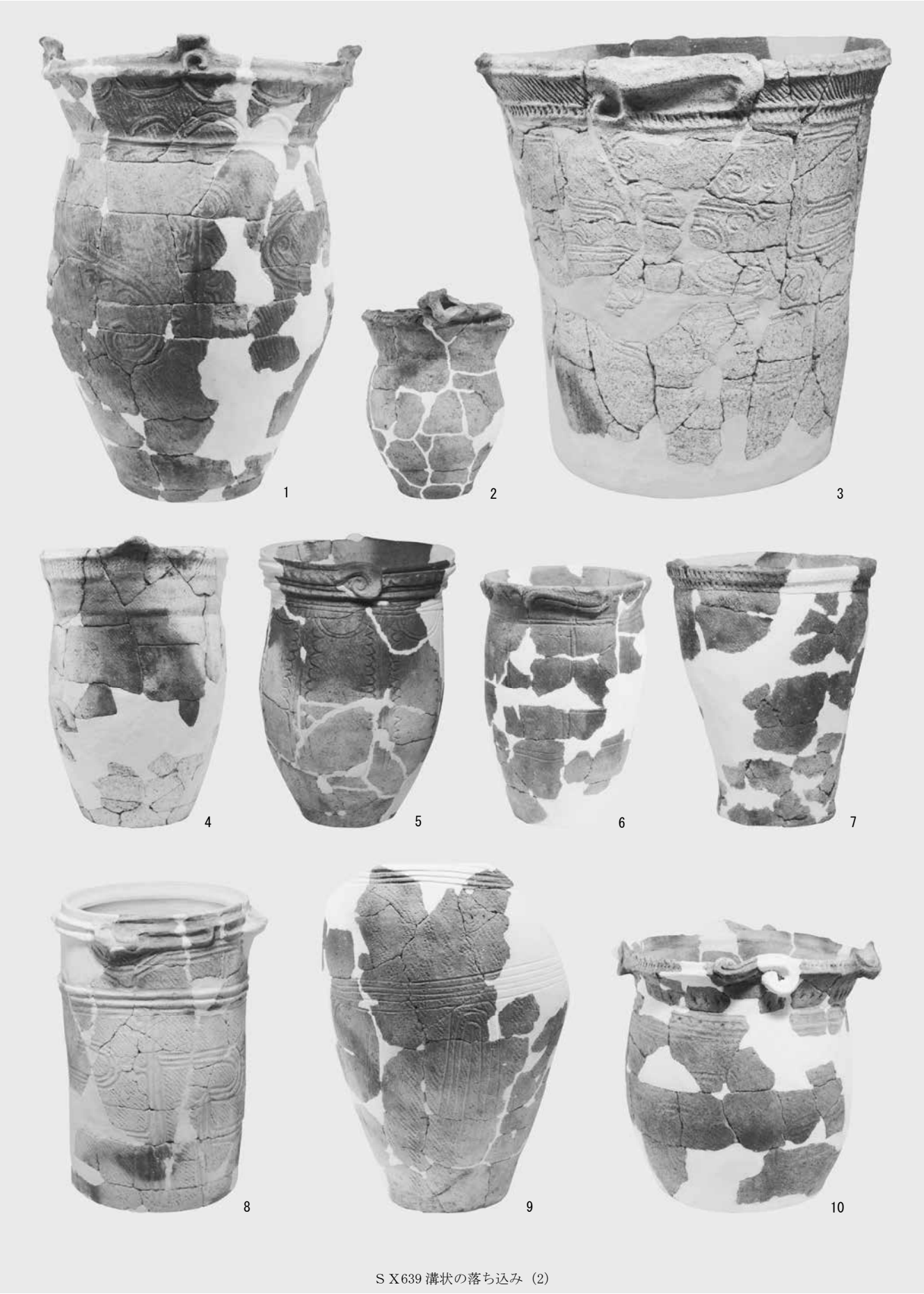
写真図版 222 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（13）

ＳＸ626 溝状の落ち込み（9）



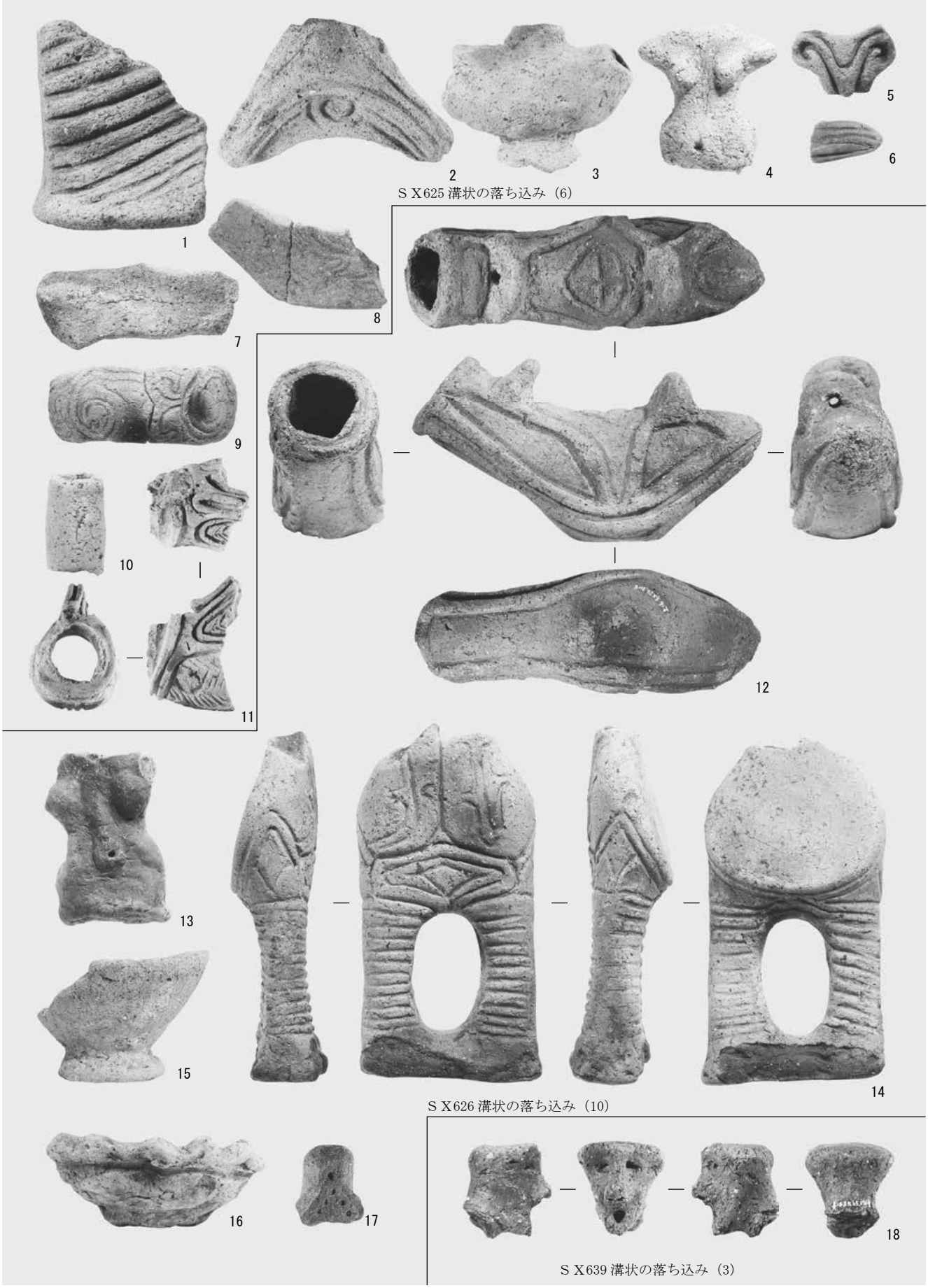
ＳＸ639 溝状の落ち込み（1）

写真図版 223 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（14）

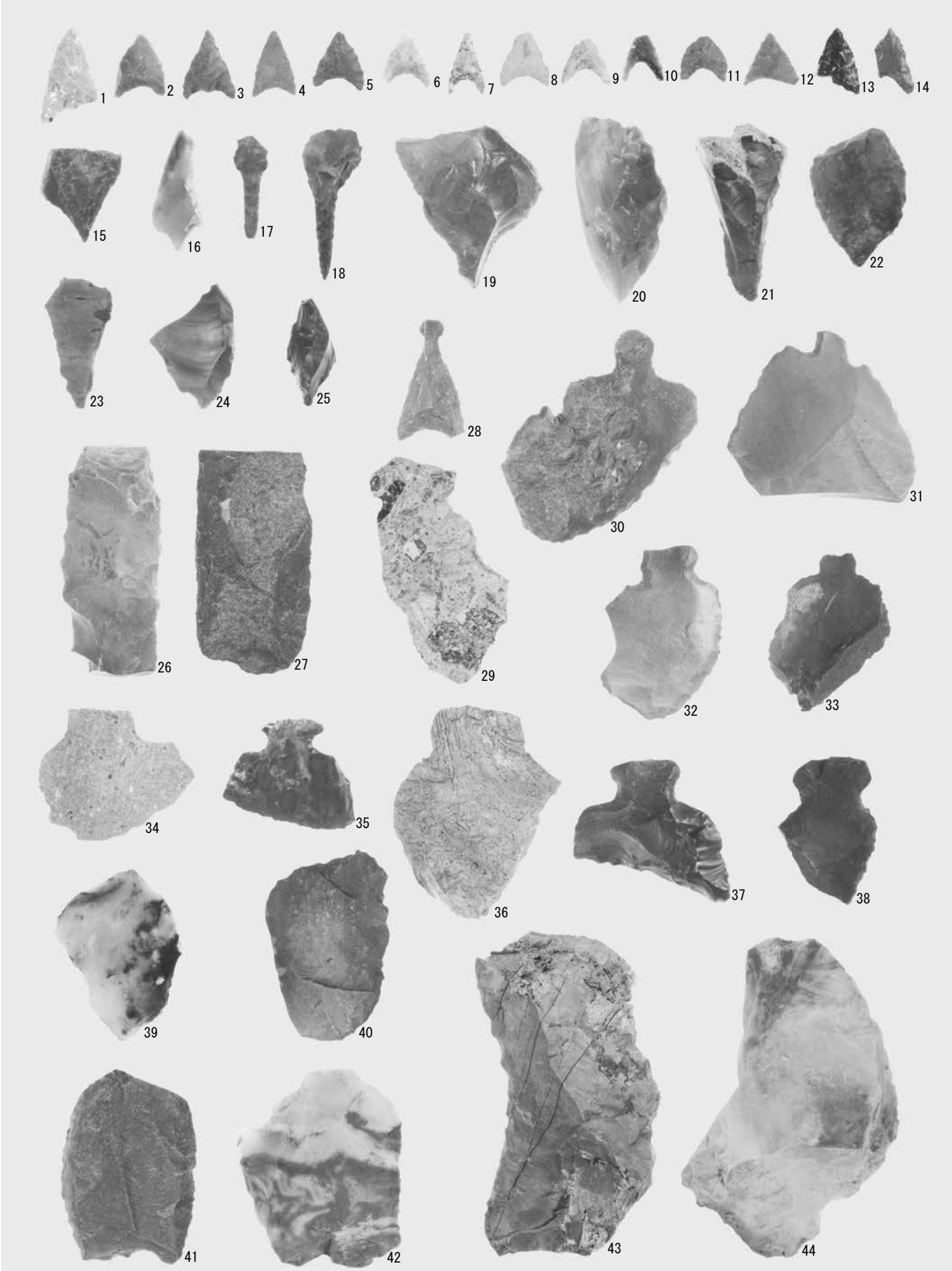


ＳＸ639 溝状の落ち込み（2）

写真図版 224 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（15）

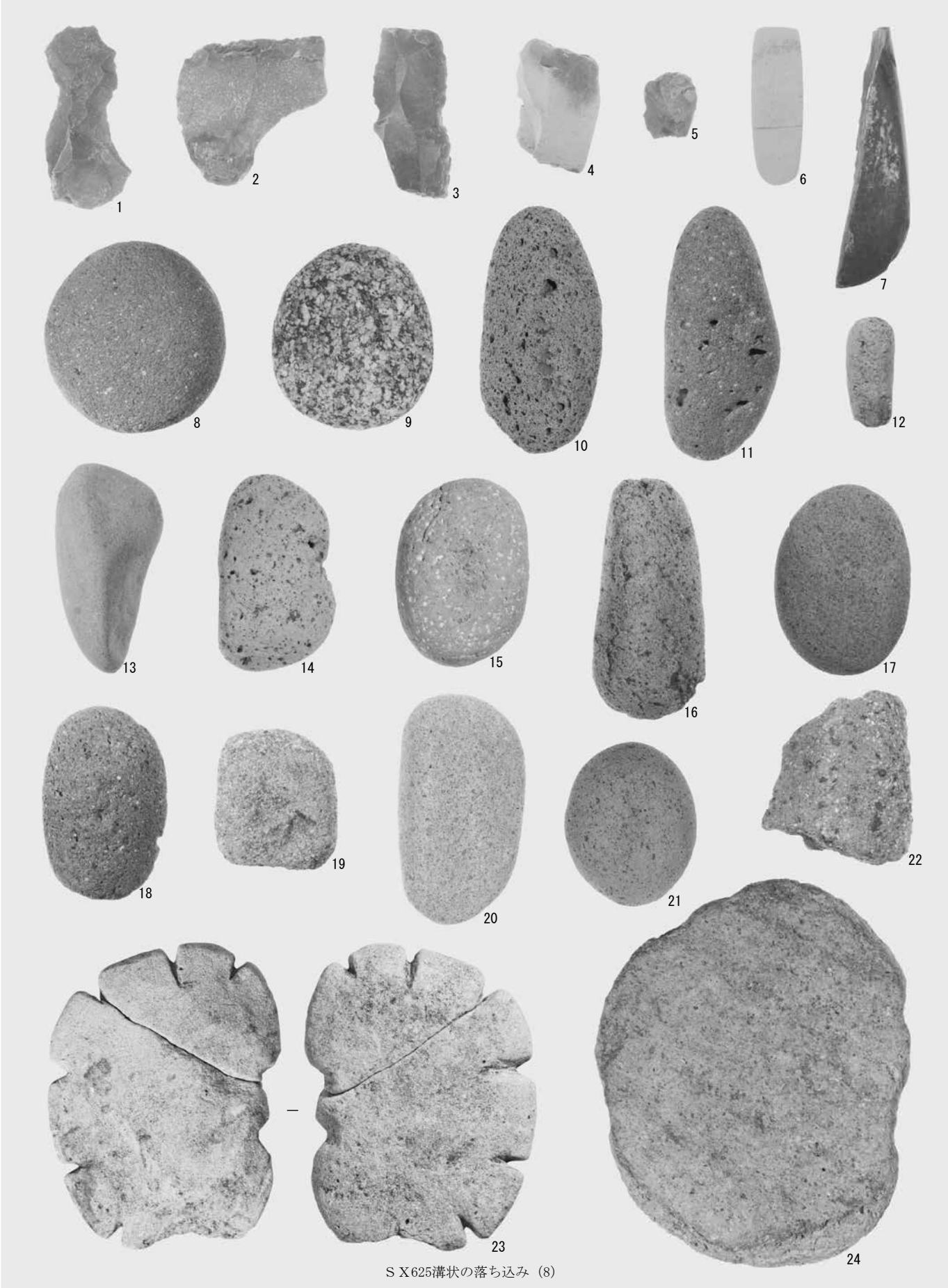


写真図版 225 縄文時代溝状の落ち込み出土遺物（16）



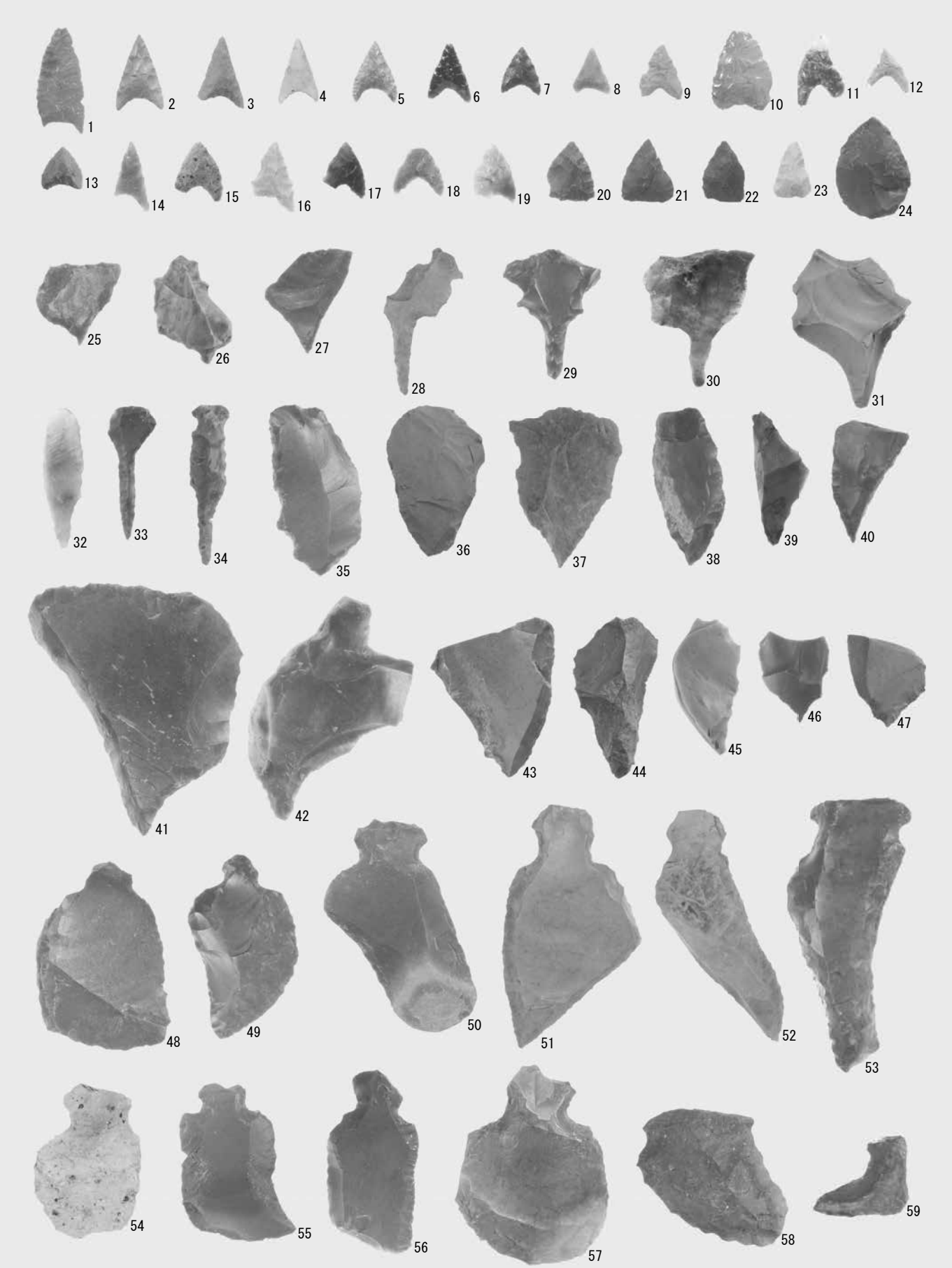
ＳＸ625溝状の落ち込み（7）

写真図版226　溝状の落ち込み出土遺物（17）



ＳＸ625溝状の落ち込み（8）

写真図版227　溝状の落ち込み出土遺物（18）

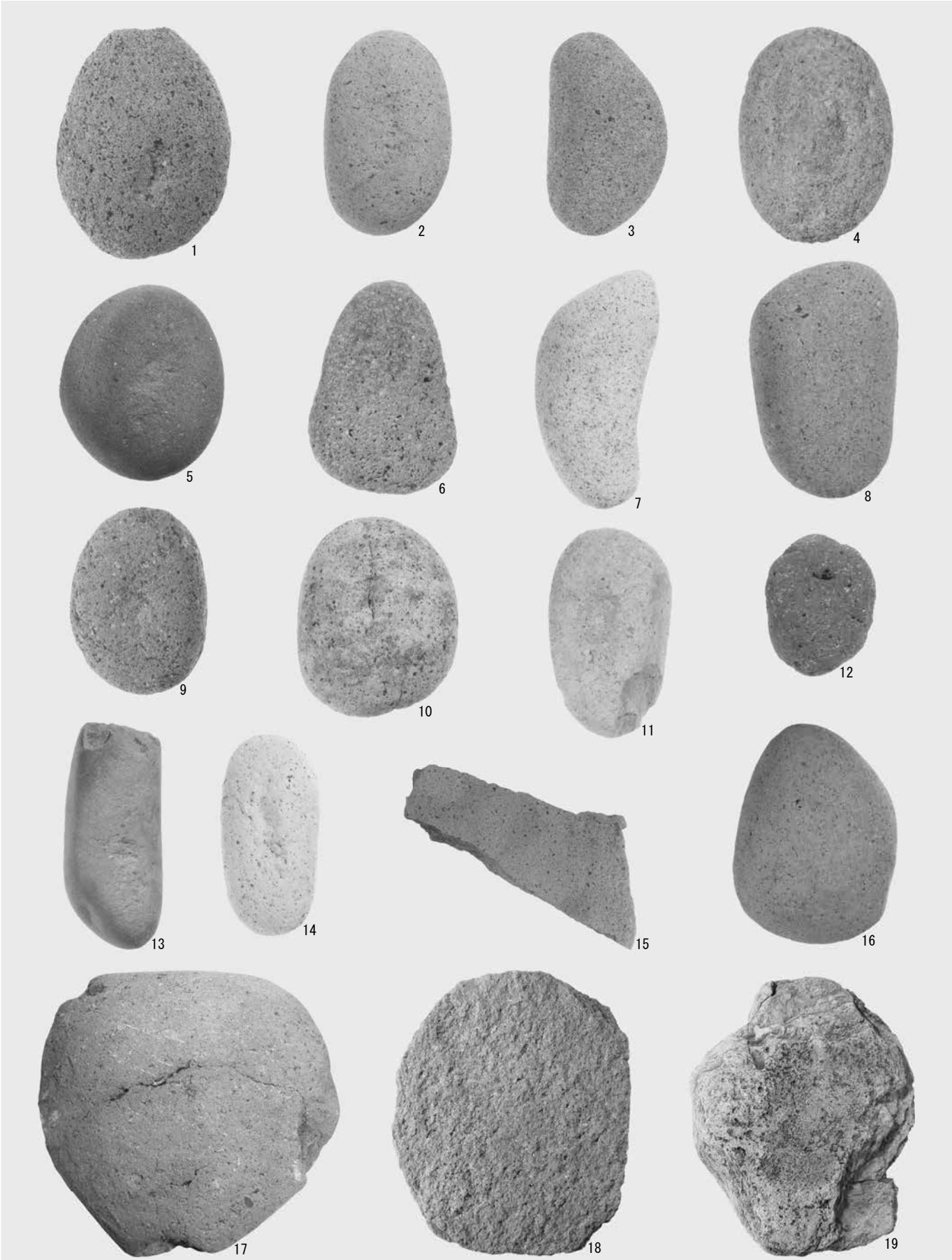


ＳＸ626溝状の落ち込み（11）

写真図版228　溝状の落ち込み出土遺物（19）

ＳＸ626溝状の落ち込み（12）

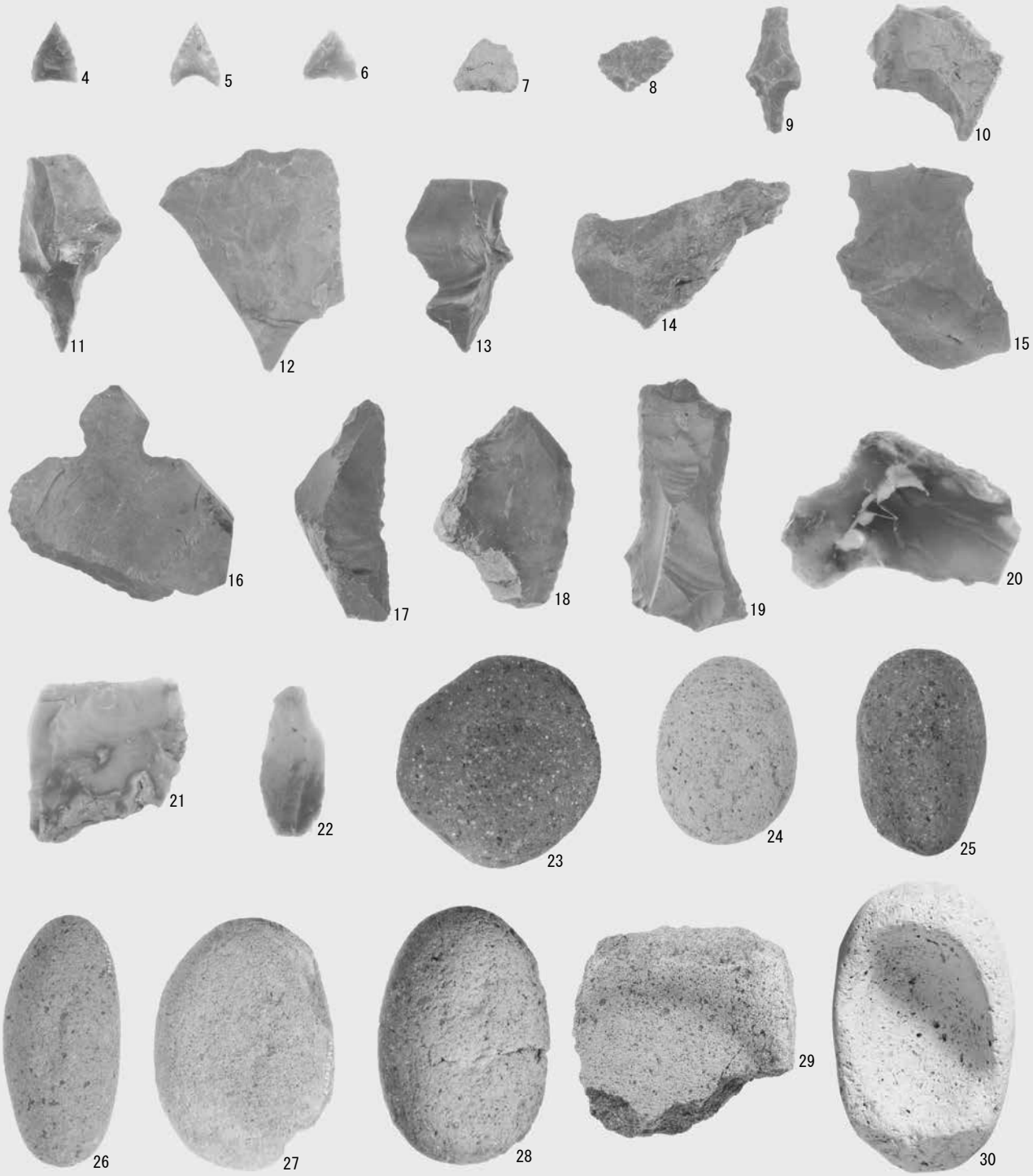
写真図版229　溝状の落ち込み出土遺物（20）



ＳＸ626溝状の落ち込み（13）

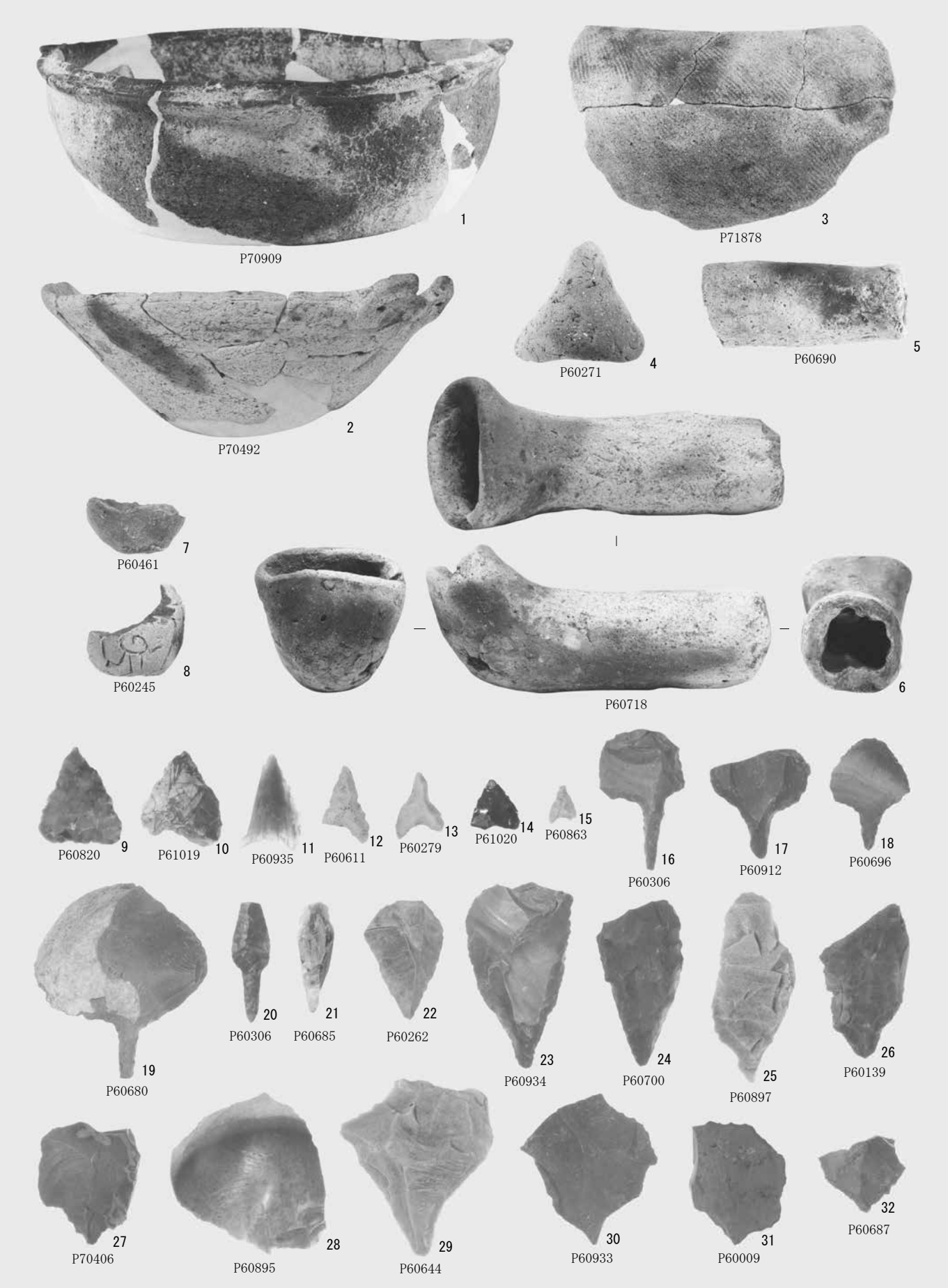
写真図版230　溝状の落ち込み出土遺物（21）

ＳＸ626　溝状の落ち込み（14）

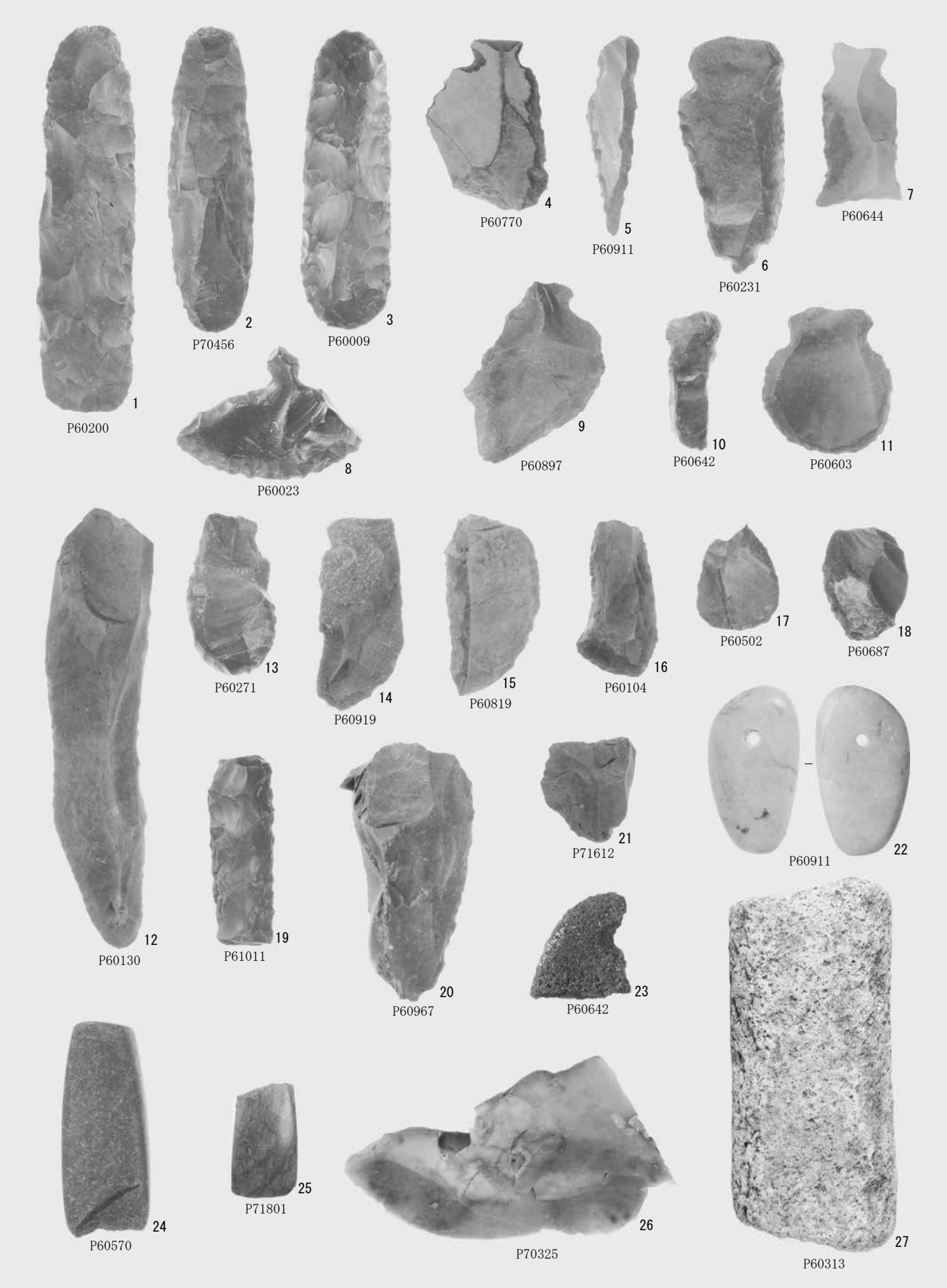


ＳＸ639溝状の落ち込み（4）

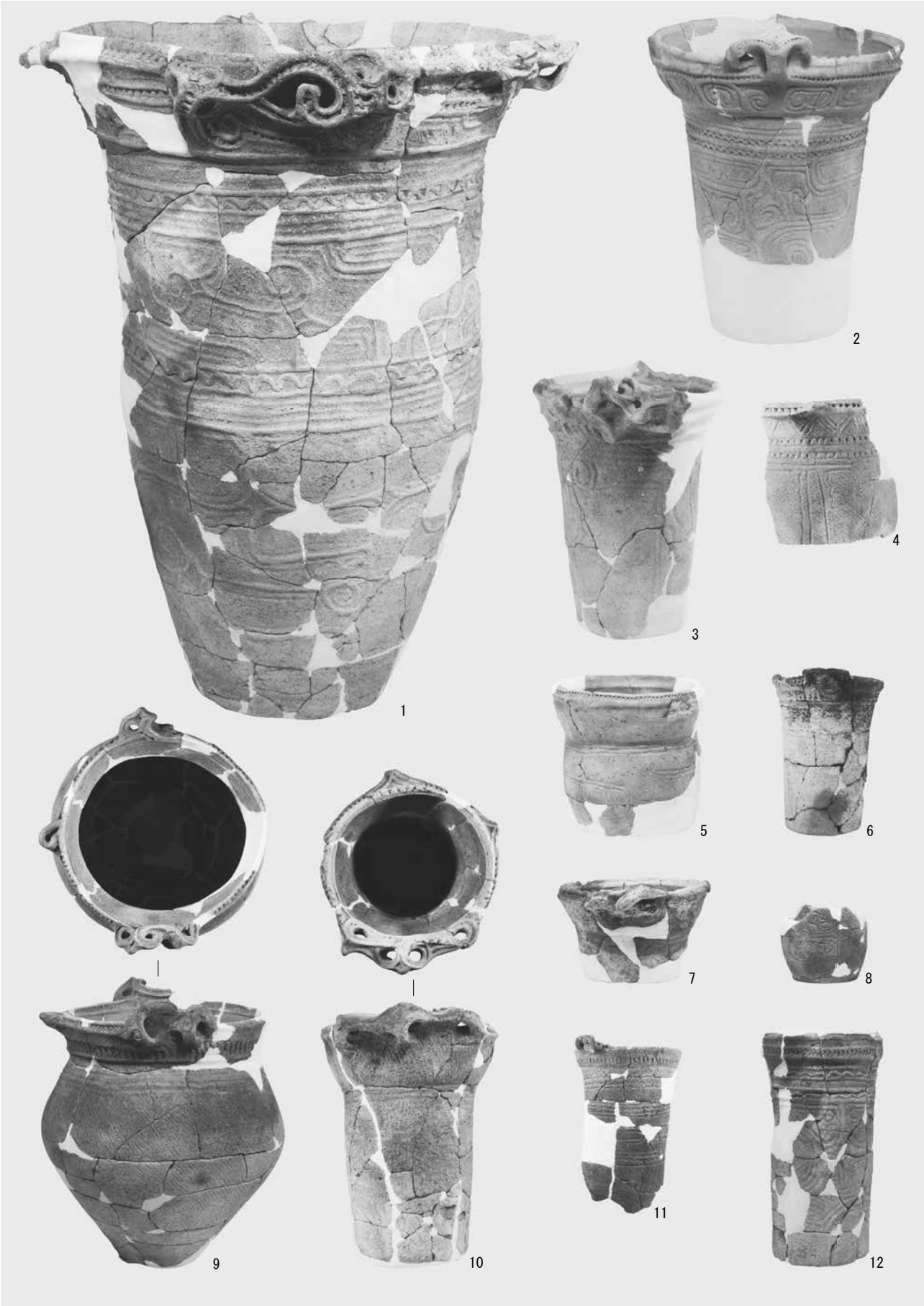
写真図版231　溝状の落ち込み出土遺物（22）



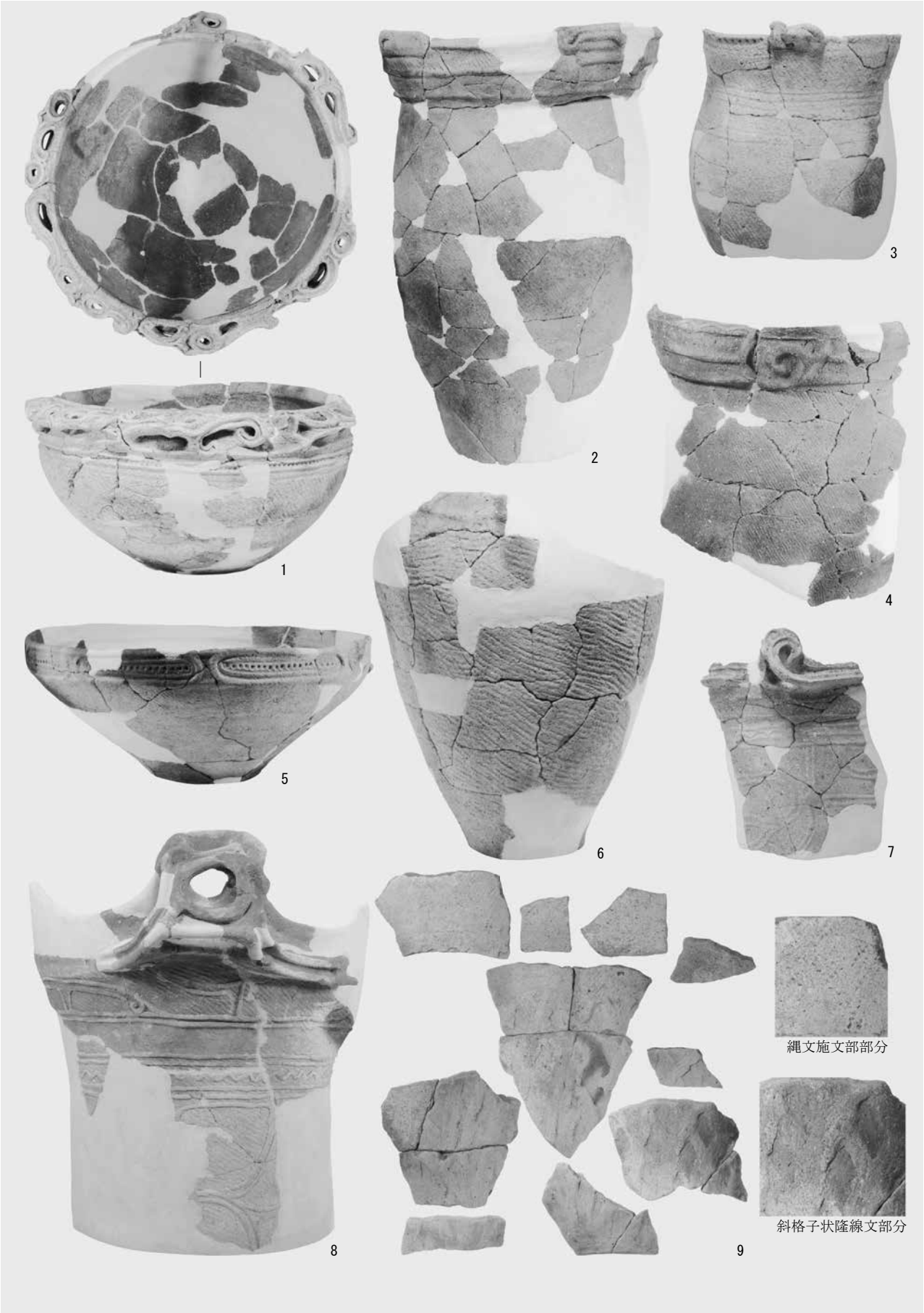
写真図版232　縄文時代ピット出土遺物（1）



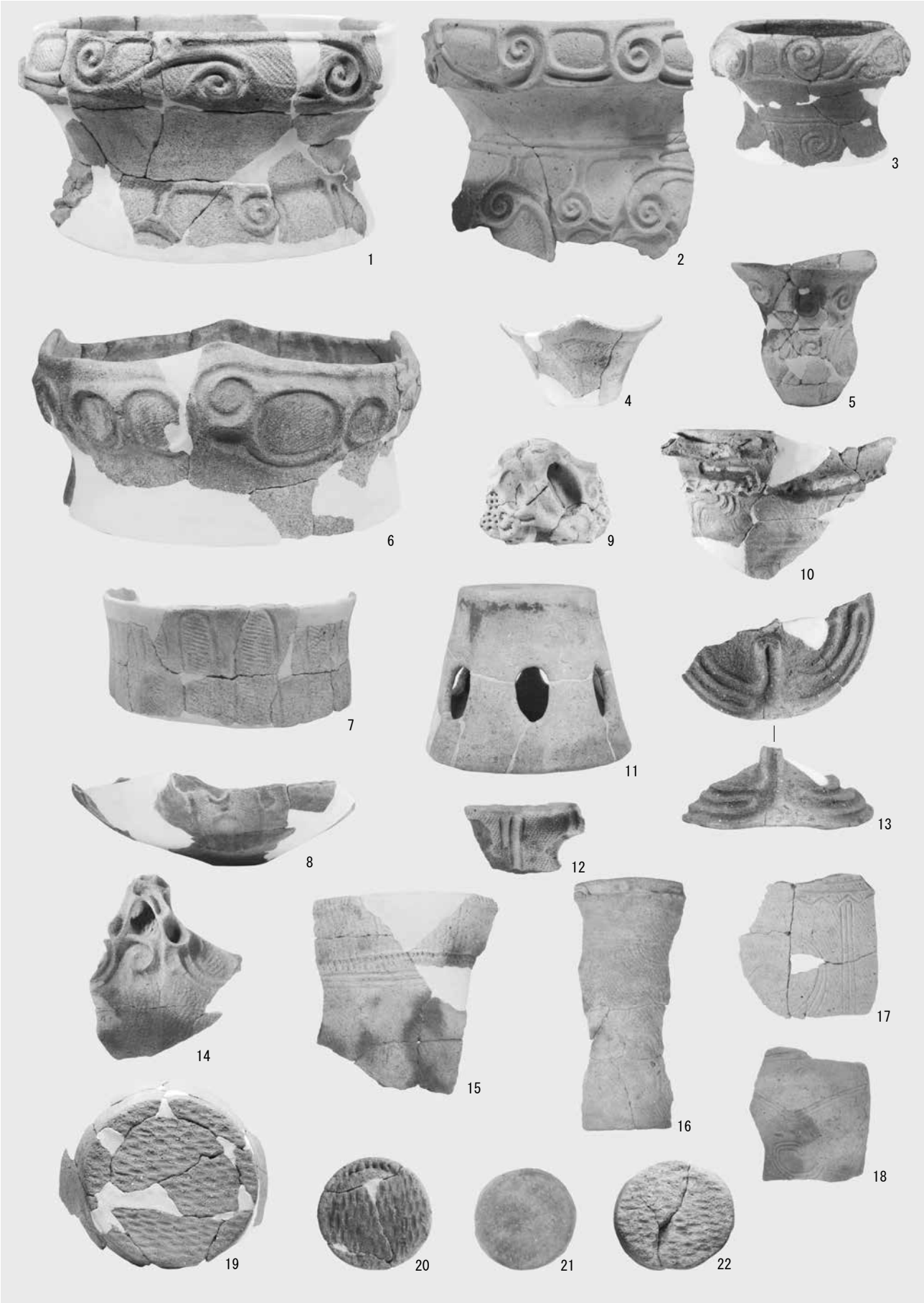
写真図版233　縄文時代ピット出土遺物（2）



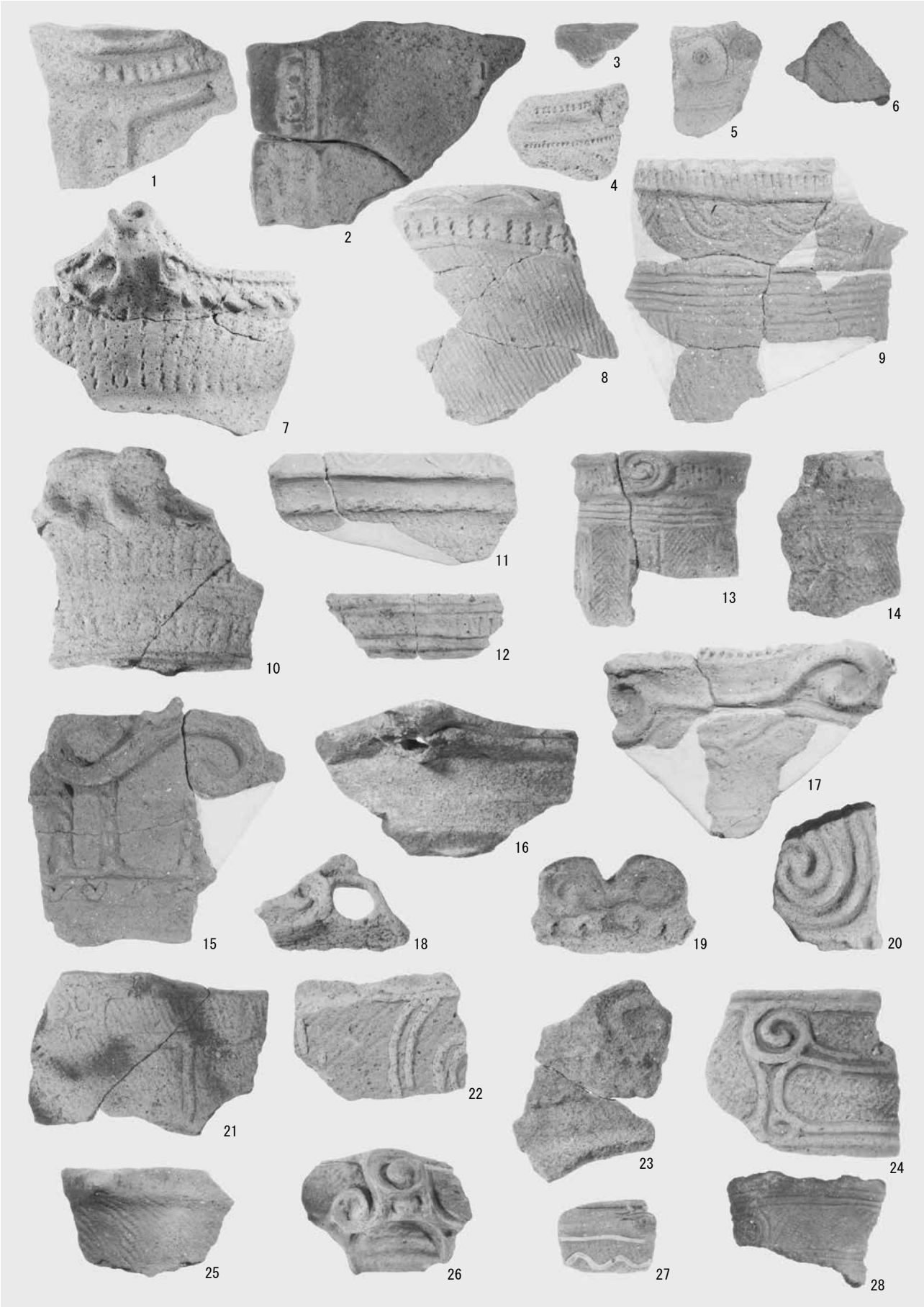
写真図版 234 縄文時代遺構外出土遺物（1）



写真図版 235 縄文時代遺構外出土遺物（2）

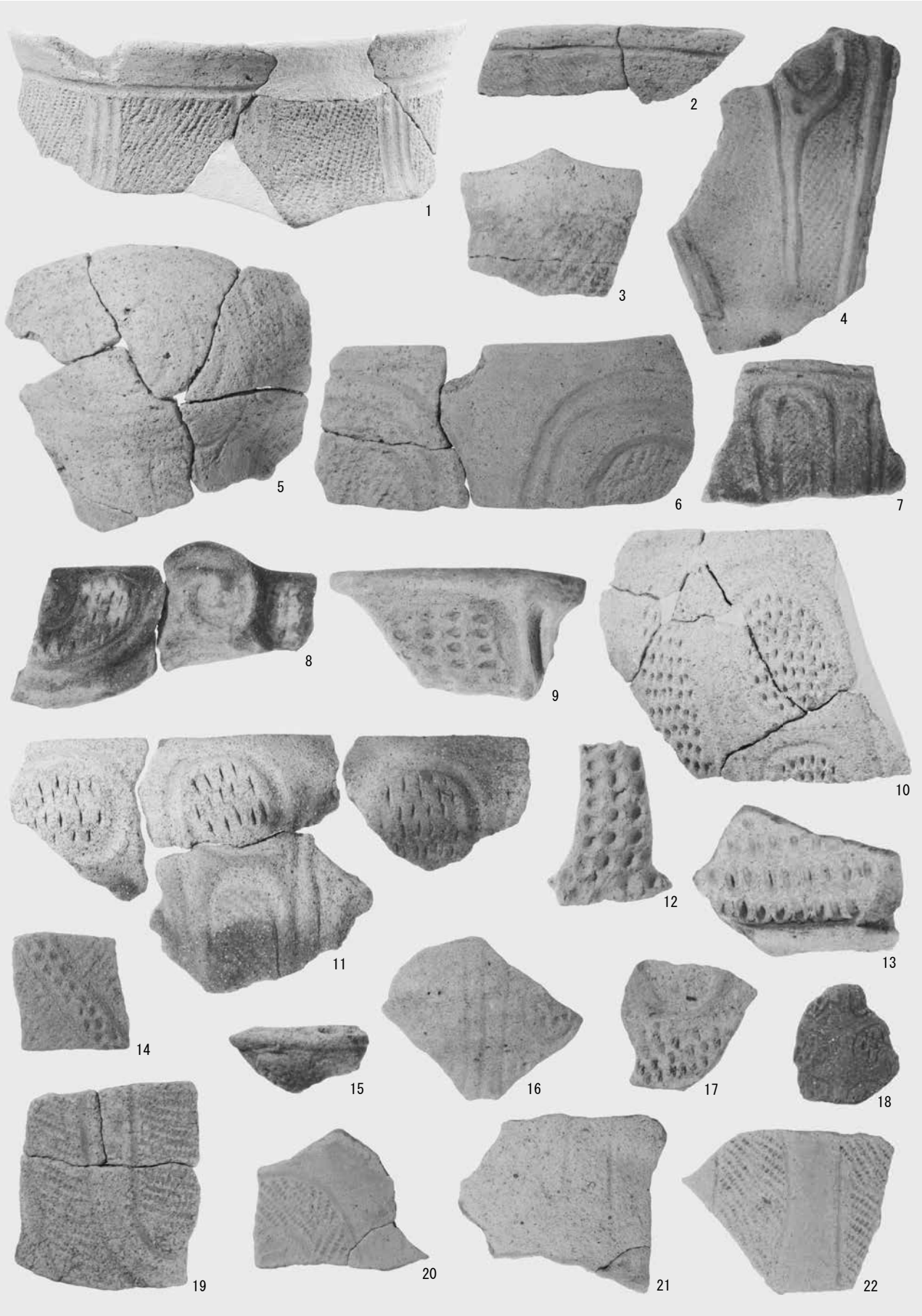


写真図版 236 縄文時代遺構外出土遺物（3）

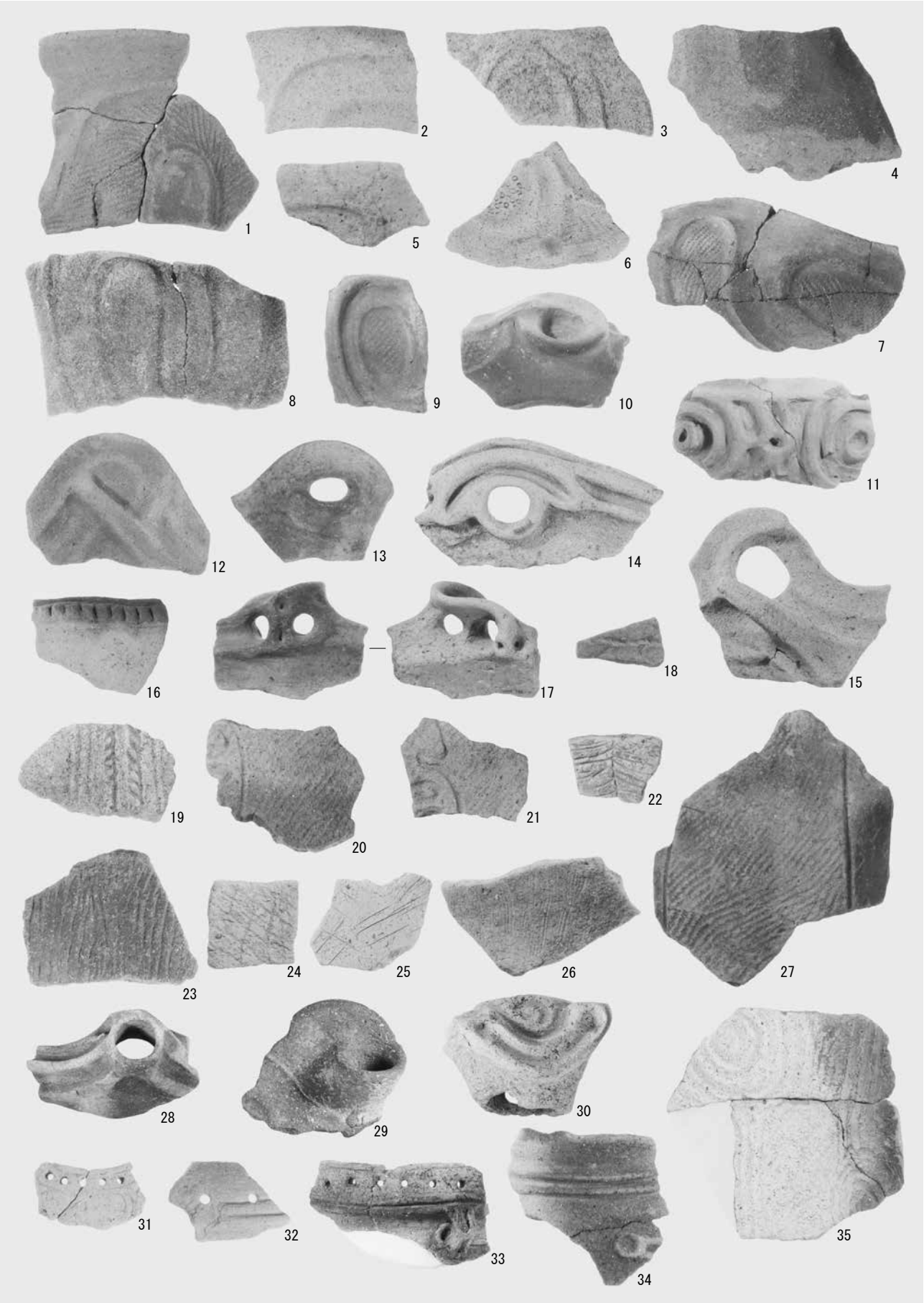


写真図版 237 縄文時代遺構外出土遺物（4）

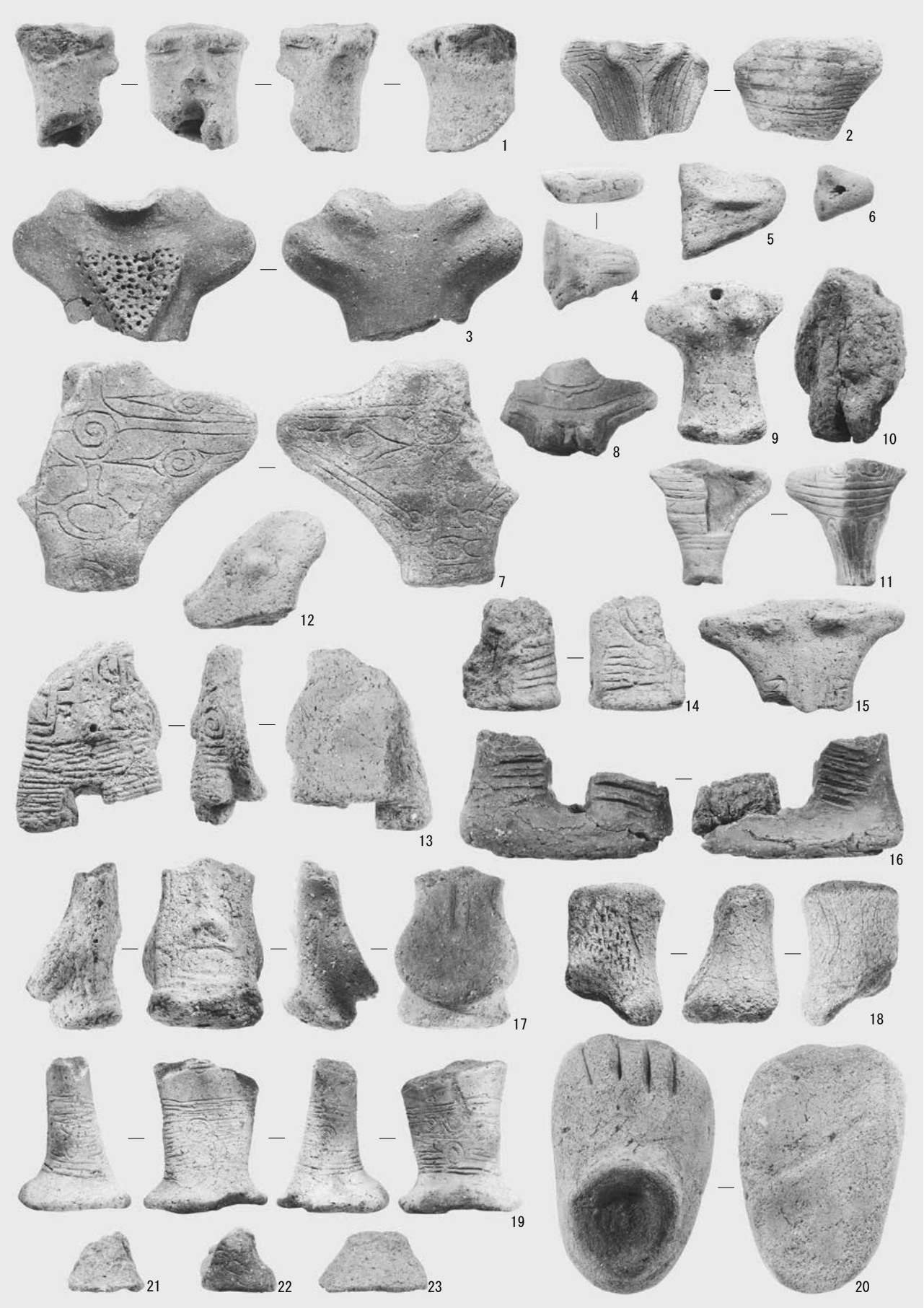
写真図版 238 縄文時代遺構外出土遺物（5）



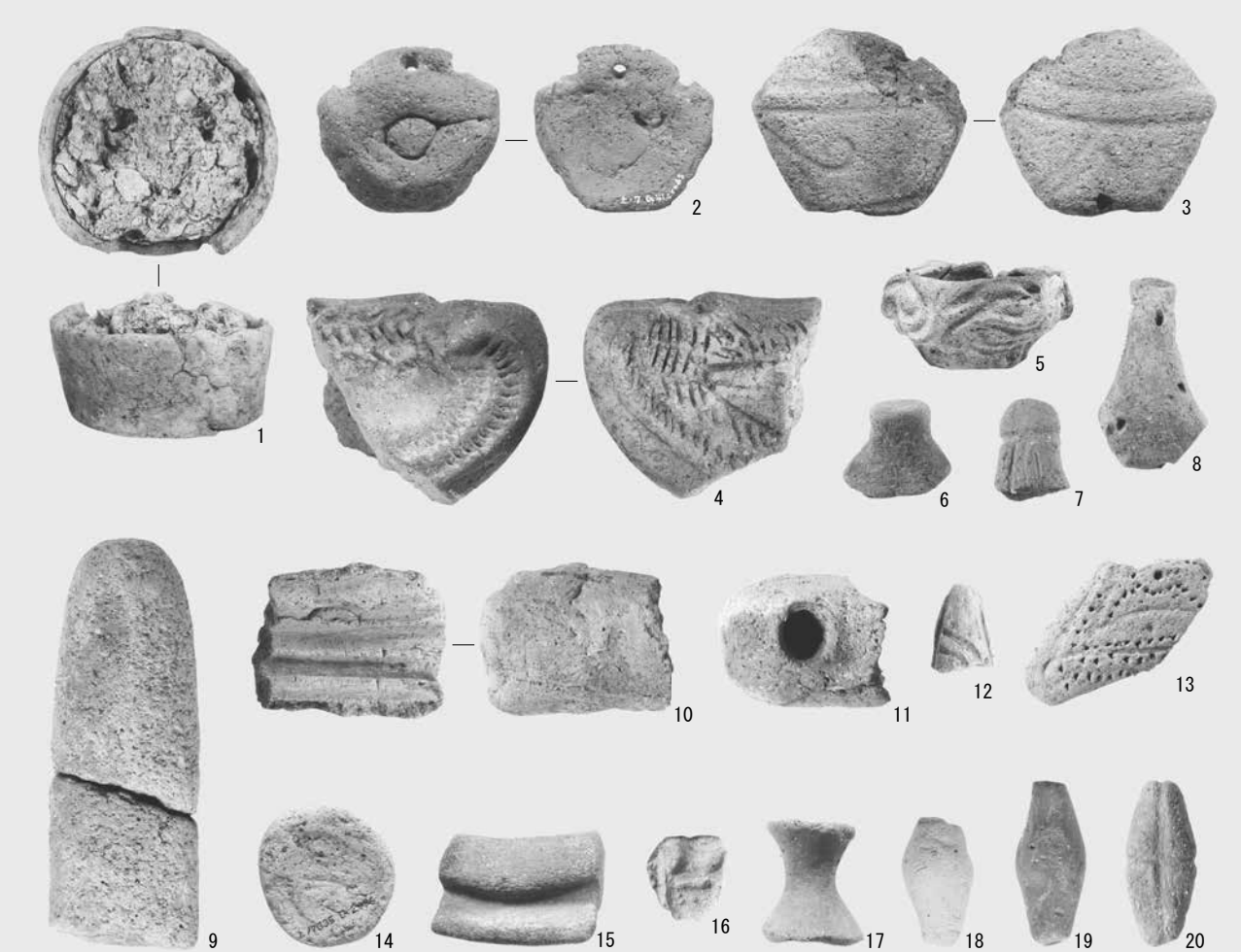
写真図版 239 縄文時代遺構外出土遺物（6）



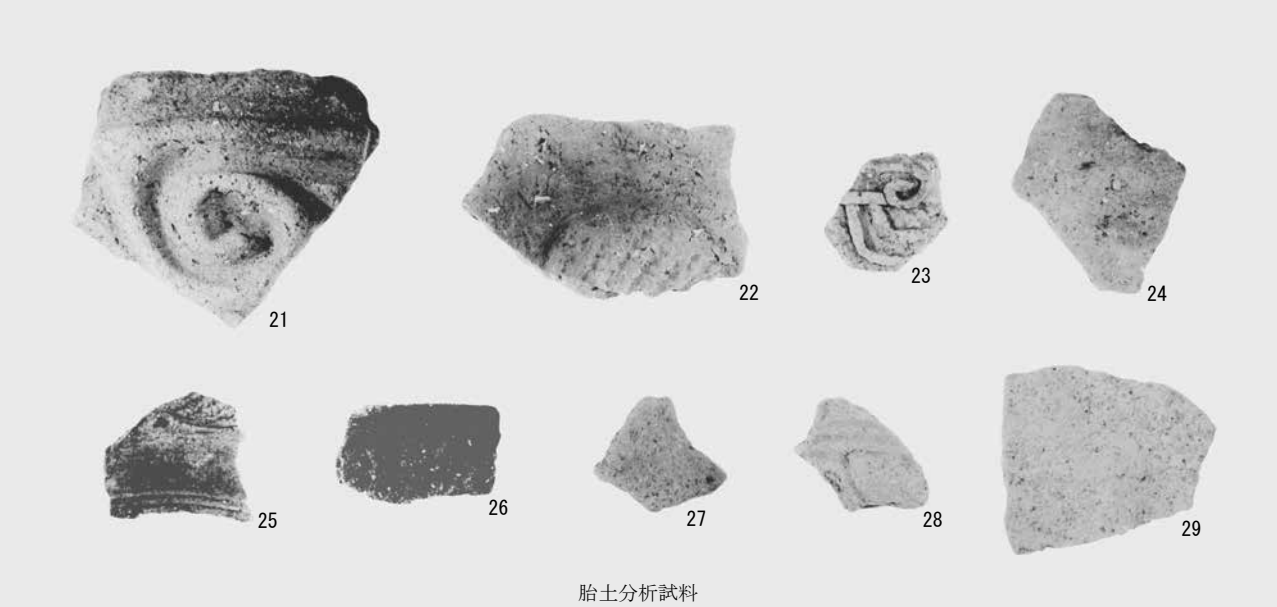
写真図版 240 縄文時代遺構外出土遺物（7）



写真図版 241 縄文時代遺構外出土遺物（8）

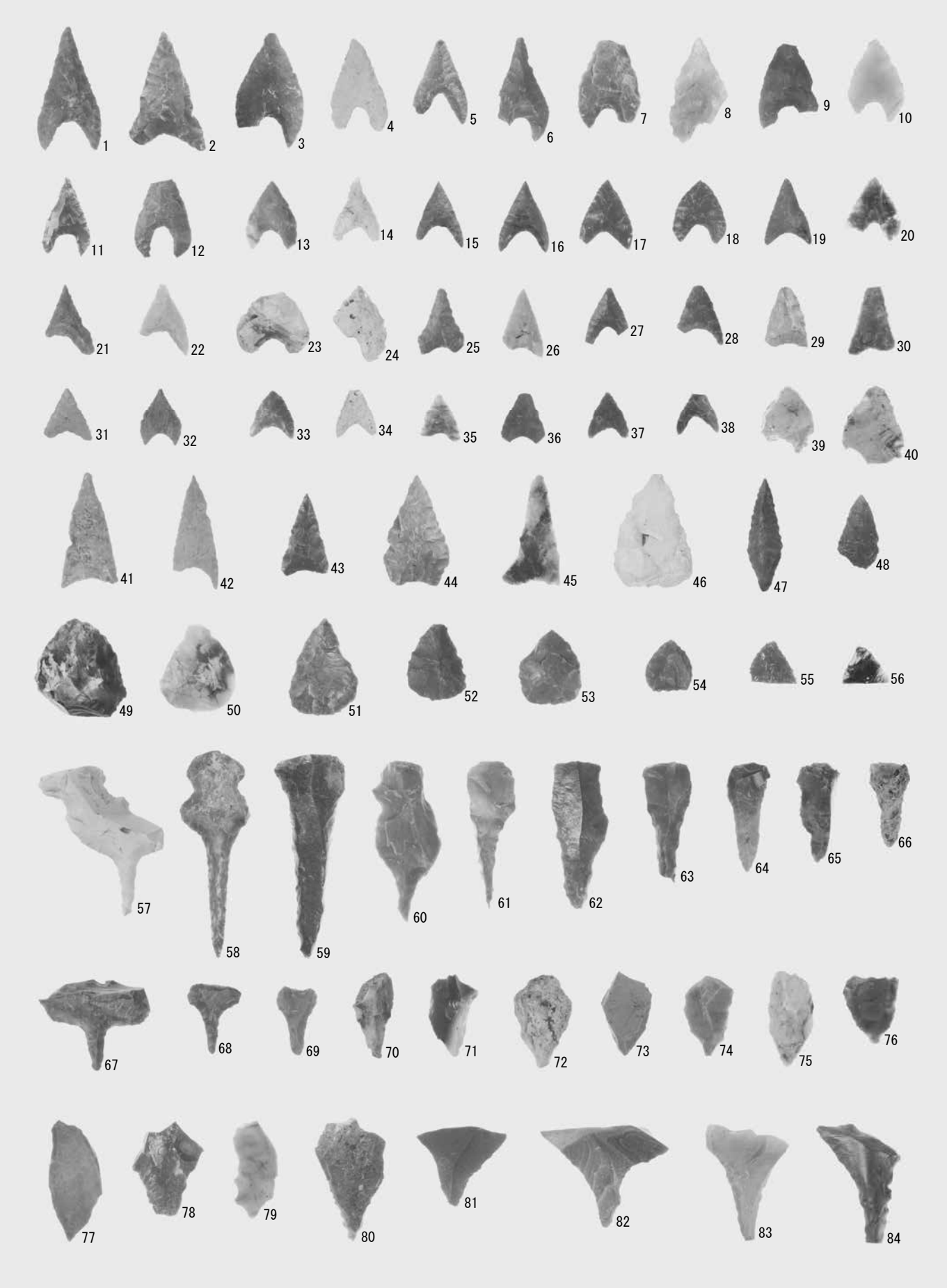


縄文時代遺構外

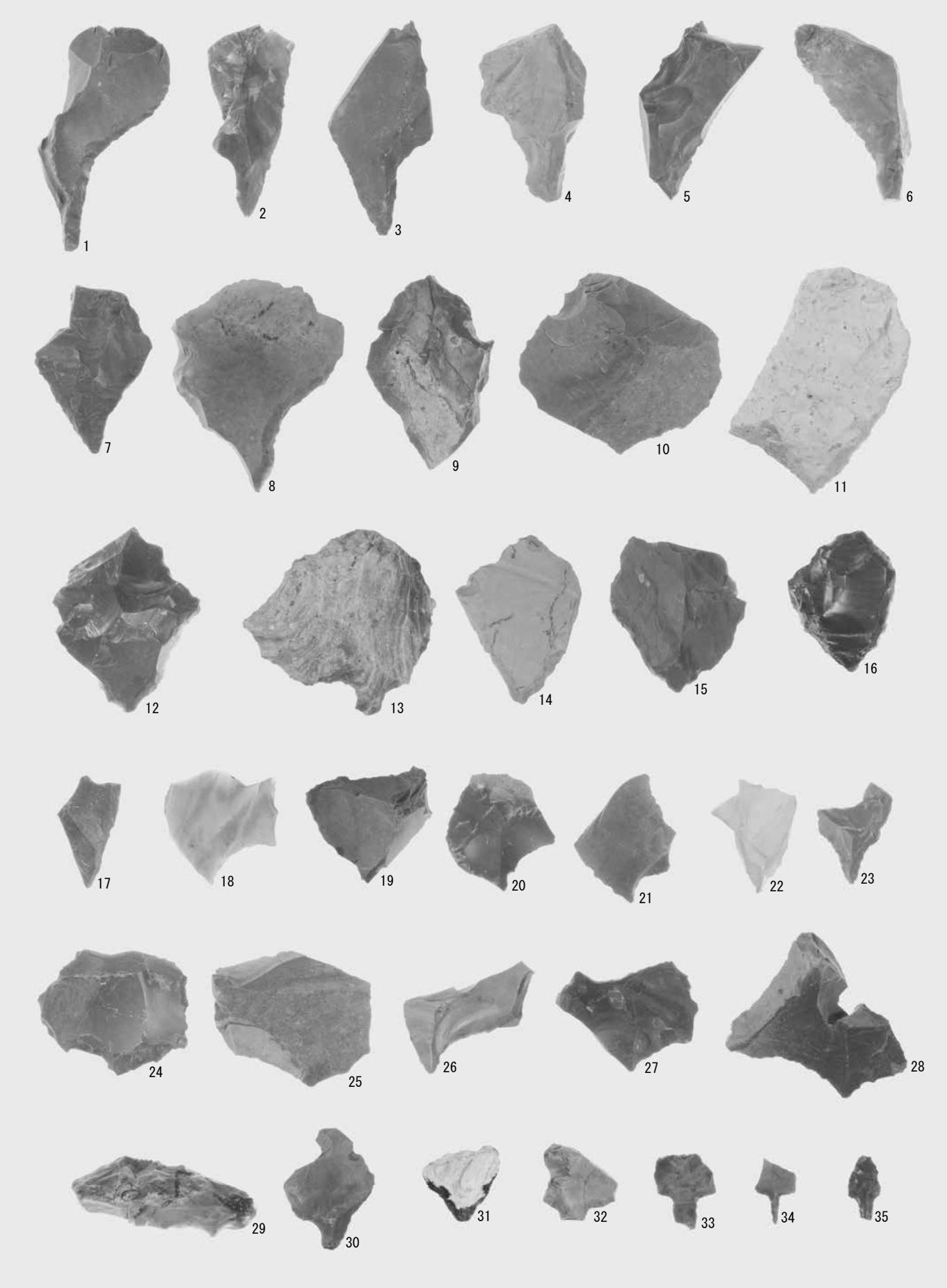


胎土分析試料

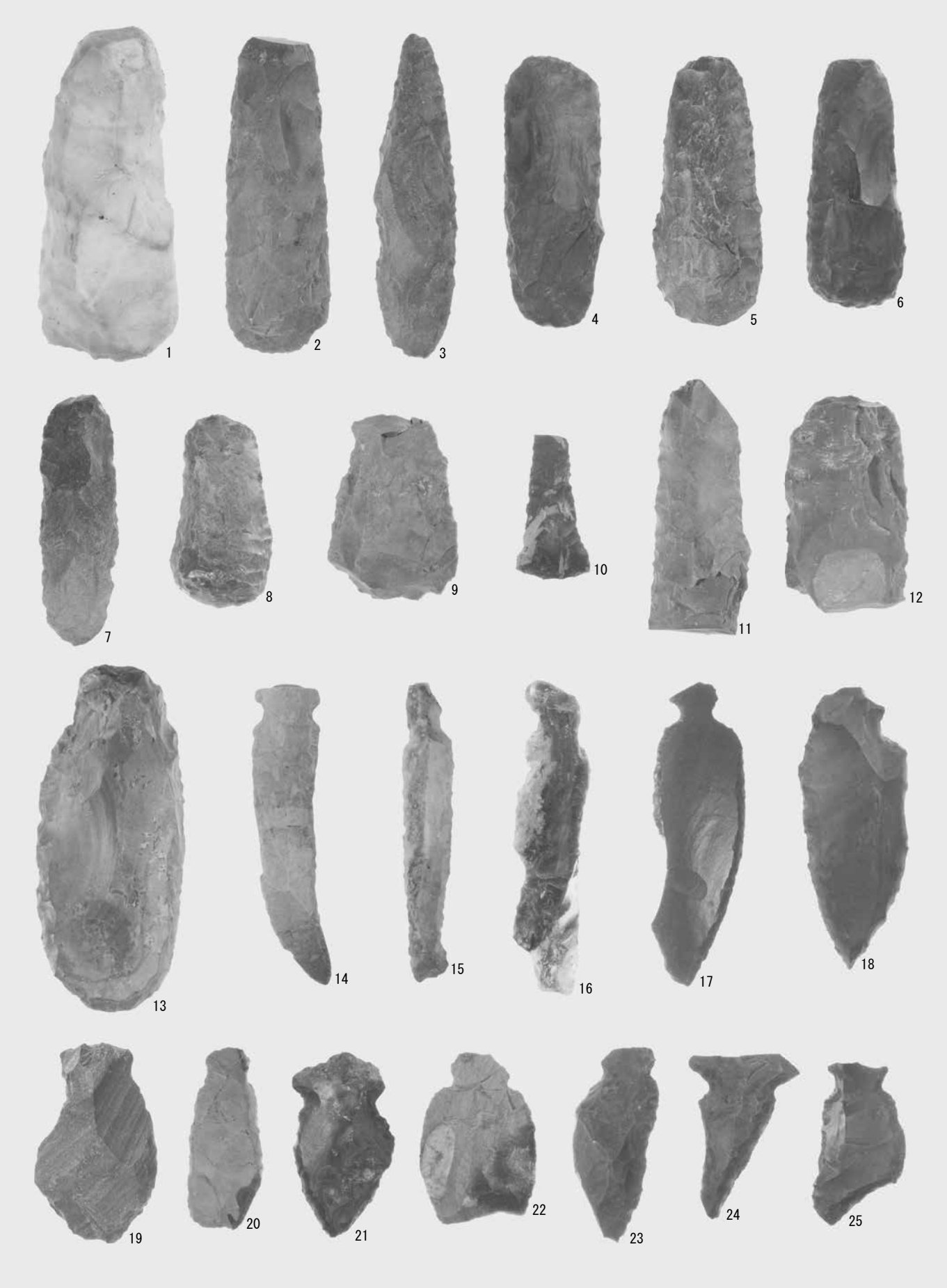
写真図版 242 縄文時代遺構外出土遺物（9）・胎土分析試料



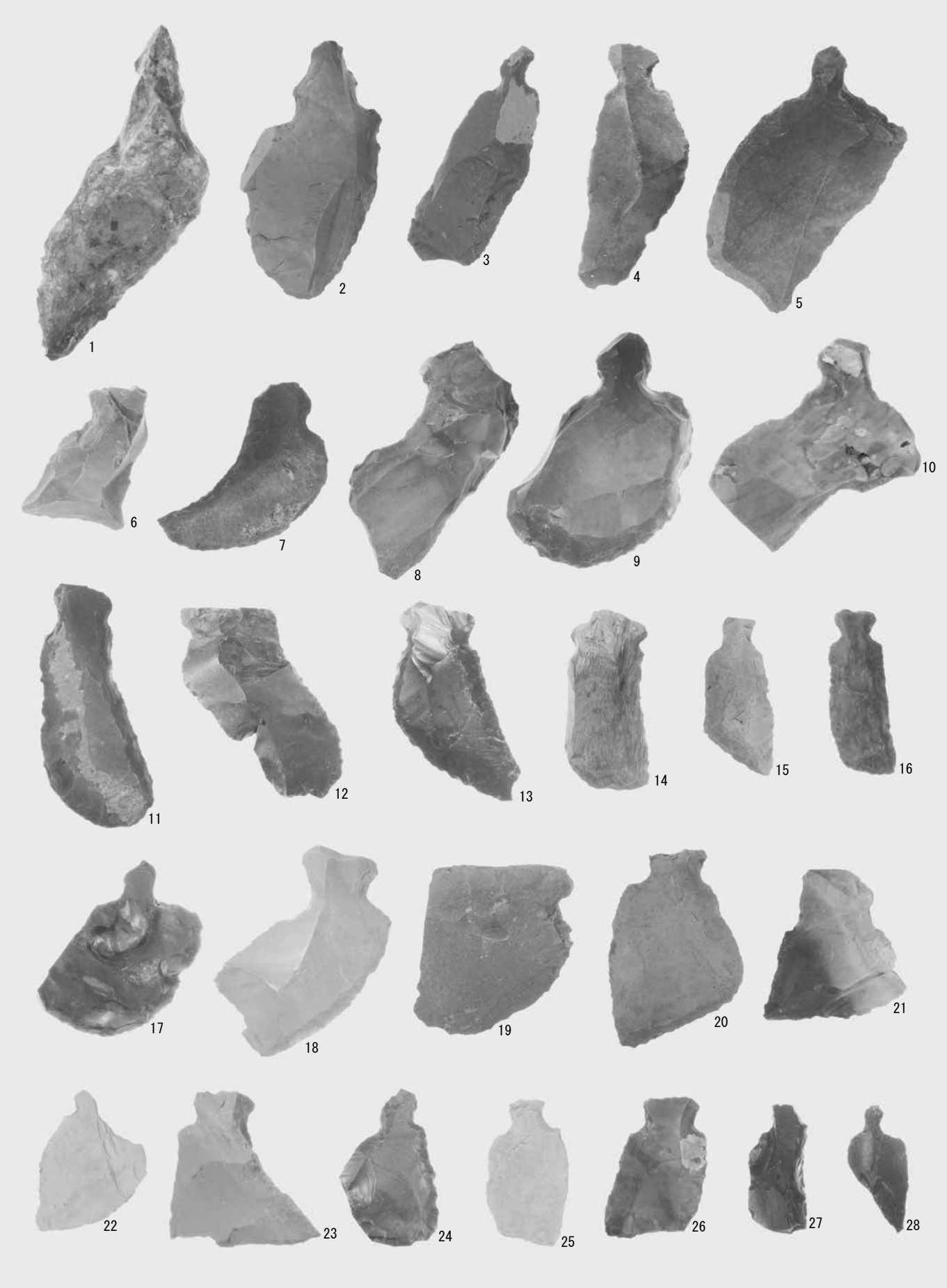
写真図版243　縄文時代遺構外出土遺物（10）



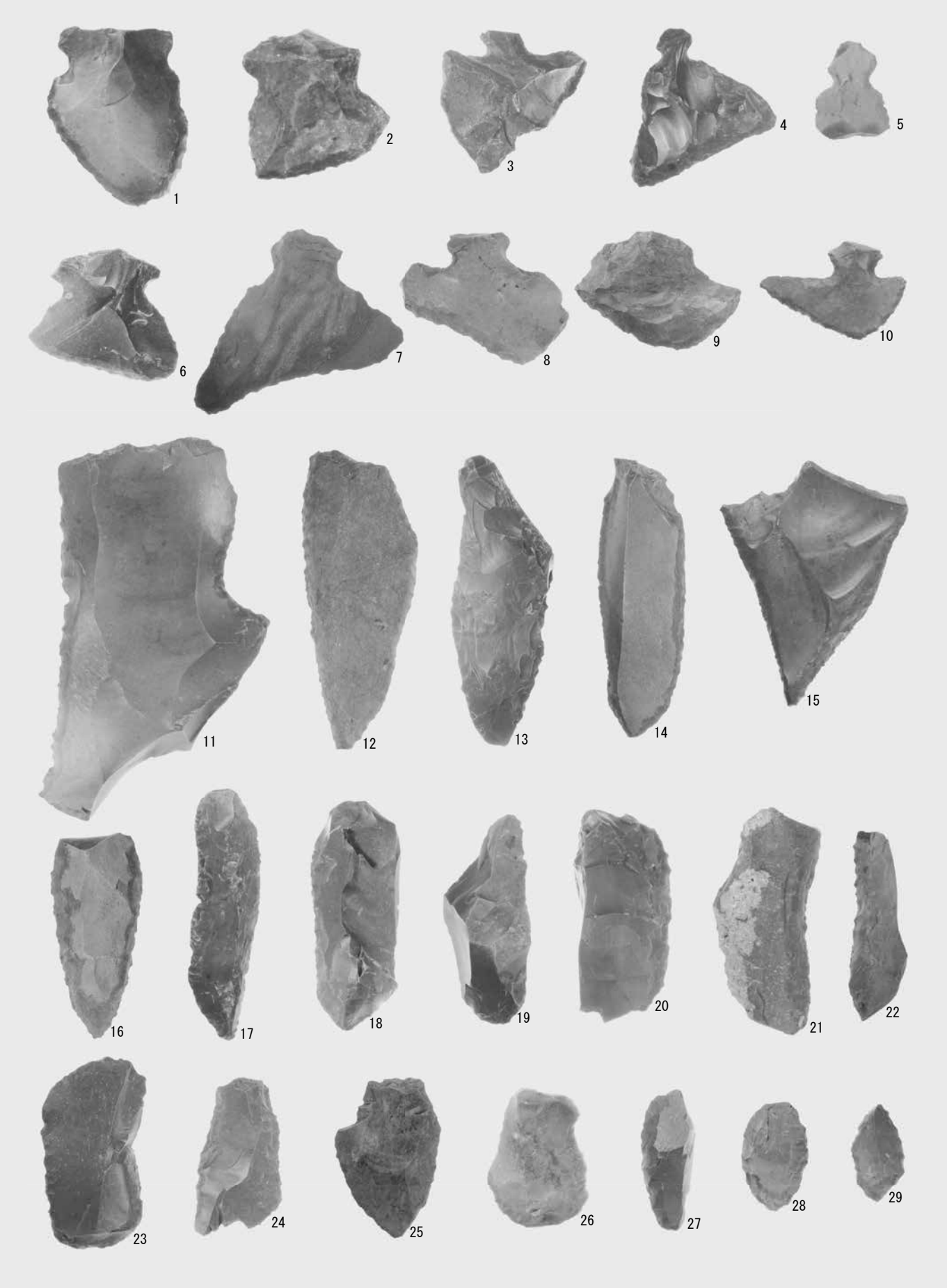
写真図版244　縄文時代遺構外出土遺物（11）



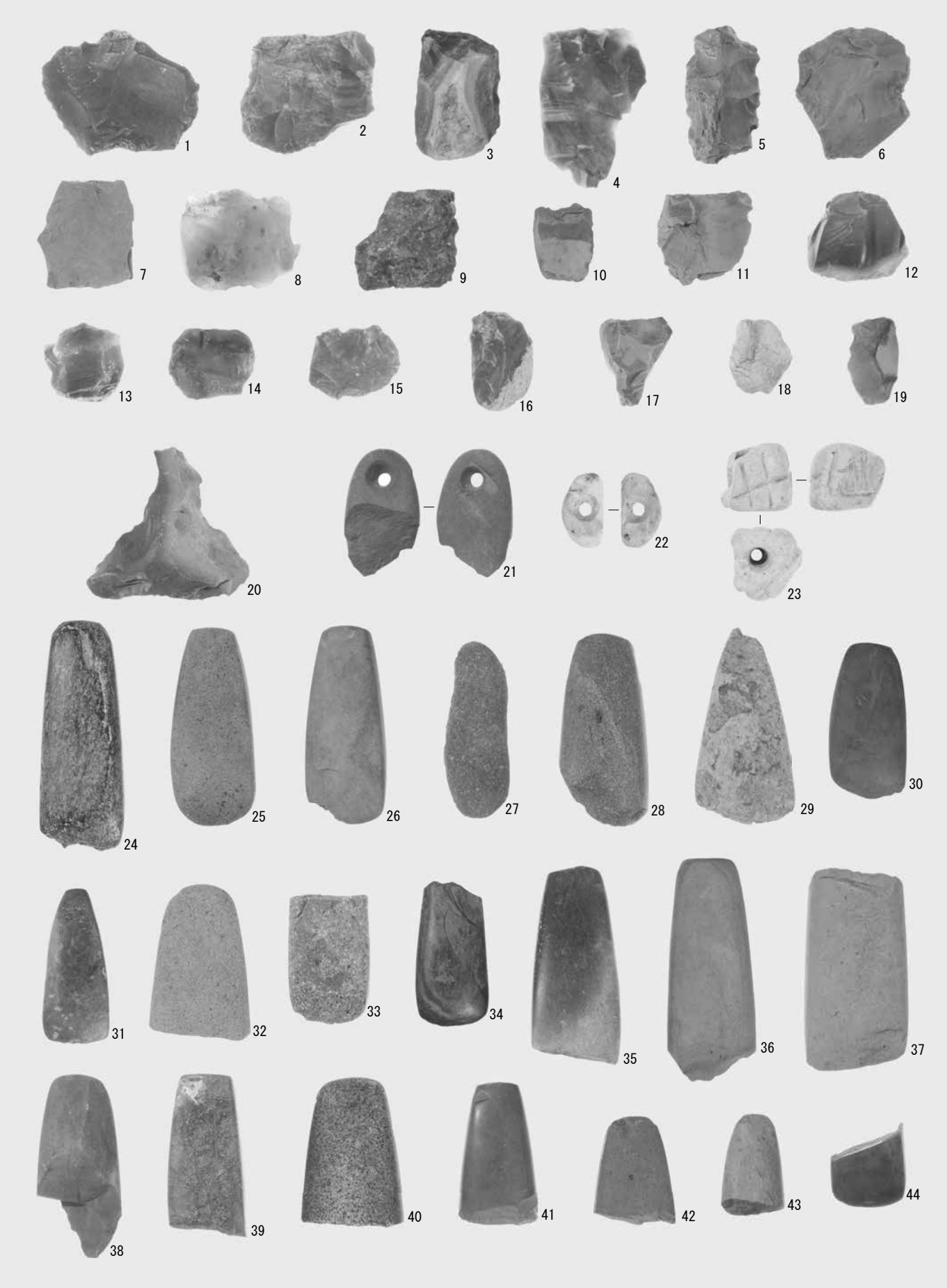
写真図版245　縄文時代遺構外出土遺物（12）



写真図版246　縄文時代遺構外出土遺物（13）

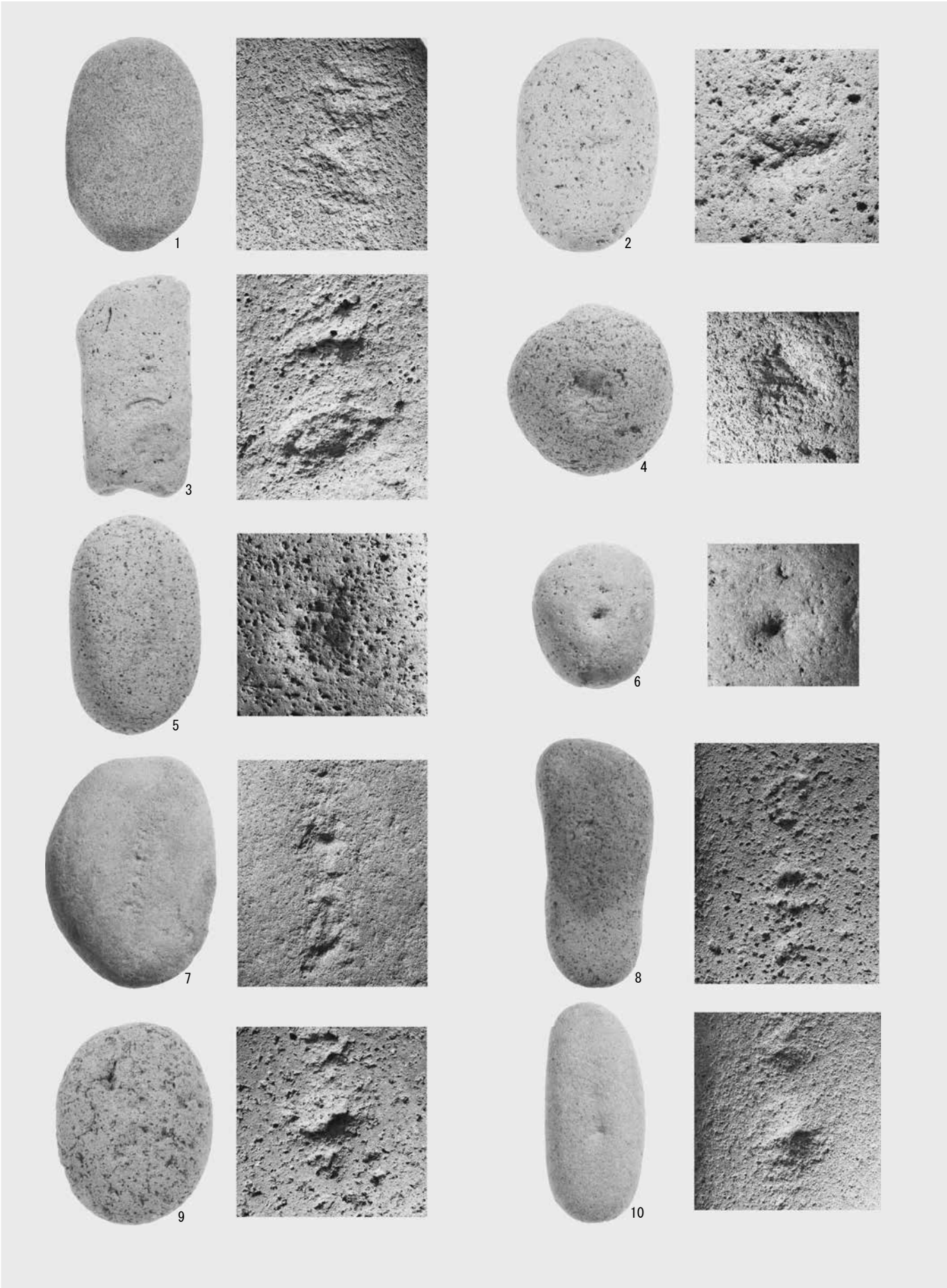


写真図版247　縄文時代遺構外出土遺物（14）



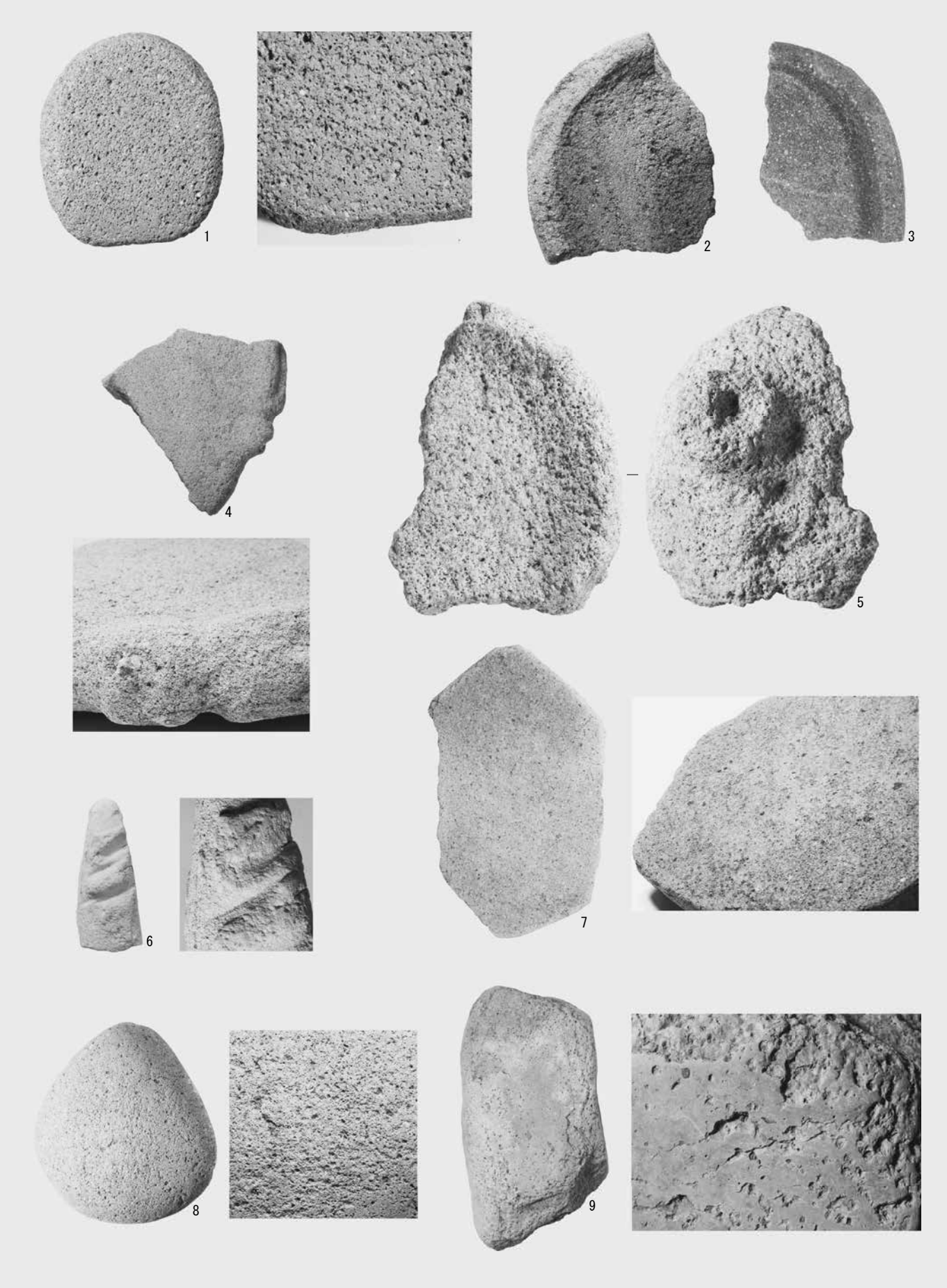
写真図版248　縄文時代遺構外出土遺物（15）

写真図版249　縄文時代遺構外出土遺物（16）

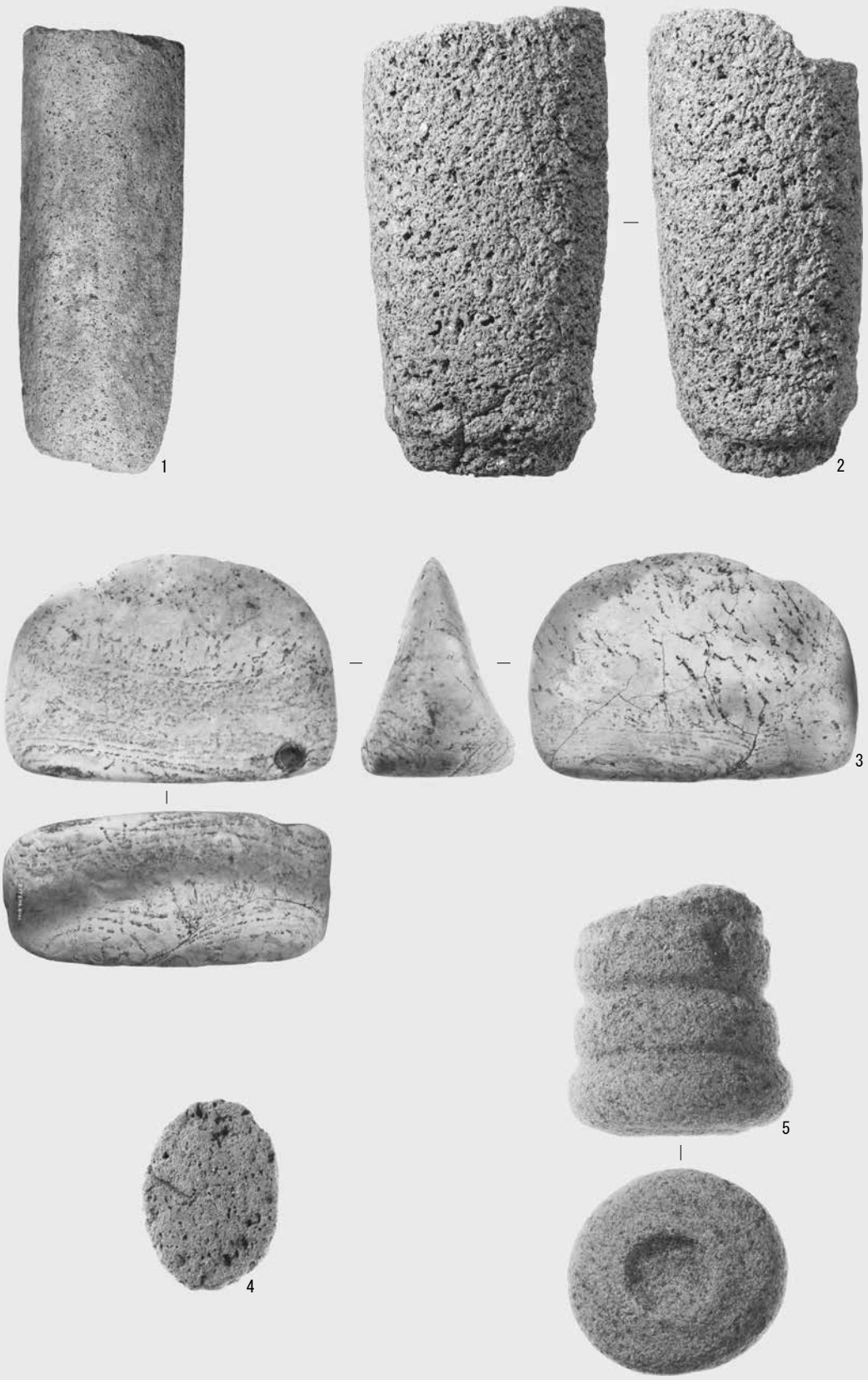


写真図版250　縄文時代遺構外出土遺物（17）

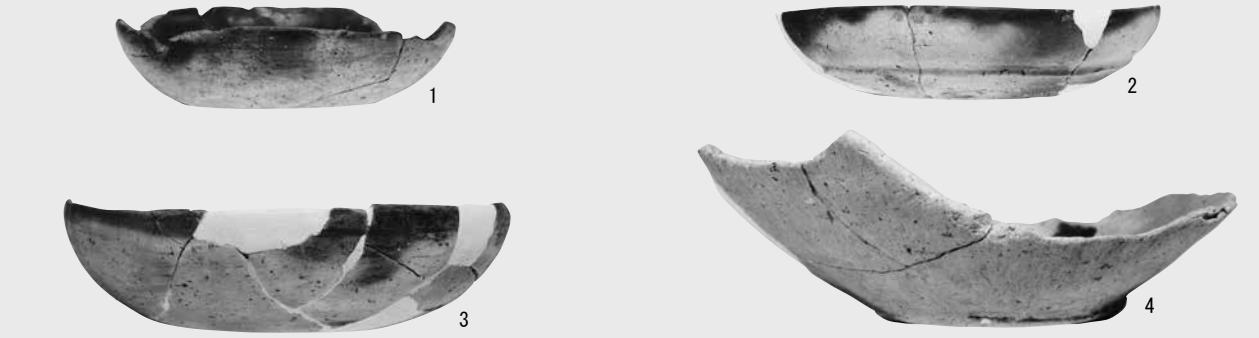
写真図版251　縄文時代遺構外出土遺物（18）



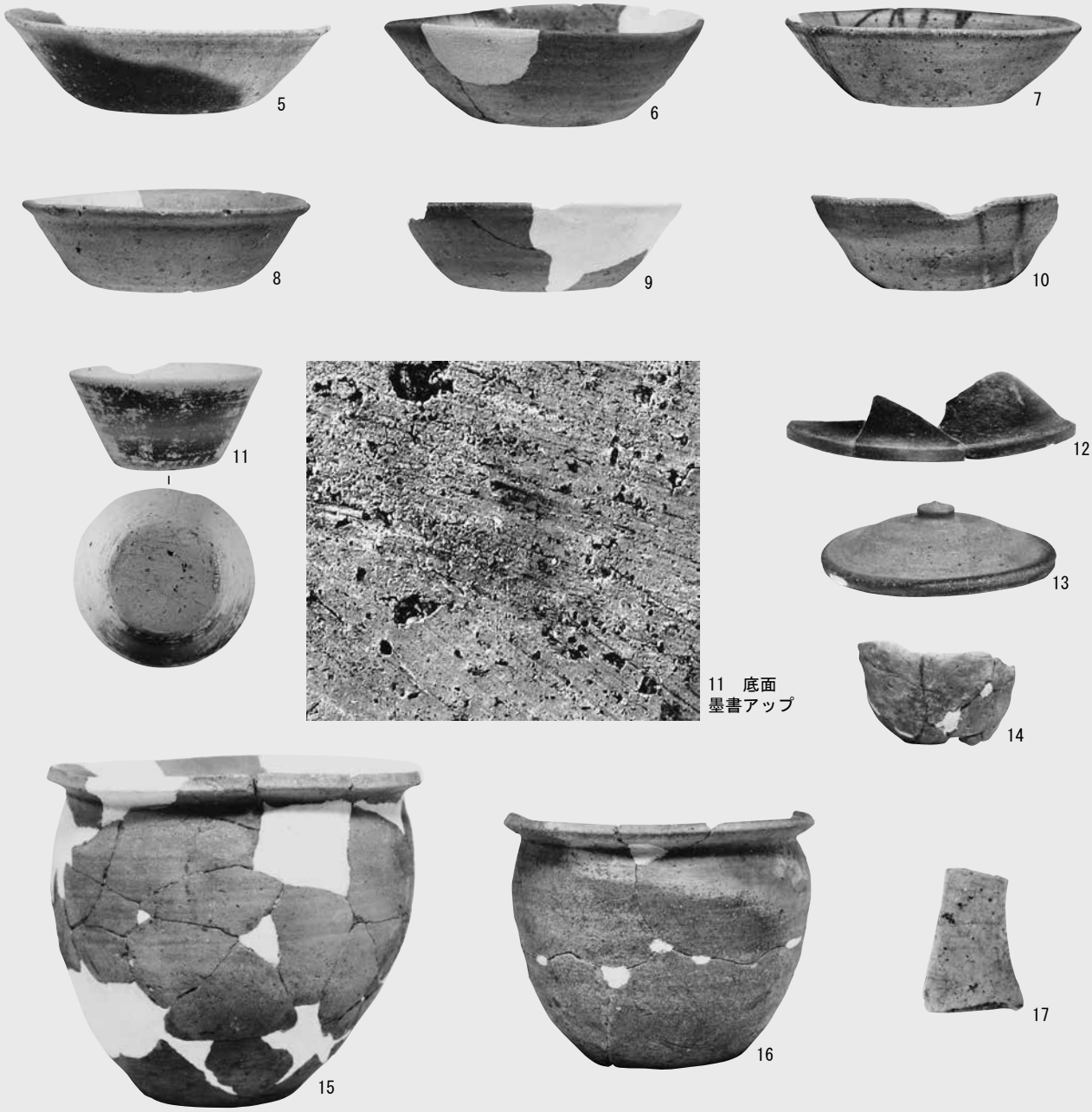
写真図版252　縄文時代遺構外出土遺物（19）



写真図版253　縄文時代遺構外出土遺物（20）



ＳＩ603竪穴住居跡出土遺物



ＳＩ606竪穴住居跡出土遺物（1）

写真図版 254　古代以降竪穴住居跡出土遺物（1）

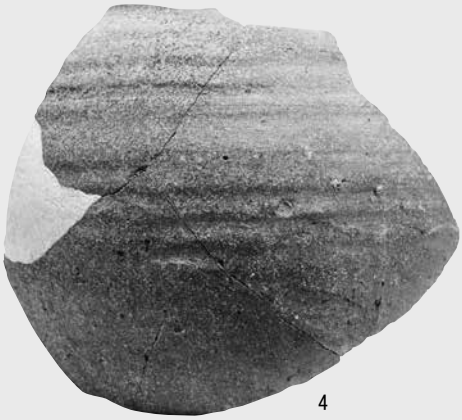
ＳＩ606竪穴住居跡出土遺物（2）

ＳＩ607竪穴住居跡出土遺物

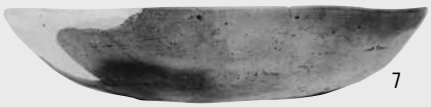
ＳＩ608竪穴住居跡出土遺物

ＳＩ713竪穴住居跡出土遺物（1）

写真図版 255　古代以降竪穴住居跡出土遺物（2）



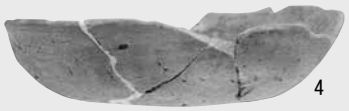
ＳＩ713竪穴住居跡出土遺物（2）

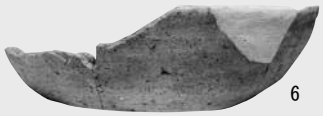


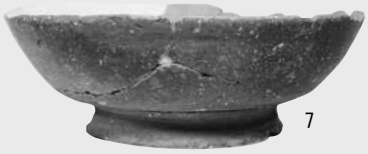
ＳＩ720竪穴住居跡出土遺物（1）

写真図版 256　古代以降竪穴住居跡出土遺物（3）

ＳＩ720竪穴住居跡出土遺物（2）







ＳＩ721竪穴住居跡出土遺物

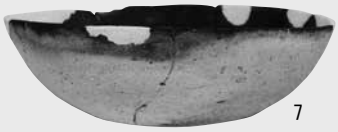
写真図版 257　古代以降竪穴住居跡出土遺物（4）

ＳＩ722竪穴住居跡出土遺物

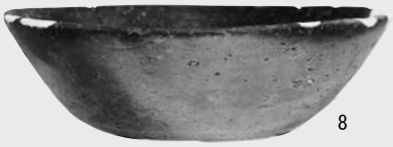
ＳＩ724竪穴住居跡出土遺物

写真図版 258　古代以降竪穴住居跡出土遺物（5）

ＳＫ6006土坑出土遺物

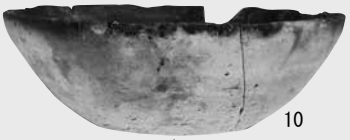


ＳＫ6008土坑出土遺物

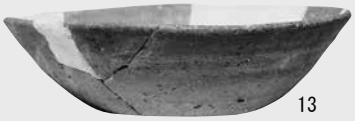


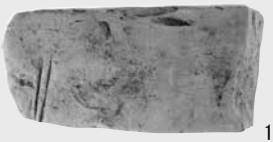
ＳＫ6011土坑出土遺物

ＳＫ6060土坑出土遺物



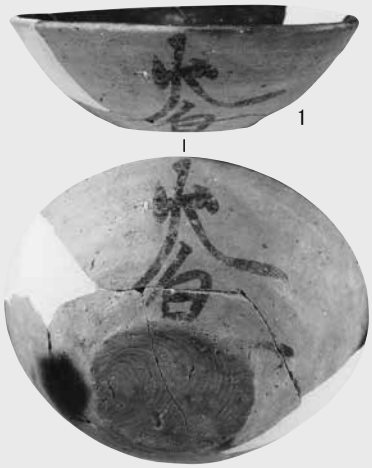
墨書部分





ＳＫ6051土坑出土遺物

写真図版 259　古代以降土坑出土遺物（1）



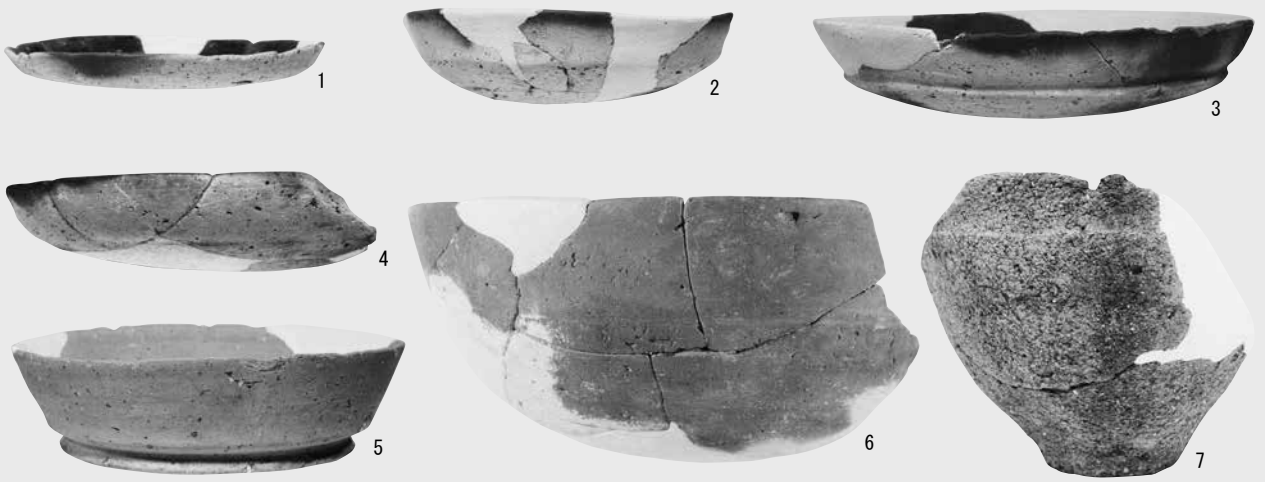
1　墨書部分

ＳＫ6070土坑出土遺物

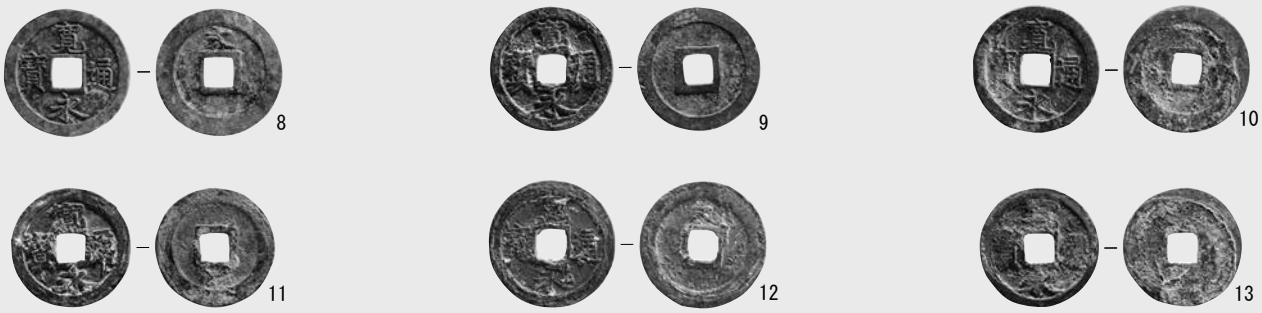
ＳＫ6071土坑出土遺物

ＳＫ6195土坑出土遺物

写真図版 260　古代以降土坑出土遺物（2）

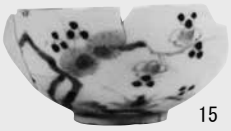


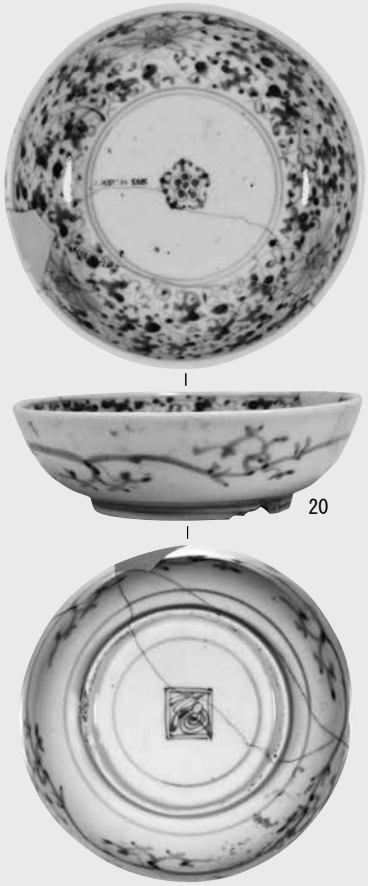
ＳＫ6300土坑出土遺物



ＳＫ6052土坑出土遺物

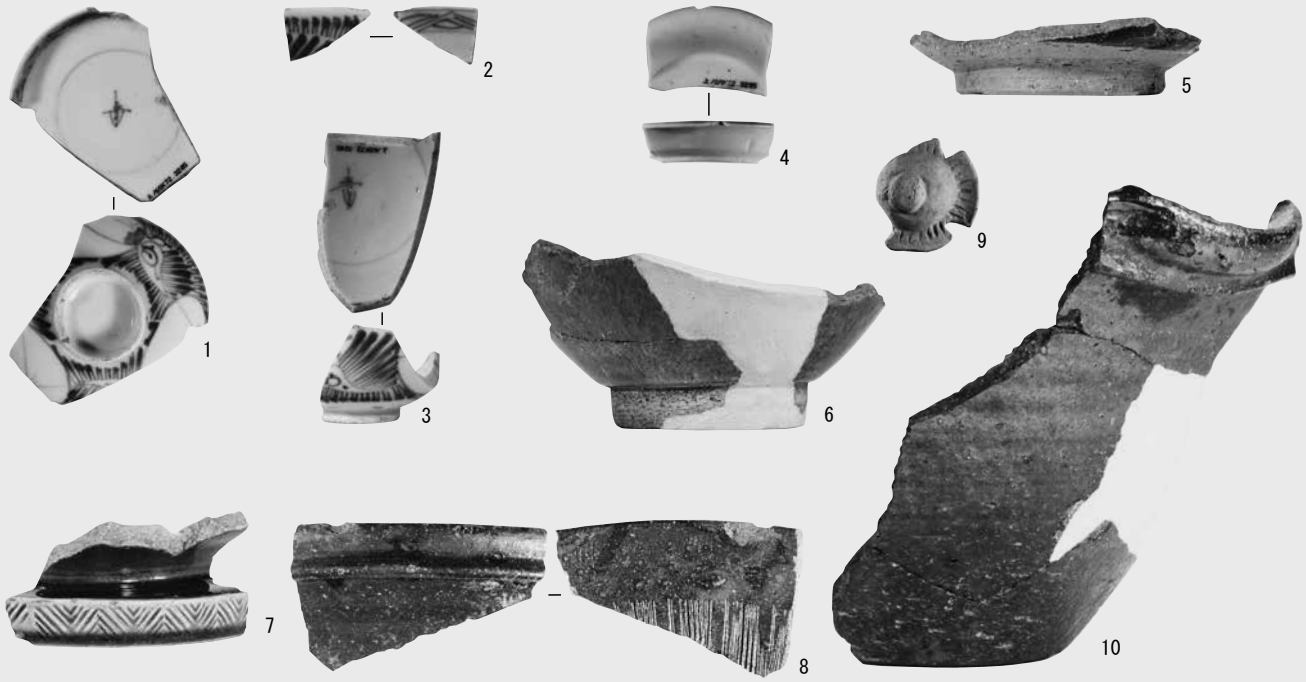
ＳＫ6194土坑出土遺物



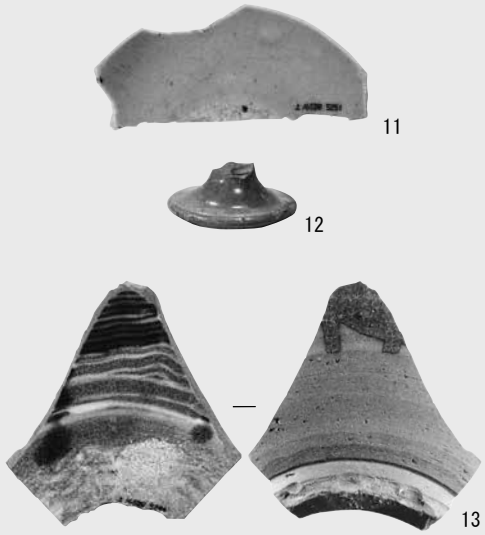


ＳＫ6144土坑出土遺物

写真図版 261　古代以降土坑出土遺物（3）

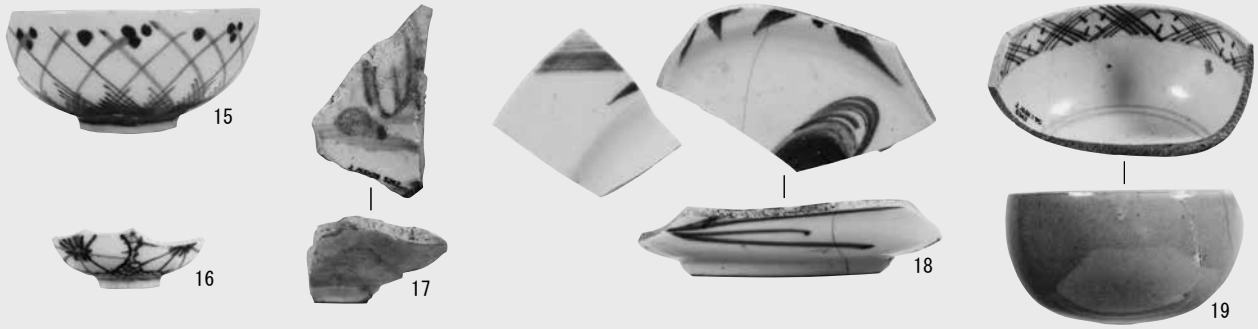


ＳＫ6072土坑出土遺物



ＳＤ608溝跡出土遺物

ＳＸ641性格不明遺構出土遺物



ＳＸ628性格不明遺構出土遺物（1）

写真図版 262　古代以降土坑出土遺物（4）・溝跡・性格不明遺構出土遺物（1）

ＳＸ628性格不明遺構出土遺物（2）

古代以降遺構外出土遺物

写真図版 263　古代以降性格不明遺構出土遺物（2）・遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	うわのいせき　だい６・７じはっくつちょうさ
書名	上野遺跡　第６・７次発掘調査
副書名	－都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書－
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第365集
編著者名	主濱光朗・佐々木竜郎・麻生順司・パリノ・サーヴェイ株式会社・金子浩昌
編集機関	仙台市教育委員会(文化財課)
所在地	〒980-8761　宮城県仙台市青葉区二日町１番１号　　TEL 022-214-8894
発行年月日	2010年３月26日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
上野遺跡（うわのいせき）	宮城県仙台市（みやぎけんせんだいし） 太白区富田字（たいはくくとみたあざ） 上野中（うわのなか）・上野西（うわのにし）ほか	04100	仙台市 C－054 宮城県 01361	38° 12′ 44″	140° 52′ 40″	第６次 20040614 ～ 20050218 第７次 20050603 ～ 20060131	第６次 2,757.9㎡ 第７次 3,190.0㎡	都市計画道路「富沢山田線」建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
上野遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	27軒	縄文土器、土製品	
			土坑	348基	石器、石製品	
			焼土跡	33基		
			埋設土器	29基		
			配石	５基		
			集石	１基		
			ピット	3,213個		
		古代以降	竪穴住居跡	11軒	土師器、須恵器	
			土坑	71基	陶磁器、鉄器、銭貨	
			溝跡	15条		
			性格不明遺構	７基		
			ピット	203個		

要約

上野遺跡は青葉山丘陵と名取川の間に広がる名取台地の東端部に位置する。今回の調査では縄文時代中期中葉から末葉の集落が展開していることが明らかとなった。多数検出された中期中葉を主体とするフラスコ状土坑群は調査区の東側に密集した状態で分布し、多数の遺物が出土した溝状の落ち込みを境に西側に竪穴住居跡や多数のピットが分布し、遺構の分布の様相が大きく異なり集落内での場の使い分けが想定される。遺物は多量の土器・石器の他に皮袋形土製品や土偶、硬玉製大珠などが出土した。溝状の落ち込みからは焼骨が検出され貝塚以外からの骨の検出事例としても注目される。古代以降では奈良・平安時代の集落の存在が明らかとなり、東端部を中心に江戸後期から幕末期の遺構・遺物も検出されている。

仙台市文化財調査報告書第365集

上　野　遺　跡

第６・７次発掘調査

－都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書－

第３分冊

2010年３月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区二日町１番１号
仙台市教育委員会文化財課
TEL 022-214-8894

印刷　㈲平電子印刷所
福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地
TEL 0246-23-9051